

李孝定

周法高 編著

張日昇

金文詁林附錄

香港中文大學出版

超星阅读器提醒您：
使用本复制品
请尊重相关知识产权！

李孝定
周法高 編著
張日昇

金文詁林附錄

香港中文大學出版

金文詁林附錄總目	
凡例	(3)
金文詁林附錄目錄	(7)
金文詁林附錄上	1
金文詁林附錄下	1183
索引	
金文詁林附錄隸定字通檢	2679
金文詁林附錄引用書籍論文目錄	2711
金文詁林附錄引用書籍論文索引凡例	2717
金文詁林附錄引用書籍論文索引目錄	2721
金文詁林附錄引用書籍論文索引	2731

金文詁林附錄引用諸家索引凡例

金文詁林附錄引用諸家索引目錄

金文詁林附錄引用諸家索引

後記

2024 子彘 P.114	2019 P.107	2016 彘 P.98	2013 彘 P.92
2025 吳 P.116	2022 孫 P.111	2020 P.109	2017 伐楓 P.101
2026 嬰翎 P.117	2023 P.113	2021 何 P.110	2014 放族 P.94
		2018 戰 P.103	2015 P.97

(8)

2010 P.88	2007 彘 P.84	2004 彘 P.60	2001 彘 P.1	圖形文字	附錄上目錄
2011 彘 P.89	2008 彘 P.86	2005 彘 P.61	2002 同上 P.57		
2012 職 P.91	2009 亦 P.87	2006 運 P.81	2003 同上 P.58		













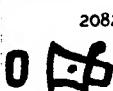

(7)

2054 P.166	2052 P.164	2049 P.161	2044 寇 P.155
2057 P.171	2055 企 P.167	2050 P.162	2047 奮 P.158
2058 P.172	2056 光 P.168	2053 戰 P.165	2045 扶 P.156
		2051 戰 P.163	2048 魁類 P.159
		2046 P.157	



















(10)

2041 夫 P.151	2038 彘 P.144	2035 彘 P.138	2032 彘 P.135	2030 P.132	2027 彘 P.128
2042 吳 P.152	2039 彘 P.145	2036 彘 P.139	2033 彘 P.136	2028 P.129	
2043 彘 P.153	2040 彘 P.150	2037 彘 P.140	2034 彘 P.137	2031 彘 P.133	2029 彘 P.131


















(9)

2091  兒貌	2088  張	2085 	2083  母	2080  產光	2077  重
P.227 2092  交	P.224 2089  曲	P.221 2086  兒	P.219 2084  張	P.214 2081  係孫	P.206 2078  亞重
P.228 2093 	P.225 2090  取嬰	P.222 2087 	P.220 2082  胡	P.216 2079  希	P.212
P.229	P.226	P.223	P.218	P.213	

(12)

2074  止兄丁	2071 	2068  配	2065  據	2062  配	2059  散
P.201 2075  刀兄丁	P.186 2072  何	P.182 2069  獻高	P.179 2066 	P.176 2063  支	P.173 2060  燕
P.202 2076  寐	P.187 2073  伐	P.183 2070  執茂	P.180 2067  執	P.177 2064  執	P.174 2061  邦
P.205	P.199	P.185	P.181	P.178	P.175

(11)

2126  亞示	2123  施	2120  亞	2117  俞餘	2114  亞其夫	2111  醜
P.386 2127  亞左	P.382 2124  亞左	P.363 2121  亞羽	P.347 2118  亞棋	P.324 2115  亞害夫	P.295 2112  亞夫
P.387 2125  亞東	P.383 2122  亞施虹	P.372 2119  亞又肘史	P.350 2116  俞餘	P.327 2113  夫	P.298
P.385	P.376	P.359	P.345	P.321	

(14)

2108  亞	2105  聖	2103  興	2100  興	2097  鄉	2094  鄉
P.260 2109  亞醜	P.257 2106  北單	P.251 2104  北單	P.244 2101  北單	P.237 2098  鄉	P.230 2095  鄉
P.261 2110  亞醜	P.258 2107  鄉	P.252 2102  鄉	P.248 2099  鄉	P.238 2096  鄉	P.231 2096  鄉
P.294	P.259	P.250	P.239	P.236	

(13)

2155 亞 P.435	2152 亞 P.430	2149 亞 P.427	2146 亞 P.423	2143 亞 P.420	2138 亞 P.409
2156 亞 P.436	2153 亞 P.433	2150 亞 P.428	2147 亞 P.424	2144 亞 P.421	2141 亞 P.413
2157 亞 P.438	2154 亞 P.434	2151 亞 P.429	2148 亞 P.425	2145 亞 P.422	2142 亞 P.417

(16)

2139 P.410	2133 P.397	2131 P.395	2128 P.389
2140 P.412	2135 P.403	2134 P.398	2129 P.391
2137 P.407	2136 P.406	2132 P.396	2130 P.392

(15)

2187 P.483	2184 P.480	2181 P.477	2178 P.471	2175 P.467
2188 P.487	2185 P.481	2182 P.478	2179 P.472	2176 P.468
2189 P.488	2186 P.482	2183 P.479	2180 P.473	2177 P.470

(18)

2172 P.463	2169 P.459	2167 P.457	2164 P.452	2161 P.443	2158 P.439
2173 P.465	2170 P.461	2165 P.453	2162 P.444	2159 P.441	2156 P.442
2174 P.466	2171 P.462	2168 P.458	2166 P.454	2163 P.445	2160 P.442

(17)

2220 則 俎 P.554	2217 辛 P.543	2214 刀 P.540	2211 我 欣 P.532	2209 羊 P.523	2206 吊 P.520
2221 彊 P.556	2218 矛 P.544	2215 剗 P.541	2212 刀 P.537	2210 群 戎 P.524	2207 吊 P.521
2222 宁 P.558	2219 戎 斧 P.545	2216 未 力 犁 P.542	2213 初 P.539	2208 羊 P.522	

(20)

2203 共 P.509	2200 輝 P.505	2197 吊 龜 P.502	2195 吊 龜 P.500	2193 獸 P.496	2190 龜 P.489
2204 龜 P.514	2201 雞 P.506	2198 吊 P.503	2194 狂 P.499	2191 狂 P.493	
2205 吊 P.518	2202 雞 P.507	2199 共 P.504	2196 共 P.501	2192 共 P.495	

(19)

2256 主 P.613	2253 主 P.610	2250 主 P.607	2247 主 P.604	2244 主 P.598	2241 主 P.591
2257 主 P.614	2254 主 P.611	2251 主 P.608	2248 主 P.605	2245 主 P.599	2242 主 P.592
2258 主 P.620	2255 主 P.612	2252 主 P.609	2249 主 P.606	2246 主 P.600	2243 主 P.594




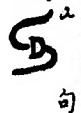

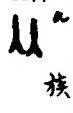

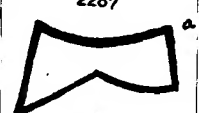







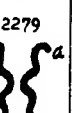
(22)

2238 主 P.588	2235 主 P.582	2232 主 P.579	2229 主 P.572	2226 主 P.568	2223 主 P.561
2239 主 P.589	2236 主 P.583	2233 主 P.580	2230 主 P.576	2227 主 P.569	2224 主 P.562
2240 主 P.590	2237 主 P.587	2234 主 P.581	2231 主 P.577	2228 主 P.570	2225 主 P.565








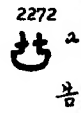

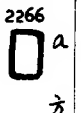


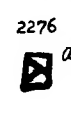

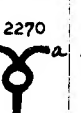
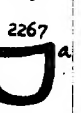
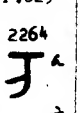
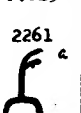
(21)

573-144


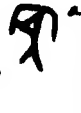



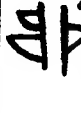






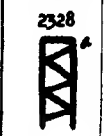
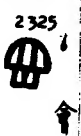



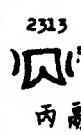
22

2290  羽	2289  羽	2286  句	2283  句	2280  族	2277  族
P.672 2291  羽	P.671 2287  羽	P.668 2284  句	P.663 2281  不	P.657 2278  不	P.654
P.673 2292  羽	P.669 2288  羽	P.664 2285  羽	P.658 2282  羽	P.655 2279  羽	
P.674	P.670	P.665	P.660	P.656	



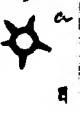



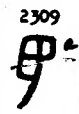
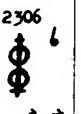
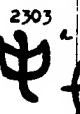
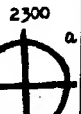
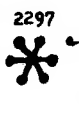
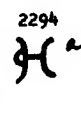

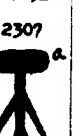
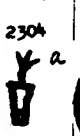


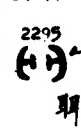
(24)

2274  羽	2271  羽	2268  耳	2265  耳	2262  耳	2259  耳
P.651 2275  羽	P.646 2272  羽	P.643 2269  耳	P.633 2266  方	P.627 2263  耳	P.621 2260  耳
P.652 2276  羽	P.648 2273  羽	P.644 2270  耳	P.634 2267  方	P.629 2264  耳	P.623 2261  耳
P.653	P.650	P.645	P.637	P.630	P.626



















(23)

2326  羽	2323  羽	2320  六	2317  羽	2314  羽	2311  羽
P.754 2327  羽	P.748 2324  羽	P.745 2321  羽	P.741 2318  羽	P.711 2315  羽	P.700 2312  羽
P.755 2328  羽	P.749 2325  羽	P.746 2322  羽	P.743 2319  羽	P.725 2316  羽	P.701 2313  羽
P.756	P.751	P.747	P.744	P.739	P.702



















(26)

2308  羽	2305  羽	2302  羽	2299  羽	2296  羽	2293  羽
P.695 2309  羽	P.689 2306  羽	P.686 2303  羽	P.682 2300  羽	P.679 2297  羽	P.676 2294  羽
P.696 2310  羽	P.691 2307  羽	P.687 2304  羽	P.684 2301  羽	P.680 2298  羽	P.677 2295  羽
P.698	P.694	P.688	P.685	P.681	P.678



















(25)

2361 ^a  子	2358 ^a  鼎	2355 ^c  水	2352 ^a  五	2349 ^a  目	2346 ^a  子
P.807 2362 ^a  文	P.804 2359 ^a  鼎	P.801 2356 ^c  鼎	P.797 2353 ^a  六	P.788 2350 ^a  三	P.785 2347 ^a  鼎
P.809 2363 ^c  鼎	P.805 2360 ^a  鼎	P.802 2357 ^a  鼎	P.798 2354 ^a  鼎	P.789 2351 ^a  鼎	P.786 2348 ^a  鼎
P.810	P.806	P.803	P.799	P.790	P.787



















(28)

2343 ^a  雷	2340 ^a  雷	2338 ^a  人	2335 ^a  人	2332 ^a  何	2329 ^a  何
P.777 2344 ^a  雷	P.770 2341 ^a  雷	P.768 2336 ^a  人	P.765 2333 ^a  人	P.760 2330 ^a  人	P.757 2330 ^a  人
P.783 2345 ^a  雷	P.771 2342 ^a  雷	P.766 2339 ^a  人	P.761 2334 ^a  人	P.758 2331 ^a  人	P.755 2331 ^a  人
P.784	P.772	P.769	P.767	P.762	P.759

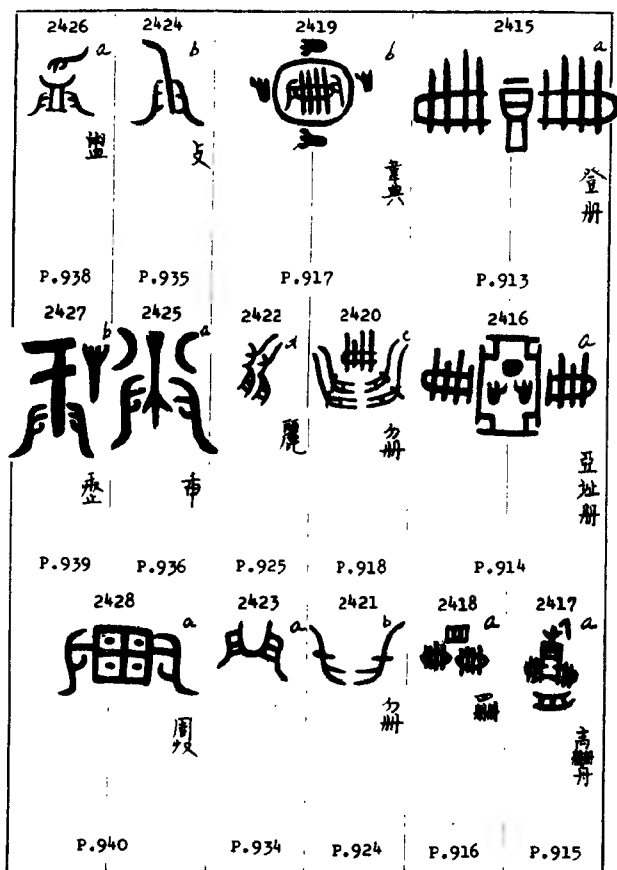
(27)

2395 ^a  人	2392 ^a  古	2389 ^a  市	2387 ^a  市	2384 ^a  市	2381 ^a  市
P.879 2396 ^a  人	P.874 2393 ^a  人	P.862 2390 ^a  人	P.860 2385 ^a  人	P.853 2382 ^a  人	P.846 2382 ^a  人
P.880 2397 ^a  人	P.877 2394 ^a  人	P.871 2391 ^a  人	P.856 2388 ^a  人	P.847 2383 ^a  人	P.846 2382 ^a  人
P.881	P.878	P.872	P.861	P.859	P.850

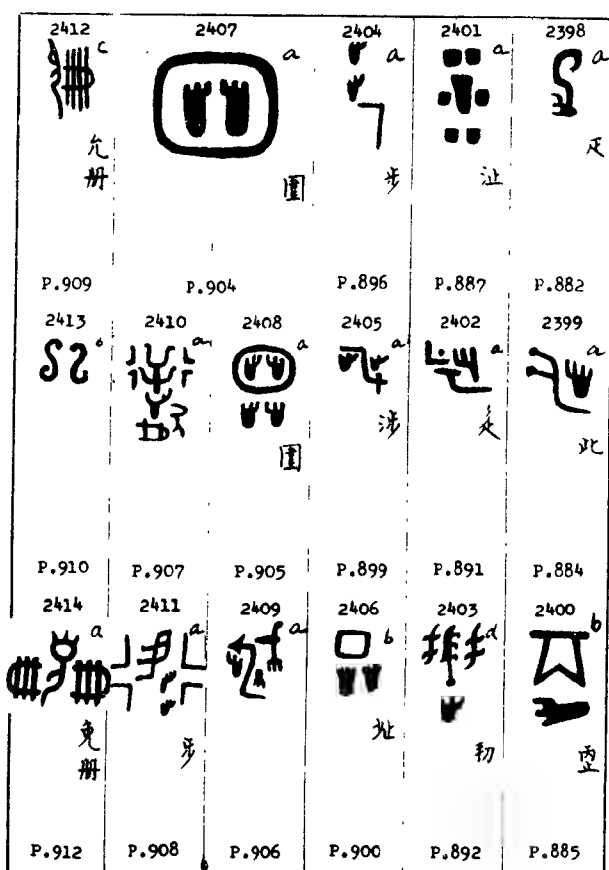
(30)

2378 ^a  人	2376 ^c  人	2373 ^a  人	2370 ^a  人	2367 ^a  人	2364 ^a  人
P.842 2380 ^a  人	P.833 2377 ^a  人	P.828 2374 ^a  人	P.825 2371 ^a  人	P.817 2368 ^a  人	P.812 2365 ^a  人
P.844 2379 ^a  人	P.836 2376 ^a  人	P.830 2375 ^a  人	P.826 2372 ^a  人	P.822 2369 ^a  人	P.813 2366 ^a  人
P.843	P.831	P.827	P.823	P.816	P.816

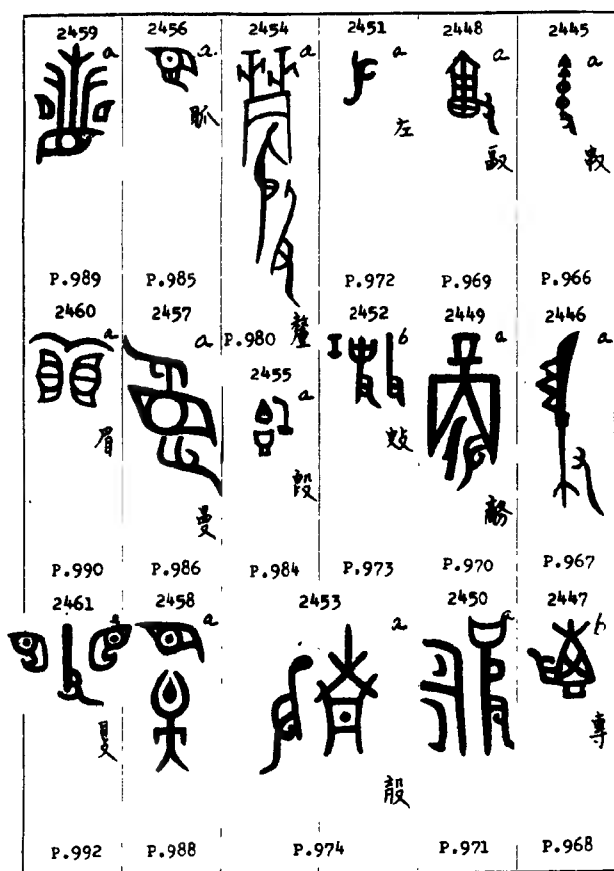
(29)



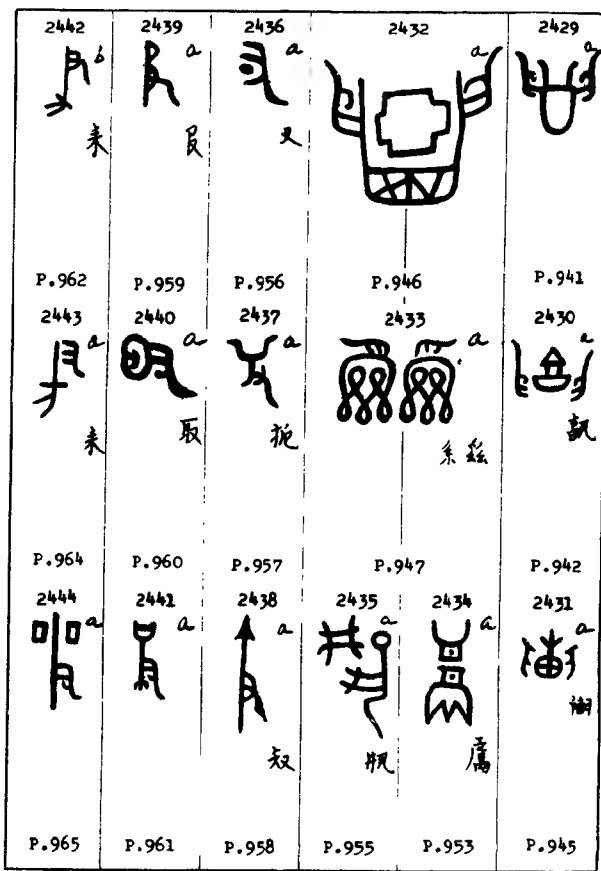
(32)






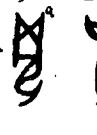

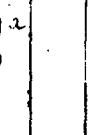

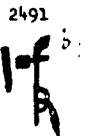

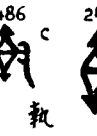

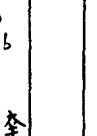


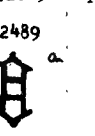
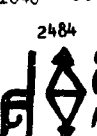
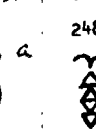
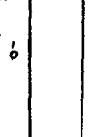
(31)










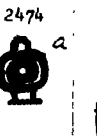
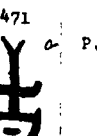
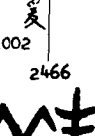
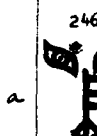


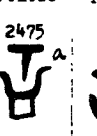
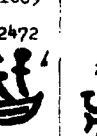
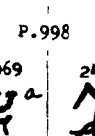
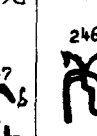
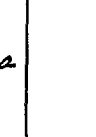
(34)




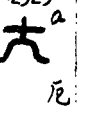
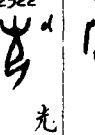
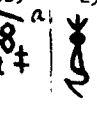

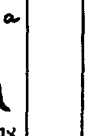


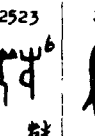
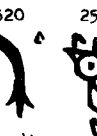
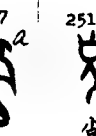
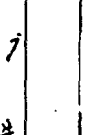
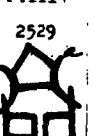
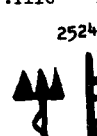
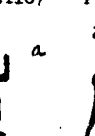
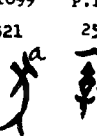
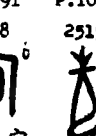
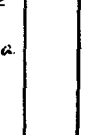
(33)

2493  析	2490  考	2487  考	2485  考	2482  考	2479  考
P.1049 2494  某	P.1045 2491  取	P.1042 2488  輪	P.1039 2486  執	P.1035 2483  執	P.1027 2480  執
P.1050 2495  某	P.1047 2492  取	P.1043 2489  取	P.1040 2484  傲	P.1037 2481  傲	P.1028 2481  傲
P.1051	P.1048	P.1044	P.1038	P.1033	






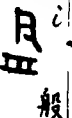









(36)

2476  望	2473  望	2470  望	2468  望	2465  望	2462  望
P.1018 2477  望	P.1015 2474  望	P.1008 2471  望	P.1002 2466  望	P.997 2463  望	P.994 2463  望
P.1021 2478  望	P.1016 2475  望	P.1009 2472  望	P.998 2469  望	P.995 2464  望	P.996 2464  望
P.1025	P.1017	P.1010	P.1006	P.999	P.996


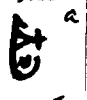
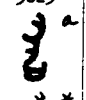
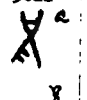


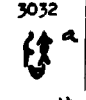
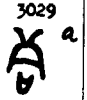
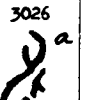
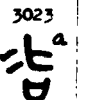
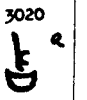







(35)

2527  夙	2525  厄	2522  光	2519  贊	2516  贊	2513  朕
P.1113 2528  守	P.1109 2526  衛	P.1105 2523  執	P.1098 2520  竹	P.1089 2517  眉	P.1081 2514  兎
P.1114 2529  衛	P.1110 2524  執	P.1107 2521  執	P.1099 2521  執	P.1091 2518  執	P.1082 2515  執
P.1115	P.1108	P.1104	P.1092	P.1088	


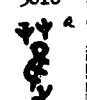



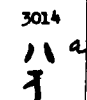









(38)

<p>2510  吊</p>	<p>2505  吊</p>	<p>2502  吊</p>	<p>2499  吊</p>	<p>2496  吊</p>	
<p>P.1076 2511  吊</p>	<p>P.1065 2508  吊</p>	<p>P.1061 2503  吊</p>	<p>P.1055 2500  吊</p>	<p>P.1052 2497  吊</p>	
<p>P.1077 2512  吊</p>	<p>P.1070 2509  吊</p>	<p>P.1066 2507  吊</p>	<p>P.1062 2504  吊</p>	<p>P.1056 2501  吊</p>	
P.1080	P.1071	P.1068	P.1063	P.1059	P.1054

(37)

3031  胸	3028  和	3025  告	3022  兄	3019  君	3016  余
P.1245 3032  倍	P.1237 3029  目	P.1233 3026  侶	P.1225 3023  治	P.1222 3020  各	P.1214 3017  古
P.1247 3033  曹	P.1243 3030  香	P.1234 3027  威	P.1228 3024  句	P.1223 3021  句	P.1217 3018  首
P.1249	P.1244	P.1236	P.1230	P.1224	P.1221







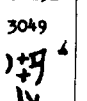

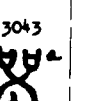
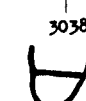

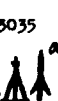






(44)

3013  料	3010  簾	3007  臻	3004  福	3001  示	附錄下目錄
P.1208 3014  豕	P.1203 3011  豕	P.1197 3008  豕	P.1190 3005  豕	P.1183 3002  祭	
P.1210 3015  豕	P.1205 3012  豕	P.1201 3009  豕	P.1192 3006  豕	P.1187 3003  福	
P.1213	P.1207	P.1202	P.1194	P.1189	
















(43)

3066  律	3063  疑	3060  送	3057  喪	3054  能	3051  趙
P.1330 3067  微	P.1322 3064  徒	P.1318 3061  待	P.1308 3058  送	P.1303 3055  能	P.1295 3052  趙
P.1333 3068  律	P.1326 3065  疑	P.1320 3062  送	P.1310 3059  送	P.1304 3056  能	P.1299 3053  趙
P.1335	P.1328	P.1321	P.1311	P.1307	P.1302

(46)

3048  趙	3045  趙	3042  趙	3040  趙	3037  趙	3034  趙
P.1292 3049  趙	P.1283 3046  趙	P.1276 3043  趙	P.1268 3038  趙	P.1257 3035  趙	P.1253 3035  趙
P.1293 3050  趙	P.1287 3047  趙	P.1277 3044  趙	P.1263 3041  趙	P.1255 3036  趙	P.1256 3036  趙
P.1294	P.1290	P.1280	P.1269	P.1264	P.1256

(45)

3102  精	3099  話	3096  結古	3093  纓	3090  偶	3087  修
P.1442 3103  難	P.1435 3100  諫	P.1427 3097  十	P.1417 3094  露曉	P.1408 3091  牙	P.1395 3088  德
P.1444 3104  并	P.1436 3101  諫	P.1432 3098  討	P.1418 3095  何柯	P.1411 3092  道	P.1396 3089  通
P.1445	P.1441	P.1433	P.1425	P.1415	P.1405



















(48)

3084  德音	3081  衛	3078  德	3075  邀雅	3072  通	3069  邀
P.1388 3085  拔	P.1383 3082  律	P.1361 3079  贊	P.1353 3076  通邊	P.1347 3073  乘	P.1340 3070  邀
P.1389 3086  退	P.1386 3083  途	P.1363 3080  律	P.1355 3077  通	P.1348 3074  邀	P.1341 3071  通
P.1393	P.1387	P.1382	P.1359	P.1352	P.1343






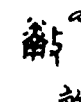

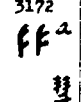
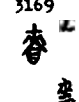
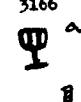
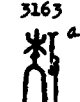
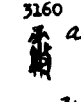


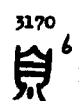
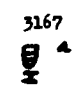


(47)

3138  肆	3135  屋反	3132  又次	3129  蒸	3126  聯南	3123  南
P.1574 3139  發	P.1560 3136  東東	P.1556 3133  又	P.1540 3130  風	P.1525 3127  美	P.1509 3124  南
P.1575 3140  暖	P.1568 3137  鼓兼	P.1558 3134  波	P.1543 3131  糶	P.1532 3128  美	P.1523 3125  南
P.1576	P.1570	P.1559	P.1544	P.1537	P.1524


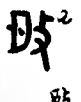
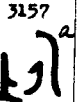
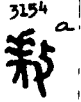
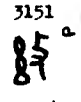
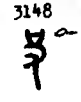

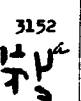
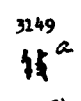
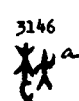
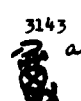
(50)

3120  縵	3117  縵	3114  臼枋	3111  歎	3108  勞	3105  鼻
P.1494 3121  讓	P.1486 3118  兜	P.1480 3115  托	P.1475 3112  軍	P.1456 3109  聲	P.1446 3106  登
P.1497 3122  顧	P.1490 3119  軍	P.1481 3116  望	P.1476 3113  承	P.1472 3110  弄	P.1450 3107  弄
P.1501	P.1492	P.1483	P.1478	P.1473	P.1451








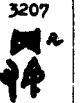

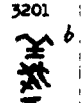
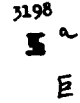
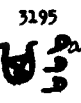
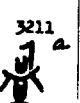
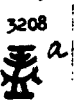


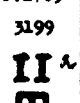
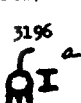
(49)

3174  雉	3171  官	3168  值	3165  界	3162  界	3159  敵
P.1657 3175  雉	P.1645 3172  官	P.1639 3169  值	P.1634 3166  界	P.1631 3163  界	P.1623 3160  敵
P.1659 3176  雉	P.1650 3173  官	P.1640 3170  值	P.1635 3167  界	P.1632 3164  界	P.1625 3161  敵
P.1660	P.1653	P.1641	P.1638	P.1633	P.1627








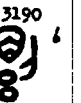
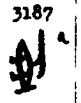
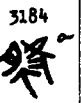

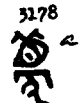
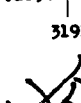
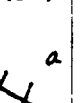
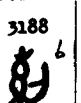
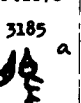
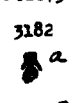
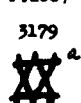
(52)

3156  教	3153  教	3150  教	3147  教	3144  教	3141  教
P.1616 3157  教	P.1607 3154  教	P.1596 3151  教	P.1591 3148  教	P.1586 3145  教	P.1577 3142  教
P.1620 3158  教	P.1610 3155  教	P.1604 3152  教	P.1593 3149  教	P.1587 3146  教	P.1578 3143  教
P.1622	P.1611	P.1606	P.1595	P.1588	P.1579



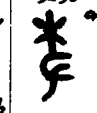
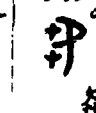
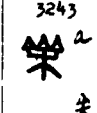
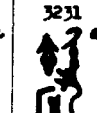
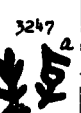
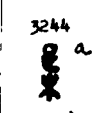
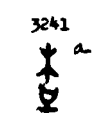
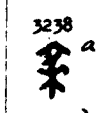
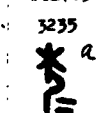
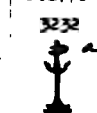
(51)

3209  璽	3206  璽	3203  璽	3200  璽	3197  璽	3194  璽
P.1734 3210  璽	P.1723 3207  璽	P.1718 3204  璽	P.1714 3201  璽	P.1707 3198  璽	P.1700 3195  璽
P.1735 3211  璽	P.1732 3208  璽	P.1720 3205  璽	P.1715 3202  璽	P.1709 3199  璽	P.1701 3196  璽
P.1740	P.1733	P.1721	P.1716	P.1710	P.1702

(54)

3192  刺	3189  刺	3186  刺	3183  刺	3180  刺	3177  刺
P.1697 3193  刺	P.1688 3190  刺	P.1679 3187  刺	P.1675 3184  刺	P.1671 3181  刺	P.1663 3178  刺
P.1698 3191  刺	P.1689 3188  刺	P.1680 3185  刺	P.1676 3182  刺	P.1673 3179  刺	P.1667 3176  刺
P.1693	P.1683	P.1677	P.1674	P.1668	




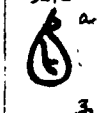
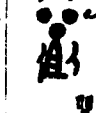
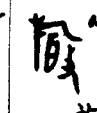
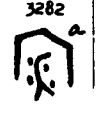
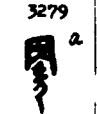

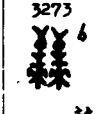

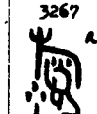

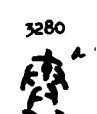


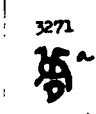
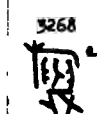
(53)

3245  榮	3242  榮	3239  榜	3236  榜	3233  奔	3230  倉
P.1800	P.1794	P.1789	P.1785	P.1780	P.1777
3246  祈	3243  朱	3240  邦	3237  來	3234  畜	3231  執
P.1805	P.1796	P.1792	P.1786	P.1783	P.1778
3247  薪	3244  祝	3241  某	3238  帝	3235  核	3232  中
P.1810	P.1797	P.1793	P.1788	P.1784	P.1779

(56)

3227  頤	3224  就	3221  鄰	3218  糧	3215  金	3212  通
P.1770	P.1761	P.1752	P.1753	P.1750	P.1741
3228  寶	3225  壽	3222  喜	3219  床	3216  耕	3213  臺
P.1771	P.1763	P.1759	P.1754	P.1751	P.1745
3229  饒	3226  庚	3223  壽	3220  壽	3217  奔	3214  臺
P.1776	P.1769	P.1760	P.1756	P.1752	P.1747

(55)

3281  宗	3278  剋	3275  臺	3272  圓	3269  剋	3266  族
P.1915	P.1906	P.1899	P.1891	P.1886	P.1881
3282  突	3279  夢	3276  族	3273  族	3270  死	3267  族
P.1917	P.1912	P.1901	P.1894	P.1887	P.1882
3283  寂	3280  秦	3277  趙	3274  秦	3271  夢	3268  族
P.1918	P.1913	P.1902	P.1896	P.1889	P.1885

(58)

3263  殷	3260  郎	3257  費	3254  國	3251  楚	3248  梧
P.1877	P.1862	P.1853	P.1839	P.1828	P.1812
3264  排	3261  集	3258  都	3255  債	3252  楚	3249  梧
P.1878	P.1863	P.1855	P.1847	P.1831	P.1813
3265  族	3262  督	3259  都	3256  費	3253  秦	3250  梧
P.1879	P.1876	P.1860	P.1851	P.1838	P.1827

(57)

3316 ^a 𠂔 佗似	3314 ^a 𠂔 像	3311 ^a 𠂔 伯氏	3308 ^a 𠂔 璽	3305 ^a 𠂔 家	3302 ^a 𠂔 家
P.2005	P.2003	P.2000	P.1972	P.1968	P.1959
3318 ^a 𠂔 佗疑	3315 ^a 𠂔 𠂔	3312 ^a 𠂔 𠂔	3309 ^a 𠂔 𠂔	3306 ^a 𠂔 𠂔	3303 ^a 𠂔 𠂔
P.2007	P.2004	P.2001	P.1973	P.1970	P.1962
3317 ^a 𠂔 佗	3313 ^a 𠂔 𠂔	3310 ^a 𠂔 𠂔	3307 ^a 𠂔 𠂔	3304 ^a 𠂔 𠂔	3301 ^a 𠂔 𠂔
P.2006	P.2002	P.1974	P.1971	P.1967	

(60)

3299 ^a 𠂔 𠂔	3296 ^a 𠂔 𠂔	3293 ^a 𠂔 𠂔	3290 ^a 𠂔 𠂔	3287 ^a 𠂔 𠂔	3284 ^a 𠂔 𠂔
P.1951	P.1947	P.1941	P.1931	P.1925	P.1919
3300 ^a 𠂔 𠂔	3297 ^a 𠂔 𠂔	3294 ^a 𠂔 𠂔	3291 ^a 𠂔 𠂔	3288 ^a 𠂔 𠂔	3285 ^a 𠂔 𠂔
P.1956	P.1948	P.1942	P.1932	P.1927	P.1921
3301 ^a 𠂔 𠂔	3298 ^a 𠂔 𠂔	3295 ^a 𠂔 𠂔	3292 ^a 𠂔 𠂔	3289 ^a 𠂔 𠂔	3286 ^a 𠂔 𠂔
P.1957	P.1949	P.1946	P.1933	P.1929	P.1922



















(59)

3352 ^a 𠂔 𠂔	3349 ^a 𠂔 𠂔	3346 ^a 𠂔 𠂔	3343 ^a 𠂔 𠂔	3340 ^a 𠂔 𠂔	3337 ^a 𠂔 𠂔
P.2081	P.2072	P.2065	P.2060	P.2057	P.2050
3353 ^a 𠂔 𠂔	3350 ^a 𠂔 𠂔	3347 ^a 𠂔 𠂔	3344 ^a 𠂔 𠂔	3341 ^a 𠂔 𠂔	3338 ^a 𠂔 𠂔
P.2083	P.2075	P.2067	P.2063	P.2058	P.2051
3354 ^a 𠂔 𠂔	3351 ^a 𠂔 𠂔	3348 ^a 𠂔 𠂔	3345 ^a 𠂔 𠂔	3342 ^a 𠂔 𠂔	3339 ^a 𠂔 𠂔
P.2085	P.2080	P.2068	P.2064	P.2059	P.2054

(62)

3334 ^a 𠂔 𠂔	3331 ^a 𠂔 𠂔	3328 ^a 𠂔 𠂔	3325 ^a 𠂔 𠂔	3322 ^a 𠂔 𠂔	3319 ^a 𠂔 𠂔
P.2047	P.2044	P.2029	P.2024	P.2017	P.2009
3335 ^a 𠂔 𠂔	3332 ^a 𠂔 𠂔	3329 ^a 𠂔 𠂔	3326 ^a 𠂔 𠂔	3323 ^a 𠂔 𠂔	3320 ^a 𠂔 𠂔
P.2048	P.2045	P.2032	P.2025	P.2018	P.2010
3336 ^a 𠂔 𠂔	3333 ^a 𠂔 𠂔	3330 ^a 𠂔 𠂔	3327 ^a 𠂔 𠂔	3324 ^a 𠂔 𠂔	3321 ^a 𠂔 𠂔
P.2049	P.2046	P.2043	P.2026	P.2019	P.2013

(61)

3388  如	3385  元	3382  鄉	3379  美	3376  威	3373  時
P.2182 3389  臭	P.2175 3386  元	P.2161 3383  變	P.2158 3380  焚	P.2149 3377  焚	P.2142 3374  兢
P.2183 3390  夾	P.2179 3387  宵	P.2169 3384  哭	P.2159 3381  魚	P.2152 3378  火	P.2143 3375  味
P.2184	P.2181	P.2174	P.2160	P.2154	P.2145

(64)

3370  聲	3367  皂	3364  長	3361  厠	3358  厠	3355  卷
P.2132 3371  聲	P.2119 3368  巢	P.2115 3365  夢	P.2109 3362  厚	P.2101 3359  厠	P.2089 3356  園
P.2135 3372  席	P.2121 3369  象	P.2116 3366  針	P.2111 3363  席	P.2105 3360  厠	P.2095 3357  炒
P.2140	P.2131	P.2117	P.2112	P.2107	P.2099

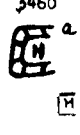
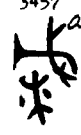
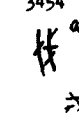


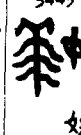

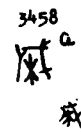
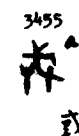
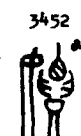
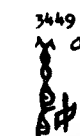
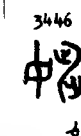
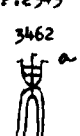

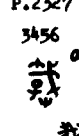
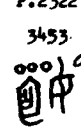
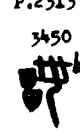
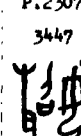
(63)

3424  眼	3421  雨	3418  飛	3415  濕	3412  蘇	3409  濕
P.2264 3425  牆	P.2256 3422  雲	P.2253 3419  公	P.2241 3416  運	P.2236 3413  深	P.2220 3410  滅
P.2265 3426  耳	P.2258 3423  戶	P.2254 3420  廣	P.2247 3417  濕	P.2237 3414  濕	P.2222 3411  清
P.2269	P.2262	P.2255	P.2249	P.2238	P.2223



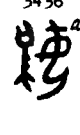
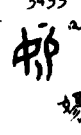
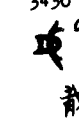
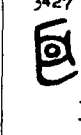
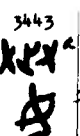
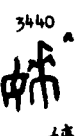

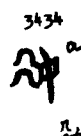
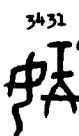
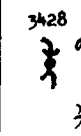
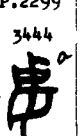
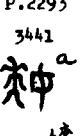

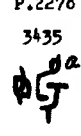
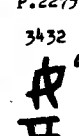
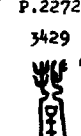
(66)

3406  雨	3403  志	3400  思	3397  天	3394  天	3391  天
P.2213 3407  改	P.2209 3404  博	P.2205 3401  井	P.2201 3398  日	P.2191 3395  天	P.2185 3392  天
P.2214 3408  源	P.2210 3405  无	P.2206 3402  意	P.2202 3399  聖	P.2194 3396  拔	P.2186 3393  天
P.2216	P.2211	P.2208	P.2203	P.2195	P.2189

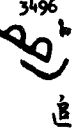


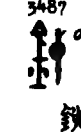

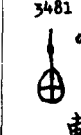
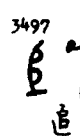
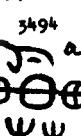
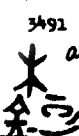
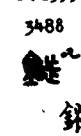
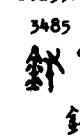
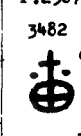
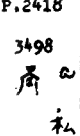

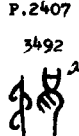
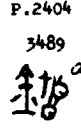
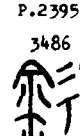
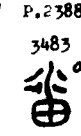
(65)

3460  臣	3457  威	3454  威	3451  媛	3448  媛	3445  媛
P.2342 3461  臣	P.2336 3458  威	P.2324 3455  威	P.2321 3452  媛	P.2309 3449  媛	P.2306 3446  媛
P.2343 3462  臣	P.2338 3459  威	P.2327 3456  威	P.2322 3453  媛	P.2313 3450  媛	P.2307 3447  媛
P.2346	P.2339	P.2334	P.2323	P.2320	P.2308

(68)

3442  媛	3439  媛	3436  媛	3433  媛	3430  媛	3427  媛
P.2297 3443  媛	P.2292 3440  媛	P.2283 3437  媛	P.2277 3434  媛	P.2274 3431  媛	P.2271 3428  媛
P.2299 3444  媛	P.2293 3441  媛	P.2284 3438  媛	P.2278 3435  媛	P.2275 3432  媛	P.2272 3429  媛
P.2300	P.2294	P.2290	P.2282	P.2276	P.2273


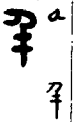
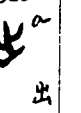
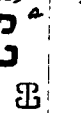
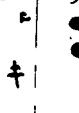
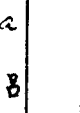
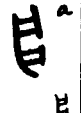
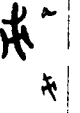

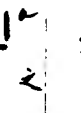
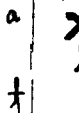







(67)

3496  臣	3493  媛	3490  媛	3487  媛	3484  媛	3481  媛
P.2417 3497  臣	P.2414 3494  媛	P.2406 3491  媛	P.2399 3488  媛	P.2391 3485  媛	P.2387 3482  媛
P.2418 3498  臣	P.2415 3495  媛	P.2407 3492  媛	P.2404 3489  媛	P.2395 3486  媛	P.2388 3483  媛
P.2419	P.2416	P.2412	P.2405	P.2396	P.2389

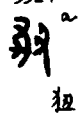
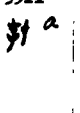
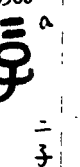




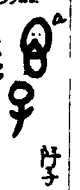


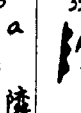





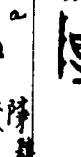

(70)

3478  媛	3475  媛	3472  媛	3469  媛	3466  媛	3463  媛
P.2383 3479  媛	P.2376 3476  媛	P.2371 3473  媛	P.2359 3470  媛	P.2354 3467  媛	P.2347 3464  媛
P.2385 3480  媛	P.2379 3477  媛	P.2373 3474  媛	P.2361 3471  媛	P.2356 3468  媛	P.2351 3465  媛
P.2386	P.2380	P.2375	P.2363	P.2358	P.2353





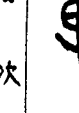


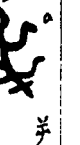
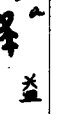
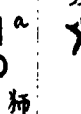



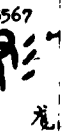
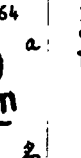
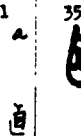

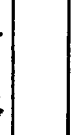
(69)

3532 	3529 	3526 	3523 	3520 	3517 
P.2486	P.2481	P.2475	P.2472	P.2468	P.2456
3533 	3530 	3527 	3524 	3521 	3518 
P.2487	P.2484	P.2476	P.2473	P.2470	P.2465
3534 	3531 	3528 	3525 	3522 	3519 
P.2488	P.2485	P.2479	P.2474	P.2471	P.2467

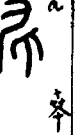

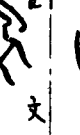


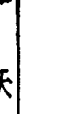

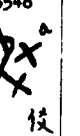
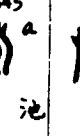

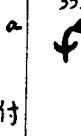
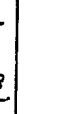

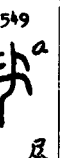
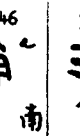
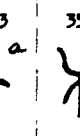
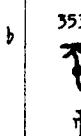
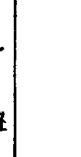
(72)

3514 	3511 	3508 	3505 	3502 	3499 
P.2452	P.2447	P.2444	P.2436	P.2427	P.2422
3515 	3512 	3509 	3506 	3503 	3500 
P.2454	P.2448	P.2445	P.2439	P.2429	P.2425
3516 	3513 	3510 	3507 	3504 	3501 
P.2455	P.2449	P.2446	P.2441	P.2430	P.2426













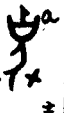





(71)

3568 	3565 	3562 	3559 	3556 	3553 
P.2542	P.2536	P.2528	P.2525	P.2522	P.2518
3569 	3566 	3563 	3560 	3557 	3554 
P.2543	P.2539	P.2530	P.2526	P.2523	P.2519
3570 	3567 	3564 	3561 	3558 	3555 
P.2544	P.2540	P.2535	P.2527	P.2524	P.2520



(74)

3550 	3547 	3544 	3541 	3538 	3535 
P.2513	P.2507	P.2504	P.2501	P.2494	P.2489
3551 	3548 	3545 	3542 	3539 	3536 
P.2515	P.2510	P.2505	P.2502	P.2497	P.2490
3552 	3549 	3546 	3543 	3540 	3537 
P.2517	P.2512	P.2506	P.2503	P.2498	P.2492


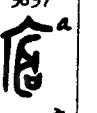
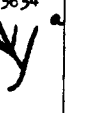
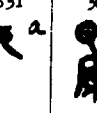
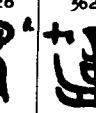
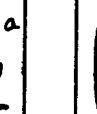
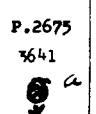
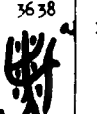
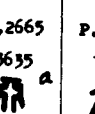
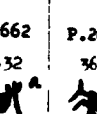
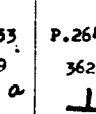
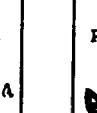
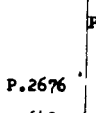
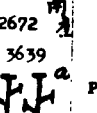
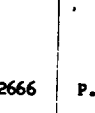
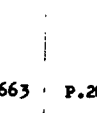
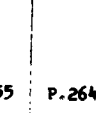

(73)

3604 ^a  楊	3601 ^a  界	3598 ^a  著	3595 ^a  駭	3592 ^a  事	3589 ^a  胸
P.2596 3605 ^a  豐	P.2592 3602 ^a  萊	P.2587 3599 ^a  紫	P.2582 3596 ^a  舊	P.2579 3593 ^a  麥	P.2574 3590 ^a  𠂔
P.2597 3606 ^a  𦰩	P.2593 3603 ^a  𦰪	P.2588 3600 ^a  𦰫	P.2583 3597 ^a  𦰬	P.2580 3594 ^a  𦰭	P.2576 3591 ^a  𦰮
P.2600	P.2595	P.2590	P.2584	P.2581	P.2578

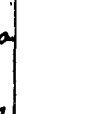
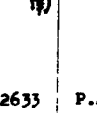

(76)

3586 ^a  𦰯	3583 ^a  𦰰	3580 ^a  𦰱	3577 ^a  受	3574 ^a  𦰲	3571 ^a  𦰳
P.2571 3587 ^a  𦰴	P.2565 3584 ^a  𦰵	P.2562 3581 ^a  𦰶	P.2558 3578 ^a  𦰷	P.2554 3575 ^a  𦰸	P.2547 3572 ^a  𦰹
P.2572 3588 ^a  𦰺	P.2569 3585 ^a  𦰻	P.2563 3582 ^a  𦰼	P.2559 3579 ^a  𦰽	P.2556 3576 ^a  𦰾	P.2548 3573 ^a  𦰿
P.2573	P.2570	P.2564	P.2561	P.2557	P.2550

(75)

3640 ^a  𦰿	3637 ^a  𦰿	3634 ^a  𦰿	3631 ^a  𦰿	3628 ^a  𦰿	3625 ^a  𦰿
P.2669 3638 ^a  𦰿	P.2665 3635 ^a  𦰿	P.2662 3632 ^a  𦰿	P.2653 3629 ^a  𦰿	P.2641 3626 ^a  𦰿	P.2641 3626 ^a  𦰿
P.2672 3639 ^a  𦰿	P.2666 3636 ^a  𦰿	P.2663 3633 ^a  𦰿	P.2655 3630 ^a  𦰿	P.2642 3627 ^a  𦰿	P.2642 3627 ^a  𦰿
P.2677	P.2674	P.2667	P.2664	P.2659	P.2643

(78)

3622 ^a  𦰿	3619 ^a  𦰿	3616 ^a  𦰿	3613 ^a  𦰿	3610 ^a  𦰿	3607 ^a  𦰿
P.2637 3623 ^a  𦰿	P.2631 3620 ^a  𦰿	P.2628 3617 ^a  𦰿	P.2622 3614 ^a  𦰿	P.2609 3611 ^a  𦰿	P.2601 3608 ^a  𦰿
P.2638 3624 ^a  𦰿	P.2633 3621 ^a  𦰿	P.2629 3618 ^a  𦰿	P.2623 3615 ^a  𦰿	P.2618 3612 ^a  𦰿	P.2603 3609 ^a  𦰿
P.2639	P.2635	P.2630	P.2627	P.2620	P.2608

(77)

573-44

1A

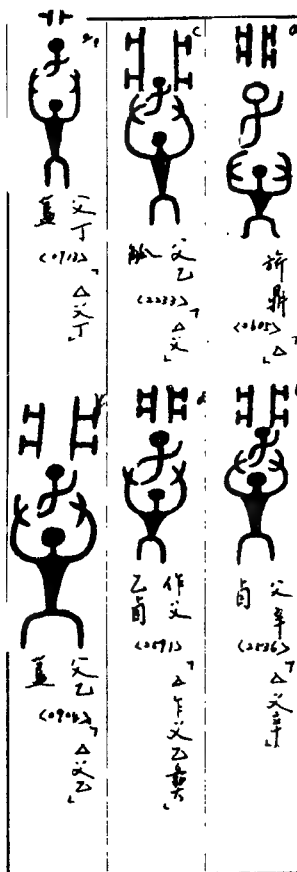
1A

金文 附錄上

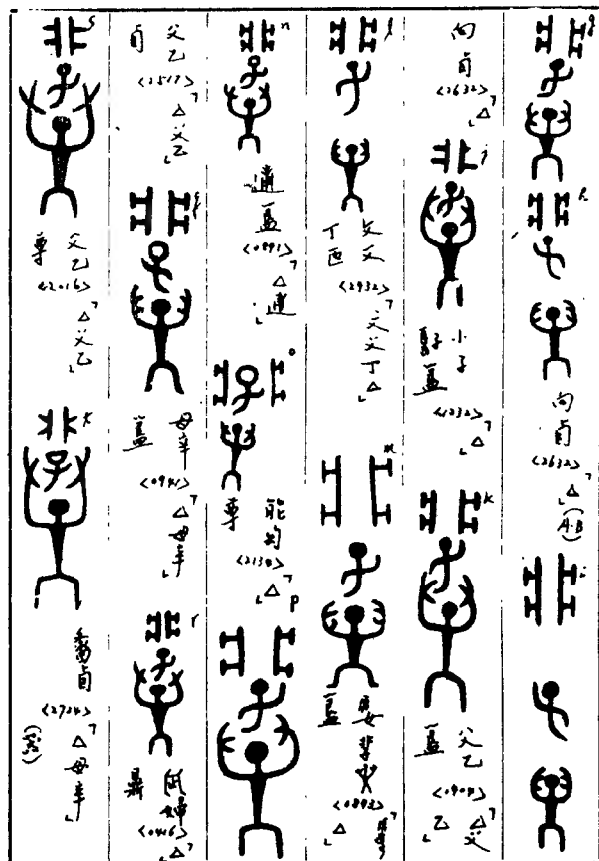
附錄上

文五百六十二 至七百五十一

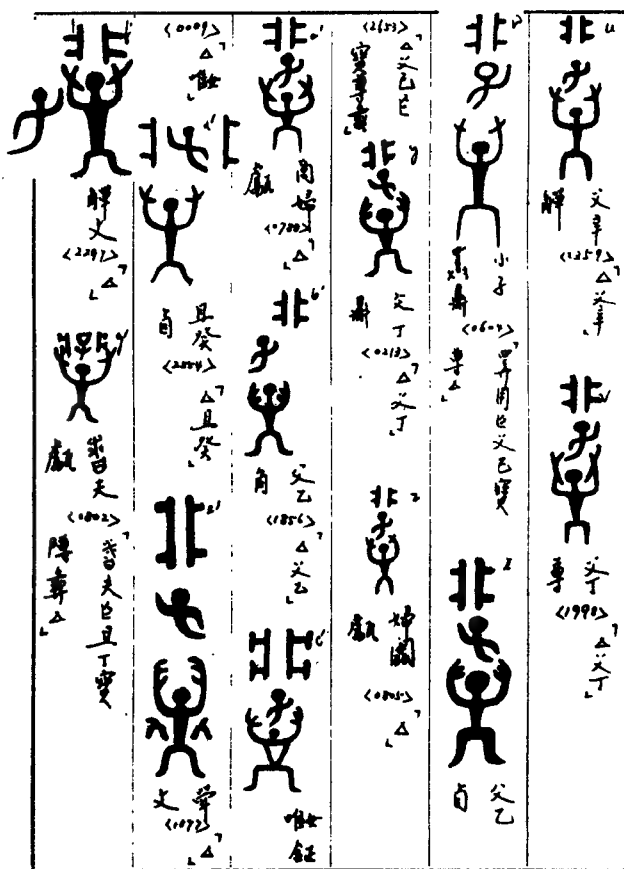
圖形文字



1 (2001)



2 (2001)



3 (2001)



4 (2001)

吳榮光撰册子孫曰說文有片部康部最片部而次之無片部
張參五經文字有月部狀康成麻容从之蓋個六書故則音
之以麻康唐本說文張參季陽冰所見片部之下康部之上原
有月部鑄時闕未可知也此字合片月為文而大篆康字又从

之所謂寧生愈多者也此字見款識百餘處恐即康之古文可以口耳治不僅可以目治焉(續遺卷五第十四至十五頁周錫

徐同柏釋析木形孫子曰古文子孫同字大曰子小曰孫荀子上住析木形取析薪負荷之義(从古卷三十九頁商新孫子父

方濬益曰析子孫語為聲器銘習見舊多釋為析木形或徑釋為析字蓋足錢同人何曰宋鼎字說文所無獨鼎字从鼎許君謂象析木以炊也商器中多有鼎字孫字宋人皆釋為析劉原父云析子孫者猶詒厥孫謀之意余謂古人用此字當自有取義

特其音失傳莫可引證釋為析木則可若僅以舊析字珠未的也說文解片字云判木不得以片為判明矣況韻會編篆文析未為非與析木為析之例正同庸得以析字釋鼎字乎近人多沿劉氏之誤余嘗獲商父乙觚有鼎字孫字辨之云爾清並按錢氏此說善矣然此文既為銘識常語必有意義若從錢氏說釋為析木子孫則大不可解此三字相連成文當仍以釋析為近理焉者曰按禮記內則命士以上父子異宮析子孫者言作器以分之子孫也左昭公四年傳叔孫為孟鍾曰爾未際饗大夫以落之即父為子作器之證(續遺卷三五頁析子孫父已解)

方濬益曰析作并者說文部首片判木也从半木為鼎字右偏之半體此則左半體也說文有片無并亦無鼎惟見於鼎之偏旁

6(2001)

5(2001)

云易卦巽木於下者為鼎象析木以炊也為後人釋鼎為析之所本此文諸半仍應釋析(續遺卷二十二、四頁并子孫父爰壽)劉心源曰非舊依荷屋釋鼎百鼎从鼎為析木形也(小篆此古足較形)據古錄二之一覓尋自引徐繼畲說析木即析薪等子孫上負荷也心源案左傳云其父析薪其子弗能負荷謂之不肖則析木之訓深矣(奇觚卷一頁師弄鼎)

孫詒讓曰金文又有鼎字亦恒見或省作鼎又省作非宋人多釋為析字蓋據說文鼎鼎字說解然古字書無此字今案之實四斧相背文也爾雅孫爰注云黼文如斧形蓋半白半黑似斧刃白而身黑非注及書偽孔傳說並略同蓋黼為兩弓相背黼為四斧相背其例正合金文之非即黼形也凡斧皆一刃旁出而為釜以箸於柯今古銅斧有存者尚可見其大略(詳見易田通藝錄)

7(2001)

古畫斧之形蓋當為(續遺卷五)戊字作戊戊成字形作五篆文約略寫之則為(續遺卷五)或趣便省之則為(續遺卷五)更省之則為(續遺卷五)是其由畫上下出者即刃也直畫旁豎者即柯也日者上下各一斧同柯連理左右相背合而成非則成四斧猶之亞字左右二弓直列相背上下兩弓橫列亦相背是亞雖云兩弓而從衡通其鋒而同抵亦可謂之四弓非為四斧亦然兩文比例正同古尊彝盤豆之屬外容突為考文亦多為是兩形盤屈弓互迭造滿體今謂之蟠螭要回形諦求之內實函無數非亞文足以證義復世通行黼黻字而原始象形文遂不可復識矣(名原上三至四頁)

丁山曰(續遺卷五)之見于鼎彝者其形不一有作(續遺卷五)者有作(續遺卷五)者此無所省變也若父癸爵作(續遺卷五)父丁鼎作(續遺卷五)則稍有

8(2001)

省矣若妣己爲作中俱見金文編附錄父己爲作中錄古錄卷一之二第廿二葉則大有所省矣若父丁鼎作中錄古錄法帖卷二解文作中錄古錄金文卷一之二第十二葉則大有所變矣若父文作中錄古錄文存下第二十八葉則折爲二字矣王國維獨據中錄古錄之說曰此乃一字象大人抱子置几間之形子者尸也其上兩旁之非則周禮所謂左右玉几也其但作几者諸侯以下尸右几也說文俎从牛肉在且上又且薦也从几足有二橫一其下地也且古文以爲且又以為几字篆文几字與古文且字皆作從正面視形金文作中或中二形皆作從側面視形古篆字象心肉于鼎之形則其右之月象俎明矣說俎下又曰俎几二物始象以月繼象以且日變縱爲橫則爲古文且字即下形之變反復論證無非欲說明日即俎字

9 (2001)

以成其象大人抱子置諸几間之說非可謂象左右玉几之形八非几也象大人抱子置于何物間乎斷臂爲臂不特象文爲然也殷之甲骨文刻辭亦數見其當二字之用若貞母父不其取(藏壽堂殷虛文字卅六葉第七版)貞母父不其取(藏雲藏龜廿九葉)辛丑卜賓貞父取(殷虛書契後編下廿九葉)貞國父(復編下廿九葉)將即右之字亦即臂上之形臂上之字也將謂臂象子在几間乎辭又常言

10 (2001)

貞母不其手來(殷虛書契卷六第廿一葉)
癸丑卜貞母(貞母)方(殷虛書契卷七第二葉)
貞母(貞母)也(拾遺十一第十一版)

臂即臂左之字亦即臂下之字也將亦謂象大人有所抱乎微諸卜辭知臂上從臂下從臂雖曰一名實從二字今欲探尋臂之真義必先知臂為何字臂為何字

以臂一作中其上之字一作中(憲齋集古錄廿二第十六葉父丁通一省作中)憲齋廿二第十四葉乃以通形皆近于許書所謂古文保及金文保右男疑臂即保之初形保上之非即保輔之正字書康誥天威棗忱大誥天棗忱辭又曰越天棗忱漢書方進傳引棗忱俱作輔誠荀子性惡繫弱鉅泰古之良弓也不得棗微則不能自王楊休注棗微輔正弓弩之器然則棗輔古義通棗之爲言輔也書呂刑明明棗常錄事無益又曰明于刑之中率又于民棗奔逸周書皇門棗奔則作非夷小開棗常則作非常是非棗古今字非之爲言亦輔也非說文作非云

11 (2001)

達也從飛下取取其相背近世言許學者食以爲非與飛下取不符當從正始石經古文作非山按屏本從非也秦會稽刻石從非作庸刻石雖翻于申屠非後人妄造也則說文非字當非俗儒所妄改特以其形爲變秦甚不能即其形以知其義遂疑其怪耳實則非爲飛之省形非爲非之端變二者本不相謀秦漢之際始起一字謂許君誤以飛下取訓非可也謂非爲俗形則不可謂非爲讓讓讓之辭云爾雅孫炎注讓文如斧形蓋半似非黑似斧及白而角黑郭注及書爲孔傳說並畧同金文之非即讓形也凡斧皆一刃旁出而爲登以箸于柯古畫斧之形蓋當爲什篆文約畧寫之則爲省之則爲十是其曲畫上下出者即及也直畫有堅者即柯也日者上下各一斧同理連柯左右相背合而成非則成四斧後世通行非字而原始

12 (2001)

象形遂不可復識(名原)說較說但為長矣然無以解于聲之全義山謂明者月之左右相對形求非之形象而不得能知月之初義斯知非形何象矣日字許書失紀後之從事補苴者或曰象木之左半(聲傳引李陽冰說)或曰牀之古文(吳元滿六書正義)或曰象方聲斧之折(吳大澂字說)或曰古槍字(王廷鼎字義新)或曰非之省體(古文疾字)王煦說文五選此一是非彼一是非驗以金石古文之備備十不四三合考卜辭言日者二見一曰日收攬方(殷契四第)四十五卷一曰丁亥卜夏日求(殷契七第)三卷皆為國名不能自其上下文義徵尋其初義然自卜辭所見從日之字若日非非等皆有倚恃之義考之則日雖近于牀而非牀字雖近于翻依而非翻字雖近于几而非几字謂象斧展之形較得其真

13(2001)

重日為非即是非字日象斧展非豈有異乎乳為扉門闥也(左傳襄廿八年)子尾抽簪扣扉三注為扉隱也(儀禮士虞禮)所用席造字一作菲荀子禮論無端絲葛練墨其類以象菲帷幃尉也注或曰菲當為扉隱也謂隱無之處也或曰菲讀為扉戶扇也戶扇也門闥也此斧展之形變也隱也者倚也此斧展之音變也(莊子齊物論)南郭子綦隱几而臥隱猶倚也釋文云隱馮也斧展之為非蓋猶不律之謂華明旌之謂銘吳子壽夢之讀為東春秋郊義之讀為鄒凡古之名物一名而二音二字者後人急讀之往往併為一字一音所謂緩言二音急讀一字矣非即非字不特斧展合音之足徵也說文美賦事也從美從八八亦聲讀若頒一曰讀若非又曰米艸木盛木木然也從中八聲讀若輩輩諸非聲讀若輩猶讀若非非八古音本相近也非本從非字亦

14(2001)

從八作非正八讀若非之比非不讀非則何以借為八以八非之聲近相假證非之音讀尤可斷言非即非字斧展之左右相對曰非天子之左輔右弼一曰師保禮記文王世子師也者教之以事而喻諸德者也保也者慎其身以輔翼之而歸道者也國有師保猶室有斧展斧展輔翼一輝之轉然則保之從非作非正取其輔翼之義不徒諧其聲非諧八聲雖不失其音已失非輔之義後世更展轉變移一變為非再變為翼三變為男復從人作男不特非輔之義失其音亦竟以知矣音失而義亡卜辭男父遠無人知其為保父而謂男象子在几間或曰人在牀上男書無說其誤也遠不可以毫厘計

15(2001)

翼戴之本字論語鄉黨孔子在宗廟揖所與立左右手衣前後檐如也趙進翼如也集解引孔注及皇疏皆曰翼如端正也端正者敬也故詩文王有聲以燕翼子行葦以引以翼周書程典慎下必翼上周語翼其上也傳注皆曰翼敬也顧詩六月有嚴有翼共武之服傳翼敬也魏叔旌履展在上翼在下數數熊熊降旅多福翼敬字則作翼亦作翼春秋左氏昭九年傳翼戴天子而加之以共杜注翼佐也孟鼎天翼臨子法保先王翼佐字亦作翼先伯敦乃祖克未先王翼自吃邦翼戴字亦作翼翼之與翼不過頭上微異耳若以單父辛彝作翼伯彝作翼果卜辭作翼後編下廿六卷案文作翼例之字之在商從。或口後世易之為因者多矣者翼作翼此何足異翼古亦通翼星爾雅釋地南方有比翼鳥焉釋文翼本作聖書金縢王翼曰乃瘳爾

16(2001)

為冀州或曰中冀或曰中土則冀之為言中也非北方州之名
史記孝武紀冀至硃定焉索隱曰冀漢書作幾易也君子幾不
如舍釋又引子夏傳幾作近中季月幾望釋文稱京本幾亦作
近幾近望聲而冀幾對轉故爾雅李巡注訓冀曰近也穀梁桓
五年傳鄭同姓之國也在乎冀州于是不服為天子病范寧注
冀州則近京師親近猶不能服則疏遠者可知釋文曰冀州言
去京師近也楊士勳疏亦曰冀州者天下之中州自唐虞及夏
殷皆都焉則冀州是天子之常居以鄰近王畿故舉冀州為說
冀之為言近也言其近王城也王城者四方之主天下之中也
近乎中土謂之冀亦不得以冀為北方州也冀非北方州名其
字何以從北北邙伯禹作外傳伯作天形皆近非非字見自鼎
史記言伯益之後大駱生非子周孝王時封為附庸邑于秦故

21 (2001)

文非子作北子舊說北讀為邶誤邶伯爵非子爵春秋宣元
年宋公陳侯衛侯曹伯會晉師于棠林伐鄭左傳言會于棠林
矣又言楚為賈叔鄭過于北林北林當即棠林之誤棠下之木
漢儒因為林名而加邶上之非將謂北手抑非乎則冀上之北
殆亦非之形譌也(一作非再省作非若省其中之非作非謂
冀字乎謂冀省手書耳陶謨臣作朕股肱耳目予欲左右有民
汝翼史記夏本紀汝翼則作汝輔之楚語求賢良以翼之章注
亦曰翼輔也天子輔翼有三公有四鄰四鄰者尚書大傳云前
曰疑後曰丞左曰輔右曰弼天子有問无以對貴之幾可忘而
不忘貴之丞可正而不正貴之輔可揚而不揚貴之弼禮記文
王世子疏引三公者古周禮說大師大傅大保無官屬與王同
職故曰坐而論道(五經異義引)師保輔弼左右天子如車之輔

22 (2001)

如為之翼然則邶本輔翼之專名展轉省變訛非為北始有冀
字冀非從北也保北聲近北亦邶之省誤翼冀古通用荀子修身
行而保冀非潰渾也揚法云冀當為翼是邶近冀故冀字作翼
蓋又因邶為形以冀望為義非所謂中冀中土冀近王城之冀
亦非予之所謂保翼為冀也保翼為冀者殷周間諸侯有國
之名亦非中土中國之號也何以徵之左傳僖二年晉將伐虢
使荀息假道于虞曰冀為不道入自顛軫伐郟三門冀之既病
則亦唯君故杜注冀國名皮氏縣東北有冀亭水經注汾水又
逕冀亭南下引水略說亦曰今河東皮氏縣有冀亭古之冀國
所都也冀之立國史無明文羅泌路史國名紀附諸陶唐氏之
後以為其國始于堯舜之際其說不報其事難信然以中男一
字改之卜辭云貞翼不其乎來貞翼年苦方翼均似冀之省形

23 (2001)

又以冀為古帝通用攷之逸周書商誓言幾取肅執皆殷之舊
官人幾當為冀則冀實殷時國名(集刊第一本二分二二三至
二三九頁說見)

子省吾曰首一字他器作非此作卜變體也王靜安釋俎中
象人舉兒童於頭上之形係一字舊釋為子孫二字非也五
子謂頌白者不負戴於道路戴謂以頭戴物也今朝鮮人猶
多如此蓋吾國上古之遺風也(雙劍下鐸九頁上)(八)

吳闓生曰舊釋為折子孫其義不明以為貽厥子孫之意耳近
人多疑之以為舊說未確非折下亦非子孫二字也大氏此
等皆上古民族間所用為標識符記故數數見之或者於銘首
或署於末猶後世簽名印押耳凡古器刻識所謂折子孫八子

24 (2001)

孫子孫荷貝執于戈弓矢諸形及亞形中召夫亞形中跪字亞下承形足跡形及鳥形冊未形冊等皆古人所用符識其義為何不可強說者矣(《古文卷一第三九頁鼎》)

馬叙倫曰倫按舊釋此為折子孫而以子孫為子抱孫形蓋據禮有折宗器之文兼附會於禮抱孫不抱子之說也張鳳釋少為俘為獻俘之人非即牀字在此當釋為凡几者或為祭時尸或神所凭依者或為牲俎形古代殺人以祭之俗然也倫說金器凡有非子形者或但著此文或并著且辛父乙等文最為習見或更著某作且辛或父乙等彝字其若祖辛觶則作非子形字且辛彝旗僕鼎作佳八月初吉辰在乙卯公易旗僕旗用作文父日乙寶陳彝非子乙乙未敦作乙未易小子

25(2001)

貝二百用作父丁陳敦非子父甲甲鼎唯正月既望癸酉王獸于金鉞王令口執伐義用乍父甲鼎彝非子小子射鼎乙亥易小子獸王寶貝十朋非子用乍父乙寶陳鼎非子唯父甲鼎有獸伐之義可為張說附會然亦未能極成也且以後舉諸器文論之此器實為作器者之族徽特不易詳其意義林義光曰古彝器多作非子之文舊釋為折子孫象人形伸手上抱子其孫字甚明折古作折非非折字又父丁萬作非子折子鼎作非子實皆為牀上抱子形古以為銘器吉語與詩乃生男子載寢之牀同意非子皆象牀形自上視之為非旁四注象其四足旁視之為子形見牀半之兩足也非亦變作非倫謂林說辭辨然以為牀上抱子形古以為銘器吉語未可從也以上舉各圖語比之非如林說為牀之初文少者其之姓也




26(2001)

其者作器者之名也其疑為說文之非字說文凡五非諸文初文本是具體指事如爪金文作非從手而象其有所握形丑甲文作非從手而象其有所握形以本從又非而以兩掌向上承物非一今抗縣謂持物而向上舉曰棟上去即此字也非則本從兩手向上或向前屈指有所攀援即攀之初文不然豈有兩手相反而可握持者乎最初文直是如此其與非子之望皆從大而象形也然則牀為非之族徽蓋作器者以造牀為業也其後以此為小宗之氏則非子之族徵故如父甲鼎小子射鼎銘文涉獸伐賞賜之事而猶書此族徵也(刻詞三七頁至三八頁非解)

27(2001)




未能除盡繼進而為之解曰子者尸也曲禮曰君子抱孫不抱子此言孫可以為王父尸子不可為父尸古之為尸者其年恒幼故作大人抱子之形其上或兩旁之非則周禮所謂左右玉几也此純以周制說殷文於資料問題已有可商蓋殷代社會猶存母系中心之遺習子孫觀念頗薄弱殷葬未見孫字卜辭已著錄者六七千片而孫字僅一見故大人抱子不必即是尸象殷人用尸與否尤當先作考查即退一步說承認大人所抱者為尸則此銘文必當施諸祭器然如商婦廟婦闕廟父丁兩等均有此銘廟廟乃蒸煮之器非祭器也僅此已足為王說之致命傷矣且王容二氏之說均立於文字畫之觀點所謂文字畫者乃文字形成之前階段即野蠻或原始民族在未育文字將有文字時所用以為意思表現之符徵此種未成







28(2001)

形之畫語在現存未開化民族如北極附近之愛斯基摩人美洲之印迭安人於今均猶見使用然殷彝中之圖形文字若作為文字畫解時有一根本困難即殷代文化已遠遠超過此階段而已有完整之文字系統且如所謂析子孫及子孫二例據余所見於周彝中亦猶見使用例如旂鼎其銘曰唯八月初吉辰在乙卯公錫旂僕旂用作父父日乙寶尊彝銘末即綴以此器用初吉乃周制故器必作於周代無疑又例如同獻侯鼎其銘云唯成王太父在宗周商獻侯賜貝用作丁侯尊彝銘末即綴以此乃成王時器則銘中已有明文故即此二器尤足使文字畫之說根本不能成立蓋二器銘文所表示者乃當時文化已有比較高度之發展已有一定之曆法一定之典禮一定之文字體例而在此時尚有所謂文字畫

29(2001)


之使用此極端不合理知此則知根據文字畫之觀念所立諸說之必為臆說可不待辯而自明

字作畫解既不能成立則當返歸於字以求之余謂此等圖形文字乃古代國族之名號蓋所謂圖騰之字遺或轉變也此於彝銘本身可尋出種種證據如所謂析子孫作父乙彝析子孫作父辛彝與上父戊方鼎例全同此外如文父辛尊其銘曰子光口子啓貝用作父父辛尊彝又如敘彝銘曰敘作祖癸寶尊彝此作器者之啓與敘均係以此圖形文字為族氏者也



且此氏族之名號尤有種種異形有省作者有省作者而橫書為者亦有省作者更有全省其二几而作者若者是則此字之主要成分為大人抱子形而非飾寶可

30(2001)


有可無殷虛皆契適有此字凡三見

①貞不其乎來



②癸丑卜貞及方

③貞及寧手






統觀三例亦確係人名或國族之名此與金文為互證則知余所謂族號之說益信而有徵矣

此字當即之初文亦即冀州之冀(青研十一頁至十七頁殷彝中圖形文字之一解)







加藤常賢曰是是的省形而是字

意指戴於頭上是合虎音所表連的聯義而有高高負戴於背上的意思所以把這些移到圖畫文字人去看它它下半立人高舉之形就在表達戴戴的意思了又如前節所

31(2001)

述的字係它上半的係象負任之形整個的形狀成為

从聲

我們就必須解成高高地負戴於背上了而且我前面考證過字該讀如另外也曉得了係念成居例切這兩者合併起來就自然可得人跟只不過是音轉的別字而其義則同的結論了這些論點在後節討論讀為非口的連語時大概可以再弄明白的

讀如而且加上的高舉之意我們要找這種字的話不能不舉出底下兩個

揭高舉也(說文)去例切又

竭負舉也(說文)渠列切

32(2001)

凡乎不能舉者負而舉之……禮運注竭負戴也（復玉裁述）
負戴的解釋就人形而言正不外乎弓的形狀作為字旁又形
象性的說明前面未排斥負戴的解釋就是本於這個地方荷
子有這樣的句子

竭蹶而趨之（儒效篇議兵篇）

踴躍類仆猶言匍匐也（藏兵篇揚注）

竭被連言成竭蹶即令入聲化了意思是是一樣的同指着屈服而匍匐我們雖只討論竭的渠列切的音漢紐去例切還有個註不連言處爲四些毛傳答跪處居也不連言居爲來微身樂應跪也來微聲看作吳的假借字這只要通觀我們整篇論文應該會發現是再說从曷聲的字說文有這樣的解釋很有趣味的

獨禾舉出苗也

碣特立之石也

這也有參考價值吧

由以上我們儘可判明『中』是讀如倪的而倪音的『中』是象拳也就是人形『中』的意思所以單一個『中』倪也好再加上高拳之形的『中』也好所表達的都一樣……

上面我論證了非另外的上部是梨輔形加藤常賢說中

下部則當併讀為庚端如今兩形加起來的非夕中乍見之下似該讀為一字然而正如看了本文開頭拓片的字形我們曉得是該讀為兩字的而也正如後文所說這兩字雖非同字却是同義的連語讓我們進一步討論它

在第六節中我說從形象上認字形，為戴戴是不能算錯。

33(2001)

的通過後來的論證我們當可明白這道理了因為 $\sqrt{2}$ 實在指謂着 $\sqrt{2}$ 形的人據這一點推斷戴戴加上非輔形的二語結

果不是能釋成負戴背戴嗎因為「」正是負戴人的形狀
其次我還說過「𠂔」是跟秦庚同義的字虞虞加上非輔音的

二語在指謂着什麼可參史記司馬相如傳的上林賦

櫟鷺虞（文選上林賦呂向注曰櫟鷺也漢書本傳及文選上林賦作鷺鷥）

稷玉裁說文虞字注

張揖曰飛虞天上神獸虎頭龍身是長樂神虞為神獸

徐灝說注箋也說

虞刺為猛獸因以名猛獸曰飛虞

可知虞又叫蜚虞飛虞而據史記蜚虞又可知連言成飛虞的話也不是蜚飛的虞讀的蜚又叫負簍指集蟲蟪蛄或蚱蜢蚱蜢

鞋蟲而言。其顧名思義。是四足平伏着的蟲。所以跟猛獸摩

的平伏同樣意思從而我們當可認蜚廉為回義通語了

再其次我提到說文廣字下門相尹不解也的解說。是廣所从

的虎聲的引申義我還引了張衡西京賦的

猛戾趙趙

底下我們再考蠅頭一語

巨蠶頭屑薛綵曰作力貌
(音備許器切)
(西京賦)

巨觥以展呂句注用力之貌。吳都賦

不受囿於訓詁家之共釋此語為用力貌以授王裁為首的說

文各注家則謂蟲是它的本字朱珔文選集釋也一樣其實

是甲骨文所字的端變金文只作三矢三矢象矢飛之形而然

表達的，只不過飛非之音罷了。所以這個字該作費說文大目

35(2001)

也詩大雅蕩正義怒而目作氣之貌也可見這個字和作力貌是不相配的。最屨一語雖始見於漢賦它的起源却頗早它原是疊韻連語或作最屨本草綱目卷四十五所以兩字折開獨立成單詞也無妨明白了以上再合觀先前我提到的虞音變義音的現象我們大概就能曉得這連語不外是虞音兼虞義的連語罷了。承培元說

漢辭賦家有最屨二字訓作力貌因負碑之獸名曰最屨說文引經證例卷十

本草綱目卷四十五說

最屨虞最李時珍曰最屨者有力貌今碑跌象之

將巨龜匍匐着而碑背上之形叫最屨楚辭天問篇王注是個證據

37(2001)

列仙傳曰有巨靈之鼈背負蓬萊之山而打舞這個龜的外貌就跟鼈鼓的拊足一樣那麼我們可將飛虞和最屨看成聲轉的同義語

以上我們說鼈鼓的拊足和碑磬叫飛虞最屨它指謂着屈服而背上高負物件的意思這一點就人而言自前舉全文



的圖畫文字所表達的意義開始繁見於古代文獻弗忌仇惟雄一連串的名稱之中由於這方面的證據極多我們留詳另文弗忌考這兒我們擬叙述惟一連串的名稱見於載有本論文標題圖畫文字的書籍的情形

首先看這圖畫文字



易清五四
據古一三二
二八二二二二四

38(2001)

我讀它為輔竭輔竭暫且不論唯跟女的合體是當看成雌的雌有一解

雌醜也(說文)

這兒指曲背的婦人說文五和男子的雌是相對的連言之就叫他雌她雌了淮南子修務篇高注也說媼母他雌古之醜女也那麼這個醜的製作者就是輔竭就是名叫他雌的負任的女子了

其次



真補中六

這圖畫文字中輔竭跟前面一樣下半的圖形則又見甲骨文我們原該作一更富綜合性的叙述的不過單就這圖畫文字

39(2001)

而言我認為就是禮記內則的以木燧雌燧燧的形象這兒大概也念木燧的雌音佳音加上女所合成的字和前器的雌同表一義

其次還有這種屬文的寶器

雌作文父丁非男中人

中心旁佳的是態字它雖可以解釋成咎但我們若無妨看作佳字的話它既無女旁根據前例就是佳字也通吧

進一步我們討論圖畫文字非男中人物物有問題上節我曾說非男中可以讀成仇那麼加上非輔音的連語就成了

俾仇娶媼

俾仇有下列幾種解釋

俾仇傾側不正也(參林)

40(2001)

俾倪城上小垣也(釋名)

俾倪不正視也(釋名)史記信陵君傳正義

都是從負任物件的人形所得的引申義換句話說俾倪本指負任的賢者也就是小人說文嬰倪

嬰倪也

倪嬰倪也一曰婦人惡貌也

兩字是疊韻連語意義相同正如說文的或說是婦人惡貌自任人之意

再依上節我讀字形多中人為竭順此讀法非多中便要讀為非竭順竭了如果要找跟這兩字音近的字專有名詞的傳光似乎倒頗恰當

依經學上的傳說傳光是高宗武丁夢見他令衆人搜尋他終

於得之於傳穴而任之為宰相的但春秋元命包却說傳說主祀章巫也章請號之聲也傳說蓋女巫也主王右之內祭以析子孫廣求胤嗣(據玉函山房輯佚書)

解傳為巫是王右內祭的主祭者

根據開頭以來的研究傳說之名是指何傳的小人這個意見合上元命包的說法傳光就是何傳小人的女巫了很有趣的是所謂巫這種神聖的人會是何傳小人而還有趣的是這種人會是女性製造圖畫文字非多中人的舞器的所謂小臣固不

少又有女性在內小臣之例像

小子口 續殷上四九

女孺小臣兒 續殷上八五

小子翳 續殷上二五

小子省 續殷上八六

小子野 續殷上四八

小臣告濁 三代三·五三

小子辭 辭字迄今雖未指書化我們却懷疑是酒跟黍的合文因司作濁吉 貞八·三八 漏植一譯者按

女性製作舞器的明顯之例像

圖女作 據二之一·三五

庚矩作 續五·二六

商婦作 續五·二〇

婦關祿 據二之一·七〇

傳光是依經學系統所傳說的男子還是如元命包所說的女巫我們找不出斷定它的材料或者這是圖畫文字非多中人那

種地位的人中有幾個後來被換字相傳讀為傳光而其中一人或兩人留存至今也未知我們所以這樣推斷是因像底下的解釋前舉圖畫文字



獻猷賢也 (論語八佾篇鄭注)

獻賢也 (尚書皋陶謨孔傳)

再如獻的聲轉傳猷被這樣解成了賢

猷賢也 (廣雅釋義)

由這些例子推測前人作這種解釋是別有理由我們可以認為所謂猷賢人的巫賢其實就是非庸後世把這個猷字誤讀為猷文獻殷代有過很多這從孔子所說的文獻不足稱謂八國可窺見一斑另一方面我們也是懷疑到這跟非庸換字成巫賢

以致歷史上僅僅留下這麼一個人的情形類同的緣故(中國文字十三冊一三至一九頁非尸也)

王國維曰案殷禮器銘屢有「𠂔」字其異文或作「𠂔」或作「𠂔」齊婦鬲殷虛書契卷七第二葉亦有此字自宋以來均釋為折子孫三字余謂此乃一字象大人抱子置諸几間之形子者尸也曲禮曰君子抱孫不抱子此言孫可以為王父尸子不可為父尸曾子問孔子曰祭成喪者必有尸尸必以孫孫幼則使人抱之是古之為尸者其年恒幼故作大人抱子之形其上或兩旁之非則用禮所謂左右玉几也周禮司几筵凡大朝覲大饗射凡封國命諸侯王位設籬依左右玉几祀先王昨席亦如之不言祭祀席然則下言諸侯祭祀席右彫几昨席左彫几則天子祭祀席左右玉几可知冢宰職享先王贊玉几玉爵注玉几所以依神天子左

45 (2001)

右玉几者顧命牖間西序東序西夾神席皆有几則左右几者天子尸之几也其但作几者諸侯以下尸右几也几在尸左右故以日月二形象之依几之尸象正而左右之几不得不象側面矣(觀堂一三九頁至一四〇頁說祖)

衛聚賢曰附贊後釋為折子孫三字非是按上一字即孫字的半係放縱性的案子中一字為人下一字亦為人不過中一人係被傳的傳擲下一人是傳擲傳擲的人此二人何以形容得出来以被傳擲的人當然力小而推演到小傳擲的人力大而推演到人大故畫一大人兩手舉一小人放在縱性的架子上為獻傳擲性的人要流血後將人畫為一旁加兩點為血變成小字下面的為人正面寫成大字後來形成大人為統治者小人為被統治者(說文月刊第一卷合訂本一九頁字源)

46 (2001)

編纂的計劃

薛尚功曰按呂氏攷古云銘文純作畫象蓋造書之始其象形如此後世彌文漸更畫畫以便於書其文有若大小人形者蓋謂孫與子也小者孫大者子非博古錄云是折字言折子孫乃貽厥子孫之意(說文卷三三四頁子孫父已義)

李孝定曰丁山謂金文𠂔字所从之𠂔與𠂔為一字亦非吳字乃象人首戴冠之形(王國維說文解字詁林卷八八頁)形从𠂔云云(從𠂔从𠂔)從𠂔亦聲(集解八〇八頁)

李孝定曰右列諸文為彝器習見之圖形文字在銘辭中恆與父某母某連文或在辭前或在辭末亦有與他名並見者除極

47 (2001)

少數例外銘辭中恆無其他文字且有僅有此一文者此為古人族徽圖騰之遺近賢已有定論宋人治金文者相承釋為折子孫三字清儒頗仍其說按此文合三體成字除第二文確為子字上下二形與折字二字之形證了不相涉其為臆說可以無辨近賢於此文之考釋頗設新解而吳說辭孫亦持論定謹就諸說略加評述或可資初學一助耳











王國維說祖謂此乃一象大人抱子置几間之形子者尸也其上兩旁之非則周禮所謂左右玉几也姑無論周禮左右玉几之說是否確有其事且此字多是早期真銘以周禮說殺制亦難徵信即如其說此為何字亦仍不可識也按引為孫之古文說文失收然說文所收之字多有从之得聲者王氏所舉明昇字即從𠂔字正从日得聲至此字下半確象大人抱子之

48 (2001)

形惟未必為尸其上之非究為純聲符抑為會意兼聲在此字未能確議之前正未易言也卜辭有形大抵均為人名或國族之名見為邦男叔虛卜辭錄類三十八頁第一欄从是與此應是一字












2. 丁山釋此為其說甚辨宜若可信然細繹其論証過程實亦未盡允當考丁氏釋其之說必先確定此字上之為保而下之為又連讀為非孫詒讓氏釋為斧說見前已難徵信丁氏釋為斧底其不可信正同且即如其說亦無釋保之可能丁氏謂一作其上之分一作一省作形皆近於許書所謂古文保及金文保右旁之疑即保之初形保上之即之正字說甚辨而實為勾辭蓋金文自有保字其

49(2001)

原始形態作  象其子於背即保抱之本字後以配合形聲字之結構遂分為左右對稱之手臂中斷而予下猶遺留手臂之痕迹非如丁說之作也且保象其子於背亦無省形而獨作之理又保至今為會意字亦不應先有形聲之也之完為兩牀相對抑僅係紋飾雖不可知然絕非非字至此字下之象人高舉兩手過頭有所扶持之形應是之古文甲金文異字作象人首戴簪之形其下半所从正此字古文字中以此為偏旁者頗多其上必有所戴無獨立成文者丁氏則釋此為其其說之誤灼然可見此字之上半既不得為保下半亦不得為丁氏釋其之說固亦難以徵信矣

50(2001)














3. 加藤常賢釋此為非為而讀為傳說說頗支離讀字

之上半為非其說未聞如與丁氏之說相同則其不可徵信已如前識讀字之下半為其說云它下半立人高舉之形就在表達戰戰兢兢的意思了它上半的象其任之形整個的形狀成為从聲我們就必須解成人高而戴於背上了加藤氏謂字之下半象有所戴戴之形其說是也而又戴連言繼則解為其說云因為正是戴


51(2001)

為實是指謂形的人據這一點推斷戴加上非形的二語結果不是能釋成戴背戴嗎因為正是戴人的形狀加藤氏又引說文高舉也高舉也連謂當讀蓋謂此象大人舉或高舉其子之形也按為形聲字而為會意字謂其義為為則可然無以証其言之當讀又謂當為然前者象高舉其子後者像人惡生

之形不得混為一談然則之讀固難索解矣筆者所據為詳文於加藤氏之本意各有誤解也二音既難遠定則傳說之說自亦可以無辨矣

4. 孫詒讓謂象四斧形其說四古畫斧之形當為篆文約畧寫之則為或更便省之則為更省之則為是其由畫上下出者即也直畫旁豎者即也者上下各一斧同柯連理左右相背合而成則成四斧考金甲文偏旁中斧或之象形文多見固未有省作或者孫氏釋此為四斧形未為有據

52(2001)

5. 吳闓生謂此後世篆名印押皆古人所用符識其義為何不可強說可謂達旨

5. 郭沫若謂此圖形文字乃古代國族之名號蓋所謂圖騰之

予遠或轉變也。此說最屬通達。又証以卜辭之「𠂔」謂此字之
主要成分為大人抱子形而非飾實可有可無亦屬可信然謂
此字當即吳之初文亦即莫州之莫則仍有可商已見前議
6. 馮叔綸謂非為族之初文「𠂔」者「𠂔」之姓「𠂔」者作器者之
疑即說文非即鑒之初文族為「𠂔」之族徽蓋作器者以達族
為業也是讀此文為三音節說見下惟「𠂔」字兩手之指皆內向
以抱持子與「𠂔」之外向者有別說有可商

7. 衛聚賢說此上為姓架中為小下為大於文字之音義無微
蓋肥說也

總上所論此文之為族徽已無可疑字當以大人抱子之形為
主(於契文可徵)其上之非或省作「𠂔」乃族之古文(契文非惟
字从之可疑)在此究為聲符抑為意符或竟純為文飾以其繁

53 (2001)

文从「非」言文飾之意味或較多未可確指惟大人抱子之形
當於彼世何字殊難遽定丁郭二氏之說相近丁讀下半為吳
郭則釋全文為吳此字从子固得从子為聲子聲吳聲古音同
郭抱子高舉通項其義亦與吳字相近郭說宜若可信然無以
解於甲骨金文吳字之从「𠂔」而於族徽之字則必从「𠂔」意仍
以存疑為是亦不知蓋闕之義也馮氏讀此為三音節加藤氏
則讀二音節古文字中國有此可能惟其他姓氏字多為一音
節二氏之言存之以備一說可也又友人屈萬里先生疑契文
之「𠂔」為承字承从「𠂔」而此从子其結構之意雖同惟古文字
偏旁中子「𠂔」相通者似乏他例亦未敢遽定也

張日昇曰按「𠂔」同文與「𠂔」

54 (2001)

劉心源曰鼎蓋解作折鼎蓋古器中多有此字各家解作折或
解作折木形此本說文鼎字之解須知鼎从目鼎許謂目已成
字乃是真字之省若鼎則未成字故云象折木目效非謂鼎是
折字也古器散文作鼎者則不得謂為未成字蓋鼎之省即鼎
字也亦不得解作折木解字固有體矣小子鼎鼎云作父已寶
非吳中云云臣文義讀之非必古文鼎此解超乎常人凡古器
中鼎字讀為折及折木形文氣即不通讀為鼎則順此不待煩
言而解者也或曰鼎既是鼎字此鼎及父半面父已解父乙說
皆巨鼎為銘則是鼎鼎解而不言鼎何謂也曰此所謂本鼎不
言本鼎而言他器器之變例也例言已詳之矣鍾鼎篆不計
此例於是曲說枝詞紛然自擾曾何當乎(古書卷五第十六頁
警纂)

55 (2001)

白川靜曰鼎末有圖象之象識郭氏云

宋人釋為折子孫近時王國維又說為抱尸而祭之形
均是臆說按此乃員之族徽有竟省作「𠂔」者卜所屢
見亦為國族之名

此一圖象乃自殷器以來甚為多見者也然如檢視其器文以
假之多子之使用此圖象者為多余意此即與子相同乃用為
出自假室之身分之稱號者也小子小臣之器中多見此圖可
參考假之蓋假社會及小臣考(金文通釋第五輯二三二頁二
一頁鼎林深明釋)

56 (2001)

非 義文
(1712) Δ

李孝定曰此與訓當係一字訓與契文之非全同郭氏以為字當从大人抱子之形為主者是也

57(2002)

非 義文
(1712) Δ

金文
(1712) Δ

非 義文
(1712) Δ

義文
(1712) Δ

義文
(1712) Δ

義文
(1712) Δ

非 義文
(1712) Δ

義文
(1712) Δ

非 義文
(1712) Δ

義文
(1712) Δ

義文
(1712) Δ

非 義文
(1712) Δ

義文
(1712) Δ

義文
(1712) Δ

義文
(1712) Δ

義文
(1712) Δ

義文
(1712) Δ

義文
(1712) Δ

58(2003)

非 義文
(1712) Δ

吳大澂釋子孫二字見諸齊十七番七頁齊婦南

59(2003)

非 義文
(1712) Δ

李孝定曰字上从二耳中从非即非之省下从大而無頭不可識

60(2004)

郭沫若曰：自宋以來亦均釋為子孫。近人容庚則以為象陳牲體于尸下而祭，同以尸祭為說。蓋據王國維說，然此說之不足信與王說同。人形下一物分明龜之象，何得說為牲體？且陳牲而祭矣，則必施諸祭器，然有子孫父癸盤，又西清古鑑有周子孫區盤，區乃盥洗之器，非祭器也。有子孫婦姑獻，亦非祭器也。故容說與王說同一不能成立。

其為甲寅父癸角，又其一為父戊方鼎。

鼎云：癸作父戊癸，以癸銘通例，某甲作某乙器例之，可知此圖形文字當係作器者之名。

角云：甲寅子錫，亦係用件父癸尊彝，則知此圖形文字當為數之族號。

角銘乃彝銘文例最規整之一例，即某時某人因某事為某作器，簡之則如鼎銘更簡，則僅標一圖形文字，於其下附以父戊父癸等名，其為自身作器者，則除一圖形文字外，並父戊父癸等名而亦無之。案此乃原始文字省去動詞之通例也。文字之發生必先有名詞，而後有動詞，因而言之結構亦必先有主語，而後有賓語。此視之小兒言語，可得其明證。準此則單存一圖形文字者，僅作器者之自標其徽識而已。此意猶今人於所有物或所造物上蓋章或簽名，亦乃極尋常之事。然一落於古器，則因其器之奇古，字之奇古，又益之以歷來儒說之敬宗追遠，貽孫翼子之先入見，於是乃多立臆說，使歧之中又有歧焉。此誠所謂大惑不解者矣。

小龜字當即天龜，蓋古之軒轅氏也。余近證得古十二歲名

本即黃道周天之十二宮，寅之攝提格為大角，其次為卯之單閼，當於軒轅（西方之獅子座）單閼一稱天龜，是則軒轅單閼均天龜之音變也。軒轅不必即是黃帝，蓋古有此氏姓，迄周初猶存而後已消滅，故後人遂附益之以為黃帝耳。（青研十二頁至十七頁殷彝中圖形文字之一解）

聞一多曰：圖中有銘識作癸者，宋人釋子孫其妄不足辨。近時羅振玉釋子孫郭沫若釋天龜，孫海波釋大龜，羅氏無說，郭說曰：

天龜即軒轅也。周語我姬姓出自天龜，猶言出自黃帝十二歲之單閼，即十二次之天龜。近年據余考知，實當於十二宮之獅子座軒轅，由姓氏演為星名者與商星同。兩周金文辭

一獻
侯鼎
孫說曰

上作癸當是天或大字，下實龜形，且已有垂底飾文及象屋清實所載蛙形龍文盤之飾文，二龜形與此並合，果族徽也。當釋大龜地志有大龜谷可證也。古文解

案說文龜大龜也，欲知郭說信否，當一詳審此文，下半所象是

否，龜形考與鼎中原始圖形文字與此近似者約有四類：

- (一) 弟龜鼎 (代二二二) 弟龜鼎 (代二二二) 弟龜鼎 (代二二二)
 - (二) 弟龜鼎 (代二二二) 弟龜鼎 (代二二二) 弟龜鼎 (代二二二)
 - (三) 弟龜鼎 (代二二二) 弟龜鼎 (代二二二) 弟龜鼎 (代二二二)
 - (四) 弟龜鼎 (代二二二) 弟龜鼎 (代二二二) 弟龜鼎 (代二二二)
- 圖(一)大都四足向前有尾，確象龜形。圖(二)與圖(一)同，惟喙加長。

一字明屬昆蟲類象形字碩腹四足絕類龜龜者釋孫字尤誤故於舊釋孫諸說均不置評近賢始有新解試析論之

1. 容庚謂象陳姓體於尸下而祭按上字為天釋天亦可通雖屬人形然無以証其為尸其下則分明龜之象形亦非姓體

2. 郭沫若釋為天龜謂蓋古之軒轅氏也郭氏蓋先有一軒轅氏之成見故不惜讀龜為龜以成其說龜字雖从龜乃後世文字類化現象使然其說仍有可商然郭氏謂此為族號則不可易也

3. 吳闓生謂上一字仍是子字引雙仲鼎天子作子人証之然其字兩臂上揚亦與此所从天字之兩臂下垂者不類固不能據此強証天之為子也

4. 闕一多謂即奄字即後世之都字从大龜與秦公假之龜相

通假文亦當讀奄且就字形以証奄奄壇變之迹其說較可徵信姑定暫以闕說

0 白川靜曰銘文言作丁侯陳彝奄二器(本器及獻侯鼎)皆附有奄形之款識皆作丁侯之器故可視為一家之器獻侯與勅殷各用此圖象者蓋本宗與分支皆共用此一標識者也關於結末之圖象郭氏以此為軒轅氏

天龜二字原作奄器銘多見舊釋為子孫余謂當是

天龜即軒轅也周語我姬姓出天龜猶言出自黃帝十

二歲之單閼即十二次之天龜近年據余改知實當于

十二宮之獅子座軒轅由此姓演為星名者與商星同

乃郭氏式之構想也闕一多有釋奄一篇古與新義以字為

奄字魯之舊名也說文邑郭郭周公所誅都國在魯所云者此

一也又丁山氏則以另一圖象為軒轅見殷商氏族方有此一圖象之彝器在所有著錄中不下數十蓋其長銘者除此處所

舉二器外尚有頤鼎貞松父癸貞貞松父所謂征人鼎日本奇觚等乃殷以來之古族也在父癸貞中受賜于子丁頤自

三三中有丁侯陳彝奄丁侯者殆即此丁頤之丁也歟勅殷鼎(丁侯鼎)據陝西金石志所引乾州志云器乃得自乾

縣甘谷之西峯巨塲中故陳氏謂丁侯之家並獻侯的采邑當在此附近云乾縣在岐山之東武功之北有奄之標識之器

其數甚多且多為殷器本來並非陝西之族也以此為軒轅為周之祖者本不適宜闕氏解作奄之說頗可玩索金文通釋第

七輯三三六一三三八頁二九勅殷鼎林潔明譯

未暇思曰閼子奄加陳博士之注說為東家之即字報字一說中有詳論據之則奄即連徐意居僂僂之小人乃表示神

職者之職能之記號也(版金文之釋字二二夏頤鼎銘林潔明譯)



父 辛
父 乙



父 乙
父 辛



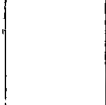
父 辛
父 乙



父 辛
父 乙



父 乙
父 辛



父 辛
父 乙

上張廷濟曰吳佩叔東發於內萬教區蓋之文釋云曰父則當曰子不得曰孫曰祖某則上六便是孫字此子字下作

者取攀攀恭敬思即之義云案內萬字商器屢見下言父某而上具二文者對角自世之屬亦不一唯下言父某

上止一文者則作六六六從無作繁文如此萬之形而此器對祖某言正作此則文繁者之為孫當如舊釋孫字

為是孫文繁于子故至周時之器孫字已於子旁添耳不也清儀一冊十一頁至十二頁商觚

儀一冊十一頁至十二頁商觚

方濬益釋唐諸形見續遺卷十第二十四頁父辛唐諸商

李孝定曰即龜字在彝銘中與上攀龜字當係同一族徽

唐蘭曰另外一件雲上有銘文龜字也是圖畫象形字龜是蛇

一類動物中比較大的銘文在肩上共三處和腹部的三組獸

面形圖案相配合有人類是花紋但這個雲的肩部已經有一

道花紋肩上下部的部位裏不應再有花紋白家莊墓三同時

出土的另外一件雲可以為証商周銅器經常有把銘文與花

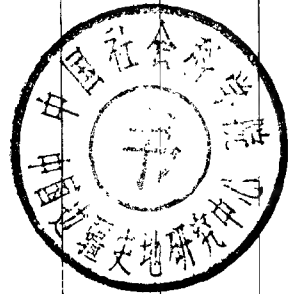
紋配合在一起的在戈內上也常常是兩面是同一起文的可見確是銘文這個字很像龜字但龜字的四足大小相等而此銘的後足長于前足是尾部上曲應為龜字無疑這兩個字在

一觀情況下應是氏族徽號詩桑中說吳孟庸吳毛長傳說姓也周初有鄭國就寫作車古代常以國為氏可証車是氏族

徽號至于這國氏族金文中常見如龜父丁鼎且乙鼎父

辛龜父之類見三代吉金文存卷二二一頁(又都以為為

父物一九七三年七期六頁從河南鄭州出土的商代前期青銅器談起)



父 辛
父 乙



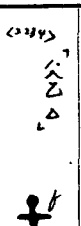
父 辛
父 乙



父 辛
父 乙



父 辛
父 乙



父 辛
父 乙



父 辛
父 乙

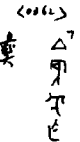
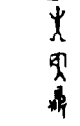
方濬益曰子下作承形此子以承祀其先妣少字饋食禮也(續遺卷六十二頁子承妣字說)

參閱1276頁字餘高鴻緝說

柯昌濟曰家紀祭祀之物(釋華二六一頁子承妣字說)

李孝定曰字為大豕合文亦屬族徵惟音讀不可知耳卜辭亦有此字作𠂔為人名或方國之名與金文合辭例見為邦男殷墟卜辭綠類三八頁下欄从畧方氏謂此乃少牢饋食之禮味於羹銘辭例說不可从柯說亦誤

李孝定曰此為人體正面象形字兩臂上舉而不着手指與大天才諸文並異古文字作人形而並着手指者必示有所刃持無一例外此文兩臂上揚實為無意義之動作細審惟小兒習作此狀蓋子之異文第205字下吳闓生說所引天子之子作人與此應是一字異形雖與天大等字有別然究易相混故約定俗成之結果子字乃獨存中一形而此形終歸淘汰此亦文字演變之通例也



丁
巳
年

$\langle 000 \rangle$
T
Δ
L

85(2007)

文
文
(1.66)
'Δ'

李孝定曰此是亦字戈文僅此一字衡以彙編解例當為作器者之名卜辭中亦字多見多為介辭然亦有作人名用者如卜三七七貞勿告于亦尹八月乙八。二四貞出于亦尹十伐十牛乙六二六三貞亦尹崇王貞亦弗崇王續一一。五丙午卜貞亦于大甲于亦于丁三宰均是或即此文之亦氏也。

87 (2009)



父
子
鼎
(0008)

△⁷
父辛

方濬益釋子曰：子之左右兩腋下各有二點，不審何意？疑是乳之象。形論語周有八士，包咸注：周時四乳生八子，皆為顯士。正義曰：同時有人四乳生子，而乳之每乳皆二子。按人體實有四乳者，而史王敘則年長而兩腋下生乳，各長數寸，是四乳矣。唐書本紀高祖體有三乳（經遺卷三，二頁子父年鼎）。

88(2010)

李孝定曰字夢大字左右腋下各有二點不審何字方濬益釋
子仍沿前人釋大為子之誤以四乳說之於字形亦不類卜辭
亦有此字如佚七四三曰允齊疾京二。六九御子齊曰八月
亦為人名。

88(2010)



以庚獻

白庚實



而文

馬叙倫曰：倫按舊釋子持壺形，尋說文壺字作壺，實由壺司
 着壺重而訛，古金器有耳也，見銅器即壺也，而說文壺部乃有
 壺壺二字，壺下曰：吉聲，而壺下曰：從凶，壺為器名，安得從凶，凶
 曉紐，壺音匣紐，同為舌根摩擦音，得釋注，則是從凶得聲為壺
 之轉注字也，然壺字自說文引易天地壺壺外，不見於他經傳，
 而古今亦無呼壺為凶者之證，聲字壺字作壺，子錯壺則作壺，
 或由此而訛，今觀此文，若舊釋不訛，亦壺字之所從來與，此蓋
 作壺者之圖語，然以金文壺字及古壺觀之，壺可持不可提，
 此形則垂手而提，又可疑也，曾或為極之象形文與？（刻詞
 九三頁壺部）

李孝定曰：字象人有所提挈之形，馬氏之解，第就所提挈者為
 言，亦無確証，考古器之圖多有提梁，其形製亦與壺相近，壺亦
 有之提梁者，惟較少見，且壺均有兩耳，實以繩即為提梁，故此
 文所提者，謂之壺，固均可，惟金文不審，究當於今之何字耳。



公發專

李孝定曰：不審何字。
 周法高曰：象人手持耳形，職151或取字(耳)之古文也，在此當用
 為人名，言此人為父癸作壺也。



而文

高田忠周曰：按此亦上文之例，其手所持物，蓋冊也，冊古桂
 字，說文桂冊又，可以刺麥，河內用之，從來圭聲，其作冊者象形
 也，然則此冊即冊下作冊者，米麥穀實，此供新穀之意耶？（合續
 篇四十第二五頁）

李孝定曰：字象一人持帚有所棄除之形，廢掃之古文卜辭作
 若，若，象一手持帚，一手持箕，或兩手各執一帚，古文偏旁
 事類相近之字，每得通作此，从大而其右手並指，象有所
 凡持省之則作，又矣，辭之佳掃，似作動辭，用非氏族名，其器為

聲不知辭意何指也。高田氏似謂此為鞋之古文於字之形音均無微似有可商。

93(2013)

高田忠周曰按古文子人兩字通用此从旂从子猶从族从人同意亦族異文也此篆當依文義得讀旅人名(古編篇二十七第二二頁)

李孝定曰字从族从大於此為族名方氏但解字義高田氏謂古文子人兩字通用其說未確惟人大通用者多見高田氏謂即放之異文又謂依文義得讀旅按放字不知何字族字甲金文多从族从人倘謂此字與族同意則可若謂竟得讀旅則仍有可商也卜辭亦有族字粹二五八口午卜口光甲多口族辭意不明又粹一四九云癸巳卜王其令五族戌申此辭族字與族同義郭沫若粹編考釋選擇為族亦未安

95(2014)

吳大澂釋子立旂形見憲齋十八冊五頁子立旂且乙貞

96(2014)



且乙貞
<250>
△且乙

方濬益曰此文象人手執旂之形說文旂旗有衆鈴以令衆也左隱公十一年傳公會齊侯鄭伯伐許庚辰傅于許穎考叔取鄭伯之旗登陴以先登子都自下射之顛瑕叔盈又以登陴登同慶而呼曰君登矣鄭師畢登此文正象執旗慶衆之形又昭公十年齊樂高之難公卜使王黑以靈姑鉞率吉杜注靈姑鉞公旗名此皆諸侯自用之旗有名稱者蓋以師之進退在旗勝敗所繫故錫嘉名以重之若其形於器亦所以紀武功也(續遺卷三十一頁執旂祖乙貞)

94(2014)



張
<2153>
△

李孝定曰字象人兩手揮舞與金文走字所从之省相近惟差著其手指不審何字也

97(2015)



張
<0011>
△

馬叙倫曰倫謂射從人執弓即說文之張字張乃張之譌說文巨之或體作張從矢而毛公鼎彖伯戎敦簋字皆從夫周禮樂師注故書射矢為射夫此夫矢交王之證也張為引之初文張音審紐引音喻四同為次清摩擦音也亦射之異文射古讀如亦穀梁桓九年世子射姑來朝釋文廉射作亦文六年夜姑左夜作射史之僕射即僕振夜亦從亦得聲也亦音亦喻四喻四與非同為次清摩擦音發音非紐即射之轉注字蓋此以音射名而以此為族徽者也作此器者則此族之以造戈為業者與

98(2016)

且戊自之尙與此同(刻詞五〇頁(四)尊)

田倩君曰請看下面右手握弓的夷如圖

西清古鑑卷十三著錄人執弓形彝

此夷到了甲骨文裏則簡化了如圖

休新寫一五〇



李孝定先生說

東夷之人俗尚武勇行必以弓自隨故製字象之

甲骨文

甲編三六一亦有此字於世續三一形狀稍異如於甲文中

所有从弓的字其弓形均與此同只是此夷較殷金文人執

弓形的夷字簡化而已因為契刻困難為求應用上的便利所

以甲骨文多是簡化了這是自然的趨勢(彙釋三三頁釋夷)

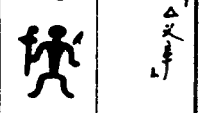
99(2016)

李孝定曰字象人執弓不可識可隸定作張為凡讀字者之張為張之譌說有可商卜辭固有張字作小不能謂張乃張之譌也余初釋甲文之休為夷此文从休與大雖近而究不同未審是一字否

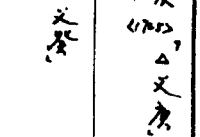
100(2016)



伐 文部 1000, 文部 1000, 文部 1000



伐 文部 1000, 文部 1000, 文部 1000



伐 文部 1000, 文部 1000, 文部 1000

高田忠周曰按先哲叢書子字云子執戈形然今依卜辭此亦伐字無疑蓋唯一字者實記在伐之事周書文多云从王伐其國是也字亦作執二戈或作執干與戈又或作執一刀執二刀刀戈同意亦伐字也(古書集解三十二卷三三頁)

吳大澂釋子見卷三十二卷三三頁父於解

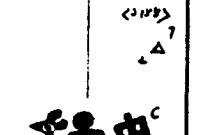
李孝定曰字象一人執戈形疑觀之古文从大从刃得通卜辭亦有此字為人名C形象人執刀其意雖同謂竟是一字則有



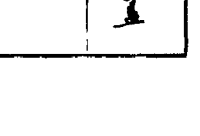
伐 文部 1000, 文部 1000, 文部 1000



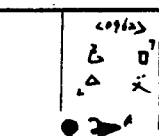
伐 文部 1000, 文部 1000, 文部 1000



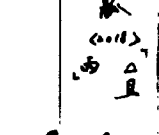
伐 文部 1000, 文部 1000, 文部 1000



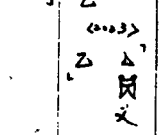
伐 文部 1000, 文部 1000, 文部 1000



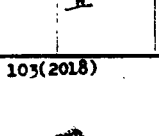
伐 文部 1000, 文部 1000, 文部 1000



伐 文部 1000, 文部 1000, 文部 1000



伐 文部 1000, 文部 1000, 文部 1000



伐 文部 1000, 文部 1000, 文部 1000

上方潘益釋子執干或曰禮記明堂位朱于玉戚冕而舞大武注朱干赤大盾也或斧也孔疏朱于玉戚者干盾也或斧也亦盾而玉飾斧也又左昭公十二年傳工尹路請曰君王命刺圭以為鉞秘注松柄也破圭玉以飾斧柄(綴遺卷二十三二頁執干或父乙解)馬叙倫曰倫按舊釋子執戈形倫謂從大右執戈而左執盾即盾之初文也父年爵之坎與此同倫疑說文之戰即此之譌變彼訓為盾方言盾自關而東或謂之敵或謂之干干為戰之借字戰音匣紐敵音奉紐同為次濁摩擦音盾音牀紐古讀歸定古讀奉歸並定則同為濁破裂音蓋盾由敵而轉為戰然盾之為文可以象形今之盾字從瓦持目日非耳目字即盾之

干戈父乙解

初文也蓋由值之初文與目形近故增凡以別之亦或值字本是圖語則此亦非值之轉注字若為值之轉注字而造於值字之後增戈蓋於值之本義無涉且值是自敵之器戈為擊人之具何以訓值之戰轉從戈與若造於值字之前則其為圖語更明山海經羿與擊齒戰於壽華之野羿持弓矢擊齒持盾戰戈戰古實一器此蓋持盾戰為戰士之圖語劉詞三六頁父乙解李孝定曰字象一人左執干而右執戈或指友亦是一意方氏說其意是也余初釋敵今睹馬氏之說釋戰較余說於字形尤切馬氏說戰戰相轉之理亦可以見形於人上多繪一夫鐵未審是一字否也卜辭亦有此字乙五七九八云癸酉卜設貞雀于翌甲戌初乙八一四四云癸酉卜設貞雀唯今日加辭例相同如釋為敵敵讀為伐於辭義又較協戰敵其始當是一字也

105(2018)

也
李孝定曰按說文敵盾也从盾友聲詩秦風豳伐有苑毛曰伐中干也是以伐為敵也方言盾自關而東謂之敵或謂之干關西謂之盾是字又作敵玉篇敵又作敵通作伐要之卜辭當以敵為正字敵為復起形聲字伐則段借字也契文象一人左持干而右執戈篆文省去人形耳釋為敵應可以(集釋一二〇五頁)

106(2018)



舛
𠂔
𠂔

方濬益曰此文作二人一手持斧一為倒文與今時戲劇相似男孝得曰文還西京賦建戲車樹修旃倣倣程材上下翻翻突倒投而跟跄臂墮而復聯此正作倒投形是此戲三代時已有之不自漢始矣余按賦所言乃車上顛倒懸絙之戲後世所謂獼猴幢之流與此稍未合此則晉咸康中散騎侍郎顧臻所稱末代之樂設禮外之觀逆行連倒足以臨天頭以履地反天地之正傷彝倫之大者是也又謂之擲倒唐太子弘因宴集命宮臣擲倒次至左奉裕率王及善及善曰擲倒自有伶

107(2019)

官臣若奉令恐非所以羽翼殿下也呂監衍禮玉言歸言漢有魚龍百戲齊梁以來謂之散樂有舞盤伎舞輪伎長踰伎跳鈴伎擲倒伎今教坊百戲大半有之唯擲倒不知何法疑即今之翻金斗伎人以頭委地而翻斗跳過也(經遺卷十六十一頁持斧擲倒)

參閱115成字條吳其昌說

李孝定曰字象一人一手執斧鉞另手倒戈一人與戰時傳敵或持戈就刑之狀方氏父子以復世擲倒雜戲之意說之恐於古文之意未合當隸定作敵

108(2019)



曲 九 曲
(1002) △

方濬益曰：陳壽卿編修釋為提貞形，按上為矢形，自是紀武功之器，與提貞義不合。又器圖有柄形，頗似雅以朱亥為信陵君權救晉鄙事觀之，是古兵有雅之證。張良之狙擊秦皇帝亦此器也。（綴遺卷十九，二十五頁，雙大提雅爵）

李孝定曰：象人有所提挈形，與 文同意，未審何字。

109(2020)



大 九 大
(1025) △

李孝定曰：字象一人荷戈形，當為何之異構。卜辭有此字，通作 𠂔。象人荷可荷之初字形，可亦聲，亦作 𠂔。乙九。𠂔。甲二七。象人負戈形，戈亦聲，以象據於戈。伐象戈及加入頭，以戈之何則，象戈加入人肩，故衍及篆隸，从可之何獨行，而以戈之何遂廢。金文从戈之何多見，作 𠂔。戊蓋。𠂔。父癸。𠂔。父乙。與此當是同字。古文偏旁从大从人从企均得通也。與下出 𠂔。𠂔。保一。𠂔。

110(2021)



子 乙 子
(1012) △

高田忠周曰：按古孫字有二形，一即象形，與子字稍同，而子孫連文者一，一省以相分別，唯有子孫而孫省者，又有子省而孫錄者，或有子大而孫小者，又有子小而孫大者，其例無一定，然其兩字異形，所以相分別，臨文其義可知也。又一即會意，从子从系，凡上文及此義是也。此子即系古文，亦即孫象形，亦當為子字，即知如此，篆會意字之古者，從變作孫字形，齊整耳。又按古器多見曰子曰孫，又曰子孫，又曰析子孫，曰八子孫，而下往，曰父某是則略文之體也。其正者則云某孫，吉金作顯者，某孫子，孫，永寶用，高但周器多如下側，饒器多如上側，亦古今之分別也。（古金篇七十第六至七頁）

111(2022)

李孝定曰：高田氏釋此為 孫，未審古文偏旁中凡事類相近者，雖可通作，然子大未見相通者，說宜存疑。

112(2022)

𠂔
𠂔
𠂔

方濬益釋子提器形曰按詳氏款識執干父癸貞文作𠂔釋為子執干引博古錄云上為人形兩手各持干按周官司子掌舞器祭祀舞者既陳則授武器既舞則授之賓饗亦如之然則祭于廟用于賓設于饗禮莫不皆有干舞焉（綴遺卷十九十七頁子提器爵）

李孝定曰字不可識方氏亦但說字形未明音義

113(2023)



父乙𠂔
𠂔
𠂔

楊樹達曰羅振玉無釋按字左旁作子形右从弱省亦加聲旁𠂔以表字音也又集古遺文拾卷十三載與父癸爵銘文云與父癸首字羅振玉亦無釋劉體智小校經閣金文陸卷五十六亦載此器釋作孫今按此亦子字與父癸為對文字形與上記父乙𠂔同但此字增二足趾形又以𠂔字分列於象形文左右為異耳劉體智釋為孫非也（稽徵二〇六頁子父辛盃跋）

李孝定曰疑與𠂔為同文楊氏釋此為子謂从大𠂔聲其說待商文字衍變固有初為象形指事會意假借其後變為形聲之例此種現象余名之曰文字之聲化惟並非每字如此若子字自古迄今均作𠂔早諸形金文中𠂔雖疑子之異構然

114(2024)

亦象意不作形聲也

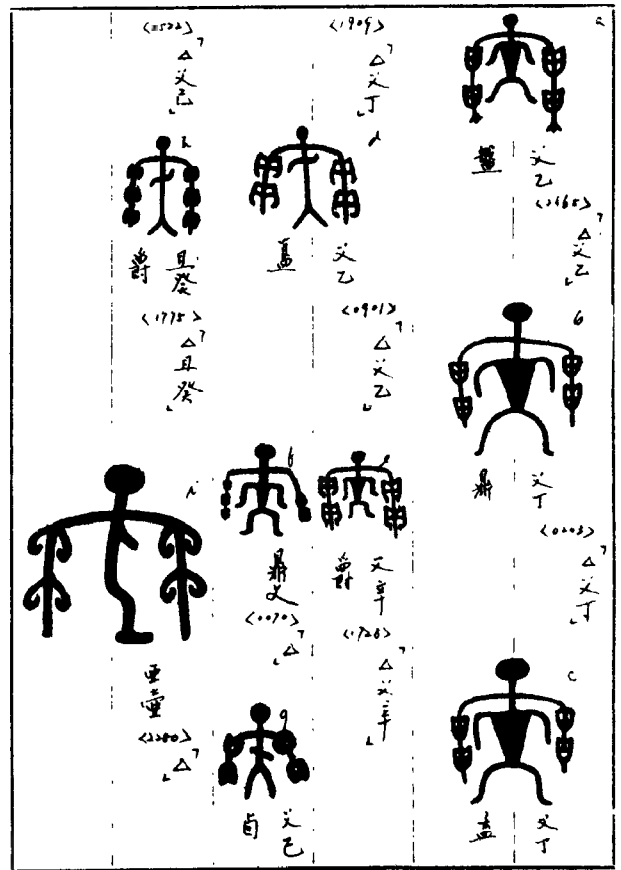


𠂔
𠂔
𠂔

李孝定曰字从𠂔从甘古文从𠂔之字每於口中着一點此例頗多然則从甘猶从𠂔也字疑與之異構姑存之以備一說

116(2025)

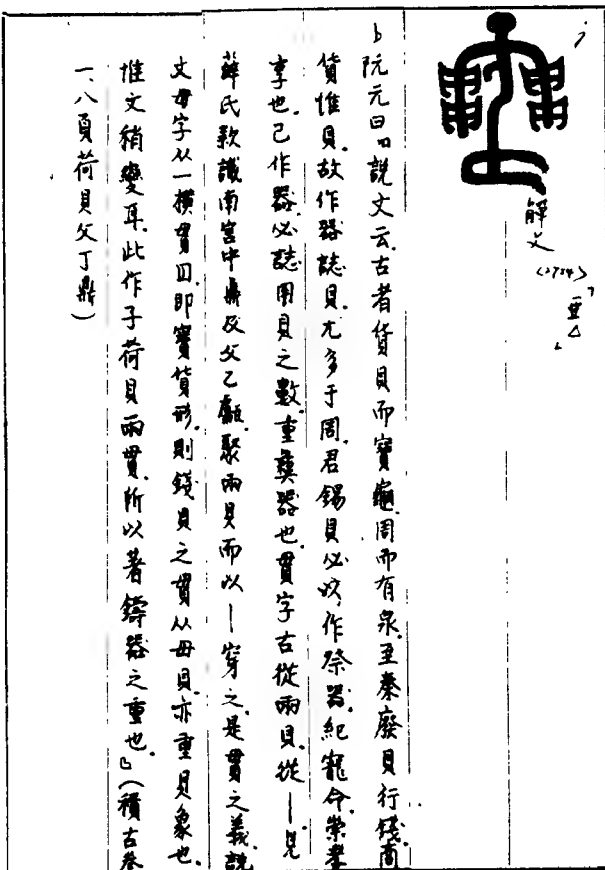
115(2024)



117(2026)

徐同柏曰：「子」字他連貝飾頸形蓋古嬰兒之象（从古卷二三百商子丁鼎）
 方濬益曰：「彝器銘凡作人象形者舊皆釋為子今按此實古文大字也上从一則為天說文天顛也至高無上从一大與立之从大立一之上正相對蓋人之上即天其下即地皆以一為指事側其形則為少與，同意皆象臂脰之形大則人之正面形也荷貝形亦銘習見說詳續古肅款識荷貝父丁鼎銘釋（綴遺卷五十二頁荷貝鼎）
 馬叙倫曰：「倫按實即說文之大字大人則正側之異形非子字也」之付即說文之珏而珏田實一字班從珏得聲而聲入元類母聲亦元類可證也患從串得聲串母一字串從兩貝母省其一古代居山者以王為貨故珏從王居河者以貝為慎故串

119(2026)



118(2026)

從貝此作「」從貝甲文有「」即朋字金文如叔父段作「」格伯獸段作「」皆從玉其實一也然可以知作者所居之地耳此與「」同形一字說文則謫為朋其訓為輔蓋以為朋友之朋本字也尋友為交易之易本字詳疏「朋之初文當如朋父乙彝作「」從走之初文作「」者擔貝而走明以貨易物也貨物相易社交之所由生故借為五倫中朋友之稱其實字不從鳳之初文作「」編者也正以「」形近而謫耳易十朋之龜即漢書食貨志注所謂兩貝為朋詩青「者莪箋所謂五貝為朋之朋朋皆當作珏聲轉耳說文珏讀與服同王國維據齊侯壺壁二備即二珏謂珏當與珏同讀是也蓋珏實從車珏聲也詳疏鼎文作此者制器者為事交易者也（刻詞六頁至七頁朋鼎）

120(2026)



解文
 重△

阮元曰說文云古者貨貝而寶龜周而有泉至秦廢貝行錢商貨惟貝故作器誌貝尤多于周君錫貝必以作祭器紀寵命崇聖享也己作器必誌用貝之數重寶器也實字古從兩貝從一見薛氏款識南宮中鼎及父乙觚聚兩貝而以一穿之是實之義說文母字从一橫貫田即實貨形則錢貝之實从母貝亦重貝象也惟文稍變耳此作子荷貝兩實所以著錢器之重也（續古卷一八頁荷貝父丁鼎）

郭沫若曰：殷彝文中，有以珏朋為頸飾之图形文字。按此即象人着頸飾之形，蓋為珏之初字。朋乃古國名，周金有朋伯虎款，佩仲款，當即其後，前人不悟，佩為頸飾之志，迺臆造子荷貝二貫或孫荷貝一朋之奇說。惟貝朋在為頸飾時，其未多得自實物交換，則雖有貨幣之形，而無貨幣之實，其實際用為貨幣，即用為物與物之媒介者，余以為亦當在殷周之際。此事由古器物中錫貝之朋數殊，可得其端倪。卜辭：錫貝之事僅一見，曰：庚戌口貞，易錫多女出貝朋。此於朋上無數，當即一朋。拜即一珏。又由事之罕見與數之微末，且所錫者為女子，則朋必係頸飾無疑。卜辭乃市乙以前之物，則貝朋之化為貨幣，當在市乙以後，彝器中錫貝之事多見，其著朋數者，入周且後多在十朋以上，如效貞之廿朋，五十朋，臣庚鼎之廿朋，臣鼎

121 (2026)

刺鼎之廿朋，如此多數於殷彝中絕未有見，其器之較古者有伐嗣鼎，賣伐嗣貝二朋。數文存上中鼎，庚錫中貝三朋。全上陽亥彝貝三朋。周金文存三宰，魯鼎王光，鼎中貝五朋。兩上卷宰，挽角錫貝五朋。數文存下女，雙饒商，雙貝一朋。據古錄二之，小子夫尊，南，小子夫貝一朋。西清錄：雙甲，房鼎，房南房貝三朋。據古錄二，多，子南，子貝十朋。全上邑，王錫小臣邑貝十朋。陶齋三卷，上列諸器，由文例與以日為名之習推之，當為飾末之器。至遲亦當在周初，而錫朋之數多不通十，博古圖有朋，已四方彝，卷八十，銘有在九月，佳王十祀，廿日，五佳口口語，以卜辭例之，當為飾彝，亦云。商貝十朋，實貝者，率為當時王侯而所賞者，僅此數目，此其視為貨幣，無寧視以為頸飾之較近情理。至若著者載之錫我百朋，穆天子傳之載玉萬段，則大

122 (2026)

有遲疑矣。準此故余謂貝朋之由頸飾化為貨幣，當在殷周之際。甲研釋朋第一至四頁（參釋朋一）李考定曰：玉二系相合為珏，則貝二系相合當為朋。作朋者，假借字也。朋字許書以為鳳之古文，段為朋黨字，其義與貝玉無涉。許書六下貝部，顯頸飾也。从二貝，為莖。此當為其引申義，其本義當謂二貝相合為一朋也。貝二系相合，繞之於頸，則為頸飾矣。又十二下女部，嬰繞也。各本作頸飾也。段氏據文選李注，從女顯，顯貝，各本作其，均會連也。頸飾二字各本，按此象女子繫頸為頸飾之形，訓繞其引申義也。此下說解當如各本作嬰頸飾也。从女顯，顯貝連也。一曰繞也。增一曰繞也。四金文有所謂子荷貝形之文，作諸形，前已引，前人不識此，實即許書之嬰象人着頸飾之形。古文从大从女，每無別也，所以之，即顯

123 (2026)

字亦即珏。前五字，此與許書之顯當出一源，甚或即為同字。許書八上大部，備輔也。从人，朋聲。讀若陪位。金文作，王季子，子荷貝形，諸文與此諸個字並象人頸飾貝者，玉二系之形，其始當為同字。許書訓輔，當亦為珏之義。所引申，更經典朋貝字，均作朋者，徐鍇說文，假法，嬰顯下云：貝，顯鼎文作，貝小篆變為貝，重之為顯，貝之古文亦作，重之為，顯變作朋，連，然為二字音義本殊，不知其異源同流也。人部，備輔也。讀若陪位，漢書王尊傳，尊益備朱尊，蘇林曰：備音朋，晉灼曰：音陪，蓋朋由貝變，故備有倍音，朋之聲轉為陪，其清聲如朋，故左氏傳九年，齊隰眉史記齊世襄徐廣注，朋或作朋，又易復卦，朋來，漢

124 (2026)

五行志下引京房易傳作朋來因之又聲轉為嬰也凡从嬰之字有相比對義如嬰為相應答之聲嬰為一信兩聲是也徐氏說嬰朋二字形音混淆變易之迹殊為審諦王氏謂古珽字當與班同讀其音如服獨讀與服同者當亦嬰之古音王謂珽朋古為一字實當讀珽嬰古為一字朋貝之朋則嬰之段借字也段借字專行而嬰連為頭飾之專字矣(余釋一四八至一五〇頁)

李孝定曰字舊釋子荷貝形徐同指謂蓋古嬰兒之象已進一境郭氏釋朋且言朋貝由頭飾變為貨貝其說甚是惟未及朋嬰二字之關係是猶未達一間焉氏亦釋朋亦是惟謂珽母實一字(補)象擔貝而走明以貨易物貨物相易社交之所由生

125(2026)

故借為五倫中朋友之稱則非考字象人頭者嬰其初殆為頭飾之專字當此之時朋貝原無確數田野考古報告第一期有郭寶鈞之濬縣新村古錢墓之清理一文內附圖版有朋貝圖一幀凡廿六枚分為二系系各十三枚出土時排列整齊是朋貝無疑其數與傳注者說不符蓋朋貝原為頭飾長短各隨所宜定數之說當自成為貨幣之日始也朋貝之字本當作朋徐韻按注箋說頭朋二字形音遞嬗之迹極是朋貝之字經典通作朋沿論已久朋字遂專頭飾一義此从顯从大至小篆衍為嬰字猶存頭飾之訓古文从大从女得通也其字有不从大而从人者或亦从金至小篆則行為朋字訓輔亦頭飾之義所引申金文多以為朋友字乃假借義許氏以鳳之古文為朋友字乃緣鳳(𠂔)上為鳳之古文形近而為此為蓋朋友本無正字下為金文朋字

126(2026)

借鳳借朋均無不可也重貝為朋易之以玉則為珽珽之古讀據王國維說珽朋一文及馬氏所考可讀班讀服讀備與朋皆一音之轉也其字象貝二系一系則為珽即後世之串字變為形聲則為實貝貝母聲馬氏謂串母一字串以兩貝母省其共說非是母甲文作串乃倉之象形與干單為一字實字當解為从貝从母母亦聲蓋母引申得有穿義也要之嬰珽朋系出同源其後乃各行為專字珽則玉二系之專字與顯有密切之關係余於拙編甲骨文字集釋卷一四五頁珽下卷四一三六九頁朋下卷八二六二七頁朋下分別有說請參看此所列从大从人(或从二形當分收作)嬰朋二字不當入附錄

127(2026)

𠂔

文彙 𠂔 𠂔 𠂔

柯昌濟曰𠂔字从人形从絲取人以絲帛裹衣束之韻釋華三〇九頁要父癸爵

楊樹達釋子考閱 2024 條

李孝定曰字不可識楊樹達氏釋子見前 2024 條非是字當隸定作𠂔當是从絲絲聲惟不審是何字耳

128(2027)



父 父

《說文》
父 父

方清並釋子執干形曰即干舞也周禮樂師掌國學之政以教國子小舞凡舞有帔舞有羽舞有皇舞有旄舞有干舞有人舞鄭司農云干舞者兵舞兵事以干康成則以為山川以干疏云干舞即兵舞舞師云教兵舞帥而舞山川之祭祀是也(經道卷六十貢子執干父焚敵)

李孝定曰象入左右手各執一戈形與𠂔之从大手執一戈者𠂔是一字或當釋𠂔方氏以干舞說之未嘗所執者戈非干

也然要亦武舞之象方氏說其義是也說文訓擊擊乃樂訓並後起之說也字在此為族名

130(2028)

129(2028)



人 人

李孝定曰字不可識



人 人

李孝定曰字上象側止形即篆文之久下象無頭之人金文圖形文字之作人者均當釋大似未見有作天解者此上無頭不露髮者顯形之大義為一說下所出一刑人之象蓋文字所从人形均無頭可証字不可識

132(2030)

131(2029)



柯昌濟曰字从平在子形上疑即古竟字說文竟樂由盡為竟从音从人案惠謂竟字古義似从象形或不若小篆之說也詳華二九至三〇夏亮鼎

參閱184平字條吳其昌說

參閱第205條于省吾說

李孝定曰字从平从大从人古得通與下出諸形之从平从人者是一字當併收作竟柯于之說是也小篆為人頭之

。為日遂以為為从音乃訓為樂由竟耳甲骨文竟字从此其下亦或从大或从人不拘就在卜辭為人右與此同或亦同一氏族也



馬叙倫曰倫按舊釋為孫非也倫疑為造或實實數者之圖語漢書東方朔傳盆下為實數顏師古曰實數戴器也以盆盛物戴於頭者則以實數為之今實白團餅人所用者是也疑此上象編州為實數形也(劉詞十五頁吳其昌)

李孝定曰字象人頭上着必形紋為氏謂疑為造或實實數者之圖語說有可商實數為戴器當作圓環形甲文吳字作也人首戴器之形當下一劃即實數亦即說文所謂之盆說文云攢盤實戴蓋混言之攢側視之故作一也實數不當作必為貝蓋蓋為戴器即實數也形當為集之或體其金文有作多者者稱編則為多矣



李孝定曰字象人首戴器之形當為實之古文金文實字作為上作人即象形之形製不同故所象有別其下从大為原始圖畫文字之特徵上出三文則為文字化程度加深後之形體至此文實形與人體之比例似覺不稱則古文字誇張某一部分之通例如牙身之類皆是也



父丰𠂔

李孝定曰字象人首上出了角之形不審當於今之何字

周法高曰如李說象人總角之形則𠂔字也詩齊風甫田總角
卅分傳總角象兩髦也𠂔幼穉也朱駿聲曰按剪髮為髻
似之說文通訓定聲第十四
部頁六十七加字下

137(2034)



𠂔

張日昇曰按 2035a 上半字即 2313x 同文重錄

李孝定曰不審何字

136(2035)



父乙𠂔

李孝定曰此字上半从父从乙𠂔即許書訓優父也之𠂔字當
从大𠂔聲許書邑部有都字或即𠂔之邑也

139(2036)



父丁𠂔



父登𠂔

父乙𠂔



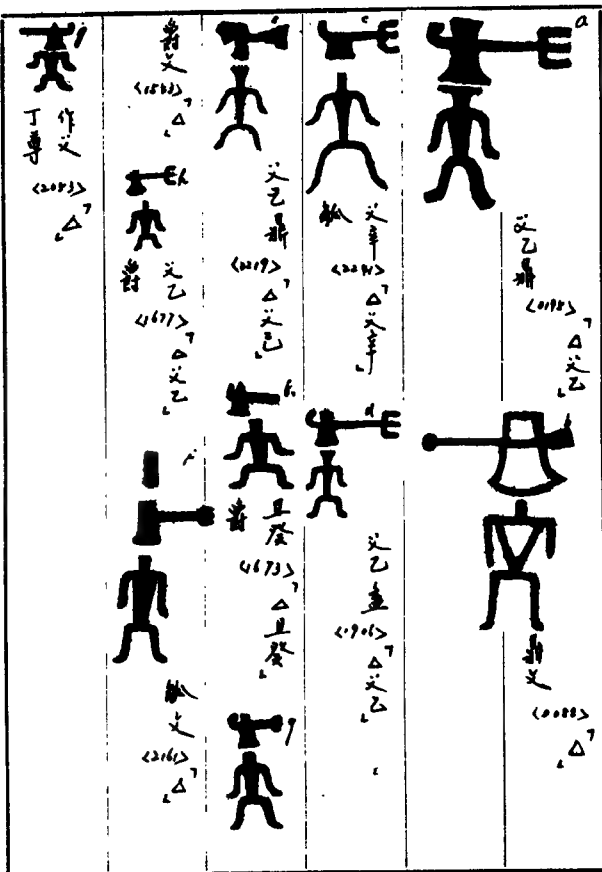
父乙𠂔

徐同柏曰𠂔象雲田轉形古文雲作云亦作𠂔此𠂔即𠂔之
變易鼎上九千氏說聲番上通此其象也(从古卷七五頁商
子父丁鼎)

子父丁鼎

方濬益釋月形是迹形四首一字似月形次為行之分文說史部
首行人之步趨也从彳从子分之則中為行道故以足迹象形見
義(綴遺卷三二頁子父丁鼎)

140(2037)



145(2099)

九徐同相釋讀鐵形子四。鐵鐵屬種王制諸侯賜鐵又字李
 忙成賊也司馬遷曰殷觀白賊。以古卷六十八頁商橫鐵父乙
 (新)

方濬益曰上為橫成形書額命一人見執鐵鄭注鐵大斧也或
 下人作死者形與噓堂所錄鼎者皆克敵記功之器易曰王用
 出征有嘉折者是其義也(綴遺卷五十五頁橫成父乙鼎)

參閱146成字條與其昌說

馬叙倫曰倫按舊釋橫戈形子然金文戈字皆作未識之寶器
 亦然此作十乃類於舊釋子荷戈葬之形。見增古錄明是說文

146(2099)

之戔字而非戈字也戔為斧鉞之斧本字戔刃大可以斬首此
 實即人而無首者金文大字引作人無首者而此在戔下
 以刃置大上而無其首明已斬其首也。舊作此文必非注以殺
 人書於器疑作器者如清代所謂節子手乃司殺者也(劉詞二
 三頁殺人節)

高鴻緝曰(戔)按字原倚戔(戔)蓋其斬人頭之
 形實人頭上象髮髮髮子久轉而頭已斷由文(戔)生意故託以
 寄斬殺之斬動詞周文無觀秦以來變為从斷首會意作斷讀
 自此切而文人用字常通以斬字代之久而成習而斷字廢其
 實斬之本意應是戔本為車會意而說文斬截也从車从介斬
 法車裂也(劉)滅林義光曰車裂不謂之斬斬伐木也改工記輪

147(2099)

人斬三材从介从車謂斬本為車說解明明就其通段斷字之
 意言之而又附會其所以从車之故速不覺其車裂之不切合
 斬也又先期謂斷斷文常有單字作(戔)或(戔)者應亦
 古斷字或與甲文同時或在甲文之前也(字例二篇三一三頁)

吳大澂曰(戔)斧戔戔人首形(憲齋二十二冊十四頁斧戔人首
 形祖癸爵)

李孝定曰此字从戔从大無首乃一刑人之象意文字諸家前
 字意皆是惟徐說較疏然究當於今之何字則惟高氏有較近
 似之解釋高氏舉與文(戔)二字為言謂同為斷首字說字
 意甚是然著於字形無微密疑或為戔之最古圖畫文字說文
 訓職為單戰斷耳古文作戔單戰因當有斷首之事與文作(戔)
 與目以代首正許書之戔此字从戔與从戔得通从大無首與

148(2099)

識字戈上縣首同意至契文
然已其識行爲二字矣余爲此說就字形言雖較高說爲較近
似然亦苦無確徵存之以備一說可也

149(2039)

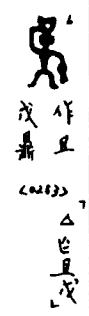
李孝定曰此所列二文恐未必是一字
一文略近卜形疑是犬字



151(2041)



△之△

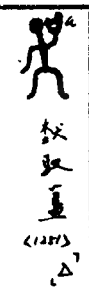


李孝定曰此象首負戴而手提之形(善因第九頁)作祖

戊鼎

李孝定曰象首戴物而手提之形容說字意是也惟字不可

150(2040)



李孝定曰字不可識

周法高曰書錄作矣

152(2042)



阮元

阮元曰。宋子執弓。傳古圖釋作孫執弓。此從薛氏及復齋釋。執弓者。孫武功也。作象形。兇者。謂小雅吉日云。殛此大兇。晉語云。唐叔射兇於徒林。執弓射兇。取服猛之義也。(續古卷一、六頁兇父於鼎)人



阮元曰。子執弓。取守文僂武之義。(續古卷一、十九頁子執弓)人

吳式芬釋子執弓。見續古二之一第二十三頁。父癸宗彝。

李孝定曰。此與以髮像同字。阮氏謂子執弛弓。取守文僂武之義。古人制字。於偏旁不甚經意。弓之張弛。每可任作。未必有此

深意也。

154 (2043)

155 (2043)



阮元

李孝定曰。此與甲骨文寇字作人者。構字之意略同。未審是同字否。

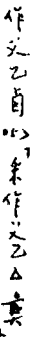


阮元

方濬益釋子孫曰。此文習見續古齋款識冊冊父乙鼎銘。阮文達公釋為子孫。謂子生孫立。授物狀也。續古按古禮燕高賓。主酬酢有坐奠之儀。此一坐一立。或象其事。然未能遽定。姑從舊釋。(綴遺卷十九、十六頁子孫)李孝定曰。此字象一人正立。一人側立。以手扶之。與甲骨文孫字構字之意略同。疑即扶字。古文偏旁从儿。从手。例得相通也。方氏謂此為坐形。實誤。

156 (2045)

155 (2044)



李孝定曰：高氏謂字象人乘舟之形，甚是。然謂即乘舟之乘之專字，則有可商。契文有，即乘字。未聞乘舟乘車乘馬別有專字也。銘云：「乘作父乙彝。」作，作。旅彝辭倒略同。其義不詳。說文：「𦨇，古文作。」从大，从人，得通。象人𦨇舟之形，疑即𦨇之古文。契文有，並疑一字。



柯昌濟曰字从子戴口中張齒形卜間有四字其文又云齊而
齊四與此字上形正相同(韓華三。頁女招鼎)

李孝定曰：此從齒從大，柯氏之說近之。古人制字於人之官能，即以其器官表之。目主於視，故於人上着目作「𠂔」，即見字。望必舉首，舉首則目豎，故望字作「𠂔」。耳主於聽，故於人上着大耳作「𦔻」。即聖之古文又作「𦔻」，作「𦔻」，即聞之古文。準此論之，齒主於齧，疑此即齧。若噉、嚼等字之古文，惟未能遽定耳。郭本

158(2047)



徐同柏曰：子字作總角形，嬰兒之象。詩：喬風傳總角聚髮也。廊風傳髮者髮至眉，禮內則注夾曰：角此文兩角中一正，佗箇一佗，箇即髮至眉之象。古文髮或从頁，看父曰（从古卷十一十頁高父己卣）。

李孝定四字象人首戴面具之形與契丈內字意同代面之戲或起於殷周之際乎

周法高曰如李說象人首戴面具之形則類字也亦作魅荀子非相仲尼之狀面如蒙倛注倛方相也四目為方相兩目為倛

160 (2048)



徐同柏曰：子字作總角形，嬰兒之象。詩：喬風傳總角聚髮也。廊風傳髮者髮至眉，禮內則注夾曰：角此文兩角中一正，佗曰一佗，佗即髮至眉之象。古文髮或从頁，看父曰（从）古卷十、十頁高父己酉）

李孝定四字象人首戴面具之形與契文𠂔字意同代面之戲或起於殷周之際乎

周法高曰如李說象人首戴面具之形則類字也亦作魅荀子非相仲尼之狀面如蒙倛注倛方相也四目為方相兩目為倛

159(2048)



𠂔 𠂔 𠂔 𠂔

李孝定曰字不可識亦莫詳其意

周法高曰此與 𠂔 意同象人總角之形

161(2049)



𠂔 𠂔 𠂔 𠂔

李孝定曰字不可識

162(2050)



𠂔 𠂔 𠂔 𠂔

李孝定曰字上所从與契文上 甲作 𠂔 者同其下即戰若戲字未詳其義

163(2051)



𠂔 𠂔 𠂔 𠂔

李孝定曰字象人頰上須髯之形契文亦有此字作 𠂔 據續惟此下並着四點為異金文須字作 𠂔 此疑亦須字郭沫若釋此為兄謂乃冠之初文象形此種人口鼻向上古人以之為巫故祝字从之見安陽新出土的牛腓骨及其刻辭考古一九七二年第二期七頁

164(2052)



李孝定曰此上所未審是貝字否其下與為同字

李孝定曰此上所未審是貝字否其下與為同字

165(2053)



李孝定曰不識為何字

李孝定曰不識為何字

166(2054)



李孝定曰此下四形a形為即人字b形未詳c d均即金字

李孝定曰此下四形a形為即人字b形未詳c d均即金字

167(2055)



高田忠周曰按此父戊字蓋此為友文而古免字也與先古文作大相合即免冠之形(古篇三十四第一九頁)



于省吾曰父辛解有字且辛自作竟竟鼎作竟竟自作父



戊圖作竟竟不識金文編入於附錄按即古竟字說文竟樂曲盡為竟从音从儿許說未可據古文字於人物之頂上每加



口口等形即平字亦即辛字辛字梁文作辛鳥且辛自作辛

168(2056)

實父辛解作辛酉作辛考自作辛古文辛辛無別在人則為
 頭飾在物則為冠角類之象形如僕字𦰩文作𦰩父辛盤作𦰩
 象執役之人上有頭飾下有尾飾妾字𦰩文作𦰩克鼎作𦰩伊
 毀作𦰩妾者女僕亦象有頭飾之形𦰩文鳳字作𦰩𦰩上象鳳
 冠形龍字𦰩文作𦰩龍母尊作𦰩昶仲無龍鬲作𦰩𦰩上象龍
 角形然則古文竟字上从口𦰩𦰩為辛辛一類之字初形本
 象頭飾殆無可疑古鈐竟字作𦰩是從辛辛之字其演變之迹
 悉相銜也競字𦰩文作𦰩競競𦰩作𦰩競自作𦰩堅尊作𦰩宗
 周鐘作𦰩均从二竟其或但有頭飾而省頭形者因合體而簡
 化也又美鼎美字作𦰩以𦰩尊競作𦰩例之當亦竟字古文从
 人从大从天一也路史始皇紀注引春秋元命苞顓帝戴干是
 謂崇仁又高辛紀注引作帝倍戴干是謂清明發節移度益象

招搖注云干楯也招搖為大戈楯相副戴之像見天中以為表干或作辛按作辛者是也金文竟字適象人頭上戴辛之形然則戴辛之制由來尚矣是易緯之說信而有徵竟字之本形象人之戴辛其異徵既為頭飾故引伸義為終為窮為極為邊竟詩瞻卽諧始竟背竇竟猶終也唐雅釋詁竟窮也莊子齊物論振於无竟釋文竟極也詩召旻箋國中至邊竟釋文竟本亦作境按从土作境乃後起字說文以樂曲盡釋竟本小篆為說形乖而義亦失其朔矣古雅二頁釋竟

李孝定曰此與^訓為一字當釋竟說見前

子
將
(67)
子
△

劉心源釋孫見奇觚卷七第八頁子孫爵

李孝定曰字不可識。

决

乙未莫觚
2613 亞利申文

李孝定曰不可識與甲骨文𠂔字略近。

171(2057)

新文
△

于省吾曰：光當即數字，今字作微。雙劍上五頁著釋一頁，光鼎

李孝定曰：甲文「𠂔」或釋長，或釋光，字象人長髮披拂之形，髮在人後，此上所从「习」似非髮形，且在「人」前，疑非一字，于說待考。

173(2059)

文成
△

李孝定曰：此與甲骨文「𠂔」(承)字所从之「𠂔」相同，未審何字。嚴一萍氏釋甲骨文之「𠂔」為烝，謂象殉人之祭，詳見中國文字第四十三期。此字象真人阱中，其意略同。

174(2060)

作丁尊
△

李孝定曰：金文「邦」字作「𠂔」，「𠂔」亦作「𠂔」，「𠂔」亦作「𠂔」，此疑邦之異構，惟「𠂔」二形相連為異耳。

175(2061)

子爵
△

方濬益釋抱壺形曰：此子下人所抱者，圓壺也。儀禮燕禮司空尊士旅食于門，西兩圓壺，大射禮亦云尊士旅食于西鑄之南，北面兩圓壺，皆醴壺也。此豈司宮尊壺之象形歟？(經遺卷十九，二十二頁子抱壺爵)

李孝定曰：此疑配之異構，配字說文訓酒色，以為从酉，己聲。己聲之說，大徐以為非，是清儒亦多疑之，或以己為古文「飛」字，說並未詳。金文配字作「𠂔」，均从「尸」从「酉」，乃會意非形聲。酉字象酒尊形，象人在尊旁，或祭時配享之義。此象人抱尊，其意亦同。下出²⁰⁶⁸一文與此同字。

176(2062)

𢦏
𢦏
𢦏

方濬益曰：字作持杖形者，說文父矩也。家長率教者，从又舉杖。此與舉杖殊異，然以五十杖於家之禮證之，自非老耄不得用杖。或為父之異文，未可定也。（綴遺卷十九，二十二頁）持杖形

李孝定曰：方氏疑此為父之異文，未可據。解云：子，乃人名。象人執杖，與父字同意，或即父之異文。

177(2063)

𢦏
𢦏
𢦏

李孝定曰：字不可識，疑與執字同意。

178(2064)

𢦏
𢦏
𢦏

高田忠周曰：按說文，𢦏，杖持也。从手，康聲。古又手通用。又，即杖持象形。此最古，據字無疑矣。（古籀篇五十四第一八頁）

李孝定曰：高田氏釋為據，未詳如。文亦象持杖形，率得解為據字，此象一人持杖而後有及之者，其右旁所从，疑即及字，亦與據之形意不合，宜存疑。

179(2065)

𢦏
𢦏
𢦏

李孝定曰：字不可識。

180(2066)

父口爵
△父口

馬叙倫曰：倫按舊釋為子非也。此從人持丫，蓋木之省，即甄字所從之楓實即甄之異文，蓋作器者以甄植為業也。其氏族與劉詞七一頁父口爵。

李孝定曰：馬氏釋甄戈二字近是。

185(2070)

父口
△父口

李孝定曰：字不可識。

186(2071)

父乙
△父乙

父乙
△父乙

徐同柏釋子荷戈形曰：白虎通禮說九錫車馬衣服樂則禮樂合樂朱戶網陛虎賁鉞鉞弓矢櫜鬃皆隨其德可行而賜戈鉞鉞之屬蓋其父曾受王賜而其子荷之也（从古卷十五頁高戊說）
劉心源曰：字作人荷戈形說文戊从人荷戈知此為戊字奇觚卷三二頁戊說

187(2072)

柯昌濟曰：人負戈形或即古代字（輯華一五七頁戊說）

屈萬里曰：續微居小學述林卷二釋尤篇說

說文五篇下「部云尤尤行貌从人出」按許君說殊無理致余於七年前嘗釋此字疑為批字之初文矣頃者余溫尋甲骨文字見此字作「」與許書形同又有作「」者象人荷擔以手上扶擔木之形始悟此字為僇字之象形初文也說文八篇上人部云僇何也何下云从人詹聲僇字今作擔尋尤聲詹聲古音相近从尤聲之字如耽純馳音讀今皆與僇同決知其為一字矣異者尤為象形僇為形聲耳因刪去前稿更為此文焉

按楊氏以巾為僇字意義雖和何字相同但尤字何以變成了

188(2072)

備字在字形上實沒法子找到合理的解釋而且中字確是象
 人荷戈的形狀並不是象人負荷擔木的形狀此點在上舉的
 甲骨文中有若干例子足以證明在金文裏這個字的形狀
 表現得更為清楚如 1 荷戈形戈 三代吉金文存卷一九七葉
觚同上卷一四二九 2 荷戈父癸 同上卷一
觚素共二器文同 3 荷戈父癸 同上卷一
同上卷六八葉 4 荷戈形戊彝 同上卷一
同上卷六八葉 5 荷戈父乙 同上卷一
同上卷二四八葉 等器中字的形狀是

按說文解釋允的从人出口之說即使不足信而允的字形

沒一個含有負荷之義的可知說文的卮字不是甲骨文的卮字況且儲字和卮字在字形上看是截然不同的絕沒有充變為儲的可能因此儘管卮和儲的意義相同儘管卮和儲的音讀相近而卮究竟不是充也不會是儲字的初文

那麼中字究竟是什麼字呢？我以為要解答此一問題，還只有照着郭于兩氏的老路——就是根據河字的偏旁去推尋。

河字字形的變化也很多最初解釋甲骨文文字的人也都不異說紛紜直到近二十多年來大家才公認它是河字解說河字字

形最詳確的當推于省吾的說法雙劍該般契駢枝三編七說
河字作𠂔𠂔𠂔形者孫詒讓釋為人乙舉例下羅振玉王

國維素王森均釋為妣乙一葉增考上九王釋見戰釋郭
 某釋汚通考五六作汙者王國維釋汙戰釋二王裏亦疑為汙字

189(2072)

190(2072)

存疑作汙者王襄釋汙類纂存作汙者葉玉森釋汙類纂存
 二四作汙者王襄釋汙類纂存作汙者郭某釋汙類纂存為高辛
 氏之子實沈通考一作汙者董作賓釋沈侯家莊大
 家竹書至為紛歧詳察之均係汙字一形之所變汙河古
 今字作汙者與沈字形似而非沈字侯家莊大龜四六一有
 辭云王其田于汙則于汙與復上十五四王其田于汙則于
 汙祭法語例並相同知汙即汙字也又說
 說文汙从可聲按可从可聲原注說文以可為契文汙字右
 从可即可字汙字一變而為汙从汙之乙失之
 從無作汙者早期金文旂作父戊鼎考字从汙作汙汙鼎考
 字从汙作汙汙伯釐考字从汙作汙是古文可與乃形近易
 訛之證汙字再變而為汙汙右从汙象人荷戈形三變為汙汙

右从巾亦象人荷戈形而與亢字相仿！再以義求之菁四
異亦出出虹自北飲于河藏六十二王其涉的庸二二六二
王其舟舟于污言飲言涉言舟舟自係就河言之然若揭
按于氏所論甚諦但除了于氏所舉的侯家莊大龜四六一和
復上十五四兩辭可以證明汙汙為一字並由菁四藏十六二
及庸二二六二等辭證明汙確是河字外還有許多例子可以
補充于氏的說法茲略舉數例如下

192(2072)

191(2072)

1. 癸未貞求禾于斤 京津三八九一
2. 求于汾年又雨 辨編八三四
3. 乙亥三牢沈牛三 京津三九四一
4. 己卯貞喪于十三牛沈三牛 同上三九一六
5. 岳眾斟酒王受又又復上二 〇一〇

河是求米求年的重要對象卜辭中常見此類的材料拿其他求米求年的材料來對證一二兩辭知道凡河兩字非河字莫屬而且殷人祭祀神鬼用沈牲之禮的只有河之黃河因而上舉三四兩辭的亡亡二字也必是河字無疑在卜辭裏河和岳是經常同時被祭的第五辭岳並受酒祭由其他河岳並祭的材料對證來看也可以斷然判定是河字

據此我們可以斷言凡河之亡之河等辭都是河字無疑于氏一變再變三變之說究竟是否合乎河字演變的程序我不敢說但第一期和第四期的河字都是從河而第三期的河字則絕大多數是從人荷戈形乃是可斷言的殷虛文字甲編第二五八五片可以和二六〇四片拼合拼合後的卜辭如下

係第三
期卜辭

1. 癸丑口口貞其又口

2. 癸丑卜中貞于河

3. 口口卜中口口貞

4. 癸丑卜中于口口貞

由此版卜辭看來既可中中確是一字也確是一人復因祭神和祭岳之辭並舉可知神必然是河而河字右旁所从的河和同辭的貞人皆寫法完全相同從而可知中字就是河字的右旁河是形聲字決無問題那麼中的音讀應該和河字相同或相近

按丁字隸定應作丁而丁和可是同聲通用的例如考字从丁小篆如此金文也大多數是如此但亦角父餒三代吉金文存卷八第7葉

194(2072)

193(2072)

亦角父作朕皇考客公薄餒的考字作形下面的偏旁从可是知可和可同聲石鼓文

其魚僅可佳饌佳饌可以養之佳揚及柳

兩個可字都作何字用是知可和何同聲又詩商頌玄鳥景員維河鄭箋說河之言何也

是知河何同聲而中字隸定應作何即何字詳下那麼從聲音方面來說丁和中是沒有什麼分別的

再從字形來看同餒三代吉金文存卷九第10的河字作形从水从河形就是何字于省吾已經說過了嘯堂集古錄卷九十七葉此據幽芳的何敦銘文中有四個何字其中有一個作河形的據影宋本不知道是原來的異體抑或是剔誤或摹刻之誤其餘的三個何字兩個作形一個作河而河和何僅可字的堅畫微有不同

195(2072)

事實上是一樣的這同餒河字所从的河顯然的就是何敦的河其差別只是何敦的何字省了一筆橫畫

從上舉的例證中我們已知道丁可通用那麼河和何如果去掉口字剩下來的是和和行和正和前舉甲骨文中字的第二十二例相似形字雖然省了一畫但它和形字演變的痕迹是顯而易見的

中字作形的是象人荷戈疾趨張口噓氣之狀這和何敦的何字及同餒河字的偏旁以及于氏所舉的志壹志解兩志字是一系相承的而甲骨文中中的大多數都不作張口噓氣之狀金文的荷戈形戈荷戈父癸觚及壘荷戈形戎彝荷戈父乙自尊器的荷戈形均見和這不張口噓氣的是一系相承的作中的在甲骨文中裏是最常見的寫法它所荷的已是丁而不

196(2072)

復像是戈到了和和它們變得更不像荷戈之狀了因而可以隸定作仍形可以隸定作仍照原始形狀說本當隸定作是此就演變後的形狀說來字形雖不盡同却都是何字也就是負荷的荷字書備三一

一至三一六頁釋中

李孝定曰何象以可或戈斜加諸肩而以手持其一端也則象以秘兩端實物平加諸肩此其異也金文作以成置以父以貞乙容氏金文編亦收入附錄附錄上集釋二六三。

李孝定曰此字劉氏釋成徐氏柯氏釋伐均非古文字未定型時偏旁位置固可任作然亦有幾微之差音義迥別者不可一概論之也成字象人立戈下有所成守之意此象人荷戈形字又作何象人荷可柯之古字形乃何之古字及後从之何

197(2072)

廢而从此之何獨行此文字衍進新趨定型之通例也伐字象以戈及加人頸省被殺之人無以表伐意此象戈秘加人有其意迥別矣盧氏釋此為何於字之形音義均信而有徵確不可易惟謂揚樹達氏釋以為尤為僭之初字之說為非則有可商尤僭何同意尤之為僭乃易會意為形聲為文字聲化之通例許書何僭相次互訓且亦解何為从人可聲矣何本會意許則為形聲矣尤字契文作中象以僭木平加諸肩何作何若何象以可若戈斜加諸肩此其別也此與前出以一文从大作者當是一字請參看

198(2072)

成

古文

成

成

加藤常賢曰仔細辨認是由成和又手構成的這兩體合起來的字字書中却找不到成說文雖說

成守遠也從人持戈

持乃傳寫之誤廣韻云從人荷戈也蓋據說文古本說文按伐者左人右戈人持戈也成者下人上戈人何戈也

宋陳棻先生聘侯說持當為何字之誤也人部伐擊也從人持戈則此持字為何之誤明矣象戈在人右之形說文持乃何之誤之誤所以這圖畫文字的又手形在說明成字的

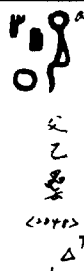
199(2073)

場合是用不上的我們接着看白虎通田獵篇

太謂之狩何守地而取之也據裏面守取二字也許中央這圖畫文字是當狩講的不管怎樣我們以成字為主認它為古侯部韻的字當不會錯吧中國文字十三冊三至四頁非少人

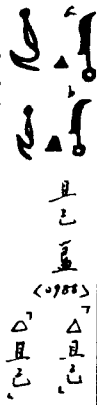
李孝定曰加藤氏釋此為成說有未的唐蘭先生釋此為伐文字學導論說無可易伐象以戈及加人頸與成字迥異成象人立戈下有所成守也此亦象戈及加人頸而增一手形以表執戈之人其誼更顯惟伐之誼主於殺人故被殺之人決不可省省則其意不明執戈之手為次要偏旁故後世伐字均省去此一偏旁亦文字簡化之通例也

200(2073)



方濬益釋子壘形手形洗形曰子之前上為壘形下為洗形儀禮
少牢饋食禮司宮設壘水于洗東有科注凡設水用壘又士昏禮
設洗于阼階東南注洗所以承盥洗之器壘水者蓋壘以盛水
洗以衆水故著其形以明壘雖酒器亦兼為洗滌之用詩洞酌
可以濯壘是也(綴遺卷二十六五頁父乙壘)

李孝定曰方氏釋此為子壘形手形洗形而以少牢饋食禮說
之以周禮說古文未知其可也此字如分別說之似為止兄丁
之合文(旁一)口形未明然亦未可遽定



參閱1844乙字條吳其昌說

參閱2267條吳其昌說

馬叙倫曰倫按舊為孫為丁皆非是為說文戊己之己
異文踞之初文也今日本舊俗席地而坐猶如此說文己部所
屬有登異兩字皆從踞得義可證也形譌為久復譌為己詳疏
借為干支字此蓋石工之圖語為石之初文後以變為篆文
作口形提於口乃增厂耳(刻詞八三頁且已款)

楊樹達曰銘文分為二段上段分為三行中行為丁字丁字之左作人形

吳氏釋為孫字是也丁字之右作各字吳氏釋為立刀形蓋刀字
也下段為且己二字余謂此當依孫刀丁且癸之次序讀之丁字居
上截之中與下截且己二字相質猶子東壬父辛爵壬字在中
段居上段子東二字下段父辛二字之中與父辛二字相對也孫者
對祖為言刀丁者刀為孫之正名丁則其生日之名余所謂別名也
刀柄之末作圓孔形者乃刀環也釋名釋兵器云刀本曰環形
似環也是其說也(續微二五一頁孫刀丁且己段跋)

李孝定曰楊氏讀此文為孫刀丁謂與下文且己為對文按孫
字金文習見未見如是作者竊謂當讀為刀兄丁刀為作器者
之名為兄丁祖己作祭器也惟葬銘所稱為某作某器上一某
字均指特定之個人除為父母作器外似少二名並見者則余

說亦為無徵姑貢疑於此馬氏讀為己謂為踞之初文此
銘下文即有己字與此不同可証其誤至謂甲骨金文于支字
之己即初文踞字乃由以所轉化于支之己自為假借証以字
音馬氏之說應可成立惟古文中于支之己並皆作己竟無一
作乙形者証以字形則其說似猶有可商豈己字借用既久
且又常見故整齊之以別於本字之乙歟

IdE

父辛解

柯昌濟曰字从爿从人从未當即寐之古文韓華三一八頁寐

父辛解

方春益釋米子折三字見綴遺卷二十三第
十五頁子析父幸

解。

李孝定曰字當从𠂔𠂔聲柯氏擇此為寐可从𠂔字古文作𠂔及後始增𠂔作寤則寐之从𠂔亦屬後增𠂔為𠂔之古文寤寐之事从𠂔已足達意故後世形聲字省古文寐字之𠂔形𠂔寐耳

205 (2076)

毛傳曰小曰橐大曰囊高誘注戰國策曰有底曰囊無底曰橐
囊者言實其中如瓜瓠也橐者言虛其中以待如木櫟也此文正
从束中橫二格虛可受拘之形蓋取子能負荷以繼其父之世
官（綴遺卷二十三 十四頁子負橐解）

吳大澂曰右象子字形左象東字形東字無所取義蓋參丈以爲弓矢在囊形象兩弓兩矢包之以庸皮也亦偃武不用兵之義

劉心源曰：儀或釋子負物形，篆从束，三約之均，清館金石
 卷五鈎甫齊有篆字，據古錄二之一，釋作束。父辛爵有篆，近人
 引為二，乃弓矢形。篆無底束兩端，形當是橐索，引二為弓
 矢形，說亦無據。余謂篆亦是束字，說文束部，並分別簡之也。









207(2077)

受爵然在東楹東北面足跖形踐其位也(《自古卷七十四頁

周子東爵)

方濬益曰：𦵏字亦見辟。𦵏父尊，今釋為𦵏者，說文𦵏震也从𦵏省，石聲。𦵏𦵏也从𦵏省，𦵏𦵏二字互相訓。段氏注曰：大雅

206 (2077)

从束从八八分別也觀此銘从知東非从八蓋東中遵中直
 筆為三即自而橫書之則省矣東實與冊同意本義當是東
 編乃簡之古文也即人字古刻亦作小篆作皆象人形
 世徒知為子而不知為人與不同與異也說詳癸鼎
 从人从東乃倮字人名也字書未收偶遺耳古文不見字書者甚多吾見鼎
 文有倮之及形或釋子東觚文有亦及形或釋子車觶文
 有从象縱橫約之之形或亦釋子東蓋未合參諸器也

高田忠周曰按此源考失於牽強固無可據要褻之為物中寬能容从二从三固象其意與从十从乂从中無異矣或謂廣韻集韻收儻字即是此字許氏不收為古逸文然二韻訓儻為緩也从人囊聲也而與凡金文用為子字義不相合符亦與云

208(2077)

伐云者不相合矣然則此篆子荷囊形亦與子提囊提囊形同意並皆祭祀之供物耳(古篇第四十第二五頁)

馬叙倫曰倫按舊釋子負車形以爲爲車既謬象形中亦非子也此從人而以右肘持東東爲囊之初文東東則一字也東非從口木也毛公鼎散盤篆字作東從東即東也父乙尊篆字亦東也象囊物之器而束其外兩端緘之也速字叔家父作速饌字妣戎器作速龍尊作飲堂此東束一字之證東聲辰類東辰對轉故聲轉爲東東音端紐東音透紐司爲古尖前破裂音故轉注爲囊囊聲魚類囊聲陽類魚陽對轉故又轉注爲囊此從人持囊蓋亦負販之象對文作此豈製器者如今爲旅客肩負行李者與(刻詞二頁負囊爵)

209(2077)

吳式芬釋子東二字見據古一之二第六十三頁東父西爵又釋子負車形見據古一之一第三十四頁子車爵方濬益釋子負囊形見續遺卷十九第二十三頁子負囊爵柯昌濟曰象人荷束形即古重字會意說詳邢侯彝跋陳父癸鼎傳字與此爲一字重古地名又民族名左傳有重邱逸周書史記解有重氏(釋華二七頁重鼎)又曰重字从人从東取人服重誼重鼎作陳舊釋人負東形是也(釋華二七八頁邢侯彝)

210(2077)

徐中舒曰東古囊字通答曰無底曰囊有底曰囊(史記索隱)篇曰囊囊之無底者也實物囊中括其兩端東形象之鼎文

重字作陳象人負囊形囊以貯物物後世謂之東西東西者囊之轉音也(說文關義要第二十八頁陳字下引)

李孝定曰此字柯氏釋重確無可易他說並非字象人負囊囊乃會意兼聲(東亦聲)字後其形重疊作子東(井庚其意遂不可見矣)古會意字原爲整幅之圖畫及後衍變多有分爲二體以求與數重上居多數之形聲字相配合者此爲通例如恒之作恒(恒)之作恒是也此則原爲二體後反重疊之而成單體蓋文字衍變之變例也

211(2077)



解文
(1172) △

李孝定曰此文亞中所从乃重字亞形蓋無義說見下2109文下所引郭沫若說

212(2078)

申

解文
<2301> △

李孝定曰字不可識

申

且乙
<1663> △

申

鼎文
<177> △

申

文乙
<187> △ 文乙

高田忠周曰申說文申神也七月會氣成體自申東从目自持也吏目瞞時聽事申政也古文申與籀文申許氏此解誤尤甚矣申與多元別文也亦多之變形說詳在下隸之申並作申故漢人混同不別粗扁之極也愚謂申字解當作東身也从目自持也一以象人身申即人直立而兩手擁要之形以小篆作目从曉出古文而實失形者然則申與象電光旋轉之狀字通別有持之轉義為約束為持重又古音申與同部故兩字通用不妨矣然則申與申造意同當收于目部與申次出而與申命三字从申故建為一部且與多部相對云本義之一轉者禮記禮記朱絲帶申加大帶於上又左傳日討國人而申

申



鼎文
<187> △

方濬益釋子執惠形曰書顧命二人雀弁執惠立于畢門之內儀禮士冠禮爵弁服注曰爵弁者冕之次其色赤而微黑如爵頭然釋名釋首飾弁如兩手相合并時也此文人首所戴者正雀弁之象形手所執為惠與子執惠父卒歆同惟柄作交紐形為異(綴遺卷十九二十四頁子執惠爵)

高田忠周曰申蓋亦系字又左旁申上有一形疑指事系屬有所戴之意亦孫字(古籀篇第七十六頁)楊樹達曰方氏謂說之云手所執為惠與子執惠父卒歆同按方氏名此器為子執惠爵蓋認左旁人形為子是也說又見同

微之漢書韋元成傳畏忌自申注言自約束也之類是也又說文隸字下云从立从束束自申束也此為字本義耳(古籀篇五十八第一〇頁)

李孝定曰高田氏釋此字所从之申為許訓自申束之申之本字與訓神之申異字而音近且謂象人直立而兩手擁要之形說有可商字蓋一人跪另一人兩手執并以臨之有扑擊之意惟不知究當於今之何字耳

上子謂子手執也。則非是。今考系字甲文作。知此字右旁
 所以為系字。字从子从系。乃孫字也。孫字金文千百見。皆止从
 系。無从系者。金文無。說文云。从系子系。續也。其說與古器銘文不合。
 (續微一七六頁至一七七頁孫爵跋)
 李孝定曰。方氏但說字形未定為何字。楊高田二氏均釋為孫。
 說有未盡。金文孫字習見。未有作此形者。字从乃企字。用
 作偏旁。與从人得通。从人从系。即係之古文。象係累之形。許像
 訓繫束。即其意也。


217(2081)



子
 子
 子

吳大澂曰。器上作子負戍形。亦紀武功之品。憲齋七冊十四頁
 子負戍形敵。
 參閱018歲字條吳其昌說。

參閱214條吳其昌說。

李孝定曰。字不可識。字从戍从口。乃斧鑕之象。右从。象人
 而斷其足。疑刺明之最古象意字。

218(2082)



尊文
 尊文

李孝定曰。字不可識。象人排杆。白而臨井。上揆作之形。疑係春
 井二字之合書。


219(2083)



子
 子
 子

李孝定曰。从弓从反。字不可識。

220(2084)



 丁 爵

 <170>

 △

 丁

李孝定曰字不可識

221 (2085)




 五 文

 <172>

 △

高田忠周曰「上作只即兎冠象形下作丂與兎同意或兎字元
 如此後譌从兎而兎之上形作八與此篆四下作八合或云此
 篆下从元元者元首君長也君長必戴兎故元為義上以象形
 或云元即冠省(古播篇三十四第一八頁)
 李孝定曰高田氏釋此為兎其意是也與文兎字作𠂔即兎
 之古文此字上半所从與𠂔形略近疑即其字


222 (2086)



 从 之

 <173>

 △



 从 之

 <174>

 △

李孝定曰从又从嬰上半疑兩耳形字不可識

223 (2087)



 昔 文

 <175>

 △

李孝定曰从𠂔从何从戌字不可識

224 (2088)

𠂔

字文

𠂔

字文

<1173>

李孝定曰劉氏說此殊支離其字上牛从規實非門字下牛从甲用疑用字字不可識

吳大澂曰立戈形

子形竹簡形

是憲齋所藏殘簡惟子字作陰款立戈形亞形竹簡形亦有作陽款或云非亞形乃甲字之陰款也是爵半陰半陽為華密中所罕見(憲齋第二十三册十七頁立戈形亞形爵)

225(2089)

𠂔

字文

<2216>

李孝定曰字不可識

226(2090)

𠂔

字文

<1172>

方濬益曰說文部首兒頌儀也从人白象人面形頌或从頁約省聲貌猶文兒从約省然此亦初作象形後變為形聲之側也愚謂哲訓人色白也其面白哲故从人从白朱駿聲云面之神氣曰頌面之形狀曰兒猶近矣(古籀篇三十四第一七頁)

高田忠周曰按說文虎頌儀也从人白象人面形頌兒或从頁約省聲貌猶文兒从約省然此亦初作象形後變為形聲之側也愚謂哲訓人色白也其面白哲故从人从白朱駿聲云面之神氣曰頌面之形狀曰兒猶近矣(古籀篇三十四第一七頁)

李孝定曰諸家並釋此為兒以與小篆形同也可備一說

227(2091)

𠂔

狀且乙

<1171>

李孝定曰此疑交字

228(2092)



且辛 李
△口 李
△口 李

李孝定曰字不可識甲骨文有「」字地名此與甲骨文「」當為一字僅其下多增一「止」形古文人形偏旁每多增足形仍為一字地名與氏族之名亦往往即為一事也

229(2093)



父乙 爵
△乙 父

李孝定曰疑與之異構

230(2094)



父乙 顧
△父 乙

吳式芬曰許印林說上疑卿字卿从卯見聲卯即卯△疑見省見穀之聲香也象嘉穀在表中之形△所以振之或說見一粒也讀若香見省去△并省去白中之一即為△矣白中之一古當作△粒也裏中之穀也裏中穀本不可見惟見其裏△即其裏也△又加△于其中又加△于其下後來制字義漸密也古惟作△而已矣卿饗通他器有享父辛意正同也(據古卷一之二十三十八夏父乙顧)

231(2095)




方濬益曰从△从父即卯字為二人相鄉之形按說文部首人部之下次之以△曰變也从列人又次為△曰相與比敘也从反人



又次為△曰相聽也从二人又次為△曰密也二人為从反从為比又次為△曰非也从二人相背而為△二人相鄉應次比之後北之前方允乃許君友列此文於晉晉二部之下曰事之制也从△从△蓋篆文△變為△象形之意已離故許君亦不能解其从△之義而古文△非二字正相反與△二字同意相背為△則相鄉為△矣此無器文字之可據以校正說文部首次第之誤者至此文从△作△乃△之或體縣簡小異初非二字觀彝銘於卿士北鄉饗醴等字通作△或从△作△是△第一字之證皆鄉之古文篆文與乃於△之外別制△字說文部首雖鄰道也从△从△鄉字从之竊意△即由此△字變化而出者變△為△故義異而聲不異背父乙鼎背作△豈非與此文相反之明徵乎(續遺卷九十九夏卿父乙顧)

232(2095)

高田忠周曰按此說亦有一理齊侯鐘饗字作余或有作
 卿者借卿為饗也然則此篆為饗省即省也然饗之作飠明
 从食食作人無謂矣又沈思細攷此字从△从叩明哲者說文
 什事之制也从尸△△三合也讀若集凡作字之例多略不過
 三然則合四合五亦謂之△也書曰輯五瑞瑞信也尸也即符
 節也又曰班瑞羣后輯尸班尸此事之制也因謂命字即令古
 文正字作令者省文也抑集之班之尸固非一又瓊下曰諸侯
 執圭朝天子天子執玉以冒之似犁冠从玉冒亦聲也此事
 亦為合尸也令字从卯為至當也定為令字合籍篇二十五第
 三二頁

馬叙倫曰吳式芬曰許印林說上疑卿字卿從自△疑即自省
 卿饗通他器有享父辛意正同也倫按許說是也舊釋兩非卿

為饗之初文甲文作或作象兩人相向而食王篇饗設盛
 禮以飯賓也則此二人會一主一賓之意非說文之字器作
 此文非為飯賓而作器故書此文蓋仍與作奔者同意或卿有
 食義此謂食器耶(刻詞五三頁父己觥)

李孝定曰吳式芬釋兩形其誤至明許印林釋卿方清蓋釋卿
 其意略近按古文饗食之饗猶舊之饗為一字字即象兩人相
 饗饗食之形故得兼此二義卿士字亦假此為之字作兩旁
 二人相饗中設饗字古蓋自作自日即饗之象形上作△乃象黍
 稷豐滿許訓穀之饗香說誤今在二人之上者一△形固不得
 仍為饗字二氏之說蓋未深思之故也高田氏釋此為令其說
 可從惟以許訓三合之△說此上所從則有可商此上所從蓋
 為側口形示發令之意下二人則受令者也古文命字作上

亦象側口形可証

𠂔

界之字自△界之字

李孝定曰从北从子疑𠂔之異構北保聲亦相近也

李孝定曰字不可識



 解

 <215>

 Δ⁷

李孝定曰字象二人執旂立於示之兩側蓋單行告廟之意惟不審何字

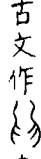
238(2098)

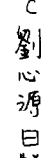


徐同柏倒讀釋鳳棲木形曰說文爵禮器也所召飲器象爵者取其鳴節：足：也鳳棲木形當即此義廣雅鳳皇雄鳴節節雌鳴足足（从古卷十五六頁周鳳聲）

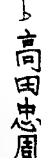









上方濬益倒讀釋雙鳳集木形曰說文竊古文鳳象形鳳飛羣鳥從之以萬數此可為消文雙鳳者爾雅釋鳥鸛鳳鳳其雌皇郭注曰瑞應鳥雞頭蛇頸燕領龜背魚尾五彩色又山海經丹穴之山有鳥焉其狀如鸛五彩而文名曰鳳見則天下大安寧銘此於器亦頌禱之意（綴遺卷六三頁雙鳳集木啟）

上劉心源倒讀釋朋曰說文鳳神鳥也从鳥凡聲鳳鳳象形鳳飛羣鳥從召萬數故召為朋黨字鳳亦古文鳳案此敵朋字象兩鳥對峙形即許書第一古文也其第二古文即鵬宋玉對楚王問言鳳雛之狀與莊子逍遙遊言鵬雛相合知鳳鵬實一字非鳳外別有大鵬也後人昧其原分鳳鵬朋為三非也說文又有朋古刻作朋亦与此敵有詳師鬯鼎或曰朋即為之


240(2099)

古文作者見說文（奇觚卷三一頁至二頁朋鼓）

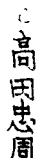






劉心源曰即今作即戈說文閱試力士鏹也从門从戈或云从戰省讀若縣胡畎切宋今武場召刀石試士即其遺制（奇觚卷六二六頁閱觚）

高田忠周曰按孔字小篆作而金文作亦或作又作者與同意又說文下曰持也象手有所孔據也然則小篆所依作此與作皆同一意而二孔相對此門字也說文兩士相對兵杖在後象門之形蓋後者前之誤與皆象兵杖形耳段氏云古凡關接用關字門字用門字俗皆用關字為奇

241(2099)


競而門慶矣此篆元引徐籀莊說說文爵禮器也所以飲器象爵者取其鳴節節足是也鳳棲木形當即此義廣雅云鳳皇棲鳴節節雖鳴足是妄亦甚矣又劉心源云朋或亦非（古籀篇三十六第四三頁）



242(2099)



高田忠周曰按劉云即字即戈字說文閱試力士鏹也从門从戈或云从戰省讀若縣胡畎切按今武場以刀石試士即其遺制此銘當是記武功或是人名此改稍近但即字亦當與形義相近者得段借通用也此即成字非戈字

然成戈亦當通用（古籀篇三十六第四六頁）

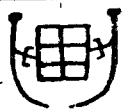
柯昌濟曰門字从兩人執兵省形相門形（華二四五頁闕彝

郭沫若曰乃門字即卜辭王在門之門（青研二十頁殷虛中圖形文字之一解）

吳大澂例讀為雙鳳集林形見憲齋七冊六頁雙鳳歌又釋曰即共手之共（見憲齋二十三冊二十一頁父庚爵）


李孝定曰形中多成字與另四形當非一字此字徐吳劉方諸氏均例讀釋為雙鳳集木形其誤至明柯郭二氏釋門是也甲骨文亦有門字地名與此氏族名亦合

243(2099)



鼎文

吳式芬曰田即見六書統（據古卷一之二四頁兩子昇岳鼎

徐同柏釋人形田形人形曰田作左右各三區之象爾雅釋地詩采芑傳田一歲曰蓄二歲曰新田三歲曰畝是也田畔二人仲叔子弟之象詩載芣苢亞旅旅是也書盤庚云若農服田力穡乃大有秋古人立示意其所呂儆主器者深且遠矣（从古卷十三七頁 山人點）

244(2100)

方濬益釋子匱象形子曰原釋按依古書統謂田即缶為兩子昇缶形今按此文定二人承匱之象形詩鹿鳴承匱是將毛傳匱匱屬所以行幣帛也又朱頤維匱及宮傳方曰匱淮南子時則訓具樓曲管匱注方底曰匱此既方底又有橫直界道自是竹器釋去非也（綴遺卷五二十頁子承匱鼎）

高田忠周曰按亦从艸顯然者田即象龜今出土殷商卜辭龜版有與此形匹似者可證然則此圖字也說文龜門取也从門龜聲讀若三合繩糾朱衣駿聲云列子黃帝篇以黃金掘者皆以瓦掘者巧釋文掘探也以手藏物探而取之曰掘亦曰藏掘以掘以強為之今以為指圖字是也蓋此田象寶龜說文具下曰古者貨貝而寶龜是也其門也志在于取寶龜寶龜者財

貨也吳式芬元釋為兩子昇缶引六書統田即缶斷非今正（古篇第三十六第四三至四四頁）

柯昌濟曰舊釋缶非愚以為象二人奉龜策形之字（釋華八五頁例鼎）

馬叙倫曰倫按舊釋兩子昇缶倫謂予即說文之夨字也即說文之夨字夨則一字也缶為田之轉注字田之象形文當為日實今俗盛食物之鉢頭金文亞形中之夨者戴者由說文異字從大以手持其首戴之田則由豈持兩人昇之與倫謂此即說文之與字亦即說文之與字與與本一字也與從昇從盤之初文今存散氏盤其重猶一人可舉若端方所得於寶雞出土之斯禁實亦盤也詳疏其重必兩人而後舉舉為與之後起字與從昇從日從夨明兩人同持而後起也器作此文疑為造盤

者之圖語盤止作田者僅其一面之形耳斯禁形長方其四周之端有口空正與此類貞松堂集古遺文八冊父癸尊之圖與此同（刻詞六八頁例鼎）

李孝定曰字象兩人共昇一田兩人之形說無異辭惟田形偏旁或釋缶或釋匱或釋龜實無一相似則此數說之詎昭然可見徐氏釋田字形與英文田字亦同說似可信惟字之兩旁明象兩人共舉之狀而田非可舉之物則其說亦不可信惟馬氏釋與並舉斯禁為証其說可从此从艸與从昇在古文偏旁中例得相通也



文之字



文之字

吳大澂曰中作酒尊形兩子負之（憲齋七冊十四頁兩子負酒尊形父已款）

高田忠周曰於形明為北鼎二字或謂尊者多厚也北者分北也猶云分福北與北子孫之北同矣存疑云（古篇第三十四第一四頁）

高田忠周曰按銘上有此二文合象也下有父己二字依恆見例北尊即與北子孫同亦或有作八子孫者皆與析子孫同意也然則此尊段借為後釋名厚後也有終後也厚尊二字古文通用又厚后通用為例昂后後亦通用（古篇第三十三第四）

夏

李孝定曰高田氏釋此為北單二字合文可从惟謂與明人同意則非二文截然不同外既非北單在古文亦未見有假為前後之復者即如其說又安能証復字之義必與子孫相盡乎

249(2101)



𠂔
(1117) Δ

李孝定曰字疑卯東二字合書

250(2102)



𠂔
(1117) Δ

李孝定曰字从𠂔从亞形中着一口形不可識

251(2103)



𠂔
(1117) Δ



𠂔
(1117) Δ



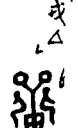
𠂔
(1117) Δ



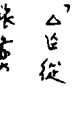
𠂔
(1117) Δ



𠂔
(1117) Δ



𠂔
(1117) Δ



𠂔
(1117) Δ

阮元曰兩子夾單即子親旗之義單字作𠂔象三辰之形左極二年傳三辰旂旗昭其明也三辰日月星說文示字三垂取象日月星旂字从之古文旂从𠂔从單通旂是單即旂上三辰形也義亦同示說文云觀乎天文以察時變示神事也祭所以事神神示所在子與待之敬之至也(稽古卷一二十九頁好父辛集)

252(2104)

方濟益曰：舊釋皆以為單之古文，按此字亦可釋為干左右為二人相背之形，北之分文也。（綴遺卷十六頁立戈單解）
高田忠周曰：此篆从單，从北，尤明皆者而字書無異字，要北字元二人合形，此作非北字，而於字之變也。北从均，从人，字故相混，至于此耳。又單者，單之省，即於字詳見單下及旂下，然則此篆亦為旅字異文無疑矣。銘云戈旅，亦取武備守宗廟之意乎。（古籀篇二十七第二三頁）

253(2104)

馬叙倫曰：倫按舊釋北為子實二人耳，金甲文何背固不拘也。Y字舊釋為單，嚴可均謂單當從車省，詩其單三單，亦以車起算，王筠據穆天子傳天子乃周姑絲之水以圍覆車，是曰圍單，被單有車義，其他說者多家均無足取，宋人釋單為車，倫從其

說單之形由車，車且車車中叔而省變說文之單亦與車為一字，知者邵鐘之單，師震殷之單，前人皆釋為單，邵鐘之文曰余曾甚武，此與公伐，鄰鼎之攻單，無敵詞例相同，攻單即攻戰，公伐鄰鐘作單，說文戰字從戈從單，則單為單之異文可證，散盤作單，單二形猶可見其為尚未盡失圖畫性之車形，蓋單須對面視之，若車向我而立者，其小即單之車，車之卡之卡乃輻與衡軌軸也，形有變耳，曰為車箱即輿也，一即軸也，以音代免即輾也，四者而輪單則其為輒者更簡，而輿後之軸直者而曲之矣，由單之變則為交段之單，而反之遂似於口，故孟鼎作單，口而圓之則為說文之單，兩輪由口者而心之，而四之諱而為四矣，若王母鼎之單，孟鼎之單則為連字從之，之字金甲文亦或作口，非口古字乃履之初文也，車音穿三古

254(2104)


讀如舍則在審三審音曉紐審曉同為次清聲，聲單讀或如善或如蟬音皆禪紐禪與穿三審三同為舌面前音，達其聲轉之跡亦可證車單單之為一字矣，今單音入端紐音蓋已失，知而入端也，此作Y者為單之省變，單由端單字由端端音皆作單也，此與義史尊之單車白員獻之單車蓋屬一事，見於即以此或旅行之旅行本字與或此為乘之單文，四頁至三五頁單單）

255(2104)

丁山曰：從二人意，遜于Y後以Y形言，通釋為單以其義言，釋為宜合而觀之，適符周官之司戈盾，為詳批作（闕義二頁）李孝定曰：字乃北單合文，阮氏以旂說單非是，單于母古文一字均為有之象形，看乃後起字，方氏謂單可釋為干，其意固是

然單于母在殷已分行為數字，此字字形明是單字也，丁氏合釋全文為盾於字形無徵，說不可從，馬氏以車說單說誤，單所以自蔽契文符字从犬从單會意，引申之符所獲為獸獸旁之單原為單形為變，由禽獸表行用既久，此為變之單亦專有據義而與干盾之義遠離，文字孳乳衍變有非常理可測者，此其一例也，卜辭有東單西單南單均地名，惟未見北單，此所見北單其始當亦為地名，及後始衍為氏族之名，亦猶後世西門氏東方氏之比耳。

256(2104)


 乙
 鼎
 <0337>
 △ 乙
 乙




 文爵

 (1592)


 文
 (1520)
 7
 △

257(2105)

州
詩 文 乙

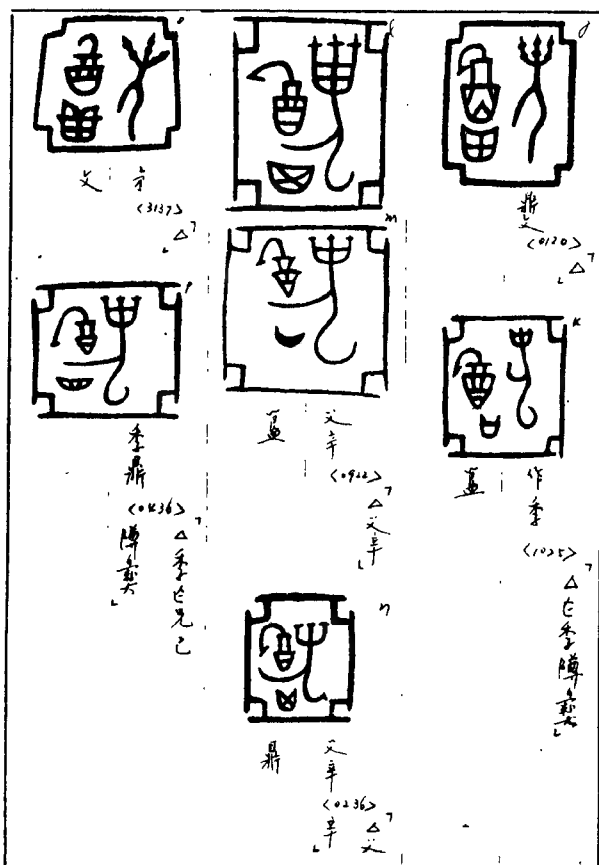
州
詩 文 乙

260(2108)

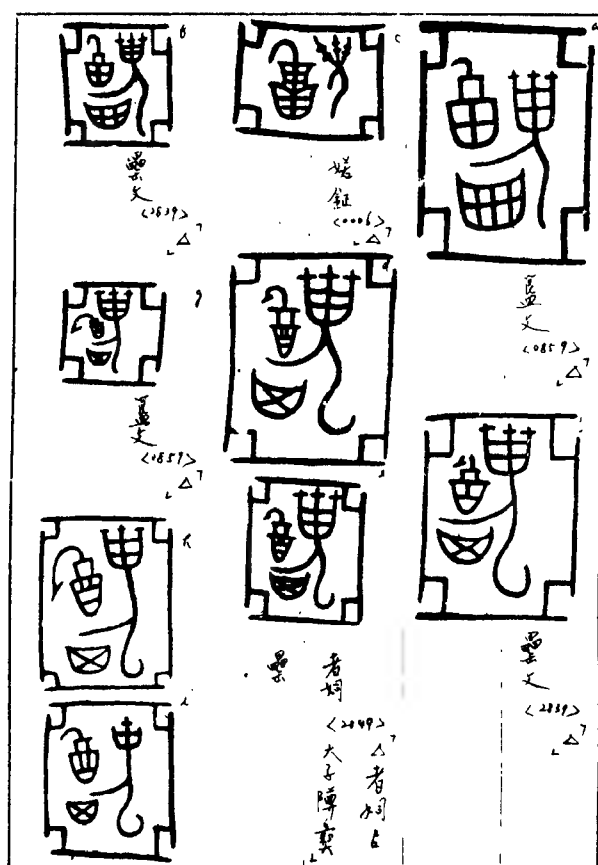
𠂔

𠂔

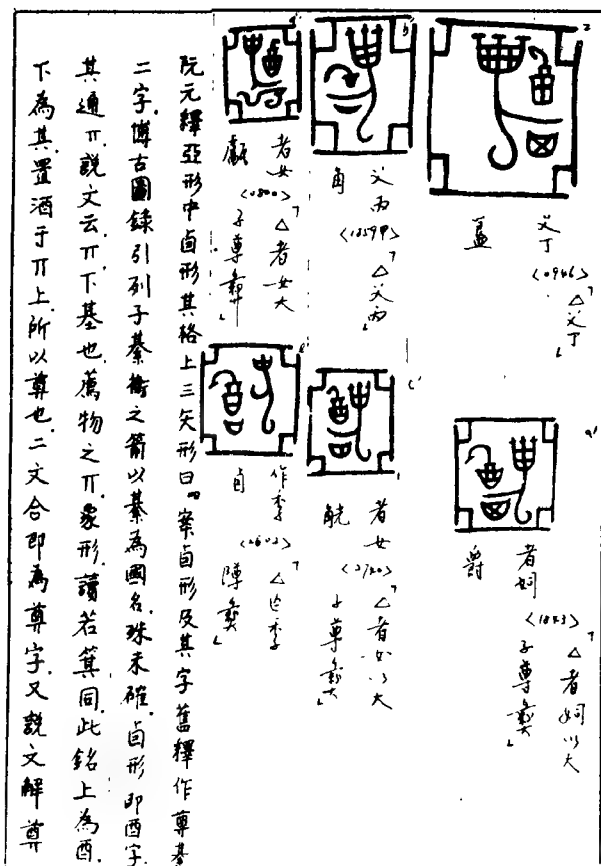
259(2107)



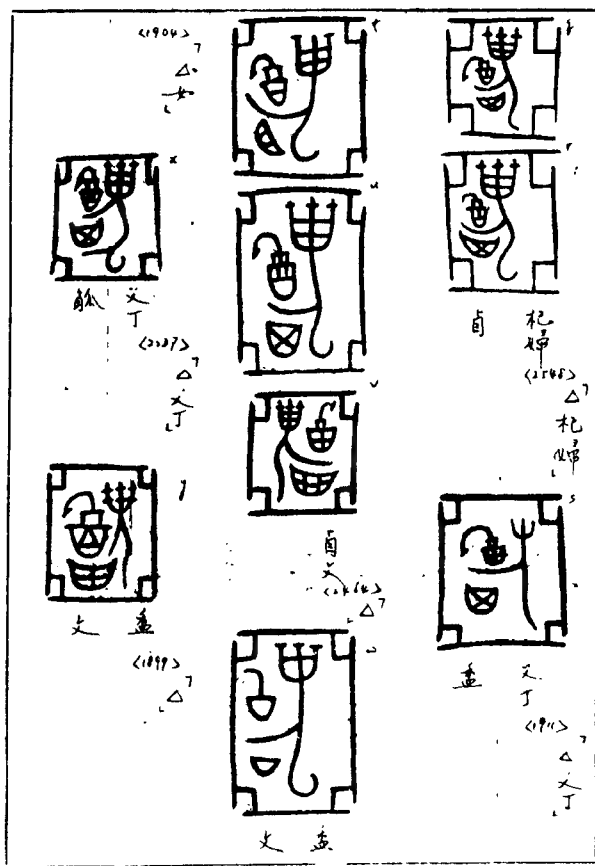
262(2109)



261(2109)



264(2109)



263(2109)

字云置祭也。从商。商酒也。下其丌也。是可證矣。格上三矢從舊釋。或曰此堂構形。說文壽字上形與此相類。有堂構而後可設尊。可故詩曰。自堂徂基。義亦可通。(續古卷一三十三頁至三十三頁亞直)

徐同柏曰。亞亞形古聖字通屋廟室之象。其舊釋為格上三矢形。今按當是人持缶形。蓋古更字。斟酒之象。勺勺形。西形合為酌字。四形酌奠之象。酒所居。百禮故著此象。目示敬。(从古卷二十二頁周諸女方爵)


又曰。更古更字。从人从缶。亦聲。人也持缶故詰。在缶古。字象。缶形。缶有容義。容有更音。石鼓庸作。更字亦从缶。庸容更一聲之轉。更字亦作庚。陶匱故字从缶。缶也。盛酒漿器。更字亦作。料量也。量。輕重也。人持缶量之象也。儀禮燕禮。

二字幾不解其謂何矣。(从古卷二十二頁周諸女方爵)


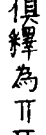
方濬益曰。阮文達公嘗謂舊釋兕為格上三矢。殊未確然。無以易其說。濬按此文士冠禮也。亞廟形也。石象人結髮紒首。將冠者即筵坐也。左為尊形。有勺側尊一。醴也。下為簠或匱也。夫禮始於冠。本於重。於喪祭。尊於朝聘。和於鄉射。銘此以識禮之始也。此後世圖畫人物之權輿也。(綴遺卷五二頁亞形鼎)

張廷濟曰。舊俱釋為宗廟亞室形。嘉定錢獻之站謂為兩已相背。儀徵阮制軍師謂取兩弓相戾之形。

申。舊俱釋為格上三矢。案鐘鼎文如史僕亞之。僕。名夫。唐敦伯父庸作。庸等文類有此寫法。皆不得以矢名之也。蓋篆

文申字作  此即申字通作神

象酒器形。凡尊彝。罍。卣。之屬。本器名。某即當以器之名。之



若必主名。某字則尊為近。象勺形。植酒器中。取斟斟之。父癸尊有持勺形作  即此文。象酒器之符。舊俱釋為  亞

申。申。申。五文合為置酒祭。上酌酒以祀神。于亞室之義。(清儀一冊二八頁方爵)

吳大澂曰。亞形中。象人跪而奠酒形。古申字也。中。象酒尊形。下。象箕形。此必嫁女之禮。器故从箕。箕。婦人之所有事也。案爾雅二十二冊四頁亞形申尊箕形爵。

寡君有不腆之酒。呂諸君子之與寡君。須臾焉。注闕文。選北征。注須臾少時也。竊謂須臾二字。當是斟斟之意。須臾或侮斯須。或直侮須。需也。需須也。字亦通轉。易需象辭。需於酒食。象傳。需君子。日飲食宴樂。序卦傳。需者。飲食之道也。虞注坎水。兌口水流入口為飲。又遠象坎為酒。是也。合之更之音義。其為斟斟之意。可知。凡飲食必逾時。故古人少時亦謂之須臾。又謂之斯須。中庸道也者。不可須臾離也。禮樂記。禮樂不可斯須。公身即論語君子無終食之間違仁。意說文。卣部。更乃更本字。讀如養者。呂仲器形。象當遂讀如賓引論語有荷更云。至申部。从乙之字。按申部。更乃更本字。讀如養者。呂仲器形。象當遂讀如賓引論語有荷更云。至申部。从乙之字。按申部。更乃更本字。讀如養者。呂仲器形。象當遂讀如賓引

論語有荷更云。至申部。从乙之字。按申部。更乃更本字。讀如養者。呂仲器形。象當遂讀如賓引論語有荷更云。至申部。从乙之字。按申部。更乃更本字。讀如養者。呂仲器形。象當遂讀如賓引

高田忠周曰。此字諸家往。所見凡瑞字作  即是也。古文瑞字从揚省。故从凡為意也。因謂下篆作  中。與更者

酒者古者從坐男女沒入縣官為奴此又奴隸司酒之證此蓋從執事之人戴冠奉尊并箕會給事者意金器文多言賜臣幾人說文古文僕從臣作賸公伐邾鼎伐邾鐘有僕字與說文古文僕同蓋臣為被征服而受繫之人釋之以給事故賜臣即賜僕猶清代之給奴也金器文作此圖形者皆表貴族有家有臣也國刊第五卷一期九三頁讀金器刻識亞中奉尊形彝

九容庚曰疑石象人形左象酒尊酒傾瀉而出下承以盤武英五夏方鼎

柯昌濟曰亞形中設字見金文頗多形亦不一詳奇觚室一舊釋子持酉形或尊尊均未確案此字又見卜詞其文曰設其至于攸若考其文誼設或係國名似言設國之人其至于攸地乃卜邊鄙之事案說文設列也从邑吏聲讀若迅與此字形頗近或

即此字从邑則字形轉遠之說韓華一〇九至一一〇頁設鼎吳闔生曰亞形中醜字舊以為格上三矢固非郭謂為人醜酒喜笑欲飲之形亦非也此實醜虜之本字象人服役之形蓋得取敵人之服役謂之為醜遠製此字故所謂格上三矢與僕傳字之旨正同此可證也僕字下从辛亦罪人之義用以為符號者表其戰勝克敵之武功也大抵初民之世僅有圖畫其後愈趨簡易乃始變為文字其跡固猶可見也古文卷一第三九頁弄鼎

郭沫若曰此字前人釋之者實奇異至不可思議此分明為一人形奉酒甕欲飲而呈喜悅之狀人形之有乃釋為格上三矢形人

形之身手又釋為父字此極奇釋自宋以來相沿八九百年直至近人始有能稍稍得其髣髴者容庚云象人奠酒於盤之形此已近是矣然余謂酒甕下一器乃酒甕之座而非盤形知其然者錫鐸有此字作鈔酒甕正陷置於座中觀此可知古人釀酒之法正如今之鄉人之釀造甜酒此字亦必為氏族名於卜辭有二證

三其還至于攸若王乇曰大吉

三辛卯王小臣設其口其于東對王乇曰吉

讀第一例可知其必為人名或國族名第二例雖殘闕而字在小臣之下則其為人名或氏族名尤為顯著此與箕天毫等可以參證

復次余以為此與卜辭及金文所常見之豐字當同係一字蓋

省人形而為白而附之以音符召字也卜辭亦或作豐並無音符或省酉作豐又或有皿作豐與今行之召字甚相接近金文召王鼎召王段召字作豐從正此豐形之省變

案說文醜字下注云此燕召公名讀若邠史篇名醜醜與更無相通之理余疑醜字殆即此豐字之譌因召公召字古或有作此者後人不識故誤以為召公名醜也

又此醜在彝銘中每以亞形為之範自宋以來對此亞字形復多作神秘之解釋或以為象宗廟之形或以為兩己相背或以為兩弓相背今知亞形中字大抵乃氏族稱號或人名則此亞形者不過如後人之刻印章加以花邊耳此由亞形之可有可無已可證又如父己段之亞於亞形中範以箕侯二字其為單純之文飾毫無疑義(青研十七頁至十九頁殷辭中圖形

辭例則與作醜者不同續四九二辭云若茲不雨唯國 國 出醜于口伏九七三辭云口 國 龍 寵 出醜 口 它 辭又云壬寅卜
 貞寅若茲不雨帝唯茲邑龍不若 卜通別 郭沫若釋之云龍假
 為寵若茲不雨帝唯茲邑寵乃求晴之卜也郭說是也醜字二
 辭與卜通別二五A一辭當為同類卜辭續四九二辭處初足
 之當為若茲不雨佳茲邑寵出又醜于口寵與醜為對文淮南
 說林莫不醜于色注猶怒也卜辭云又醜于口蓋言帝又將加
 怒於某方謂將降禍於某方也而金文此字均為氏族名然則
 此字是否必為醜字似猶有商酌餘地也郭氏又以說文燕召
 公名史篇名醜而召字古文作 召 其旁从亦與此近遂謂此
 亦召字其說則有可商蓋此字偏旁雖部分與召字古文相同
 然名字明从刀聲與此固有別也

281(2109)

劉心源曰案鼎彝父乙鼎諸彝尊亞觶亞觶觶諸皆有此篆舊釋均誤其實亞中乃尊卑二字也試詳證之田即首字觀三四器作田可知矣田非田鳴字乃尊之下體所由承受者觀第四器作田即基丁二字之義第三器變田作田形與甘近第一器从田又从人則變體之緣即小篆尊之下體从田所本也於篆字何與乎亞觶亞觶亞貞亞貞又一亞貞田觶鼓田亞角田皆可類推而知為尊字矣卑字上體从田說文東楚名缶曰田古文作田此後三器从田从田即古文田也下从卜象手舉形即小篆之尸後二器作尸益明是則上體非格上三矢下體非父字也農田用婢為婢家作農其上體即此第二器之卑亞鼎耐尊省作田并侯尊俾用王乘輦之俾从之作田益可證矣臣此知古文卑字从尸田會意田亦聲田者飲食汲澣

282 (2109)

之器手舉出者服勞奉養之義故為卑賤小義變出為中失古
意矣鼎尊卣解編較皆曰尊卑為銘其屬禮于器乎（古審卷三
第一頁亞尊）

王獻唐曰殷周器銘時見亞中醜形氏族徵識舊釋不一民國二十四年山東益都蘇埠也商墓曾出鼎一罍一斧二皆有此銘鼎腹初鐫益都古物保管委員會復藏山東圖書館余復為館中購得二斧一日出示亡友益都孫觀序先生觀序言先時縣中曾出同銘戈矛經手轉讓者即有數器未及詳詢也羅氏貞松堂集古遺文十二有亞中奉尊形矛題云此矛近出青州于氏雙劍談吉金圖錄下亦著錄謂山東青州出土青州即益都度必觀亭所見商矛之一所謂亞中奉尊形者亦此銘也羅

283(2109)

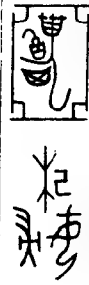
書復有同銘二矛一題東武王氏藏一題據搨本入錄鄒氏周
金文存六劉氏喜齋言金錄古兵器上小枝經闕金文十亦各
著錄一矛合以羅書共得六器銘文皆同形制相類殆均益都
所出也六矛俱特重大別有同銘之小矛三一見鄒劉二書一
見鄒書及周氏夢坡室獲古叢編一見小枝經闕金文器考疑
似茲姑不論大抵鼎解二斧之銘文為一組六六矛為一組文
字雖同筆畫有異瞻觀亭已歿無從質證但知此六六矛必有
數器由其經手者也

古器物之流轉本無定所益鄴雖出此器不必造器者原為此間族姓且同銘器物亦每出他方然既先後發現數次容與此氏族有關懷疑有年近南契金文字求之知此氏族確有一支歷夏商至周散居益都一帶其族即夏為之王室後裔也略以

284 (2109)

所稽撰為上下二篇上篇說氏族下篇釋字形

此項族徽器銘大別有四一祇單純族徽居出土各器十之七八一於下作父甲父丁諸號一於下署器主名一於下作國姓人名前三類無可考可考者為第四類中以杞婦陶銘尤為顯著其器著藏清宮貞松堂集古遺文八續殷文存上三代吉金文存十二均著錄蓋器對銘茲摹文器於左



古器銘如商婦鸞齊婦南等下署婦上為國名者甚多證以尹君婦壺皆為國君夫人此作杞婦亦同杞國姒姓夏代王室之後裔也傳世車器凡署氏族徽識者大抵為商器或周初器西周中葉以下則不復見此杞婦陶如說為周初器則武王克商

封禹後於杞固與相合若為商器彼時之杞是豈亦為禹後曰商代已早封之矣大戴禮少閒篇曰

成湯辛未天命……乃放桀夏桀教亡其後乃遷姒姓於杞殷敬順則子天瑞篇釋文引系本云系本即世本唐避太宗諱所改

成湯封夏後於杞周又封之
史記陳杞世家云

杞東樓公者夏后禹之後苗裔也殷時或封或絕周武王克殷封求禹之後得東樓公封之於杞以奉夏后氏祀

史記但言或封或絕知商代曾封禹後例如陳世家謂蘇子商或續索隱夏代猶封虞思虞遂是也世本則直言封杞大戴禮言遷姒姓於杞乃封杞之後并其王室俱往也周代之杞陳杞世家集解引世本宋忠注謂陳留雜郵縣周本紀正義及左傳杜注以下諸書俱

286(2109)

同即今河南之杞縣周封於此商封是否亦在此可以下辭微之殷虛書契後編上卷十三葉一版文云

已卯卜行貞王其田亡災在杞

庚辰卜行貞王其步自杞于口亡災

此版為祖甲時代卜辭但出地名不知在何處前編二卷八葉七版文云

壬辰卜在杞今日王步于商書體與商微異亡災
癸巳卜在商貞王踐鼎往來亡災于自北

上為帝辛時代卜辭言王於壬辰日在杞卜往於商次日癸巳即在商知商地距杞約一日路程據董彥堂先生帝辛征土方日譜為被壓諸之商在河南南郊附近今之杞縣距商郊百餘里較其遠近地正相當世本明言殷湯封夏後於杞周又封之

287(2109)

乃就原地重封周之杞在杞縣商之杞亦必在杞縣而卜辭之杞說者或疑為地名不必為杞國亦可以卜辭微之後編下卷卅七葉五版文云

丁酉卜獻貞杞侯規弗其骨同有疾

文云杞侯蓋即商代所封夏後之杞爵為侯規其名也此屬武

丁時代卜辭杞正為國而武丁夫人有署婦杞者殷契佚存四一八葉有骨白刻辭云

婦苞示致七包又一白賓











上為左骨白刻辭後編下卷二三葉有右骨白刻辭文同龜甲獸骨文字二卷十八葉亦有右骨白刻辭文云

婦苞三包

苞字近人或釋杞孫代甲下從巳巳古同字與已各異然古音

288(2109)

同在之部每以聲近通讀如入己之己即爾雅釋詁訓我之台
台音猶已也起從已聲亦讀若起杞或通用為粗見集以此推
證杞字亦可從已而此婦杞者殆即杞女嫁為武丁夫人與前
引之杞侯同時疑為姻婭且或如帝辛之九侯鄂侯並為朝臣
無怪武丁使史官為之占疾也
以婦杞為武丁夫人亦彥慶先生所考證杞或說為姓氏後編
上卷十一葉六版有殘文曰在杞亦從已即婦杞之杞正為
地名與前引地名之杞同例一字異體事本恒常知皆杞國之
杞若是可作一結論曰禹後姒姓之杞周代封之商亦封之且
均在河南杞縣既見於世本又徵於卜辭則杞婦商之時代無
論為商為周其杞俱為姒姓無可疑也說文月刊第四卷合刊
本六五至六七頁釋魄)

高家忠曰
 杞 三代二二八
 杞 貞續殷文存
 杞 貞續殷文存
 杞 乙未子 貞續殷文存
 杞 上二二
 杞 上二二
 杞 貞續殷文存
 杞 貞續殷文存
 杞 貞續殷文存
 杞 貞續殷文存

辛卯王... 其作圖于東封王錄曰去(林二二五一)
 〇 辛乙辛辛時期
 以醜為氏族名且昔醜字而以為是部之本字殷書中圖文
 字之一解其後漢氏亦讀作醜而以為乃此族名通考七
 意以醜一婦之字醜之文有前婦之文醜之文有之醜也其
 乃醜一問諸公之重要大事也又見甲數骨之文有之醜之文
 亦可以直接與十臣醜相連而為疑問也
 此等說大異者則為加藤博士之說博士以亞為惡之意惡醜
 乃惡之重言惡者即指何倭之人而以為乃王之側近之小臣之
 意也(河本定本書道一圖八五)
 亞醜之惡雖多然有其父祖之強者為也父乙父丙父丁父己父
 辛此較之故不能據其父祖之說而逆守其族之宗統以比

得注意以是包含之婦杞之族之事杞為夏商之後胤高相傳
 為姒姓與者則比較則有不該是者姒或名職而是若種屬於姒
 醜之語似也小詩之琴瑟有醜也亦不外是字故乃表示此為
 姒姓者之作可作爲醜中全有姒姓者之旁證
 醜字亦有單作意者故其主意在以有作醜明醜地亦醜酒專者
 此為表示醜酒之義故不得不記為字含有醜酒及醜酒之意
 之要素也據蓋為表示掌管供酒于神之宗教性職務者也蓋之
 右旁非鬼也而是有醜之女人之亦以矣得具醜味者則為醜
 又有
 醜醜也一日是醜也從女音聲讀若就
 醜可惡也从鬼酉聲
 收錄同音同義之二字从醜字觀之應以醜為正字而以醜為訛

方濬益曰：『筠清館錄此銘釋亞下為於，今按此文亦見於角，皆象人手有所執，疑大射儀司射揖扑之形也。』（綴遺卷五，三十頁亞形執扑鼎）

方濬益釋亞形人持扑形曰：『筠清館錄此銘釋亞為廟形，下為於，謂即說文一部之於字，旌旗杠兒从一从於，亦聲。按此文與於角末二字同，亦見是亞父乙爵，是為人張口之形，與於同意。釋於誤也。』（綴遺卷十六，九頁亞形持扑鼎）

吳大澂曰：『亞形下當即燕字之上半截象燕之形也，下作也象燕在巢形。』（憲齋七冊十四頁亞形燕字款）

高田忠周曰：『延彝文曰：丁未，覲實廷貝，用作父丰，彙亞，彙劉云末一字舊無釋，改說文匕部，赴从吳云：吳古文矢字，即此字。此』

左看从卜象發矢形，弓矢者男子所事也。古曰旌功，故彙亞多取以為銘。亞者疑其次弟之數，又有角文作亞，彙教文作亞，不舛文作亞，亦彙文作不舛，彙作不舛，大角作彙，皆可互證。此說為新出者，亦與古籀補釋彙為疑合。然今細審彙形，天斷非彙，依下文作彙，亦皆是彙，立人形，此別為一字也。蓋謂次从大手執物形，與金文矩字作次，大手執巨同意。卜亦當象規矩形，又上从土，疑从彙，省此為擬字。古文說文：彙度也，从手，疑聲。周禮射人注：行則止而擬度焉，易鼎：覆本君子以正位擬命，注：度也，繫辭：而擬諸形容，虞注：自上議下，倫擬漢書揚雄傳：常擬之以為式，注：謂比象也。蓋人有常典而可測度也，彙者常也，法也，書洪範：彙倫所敘，君夷茲迪彙教，注：法也，擬度字，當从彙，會意也。或云从彙，彙字省聲，亦通古音轉通也。說文：利未定也，从匕从吳。

吳古文矢誤實从匕，从彙為會意。又疑字从艹，故金文艹作利，疑从艹省作艹，也。又按秦詔版疑字作疑，疑亦與此文合，與說文作彙不合，說文誤明矣。古籀篇五十五第一二至一三頁

吳闓生曰：『亞彙彙彙恒見，舊釋旌旗之於，非是。鄭義數以為彙，形足必著个字者，彙中鐵形，蓋射疵以供祭，所謂一發五祀者也。甲文凡彙字必作貫矢形，隸書彙字猶挾矢于中，其遺意也。』（古文卷四第三〇頁規角）

柯昌濟曰：『亞長二字，商及周初時之金文常見之，今審其義，蓋紀古諸侯之爵次也。亞字之古訓有二：一訓醜，說文曰：亞醜也，象人局背之形是也。二訓次，說文引賈侍中說曰：以為次第也。王注引易繫詞：天下之至噴而不可惡也，釋文荀作亞，亞次也。』

尚書大傳：王升舟入水，鐘鼓惡鄭注：惡讀為亞，亞次也是也。吳即古疑字，亞吳之亞當訓次，為是疑者，官名禮記：文王世子曰：記曰：虞夏商周自師保，有疑丞，設四輔及三公，尚書大傳：前曰疑亞，吳當即係古代疑官之別稱，稱亞則當取再命之誼。考商代周先君有亞圉，殷有惡來，惡亦亞之假字，皆曾為殷代亞官者。詩大雅：侯亞旅，旅侯為維之說，字彙傳：皆訓侯為亞，官蓋周初尚存殷制也。尚書序有疑至臣，疑亦即金文之吳矣。論語：亞飯于次，三飯四飯之上，亦取亞次之遺。釋華二四五至二四六頁亞吳彙

王獻唐曰：『亞形在其它器銘中屢屢見到，宋人說為亞室，阮元孫詒讓說為敵，劉心源說為記次，王國維說為界，董泰書八體』

原委說是古押字殷周青銅器銘文研究說為文飾猶後人刻印加以花邊它的最初字形作「」小變為亞皆見于「辭金文」不如說文所云象人局背之形而是象四連的道路爾雅釋宮行道也「辭金文」作「」也象四連道路和它相仿只是一個開口一個不開口釋宮又說宮中街謂之壘說文也訓壘為宮中道表示這個宮道正是壘形所从的亞字明白可見殷代有亞形墓內作四出道路足為實證古音亞入魚部應讀如途即是途路的途字象形古文說文壘白涂也从土亞聲本音讀涂即涂抹涂刷的涂惡字同从亞聲應讀如吐是从厭惡吐棄聲音得名的這些字音現雖不須詳解已足說明亞字的本讀

金文把亞形用在族徽有何取義如說為押記既已有了族徽便等于押記何須重複如說為印章的花邊有些族徽并不寫

305 (2112)

在亞內而在亞外異器就有這種例子難道印章有單刻一個花邊的麼傳世諸器族徽中有全部不加亞形的有大部分加的有少數加的既然可加可不加似乎有無皆無關係但如西清古鑒諸書著錄一亞鼎只作亞形并无它字那能隨便歸上一個毫無關係的亞形為記同時各族徽中有很多亞字單獨占一地位不把族徽包含在內并且不相聯系異器也有這種例子若是毫無意義何必這樣任意一加偶見尚可托詞多則無以為解如是一定有作用的可能為一種特殊身份的標記武英殿書器圖錄引唐蘭先生說亞為爵稱他根據醜字的諸侯大亞辛已彝的天禽多亞鉄云藏龜的多亞并引尚書牧誓酒誥立政和詩載芣篇一些亞名說是亞與諸侯之稱相似金文亞形是作器者自署爵稱如果這樣現在異器的異侯徽識

306 (2112)

就是它的友証因為吳國明為侯爵且把吳侯二字寫在亞內并不是甚麼相似與否故說文曰王曰嗟我友邦冢君御事司徒司馬司空亞旅過去把御事二字依偽孔傳不連上讀實當合為一句御訓治先總呼一句說我友邦冢君的治事者下分舉其名為司徒司馬等否則御事不是職官名那能和它們并列這就看出亞為友邦冢君的屬下顯然不是甚麼爵稱能和諸侯地位相比相比就成了友邦冢君了

牧誓篇以亞旅連稱立政篇「司徒司馬司空亞旅」句法與同時載芣篇侯亞侯旅亞旅對舉這個旅并不是甚麼爵稱由連稱對舉句法推知亞也不是爵稱它的古本音讀途用在這個名分上乃以同音假借為另一意義的徒白虎通封公侯篇徒象也爾雅釋詁旅象也可見亞借為徒就等于旅統是象意

307 (2112)

連稱為亞旅對舉為亞為旅過去叫作對文有別散文无分但又如何知道亞為徒的借字上只說音現再說義說文亞醜也象人局背之形亞訓醜是對的許君必在故書中見到這種解釋才有此說不過醜字含有數義一為醜陋一為醜象爾雅也醜用醜陋訓亞亞是惡的借字亞惡古通借血楚文亞醜也漢書作用醜象訓亞亞便是徒的借字一個字因假借引申而有幾種解釋用這一個字訓那一個字也常帶去幾種解釋亞醜便是這樣許君只把第一義解說亞形又不知道它是借字才造為象人局背之說現在是用第二義來解說它的以醜証亞以象証醜音合義合斷然無疑醜訓象也不是醜字本義乃後出傳的借字古代沒造本字隨便以同音它體借用重重轉借造成這樣複雜現象

308 (2112)

這樣看所謂亞和旅當時並沒有高貴身份乃一般低級服役者而已人數既多又无正式名義只能類比而稱為亞稱爲旅這有甚麼證據尚書酒誥篇越在內服百僚庶尹惟亞惟服宗工惟亞的惟字猶及見經傳宋工爲尊官詩云漢傳宗事也言百僚庶尹及亞皆須服事尊官若是亞爲高級爵稱而不屬低級還能跟在僚尹以後來爲尊官服役麼其實這個亞幾句話就可以道破它既讀從便是周禮上所說的徒周禮每一官下類有徒若干人數目很多地位最卑鄭康成注此民給徭役者若今衛士矣它們先前作亞以後作徒因爲寫法不同才生出這許多波折

亞字既爲徒的借字應訓爲象那麼卜辭金文上的多亞就是多象隸書上的大亞就是大象詩泂水傳大訓廣大亞正和多

309 (2112)

亞一樣不能因爲稱大身份便隨着加大蓋文諸侯大亞是指諸侯的大象并不是大亞和諸侯并有相似因爲這位職的任職銘文指明爲治訟可以管諸侯的大象訟事管不着諸侯至于幸已葬主會多亞只是賞給這些服役的徒象一頓酒喝不能因爲喝酒就提高他們的身份

因此我無法同意唐先生以亞爲爵稱的說法他把金文徵識亞形來象征這種爵稱都不合他所羅列的證據但是在我也提不出新的正確解釋解釋而无實証倒不如關疑我只說明亞字的形音義至于把它用在族徽上前已指出并不隨便可能爲一種特殊身份標記器主有這種身份的才加否則不加因而同一族徽的器銘或加或不加這一點關係與器國族徽的吳字是有這種身份的

310 (2112)

以下再說吳字

這個字最初西清古鑒釋定以後孫貽讓釋希名劉心源釋吳奇觚室言海外中國銅器圖錄釋吳和疑有同樣音訓說文金文述紀未定也以七吳聲吳古文矢字又疑或也从子止口矢聲這兩條清代小學家有許多說法總是講不通因爲原文無法讀通經典只用疑字不見此體也不見吳體金文疑字疑解作疑齊史疑解作疑伯疑父蓋作疑古音牛讀若疑疑是之部字它的主要部分爲吳以牛注音从是會意確定吳音必讀爲疑秦代有許多始皇二十六年詔文機量出土器文皆有疑字一般作疑或省作疑和小篆體體差不多只是吳字人口方向不同筆畫也沒直貫上去似乎最晚在始皇時期吳字的大形已譌爲矢又把牛字譌爲子它是小篆體系經此一譌直到許慎

311 (2112)

作說文時竟無法解釋勉强說吳爲古文矢字不知矢音古入脂部列入之部聲并不諧同時在疑字下又把吳形分作兩起自相齟齬

卜辭有吳聲虛書契考釋說殆即疑字象人首旁顧形疑之象也疑意義很難用象形字表現表現也容易誤會到旁的意思上去不過吳音讀疑倒是正確的它在殷代既早有此體從來沒見故書上用過吳字而一般常用的吳字卜辭金文上也從來沒見過把吳字的音讀和吳對照正彼此相同再把吳形和吳對照又彼此相仿就很容易聯想到吳矣是一字說文吳語已詞也从矢目聲爲甚庶从矢徐鍇說矢氣直疾今

312 (2112)

試言矣則口出氣直而疾也這話過于牽強以後小學家類无解釋小篆疑字的吳形譌大爲矢這個矢字也是由大而譌曰

本作匕和口形相近一端再議合而矣變成矣秦刻石已有矣體又和疑字一樣最晚從始皇時期就錯下來了它的本形為矣作朱上面不是旁顧懷疑的人頭乃橫書口字从大从口會意大是人的正立象形與口字中畫合書成矣不合書成卜辭的不金文的亦這一會意字即後出的唉也就是欺誤從楚辭王逸注到後世字書類訓為欺欺義無法象形造字用會意辦法即从大从口這可以用欠无兩字証明說文訓欠為張口氣悟訓无為飲食氣并不得意嬰次盧次字欠旁作无石鼓文既字无旁作无下都从人上也从口只是和矣字人的寫法不同一個作正立大形一個作側面蹲踞形氣悟的欠氣并的无皆由張口發出的氣聲得名皆無法象形造字皆从人从口會意矣以同一類型字體証知它也是張口發聲其聲便是唉欠无

313 (2112)

代表的聲音各為一種意義矣字聲音又為一種意義蓋管不同在氣悟的欠時在氣并的无時在慨歎的矣時一般習慣多是把頭稍歪歪則口亦隨之而至因而這幾個字都改作象征的橫口橫口寫法早見于卜辭也還有側口那都有些隨便這却不然按口的方向說不是向左才能發欠聲向右才能發无聲矣字口向不拘欠无分了左右實不合理說文把它講作一友一正前引嬰次盧石鼓文就是友証卜辭也有許多友証可知欠无本是一字从同一聲紐轉成兩音有兩個不甚全同的意義以後各顧一音說文遂把它分作兩字和前面說的允以統是一條規律

314 (2112)

以上由字音字形字義三方面証知矣字確是矣後時矣為語已詞借義所奪又別造唉欺誤諸字至于金文疑字从矣从足

就是逸字玉篇逸逸也周代康侯圖蓋有逸體洛白逸專有逸體金文編列在附錄裏實都是逸以後用牛注音必定還有變音不得不注總之疑字本訓為進初只作逸从足矣聲周代前期金文用之以後加牛注音周代金文亦用之訓作疑惑乃是同音假借假借而小篆字又寫錯无怪說文沒法講通還有一件事卜辭金文矣字在人形的大字手中有「一種寫法象似拿着一物其形為「變化不一這是一根棍玉篇廣韻以來古本切讀棍的「正其象形古文字有些書體从「或只作「音訓與此不同一般是从旁「形體省變出來的現在定此為棍因有許多變體與它字不符同時又提在人的手手中或有指也合于持棍的姿勢不過棍有各式各樣所提除了直棍以外還有「式似是將就樹枝棍形作的也還有「式似是上

315 (2112)

有小橫木可以扶手無論何式它既和「同用証知通為「事在矣字各種書體中有持棍的有不持的亦有只作手形的又知持棍與否无甚關係如有先後或特殊意義則卜辭矣為一個人名就署了兩體前引亞矣合文各器也是一人所作仍然包括兩體可見持棍與否是隨便的這個隨便幾手和現在「一樣持手杖也是人不持還是人但由持與不持矣字遂分兩形持棍的有時把棍寫在一旁如父乙蓋的刻父己蓋的宋傳到後代又演變為小篆的貳形說文貳訓未定乃以疑義來同音借用本字正是矣不過為持棍的「體(黃縣吳器八七至九五夏)

316 (2112)

吳式芬釋亞形下於見據古「之一第四頁於此

李孝定曰此字說者亦多試辨之如下吳式芬釋亞形下於形釋亞不誤諸說亦無異辭惟其下明是人形何預於其誤甚明方濬益釋亞形人持朴形又謂天為人張口之形是也然猶未達一間吳闓生引鄭說謂其下為疾形亦與吳式芬之誤同惟肥解有別耳潘祖蔭釋為亞文甲或亞文合文釋交於字雖差近然其誤至明至釋持朴形為甲不惟有悖字形且殊昧於古文偏旁結構之理可以無辯吳大澂謂下字為燕字與前引二吳之誤同柯昌濟釋亞疑二字合文謂亞為古諸侯之爵次其說與唐蘭先生略同釋下字為疑余前亦採此說說雖不誤然未明所以為疑之故並詳下文高田忠周釋下字為疑蓋沿此字諸家釋疑而得此新解實則此字手所執者不一其形或作一或作丁或作一並與金文矩形作I者不同且有手無所作

317 (2112)

持者又將何以擬度乎王獻唐氏之說最真卓見說亞字音為使義為眾微引賡洽其說可以惟竊謂以王氏之說釋古籍中之亞字固是然金文圖形文字之亞未必皆具此義似可與郭氏印董花邊之說並行不悖也釋下半之牙為疾之古文謂即疾之本字其說可以因為語已詞之矣疑詞之疑並假借也又竊疑許訓飲食氣逆不得急之无與此當為同字特在古文一从人一从大从人者專有飲食氣逆之義从大者轉變為疾而嘆詞之義不行降及後世遂分造形聲等之嘆誤二字一訓磨而一訓可惡之詞矣馮敏倫釋下半為說文畢字篆字所从之哭亦即毛公鼎肆皇天亡不之哭說非許書之哭及鼎文之哭均从目而此从側書之口固迥別也从目从口古文無相通之例

318 (2112)

周法高曰王獻唐謂亞讀如途惡讀如吐於聲紐不合亞惡紐途讀古音定亞當讀為衛錄古根爾雅釋宮四達謂之衢亞字字形似之倫敦大學中國藝術與考古學教授漢斯福特(Hans F. Pottinger)謂高本漢謂亞形為球形之圖繪當亞形出現時可能解作宗廟見高氏所著 The Pictorial Collection of 漢氏從 Carl Hartog 之說認為亞形



象殷代安陽陵墓之形四面有墓道說文亞訓醜而醜之字形亦出現於銅器中見漢氏所著 The Pictorial Collection of 漢氏謂金文亞形象墓道之形與王獻唐謂亞象墓道途之形亦有近似之處說文六下口部亞宮中道从口象宮垣道上之形詩曰

319 (2112)

室家之壘壘字下半似亞字隸定亦作亞足證亞為道路之形
 刻心源曰宋一字著無釋改說文上部匙从吳云吳古文矢字即此字此左旁又从一象發矢形弓矢者男子所有事也古臣族功政葬器多取巨為形亞者疑其次弟之數又有角文作亞天鼓文作亞齊版文作亞齊爵文作亞吳與作亞大角作亞皆互證(金審卷五第十八頁此舉)

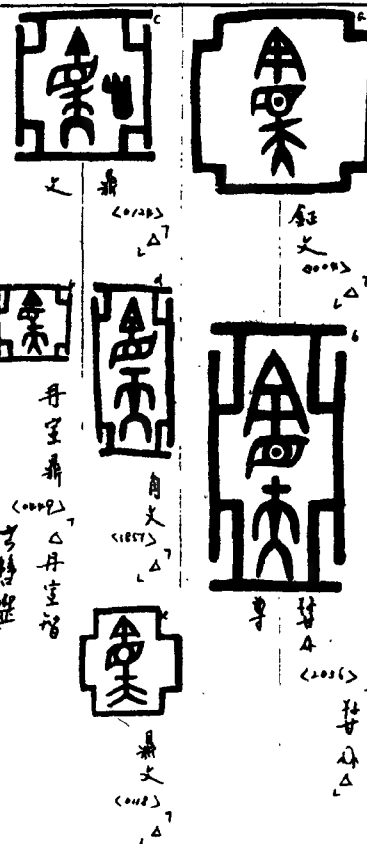
320 (2112)

字亦不一義有用為邊錄且界其中字行及勅象者如今人祭
書之有星錄既非篆文亦無志數漢晉魏沈尚沿其迹故其形
作亞亦作亞篆文皆在其中而外無一字如亞專祖己亞之類
是也有用為亞字者如亞父丁虞亞守鼎婦壺及亞鼎之亞弓
亞夫亞由之亞泉又有單一亞字如古鑑第六亞鼎者或為人
名或為次第皆未可漫有用為面之象形字者如連仲解之作
父丁寶圖亞為面而置八於其中蓋專之變異者阮氏乃
釋為亞中八是述形豈其然乎又有字行之中偶參一亞字而
其中復作字者如虎父丁鼎則必當讀為亞不得云亞形中某
某也此鼎亦然吾讀王復齋數識見幾獻之釋亞父丁虞臣亞
為古獻字謂是罔已相背阮氏臣弟字駁之引據雖詳實自援
也豈知讀為亞字之更直捷乎△即且字用為祖杜也詳書作

325 (2114)

△即即見字戊寅父丁鼎見耐作案與此合博古圖刻見之
目合上△字釋為召且見之下體為夫題為召夫鼎各家皆承
其說不知見之下體猶可釋作夫且命為召義無微辭阮氏於
召台專引古商書品字改庚午父乙鼎展品中鼎先品交鼎先
品中尊大品本皆省字其上體亦非从△辭所引必唐宋人誤
呂鍾鼎文中省字為召而集入商書者汗簡不收蓋知其誤矣
阮云或謂亞中是且見二字且古文祖始也子始見于父廟而
作亞其說未可據今案且見二字篆形甚確惟不當讀且為祖
始清錄金文月形自亞因釋作廟形中庚又引吳子並云此非
庚字審是甲見二字甲始也子始見于父廟而始其蓋此據中
之象形釋之亦不且為召夫二字矣(古書卷一第四至五頁冊
命鼎)

326 (2115)




吳榮光釋廟形中庚曰庚者名也子者紀月也辛者紀日也詳
望廟月為歲生明之形則紀日也吳子並云此非庚字蓋是甲
見二字甲始也子始見於父廟而始其器也其說亦通阮若臺
師謂凡廟形口四面之堂也乃四堂之後相連之牆也即若


327 (2115)

工記所謂白盛盛者城也(清卷一第四至五頁商月形自)
b方濬益釋亞形中并夫曰亞形中舊釋皆作召夫今按上一字
以伐卻鐘冕作圖象故自作商證之亦冠加於首之形今冒下
而銳上當是弁之古文說文宵冕也从兒象形象籀文從上
象形或體為象與一同意小由人與今亦同象形故疑為弁
之古文詩甫田突而弁兮傳曰弁冠也釋名弁如兩手相合拊
時也與今之象形正合同禮司服凡兵事章弁服既朝則皮弁
服公羊宣元年傳已練可以弁冕注曰皮弁武冠爵弁文冠禮記
雜記大夫冕而祭於公弁而祭於己注曰弁爵弁也是弁之為用
朝祭兵事皆服之亞則廟朝之形也又檀弓大夫也為習於禮
者注曰大夫猶言此丈夫也據此則此二字當釋弁夫猶陽門




328 (2115)



介夫注曰介夫甲衛士也（綴遺卷二十六二頁亞形壺）

孫詒讓曰「金文又有上害下夫字甚多如自文作口足跡鼎作
此右作足跡形習口專作金文又自文作金末册命父癸
鼎作金末册命父癸二字殊無義據今以釋字證之乃知其為一字蓋易石形左聲為上聲下形金文凡作此字者多集
亞於其外或為人名或亦即地名皆無可實證要其為一字亦
無可疑也（名原下二四頁）

孫詒讓曰「金文亞中著此字舊釋為召夫此文金文恒見如
後召夫足跡鼎亞形召夫尊召夫自
一文並畧同今攷金文為憲之省後伯憲金憲作可證
一畧夫疑當合為一字後伯淮父畧云伯淮父來自畧似亦从





329 (2115)

當从夫當作者疑害之變
此字猶散衣盤有濫字又作以憲字亦从害
省可互通也據畧文禮當為地名此或與彼同但說文無禮禮
二字音義不可攷耳（餘論卷一第一頁召夫自）

高田忠周曰「按舊說亞形中召夫二字即謂亞同是皆字
與召通用然自別字愚謂此果从夫从目目見古通用
此相即規字無疑此亦規器象形說詳規下然亞室中有規
又有止字此當與亞相涉而為文義也規者法度也止者步也
步而用規規以兼矩與準繩之義此所以經營宗廟室亞之意
可見矣（古籀篇一第一四頁）

高田忠周曰「按與憲字所从害作用相似而細審自見分別
愚謂从目猶从見說文見部規字觀字古文皆从目可證又从

330 (2115)







夫則為規字說文規有法度也从夫从見从夫猶古文互字或
作从大同意也但彼象人手執正其意顯然此唯从夫目會
意稍遠今見此篆上有形此當與正同意孟子規矩方圓之
至也詩河水序規者正圓之器也此亦實規形也故此可以為
正圓與以正為正方理相合矣此篆即規字古文無疑也因
凡金文古籀有亞亞字愚謂亞廟基也亦即規字變者度也工
師將營廟基執規矩以測度之意然此云規被此似相涉者
矣愚嘗讀為憲夫二字非今訂正云（古籀篇三十九第二一頁）
沙孟海曰在宋人圖錄已釋為召吳氏因其舊說而
已按古文召字凡有三式





A 之屬孫詒讓云字皆從召

B 之屬（吳大澂說）






331 (2115)




C 之屬

與皆無纖毫近似處即以遺小子敦（卷二之三）蓋中吳
氏釋為招之字此文孫詒讓定為憲蓋確吳錄自云據
薛書父丁爵戊命葬晉姜鼎為之然皆
不相似吳所舉三文皆上列第一式之屬也與君夫敦卷三之
一24蓋吳氏引許瀚說釋為招之字來相比擬亦復絕不
相類召夫之召為誤讀明矣




古器物文多作亞形大抵年代較遠文字較簡之器物有此
家著錄皆定為商器殆是介乎圖畫與文字之間所謂
也中央四角界畫玲瓏彼此摹倣蔚為風尚求其指意必非許
書所繪象人局背之形阮元云凡廟形四面之堂也
乃四堂之後相連之牆也即考工記所謂白盛盛者城也此言



332 (2115)

良是說文  宮中道從  象宮垣道上之形蓋猶有亞形之遺意又清館金文有元舉元字下作  又有羊字上作  皆象重屋形而上列第四器亦有  文象室形可以見古代華器自有繪刻堂宇圖象之風習側面平面并見疊出而既元之言於焉獲多方之左證一定而不可易矣


亞形中所含之文可分三部第一器并有足跡形足跡形即止字前說已詳在此或為人名或安一足以示人所履之地皆未可知錢坫謂取子孫基址相承之義太委曲上古作品無此與義也頂作  象酒肉豐盛形中從目寓鬼神鑒臨之意下從夫則主祭之人所謂一夫授田百畝即一家之主也此三文之構合通與祭字合三文會意相同說文祭從示以手持肉此為以手奉饌  目猶示意也甲文祭作  以羅振玉謂


333(2115)


象手持之點形不一皆象酒也又金文或作  亦  逆敦卷二之三 40 葉上象堆肉之形尤與  近似


 之為字吾人無從追識如上所述則知雖造端於繪畫久亦必有定名(口頭指呼之名)於是第二個音遂成立( 大從目從夫目與夫各有其本音此為第一個音即新字從而產生焉厥後演變分化約有兩系

A 取其上截者讀老憲(古音第十四部)

 伯憲(卷二之一 55 葉)

 召伯父辛鼎(卷二之三 50 葉)

 邢人鐘(卷三之一 19 葉)

 楊敦卷三之二 34 葉


由是季乳而為形聲字者


334(2115)


散氏盤(卷三之三 37 葉)


說文

B 取其兩端而移置之者讀若夫或舒(古音第五部)


 伯淮父敦(卷二之三 69 葉)



 通鼎(吳錄無)



 捨鼎(吳錄無)

 王孫鐘(吳錄無)

由是季乳而為形聲字者

 季宮父簋(吳錄無)

(註) 獨清館金文摹邢人鐘  作  釋為用焉二字大誤

(註) 散氏盤又有一  字蓋  之省文或釋滄非

335(2115)

第一系諸文吳錄原釋或作富不誤或憲亦通說文無富字竊意古代恐有之說文憲從心目害省聲當云從心從富富亦聲詩憲憲令德禮記引作顯顯令德而邢人鐘亦云穆穆秉德中富聖(原釋聖字顯富聖即顯聖也)古書簡移寫多從當時隸體增加偏旁如詩營營青蠅止于楸(據說文引)今本作止于樊又舊鳴于垣(據說文引)今本作鶴鳴于垣疑古書所有與顯同訓之憲字本皆富字也

與富形近者有富字金文作  三畫兩長一短兩長畫連上

(形之兩邊與  首同形詳後)

第二系第一文吳錄闕釋第二文以下吳錄無不必言矣諸家釋此文多作舒款識中用此文者非人名即地名又其字從夫而  亦作  (說文富重文)亦從古聲作  (金文

336(2115)

中習見字今隸則從甫聲作蓋然則 **𠂔** 縱非尉字其音必在第五部之內可知也

由 **𠂔** 而省為 **𠂔** 其左文遂變為害字此之核變或則本無害字即省 **𠂔** 而成之或則先有害字書 **𠂔** 大字者望形而涉誤望形涉誤此為中國文字變遷史上一大原則例如甲文得作 **𠂔** 從貝者也說文已為從見而作 **𠂔** 甲文金文中皆從 **𠂔** 說文已為 **𠂔** 而作 **𠂔** (從法本已更正) **𠂔** 形近林隸 **𠂔** 作 **𠂔** 形近艸隸書 **𠂔** 作 **𠂔** 其在六朝碑誌乖舛益甚石門銘之鑿作鑿李超誌之質作質元詮誌之旅作旅元維誌之容作容與紅鐘峯等字叶韻望形之誤其末流可笑如此

𠂔 或釋為舍或釋為周象證諸說知其必為害字而舍周皆

337(2115)

非周上作 **𠂔** 或作 **𠂔** 或作 **𠂔** (此文或以為害字從無圖旁者後來著錄家早知其謬無煩贅說矣吳錄猶有一處釋 **𠂔** 為周而鍾鼎字源周下收一 **𠂔** 字此亦 **𠂔** 字也不足信釋 **𠂔** 為舍差有理由意然釋其識文除用作人名外其餘諸句皆不宜用舍字如叔多父敦云用錫屯乘受 **𠂔** 福三之三 **𠂔** 叔家父敦云用錫 **𠂔** 眉壽黃耆(吳錄所無)又如無專鼎云用 **𠂔** (此文增)尚書中所習見)疑 **𠂔** 字與句同意非刀也眉壽萬年(卷三之二)葉其釋為害字(最作 **𠂔**)者皆是釋為句易介亦皆通假字惟舍乃不詞又按秦刻石燭害滅除之害作 **𠂔** 惟將金文改形使方并不增損一筆下畫亦特短於此又不能不疑許書中聲之失言矣(中山第五冊四〇八一至四〇八二又四〇八四至四〇八八頁據古錄釋文訂)

338(2115)

c 柯昌濟曰 **𠂔** 釋召夫誤甚古召字不作是形自有其字作 **𠂔** 者伯憲蓋 **𠂔** 字亦省心作 **𠂔** 與此字正同知此亦 **𠂔** 之古文矣 **𠂔** 从心殆後起字从兩手从一即筆形下从目或取憲法筆書目觀之 **𠂔** 蓋夫之詞又見憲夫方彛疑古官名周禮小司寇憲刑禁布憲憲憲邦之利注皆云憲表也憲夫或司憲之官稱止 **𠂔** 未詳 **𠂔** 華八九頁憲夫鼎

d 馬叙倫曰倫按亞形中召夫孫詒讓疑 **𠂔** 為害倫謂孫說是也 **𠂔** 堂集古錄有商召夫鼎作 **𠂔** 與此同此夫字壞耳說文憲字從害得聲而說文無害字今本說文固多後增之字亦有遺失之文然倫考定說文本於漢之倉頡篇及楊雄所作訓纂篇訓纂順續倉頡二篇皆敘學童之書說文亦為敘學童而作本二篇而變其體例二篇所無之字說文不為之增故雖經傳常字

339(2115)

說文每不錄也其無害字蓋亦由此害者今謂目無明曰瞎之本字瞎從害得聲此從目害省聲害為舍之異文舍本象形作 **𠂔** 上象屋宇下象基也害字叔家父敦作 **𠂔** 毛公鼎作 **𠂔** 害叔設作 **𠂔** 師害設作 **𠂔** 以圖畫象之當作 **𠂔** 知與舍一字瞎從害得聲而音入曉紐舍音審紐審曉同為次清摩擦音又從其音可證者也今害音入匣紐曉匣同為古根摩擦音音又轉耳散盤滄滄並出實一字異體亦可證也大人夫皆一字大音定紐夫古蓋讀如扶故記言夫者扶也扶音章紐古讀歸並並定同為濁破裂音古讀大聲或如杜故淮南子記宋謠大與下韻說文之干步實一字干步則大夫之鼎文也詳疏 **𠂔** 鼎蓋五夫用百字即賸此五人用百鈞也大鼎之善大即膳夫矩叔作中姜壺跌臥皆即說文之矩皆可證也蓋由初文大天作 **𠂔** 夫

340(2115)

其形相似避與之同乃變為夫耳富夫即富人左傳言替誦詩
周禮有上替中替下替則替人為古職業之一猶今算命卜課
之瞎子矣此器替者所作也刻詞三九頁至四十頁富夫角

馬叙倫曰倫按亞中復書足字者此富人為足代也刻詞五四
頁富夫角

阮元釋亞中召夫見續古卷二第十五頁召夫角

容庚釋金亞形中見書圖一六四考釋四二頁金角

李孝定曰此亞形中一文舊多釋召夫釋召大誤夫字柯昌濟
氏已辨之方濬益氏釋并夫亦非方氏以金文冒作是

341 (2115)

此字似是而實非蓋於字形無徵也吳榮光釋庚字審此字與
金文習見之庚字絕不相類其誤甚明又引吳子榮說釋為甲
見二文申字卜辭金文均作十與此迥別釋下字之甲為見於
古文偏旁大人相通之義似合然見字卜辭金文多見竟無一
从大者何以此獨从大已不可解且他文有作缺者明不得割
裂此文讀為甲見二字也此字當从缺諸讓為缺諸諸氏之說
之說以四形柯昌濟氏辨此文上非非召字極是說亞形捺阮
元說並引說文諸字証之亦是按諸字許訓宮中道王獻堂氏
讀亞為徒見前文下其意蓋謂即今途字亦與柯氏之意相
近惟柯氏又引祭字說此文之形體謂象以夫奉饌神目鑒臨
則殊迂謬柯氏又讀此文上非為憲為害為舒與諸氏之
說合見下然與其前說以祭字說字形者相刺謬足見柯氏於

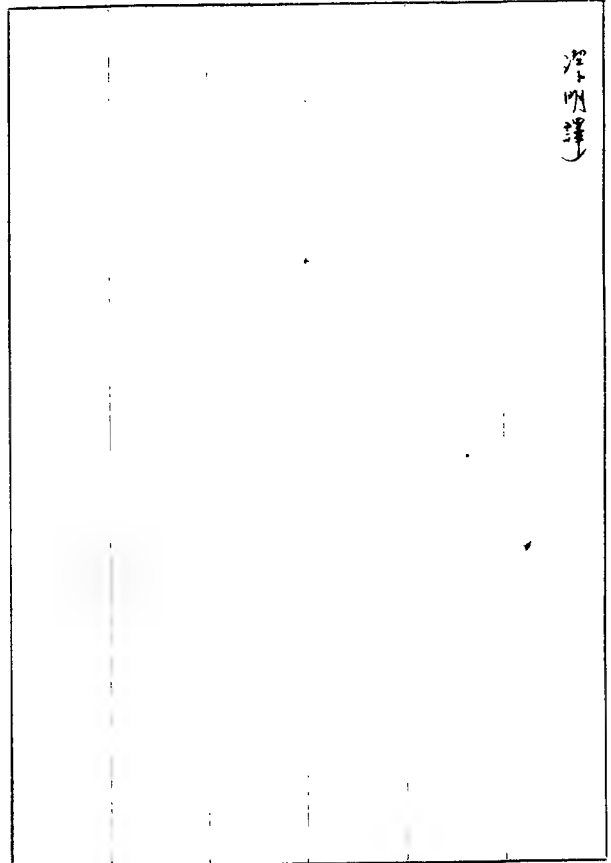
342 (2115)

此字尚無的解也高田氏釋此字為規蓋謂上非之角象規形
而另一半則為規字按古文偏旁中且見無相通之証則下半
釋規已為臆說且上非亦非規形其說之誤甚明諸諸讓釋此
為當謂當為憲之省且疑與下夫字當合為一字是矣而猶未
達一間惟馬敘倫氏釋此為害夫二字謂害即瞎之本字害夫
即周禮左傳之替人其說可從馬氏又謂害从舍得聲此字上
半即害之象形亦是字或作害即憲之所从憲固从害得聲也
金文受害福用割眉壽萬年害眉壽萬年並當讀為句也
唐蘭曰胡原作缺銅器上常見此字古書作胡周王缺缺即缺
是周厲王胡自稱其名為缺通觀和缺侯之孫鼎的缺侯是胡
侯銅器中的蓋銘文中常稱為臣就是左傳哀公十一年胡
之事胡而季宮父蓋為作壓从缺師觀鼎所說的缺德應釋

343 (2115)

為胡德和德禮士冠禮的永受胡福詞例同胡有大的意思此
處得戎缺顯然是戎胡不娶蓋說戎大同从追汝汝及戎大敦
搏與此語法正同可見戎胡就是戎(文物一九七六年六期三
九頁用青銅器銘文來研究西周史附錄)此條應入1368條因正
周法高曰馬氏釋為害夫似非因金文中另有缺字(1368)余讀
為舒亦假為屬王名胡之胡與此字形相異之處在於此字中
為目形而缺字中為圓點作缺此二字形或有關係唐蘭讀
1368之缺為胡以為胡奴之合音似非因1368號有缺侯自古未
聞胡奴或胡為侯也唐蘭說附見于後

344 (2115)



349(2117)



父己

父己

父己

父己

父己

父己

父己



父己

父己

父己

父己

方濬益釋亞形中析其曰說文箕黻也从竹甘象形下其刀

也甘古文箕省身亦古文箕甘亦古文箕其指文其指文

箕此文作 亦古文變體可補許君所未備(綴遺卷五三十二夏

亞形父己高鼎)

加藤常賢曰 殷文存卷上

這亞字形中象形字集上的圖畫文字和非形正好分寸

不差有這圖畫文字的器物也絕不在少數它要怎麼讀我們

以為該和底下的圖畫文字作一比較

350(2118)

(六) 續殷文存卷上

吳字一般本於集韻上聲五旨的

古國名衛宏說與杞同

而定此銘的彝器為杞國器物不過依這些器物有亞字看來

我並不無條件認成杞國器物特別像

一 吳中作朋生飲壺句三壽懿德萬年

貞補上三七

二 中子吳河作父父丁尊彝萬年

續殷下六九

三 晉姬作吳齋鼎

綴遺二七七

這些吳是無法解為杞國號的其他吳公吳伯子姪父等我也

無法認作杞國號方濬益綴遺齋否定杞國說而主張杞國說

綴遺齋款識卷

十四十六頁 我也不能贊從這個說法這如果讀通了

的亞形裏的字大概就會了解了說 的己是紀的本字當

351(2118)

也可以不過這兒還有個極富趣味的說法朱士端彊識編卷

三有一篇叫己為古文飛字肥妃等文從古文己字得聲考的

長題目的論文如同開頭所謂的

嘗聞之石臚先生曰肥本作肥從肉從己己古文飛字士端

謹私叔叔先生之教而申其義

它只在證明王念孫肥妃偏旁的己是飛字古文之說其中非

跟己有關係的一條我們引述如下

說文非部彙別也從非己聲此即許書從古文己聲之遺上

以形同下以聲同例或如此說文彙下存己聲字吉光片羽

誠可寶也

己是飛字古文王念孫所言未見其詳竊感遺憾以王氏的學

問不致於發表空疏的臆念所以就算己本身或不是飛字由

352(2118)

於古籍中假借同音字是常見之例這總可以構成己字和飛亦即非字同音的證據的我們有趣地單從這一點也可以曉得己的己跟非同音而且彊識編卷三還載着王念孫說文注的佚文其中說

妃配王云當有己字妃配等字從此得聲己即古飛字也

配的己又與妃同不錯而配字的金文今天我們幸運地還能看到它即

𠄎 毛公鼎

𠄎 宗周鐘

𠄎 柏鼎蓋

從上頭順序看下來我們當可明白由己到己的轉變吧那麼己字字形不是飛它本字是己是象屈服了的侑僕人之形我們應該清楚了

把這個想法應用到己的己就是音非而象屈服的人

形那麼己與兩字讀為非其大概是沒錯的所以有了這見解再看𠄎的話讀𠄎為非其義上的非讀為非大概也可以吧不過這證據仍不免於間接我們打算進一步舉出直接的證據來

那就是裴和輔字說文裴

多數的說文注家把它解成了秘即為輔王弓的彎曲而在弓兩側裝上的木頭朱駿聲却不同他解釋道

夾車之木也 (通訓定聲)

認為這是為了使車上載貨不致掉下來而從兩側夾住貨物的木頭二者都把從兩側夾起來的木頭叫非而重要的是這兩解雖未能獲得輔的真義以非為兩側相夾非字的真義是

得到了不過非形是什麼並不能由這兒直接證明若解通了輔之為物從而𠄎代表看什麼形狀大概就能明白了而在我們探求輔之為物時說文輔字的解釋既不正確說文各注家乃亦無明解對左氏傳僖公五年的解釋

輔車相依唇亡齒寒

左氏會箋說

輔兩旁夾車之木也 (洪武正韻)

夫車所以載物輔所以夾持車上之載

和前舉裴字的朱說一樣指夾住貨物的木頭但金文非的形狀並非木棒所以這解釋是用不上的不但如此它連輔車相依的話也解不了朱駿聲則只說

裴車兩傍以防助者可系可解之木其制未詳 (通訓定聲 輔字下)

所謂可系可解是本於詩經小雅正月篇的

其車既載乃棄爾輔 無棄爾輔

就是能解取下來的東西輔還不單指撐木陳奐

輔撐輿之版也大東傳箱大車之箱也方言箱謂之輔爾雅

裴輿也裴輿輿通輔即箱矣大車撐版兩置諸兩旁可以

任載今大車既重載矣而又棄兩方之版則所載必墮 (毛詩

說輔是由兩旁夾住貨物的版子我們認為這兩版就是此刻

所討論的非的形狀從外形上再從它也音輔這點上看來

這樣的比定就無差錯吧

豎起兩側對向的版子這才能變成箱車而叫它箱叫它輔也叫它裴服拿輔造成箱車而能坐居這才稱得上輔居相依又因這個輔可以解取下來解取下來時就冷得無法在裏頭坐

根據以上我們認為「非」與「匪」同音而同義歸類到底它是指
 何形的人么？非也好運來非其也好友正都是一樣的由
 此我們當可明瞭非與匪是同音了。中國文字十三冊六至
 九頁非字

李孝定曰方氏釋亞形中新異二字釋異是也釋非為折仍沿宋儒之誤疑為从其月聲或置之古文也加屮讀非為非並引王念孫說謂己為飛之古文遂謂非己同音響己曰同字其說支離似有可商非或單作𠂔乃𠂔之古文實非非字至謂配字乃从飛之古文得聲又引金文配字為証考金文配字从乃乃人尸諸文之異構稍變其形亦得作𠂔則為尸字尸乃𠂔之

古文故篆文之配又臨从己其義乃不可說說文以配从己聲清儒多疑之遂有王念孫氏己為飛古文之說然據字形固無由証為飛之古文也

子集
<0096>
子集

飛中車

小臣系
荀
(2699)
文

三才

父乙

4186

1

1873

○方澤益曰：編修（按陳壽潛謂）為肘有縣韋之形，二手奉中矢之象也。潜蓋按此文，缺是紀投壺之事。禮記投壺曰：投壺之禮，主人奉矢，司射奉中注。天所以投者，也。中士則度中也。射人奉之者，投壺射之類也。今按首一字又為手，一為矢，次為兩手奉中也。（續遺卷二十六、二十四頁）

吳大澂曰云陳星齋曰肘有懸幸猶後世之索筆是齋二十一冊十六頁父乙角

劉心源曰：『疑是『寸即』或『寸即』寄舢卷六二二頁又角。』

丁佛言曰ㄅ父乙角陳蓋齋曰肘有懸韋猶後世之橐韋案
从二又相交疑友字異文許氏說友相交文友也 中附父乙角
疑史字之繁文吉補補附錄四頁

強運開曰由父乙亥角象兩手奉中形容庚說殆亦史字所見甚是（吉攝三補卷三第9頁）

C馬叙倫曰。倫檢金天尤字。每作又。九實肘之初文。又蓋即說文之寸字。乃肘之次初文也。又猶手也。故說文專為布手之布。本字而從寸作。從寸有持執及為義。此似嘗以又為連讀。即作極者也。忠與貴同。父乙豈作極而兼作中。或執中者耶。或淑其族。

徽與(刺詞七九頁至八十頁父乙角)

王獻唐曰又作_レ為右手它蓋亦作_レ証知_レ亦猶_レ當是也形把末二畫寫成(橫)古文字中常常遇見鄭說仲蓋(一器)蓋既作_レ又作_レ就是一個手形例証木父士鼎父字作_レ也是將_レ作_レ只少寫了一個手指并非从寸鼎為般器那時還沒有寸體由此聯系森固和父乙父角都是般代一個人作的有同樣徵識作_レ鼎還有一個父字陳介祺說_レ為肘有懸韋之形方濬益說又為手_レ為矢現在看來_レ和_レ文相同也是用作_レ把末二畫寫作一筆_レ即史字單手執中為_レ變手執中為_レ這樣_レ鼎就是又史也就是右史以官名聯合父字作徵識(黃縣吳器三一至三二頁)

361(2119)

李孝定曰亞形中所从其下一文各家均釋為史是也其上一文則各家所釋不同吳大澂陳壽卿釋為肘有懸韋方濬益釋為手執矢形劉心源謂疑尤或寸字丁佛言疑友字王獻唐釋又謂即手字亦即右史合文馬叙倫氏釋肘竊謂字从又而於肘間着一斜畫乃肘之古文推事字也馬說可从字非又字亦非兩又相交古文手字多見亦無如是作者諸說似皆未安

362(2119)



𠂔



𠂔



𠂔



𠂔

𠂔

𠂔



𠂔

𠂔



𠂔

𠂔

𠂔

𠂔

𠂔

𠂔

𠂔

𠂔

𠂔

𠂔

阮元曰邦說文古文作_𠂔此_𠂔字下體田字作_𠂔表城郭之形是古文也(積古卷五二十頁子變兒統)

吳大澂曰_𠂔阮相國釋作邦說文邦古文作_𠂔字_𠂔字作文父乙兒統(古篇補附錄二十頁)

高田忠周曰此篆即昔字阮_𠂔說為是但下形作田亦田字變形古布幣文會字所从田形亦有作田者可證矣上作出即_𠂔

363(2120)

之省變國非城郭象形(古篇補附錄二十第七至八頁)

郭沫若釋_𠂔見兩改九七頁自鼎

李孝定曰此_𠂔甲文_𠂔之異構卜辭_𠂔為語辭與使字同其音讀當為_𠂔釋_𠂔釋_𠂔似均未安字在全文或為人名或為地名_𠂔白川靜曰_𠂔未_𠂔天以_𠂔是_𠂔有_𠂔卜文之_𠂔即_𠂔之_𠂔字謂_𠂔卜文所見之_𠂔族之_𠂔代也_𠂔吳_𠂔氏在其新_𠂔權伯連_𠂔考一文_𠂔論及此_𠂔以_𠂔為_𠂔邦之初_𠂔即_𠂔說_𠂔邦字下_𠂔邦_𠂔國也_𠂔邑_𠂔手_𠂔摩_𠂔等_𠂔邦字_𠂔在_𠂔文_𠂔其_𠂔字_𠂔形_𠂔與_𠂔近_𠂔以_𠂔為_𠂔邦之_𠂔異_𠂔文_𠂔乃_𠂔到_𠂔建之_𠂔禮_𠂔有_𠂔國_𠂔字_𠂔也_𠂔

史記三王世家_𠂔子_𠂔封_𠂔建_𠂔之_𠂔際_𠂔則_𠂔從_𠂔生_𠂔國_𠂔都_𠂔長_𠂔子

364(2120)

之木社之壇取得之色色之上色茅以賜皇子。作為名封
國之國社之墓。chavannes 氏注意到此禮與西歐之封
臣下恩賜象徵封領之土地與木板之封是假任儀式相
一致。按蓋亦如 chavannes 氏之想像在西周時代曾有
恩賜木板與土之封是假任儀式。此中即表示其木板與
土地者也。蓋蓋亦為封領方便而將下部之根與土色起
之幼木之首之形也。故

此一子釋甚為有趣。然蓋之下部最多見于召字之變文蓋字中
在召字中乃置尊之台序之形。全文編四。又釋作定之字亦以此
形。且其上亦有寫作與蓋字全同者。同二。又所謂蓋醜形
之初文中亦有此字之下部者。亦是置酒器之台序之形。同八
夏。故此字與其是色木根之象。亦即是與樹木于器中之象。為

近
被認為是殷器之專名。解中亦有所有蓋之款識之器。可知在殷
代諸族中有為置職系者也。更本是置賓宗社性儀禮之職。為
殷之族型。一。蓋字之變文蓋字。全文之圖象款識中多有用不形
形。而亦形者。主要為與祭祀之禮或軍禮有關之物也。故表示
樹木于禮器之台序之形。似亦與某種儀禮有關。更形。所以為
亦可以此與理解之。殷器子足父乙配中此字同作也。見

子足才。蓋字父乙。代。一八二〇。

子足之足上下作从口尺之形。恐為殷之王子蓋在蓋中。其
禮儀禮之際作此蓋者也。蓋蓋在殷王都附近之地。則本宗所
見之蓋乃其地之族周初任作冊之職。協助康侯經營衛地而獲
賜貝。因作此蓋者也。見據氏以此一作冊蓋讀為作冊邦。以為蓋

與康侯手鼎之康侯手為一人。曰。
作冊之名字蓋可讀作邦或封之一係。則是康侯與蓋具
賜之臣下封二人蓋在。故以此引起以一作冊封或邦與康
侯封藏之所謂康侯封者是。蓋同一人之疑。問……同
人之名。而用蓋係字。在西周金文蓋非稀有之事。故作冊
邦即後來之康侯邦。乃同一人之事。蓋非不可能。
於是見據氏引諸家之說。以為康侯。王孫。中。父。伯。父。
其名。或亦與其行。蓋有。同。乃同一人也。曰。

王孫。中。父。伯。父。皆字。康侯。伯。父。亦非名。而。同。為。其
轉化之字。也。其。不。為。封。或。邦。不。外。是。作。冊。邦。也。作。冊。邦。最
中。康。侯。命。作。冊。邦。子。孫。之。記。事。乃。適。周。書。之。康。侯。封。建。于
殷。中。康。侯。封。建。于。東。之。就。事。相。應。康。侯。即。康。侯。邦。即。中

康侯。其。後。為。康。侯。康。侯。邦。非。又。被。稱。作。康。侯。蓋。為。也。故
以。康。侯。蓋。之。果。為。之。蓋。為。介。者。解。作。與。此。一。作。冊。蓋。為。同。一。人。作
冊。蓋。其。後。為。康。侯。邦。之。說。從。周。初。之。器。中。之。作。冊。多。為。東。方。事。之
氏。故。一。事。思。之。又。從。周。書。之。蓋。感。無。任。作。冊。之。例。而。言。為。尚。有。疑
問。也。尤其是以。不。照。解。作。命。作。冊。蓋。于。孫。全。與。銘。辭。所。述。不。合。
通。觀。周。書。為。款。識。之。器。則。其。族。無。疑。乃。在。殷。都。附近。之。東。方。事。氏
族。一。如。不。康。侯。殷。中。諸。伯。遠。在。康。侯。之。孫。下。協。助。之。作。冊。蓋。為。在
協助。康。侯。之。說。也。之。以。故。也。而。以。此。種。事。實。為。背景。康。侯。中。對。稱
他。殷。人。之。事。持。別。語。態。起。述。之。理。由。方。可。理解。也。《金文通釋》
四。輯。一。九。一。一。一。七。一。頁。一。五。作。冊。蓋。蓋。林。深。明。譯。
以。康。侯。思。曰。蓋。蓋。古。音。讀。說。文。
經。國。也。從。邑。手。聲。蓋。古文。

而釋此字為邦在卜辭中當土為祈年之對義

頁，自本年于當五（前四一七三）

王國維釋以當土曰

蓋以田字聲與邦之从邑字聲，福支社之从丰聲同，邦社

（土即祭法禮記之國社，漢人謂邦改為國社，古當稱邦社

也）（殷禮微子）

然當亦存疑也

戊申卜貞，弗肯不于當，八人當五人（前四二四）

又有作當字者（宋三〇九八作當）

頁，當其（古方）（續三七三）

而當在殷王朝時，如以下卜辭

壬申卜，敵頁，當畢，（前四四三）

頁，當其，（續一三六九）

丁酉卜，敵頁，我受，當籍在明年三月（乙二一五四）

丁酉卜，也頁，當能于明年（乙三二一三）

從事于田獵，祭，特別是農耕祭祀，又其地名亦見于卜辭

庚申卜，在當……王步于（前二八四）

在殷末，為王之巡遊之地，尤其是

乙亥，其，其，衣于，也，通兩在當，十一月（續上三二）

辛未卜，貞，今丁，小，也，庚，十月在當（宋三一七六）

乃舉行祈年祭之地也，更據

甲戌卜，貞，也，當，祭，年，貞，當，受，年（乙六五一九）

則為與殷王國關係甚深之國也

而當乃田中草堂之祭，雖是以半為聲之字，自以受

370 (2120)

369 (2120)

蓋亦可釋為邦字，然若从字形之近以推之，則商字為當之訛變

也，當正如前述乃國（圖）之音符，當是與國相通之字也，前田圓之

商當是从諱，小雅車攻之東有商草之商，生長茂盛之草，即商字

生之之誤也，故今不拘于說文之字解，而釋商為商，當為其繁文

也，此外有以商與商為同一地之說，然商與商為不同之字，不

同之地也

商族，商國，在其地有殷王朝，行祈年祭之商田，其臣民服事于

改而得其名，當止為設于其地，以行祈年祭之土壇也，以此解作

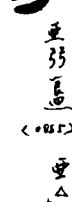
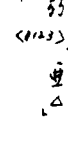
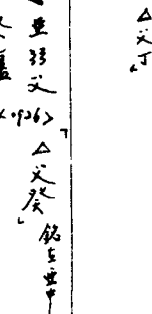
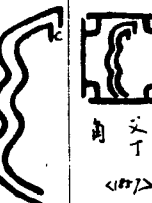
邦社，蓋不適當（殷金文考釋七九一八〇頁，又見既四林澤

明）

父丁年（前四二四）

父丁（前四二四）

父丁（前四二四）



方濬益曰：彝器銘，弛弓形，習見，舊說皆以為偃武之意，此雙弓形，亦見亞弓，傳詩小戎，交，二弓，傳曰：交，二弓于，中，也，按說文，部，首，有，弓，字，開，宮，二，重，弓，傳，亦，曰，重，弓，重，于，中，也，按說文，部，首，有，弓，字，云：疆，也，从，二，弓，兩，字，从，之，此，文，應，是，弱，之，傳，形，（綴，續，卷，六，十，四）

372 (2121)

371 (2120)

頁亞弓父癸敦

d 吳大澂曰：『象形，即古弓字。』
二頁

c 柯昌濟曰：『象二弓，即古弣字。』
一五七頁弣父癸敦

d 柯昌濟曰：『弣，說文：強也。从二弓，凡弣之屬皆弣。弣，輔也。重也。从弓，因聲。弣，或如此案，此弣之弣，似是官名。尚書大傳：古者天子左曰輔，右曰弣，可正而不正，責之輔，可揚而不揚，責之弣。』
曰：『亞弣亦亞弣之類也。』
卜詞有弣字，亦為官稱。
二五頁亞弣尊

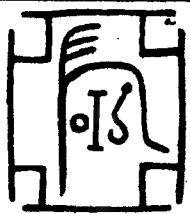
373 (2121)

d 馬叔倫曰：『倫按舊釋亞弣，然金文弓字無如此作者。說文有弣字，王國維謂即儀禮既夕禮有弣之弣，本字，鄭注：弣，弓聲，弣則縛之於弓，裏備損傷，蓋弣所以輔弓，形略如弓，故從二弓，其音當讀如弣。』
丁山謂初文當如亞父癸敦作弣，倫謂此即弣之初文也。今說文音其兩切，在羣紐，弣音奉紐，古音歸紐，紐羣同為濁破裂音，聲轉耳。其轉注字為弣，其兩切即弣之音轉，尊文作此，蓋置器者以造弣為業也。
(刻詞二三頁至二四頁亞弣尊)

374 (2121)

楊樹達曰：『弣字羅振玉釋為弓，余謂說文有弣字，王靜安說為弣之初字，其說至確。然則此是弣字，羅釋為弣，誤也。』
(續徵一二四頁亞弣鼎跋)

李孝定曰：『亞中一，文諸家釋弣，可從。』



利貞



文丁
(1977)
文丁
△

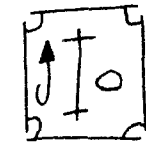
吳其昌曰：『
1 甲 乙 齊 貞 松 補 遺 卷 二 頁 二 十 五 2 父 乙 解 卷 齊 冊 二 十 頁
十八 3 妹 解 貞 松 補 遺 卷 二 頁 十 九 4 父 丁 貞 殷 文 存 卷 二 頁

376 (2122)

375 (2121)

二十二 刺自般文存卷一頁四十六 抄叔彘嘯壹册一頁二
九 丁父已自薛代卷三頁六

按以上皆象鐵鑄之類而下垂綴綴長線之形也所以知者第一形象顯有無待錄詞其二則第二第三第四第五諸字其原銘如下



皆在一亞形之內上有旗旗之形旁有一工字工義斧也旗旗與斧皆軍用之物則此形自當與之同類亦兵器屬矣

377 (2122)

一端鐵鑄之尾繫有長線之證也又文選吳都賦稍衛哨石而遇鐵劉淵林注鐵戈綸也又淮南說山訓好戈者先具鐵與鐵高誘注鐵大綸以上皆鐵又名為綸之證也又淮南說山訓高誘注又云鐵短矢又淮南倣真訓鐵機而在上高誘注鐵戈射身短矢也又呂覽直諫宛路之鐵高誘注鐵戈射短矢又漢書司馬相如傳上鐵短矢出顏師古注鐵短矢也以上皆鐵短矢之形鐵鑄甚短之證也又說文云繫生絲縷也易遯卦正義引呂忱字林鐵生絲縷也又漢書司馬相如傳上鐵鐵施顏師古注又蘇武傳武能紡鐵縷注並同是鐵或綸以生絲為之之證也此形之形正象鐵短矢之尾繫有長線之狀亦象鐵鑄甚短之狀故確知其即為鐵短之鐵短矢矣或有釋此字為虫字者物篇雖不能謂為繆誤然實因由字作

379 (2122)

其三然則此形之形者果象何物之狀乎按諸經典則此通象周禮司弓矢所列八矢中鐵短矢之狀也周禮夏官司馬司弓矢云鐵短矢用諸弋射鄭注結綴於矢謂之鐵按鐵短矢之特狀為(一)鋒鐵之尾繫有長線名之為鐵亦名為綸(二)鐵鑄甚短(三)鐵或綸以生絲為之何以證之周禮馬融注云鐵繫短矢謂之鐵廣雅釋詁四繫鐵也文選西京賦簡鐵紅薛深注鐵射矢其絲名鐵其昌按此說與古訓互易文選賈誼弔屈原文李善注引如淳云結綴于矢使之升高以射飛鳥文選張華鶴鵠賦序李善注鐵繫箭線也又後漢書班彪傳上班固西都賦李賢注鐵弋矢也鐵以繫箭也又後漢書趙壹傳李賢注鐵以縷係箭而射者也又詩女曰鷦鷯弋鐵射也正義鐵射謂以縷繫矢而射也又詩盧令正義出縷繫矢而射為謂之鐵射也以上皆第

378 (2122)

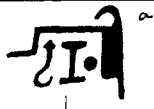
如魚乙水中有虫其虫字正作个及鄰公勛鐘陸時字所以之虫字亦正作个个可以為證而其字形通與鐵短矢之个形相類故疏略者遂致混為一字耳其實虫形自出形鐵短矢形自鐵短矢形不得混蓋以明珠為一也(武大文藝季刊卷一期二二〇至二二三頁金文名象疏證)

380 (2122)

李孝定曰亞形中乃於虹二字合文吳氏釋為鐵之形博引故書中鐵短矢之文實無與於釋字吳氏又謂字亦此形然不得相混按吳氏後說不誤(五形一字乃从虫聲即今虹字吳文有)字各家均釋虹余釋覓卜辭云有出覓自北飲于河是為人以虹覓為有生之字與今民間傳說相合故其古文从虫取其象也虹覓經文乃人象之一種故字又以

日工則其聲也。今字省日存虫，乃其體。它文省日與今文同。
 下²¹²⁴亞虹合文，其所从偏旁作[?]。
 明是虫字不得以增失視之也。
 唐蘭曰：「²¹²⁴殷文存下廿二亞，旌父丁角，舊不識，今按從[?]從[?]，²¹²⁴是旌字又見殷文存上四十刺，尙作[?]，與[?]同。」（導論下編三十九頁）

381 (2122)



亞 姓 許 孤
 △ 姓 許 傳 莫 依 三 中

參閱²¹²²條吳其昌說

李孝定曰：「²¹²²亞虹二字合文，參閱²¹²²條。」

382 (2123)



△ 乙 乙
 △ 乙 乙



方濬益曰：「²¹²⁴籀文作[?]，上象由有髮之形，卽[?]之變，下象足形，乃子字。」²¹²⁴按薛氏款識有爵銘文與此同，乃釋為中，謂卽中之古文，殊謬。又邾訖鼎銘子孫孫字亦作[?]（綴遺卷十九十五頁子爵）

參閱²¹²²條吳其昌說

李孝定曰：「²¹²²亞虹合文。」

383 (2124)

唐蘭曰：「²¹²⁴貞松堂集古遺文一卷廿三亞虹，²¹²⁴舊不識，或誤為恆字。今按從日，止虫是恆字。又見憲齋集古錄廿十八亞虹父乙，解作[?]同。」（導論下編三十九頁）

384 (2124)



父丁
△父丁

李孝定曰亞與合文

385(2125)



作父己解
△父己
障重

李孝定曰疑為亞示合文

386(2126)



鼎文
△父己

吳榮光釋鼎形中右曰右即佑字从又从口說文手口相助也
今俗別作佑是銘蓋取佑故後人意而字則从本文耳或疑為
之省文謂入戶奉廟銘以自徵其說未確吳子茲釋作后云與
故通字通接后字从尸从口當作后今反列从又作且顯為佑
之本文右字釋作后亦非是(翁清卷二第大至七頁商方鼎)

馬叙倫曰倫按亞中之又吳式芬無釋吳榮光作右然非也倫
疑此是鑿之初文又即手也C亦手也說文巫字所從之(一)即

387(2127)

兩手金甲文之亦每作C此作C亦省變也手連於手擊
之閒蓋會切脈之意疑作此器者乃醫人也(刻詞十八頁至十九
頁亞鼎)

李孝定曰亞本合文又字从又从口乃指事字當釋本脈之古
文也吳榮光釋右按小篆以前右均作又無从口作者且此亦
非从口也吳子茲釋右尤不類此不从尸馬氏釋鑿更難於應
說矣

388(2127)



父丁叔
(0102) Δ' 父丁
叔
(0103) Δ' 父丁叔
(0104) Δ' 父丁叔
(0105) Δ' 父丁叔

卜徐同殆釋手執之形器形曰儀禮少牢饋食禮康人擺觀觀
之與叔注之所召之泰稷者也詩大東有採棘之傳之所召
載鼎實是銘之有器象鼓形設為泰稷器則之通泰稷之也
也(从古卷十四三十五頁高父丁叔)

方清益釋持之形四形曰說文部首之相與比敘也从人匕亦所
以用比取飯一名和木部相匕也周禮玉府角枕角和鄭司農
注角和角匕也以楔齒檀記喪大記小臣楔齒用角和疏和角
為之長六寸兩頭屈曲此文屈曲下垂與禮記孔疏合下為四

正象取飯器中之形(綴遺卷十六八頁亞形持之父丁叔)

吳大澂曰手執調羹之器(憲齋十七冊三頁父丁叔)

李孝定曰諸氏說字形均近是金文蓋字多見率皆作此
亞中所从疑仍蓋之異構

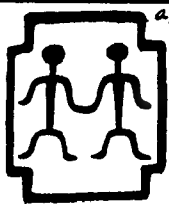
390(2128)

389(2128)



父丁叔
(0102) Δ' 父丁
叔
(0103) Δ' 父丁叔
(0104) Δ' 父丁叔
(0105) Δ' 父丁叔

李孝定曰亞中所从不識為何字



父丁叔
(0102) Δ' 父丁
叔
(0103) Δ' 父丁叔
(0104) Δ' 父丁叔
(0105) Δ' 父丁叔



父丁叔
(0102) Δ' 父丁
叔
(0103) Δ' 父丁叔
(0104) Δ' 父丁叔
(0105) Δ' 父丁叔

金祥恒曰叔康書果後編下第十九頁第四片有察字孫海波
甲骨文編入於附錄不知其為何字就其字形而言从人
皆象人正面端立之狀後者多繪一手耳今檢商周彝器文字
共收有作 者見三代吉金文存十五有作 者見三代
吉金文

392(2130)

391(2129)

存十五卷二十並從兩穴竝立攜手之形後者亦攜手而作
 七頁第四已對並從兩穴竝立攜手之形後者亦攜手而作
 則與甲骨文同維甲骨文作空首形而已空首與填實其形異
 其義同猶丁之作口與說文解字竝併也从二立而立又云
 恒也从大立一之上徐鍇曰大人也一地也立象人正面立於
 地上之形而竝亦象正面比肩並立之狀甲骨文或作𠂔如殷
 契據續第八五片竝酒之竝作𠂔从二大或作𠂔如殷契佚存
 八七八竝酒之竝作𠂔从二立與說文解字同說文解字比之
 古文作𠂔段玉裁注云按蓋从二大也二大者二人也則𠂔與
 甲骨文之𠂔同矣比許氏訓密也二人為从友從比而
 从訓相聽也从二人段注按從者今之從字從行而從廢矣而
 從許氏訓隨行也从二人象人一前一後前後隨行維繪側面
 之形比亦如此故許訓从相聽也比密也比之古文作𠂔

為並之古文恐後人誤入耳(中國文字十五冊(頁釋疑))

李孝定曰亞中一字金氏釋並可从說文比之古文作𠂔夫部
 有𠂔乃伴侶本字並从二立比古文从二大𠂔从二夫其義均
 同並比𠂔亦一音之轉如以字形言此从二大以釋比為是至
 作𠂔者余舊釋𠂔蓋古文臂形下如並者手指者必示其
 手之動作此文其一偏旁並繪手指不得以二大視之也



解文
 𠂔

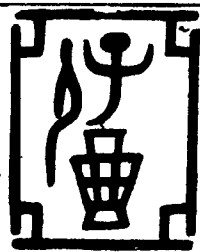
商承祚曰𠂔字見甲骨文上虞羅師謂即牧字(十二野十
 大頁微解)

李孝定曰此文羅氏釋牧可从



解文
 𠂔

李孝定曰亞形中一文从行从矢从角不解其義



夏文
(0657)
△7

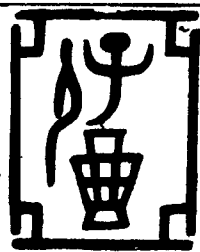
李孝定曰：亞形中，保酉二字，其義未詳。



父
立
平
蓋
(1914)
△
父
平
△

徐同柏曰冕上象鰐弓形兩旁象圭塗紃纁形亞為廟室位此象者如周禮司服王高先王衮冕言先公鵠冕公侯伯子男狷卿大夫助祭服自衮冕而下遞降一等皆是（从古卷十六夏商父辛盃）

劉心源曰石鼓文六響字篆作巛比較省耳又攷說文籀文子
作𠂔解云因有髮𠂔臂脰在几上𠂔𠂔召伯虎敲甲子之子作
𠂔即𠂔子孫父乙卯
榮盤尊𠂔卿原之變省者宗周鐘南國及
巛阮釋妻未合巛即籀文子又从𠂔為𠂔古文𠂔為𠂔鐘文實
三刻要見



夏文
(0657)
△7

李孝定曰亞形中保酉二字其義未詳。



父
立
平
蓋
(1914)
△
父
平
△

徐同柏曰冕上象鰐弓形兩旁象圭塗純纁形亞為廟室位此象者如周禮司服王高先王衮冕言先公鵠冕是公侯伯子男狷卿大夫助祭服自衮冕而下遞降一等皆是（从古卷十六夏商父辛盃）

劉心源曰石鼓文六響字篆作巛比較省耳又攷說文籀文子
作𠂔解云因有髮𠂔臂脰在几上 𠂔召伯虎敲甲子之子作
𠂔即𠂔子孫父𠂔乙卯𠂔郎原之變省者宗周鐘南國及
巛阮釋妻未合巛即籀文子又从𠂔為𠂔古文𠂔為𠂔鐘文實

學字凡學名余謂此亦可讀學請買博足說文子部學下籀文
 作籀文知阮釋果誤（奇觚卷六三二頁善盦）



馬叙倫曰倫按費舊釋據說文華子之篇文作𦵏因以為華字貞
松堂集古遺文十有𦵏父甲爵羅振玉據甲文子作𦵏亦釋


為華字為子之轉注字豈此作𠄎與子同𠄎亦猶𠄎耶然倫疑𠄎為𠄎之異文即說文之𠄎字此乃由象形之𠄎變為篆文所

致舊釋脫焉自有體字孫詒讓謂疑是舊之體則其非尊字明矣蓋造兗者之家也（劉詞七二頁父辛益殘蓋）

楊樹達曰徐氏同物釋曾為昆形吳式芬據古錄金文堂之
式卷八葉上一釋為孽方濬益蝦蟆齋棄器考釋拾肆卷廿葉下如字

書之吳大澂憲齋集古錄拾肆冊廿四葉上羅振玉殷文存下冊並
黑釋劉心源奇觚室吉金文述陸卷二釋作鑿又謂可鑿鑿

劉體智小校經閣金文玖卷四六葉釋作子按釋冕形及釋鑿者皆非是以字形論吳式芬釋尊劉心源後一說讀尊者最爲近似以說文子部尊字古文作此銘作似古文尊之省形政也然仍以劉體智釋子者爲得其真惟劉氏無說余今爲明之

鬻字以鬻爲因戴髮之形說文十四篇下子部記子字籀文作鬻。云因有髮臂腰在儿上而八篇上匕部鬻字下亦云因有髮。余謂此鬻卽鬻也。但字形繁簡異耳。因字今讀息晉切或當以爲疑。余於三月間跋因父己卽謂因古音當與子同。息晉切之立目必非古音。說已詳彼跋矣。本書一五五頁彼卽銘云因乍寶樽彝父己。蓋卽即是子與父己爲對文也。此鬻字復从故者。故爲古茲字。茲與子古音同。加聲旁絃以表字音。猶尸之加干作序。岡之加亡作岡也。

學字凡學名余謂此亦可讀學請買博足說文子部學下籀文
 作學知阮釋果誤（奇觚卷六三二頁善盦）



馬叙倫曰倫按費蒼釋據說文華子之篇文作𦵏因以爲華字貞
松堂集古遺文十有𦵏父甲爵羅振玉據甲文子作𦵏亦釋

為華字為子之轉注字豈此作𠄎與子同𠄎亦猶𠄎耶然倫疑𠄎為𠄎之異文即說文之𠄎字此乃由象形之𠄎變為篆文所

致舊釋脫弓自有體字孫詒讓謂疑是鼎之繼父體則其非尊字明矣蓋造兗者之家也（劉詞七二頁父辛益殘蓋）

楊樹達曰徐氏同物釋曾為昆形吳式芬據古錄金文堂之
式卷八葉上一釋為孽方濬益蝦蟆齋棄器考釋拾肆卷廿葉下如字

書之吳大澂憲齋集古錄拾肆冊廿四冊上羅振玉殷文存下冊並
黑釋劉心源奇觚室吉金文述陸卷二釋作鑿又謂可鑿鑿


劉體智小校經閣金文玖卷四六葉釋作子按釋冕形及釋鑿者皆非是以字形論吳式芬釋尊劉心源後一說讀尊者最爲近似以說文子部尊字古文作此銘作似古文尊之省形政也然仍以劉體智釋子者爲得其真惟劉氏無說余今爲明之

鬻字以鬻爲因戴髮之形說文十四篇下子部記子字籀文作鬻鬻云因有髮臂腰在儿上而八篇上匕部鬻字下亦云因有髮余謂此鬻卽鬻也但字形繁簡異耳因字今讀息晉切或當以爲疑余於三月間跋因父己卽謂因古音當與子同息晉切之立自必非古音說已詳彼跋矣本書一五五頁彼卽銘云因乍寶樽彝父己蓋卽即是子與父己爲對文也此鬻字復从故者故爲古茲字茲與子古音同加聲旁絃以表字音猶尸之加干作序岡之加亡作岡也

吳式芬釋亞形中尊見據古一之二第八十一頁父辛盃殘蓋

方濬益釋亞中覬見綴遺卷十四第二十頁亞形父丰蓋

楊樹達曰按說文十四篇下子部尊或作𡖤此銘作𡖤即𡖤
文尊字或體之省形亦尊字也尊與子古音同古蓋本一字蓋
銘以尊與父字為對文乃用為子字也（續微一五六頁點假再
跋）

李孝定曰徐說亞形中冕形無據契文冕作即今克字以
段為脫免之免故又製从同克聲之字以為篆文耳此形與冕

不類馬氏以為光字亦非吳式芬及劉心源後說均釋尊可從
楊氏又從而為之辭謂李即子並舉貞銘自作寶磚葬父己謂
自亦當讀子與下文父己為對文說有可商按葬銘某作寶尊
葬某必作尊者自名不以父子對稱也此文但釋為尊可已不
必與子混為一談





鼎文

阮元曰：斗古阜字。說文饔字籀文作𡗗，彝器銘譌𡗗等字皆从𡗗。此爲阜字無疑。通作阜。詩天保云：如山如阜，所以祝壽者也。阜有高厚盛大之義。作器以贈子孫，爲頌禱焉。禾所以養人也。薛氏歎識有禾父己鼎，說文禾字从木从収省。収象其穗，此正作穗。収之象是禾形也。（積古卷一九頁阜禾鼎）

方濬益曰阮文達公釋亞形中爲阜形禾形今以此器審之殊未確而薛氏款識有隴彝積古款識有隴尊其文作誥皆與此

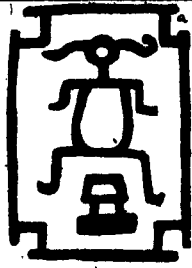
相似乃並釋為臨以吳清卿中丞兩壺尊銘證之一从尸作隤
一从尸作隤是隤為隤之形變隤又此文之形變也（綴遺卷五
三頁亞形隤卅）

馬叙倫曰。倫按舊釋亞中牟禾形非也。蓋明是虎字。象伯毀作
𧇧。師賈毀作𧇧。甲文作𧇧。𧇧可相證也。𧇧為說文之𧇧字。
𧇧非手甲乃祖之初文也。甲文有𧇧。與此同。尤可證也。此即說
文之虐字。從𧇧虎者。捕虎也。說文訓為殘也。非本義。亦非本訓。
也。古書暴虐字。蓋借為報殺書。五虐之刑。曰治墨子作五殺之
刑。殺是本字。虐是借字。虐即得聲於虎。虎音曉。紐殺音審。紐同
為次清摩擦音也。此虐得借為殺之證。虐之本義止為捕虎。引
甲則為按止之義。鼎文作此。蓋製器者。業捕虎也。劉詞二九夏𧇧。

虎鼎

李孝定曰方氏釋b.c兩形為鼎。可從。至謂有作值者為鼎之形變則有未安。作值者當釋獻非一字也。馬氏謂a形一文為虛字說有可商。按卡文與虎字之形相遠。則實為阜字。不得釋為也。

405 (2135)



亞
(2136)

李孝定曰亞中所从上文為人首者弁之形下文乃高字其義未詳。

406 (2136)



𠂔
(2137)



𠂔
(2137)



𠂔
(2137)



𠂔
(2137)

高田忠周曰按亞中有此字下云皿此與下皿合專同作可識矣此篆較專文左从牙不可疑右又从𠂔但字書無𠂔字此造文耳或云此玉篇𠂔字𠂔為通用然彼似為顯異文而許書圓無之未足信也若強為說𠂔亦𠂔字牙字有𠂔義可以會意存疑俟攷云(古籀篇九十一第二三頁)

407 (2137)

李孝定曰𠂔形與另三文當亦一字从皿从牙另獸形未審何字。

408 (2137)



鼎文



第 2 章

李孝定曰亞形中大。𦣻二文大作。人象久走時兩臂搖動古文奔走字皆从之。𦣻人字从目从矢其下从大者乃矢之譌字當隸定作𦣻。玉篇以𦣻為𦣻之重文。說文𦣻開闔目數搖也从目。𦣻聲。𦣻字古文𦣻矢形近故从矢者亦得从𦣻。𦣻訓進亦與矢義相因。莊子庚桑楚終日視而目不𦣻。釋文𦣻字又作𦣻同音。𦣻動也。呂覽其視萬世猶一𦣻也。𦣻為先出會意字。𦣻𦣻則並後起形聲字。玉篇以𦣻𦣻並為𦣻之重文。說文則有𦣻無𦣻並失之。

409 (2138)



人口

(0942)
入口

阮元釋形中足跡形龜形足跡形箕器形曰案禮禮器考僕以龜滿寶鄭注云古者貨貝寶龜大夫以下有貨耳易曰十朋之龜是寶龜惟天子諸侯有之由虎通云天子之龜尺二寸諸侯一尺大夫八寸是卜龜也政職氏守龜有僕司作器刻龜形重世守也或曰此與特貝同意然龜主守貝主用又微有別也（稽古卷二十八頁貳數）

410(2139)

李孝爽曰阮氏謂亞形中足跡形龜形足跡形彘形說有可
商足跡形實是足字亦即是字古足是一字也龜形與金文契



文已畢




$\langle 001 \rangle$
c-axis

李孝定曰此不可識

412(2140)

文龜字均不類說非馬氏以龜形為貝亦與古文貝字不類至謂脫履入水取貝則更鄰於想像矣此不可識

馬叙倫曰倫按舊釋亞形中龜形足跡形與器形穴口或謂兩足及口當是咎字倫謂咎字雖見金甲文釋此則不當

檢衡改鼎鼎字作金文鼎字每同貝之象形文錫鳳貝齊貝字作倫疑此銘之亦衣貝形口是履之初文刻有兩足而中有貝下有履蓋此器為取貝者所作脫履入水也(利詞一三五頁父口款)

411(2139)



子商 𠂔
 𠂔
 𠂔
 𠂔

阮元釋形中差乙曰：差者進獻之義。說文云：差，从羊，羊所進也。从丑，丑亦聲。又云：丑，紐也。此銘差字从丑，丑字正作交紐形，觀其文可知其訓矣。（續古卷二十九頁子商）

方濬益曰：續古齋款識有子商，銘亞中作𠂔，與此文同。阮文達公釋為差，其說曰：差者進獻之義。說文云：差，从羊，羊所進也。从丑，丑亦聲。又云：丑，紐也。此銘差字从丑，丑字正作交紐形，觀其文可知其訓矣。清益按：此釋甚有義意，今從之。（綴遺卷

十九 三十頁亞中乙爵）

吳大澂曰：亞形中𠂔，阮氏釋作差。說文云：差，从羊，羊所進也。从丑，丑亦聲。又云：丑，紐也。此銘正作交紐形（審齋二十三冊九頁亞形乙爵）

強運開曰：𠂔，羊爵羅振玉云：象以索牽羊之狀。古籀三補卷四第四頁）

高田忠周曰：按阮氏云：差字，差者進獻之義。說文云：差，从羊，羊所進也。从丑，丑亦聲。又云：丑，紐也。此銘差字从丑，丑字正作交紐形，觀其文可知其訓矣。此攷非依卜辭有光，甲作繞，甲之例此云繞乙，亦即光乙也。然此字从糸，光聲，可知唯其義不可知。

414 (2141)

413 (2141)

耳又此篆字即𠂔之省變。下文可證（古籀篇六十九第三五）

馬叙倫曰：倫按舊釋作爲結倫，謂此從羊從糸與𠂔同字，故甲文作𠂔亦用爲羊。此言牧羊乙家也。（刻詞四十頁亞乙爵）

馬叙倫曰：倫按舊釋子商亞形中差乙，釋爲爲差非也。有字見甲文，與此實同，從羊而有糸之蓋，叙之異文，羊乙作器者之名。（刻詞八四頁子商）

吳式芬釋結見續古一之二十六頁亞乙爵

李孝定曰：吳式芬釋結，殊誤。不足辨方者，蓋吳大澂均从阮元說，釋乙差亦非。字不从丑甚明也。馬叙倫釋羊乙近之高田氏

釋光乙，引甲片文光，甲証之於說爲長。惟字與光字亦微別。高田氏謂係𠂔之省變，亦未敢遽定也。

416 (2141)

415 (2141)



父乙尊



父丁尊

阮元曰：侍御（按江秋曰：鳥下倒矢，蓋田獵獻禽之意，元謂亞為兩弓相背，中置矢鏃，旌武功也。說文嚴字解云：象嚴之形，此正作雀形，鬱邑之酒，先實於奠，而嘯以入爵，此奠而作爵形，明其用也。）（稽古卷一，二十三頁，亞爵父丁集）

馬叙倫曰：吳式芬曰：許印林說：搦本干上似虎形，筠清脫倫按：孫詒讓謂干似華上為小鳥，張翼當為手執畢弋形，或當為獸之省，倫謂此說文之禽字也。從又持畢以取鳥，小篆諱此為今諱，為鳥甲文作，省又耳，禽為控之初文，亦今作擒者之字，爾雅三足而羽謂之禽，說文禽下曰：走獸總名，皆非本義。詳疏：鼎文作此者，蓋製器者以取鳥為業者也，舊釋亞爵

父丁彝之與此同刻詞十八頁禽鼎

李孝定曰：阮氏說此為兩弓相背，中置矢鏃，旌武功也。此作雀形，鬱邑之酒，先實於爵，其說支離，無當於製字之旨。馬氏釋為禽，其義是已，而其字則非羅振玉氏釋契文之為，羅見增訂殷虛書契考釋中四十九頁唐蘭氏以為非，別釋為雉，並引金文此字亞形中一文為証，見天壤閣甲骨文存考釋二十八至二十九頁。陳夢家釋契文之字為離，羅唐陳諸說並見拙編甲骨文字集釋四卷一二六九至一二七一頁。引今按：陳夢家之說是也，羅氏謂是離之本字是也，謂離羅同字則非，蓋二者祇是同義字，其構字之意亦同，然謂即是一字則誤。一从岡，一从甲，即今罕字，即由罕衍變而成，岡之與罕，其用雖同。

其物各別，羅更增系以文字衍變之例推之，例當後起，離字象以罕捕鳥之形，與羅同意，其引申義為遭，詩新臺：鴻則離之，先爰離離于羅，傳箋均無釋，王逸注楚辭：離騷者，猶離憂也。於離亦無解，然以文義推之，離之訓遭，訓被，訓羅，昭然甚明，蓋此義為漢人通語，無煩辭費也。後又引申為離別，字離別之與遭遇，其義相友而實相因，是亦猶治亦訓亂之比也。離又尊乳為羅，亦猶尊乳為羅，羅既專遭遇一義，許君乃以離黃倉庚訓離，其說實誤。後世離專離別一義，雖為離之引申義，然實較許君之解為勝。吳金文此字之解，當如馬說，蓋以捕鳥為業者之族徽也。甲骨文離字多訓遭遇，辭繁不具引，見為邦異編殷虛卜辭錄類四。七頁有一辭為地名，乙八一四云：貞王狩離，蓋即離氏之封地也。



古文

李孝定曰：亞形中一文似木而於枝頭着肥筆，疑即葉字，葉之古文也。



父乙解
<0221> △父乙

李孝定曰：此不可識。



父乙解
<0221> △父乙

方濬益曰：亞形中為尸形（綴遺卷二十三，十頁亞形父乙解）

吳式芬釋亞形中子見據古一之二第五十九頁亞子父乙解

方濬益釋作亞形中大曰亞形中為尸形（綴遺卷二十三，第十頁亞形父乙解）

李孝定曰：方氏釋亞形中大，可從。又謂亞形中為尸形，則無徵。



父乙解
<0221> △父乙

柯昌濟曰：亞形中印字，吳憲齋先生釋次按說文印，印也从友，印此字从爪从无，以象手抑止人口形，或古抑字小篆又此字之友文，詳華三六頁且子鼎。

吳大澂釋亞形中次見，若齋六冊五頁且子鼎。

李孝定曰：吳氏釋亞中一文為次，無據。柯氏謂从爪从无，當是抑字，按从爪是也，而其右旁明是兄，非无，且甲金文抑及等字均从尸，不从兄，亦不从无，柯說待考。



父乙解
<0221> △父乙

李孝定曰：亞形中一文與示字略近，不可識。



文已盡
(1111) △文已
門蓋
(1201) △

予者吾曰。家置中於口上。中即母本象形。一弓母刀並為戎器。下以芸履盛之。與句矢之盛於芸履作。出着義同。本有保護堅實之義。故引伸之為吉善吉利也。(辭三第二十八頁釋吉)

唐蘭曰。亞古父己並的出字。說文存下。卅二就是卜辭裡習見的出字。高宗時一个卜人的名字。前人都不能識。我以為

是古字的原始型。或孟鼎古字作。出字形還相近。其證一。申即

申字。側書。所以拂關鼎。說文存。觀。同。面。同。四。裡的文姑都為做

歸。庚藏貞也。說文其証二。我們由此可知古字本是从口申。母聲了。(見導論下四。頁)(集釋 2410)

丁山从唐氏說釋古謂即固之本字。見殷商民族方圖志一四六至一四七頁(集釋 2410)

李孝定曰。唐氏釋古謂是从口。母聲。宜若可信。然黎文亦有有

古字作。出若。與此亦有別。金文之。出古乃由山所衍化。非从

母聲也。至。出字如確是古字。則當為。出之美。增一橫畫則作

出。亦非从母聲也。至中唐謂即母。其說可从。字當錄定作。出从

口从。中。說文所無字(集釋四一一頁)

李孝定曰。亞形中一文。卜辭恆見。乃真人名。于氏釋古。吉字卜

辭。金文亦習見。均與此不同。于說誤。唐氏釋古。余前已辨之。字

當錄定作。出。余前編甲骨文字集釋時。錄定作。出。亦誤。



父事
(1711) △文事

李孝定曰。字不可識。



對自
(1111) △

李孝定曰。字不可識。



矢自 (667) △

李孝定曰亞中一文其旁从刀惟不可識



無憂自 (2561) △

文丁書



設鼎自 (668) △

寶曆書

吳式芬曰徐籀莊說亞中射象形亞古文亞通屋堂室之象余舊釋為弓矢在格形今案當是射象形乃古文璋說文璋射象也讀若準又象射準的也亞中著此取將祭習射之義(據古卷二一八十一頁貺尋自)

徐同柏曰(余)亞中射象形亞古文亞通屋堂室之象

余舊釋為弓矢在格形今按當是射象形延古文璋說文璋射象也讀若準又象射準的也亞中著此取將祭習射之義(八古卷七二十八頁商賈尋尊)

孫詒讓曰(因)字吳釋為亞形中射象形今審亞中似當為束字上端銳出即象芒束形也吳說未高餘論卷二第八頁貺尋自

高田忠周曰按從來蓋與禾同意从亞聲與亞亞亞等同例此必經字廣韻集韻皆云穰經稻名韻會依毛氏韻云通作罷亞(古編篇八十二第三二頁)

李孝定曰吳徐說為射象而於下形似來無解殊無理致高田氏謂從來與禾同从禾亞聲當即經字按其中所从與甲金文來字均有別實非來字且其外亞形實乃文飾亦非從亞為聲高田氏說有可商徐氏釋束於義為長甲文束字作小金文也解束字作小均與此近其說可從

吳家忠曰(余)加藤博士以為亞來即殷本紀中行王又同為來焉來字說讀之思來也(殷金文考釋一三八頁亞來家藏同)

林保明譯



文
癸
爵
<1783>
文
癸
△

李孝定曰亞形中血復於血上者一「不識何字」

433 (2153)



文
癸
爵
<2121>
文
癸
△



文
癸
爵
<1722>
文
癸
△

李孝定曰亞形中一文从止从士不識何字

434 (2154)



文
癸
爵
<1667>
文
癸
△

李孝定曰a、b兩形疑非一字a形與上2154疑一字之異構又疑此字未可遽定

435 (2155)



文
癸
爵
<1111>
文
癸
△

馬叙倫曰舊釋亞形中八足跡形孫詒讓謂當為共字倫謂以金文言之此亞中似與亞形中作共者同此蓋共省也不然則是或之省文亦為滕之省文蓋遽中以送嫁為業如今之喜娘也或謂此銘寶下無彝字以即彝字但內之亞中耳諭形不然亦無此例而金文不書彝或鼎者則有之(刻詞一四八頁遽中解)

劉心源釋尊曰尊字就亞字為之阮吳釋皆未悟及亞象尊身(奇觚卷十八第八頁遽中解)

李孝定曰亞形中一文从八从止字不可識劉心源釋尊於銘解文例雖可通讀然於字形無徵謂以亞象尊身尤屬臆解馬

436 (2156)

氏謂亞中所从是共省不然則膝省乃迷嫌者之器共膝偏旁皆从収古文偏旁収此無相通之例焉說似有未安也

437 (2156)



亞 𠂔

李孝定曰亞形中一文下从止其上不知何字

438 (2157)



𧢲 𧢲

方濬益曰雙角短尾似鹿之家形古以鹿為祿蓋取受祿之義或以為蟻族之家形亦近似然義無所取今姑釋為鹿并存或說以侯通解之論定(續遺卷五十七頁亞形鹿鼎)

參閱0728憂字條高鴻緒說

𧢲字圖釋參閱憂字條

李孝定曰亞形中一文乃憂字為猴之象形古文猴則後起形聲字也卜辭亦有此字與此全同字在卜辭或稱高祖憂乃假

439 (2158)

先公此所見憂或即卜辭中高祖憂之後裔歟未芳園內釋契文之𧢲為憂謂象人面有角以與說文憂下說解相傳會其下雜引先秦文獻均所以說憂字按契文此字吳說事多亦有釋憂者余前已一一辨之具見拙編甲骨文字集釋第五卷113-117頁讀者請參看文繁不贅引

440 (2158)



父登壽
<1702> 父文

李孝定曰亞形中鹿字

441 (2159)



壽父
<1653> 父

李孝定曰此不可識

442 (2160)



父乙廿音田貞其
<1772> 父乙

戊字天
<1702> 戊字口文
戊壽

李孝定曰亞形中戊字與文中戊字習見亦有作地名解者
一五九三辭云戊申卜永貞其乘出保在戊當與戊氏有關

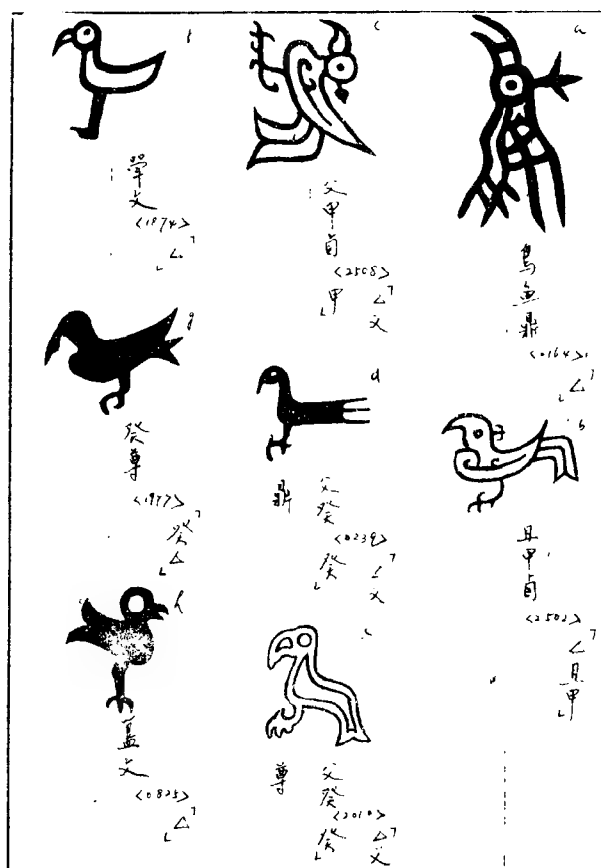
443 (2161)



林貞
<2096> 林

李孝定曰此不可識

444 (2162)



貪飲之義（意齊二十二冊十三頁鵠形爵）
強運開曰（圖）內周明公敦用光父丁（圖）冊疑古爵字（古鑑三補）
附錄第四頁
S 高田忠周曰（按）此字在亞中舊釋作雞非今審篆形爲形而有
毛角此必雀字也說文雀雉屬从隹从竹有毛角所鳴其民有
既讀者和是也蓋銘用雀字疑爲箴戒之意武丁祭湯有雉升
鼎而鳴懼而友己或與此同意也湯盤日新之語亦當有與此
似者乎（古鑑篇九十四第三二頁）
W·X 馬叔倫曰倫謂爵即說文之爵字亦即戰國鵠蚌之鵠之本字
（鵠爲知雨之鳥與鶩異字）
詳余說文解字六書疏證（圖）刊第四卷一期二〇頁令矢算




































S 方濬益曰：舊釋皆以亞為廟之象形。鷄形者，彝器也。周禮春官司尊彝，春祠夏禴，裸用鷄彝。彝，銘此形於亞中。中庸所謂陳其宗器，示有事也。（續遺卷五十七頁亞形父甲鼎）

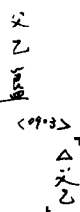
m 方濬益釋鷄象形曰：編修（按陳壽卿）釋曰：鷄一名淘河，領下如囊，容水數升。爵取飲少，鵠取飲多，皆示戒也。（濬益按爾雅釋鳥：鷄，鵠鶚郭注：今之鷄鵠也。好羣飛，沈水食魚，故名。濬澤俗呼之為淘河。說文：鷄，胡污澤也。鷄或从弟陸璣疏云：鷄水鳥形如鵠而極大，喙長尺餘，直而廣，口中正赤，領下胡大如數斗囊。此文長喙垂胡，正鵠鵠之象形。壽卿說是也。）（續遺卷十九四頁鷄爵）

m 吳大澂曰：鳥形似鷄形，淮南齊鷄，胡飲水數斗而不足。注鷄，胡汙澤鳥。說文：鷄，胡污澤也。鷄或从弟，爵文作鷄，胡形者亦戒。

「商承祚曰：乃鳳字增四點，與甲骨之作意同。」（十二野廿三頁鳳犀爵）

馬叙倫曰：倫按舊釋爵字非也。爵以音借為雀雀形，豈如是乎？此以其喙論之，蓋為說文之鵠字。莊子所謂魚不畏網而畏鵠，胡者也。凡物名古初皆象物為形，及就簡便變為篆文，則易相混。故鳥類之字則取一鳥為形，而各以其聲傳之。故今作從鳥夷聲之鵠矣。爵文作此者，蓋制器者畜鵠以共漁者也。（刻詞十二頁鵠爵）

九高鴻緝曰：鵠既為五鵠之總名，甲文「」正象其緊身秀尾而挺胸之形。見中研院乙編六六六四片。文曰：丙申卜般貞來乙巳酒，下乙王占曰：酒佳有祟，其有伐乙巳酒，日夜雨伐既雨，咸伐亦雨，般推動，通加，亦動詞。」（）（）（）（）（）（）（）（）（）（）（）（）（）（）（）（）（）（）（）（）（）（）（）（）（）（）（）（）（）（）（）（）（）（）（




453(2165)



〔方濬〕益釋爵象形曰爵翅足開張象上飛之形說文釋爵字曰飛舉也是也（綴遺卷十九十八頁子爵形爵）

454 (2166)

馬叙倫曰倫按舊釋龜為飛爵形以爵為雀也然此絕無鳥形以天龜之例之此亦象水蟲之形乃中之壞爛耳說文龜之籀文作腹與此近疑此即龜字借為孫也(刻詞二一頁至二二頁子口爵)

455(2166)

葉玉森曰此字象飛鳥

74598

456(2166)



之反自
△父虎

李孝定曰此婦集合文帚段為婦隻即今獲字契文類皆如此
獲者蓋婦之名此婦獲為父庚作器也

457 (2167)



父乙鼎
<1336> 母△父乙

458 (2168)



蓋
<1337> △

方濬益曰說文虎虎文也从虎象其文也此虎形身中作夕
即夕之省說文部首夕毛飾畫文也(韻遺卷六四頁虎敷)
高田忠周曰按吳氏本傳傳形敦非凡金文傳字皆有角形而
此篆無之且此字象虎文明哲者斷與傳字別要古初象形文
字與圖畫相去不遠如此銘亦文字而兼藻繪者也但如中鼎
文與此仿佛皆實文字也(古籀篇九十一第二頁)
參閱 031 虎字條高鴻編說

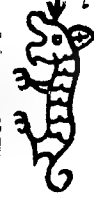
459 (2169)

李孝定曰此實圖畫文字之虎字高田之說是也及後文字化
程度加深而圖繪之意日漸遂有甲文金文篆文隸書之虎字
遞嬗之迹昭然也

460 (2169)



李字文
(11712)



相文乙室
(11712) 相文乙室

李孝定曰从少从虎契文亦有此字 作李 續五七九云 黎酉
卜晉貞許介取虎于教高疑是方國之白

461 (2170)



李字文
(11712)

李孝定曰此龍字與契文同

462 (2171)



文己自
(11712) 文己



文己自
(11712) 文己



鳥獸
(11712) 鳥獸



文己自
(11712) 文己



文己自
(11712) 文己



鳥獸
(11712) 鳥獸



文己自
(11712) 文己



文己自
(11712) 文己



鳥獸
(11712) 鳥獸

徐同柏曰方象兕形 (从古卷五七百高兕形)

商承祚曰文作獸有獨角即犀字 十二貯廿三頁鳳犀爵

上方諸益釋 (11712) 為豕象形 見續遺卷十九第二十八頁口豕形爵
又釋 (11712) 為鹿象形 曰鹿祿同音 以鹿為祿 與蝠之為福同 又

獸名天祿 見後漢書靈帝紀注 (續遺卷十第二十六頁鹿形父
己自)

李孝定曰此下所收非一字 a b 不知何所取象 c d e f 並
豕字 豕疑為字 豕疑為字 其形與金文習見象字所从略同
此第以形似為解亦無確徵也

464 (2172)

463 (2172)

吳大澂釋兕形見若齋二十一冊四頁兕形

李孝定曰高田氏釋羊可以蓋兕角在鼻端而此圖繪文字之角在首部側視但見一角耳其全形亦與羊形為近

戈文
(2054)

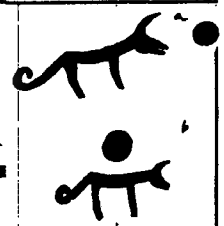


參閱1286馬字條高鴻緝說

李孝定曰高氏釋馬可以

470 (2177)

自文
(2058)



李孝定曰此犬丁合文蓋人名亦猶卜辭虎甲羊甲之比

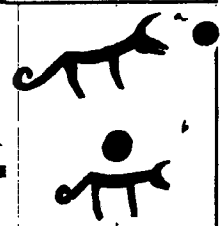
𠂔文
(2166)



李孝定曰此象犬就器而食之形小屯陶文中亦有此字作𠂔疑結之古文

472 (2179)

自文
(2058)



李孝定曰此犬丁合文蓋人名亦猶卜辭虎甲羊甲之比

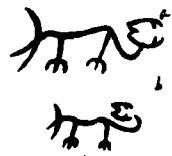
𠂔文
(2166)



李孝定曰此象犬就器而食之形小屯陶文中亦有此字作𠂔疑結之古文

472 (2179)

471 (2178)



九作之或自
△九也之或事
△九也之或事



△九也之或事
△九也之或事

徐同柏釋圖形承形曰圖說文云養畜之閑也承即脈也詩漸
之石傳承猪也方言猪其子豚禮玉藻圖豚行不舉足方
氏說此言迴旋而行性性豚性散圖之則聚而迴旋於其中
矣蓋廟中齊之象(从古卷十四三頁商父丁學)

△高田忠周曰按舊釋作虎此與虎𧇵虎字猶似而實異彼右象
虎首此即从貝而加為虎省文因謂古字兩形若三形相合者
多有作單形本書多載此例然則此亦虎字無疑說文體骨分別
也从虎對爭貝讀若回朱氏駿聲云按虎不爭貝當是黃省聲

今音讀若懸別義爾雅釋獸虎有力法西海大秦國有養者似
狗多力獵焉按今所謂西洋獅子狗也此當為本訓此說或是
分別為段借義(古指第九十一第九頁)

△即沐若曰字則从貝作人作父戊自亦有此字器文作
作集古遺文卷四第三十有作根寶無字作亦即此文

蓋乃象形貝聲之字以聲紐求之疑古觀字也說文觀豹屬
出貉國从多昆聲詩曰獻其觀皮大雅

猛獸也或从比韓奕傳亦云觀猛獸也書某氏傳云觀觀虎
屬也爾雅釋獸觀白狐狐疑字誤方言云觀陳楚江淮之間謂

之辨北燕朝鮮之間謂之貉關西謂之狸蓋又沿爾雅之誤而再
誤者矣如審收誓文觀與虎為對文而同為勇武之形頌則觀自當

為猛獸虎豹之屬而不得為狐狸之類約有白色者疑古人別以為
一類而名之曰觀釋獸之白狐殆白豹之譌矣(金攷一九九頁
至二〇〇頁金文餘釋千面)

△楊樹達曰方氏釋為虎形右上作四蓋日字之側形然則是起子
也說文五篇上虎部云起白虎也从虎冥省聲讀若羈莫秋切
(續徵一七七頁子起罕駁)

△劉心源釋虎見奇觚卷十八第廿四頁虎貞

李孝定曰按字从犬尾著貝當隸定作根从犬貝聲廣說文
外編卷十四云說文無根字或以足部跟字當之按案後漢書

任光傳根貝不知所何祇作貝玉篇犬部有根字解云布蓋切
根根也今契文已有之許書蓋偶失收或本有之轉寫誤佚耳
金文亦有此字作根與契文今隸並同(集釋三二二一
頁)

李孝定曰書釋根余前已有說見集釋郭氏釋觀但以音求之
於形無徵也楊氏釋起於形尤遠高田氏釋寶亦皆釋為虎形
之誤字非从虎固視而可識也



孝之乙鼎
(0320) 孝之乙

李孝定曰从𡗗从介疑京字不可識許書獄下云从二犬所以守也疑此與之同意

477(2181)



鼎文
(0071) 牛

參閱00%牛字條高鴻緝說

李孝定曰高氏釋牛可从簡之則為牛矣

478(2182)



鼎文
(0112) 龍

李孝定曰此疑龍字

周法高曰三代二二作龍鼎金文鑄作龍首形鼎

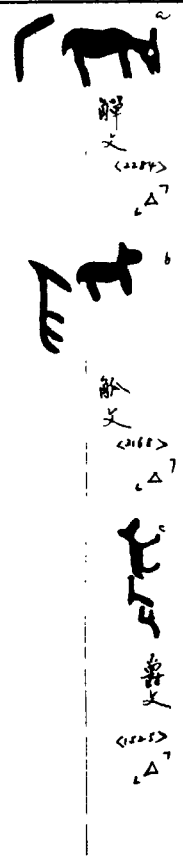
479(2183)



父之專
釋告
(0029) 父之專

李孝定曰字著釋告可从辭云父癸告日此當即征字蓋於出征前告於父癸之意

480(2184)

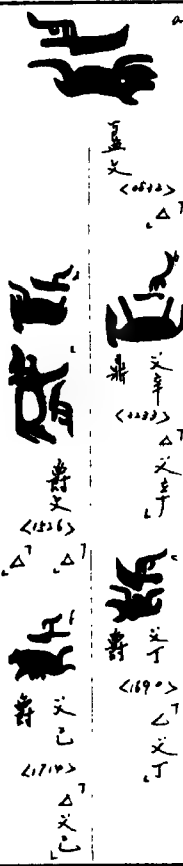


徐同柏釋兕形手執朴形曰兕。爵左昭元季傳注兕爵所目。罰不敬所司射所摺儀禮鄉射記朴長如筭。(从古卷七十六頁同兕爵)

李孝定曰从馬从支當即駁字契文从又偏旁从又从支从支从更之字古多通用。



李孝定曰亦駁字與同。











高田忠周曰按鉉父手二字上有此一形即此刀鑿三字也。而鑿形仰向此庖人執刀將割牲之象殆一圖繪畫而造字之古意實存于此者也。蓋是最古解字用禮外祭掌外祭祀之割亨又禮記禮器太廟之內敬矣君親割牲皆解牛之事也。又莊子養生主庖丁為文惠君解牛手之所觸肩之所倚足之所履膝之所踣砉然騞然奏刀騞然莫不中音合於桑林之舞乃中經首之會。是實與此字象形相合矣。又云良庖歲更刀割也族庖月更刀折也。今臣之刀十九年矣所解數千矣矣而刀刃若

新發於硯解字从刀之深且重矣。今定為解字存于此云。(古篇九十三第三三頁) 參閱 44 乙字條吳其昌說









李孝定曰从一从仰卧一手執刀擬于豕腹高田氏釋解蓋臆說也。契文有豕象兩手解牛角之形。與今文解字正同。第今解字形為从刀耳考屠豕之事皆刺及於喉必不刺及於豕腹則此字之意亦非屠豕。竊謂此豕字古文也。說文豕下云豕解足行豕。从豕繫二足此非古證。豕字與文作豕未見解足之象。考卜辭於牲之性別毛色年歲卜之恆至詳盡凡用豕之辭有豕有豕此卜其豕壯也有豕則凡豕皆可不拘其壯壯毛色年歲也有豕其豕前入未之詳考衡以他辭則此豕

字之義必與形有別然則於豕之牝牡毛色年歲數者果何居乎復考契文豕字作以內有聲亦作則許書所謂猷省聲者也才字於豕兩足之間別著一斜畫即所以象豕陰乃許書泰之古文猷則後起形聲字也才字於豕兩足之間著一小直畫即金文此字刀形之遺然後知豕者豕去陰之專字也降至小篆刀形之遺不能別出而獨立遂斜置於豕足之間許君乃有豕紆足豕文之訓耳古人於豕畜之牝牡驪黃多制專字此豕畜牧時代文字之遺又凡畜牧之事肉用之牲恒割去其生殖機能使之易於肥碩凡牲之去陰者亦各有專字犬曰犮牛曰牯馬驢亦曰驢羊曰羖豕曰豮此均見於說文皆後起形聲字所以適應後世語言衍變者不知豕實豕去陰之原始會意字徒以篆形為變又有形聲之積而豕之古韻遂沉蕪

千古矣又考从豕得聲之字猷訓推穀物猷訓擊豕亦訓擊書呂刑曰爰始張為劓剕極罪注極陰即宮刑也豕又豕乳為豖說文豖去陰之刑也从豕蜀聲周書曰劓剕豖今本周書作剕剕極罪許見本異耳訓擊乃去陰豖之引中今本呂刑之極許書之豖則仍豕之本義也金文从又執刀擬及於豕腹正豕去陰之象志字也

 文乙 𠂔  文乙 𠂔  文乙 𠂔  文乙 𠂔  文乙 𠂔  文乙 𠂔  文乙 𠂔  文乙 𠂔

李孝定曰豕象以兩手牽犬於屋下候守之古文後省犬存又又復端寸耳

 文乙 𠂔  文乙 𠂔  文乙 𠂔  文乙 𠂔  文乙 𠂔  文乙 𠂔  文乙 𠂔  文乙 𠂔

李孝定曰亞形外一文从又从豕古文偏旁又更得通此疑豕



阮元釋儀形俎俎形曰案據陳根俎讀莫之義禮明堂位俎殷以
 俎鄭注俎之言和俎也謂曲禮之也此俎前二附正橫曲如和
 句是俎俎形也(續古卷二四頁據辭)

方濬益曰阮文達公釋為儀形俎俎形其說曰據陳根俎讀
 莫之義禮明堂位俎殷以和鄭注俎之言和俎也謂曲禮之
 也此俎前二附正橫曲如和句是俎俎形也清益按此文與前
 銘正同俎下二附曲亦如之故從文達說釋為俎俎中作三點

蓋象鼎與連豆之形(續遺卷二十三十四頁子儀解)


高田忠周曰按銘作中旁三字並象形也依阮氏引下文釋
 俎此篆為象形之完者也口中作川者以象切肉小篆之公是
 也說文俎禮俎也从半肉在且上且亦聲也蓋古祖廟字作
 後加示有祖字又且訓薦也从几足有二橫一其下地也古文
 作且此載肉之几也即此篆之旁也又俎為禮俎也象已載切
 肉之且然經傳多以俎為且方言俎几也儀禮士昏禮七俎從
 設注所以載也是也而如儀禮鄉射禮廣辭以俎注俎者有之
 也也禮記玉藻特牲三俎注三俎豕魚腊此正俎字之本義
 也也禮記玉藻特牲三俎注三俎豕魚腊此正俎字之本義
 俎殷以和鄭注俎之言和俎也謂曲禮之也此俎前二附正橫

曲如和句是俎俎形也按阮說為是但此篆口中缺川形殆
 是且字也然儀吧連文或以儀兼肉義又或記為且形川為切
 肉形而與附連筆以便結轉未詳矣(古籀篇十六第四〇頁)

李孝定曰按即金文君見之為字舊均釋熊羅振玉曰古金文
 有熊字有為熊號叔為熊號叔為熊號叔為熊號叔為熊號叔
 殷虛書契考釋中卅頁下按契文作為熊號叔為熊號叔為熊號叔
 乃為字从象說文所無釋熊非是熊古祇作能左傳晉公夢黃
 能入于履門是其義後以假為賢能能耐之義既久而本義湮
 遂段火光熊之為熊為獸名字耳(說文熊獸似豕山居冬蟄从
 能更省聲蓋說後起證其本證當為火光盛从火能聲今猶行
 此證)金文多用此為重言形況字亦方國之名此下數圖畫文

字則為人名卜辭後上一辭云王賓棄亡尤亦人名阮氏釋為
 俎俎方太高田氏均从之說有未安

C方濬益曰儀禮鄉射禮記君國中射則及樹中以翺旌獲白羽與朱羽糝於郊則間中以旌獲於竟則虎中龍種注曰於竟謂與鄰國君射也此璽內文豈即虎中之象形乎（經遺卷二十二）
十頁雙文虎奉中父獎壽

李孝定曰舊說均釋為中形獸形非是按字从單从犬二犬與一犬同乃獸字獸狩古文契文作諸形均从一犬此圖畫文字从二犬意取茂美耳字从單單于古一字並盾之象形田狩者以單自蔽以犬自隨故字从單从犬會意亦猶戰字

从單从戈會意也。𠂔 金文或作𠂔。獸𠂔。象單下有鑄之形。或
 作𠂔。交鼎。𠂔 下从𠂔亦鑄形。其从𠂔者或譌為𠂔。為𠂔則為師。
 𠂔蓋之𠂔。𠂔若𠂔。是為小豕。𠂔字矣。獸𠂔。初讀為田獵。本為
 動詞。繼謂獸𠂔。所獲為獸。其生獲者或加畜養。此許書豎訓。豎
 也。一義之所自來也。金文獸字作𠂔。先獸。𠂔。史獸。𠂔。豎。豎
 形亦均从一犬。

且甲鼎
<0.265>
△且甲
上

李孝定曰从王其旁所从蓋亦犬字果爾則字當是从犬王聲
豈古楷狂字乎

父乙子
(A022)
子
父乙

李湘蓮
(109)
李⁷
△

意而聲此當將字古異文姑附之俟旁證云古籀篇篇五十七

李孝定曰从月从又从𠂔不知何字契文疾事作𠂔與此近然此所从均不類入形



龜

<0160> 7



文

<0161> 7



文

<0162> 7

李孝定曰上文不知何字下文應是龜字

501 (2196)



文

<0163> 7

李孝定曰叔龜合文疑與𠂔為一字𠂔讀為叔叔龜當是人名

502 (2197)



文

李孝定曰此不可識

503 (2198)



文



文



文



文



文



文

李孝定曰此文唐蘭先生釋與似可从唐說見天壤閣甲骨文存考釋四十四至四十五頁亦見拙編甲骨文字集釋一卷一九五至二〇〇頁引

集釋所引諸家見 2203 條引

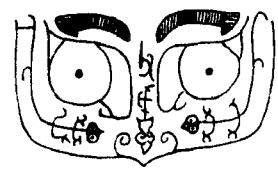
504 (2199)

 𧈧
 𧈨
 𧈩
 𧈪
 𧈫
 𧈬
 𧈭
 𧈮
 𧈯
 𧈰
 𧈱
 𧈲
 𧈳
 𧈴
 𧈵
 𧈶

吳榮光釋義曰：𧈧从𧈧者，𧈧之變者也。此古文，清卷一第
 二十九頁商鞅集解。
 方清益曰：謹遵西清古鑑，舉自銘釋為蝠，按此為蝙蝠之象形。
 說文：蝠下云：蝙蝠服翼也。蝠福同音，得相通。段禮記：少儀為人
 祭，曰致福。周禮：膳夫凡祭祀之致福者，受而膳之。注：致福謂諸
 臣祭祀進其餘肉，歸昨于王，銘此於器，義或取諸此。觀今世組
 織圖繪之工，猶相承以蝠為福，是其所從來遠矣。（經遺卷五
 十一頁舉蝠形）

葉玉森曰：按吳之異體作𧈧，𧈧亦𧈧等形，疑吳之所由訛變。許
 君謂是俗字，予謂吳乃初文，𧈧為後起。吳集形近，故帝吳一作
 帝集。太昊少昊之昊，復繫日作暉也。卜辭中之昊，字有用為人
 名者，有用為國名者，見前釋一卷六十二頁（集釋 116）。
 郭沫若曰：𧈧乃人名，見金文圖形文字，亦每見此字。諸君魚
 脊骨之形，當是脊之初文，小篆為𧈧，後人復誤讀為𧈧。說文
 下：小徐本有讀若𧈧，故字失傳耳。（見釋考十頁三四片釋文）
 三字大徐本無之。
 （集釋 116）
 唐蘭曰：孫釋集解，吳集釋，吳均非郭釋。脊亦未確。按卜辭此
 字或作𧈧，𧈧吳等形，其見於金文者，今集錄如次。所舉諸
 者，故以略。其字形實非郭所謂魚脊而下所引及之。首
 兩目旁有𧈧形之增飾，一望即知與此字相類。惟自第二對

足以下小有異同耳。余謂此字之原始
 象形，實當作𧈧，其所象為蜥易之類。
 尾側有、岐者，或以區畫身尾之故。其
 變為吳，則儼若歧尾矣。然則卜辭金
 文於此字之種種變形，均由蜥易形所
 蛻化而成。足証諸家所釋之非矣。說文
 易蜥易，蜥蜴守宮也。象形，今以卜辭考之，則易作𧈧等形，實
 不象蜥易。而此象蜥易形者，以作𧈧形為著。見小變而為吳
 則即說文訓為苗，共地草之𧈧字也。說文以共為从𧈧，六聲誤
 子謂共象蜥易形，故古陸字作𧈧，原為兩蜥易在阜側，為高平
 地也。說文龍注云：共龍聲。諸也。金文象蜥易形，其上平大都與
 此字之作𧈧者相似。故後世以為从共而作龍字，此尤可証



此即父戊
 鼎之一
 部分為
 在丁族
 家所拓
 者此拓
 為徐森
 先生見
 殷文存
 本只存
 文字

蜥易形之為共矣。方言：守宮，秦晉西夏或謂之蠃，蠃或謂之蜥。
 易本州：石龍子一名蜥易，一名山龍子，一名守宮，一名石蜥。廣
 雅：蜥蜴，蜥也。蠃，龍聲。皆共之聲轉。廣雅：苦龍，蜥蜴也。蜥
 蜥諸屬，則苦龍當即龍，可証蜥蜴之即共。（見天壤文釋四十
 四至四十五頁）（集釋 116 119）
 李孝定曰：按說文，共苗共地草，叢生田中，从𧈧，六聲。共，龍聲。文
 共从三共，上出諸形，唐釋為共，其說可從。惟謂象蜥蜴之形，則
 有可商。唐所引金文諸圖形文字，謂即卜辭之𧈧，其說是也。卜
 辭及金文諸象形字尾均兩歧，唐乃與父戊鼎所著蜥蜴形相
 比附虛構。𧈧形謂𧈧之原始象形，文實當作此，且於身尾
 之際增一歧出之駢枝，謂所以區畫身尾，此與訓詁家之增字

解經無異卜辭金文諸形均於尾端兩歧且兩兩相等正如唐說之增一歧出之形於身尾之間也且象形字俱求酷似此許君所謂畫成其物隨體詰屈之意使字果象蚺易之形則身尾相屬乃物性之常何煩區畫唐說蓋誤詞耳字蓋象節足動物之形故其足或六或八或十可無定則三對多至數十對君之訓則字形譌變之後原形喪失故別出新解耳(集釋一九九至二〇〇頁)

李孝定曰此與蚺疑係一字說見前



重考
(766) 重二

阮元曰案爵字下體作一尾二足象雀之形上作犧首兩角兩目初不可解及得周祀饒蓋正作犧首形兩角兩目然祀饒亦爵類左傳謂之祀饒知祀饒以蓋得名此正象祀饒之形也(續古卷二、三頁並舟爵)

高田忠周曰按阮氏云此祀饒形吳氏云爵字下體作一尾兩足象雀之形上作犧首兩角兩目二家說皆非是今審篆形其似浮游浮游字俗作蜉蝣陸機曰蜉蝣方土語耳通謂之渠略有角大如指長三四寸甲下有翅能飛夏日陰雨時地中出今人燒炙噉之美如蟬也渠略方言作蜉蝣亦俗字說文作蜉蝣是為正字然凡蜉蝣聲韻為名者於虫部取例證有兩字並从

出者又有上字从出下字不从出者有下字从出上字不从出者要兩字从出者似一必係于後增矣如蟲蟻亦疑初有蟻無蟲依爾雅毛詩傳古蟲字借渠為之亦當借巨為之也巨蟻蓋與渠蟻聲近蟻蟻同側耳然則渠蟻字雖言連言得義者其義主蟻字音渠者發聲耳然字若作象形此為蟻字不得以為渠字此亦與蟻蟻之蟻金文作𧈧同側也今定附此(古籀篇九十七第一八頁)

柯昌濟曰字又見甲骨文其文每云今龜素王森先生釋夏案此字乃秋之古文也說文秋从禾龜省聲後籀文不省今案从龜即此字之透形其字殆象蟋蟀之形蟋蟀秋蟲所以鳴秋者也故秋字从之得詁廣雅有蟋龍亦即此字音與秋亦近殆後

世說訓為龍耳如秋為後起之字與古秋文之秋字殆同字證亦非由从龜之省也(華三一〇至三一〇頁並龜爵)馬叙倫曰倫按舊釋字為祀饒形孫詒讓疑爵字皆非也蓋即廣雅有角曰龜之龜為說文𧈧之初文(刻詞四十頁並龜爵)

李孝定曰阮氏釋為祀饒形馬氏已辨其非馬氏說為龜字是也柯氏謂象蟋蟀之形蟋蟀秋蟲所以鳴秋者故秋字从之說非與文中皆段此為秋者以其音近耳高田氏釋為蟻亦誤唐蘭氏亦釋為蟋蟀見殷虛文字記六至七頁亦見拙編甲書字集釋十三卷394至394頁引

龍字說文通廣雅釋魚有角曰龍龍龍正當作龍蓋龍龍易
龍如龍或為龍萬象名義廿五應部有龍字奇探及凡也龍無
角也天治本新撰字鏡同天治本仰本難得頃託文入借到一
候方付景想不及檢查復龍其應部
龍字凡應原本玉篇當有此字今本應部則已為俗人刪之矣
兩出
龍龕手鑑誤入艸部然其字作龍則猶未甚誤也（嚴虛文字記）
六頁釋龍龕（案釋
7.5940
7.5944
）

六頁釋葩夢(案釋
7.3748
—
7.3749)

517(2204)

秋 乙

Δ^7 Δ
 Δ^7 Δ
 Δ^7 Δ
 Δ^7 Δ

乙 仲

△⁷
仲
子
乙
乙

姓
 父
 乙
 直
 1955
 △
 姓
 父
 乙

^d吳萊光曰疑是魃字陽清卷二第九頁商父乙葬

大方廣益曰：林即未字。古猶作重。史者多矣。說文八部之審解云：一余也。讀與余同。凡部之寫云：古文為象。兩母狀相對形之類。皆是也。（綴遺卷六，二十一頁，薛欽父乙款）

518 (2205)

馬叙倫曰：「倫謂『從二』字殘文耳。此當讀為『叔刺』。詞五五頁父乙癸。」

李孝定曰方馬二氏說是也唯方氏以為永字則有可商說文永訓豈屬此非其類按此實弔字古讀為伯仲叔季之叔此義本無正字類皆假借耳許書弟訓末章之次弟假為兄弟字弟平音近父之兄弟為弔已之兄弟為弟故所假之字音亦相近也。

𠂔^a
 义丁
 𠂔
 <066>
 Δ'
 义丁
 ,

३

父子
(239)
父

\$

中車
△
中車

又容庚釋不叔見善圖四六考釋一四頁弔父丁鬲

李孝定曰此與2205當為一字容說是也。

520 (2206)

519 (2205)

李孝定曰此與2196之上半疑像一字

李孝定曰此與2196之上半疑像一字

521 (2207)

文丁盤

李孝定曰此半半二字重文下一文較簡耳

522 (2208)

文丁彝

李孝定曰此仍半字

523 (2209)

文丁彝

阮元曰薛氏數識成字釋為立戈形王保嘯堂集古錄釋為戈穿貝形皆非是吳佩叔云據古文成字其準之象也平也繩之象也直也○所以權之也權之而得之直即得其平也考工記所謂可水可縣之象也凡物平則成故左文十八年傳地平天成注云成亦平也是也然後省為成為成為成為成為成詩毛傳成平也凡二見鄭注同禮成平也凡六見爾雅釋詁平成也穀梁傳平者成也凡三見不觀此文其窺其象而漢儒平成轉注有此詁訓可知經師相傳之義所由來者遠矣(續古卷一五頁成父癸鼎)

524 (2210)

吳式芬曰許印林說王復齋款識揭本有父癸鼎父癸二字在左其右與此器反已下文同薛氏款識釋為子作立戈形王氏嘯堂集古錄釋為戈穿貝形積古齋款識並以爲非是據吳侃叔說定爲古文成字吳說甚辨然據此蓋器合觀字有反正彼鼎銘乃反文也侃叔釋爲成則以正文說之謂林準之家一繩之象所以權之今觀此銘文之正者左立戈而右似舉戈文之反者右立戈而左似舉戈無以定爲準之象一上粗下銳無以定爲繩之象其上橫闊者正者左粗右銳反者右粗左銳亦非平衡一木莫測其制云何竊謂成从戊丁聲古文成从午戊象六甲五龍相拘絞其意本不可得而說以準繩權說成字尤爲新刑于古無徵此字祇應闕疑不必妄說何讀吳說謂成字必不應如此說若違其說以說衡字或有聲聲禮云衡誠縣不可

款以輕重此頗似縣衡之狀今諦審此銘反正二文知其亦不似也仍歸之闕疑可矣(據古卷之一四十頁已成自)方濬益曰謹案西清古鑑亦載有商已尊文作𠄎視此畧異然自是一字并權衡之象形即成字也古成稱二字通說詳後已自銘釋詳氏款識釋爲立戈形固非嘯堂集古錄釋爲戈穿貝形說更鑿矣(綴遺)卷五二十三頁權衡形文已詳)方濬益曰爲古權衡之象形即篆文成字所從出積古齋款識所錄吳侃叔釋文其說當矣平定張石州考原序齋集

孝宗賜洪邁父癸鼎右側有文作𠄎釋云立戈形近海鹽吳東發云此古文成之象也(一)所以權之也改工記所謂可水可縣之象也則義有未據按成字是也當於收弄家見古已自上有文作𠄎蓋與器其文一而方成古成城朱仲子寶尊成作𠄎尤其顯證此文即許君古實則即古之稱字當未制稱字之前稱止作成其正名則蓋純乎象形之字一象衡之平左側之十權也右側之十繫物之繩及鉤也(一)衡端之兩毫也中央一(一)殆象所衡之物此作一亦或作十左氏傳引書地平天成稱也說文訓鉉也字引甲之則訓爲服之不稱之稱莊子大宗師篇成然寐陸氏釋文成如字引李云成然縣解之見成然即稱然此古稱字之僅存者人之寐也無所係著如稱然故曰稱然寐也然則謂成从戊者乃許君望文之誤解曰就也亦成字引申之義而非

本義本義當如爾雅穀梁訓曰平也(毛公詩傳鄭平成同部相訓於六書爲轉注也古款識書中成或作𠄎作𠄎作𠄎皆𠄎之省變小篆務取整齊竟合(一)爲个許君既以个爲丁故似其外廓爲戊而不思戊義之與成無關也由此推之戊果从戈作戊(右側之)爲何則必與人身之曹形不肖然亦必不从古文成之𠄎蓋制字之本義其失傳也久矣(潘益)按石州此說可謂明且辯矣所云已自即兵部此器其謂从戊爲許君之誤解說尤精確惟以十爲權(一)爲繫物之繩及鉤(一)爲衡端之兩毫中央(一)爲所衡之物則不免抵牾蓋古權衡之制先植(一)於地後加衡於上而爲(一)爲繫物之鉤中央之(一)爲權(一)則所以左右之以取準者也石州以今時權衡之式強測古制故轉以侃叔爲誤按侃叔以(一)爲試觀今日泰西諸國所用鈞稱

薛尚功曰銘曰子父癸蓋子為父癸作此鼎以享其父也而子作立戈之狀凡祭享之器著弓刀戈戟者銘其有武功也

529 (2210)

530 (2210)

531 (2210)

532(2211)

一舉之轉也。卜辭習見。野字。象而或一倒。一正形。葉玉森以解
例證之。謂與重雷為一字。二八葉。按葉說未知然否。商器父年
鼎有舉字。即野異形。舉者一為省之中部。轉於戈之抄。一
為省之側部。轉於戈之抄。其為同字。視而可識。或固有可字。戈
有二。蓋不相屬。當亦戰字。說文訓戰為省。按經傳以干為之。謂
雅釋言。干。干也。孫注。干。有自敵。干。書文侯之命。士多修。干。我于
敵。說文。干。作。戰。云。止也。詩。克。里。公。侯。干。城。傳。干。干也。王。義。古。以
武。夫。自。固。為。干。最。如。省。是。戰。干。干。干。戰。音。訓。並。相。通。要。之。卜。辭。見
字。即。說。文。戰。字。依。文。義。古。之。除。用。為。國。名。者。並。應。讀。為。干。謂。干
繁。也。前。六。二。六。一。仍。其。變。王。征。寅。才。東。後。下。三。四。四。見。弗。重
正。或。後。下。三。七。二。三。日。乙。而。上。未。自。東。變。手。母。皆。身。或。或。變。像
東方國名。藏。八。一。三。貞。戰。歸。其。作。或。古。戰。歸。其。作。干。繁。也。藏。十

八。一。止。其。或。轉。入。名。轉。國。名。古。止。其。干。繁。轉。方。也。藏。四。三。五
三。轉。不。或。言。對。於。轉。無。煩。干。繁。也。後。下。四。十。十。庚。辰。卜。貞。中。或
魚。帶。不。內。才。茲。卜。辭。魚。字。習。見。商。承。作。謂。以。文。義。觀。之。魚。亦。魚
字。按。商。說。可。以。魚。吾。古。音。近。字。通。金。文。自。稱。之。吾。均。以。獻。虛。為
之。音。微。子。吾。家。老。遜。于。荒。偽。泰。誓。吾。有。民。有。命。據。古。史。本。吾。並
作。魚。水。經。濟。水。注。運。魚。山。南。山。即。吾。山。也。列。子。黃。帝。姬。魚。語。汝
注。魚。當。作。吾。是。其。例。證。毛。公。廉。師。均。設。干。政。並。省。作。干。吾。卜。辭
之。中。或。魚。守。休。人。名。即。守。干。政。也。前。四。二。二。一。庚。午。卜。貞。貞。或
王。卿。或。言。惟。干。衛。王。卿。也。後。上。十。八。四。甲。辰。卜。方。貞。方。其。集
佳。或。言。方。其。有。所。舉。動。惟。干。繁。之。也。甲。二。七。九。貞。子。見。或。佚
存。七。二。六。貞。或。人。或。王。自。聖。或。貞。勿。王。自。聖。或。前。四。五。五。癸。巳
卜。方。貞。或。為。再。或。拾。九。十二。庚。子。卜。或。貞。我。勿。或。衛。續。五。三。三。

口。申。卜。或。貞。或。佳。我。佳。其。冬。終。于。之。續。六。十二。三。戊。戌。卜。其。或
遺。跡。一。一。七。或。其。或。凡。或。字。讀。為。干。於。義。均。可。通。也。辭。技。三。三
至。三。四。頁。釋。或。案。釋。7175
7176

李孝定曰。按說文戰者也从戈。早聲。與文从戈。从母。母。干。實。同
物。而異名。同為省之象形。字者之形。製各殊。象形字或隨之而
異。也。說。詳。三。卷。干。字。條。下。于。氏。謂。母。形。無。由。變。作。干。說。有。未。安
母。干。字。形。各。殊。者。以。其。形。製。實。異。也。與。文。从。戈。从。母。母。亦。學。姜
樊。之。始。當。作。戎。从。戈。从。干。干。亦。聲。後。遂。从。早。而。以。為。純。聲。符。戎
之。與。戰。亦。猶。干。之。與。戰。也。于。省。吾。氏。謂。字。象。轉。有。於。戈。抄。之。中
部。者。有。可。商。蓋。戈。干。之。為。用。一。以。擊。敵。一。以。自。蔽。取。其。運。用。靈
便。當。左。執。干。而。右。執。戈。金。文。戰。字。正。象。此。形。倘。如。于。說。則。於。用

雖。有。未。便。且。所。舉。商。器。父。年。鼎。一。文。謂。轉。有。之。側。部。於。戈。抄。天
下。學。有。是。理。字。作。重。者。蓋。取。結。體。整。齊。非。象。轉。有。於。戈。抄。也。案
釋。二。七。六。八。至。三。七。六。九。頁

李孝定曰。a。b。二。文。實。非。同。字。a。形。从。戈。从。斤。今。不。可。識。b。形
从。戈。从。母。蓋。今。戰。字。也。詳。前。引。于。省。吾。氏。說。及。辭。記。





刀
《說文》

李孝定曰：右从刀左旁疑是疑字。



孝
《說文》

李孝定曰：象農具之形，即犁之初文。甲骨文作，金文男之偏旁作，並此形之小變。

542 (2216)

541 (2215)









孝
《說文》

李孝定曰：此疑孝字。



孝
《說文》

于省吾曰：金文鉦文有孝字，即孝字。金文編列入附錄失之。善夫克鼎通字从孝作，宗周鐘通字从孝作，鄭琳吊壺琳字从孝作，鄭尹鉦執字从孝作，須炙生鼎羹字从孝作，古鉦文孝字从孝作，其鉦均作直豎無岐出者，以近世出土之商代孝形証之，上象其鋒，中象其身，下端有登，所以納秘，一側有耳，耳有孔，蓋恐納秘於登之不固，以繩穿耳以縛之，亦有兩側有耳者，此其大較也。（辭續四至七頁釋說）（集釋）

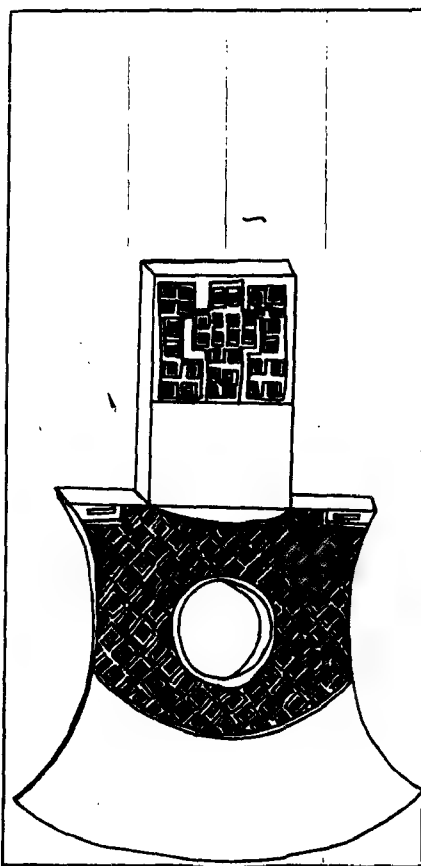
李孝定曰：于氏釋孝可從。

544 (2218)

543 (2217)

547(2219)

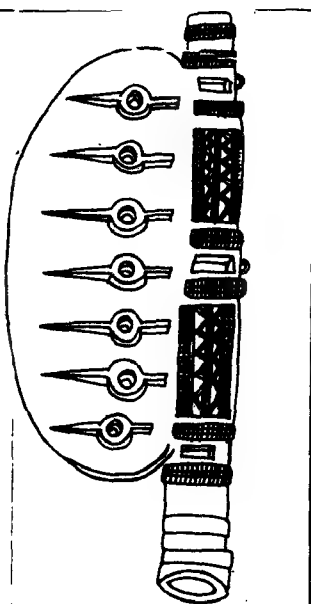
典禮之下雖表觀似已塗附一層繁縟之藻飾而其本形則未嘗少變宜和博古圖及西清古鑑所載之周舞戚片雲戚可見也



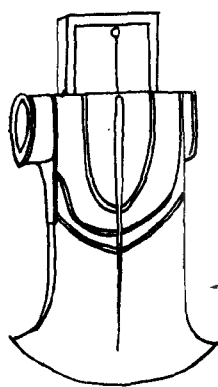
549(2219)

此舞戚一見西清古鑑卷三十七頁五舞戚二見同卷頁六舞戚三見同卷頁七博古圖所載舞戚及此舞戚一與舞戚三蓋象石斧之遺形一有孔三無孔而舞戚一與第二十二形舞戚三與第十形其輪廓尤為過肖舞戚二則象石刀之遺形其柄上所鐫刻之花紋蓋摹仿繩索纏縛于木柄上之遺象也禮記明堂位云朱干玉戚又文王世子云大樂正學舞于戚又祭統云朱干玉戚以舞大武是周末之戚以玉為之其用不過執之以舞而已然戚之為物本為斧戚戚道為斧故劉熙釋名云戚戚也斧以斬斷見者覺懼也是舞戚本為摹製兵器之證亦即上列三圖即為石斧石刀遺形之證也

551(2219)



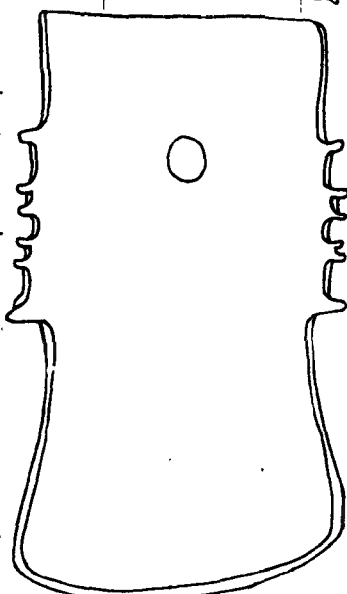
二



三

550(2219)

石斧之遺形不僅保留于舞戚已也又有一種非舞用之戚如吳大澂古玉圖攷第二冊第九十五頁有黃玉戚如下原本太用同文書局石印本



552(2219)

此玉戚與第二十三形最為酷肖然後知第二十三形乃為戚旁參差之組牙其功用蓋欲使纏柯與戚之繩縛固著而不游移也

更以舞器之銘文考之中鼎二云瑋呼貝山貝與山連解則此

「字」^{第十八}形亦必為一國君賞賜臣下之器物之形是斧也則其意義猶號季子盤之錫戊不嬰殷蓋之錫弓矢矣武大文哲季刊五卷三期四七七至四八四頁又四八八頁金文名象疏證

李孝定曰此戊之無秘者仍當釋戊e形與前數形疑非一字吳其昌氏說斧之形製甚備然斧已為後起之形聲字就字形言不若釋戊為較洽也

553 (2219)

李孝定曰郭說可從高田氏釋下一文為因因固苗之古文然與刀字連文實覺不辭也

555 (2220)



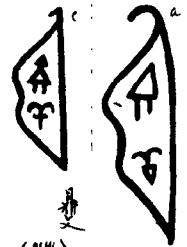
文發自
<1271> △文發

高田忠周曰按吳代元釋安甚矣此父癸上二字當釋刀苗苗字古文元作因作因其缺文或作因作因即象苗席形也但因與因古文作因者形音皆近故謂因為因更加艸為苗象形變為形聲是亦古今文字變易之恆例也(古籀篇七十九第七頁)

參閱184乙字條吳其昌說

郭沫若曰「刀」乃刀組之象形文金文父癸貞有「因」即此字之圖繪是寧之異文在此讀為則釋改(五八頁)(案釋184)

554 (2220)



文丁
<0114> △文丁



文丁
<0114> △文丁



文丁
<0114> △文丁



文丁
<0114> △文丁

馬叙倫曰倫按舊釋弓形中屋形羊王國維謂弓內之文即單字即說文之彈字畫弓也福山王氏藏一鼎銘曰「丹」實與此同亦彈字也倫謂彈即形弓彈從臺得聲臺音禪紐古讀歸定形音足紐蓋彈為以丹青畫弓丹青者顏色之本字古代庶人用弓蓋皆不加丹青故有功則賜形弓形矢此作器者始受形弓之賜者也金文或作形猶形為丹之轉注字從丹之聲

556 (2221)

音審超古讀歸透透定同為舌尖前破裂音也此作器者殆受形丹之賜者與或以畫弓為業者與(刻詞十六頁至七七頁父丁鼎)

李孝定曰王國維氏釋彊可從

557(2221)

父丁字

徐同柏曰舟讀若同旋之同經典同旋亦位舟板(从古卷十四二十二頁高父丁字)

劉心源曰案儀札戈有刀者積言弓積韜戈刀也即止說文作以辨積物也象形此即貯之最初字韜戈於積所謂貯也橫臥者寢兵象也立之則為以(父乙蓋)故人君視朝所立虞謂之

以今作如伯者俗字也(奇觚卷七三一頁父丁字)郭沫若曰即齒形或作卣(字彙)亦即小篆之𠂔字說文以爲貯積字云字辨積物也蓋因貯从字聲達誤以字為貯之初文耳爾雅釋宮門屏之間曰字(齊風著篇侯戎於著字而作著則又作若貯之省世以說文無貯字視為俗作未必然也(金文一九九頁金文餘釋釋

558(2222)

干函)

楊樹達曰按金文有用字余跋子未父乙蓋已釋在(父乙)銘首字亦是子字與彼父異者字作側形又讀曾為母(母微一七七頁子廌聲跋)

丁山曰據我的淺見字字甲骨文作卣金文作卣都不若中(顯)之字形更為原始這個字字作王正象機之持紐若當是持之本字即今俗名的股(詳見氏族及制度一一九至一二一頁釋(4163))

李孝定曰按說文字辨積物也象形又貯積也从貝字聲以貯字契文作卣證之象字中貯貝之形許說實不誤丁氏以豎

559(2222)

文中說為持之本字似亦可通然無以解於說文之字(象中)空貯貝之一現象竊意當仍許說至聲文亦實筆首蓋沿契文空廓金文多作實筆而端(集釋四一六三至四一六四頁)

李孝定曰郭氏謂卣形亦即小篆之𠂔按釋字是也而卣形何以為字其說未聞字即今持字戰時所以持鐃者字象形持則形聲古今字也甲骨文貯字从卣與此同字許訓辨積物清儒治說文者均以貯積義說之恐非許意桂馥謂辨當為辨治也治而積之正與織布之事相近許君之訓殆主此意乎丁山說不誤余前作集釋時頗疑丁說至今思之仍以丁說為長徐同柏氏釋并楊樹達氏釋子均非

560(2222)

𠄎

𠄎
𠄎
<27>

𠄎

𠄎
𠄎
<27>

𠄎

𠄎
𠄎
<27>

𠄎

𠄎
𠄎
<27>

bc 阮元曰案戈在櫜即櫜少儀所謂戈有刃者櫜也者之與器所
以謹世守且示備武備用之義（櫜古卷一、二十頁再父乙尊）

bc 徐同柏曰亞古文書中作櫜戈形取載載之意禮樂記所
謂倒載干戈是也（从古卷三、九頁商班尊）

d 方濬益曰阮文達公釋為戈在櫜形按禮記少儀戈有刃者櫜
孔疏曰謂戈之有刃者以櫜韜之又樂記武王克殷車甲鉶而

562 (2224)

561 (2223)

藏之府庫而弗復用倒載干戈包之以虎皮此文六出似首尾與
四足或又虎皮之象形也（綴遺卷二十三、四頁韜戈父乙解）

bc 張廷濟曰𠄎是佩叔曰古盤母二字母同古通取周遍忠信之

義中作櫜戈形者義取武功成也即禮倒載干戈包以虎皮示

天下弗服之義亦詩時邁載載載櫜之義朱右司侍御曰禮少

儀云戈有刃者櫜𠄎即櫜也櫜以韜之與冊並紀君命焉櫜古

甯用朱說廷清案班人名是其家有戰功者受冊作祭器勒銘

以示子孫商簡賈故止勒𠄎文若至于周必如唯叔鬲鼎之曰

從王南征仲俚父鼎之曰伐南淮節孚金寔鼎之曰肇從遣征

攻戰無敵寧銘矣（清儀一冊七頁至八頁商尊）

郭沫若曰案此字亦當釋由或書為戔字似亦無所不可矩中之戈

形乃由上之文飾也由上之文飾頗不一有作新月形者殷文行卷

563 (2224)

上第之季西父乙白是也亦有櫜書作二工字形者集古遺
文卷八第大之斧白是也（金攷二〇〇頁至二〇一頁金文餘釋釋

干圖）

李孝定曰从戈从宁按宁即持非可以藏戈者字蓋从戈中聲

耳或釋戈在櫜或釋舟中戈或釋倒載干戈已以虎皮或釋班

或釋省上戈紋恐均未諦

564 (2224)



櫝 丁 文



櫝 丁 文



櫝 丁 文

高田忠周曰按金文櫝字作𠄎从宀從其櫝形亦似櫝亦藏器故亦从宀專銘櫝書亦與此同阮氏云櫝中有戈其解為得說文櫝匱也从木賣聲又匱匱也从匚賣聲蓋二字本同字匱即匱之類故字从匚與用同意而匱之制時用木材故字亦或从木賣聲並同斷非別字也論語韜匱而藏諸釋文本作櫝亦同字之證也又魯語使求得之金櫝矢函也即知匱不必用木故字或取于形狀以作匱耳說文又有櫝字訓弓矢櫝也櫝與簠同器異名故簠與匱形相類也櫝簠元弓矢之器故或作函禮記少儀戈有刃者櫝匱以盛戈故字或从戈非形聲而象形會意也但櫝之用不一儀禮聘禮西面坐啓櫝圭角鄭語櫝

而藏之論語龜玉毀于櫝中凡貴器皆藏于櫝字元形聲也金文獨从戈者蓋專系于戎旅兵甲故乎當亦表武功之意矣(古籀篇二十一第三〇至三一頁)

參 廋 條 郭沫若說

馬叙倫曰倫按舊釋櫝為戈在櫝形倫謂口是說文之口字口即今所謂袋之本字此為作戈字之圖語戈字者非必將全戈韜之也以字冒其鋒刃耳此作櫝似并鐔而貯之蓋圖勢使然耳其實亦非但為戈字乃以作兵室為業者之圖語也疑亦兵器或即說文斯之初文斯即今之槍字初文作𠄎(刻詞四三頁父丁爵)

李孝定曰與 2224 為一字



𠄎 丁 文

郭沫若釋由謂櫝書二工字形乃由上文飾見金改二〇(頁金文餘釋釋干肉李孝定曰疑字之異構蓋象字上之有紋飾者)

中

中

中

中

高田忠周曰按元釋為格刀非此匱中有二刀亦匱字異文也
禮記少儀劍則格注劔由是也蓋匱之用多矣古篇篇二十
一第三(一頁)

李孝定曰字疑从刀中聲

569 (2227)

中

中

中

中

中

方濟益釋字天象形曰說文部首以辨積物也象形此文曰中
矢或取象於矢服(綴遺卷六十三頁字天父丁款)

高田忠周曰按匱作中或从戈作中此从用从矢蓋古文積字
說文積弓矢積也从革重聲會意變為形聲之例也朱駿聲云

積字亦作積方音所以藏箭為謂之積或謂之積蓋其器或以
皮為之故或从皮愚謂積與匱元皆同字積下曰匱也从木
重聲魯語金積矢而字亦作積而作匱即兼積積匱下曰匱也
从匚重聲从匚取所以盛藏之意可以盛矢又可以盛戈其實

570 (2228)

作中為本字象形也又金文簾字作中彼失在于內而此
矢在于外此製字之分別也且作中作目與作中形狀有異其
器兩、分別可知矣又按簾字象矢在簾象形也如積字从用
从矢此為會意用亦兼聲亦可見兩字作意之別矣又中字與
中始同形匱可以中物轉為音積義中實古音相近或元同字
後變為形聲遂相分別耶(古篇篇五十九第一二頁)

李孝定曰字蓋矢中合文方說不誤不然則當為从矢中聲甲
骨文匱字作中則矢簾之形不作中且衡之事理作中形亦
不便於函矢高田忠釋積於義已不洽於字之形音更無微說
不可從

571 (2228)

中

中

中

中

中

中

中

中

中

中

中

中

中

中

中

中

中

中

中

中

中

中

中

中

中

中

中

中

中

中

中

中

中

中

中

人阮元曰案考工記殷人重屋之制四阿重屋此正重檐複簷之象形
(稽古卷一、二十二頁重屋父丁款)

572 (2229)

吳式芬曰：許印林說：上字疑是祖字。齊侯鐘有吳釋為祖，即從此字變出。此銘乃祖甲二字也。據古卷之一一三十六頁重屋，即徐同柏曰：齊侯重屋形，禮闕堂佚云：復廟重檐天子之廟飾也。此即其象。八古卷十四、三十六頁商祖己解。

方濬益曰：此文習見舊釋，皆以為重屋形，禮記明堂位：覆廟重檐，注：復廟重屋也。隋書牛弘請修立明堂議引蔡邕論曰：明堂者所以宗祀其祖，以配上帝也。夏后氏曰：世室，殷人曰：重屋，周人曰：明堂。銘此形於觚者，正以觚之制度下有棊，特起四隤下，迤如屋之四隅。故後世亦謂宮闕為觚棊。經遺卷十六三頁重屋解。

馬叙倫曰：倫按以舊釋重屋，彝之六及弓形父丁方鼎之四，相證則此非重屋形也。中之介与与，實同而舊釋苦。

父戊解之：亦即各也。昌父辛彝之各，又即各也。舊釋重屋，爵各之各，出在金甲文中，皆可證其為各字。吳式芬釋各為各，說文各之重文，作各，正與各近。以此互證，則各為各之異文。各即烹調之烹，本字亦與甕一字。詳說爵文作此蓋作器者為善於調味者，即膳夫也。各即說文之章字，章固高之轉注字。高音曉紐，章從羊得聲，羊音喻，四同為次清摩擦音也。喻四古讀歸定章音轉入禪紐古讀禪亦歸定也。然則各之為昌益明（利詞十頁至十一頁高對）。

柯昌濟曰：字从重，A說文A部三合也。从人，象三合之形。注：許書通例：其成字者必曰从某，如此言从入一足也。从入一凡而非會意，則又足之曰象三合之形，謂以會意而實象形也。A之屬皆从A，讀若集，切七部。無各字，此字形又頗象重屋字，訓或為如之，爾雅釋宮宮謂之室，室謂之宮，宮室為冊命之。

地古人則紀冊命之地於彝器也。釋華三二一頁重屋形盤。又釋丁各羊鼎，曰：丁紀其祖父名，京紀地名，羊紀祭祀之物。又京羊合文亦可讀為高字。釋華六三頁丁京羊鼎。

李孝定曰：舊釋重屋形，其意是也。然或逕以世室明堂說之，似有未安。馬氏釋高以重，或作介，證之於說為長。又疑山字異構。



古文
(1057)

高田忠周曰：按上似象下象家廟二文聯結，此當為一字而讀之。果然，此為最古文，據字器銘云：據猶與，古文銘末一字之類。同例矣。古籀篇八十二第三頁。


李孝定曰：从禾从高，或从宀，字不可識。高田氏釋稼，按甲骨金文家字多見，無作介形者，其說未安。

陳仲盤

二
寶
善
堂

吳大澂曰印所疑京字之異文父辛敦上古舊補附錄二十四頁

馮叙倫曰：孫詒讓曰：首字似京，又似亭。吳榮光釋字。

倫檢說文有京有亭然經傳有京無亭甲文京字作禽禽

糸。金文靜盥作糸。師酉盥作糸。殊與今之亭形相似。蓋京

即亭也。子烹鼎之烹。敵盤之食。大克鼎之食。甲文之

竊、或為高字、或為亭之異文、非從高用之高、即亭之異形散

盤舍中之一○者、亭之圖平面形、下復有樓故作H、M其最

下層也。蓋亭有樓。漢制郵置有亭。客亦就宿。郵亭若如

今之街亭無樓者，但可避雨，不能止宿，亭有至三層者，

義為絕高，而因謂丘之絕高者曰京，故爾雅釋丘曰絕高謂之京。左傳之京觀即亭館也。此非亭字，疑仍是古字，或作器者之族微，但未詳其義耳。（刻詞一五一頁至一五二頁又辛盤）

李孝定曰吳大澂釋京孫詒讓亦謂似京又似亭其說是也馬氏說京亭同字甚是然又謂疑仍是言字則有未諦

578 (2231)

4
—
5

李孝定曰从収从𠂔字不可識

父己康
0768
△父己

李孝定曰从月合象屋形一蓋象其基字不可識


580(2233)

579(2232)

劉心源釋甲謂甲己記日也(奇觚卷一第二〇頁婦鼎)


葉玉森曰吳大澂釋丁己為帝己實則丁乃肥華丁字即丁示貞之丁卜辭于父之上稱祖或稱示如示丁示壬示癸是示神也稱示某猶後世稱神農神堯神禹也卜辭中帝字恒見無一作此形者(見前釋卷一第八二至八三頁)(集釋228)
陳夢家曰商禮下指之廟立之主曰帝帝即廟主卜辭帝丁帝甲之帝其義與示相似但乙辛時代的卜辭金文稱帝乙為文武帝文武帝乙文武帝宗凡此帝字與上述之帝或有不同殷周統治者自稱為王而殷人只有上帝而無人帝(見錄述四四〇頁)(集釋231)

585 (2236)

李孝定曰按卜辭帝乙帝甲文武帝之帝均為王天下之號非廟主也(見集釋三一頁)
李孝定曰示字甲骨文多見無與此形近者帝字甲骨文作其與此相同釋帝於說為長吳氏謂帝即帝之本字說似可以陳仁濤氏謂丁象女陰說殊無據後世以帝為有天下之號則假借也

586 (2236)





子十世父甲子△世父甲

徐同柏曰象鐘、四照形乃古文主(从古卷九三頁商父甲盃)

吳式芬釋丁見據古一之三第三十三頁子丁父甲盃

李孝定曰字不可識吳氏釋丁徐氏釋主均覺未安

587 (2237)




作丁
△古文丁字實事黃
△古文丁字
李孝定曰下一文似刀字

588 (2238)

文發鼎
△文發

李孝定曰疑與₂₃₈為同字。

589(2239)

文發鼎
△文發

吳大澂曰₁疑古已字象蛇形父丰尊(古籀補附錄十八頁)

李孝定曰字不可識金甲文已但作早無作此形者吳說非是

590(2240)

休豆
△休豆

高田忠周曰按銘休作父丁寶敦₁七字依他器例如此而一字在銘末者非人名則器物之象今審篆形似舟稍異所謂履从舟象履形者人足所依者是也然則履字亦初象形後變為會意形聲可識矣(古籀篇三十六第二頁)

李孝定曰與₂₂₄₀當係一字高田氏釋履謂其形似舟稍異蓋以此為器形字而所引銘文明稱寶敦(舊釋郭者皆當作殷)此蓋氏族之名釋履則殊無據

591(2241)

文發爵
△文發

方濬益曰₁象日光下从王當是皇字(綴遺卷二十一十六頁皇父戊爵)

吳大澂曰首一字₁不可識漢鏡文有角王巨虛此字象四角形或即角字王字下筆右連特長是否王字亦當闕疑(憲齋二十二冊十八頁父戊爵)

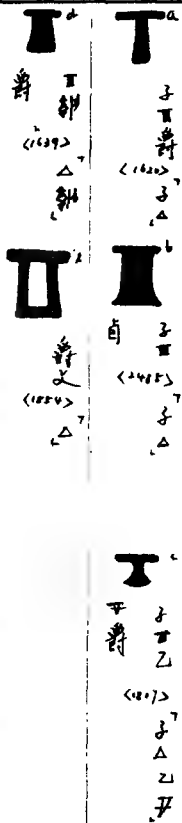
高田忠周曰按₁即履形而履亦同形此實為舟上作₁者與上文同此亦應為象字異文但省₁从子于俞古音相通此从于聲也(古籀篇七十五第三頁)

592(2242)

馬叙倫曰倫按金舊無釋倫謂此說文之皇字也。為日之異文王從火從古文上作二者得聲而金甲文火字無定形金文王字或作王此從山猶從山也(刻詞七一頁父戊爵)

李孝定曰此與疑係同文字不可識上半一文吳氏謂疑角字按甲骨金文角字均作角與此絕遠方馬二氏均釋皇按金文皇字習見亦與絕不相類二氏並謂上象日形金文日字均作圓形無作方筆者二氏之說並誤高田氏釋金文俞字作𠂔𠂔等形與此等無有絲毫相似字固當以存疑為是也

593 (2242)



徐同柏曰說文且所引薦也此且字例文(从古卷十四九頁商子且爵)

徐同柏曰通且字例文說文且所引薦也(从古卷十四九頁商子且爵)

方濬益曰當是帝之象形說文市釋也上古衣蔽前而已市以象之从巾象連帶之形篆文作𠂔此文上象連帶與市之形制正合經典皆作𠂔或作𠂔白虎通引詩又作𠂔為通段字(綴遺卷十一頁子帝貞)

594 (2243)

方濬益倒讀釋祖曰彝器銘祖字習見皆作𠂔為木主之象形或省作𠂔此尤古賈(綴遺卷十九二十頁子祖爵) 方濬益釋銘文首字為手持籌形手執中形又釋𠂔為帝象形曰帝形習見又疑是豐之象形儀禮大射儀有司納射器賈之弓矢與中籌豐皆止于西堂下注中間中算器也籌算也豐可莫射爵者與此殊合惟鄭注皆以豐豈為如豆而卑又云說者以為若井鹿盧近似豆大而卑則並不相類姑存此說待所遇人(綴遺卷二十二頁持籌執中爵) 吳大澂曰丁疑古登象形字子丁爵(古禮補附錄二十一頁)

595 (2243)


器以柳為之象形或作𠂔从竹去聲蓋器或用竹為之故字亦从竹要器元有覆蓋大於器此篆上橫象之字有一或無之猶豆字或省作𠂔也然則𠂔字亦𠂔異文無疑大形借以象蓋亦省作人猶與𠂔字在字上作𠂔亦作人同意又猶𠂔字从大為覆之意也然則𠂔字先作𠂔或省作𠂔而與𠂔省文作𠂔混矣故亦變作𠂔亦或从竹作𠂔即所以字乳而益多也又或謂說文𠂔器也也从𠂔从𠂔古聲朱駿聲云疑瑚璉字似是禮記明堂位殷之六瑚三禮圖瑚如盤而平下𠂔亦或𠂔字最古文說文作胡璉經傳作瑚並段借字也又按𠂔字之蓋金文作𠂔从𠂔古聲𠂔𠂔即𠂔並皆同意與𠂔形意亦類𠂔即𠂔亦同蓋實同𠂔手蓋也胡璉也皆所以盛黍稷之器也即元敝器也故愚謂如此耳(古禮補二十二頁第一頁)

596 (2243)

吳式芬釋壬見據古一之二第六七頁子子爵

劉心源釋二見奇觚卷七第二頁子爵

吳大澂釋俎形見憲齋二十二冊十四頁子形俎形爵

李孝定曰：諸家釋且，釋士，釋市，釋登，釋𡗗，大抵各抒臆解，於字形難以徵信。以上諸文，金文中各有專字，均與此形不類也。考其字形，與甲骨文示字或作者形近，未知是示之異體否。

參閱 2219 條吳其昌說

李孝定曰頗象斧戍之形未知何字

子^レ父^ニ父^ノ鼎^ヲ
 父^ノ鼎^ヲ 子^ノ鼎^ヲ
 父^ノ鼎^ヲ 子^ノ鼎^ヲ

598(2244)

古文
4702
△

參閱1847丁字條吳其昌說

李孝定曰或丁字之異構

師
 鼎
 <086>


1^b
 姑氏
 其萬年子孫
 永寶用△

丁
對 日
丁
「丁」
△ 且
丁

γ
 登壽
 步 γ 又
 (1803)
 又 γ 又
 步 γ 又

1²
道 伯姬
<0956>
伯姬
迄
△

乙
 午角
 其子孫永
 又直
 宣統四年



其子孫永
1
又重
其子孫永

方濬益釋周垣形曰說文寘周垣也或體為院廣雅釋室云
院垣也此文正象院牆之形文選西京賦繚互縣聯四百餘里
薛注曰苑之周圍也善曰西都賦之繚以周牆也（綴遺卷二十三）
二十二頁周垣重屋祖己解（386）

執祿衛連曰劉體智於一字闕疑不釋他家著錄此器者吳式芬據古錄金文式之壹卷八三商承祚十二家吉金圖錄鼎頁四於一字

600 (2246)

599 (2245)

並闕疑不釋。劉氏書卷九上葉載叔侯父段原書云叔侯父下尊段其子子孫孫永寶用。劉氏於「子」字亦闕疑不釋。他書著錄此器者莫大澣憲齋集古錄拾遺冊十四於「子」字闕而不釋。劉氏書捌卷三葉上載叔角父段原書云叔角父下朕皇考宕公障段其子孫永寶用。劉氏於「子」字亦闕疑不釋。他書著錄此器者如據古錄金文式之式卷六三憲齋集古錄拾遺冊八葉上劉心源手跋室吉金文述卷卷十六並闕疑不釋。劉氏云「宋一字未詳據古錄金文式之卷卷五四載師趙鼎銘文宋云其萬年子孫永寶用」。吳氏於「子」字闕釋。羅振玉貞松堂集古遺文三葉上云「一不識為何字。最不可曉。余按四器「子」字乃止字亦即之字。係子連段云永用「者即永用之也。叔侯父叔角父兩段師趙鼎云永寶用「者即永寶用之也。知者劉氏書玖卷四四載趙叔吉父下號王始璽原書作璽趙字作得其字所

601 (2246)

从之走字上从大下不从止而以「」故知「」為止字也。古文止之二字無別。劉氏書捌卷四四載君天乍父父丁段原書蓋銘文宋云子子孫孫其永用止止即之字也。考止字所以作「」形者。劉氏書玖卷四四載走亞鷄原書誤孟征璽原書其走字器文作「」蓋文作「」所以上「」二字皆止之省形。止字作止或止省之則為止「」而「」則「」字之倒形也。貞松堂集古遺文伍卷廿載詔乍皇母段二器蓋文並同。銘文有邁年二字邁字所以之各字第一器器銘作「」其蓋銘作「」第二器器銘亦作「」皆以「」為止。可與此銘為互證矣。（續徵二一九頁至二二〇頁保子連段跋）

602 (2246)

張日昇曰按即下平字同文重錄

李孝定曰揚氏引它器銘文釋此為止讀為之其說似若可信然止之二字金文習見諸銘何以舍習見之不用而必假形為之止而讀為之即此已不可解且諸銘讀至用字句絕亦與他銘語法相合然則此「」諸文固當以氏族之名讀之於一經集銘文例久較洽也按止象足趾形如謂省之作「」於字形已難索解又謂必倒之作「」若「」將何以自圓其說乎西安半坡陶文中亦有「」形諸文蓋古之氏族至商周猶存者歟西安半坡陶文諸參看拙著漢字史話載南洋大學文物集刊引頁或西安半坡插圖一四〇。

603 (2246)

李孝定曰疑弓字異構

李孝定曰疑弓字異構

李孝定曰疑弓字異構

604 (2247)

父丁解
(1192) △父丁

李孝定曰字不可識

605 (2248)

父丁解
(1192) △父丁

李孝定曰字不可識契文吉字上半所从其此相類

606 (2249)

父登爵
(1191) △父登

參閱145至字條吳其昌說

吳大澂曰作倒基形不知何字(憲齋二十三冊十四頁刀形父
癸爵)

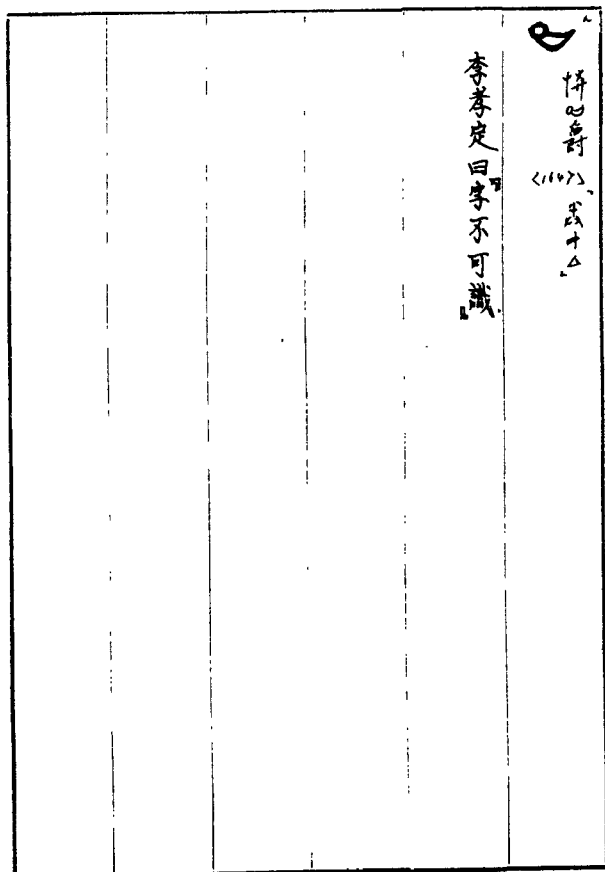
李孝定曰不知何字

607 (2250)

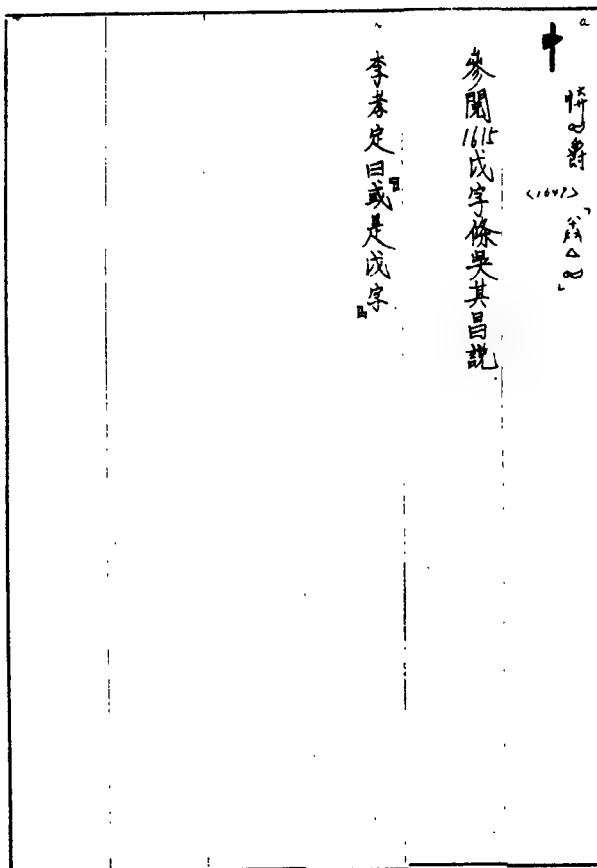
父登爵
(1191) △父登

李孝定曰字不可識

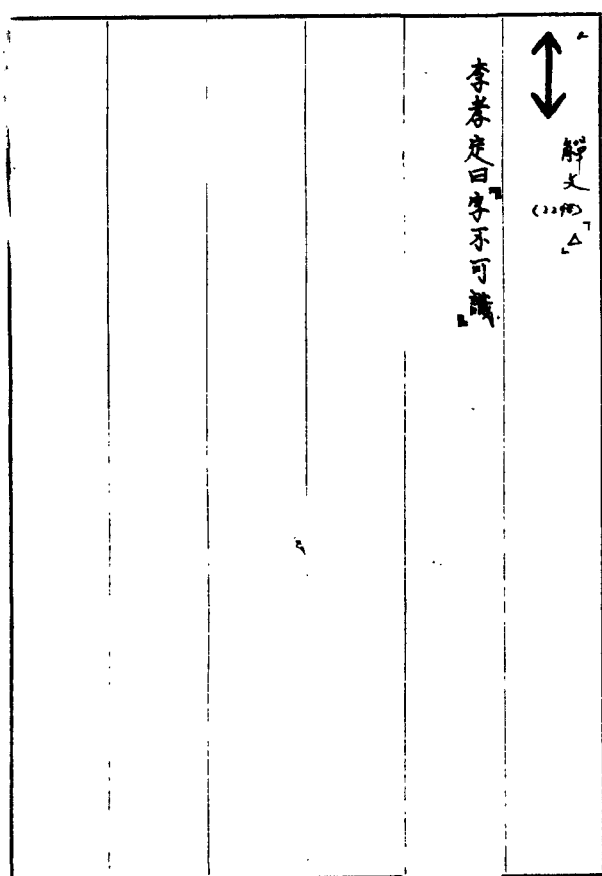
608 (2251)



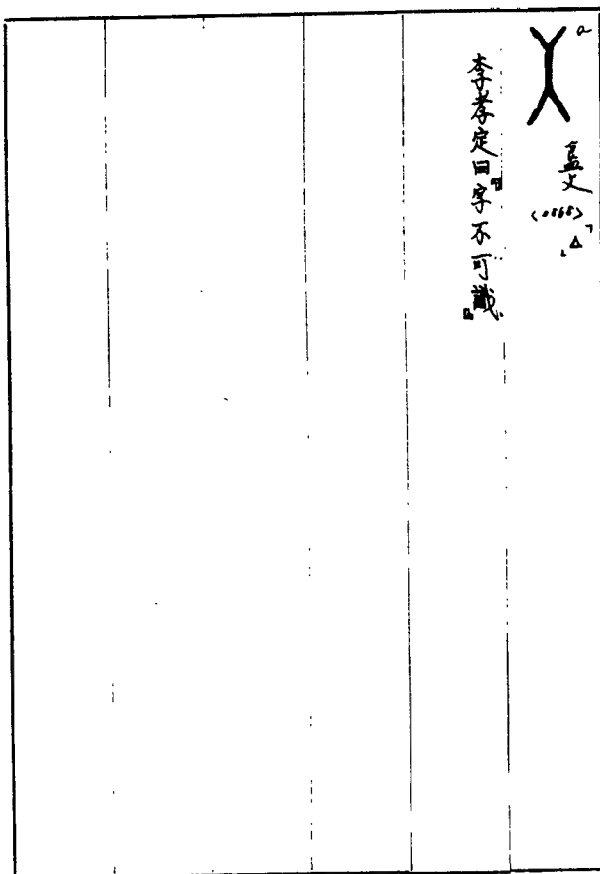
610 (2253)



609 (2252)



612 (2255)



611 (2254)

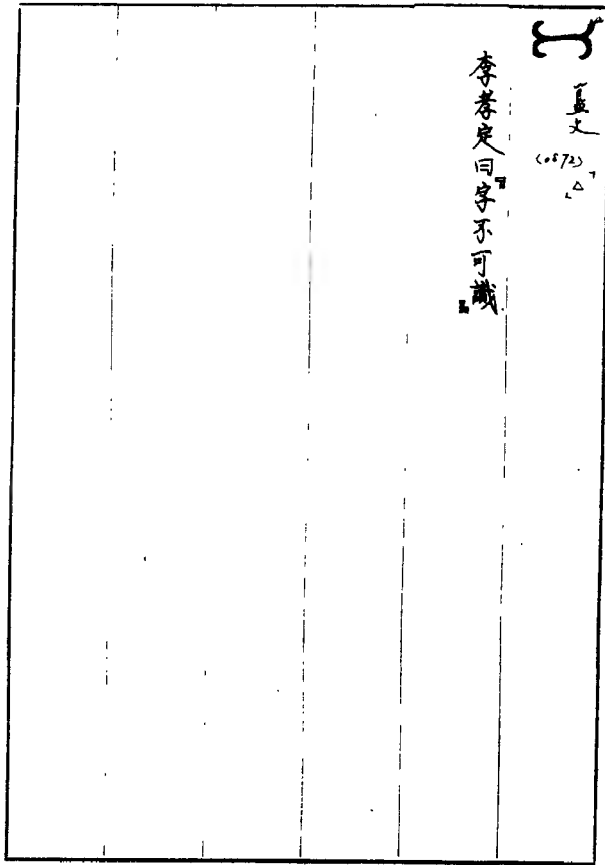
李孝定曰字不可識



蓋上與求尋紀
數九字相同

吳式谷曰个即介說詳高郵王文簡公經義述聞然猶以个為
誤省據此銘知是古文故古經介多作个(據古卷之一一五頁介
釋)

吳其昌曰此即儀禮射禮之个也儀禮鄉射禮云遂授矢三
耦皆執弓播三而挾一个又云司射立于三耦之北播三而挾
一个大射禮云司射入于次播三挾一个又云遂適堂西改取
一个挾之又鄉射禮大射禮並云上射橫弓却手自弓下取一
个兼諸射順羽下射橫弓覆手自弓上取一个又鄉射禮大射
禮並云若中則釋獲者坐而釋獲每一个釋一算又鄉射禮云



司射猶但決遂左執弓右執一个兼諸弦面鐵其他經文涉及
个字及播三挾一个之語尚不勝舉此个義之為矢固前人所
盡知夫既云兼諸射順羽又云兼諸弦面鐵上有鐵下有羽者
豈非矢乎既云左執弓右執一个與弓並執將射者豈非矢乎故
云播三挾一个者鄭注播插也插于帶右鄉射禮三
凡挾矢于二指之間橫之鄉射言取三矢插于帶右以二矢挾于
二指之間也云每一个釋一算者謂射畢計算勝負之時以每
中侯之一矢為一算也故个讀為矢誤露易明人人共喻然而
个何以而為矢則前人殆從未知之亦天下至異之事也鄭玄
于大射禮注曰个猶故也此真創果為因極矣尤僕憤者乃反
以復起一箇以解一个此殆不辨祖孫之長幼也惟明都敬云
一个謂一矢此其語義似矣而又云凡奇曰个則其言焉如故

也解儀禮者盈庭而二千年來竟無一人知个之何以為矢深
可悲也今日觀之則个个乃像形字耳所像何形可以不一
言而端端失曉焉
一矢為一个由此義而引伸之故一个猶一故也个猶故也又
方言十二个故也國語齊語鹿皮四个韋昭注个故也个既引
伸義同于故則固不必限于矢故齊語以指鹿皮而儀禮特牲
饋食禮士虞禮有司徹諸篇並有俎釋三个之文此三个自
當指牲體之有臂膊等也
个義既引伸而同于故後之人求其故而不得乃猥指竹葉如
个而遂訓个為竹枝史記貨殖列傳竹竿萬个正義引釋名佚
文竹曰个木曰故而說文遂云箇竹枝也夫竹葉誠亦似个然
原始个字實象矢鏃之形非欲以象竹葉此足以證漢時个之

古文已不傳但見隸體之个失(武大文哲季刊六卷一期一八
八至一九〇頁金文名表疏證)

馬叙倫曰倫按吳式芬據王引之說个即介字謂據此知是古
文故古經介多作个倫謂介个金甲文皆絕異且亦無个字經
傳之个或借為箇禮記之一个臣左傳之又弱一个焉个實介
之隸省王引之王紹蘭王筠皆主此說是也故禮記一个臣書
本作一介臣國語一介嫡男一介嫡女亦即一箇嫡男一箇嫡
女也箇介音同見紐故得通用或借為莠莠為閒架之架本字
介架亦見紐雙聲故禮左个右个王筠以為个猶三間五架之
閒其實閒架皆當作莠也此器僅此一文則阮非箇之借字亦
非莠之意義倫以為此實鐵之象形文故矢字從此作此器者蓋
以造鐵為業者也(刻詞六二頁至六三頁矢癸)

617 (2257)

柯昌濟曰字象矢篆形或即矢之省文(釋華一頁矢癸)

李孝定曰銘值一字殊難定其確詁容氏舉衆舉九字與此相
同按東文晚出其字形省變不拘常例引以証古文難可徵信
半坡二里頭小屯城子崖上文化層諸期陶文中並有此文陶
器中文字少見而此文出現次數為二至四次可辨習見蓋亦
古之氏族乎吳式芬釋个為叔倫謂是鐵之象形文說並近之
而未明其故吳其昌氏謂一个即一矢筆儀禮及他經一矢為
証可謂能通其郵矣然猶未達一間竊疑个即个亦即今語箭
之古象形文箭則後起形聲字个箭為變聲蓋古今音殊即改
象形為形聲亦文字聲化之通例也馬氏謂蓋以造鐵為業者
之族徽是也

618 (2257)

周法高曰个隸古報音前隸齒頭音非佛聲字个讀為奇
禮考工記注奇矢幹也廣雅釋草奇箭也

619 (2257)

个
古文
矢

李孝定曰字不可識

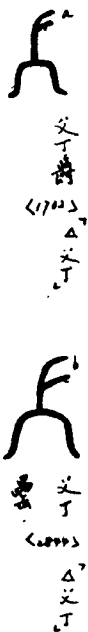
620 (2258)

正也（奇觚卷十八夏以解）

疑象器蓋或車軌之形未能遽定

周法高曰：此疑是危字參 1490 危字條

2 方濬益釋覆爵形見綴遺卷二十一第十三頁覆爵父丁爵








 𣎵 𣎵
 <597>
 Δ' Δ'




 𣎵 𣎵
 <669>
 Δ 且 乙




 𣎵 𣎵

<0206>
△
文
丁

是戊牌
<2222>
△
是戊
△

造
由比
<1697>
△

非也。
(綴遺卷二十三 二十五頁舉爵祖戊解)

吳大澂曰疑古字(意肅二十冊七頁祖戊解)

吳大澂曰「疑古」字父辛爵古（古篇補附錄二十一頁）

吳大澂釋兕形見卷齋二十三冊十六頁兕形祖己爵

劉心源釋蒙見奇觚卷六第十八頁祖戊解

體象為動物此諸文固與之不類也說宜存疑

627(2262)

又發壽 又發

方濬益釋舉爵形曰此爵內象有實之形亦以燕享有實爵之儀也（綴遺卷三十一頁舉爵父癸爵）
李孝定曰字不可識說見上

629 (2263)

音文丁自 音文丁

音文丁 音文丁

方濬益曰（陳壽卿經）為方謂即旁字按彝器文凡作旁者皆舉爵之象形此作丁當是舉爵之形也（綴遺卷三十三頁升父丁卣）

劉心源曰祖己爵有丁字即卣省疑丁亦卣字（奇觚卷六六頁父丁卣）

于省吾曰方原作丁當即亥字甲骨文亥作下古鉢萬作下今亦作方蓋昉於晚周（雙文劍上釋二頁方父丁觥）

馬叙倫曰倫謂丁與封豕之丁似是一字據文曰丁不甲亥亦作下則此亦亥字也亥為亥之初文從初文地字下象艸根故

630 (2264)

形不一定而金甲文亥字多異形也甲文亦有作旁者金文陳賁敦作旁形幾與旁字相似此舊釋所以誤認為方也（刻詞七二頁父丁卣）

楊樹遠曰按陳介祺簠簋吉金錄卷二載此器亦釋方為方而方濬益綴遺書舉爵考釋卷拾二引陳說釋為方謂即旁字方氏則釋為舉爵形劉心源奇觚室吉金文述卷陸六疑為卣字羅振玉殷文存上卷四劉體智小校經閣金文肆卷廿八並釋為方與方氏引陳說同余謂諸家之釋皆非也甲亥字作此形屢見不一見知此字乃亥字也（續微二四九頁至二五〇頁升父丁卣跋）

631 (2264)

李孝定曰于省吾楊樹遠馬叙倫諸氏並釋亥其說可從

632 (2264)



方之聲

李孝定曰字不可識



口已解



口已解

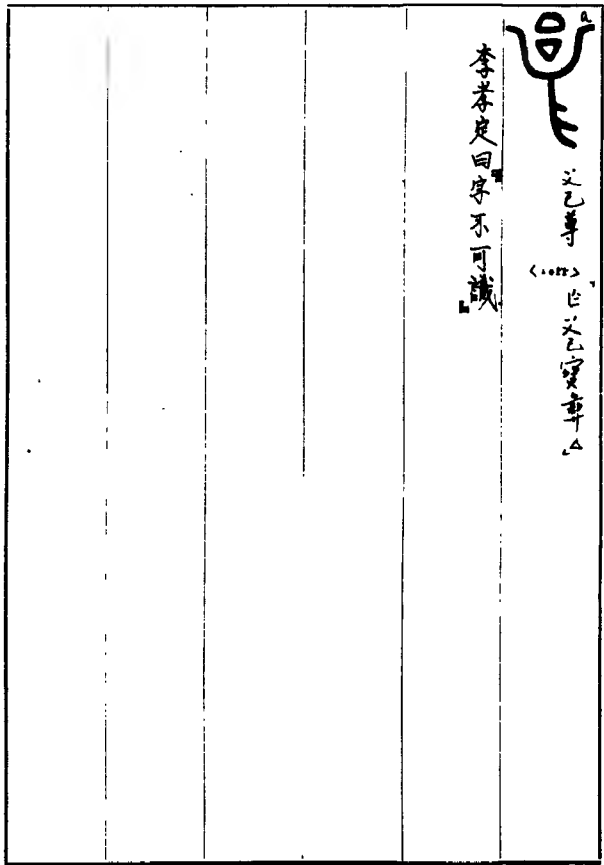


口已解

商承祚曰本書第十四號是口鼎第十五號是口鼎。字形較大或非丁字楊樹達先生初釋金文筆字所從之口為城說文丁鼎說又釋契文田字所從之口為方甲文說上二六釋方是對的城子豈圖版拾陸陶文口字兩見是夏代後期的文字說文謂口讀若方又口回也便注圖行而口廢矣口即方之初文說文員從貝○聲又袁從衣省聲袁也應從○聲金文辟壁二字以○為形符金文員最繁三字以○為聲符○即圓之初文墨子經上方柱隅四端也

一中間長也這是最恰當的方圖定義禮記投壺備列○口之形鄭注圖者擊磬方者擊鼓釋文○圖擊口方鼓前人之考說

634 (2266)



633 (2265)

大者也論及了口○為方圖之古文但沒有古文獨體字的證明原始社會勞動人民的創造文字極樸實極簡單也是極符合於客觀事物的真象所以寫一二三都作積畫以口為方以○為圓都是最原始的文字還要早於其它的任何象形文字這對於考證文字發生的萌芽狀態是具有重要關係的

遺序言(夏)

b方清益釋周垣形曰說文案周垣也或體為院廣雅釋堂云院垣也此文正象院牆之形文選西京賦絲互縈聯四百餘里詳注曰苑之周圍也昔曰西都賦之縈以周牆也(續遺卷二十三第廿二頁周垣重屋祖已解)

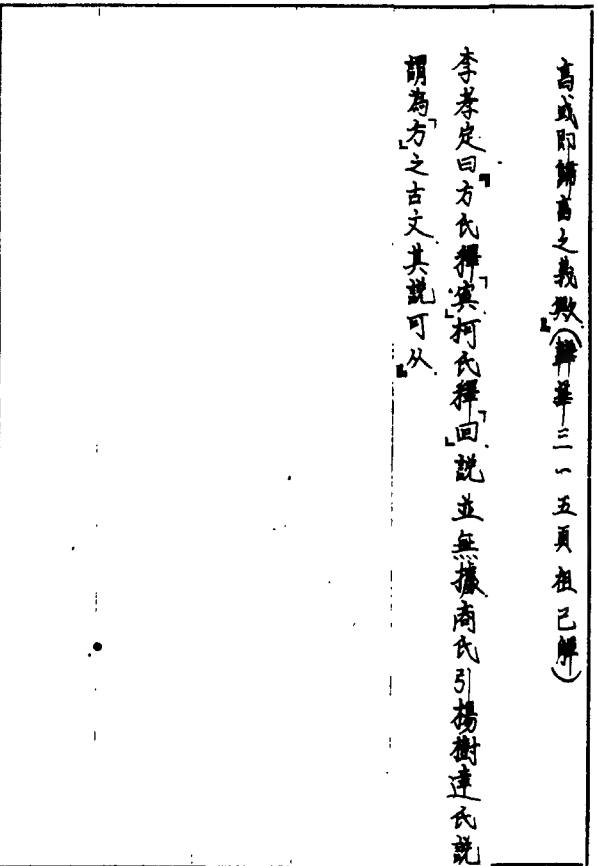
柯昌濟曰首字或古回字卜詞回字所从與此正同蓋卜詞之回即還本字故从回从二二為自彼至此之指事也此字歸回

635 (2266)

高或即歸首之義歟(釋華三一五頁祖已解)

李孝定曰方氏釋案柯氏釋回說並無據商氏引楊樹達氏說謂為方之古文其說可從

636 (2266)



學文
戊寅年王日
王公
王公

b 阮元曰吳佩叔云王月張讀為王關喪說文月關也白虎通月之為言關也(稽古卷一十一頁戊寅父丁鼎)

b 徐同柏曰夕象月半見(从古卷十十頁商爵鼎)

a 高田忠周曰古鑑說云口玉篇謂古文國字今從之按周禮夏官環人注環猶國也主國賓客任器為之守備又韻會四方曰國然商子民弱為民弱國強云云並作口則此鑑或國字也。按前說是而未盡抑古方國字作口作口造字之本唯此二形耳但此象似口而不口似口而不口別自一字也然則其意如何即是圍繞周圍之意見而可識察而見意亦指事之一端耳

637 (2267)

說文口下云回也象回市之形正是口象之謂也後變作圖說文圖字也從口韋聲公羊莊十年傳圖而不戰注以兵守城曰圖是也此亦圍繞義也與易繫辭傳範圍天地之化注周也詩長發帝命武于九圖傳九州也莊子人間世三圖四圖皆同均是回市義之一轉也口之或變作圖猶面之或變作廩彼先有面後有稟字而廩却从稟聲此先有口後有韋字而圖从韋為聲其例正合然則圖字元从口不从口之口又韋正文作重从口為意更為象形或亦作重作重與重古文重不同而兩通用也說文唯有口字無口口字故圖字亦从口口之口又從韋東之韋造字之本源遂暗矣今悉歸于其本云方言圖就也亦為轉義又按口為圍繞形即元一筆之回轉與回作回同意也然則亦與口其理相類故次于此云(古鑑篇二十五第

638 (2267)

(一頁)

b 柯昌濟曰古口字廿字見戊辰均有此形然考之此器文蓋皆不甚類或旨字之省旨通指(韓華四五頁戊寅父丁鼎)

b 吳闓生曰為智之本字後遂作四說文曰詞也象口氣出也智出詞氣也是二字本一義也勿未同聲通用智與即味爽也智鼎智亦作日尤為此字之確證(言文卷一第40頁戊寅鼎)

a 吳其昌曰
1 子貞殷虛簋簋冊七頁十四2 父癸尊簋古卷一之三頁三十六3 齊侯匚簋簋冊八頁十三4 戊寅鼎殷文存卷一頁七5

639 (2267)

刀確尊殷文存卷二頁八6 刀確祖已殷墟古卷一之三頁二十九7 刀確父辛輝殷文存卷二頁二十九8 日尊殷文存卷一頁二十九9 日父辛觚貞松卷九頁六
上所舉例非以以謂象確則殆不復可解也第一形口為劍旁之確第二形口至第四形口為斧下之確第五形口為刀下之確第六形口第七形口為刀旁之確皆確確相承函義顯說以是推之故決知第八形口第九形口亦為象確之形也羅振玉父辛觚之口形決非口字故于蓋以斧劍刀匕切割諸物必于其下有物以承之當之斯能斷離也故確之用所以承之當之確之義為當而丁之義亦為當可以見矣又以古無舌上音但有舌頭音之定律律之則確之聲正與丁同今越人讀又金文及小篆及經典皆無確字蓋丁字已兼確字之用矣(武大文哲

640 (2267)

李刊六卷一期二五二至二五三頁金文名象疏證

吳式芬與嚴字連讀釋見據古二之二第百五十六頁戊寅父丁鼎奇觚卷十六第百六頁戊寅父丁鼎同

吳大澂釋口見憲齋十三册二頁口字專釋華二二三頁口專

李孝定曰吳大澂釋口於字形雖是然於兩器銘文不可通讀吳闓生氏說似較長然戊寅鼎銘此下一字作「𠂔」既非「𠂔」亦非「𠂔」是吳說仍難徵信吳侃叔釋月古文月字習見無作此形者其說非是

李孝定曰「𠂔」係來多釋作月然月字無作如此之例當是曰「𠂔」字之欠缺一劃者也（殷金文考釋八一頁戊寅亞登鼎）林澤明

641 (2267)

譯

642 (2267)

李孝定曰疑是「耳」字

李孝定曰疑是「耳」字

文發解
乙丑
參閱 1485 至字條吳其昌說

參閱 1485 至字條吳其昌說

張日昇曰按 2269a 誤摹當作

李孝定曰按 2269c 一形疑是甲文「𠂔」字吳其昌未聞

643 (2268)

644 (2269)

古文
疑羊之異構

李孝定曰疑羊之異構

上庚壽
△上庚

徐同柏釋眉月形曰禮玉藻凡祭客執
形通其象也(从古卷十四五頁高眉目祖庚壽)
方濬益曰四字不可識或以為舟之象形按古文舟皆作五此
或未照姑闕(綴遺卷二十二十頁口祖庚壽)

吳大澂曰且庚壽陳介祺說四或釋并古籀補附錄二十一
頁

高田忠周曰按此在且與上與他器云耳其專且某同即知
亦為與字象形而省略者亦當證上文為正形耳(古籀補六十一
九第三四頁)

吳大澂釋函形見憲齋廿二冊十一頁函形祖庚壽

李孝定曰徐同柏氏釋眉目形殊未的全文目字習見不作此
形眉字金文似僅一見作甲文眉作也與此略近惟此文兩
豎畫通貫足見其下並非从目故知亦非眉字吳大澂釋函
未見有柱者且兩豎通貫亦非柱象釋并釋并釋并不足
信姑闕可也

丁壽
△丁

吳大澂曰象器有柱形乘爵非角或古人盛酒之器有作兩
柱形者(憲齋二十三冊十一頁器形父丁爵)
參閱0105告字條吳其昌說

李孝定曰吳氏釋告為斧之象形皮傳之論耳且謂中象斧柄
識如其言則斧與柄成一直線是以斧為刺矣矣所引洛誥
父與辟年有關於為歲字告則祝告之義耳文義明白矣事大
亦何由牽附所引父丁爵未知見於何書(憲齋所收數父丁是
否為告字亦不可知未敢置評要之告字形既與斧不類告之
為刑具文獻又無足徵吾人研究古文字不知蓋闕可耳無為

徒逞臆說也(案釋三〇二頁)

李孝定曰吳大澂說持考古文器物象形字多從側視或正視
取象絕無作縱斷面形者吳其昌以為告字所引金文諸告字
惟此文獨異且此點上下有無他文(案見原點)未可知如無他
文則此字當為名詞不得以動詞之告讀之也

649 (2272)

且乙爵

<1761> △且乙

父乙爵

<1720> △父乙

吳式芬釋見集古一之二第二十二頁貝父乙爵

卜方濬益釋見見綴遺卷二十一第九頁白形父乙爵

李孝定曰吳氏釋貝說或可从

650 (2273)

平重

<1711> △平重

李孝定曰字不可識

平重

<1711> △平重

李孝定曰字不可識

652 (2275)

651 (2274)

日 勇重
<277> △

李孝定曰字不可識

653 (2276)

更父丁 益
<277> △ 益父丁 益父丁

阮元曰：集矢鐵相並者即族字之義也。（積古卷二，二十一頁）
形父丁（益）
李孝定曰字既不象鐵形，矢鐵相並，亦不得釋族。阮說非。

654 (2277)

勇父
<278> △

李孝定曰字不可識，蓋象器中有實之形。

655 (2278)

父乙自
<279> △ 父乙

方濬益曰：說文部省弜彊也从二弓，按二弓相並力倍，故訓為彊。此為二弓相背不審，何義？汗簡有弗字，作弜與此形似，疑一字。（綴遺卷十，二十頁雙弓自）

李孝定曰：方氏以為二弓相背，其說無徵。又引汗簡弗字，亦不可信。形是否弓字，亦待商。

656 (2279)



子 貝部 子 子

李孝定曰：字不可識。



子 貝部 子 子

方濬益曰：當是市字。說文部首市，周也从反之而市也。周盛說舊釋師非是。（綴遺卷十九，三十一頁，子市爵）

高田忠周曰：按元釋亥非曹氏。吉金圖亦引作爵字，亦誤。今審明是倒止形，即市字也。說文而周也从反止而市也。周盛說朱氏駿聲云：字亦作逆，俗誤作匝。周禮大宰挾日而敘之以挾為之字，因變作決。小爾雅廣言決，匝也。爾雅釋言決，徹也。越語決日而令大夫朝之。史記禮書房皇周決，索隱：猶周市也。此說極佳矣。（古籀篇八十一，第二一頁）
吳式芬釋文：漢古一之一，第三十四頁，子亥爵。

658 (2281)



子 貝部 子 子

方濬益曰：說文部首由，頭會端蓋也。象形，比首一字形相似，或是一字未能定。（綴遺卷十一，三十三頁，父己白）

高田忠周曰：按此處文字錯倒。由字當在下也。猶曰：乍父己寶尊，與自象形也。了與同，或云人名非。（古籀篇八十八，第一頁）
梯樹達曰：按子為又作器者，或記子名，或但云子。此云由作，白為頭會端蓋，準之左傳，首祭足之例，亦可釋為子名。然莊形父卒，蓋云：歲父卒，為說文所記，華藉文，繼之省形，蓋銘蓋讀華為子，而此銘之由，又與之省形也。余初意如此，繼而思之，白唐韻讀息晉切，不讀如子之音，故如此說之。然息晉切之音，果無可疑乎？據息晉切，音當屬真部，然思以白聲，音在昭部，一也。由

660 (2282)

李孝定曰：此當即契文不字。郭沫若以為象花萼樹之形是也。釋文釋：市均未的。亥字，金甲文習見，均與此不類。高田氏謂从倒止之形，按之字，甲文作止，从止，金文雖略異，猶存止形。此文固非倒止形也。（郭說見集釋三四，九六頁，不字條引）

659 (2281)

或作脾，脾从肉宰聲。宰為咍部字，二也。由又或作𠂔，𠂔與東聲名
 出曰𠂔形近，由古文作𠂔，而此作𠂔，蓋一書二畫三畫任作不拘，由又
 咍部字，與宰為同音也。由或作𠂔，今固不得其因，事殊可怪。就令
 差誤，仍可取證。由之音讀，三也。一切經音義四云：由古文𠂔，脾二形，脾
 已見上。𠂔从肉司聲，司亦咍部字，四也。據此四證，由古讀當在咍
 部。音當如宰，由方言卷十云：慈者子也，潮沉之會凡言是子者
 謂之慈。若東齊言子矣。按今湖南尚言慈，慈為子之後起字，由古音與
 宰由同，即亦與慈同，然則由作寶脾，即子作寶脾，正不必說
 由為慈之省形，而文大可通矣。余姑記所疑，而為假設之說，如此後世
 精於音韻者論定之。按氏注說文，據禮記內則正義云：由象小兒
 胎不合，謂字當作由，以今作由者為非是。今觀此銘字作由，其他从
 由之字亦皆作由，象合而不象分，與今篆同，知後說為誤信矣。

661(2282)

(續按)九五頁由又已由跋
 李孝定曰：此不可識，方氏釋由實屬此傳，蓋頭會屬蓋，不得作
 方形也。高田氏釋由，金甲文由字多見，與此絕不類，此正是人
 名。高田氏云非人名，亦誤。

662(2282)

父癸孟
 徐同柏曰：句从口，聲古音讀如鉤。(从古文卷十一，四頁商
 句鼎)
 方濬益曰：說文句，曲也从口，聲。此作句，為變體。(綴遺卷五，
 二十五頁句父辛鼎)
 李孝定曰：方徐二氏釋句，可从此。帶鉤之象形。

663(2283)

且發
 劉心源曰：未詳，或曰古文似字，用為脈。說文似字，作𠂔，即此奇脈。
 卷六，二六頁閔脈。
 李孝定曰：此與𠂔一文當同是。句字，此文形體略變，口形非口，
 字乃帶鉤之一端，所以受句者。此文，口形獨立，為許說，口聲所
 自助。

664(2284)



方濬益曰：今按此字从口，句者須之象形也。蓋之古文从之，奇不可強識，疑亦人名。意造之字（綴遺卷六，四頁百乳敦）高田忠周曰：今審此篆形，右回即句，唯口後在口間為小異也。左無缺犬字，與上文作木同象，與此略類可證。故訂云：狗與狗疑作器者名也。說文：狗，犬也。大者為犬，小者為狗。从犬，句聲。孔子曰：狗叩也。叩，氣吠以守。爾雅：釋畜，未成鹿狗，然則狗與駒造意同。轉義釋獸，熊虎醜其子狗，字亦作狗同（古補篇九十第三頁）。

郭沫若曰：據古錄金文引許瀚說，此是句章二字。卷一之章，吳大澂云：上文似句字，下一字不可識。十四家百乳敦。

665(2285)

今案此乃須句二字之合文也。回自句之異，凡乃須之省，須與句字之見于金文者，今補之如次。



須者，須之初文象形。今作凡，則是省夏而存須，其為須字無疑。句者，銅帶之鉤之本字。凡象帶鉤之形，口聲。今作回，乃移口聲于象形之圖耳，自當為一字。

須句，古國名。春秋僖公二十三年，魯公伐邾，取須句。其前年左氏傳云：任宿須句顓臾風姓也。實司大雩，與有濟之祀，以服事。

666(2285)

諸夏今得識此銘，則須句有古物可徵矣。（金文三三頁釋須句）

李孝定曰：郭氏釋此為句須合文，極確。惟說向字之口為以聲符之口，移置象形文之間，微誤。說見以條下。高田氏釋狗，大誤。



方濬益曰：家獵角之形下為角，蓋即古文角字也。小篆作角，王從比出（綴遺卷十，二十七頁覆角父已角）。

吳大澂釋：此字形見卷第十八冊十頁父已角。

李孝定曰：字不可識。吳氏釋為比，豈形殊不類。方氏謂是角字，並引小篆為說，亦非。按金甲文及小篆角字，並象獸角之形，作角。象角之曲，中象其理，非取象形於酒器之角也。

668(2286)

667(2285)



孝
(1) (2) (3)

李孝定曰字不可識

669(2287)



孝
(1) (2) (3)

李孝定曰字不可識

670(2288)



孝
(1) (2) (3)

阮元曰象數祝兩旁有耳是奠器形也(積古卷二十一頁子丁父甲盞)

徐同柏曰象疏布形乃古文幘呂中覆物之謂儀禮燕禮注執畢者執瓦太之畢也方圓壺無畢按凡畢者皆為塵埃故加設之是器為調味之盃銘曰主幘知古人凡器皆有畢矣疏謂注誤良是(从古卷九三頁商父甲盞)
李孝定曰金甲文召字作其下所从象酒尊之座蓋器禁之屬與此文頗相類未知即此物否阮氏說似較長

671(2289)



孝
(1) (2) (3)

李孝定曰疑是刀字

周法高曰疑是羽字讀為翌羽父辛者翌祭父辛也來

672(2290)

𠂔

羊九之丁爵 羊△口之丁

孫詒讓釋字義曰：𠂔，乙案等字，著無釋，清館釋為朔，亦未
端。今審篆文，从羊，从止，說文是部，遂从足，義聲。此增走為止前
父，戊爵有𠂔字，著無釋。一，沛審之亦與此同。𠂔，即羊之
異文，後鄭義姜蓋姜亦𠂔。一，與彼正同，足跡即象形止字。
卜即丁，亦从羊，从走，似皆一字也。餘論卷一第四頁，𠂔形父
丁。

李孝定曰：按詒林附錄原稿，此下引孫詒讓說，恐非說此字。此
作𠂔，既不从羊，亦不从止，字不可識。
張日昇曰：李孝定疑此條有誤，按孫釋从羊，从止，或指上文及
下文上半合為一字而為𠂔。

673 (2291)

𠂔

文丰解 𠂔今文丰

方濬益曰：𠂔，下左為肉形，右為刀形，禮記禮器割刀之用，𠂔刀
之貴疏曰：割刀，今之刀也。𠂔刀，古刀也。今刀便利，可以割物之
用，按此刀形，與𠂔刀父乙鼎𠂔刀母白二器文異，又左有肉形，
當即所謂割刀也。（綴遺卷二十三，二十二頁，父丰解）
高田忠周曰：按𠂔上有𠂔字，竊謂與𠂔音也。𠂔，下从刀，从一，
與丰同意，割放陳際之象。說文：𠂔，靜也。从𠂔，𠂔聲。𠂔从大，𠂔
聲。故與亦作𠂔耳。（古籀篇七十一，第二三五）

參閱1844乙字條吳其昌說

674 (2292)

李孝定曰：方氏說此為𠂔，下立刀形，可。然謂刀旁一點為肉
形，則無徵。合數偏旁，亦不識為何字。高田氏釋與待南謂：與
丰同意，殊難徵信。

675 (2292)

𠂔

文丰解 𠂔今文丁

𠂔

受且 𠂔今文且丁

李孝定曰：字不可識。

676 (2293)

外
乙
壽
△
乙

作
文
乙
(10992)
白
文
丁
銀
(10)

父年鼎
△
父年

△母

李蒼定曰李蒼兩耳相對形說文聃訓安富即此字方氏以會
對為解非是

弁者名尊

*
 婦
 解
 (2307)
 . . Δ
 九
 九

* 廟
廟
(0761)
△ 廟

680(2297)

679 (2296)



李孝定曰字與龜形絕遠吳說無徵

馬叙倫曰倫按舊釋中為束無據倫謂此亦中字禮之鹿中兕

中虎中皆所以受算父癸爵有中舊釋兩虎相伺檢舊釋單

其獸獨角則知是兕非虎也其單與他金器單字

同形而實非單仍是中字中為受算之器其象形文實當為日

蓋有器可象也及漸失其圖畫性則形與口似因加一為中一

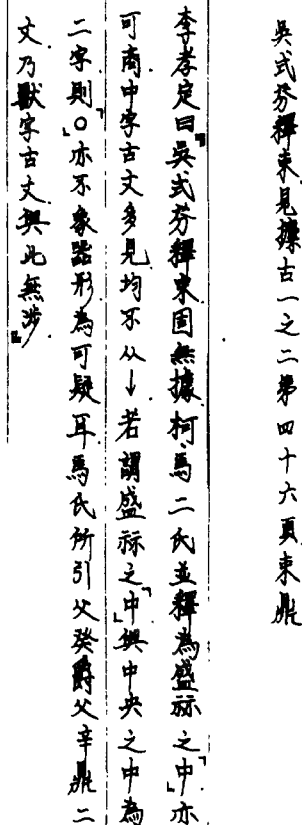
即算也或加↓為Φ或加Y為Φ↓即上舉矢藝之个字Y即

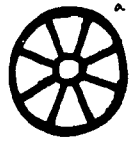
矢字之下體安弦處也引申為中矢之義借為伯仲字劉詞六

八頁中鼎



李孝定曰字不可識





鼎文

<0187> Δ



鼎文

<2128> Δ

李孝定曰象車輪之形當即輪之古象形文

685 (2301)



阮文

<0117> Δ 古阮父癸

阮事章

阮元曰案日字見郭忠恕汗簡出華岳碑象日輝四射形

古卷一二十七頁日庚父癸癸

吳式芬釋日見據古二之一第二十二頁日庚父癸癸

李孝定曰舊釋日或可从

686 (2302)



中

<0177> Δ

李孝定曰字不可識

687 (2303)



日

<0133> Δ 日

徐同柏曰象爵之足日象酒器形爵足施於酒器則為爵

矣(从古卷五七頁商兕爵)

李孝定曰徐釋為爵形不足信契文有日字與此略近未知

是一字否

688 (2304)

𦍋

乙 𦍋

𦍋

𦍋

𦍋

𦍋

𦍋

𦍋

𦍋

高田忠周曰按舊釋作毛安甚按身之从艸巖狼藉之象猶
三申橫邪也又——以象徑路作直作曲意固無異此當身字古
異文也說文身艸莽也象艸生之散亂也讀若介莽下艸也楚
辭注蔡草莽也所謂草莽是也經傳云草莽者莽實為身段借
也身亦段借為介畫竹木為識之身初字所从是也此於造字
為象形段借其實刻畫之身與艸身字初分別不混至小篆遂
不分非是(古籀篇八十三第三七頁)

馬叙倫曰倫謂身與舊釋諸身自倫字所從之身乃母自鄉所
從之身為一字皆架之初文舊釋乙毛鼎之手與此同(刻詞六

三頁辛鼎)

吳式芬釋毛見據古一之(第二十頁辛毛鼎)

方濬益曰按詳氏款識有乙毛鼎下一字作身為傳形釋為

毛疑未確(綴遺卷五第二十一頁辛毛鼎)

李孝定曰吳氏釋毛不可信馬氏釋為初之初文於說為長高
田氏說為草莽之身又謂身初初分別不混至小篆始不分又
謂以身為初為象形段借其義未聞

𦍋

𦍋

𦍋

𦍋

𦍋

𦍋

𦍋

𦍋

𦍋

𦍋

阮元曰江叔史侍御有此篆本釋來為東案獨本東中明有照
當釋為東東字有作東者見汗簡所引義雲章東字以東知古
東作東也東練之省禮曾子問云主人練祭而不旅此曰東矣
是練祭之器(稽古卷一二十二頁東練)

方濬益曰說文無串字心部惠下云憂也从心上貫口口亦聲
許君蓋以古無串字故曰从口貫口按部首貫穿物持之也从

一橫貫象實懷之形意串之為字即母之形變分母為二直
其形則串字也詩皇矣串夷載路傳串習也釋文串本作惠
今以此文證之是有串字矣(綴遺卷二十一十七頁串父甲爵)

方濬益釋串(444)為車形見綴遺卷廿三第十六頁雞彝形父



丁解

又父丁豆(444)之車作串釋來見綴遺卷二十五第二頁東

父丁豆

牛彝

李孝定曰按諸文當以釋串之解於義為長作串者蓋其異
構阮元氏釋中有小點者為東方氏从之其說待考作串形者

方柯二氏並釋串其形於今隸之串為近惟說文無串字考金文嬰字偏旁作實古象形串字象貫貝之形後以音近於貫其義亦為母貝遂別製貫字以為从貝从母母亦聲之會意兼聲字於是貫形而串廢矣串既本有專字則此作形者不得釋串明矣

693 (2306)



不乙
參






參閱1485至字條吳其昌說






李孝定曰吳說未聞(符考)

694 (2307)



丁
丁

高田忠周曰按丁未二字與他器文相合但木者其時根亦實滿也故此下作以象充實亦與作同意也下文上形作為省文而實同意者釋並作未非未有垂穗作此等篆無之矣(古籀篇八十七第二頁)





李孝定曰高田氏釋丁未合文殊無理致古文干支字未見作如是合書者此當是封之古文異構封邦古當為同字金文編封字下收此二形此與第一形全同而容氏乃收此入附錄蓋偶未察耳又散氏盤之亦封字从以一也此不从从从土亦封之意也金文邦字从此邦即封之孳乳字也

695 (2308)





甲
甲

參閱144乙字條吳其昌說

馬叙倫曰甲疑為之壞文為羽翼之翼初文然枝葉之葉初文形亦相似今見於金甲文者作用劉詞四三頁代

吳大澂釋見意齋廿二冊十三頁三象形

徐同柏釋見從古卷十四第十七頁周中印

方濬益釋立刀形見綴遺卷廿第十七頁立矚中

696 (2309)

李孝定曰諸說中似以爲說爲長惟下230一文之偏旁又似爲刀字未可遽定231此字與神字聯文神爲械若戰字則此字或从釋刀爲是也

周法高曰此羽字讀作聖祭之聖卜辭作羽說見唐蘭殷虛文
釋羽期 1770 中羽上一字見 231 條郭氏謂即干戈之合文或即小篆戰字所從出者蓋舞干戚以祭也 1770 子羽父乙蓋子爲父乙作聖祭也



父乙尊

方濬益釋立刀形子立刀形曰陳壽卿釋子之兩旁爲總角形今審之當以立刀形爲確 (經遺卷十七十三頁立刀父乙尊)

吳大澂曰 甲 陳介祺說雙總角形子父乙尊 古書補附錄十八頁

劉心源曰子上爲雙角形其兩髦之象乎詩柏舟正義引既夕礼云既殯主人脫髦注兒生三月前剪髮爲髻男角女羈否則男左女右長大猶爲之飾存之謂之髦又云兩者召象幼時髮則知髻召扶因故兩髦也中爵父乙爵並有甲字疑此之省也 觥卷五四頁父乙尊

參閱 2001 條丁山說

柯昌濟曰子旁像形舊說雙角兩髦之形案此或即子字古文若召伯虎敵所載別體子字是也 釋華二二七頁子父乙尊 參閱 144 乙字條吳其昌說

李孝定曰諸說應以方濬益說爲長劉氏謂是總角之形然左右兩偏旁離子獨立非總角之象甚明柯氏謂即子之古文蓋視左右偏旁爲紋飾其說無徵六國時爲蟲書始有於週圖者紋飾之子字般周之際未見此例也丁山以爲 龔 之別體亦釋爲龔說非兩字形體迥異無由證爲同字也

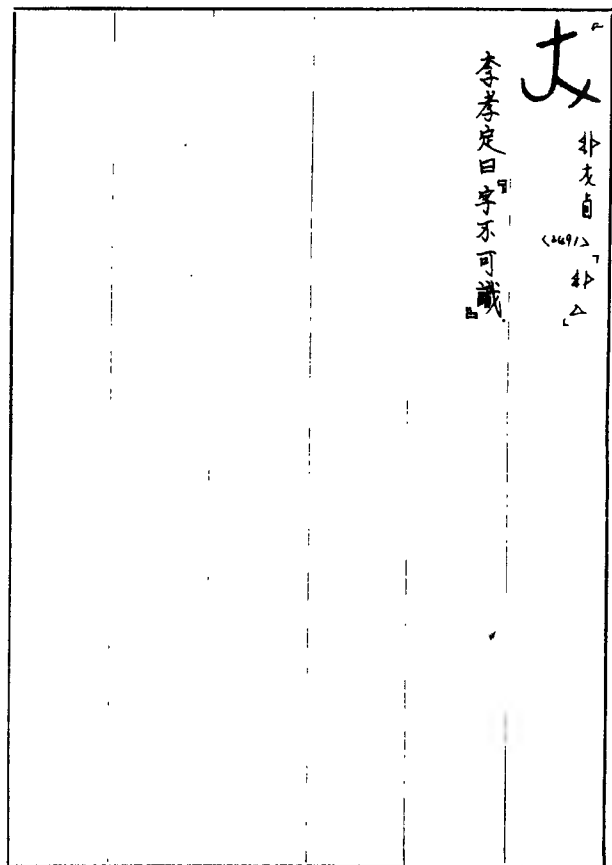


子父尊

李孝定曰字不可識



702 (2313)



701 (2312)

徐同柏曰：「古文丙兩旁，火之象蓋古炳字，炳明也。取明薦之義。」（从古卷七，七頁商祖癸白）

方濬益曰：「此文為鑿器習見，積古齋款識有兩，顧銘阮文達公說曰：『兩之兩旁有火形，古為烹飪之器，故取象焉。』」

之象，兩雅釋器云：「款足者謂之兩，史記封禪書云：『其空足曰兩，款者空也。』郭氏訓款為曲，今按其制外曲中空，合二訓而義備矣。」（續古卷二，十九頁商祖癸）

徐同柏曰：「古文丙兩旁，火之象蓋古炳字，炳明也。取明薦之義。」（从古卷一，十九頁商祖癸）

方濬益曰：「此文為鑿器習見，積古齋款識有兩，顧銘阮文達公說曰：『兩之兩旁有火形，古為烹飪之器，故取象焉。』」

之象，兩雅釋器云：「款足者謂之兩，史記封禪書云：『其空足曰兩，款者空也。』郭氏訓款為曲，今按其制外曲中空，合二訓而義備矣。」（續古卷二，十九頁商祖癸）

704 (2313)

阮元曰：「兩字兩旁有火形，古為烹飪之器，故取象焉。下曲象款足之象，兩雅釋器云：『款足者謂之兩，史記封禪書云：『其空足曰兩，款者空也。』郭氏訓款為曲，今按其制外曲中空，合二訓而義備矣。」（續古卷二，十九頁商祖癸）

徐同柏曰：「古文丙兩旁，火之象蓋古炳字，炳明也。取明薦之義。」（从古卷一，十九頁商祖癸）

方濬益曰：「此文為鑿器習見，積古齋款識有兩，顧銘阮文達公說曰：『兩之兩旁有火形，古為烹飪之器，故取象焉。』」

之象，兩雅釋器云：「款足者謂之兩，史記封禪書云：『其空足曰兩，款者空也。』郭氏訓款為曲，今按其制外曲中空，合二訓而義備矣。」（續古卷二，十九頁商祖癸）

703 (2313)

張日昇曰按
23132 即
20352 之上半字同文重錄

作灾者絕不容與兩字相混高田氏蓋未深察耳書或又釋烟

710(2313)

709 (2313)

專 文
(1987)
△
文
乙

314)

711(2)

2

(1012) 7
Δ

△ 3

具永

14)

712 (2)

阮元曰。角字舊釋為舉。錢獻之以為鬲字。案舉飲酒也。訓見儀禮特牲饋食禮注。故古人爵觶自等器每以舉字銘之。古文舉形象鬲。薛氏款識父己舉釋云。按作鬲鬲音舉。文鼎也。林乃舉省耳。案說文鬲所以枝鬲者。從鬲省。鬲省。徐音渠容切。六書故引。

712 (2314)

711(2314)

說文作𦣻。文訓為持。義與舉同。舉𦣻二字形亦相近。文齊侯鐘
鐘銘格字正似𦣻字。爾雅釋訓。格。格舉也。知丁度此音必有師
說。古舉字正從𦣻。但形有繁省耳。（稽古卷一三十百舉已
自二器）

徐同柏曰。說文再字爲字。然有舉義。下體即古文舉也。此舉字
與再字爲字下體正合。（从古卷一三頁商舉文發壽）

吳雲曰。按舊唐書釋義。舉宜和博古圖謂舉之爲字。有以手致
而舉人之意。爵解皆酒器也。因獻酬而舉之。故銘其器曰舉。又
引杜養洗而揚解以飲平公。謂之杜舉。殊為精確。積古齋款識
釋爲舉字。亦詳。反讀舉當無異義。近在暨陽見陳以和式金處
藏金石拓本。有徐閔渠撰釋。其字一條。謂鼎字草草。其形似升
華書在真書前。其意尤近。古篆此升字蓋草篆也。如升字草作

与近篆尺與作与近与出作生近也。爾作尔近尔介作尔近尔
疾作尔近尔我作尔近古文疾因作尔近。他作尔近。尔若者
之首作尔近。尔如此者不一而足。云云。充此類以釋金石文
字。頗足啟發心思。故並錄之。（兩雲卷二第十八至十九頁舉丁

解）

方濬益曰。此字舊釋爲舉。蓋象以角貫鼎之形。儀禮士冠禮
設局鼎鄭注。局鼎。折實疏局。所以舉鼎。又謂之鉉局。鼎黃耳金
鉉。利貞正義曰。鉉所以貫鼎而舉之也。又周禮王日一舉。注殺
牲盛饌曰舉。又王齊日三舉。大喪則不舉。大荒則不舉。大札則
不舉。天地有戒。則不舉。邦有大故。則不舉。銘舉於鼎。亦頌祝
之意。（綴遺卷五十頁舉鼎）

714 (2314)

張廷濟曰。𦣻。古器文習見。舊釋爲舉。錢獻之。姑以爲𦣻字。積古
齋卷一舉。已自二器下詳言之。廷濟案。此是𦣻字。詩所云。饁彼
兕觥。也有舉之義。不當竟讀爲舉。戊寅之秋。余於武林爲弟李
勤購一父癸爵。中有𦣻字。从人作𦣻。是又傳字之明證也。（清儀
一冊三頁商爵）

吳大澂曰。薛氏鐘鼎彝器款識法帖。已舉彝文作与。𦣻謂李公
麟得爵于壽陽。紫金山腹有二字。曰已舉。王珣獲古爵于洛。亦
有二字。曰丁舉。字體正同。𦣻爲古器習見字。或作𦣻。亦作𦣻。自
宋以來。故古家皆釋作舉。書顧命上宗。奉同瑄。太保受同。授宗
人同。之同。當即同字之訛。鄭康成曰。一人奉同。一人奉瑄。同酒
栳。三國志。虞翻傳。法載翻別傳。云翻奏鄭玄解尚書達失事四

以顧命康王執瑄。古同字。似同。從誤作同。既不覺定。復訓爲栳。
玉人職。天子執瑄。以朝諸侯。謂之酒栳。誤莫大焉。江氏尚書集
注音疏。王氏後案。孫氏今古文注疏。皆謂虞翻安說。鄭氏以同
爲古瑄字。重言同瑄。既不咸語。下文王受同。以祭太保。以異同
酢。同非酒器。而何江王孫諸家。駁之是也。惟江氏王氏訓爲主
瑄。以祭統。君執圭瓊。標尸爲瓊。孫氏謂今文作銅。以白虎通。爵
篇爲據。似仍未竭大澂案。彝器中𦣻字。觚爵解所見尤多。蓋商
周以酒器爲舉。杜黃洗而揚解。以飲平公。謂之杜舉。古文作𦣻。
因誤爲同。余在關中。得父乙爵。柱有𦣻。以二字釋爲舉。吃。即
吃之省。既可證三吃爲莫爵。又可證𦣻之爲酒器。而非同字。數
千百年。經師疑竇爲之一釋。（字說十七頁至十八頁舉字說）

716 (2314)

715 (2314)

上然蓋由誤兩聲為從兩會意者所為不悟兩固有足無須以
架支之也說文訓所以支兩者亦後人不明本義者所為此字
蓋出字林非說文本有也(劉詞九頁并鼎)

薛尚功曰舉字按集韻云舉音舉支兩也林乃舉省耳













又曰按字書云舉從手從與以手致而與人之意獻酬之義也
記禮者言杜黃洗而揚輝以飲晉平公而公曰毋廢斯爵至於
今謂之杜舉然則輝亦謂之舉實基于此昔蔡出龜而謂之蔡
莫出馬而謂之驥皆相因而得名也是知舉之為器其義亦尔
(欽定五第五六頁父已舉又卷十一第一一五頁乙舉專)
劉心源釋父丁爵(1693)之字為兩見奇觚卷七第十八頁父丁
爵又釋昇冊(2930)之冊為冉曰古器多有以升字俗釋

舉或釋兩觀八字則當釋冉矣(奇觚卷八第三〇頁昇冊西)

李孝定曰此字舊說紛紜為舉為兩為冉為兩為兩為兩傳釋
為酒榼之同之正字為冉為兩為兩不一其辭大抵舉援此傳
殊無確証今請略辨之按舉字从與从手古與與同字與即有
舉義舉字从手从與與亦聲乃與之偏旁累增字與字已从
四手舉字更增一手於義已獲與此字形全無關涉阮氏引經
訓相比傳按經訓多就經文立說往非字之明證且蓋此
字均為人名亦與飲酒之義無與是此字之與舉形音義實無
絲毫關係可言也兩字古文多見均象器形亦與此字不同冉
古作(當即與之古象形文與此形雖略似而實迥殊不可以
比傳形似說之也爾字許訓所以枝兩者兩本有三足無需更

有他物支之為敘倫氏已詳言之矣考為兩手持側皿之形
獨字蓋屬後起亦與此字無涉釋此為鼎者从艸書鼎字作(其
為言殊新異可喜然甲骨金文鼎字累數十百見無一作此形
者何以人名之鼎必為草書此正不可解者也釋為經傳作酒
杯解之同之正字者其病與阮氏釋舉之說正同且此字寧有
絲毫酒榼之象乎且古飲器如爵觚觥角散等器銘中或舉以
自名然竟不一見自名為升者足証此說之誣也釋冉者亦以
字形近似比傳為言了無佐証可毋深辨釋冉者之惟一証據
為金文之有作其者其半體與此相似然音義無徵也所
引卜辭之冉冊實冉冊之誤讀義謂舉冊非冉冊也釋架者亦
以冉字一義所引致且此字形略似支物之架故云尔他亦無
徵也愚按諸說雖皆難以徵信然有一共同之認識則不誤此



共同之認識唯何蓋此字實象器物之形也考甲文有界字乃
盧之古文亦即今之罐字上象器身下象其足其形與此極近
未審是一字否姑貢所疑以供博物君子

 中
 中
 中
 中
 中
 中
 中
 中
 中
 中
 中
 中

高田忠周曰按依衆仲鼎此亦中字無疑或疑篆形元亦作中
 轉寫誤之然各家引皆同即如是當不誤耳因謂中字製作之
 意有與說文異者朱氏駿聲云中字本訓當為矢箸正也从月
 象射侯形从一過也亦象矢形蓋此改稍近張氏行季射侯改

曰竊謂侯之中以布方十尺為本鄉射記云侯道五十弓弓二
 寸以為侯中中十尺是也中布上下各加接布一幅每幅長二
 十尺以成侯身鄉射記云倍中以為躬鄭注云躬身也謂中之
 上下也幅各用布二丈是也侯身之左右各以布一幅接長上
 下所加之布以為舌鄉射記云倍躬以為左右舌是也又云中
 庸云矢諸正鵠正鵠者何物也曰正即侯中十尺布之名也詩
 曰終日射侯不出正兮則知正者侯中受矢之處也正或作墀
 者後出字也鵠者居正中三分之一考工記云梓人為侯廣與
 崇方參分其廣而鵠居一焉周禮司裘鄭注云侯中一丈者鵠
 正三尺三寸少半寸是也然則此家作口者象上下左右布幅
 其內虛白以象布身即象中鵠形張氏又云又謂之侯謂之
 衆者何也曰侯與衆皆大者也以其張布而侯人發矢則謂之

侯故其字从人从厂从矢以其木植於地而為射之準的則謂
 之衆故字从木从自从木者謂之兩旁用木植於地也从自者
 自古鼻聲謂侯如人之鼻在面中間射者所取準也說文云集
 射準的也爾雅云在地者謂之衆此其證也然則此家曰之上
 下作一者象之衆形也古用單木後世雙木植在兩旁耳由是
 觀之凡作中者自之略形而象木形作一為完全也古籀篇十
 九第廿八至廿九更

郭沫若曰東松堂集古遺文有
 二執戈盾形之今並揭之如次
 人執戈盾形祖丁
 人執戈盾形父乙





右乃二尊之銘文殆一家之器執戈盾形者其族徽也所執固
 是盾形然實古干字小臣宅設蓋申戈九小孟鼎金中一或戈
 口中一奇字舊所未識今得二尊文始識然縣解蓋即干之初
 文也古干戈字每相將盾字稍後起金文無盾字亦無从盾之
 字與籍中之較古者亦所罕見宅設與王孟鼎乃成康時物二尊
 或尤古形雖為盾而字則當讀干也古之方干殆与南洋島
 民之盾為類別有申申中等形者均同是一字也知者有左列諸
 器銘可證
 一象干父乙爵 原見東松堂 卷十六大尊
 二象干册父乙爵 原見東松堂 卷十四小尊

三、兼干丁酉
貞松堂
八十一

●

此銘王國維有跋文以專論之。觀堂別集補遺其說云第一字从又持禾。曾是兼字。囀字之中乃中。中丁由疏其外从口。殷時祖父之名。隨有於人名外加口。或口口。如上甲之甲。於甲外加口作囀。報乙報丙報丁於乙丙丁外加口作口口口。口口或卽却宗石室之制。此中丁二字連文。而於中外加口。或與口口口口諸字同義歟。

全體均作依稀髻之辭不意以王氏之矜慎乃有此作。王氏殆未見前二器而云然也。王誼又云。

復齋款識有篆中鼎傳古圖王其文作中与此自二字絕相似。彼中作中與古文中不類。此自第二字在中者實中
字也。

中字也。

不知彼之象中与此之象中實同係一人中亦于字也此有父乙
 貞及父乙貞鼎二文
 可證。三器見
 殷文存。

父乙貞

父乙貞

父乙 貞



父乙鼎

中與上兼于冊父乙殷文同中卽兼中鼎之中字也凡此殆即一人之器其人乃以兼爲氏以千爲名而爲父乙或丁作器也

據古錄金文有立戈中爵

卷一之二
其銘如次

仲

案此着字卽干戈之合文或卽小篆戰字所從出者也又有日舉父乙爵

中
天
收

此第一字舊釋爲日。案亦是干。又有日父乙酉。第一

𠂇

此器亦見橫古九卷第一字阮釋曰第二殘字說為
刀形吳以阮為非改釋為孫子二字案此与前器

乃一人所作之器。以亦盾形。亦當為干字之異。特有四出而已。第二字右旁泐損。故成今形也。

方值形之干字亦屢見於卜辭其字有左列諸異形

申 鍾靈藏經第廿六卷
申弗戎周 十二月

申同第一集
申口找口

甲獸骨文字卷二第三葉
白 申候來

申同第廿六葉
己未卜口申尹歸












殷虛書契後編下第七葉
三日乙酉出來自東夷。辛卯申出旁。

右列諸字商承作殷虛文字類編卷七列為一字。甚是商釋為母。云說文解字母穿物持之也。從一橫。田段先生曰。古貫穿用此字。今實行而母廢矣。累母實古干字。特字早廢。許因貫字以此作。故以貫穿義解之耳。今知母實是干。許書母部之貫字。云从母貝者。當云从貝母聲。又虞獲也。从母从力。知母為干。於虞獲義尤相契合也。

準上可知古干字有種之異文今更表列之如次

象方盾形者

(下麟) …… 申申申向白
（金文）…… 申申申申申
丁母（廣）

象圓盾形者(金文)           

象方盾形之卐字見於卜辭及金文中器之較古者象圓盾形

之干字卜辭所未見且見於金文中器之較晚者據此可知古
干之進化蓋干制之最古者為方盾而有上下兩出其後圓之

732 (2315)

731(2315)

而於上下左右四出更其後則於盾上飾以析羽而以下出為蹲
遂演化成爲千字之形入漢而後羽飾與盾字之爲象
形文二千年來無人知之矣又卜辭之母字均係國族之名金文
之古者亦多用為族徽蓋古有母國或干國而其國與國為毗隣
同金之千氏叔子盤之千氏珣即其後裔矣（金攷一九一頁至
一九七頁金文餘釋釋千函）

陳夢家曰甲甲衣廣雅釋器函甲介也周禮考工記函人
為甲以革為之左傳莊十一蒙寡比而犯之據杜注則是虎皮
楚辭九歌操吳戈兮披犀甲此器的甲字則象千盾之形舊或
誤釋為干或誤釋為十卜辭卜人名古金文大孟鼎戎古庚
貞姑皆從甲都與此器甲字相同西周金文其它的戎字則从
十（即金文甲子之甲）小篆戎字則从甲金文甲冑之甲與甲子

733 (2315)

之甲雖有繁簡之別其實是同源的小孟鼎的貝冑一金甲一
十五年趙曹鼎的甲冑都與此器之甲字同形小孟鼎的金甲
是青銅甲此器的重甲當是在革皮上施以漆繪（金攷六八頁
西周銅器斷代小臣宅斃）
朱芳圃曰小臣宅斃銘云白易小臣宅畫中戈九易金車馬兩
羅振玉釋中為象形盾字謂畫中殆即畫盾連居乙其說是也
中與中一空廓一填實例與口之作之作也相同詩秦風
小戎龍盾之合毛傳龍盾畫龍其盾也是即所謂畫中矣（釋
篆第七頁盾）

734 (2315)

郭沫若曰準此以求之知必古母字特橫書之而已方盾之制
廢母字遂失其本義許氏以為貫穿字實則貫之初文為象

稍變而為串串者也（兩攷二六頁小臣宅斃）

徐同柏釋中中為日見從古卷五第六頁商日父癸爵

吳大澂釋中中為享曰當即享之古文（憲齋廿二冊六頁父癸
爵）

孫詒讓曰申似即母字說文母部母穿物持之也从一橫貫象
貫貫之形讀若貫此變橫為縱其形義可通又申與亦母之異
文詩大雅車夷載路申字說文不載疑即因母變為申與二中
形近復又變作串經典俗字亦有所本也（舉例下三十三頁集
釋）

735 (2315)

孫詒讓曰說文母部母穿物持之也从一橫貫象貫貫之形
依許說則以一貫四於象義不甚密切攷龜甲文有申字當即
母之原始象形文又有作申者則申之省變也蓋回為貫貫有
空好之形以一貫之縱橫小異而於貫穿貫貫之義則尤明確
又毛詩大雅車夷載路申字亦即母字之異文蓋因古文申
本从兩口大小相圍變之為兩口直列則成串字因其流變以推其
原始本形亦可知初文之必从兩口也薛氏歆識晉姜鼎母通
母字作串則从兩母從橫午母形攷金文子荷貝父丁鼎作
形左右各為直母兩貝與晉姜鼎母字可互證若然母本
兩形直母省為一形直母復又變為橫母要不及作直母之近古
矣（說文王部王部三五之連母之為串或本作申而兩口分別
或本作串而省其兩橫皆未可定要必在秦漢以前說文母部

736 (2315)

730 (2596)

仲

男爵
△甲

馬叙倫曰孫詒讓據無戈劍戈字與此和相似疑此是戈字倫
檢說文戈婦官也然羅振玉據叔高父區叔高父作中戈區謂
戈乃為姓即詩美孟弋矣之弋倫謂孫羅二說是也(劉詞四三
頁戈爵)

劉心源釋中戈二字見奇觚卷七第二十七頁戈仲爵

郭沫若曰即干戈之合文或即小篆戰字所從出者也(金文一
九六頁金文餘釋釋干由)

李孝定曰郭說是也馬氏於

仲字釋戰而於此文則从孫羅二
氏之說釋為戈字自為抵牾馬氏彼說是也余又疑此字當釋

戰字亦作戰說見前仲字條下

742(2317)

741(2317)

人甲爵

△侮父甲

李孝定曰字不可識



乙乙
△乙乙

張日昇曰按重錄見附錄上

李孝定曰字不可識

744(2319)

743(2318)

三

仰文
漢自
△仰文
△仰文

李孝定曰此或是三六字合文詳列條下

745(2320)

𠂔

且事文類聚
△仰文
△仰文
庚子年

李孝定曰此疑餘之古文

746(2321)

𠂔

文印人集
△仰文
△仰文
庚子年

李孝定曰字不可識

747(2322)

𠂔

文印人集
△仰文
△仰文
庚子年

李孝定曰字不可識

748(2323)



女康丁蓋

女康丁蓋



父乙皿蓋

父乙皿蓋



父乙皿蓋

父乙皿蓋

方濬益曰說文皿飯食之用器也象形與豆同意此文上作覆冒之形與篆文殊異按孟子趙岐注皿所覆器也與此正合自是皿之古文(綴遺卷十七二十三頁女康丁尊)

吳大澂曰皿疑皿字之異文女康敦(古籀補附錄十六頁)

高田忠周曰按銘曰父乙皿蓋而傳與鼎鬲爵諸器亦云作與相同吳大澂輩釋皿字非(古籀篇六十九第三四頁)

柯昌濟曰皿疑人名或即制器者(釋華二七一頁康丁尊)

李孝定曰諸家釋皿待考高田氏疑之是也



且己父辛卣

徐同柏曰器有覆廼古文悞周禮悞人注巾覆物曰悞字亦作冪今字作冪儀禮燕禮注執冪者執瓦太之冪也(从古卷十三二十四頁商祖己父辛卣)

方濬益釋皿象形曰按此文似器之有會者儀禮士喪禮啟會注曰會蓋也(綴遺卷十一三頁祖己父辛卣)

吳大澂曰皿疑古皿字且己父辛卣蓋(古籀補附錄十九頁)

劉心源曰象器蓋形當是卣字(奇觚卷六七頁祖己卣)

高田忠周曰按此字在頭上於文例為器形併為五文也吳大澂等云疑古皿字然凡从皿字無如此作者斷非皿字愚謂亦與字象器形狀異者甚多而此象其有覆蓋者也或云此卣字非是○又或疑此象為卣字門U以為卣之意未能遽定(古籀篇六十九第三四頁)

高叔倫曰父癸鼎卣字父乙解卣字祖己卣卣字皆卣字也彼皆從四得聲卣字見說文曾與因一字彙解皆止卣一字卣下即人名疑卣其氏姓蓋以事為氏其先業此者也祖己卣有且己父辛二名蓋二人共有之器或謂卣是極之初文亦可通(刻詞九〇頁卣卣)

李孝定曰諸家釋悞釋以釋齒釋義釋盟並無據惟方氏以爲象器之有會者於說爲長按此實會之古文金文會作會越其 其中所从之四正是此字象器蓋相合之形其後以象形之意不顯又增合爲偏旁耳會合二文形音並近古當爲一字金文會字增合於義已復矣馬叙倫氏又釋此爲益於義雖近而於字形無徵

753 (2325)

李孝定曰此與上文疑是一字 2327 亦同



定疑鼎
疑文



疑文
疑文

754 (2326)

李孝定曰疑亦會字



疑文
疑文

755 (2327)

李孝定曰未知是 四字否



疑文
疑文

756 (2328)

W

父口單
<116> △文

李孝定曰字不可識

757 (2329)

フ

父口單
<116> △文

李孝定曰字不可識

758 (2330)

フ

子口單
<116> △文

李孝定曰字不可識

759 (2331)

手

子口單
<116> △文

徐同柏曰：彙器中母字有佗女者形之省有佗母者聲之近說文姆字佗姆讀若母則形聲之相益也是銘母字佗聖女象已聞後世慈乳之漸也（从古卷一九頁周子母辨）

李孝定曰：徐氏釋母謂字从重女按字無重女之象重女亦不得為母字徐氏誤疑予之異構何之古文也

760 (2332)

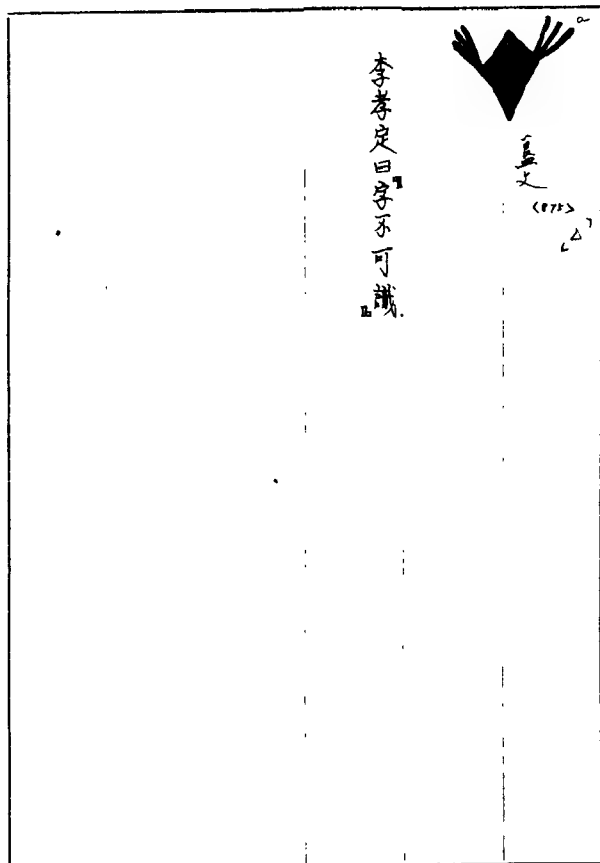
馬叙倫曰倫按舊釋𠃉為象角形孫詒讓謂疑𠃉省是也然此
蓋𠃉之壞文𠃉之初文蓋本作𠃉象𠃉形變為篆文移譌為𠃉

761(2333)

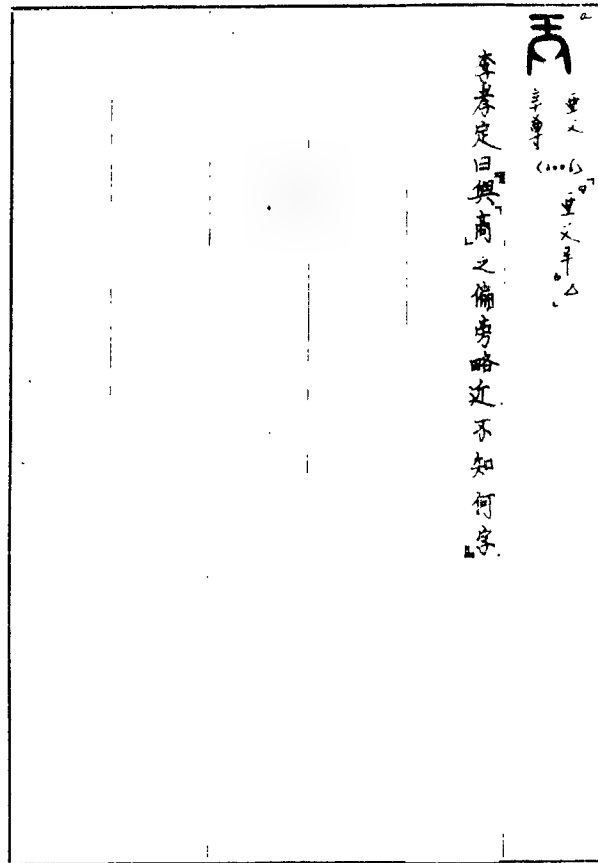
又疑此為布之初文更應造一「𠂔」字當之說更無據

764(2334)

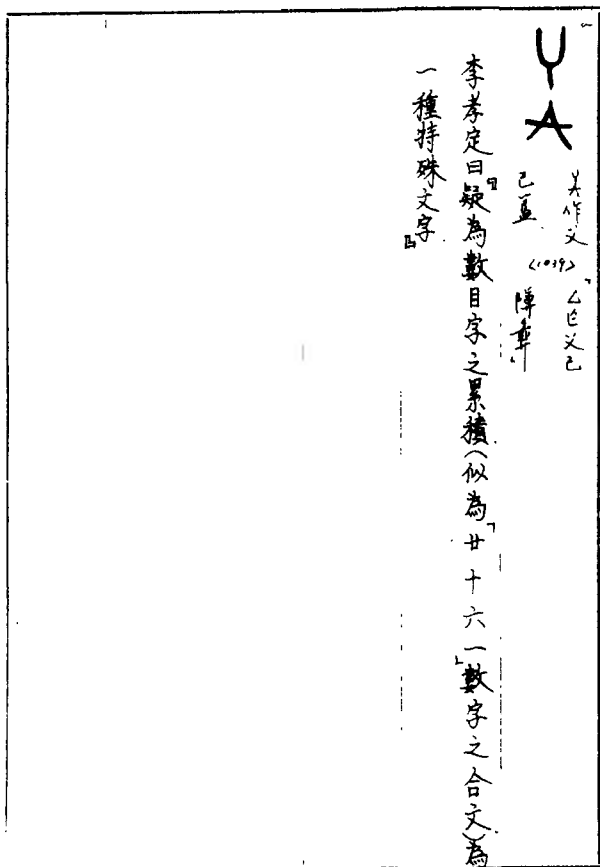
763 (2334)



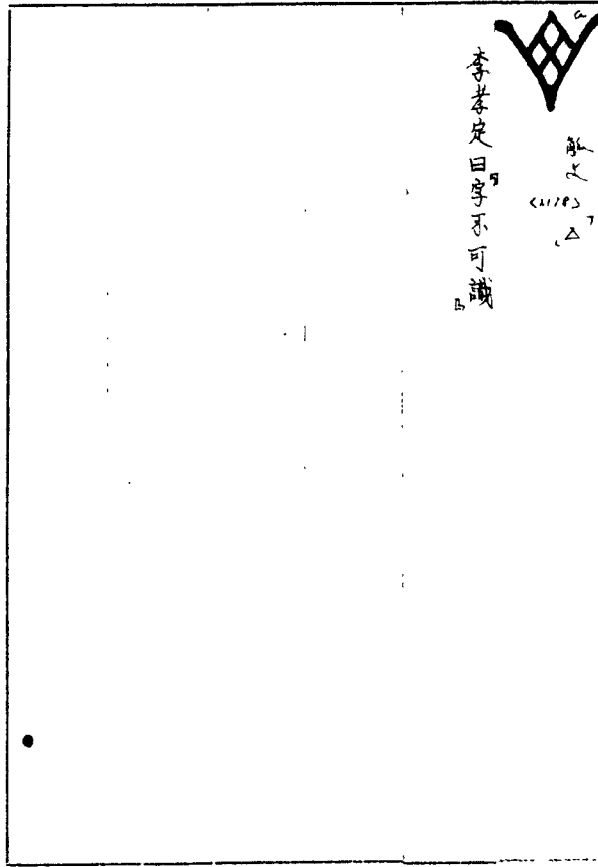
766 (2336)



765 (2335)



768 (2338)



767 (2337)

雨

雨 丁 雨 丁

李孝定曰疑由之異構圖之古文也

769 (2339)

市

市 文 市

李孝定曰字不可識

770 (2340)

已

已 且 祗

李孝定曰字不可識

771 (2341)

南

南 文 南

南

南 文 南

南

南 文 南

南

南 文 南

吳榮光釋曰古文省乙

壽卿曰南从市中从米合盛米之義自為酒器而曰南米者酒

亦米所為也如豐蓋指从米也說文時即今俗園字昇按从

之字與从米之字不同義必非專指米穀也从米之字如園

胃等字乃另有義意豐又有他指非以米為酒之盛器而然

酒之器如尊壺匜等制不一而足豈僅指豐為盛酒哉今

俗園字即說文之苑字篇也淮南子守其第苑乃專為宅米

器時不入出部獨附守下者可知時為守之所專後又專作

772 (2342)

也說文訓守為辨積物貯為載咸米貯為積也總之不外咸積之義豈積物米獨不與乎抑米不得為物乎殊不可有此疑問馬伯昂上里之說獨清卷二第四十六頁周覽直

高田忠周曰吳榮光云里古文省匕壽卿曰里从守中从米合咸米之義直為酒器而曰守米者酒亦米所為也如鹽麴皆从米也說文貯即今俗國字昂按从米之字與从米之字不同義必非專指米穀也从米之字如國國胃等字乃另有義意豈又有他指非以米為酒之盛器而然盛酒之器如尊壺匜等制不一而足豈僅指鹽為盛酒哉今之俗國字即說文之貯字篇也淮南子守其篇乃專為屯米之器貯不入田部獨附守下者可可知貯為守之所聚後又專作貯也說文訓守為辨積物貯

773(2342)

為載咸米貯為積也總之不外咸積之義豈積物米獨不與乎抑米不得為物乎殊不可有此疑問馬伯昂上里之說按陳馬二氏詳辨甚務然謂片為守本義故其攷遂不得正鵠蓋此从片亦嚴置象形此亦置字異文也論語韞匱而藏諸又龜玉毀于櫝中左昭七年傳賂以瑤璠玉橫單耳即知匱之用多矣此作X者象匱中交木作X者四點形皆異此象貨玉在匱中也若夫匱字以象盛酒之器與片迥遠矣舊釋之非不俟辨而已古篇第二十一第三一至三二頁

774(2342)

郭沫若曰舊釋為匱案匱之象形也非律賓人所用之匱其形与此極相似上亦有三出所異者唯下僅二出而已集古遺文卷十第十有儀形父乙爵者亦有此字匱首字舊未釋案與上直乃同族之物也匱為族徽金攷一九八頁至一九九頁全文餘

釋釋千國

馬叙倫曰倫按此說文之匱字舊釋為鹽非也甲文有匱字王國維以免鹽錫免匱百譽證知匱是匱字倫檢晉姜鼎易匱千兩劉心源釋匱為旅倫謂古書有借匱為旅而此則當讀本字易國讀千兩正與易國百譽同皆謂賜鹽也是匱亦即匱字甲文之匱與匱穴殷王在匱之匱是一字阮元孫詒讓並釋匱為魯倫以說文舊之或體作匱稽之或體作匱證知匱為魯之異文轉注字也是匱國為一字匱為鹽之初文鹽不可以象形造字以其為水所成故託義於水猶酒字之亦從水為義也匱所從之匱即水也匱皆說文之字字字如今日之郵政信袋國從水字聲字聲魚類故匱聲亦在魚類此從匱即以此異

775(2342)

文甲文匱字有作匱其者所從之井非井字亦字也刻詞十四頁至十五頁匱直

李孝定曰舊釋匱諸家已辨其誣馬氏釋匱謂字从守釋字是而說其義則非高田氏釋匱於形無微惟郭氏釋為匱解為省其說可從

776(2342)

田 周禮注疏 卷之六 田 周禮注疏 卷之六 田 周禮注疏 卷之六

阮元曰說文古文期作田此作田象旗形也(續古卷七十六頁格伯蓋)

吳榮光曰田字蓋器並在銘末保用下錢本亦在銘末自為一行以誣求之則書字也阮器用典之用適當七行末而八行末保用之用較七行末用字又下半格書字無地可容故遂繼七行下由八行末回讀乃得之制亦奇矣然不得象拓校之亦為從辨訂哉(筠清卷三第二十八至二十九頁周格伯敦)

方濬益曰字為器之象形禮運疏布以器注器覆尊也釋文作以器阮氏校勘記曰石經作器又曰依說文當作器從巾

冥聲雷漢之曰按周禮器人以疏布巾器八尊以畫布器六尊其字皆作器則禮運亦必作器可知周禮器人說文誤下引作器人則器即器字又可知顧說文誤慢也引周禮器人亦說假借之例覆尊之正字當作口說文部首口覆也从一下垂也莫秋切又通作器禮器儀尊疏布巾器按源之說允矣口為古文象形取簡故為部首格伯敦作口為疏布巾象形此與練生敦作口則畫布之象形也器為篆文後起形聲字(經通卷十三大夏同堂壺)

劉心源曰田或釋器為己為是其實象形不合闕疑為是哥版卷六三十頁同堂壺

高田忠周曰凡款識之文單字在銘末者疑作器者名也故諸器少見同字者而此字與格伯敦蓋作同相似其為同意字可

識矣因審字形下作者即黃字說文作史是也即米粒形

也上从口口者覆也巾字所从此从史米口為字其義可辨者也說文幅載米時也从巾省聲讀若易屯卦之屯又字部時下曰幅也所以載盛米从巾从田田岳也時幅二字同義而所以盛謂時所盛器謂幅其器必有覆巾故幅字从巾為義然則幅為幅字象形無疑也因謂時从田田岳也此許氏誤時字左旁亦當作田史之省也(古籀篇十七第二八頁)

高田忠周曰說文解蒲席時也从巾及聲又田部時幅也杜林以為竹器揚雄以為蒲器此時幅兩字義同然依時幅兩字例時為所以盛之義幅為所盛器析言自別但幅與時形似而用亦同即幅主于盛米故作田以相別矣此篆从田即說文史字

口者與巾同意(古籀篇十七第二九頁)

柯昌濟曰亦周字蓋作器者所為識別金文常有此例考金文周氏所作器皆有是字於銘尾知是周族彝器之識別字而用古文周字乃以標志其族也除此器外尚見周堂壺周宅匜周文勇敦周駟蓋公伐徐鼎彝等器(續華一六五至一六六頁周練生敦)


吳式芬釋事見續古卷二之三第六頁周壺

劉心源曰未詳或釋器非或曰史字(哥版卷三第十六頁周練生敦)

葉玉森曰：之異體作等形，予往若編檢卜辭，未見金字因與金文中之金字即由卜辭之變，金文周金之田周棘生故之，田生為田之，為變，周人已不詳其故，謹用為田，田末行之，未補空，飾文（前釋四卷四二至四四頁）集釋7315
 李孝定曰：吳式芬許瀚二氏釋享，享古文作，漸為，均與此絕不類，其誤可毋待辨，葉氏據與文田字釋金，亦誤，葉所云與文鑿金之說，實乃數周二字之誤讀也，阮氏引說文古文期作，乃从日，六聲，乃聲，符簡化字，此既不从日，亦不从六，若其安得為期字，方氏謂是畀之象，蓋以此字上象覆巾，故有此說，然於字形無徵，何以變為，殊難徵信也，高田氏釋，僅以說文幅訓載米貯，而此文四點似米，故有此說，其誤與釋，誤同，柯氏釋周按此文與甲骨金文周字作，田者極近，又

781 (2343)

為氏族之名，其說可以

C 周法高曰：白川靜金文通釋一（二）第二。輯四三四頁，側生設云：為圖象，標識用此標識者甚多，錄其主，要數語
 丁璉 周銘乍旅須子，孫，永寶用 雷三代一〇三
 丁璉 周夢乍公己，薄盡其用，享于宗，其子，孫，適年永寶用 雷同二二二〇
 丁璉 周棘生乍，擔嬖嬖，嬖嬖，其孫，子，永寶用 雷同七四
 丁璉 佳九月既生，霸乙亥，周乎，鑄旅寶，華用，享于文考，庚中，用，勾永福，孫，子，其永寶用 雷同二二二〇
 丁璉 周宅乍，蔡姜寶，田，孫，永寶用 同二七
 丁璉 周宅乍，蔡姜寶，田，孫，永寶用 同二七
 釋為周，方括強內之字，為法高所加。

782 (2343)



李孝定曰：字不可識

李孝定曰：疑此之古文

李孝定曰：疑此之古文

784 (2345)

783 (2344)

文已解

△文已

李孝定曰从尸之異構字不可識

785(2346)

文已解

△文已

李孝定曰象兩手捧持器物之形字不可識

786(2347)

貞

貞字

劉心源曰未詳攷征人鼎有禮字从此或釋彼為視則此為見字矣故知彼釋未確(奇觚卷七八頁高爵)

李孝定曰字不可識

787(2348)

日

鬼重

李孝定曰此上疑為从人从尸字不可識

788(2349)

李孝定曰說見下 235 條



文王受命圖

唐蘭曰當公元前一千多年時我國黃河流域除了商周民族共同應用的文字以外還存在着一種古代文字這種文字早就遺失從來沒有人知道雖還存着一些材料我們對它很難瞭解現在我只是初步地介紹一下希望考古學者重視這一件事

一九五〇年中國科學院考古研究所發掘了安陽的四盤磨出土了一塊卜用大骨上面有隨便刻的詞句但有些文字不能認識考古學報第五冊郭寶鈞先生曾給我一個拓本我也跟大家一樣認為這不過是習契之辭沒有給以深刻的注意

790 (2351)

789 (2350)

一九五六年陝西省文物管理委員會在西安市稱為豐鎬遺址的區域內發現了一塊有文字的卜骨——五六年冬因事到西安永何漢南同志告訴我後來又發現了一地並把兩塊卜骨見示

這三塊卜骨沒有發現以前在銅器銘刻裏已經出現過這種文字最早的要算宋代在麻城發現六件銅器裏的一件中方鼎鼎銘敘述王賁給中以禰土的事情銘末有夬夬兩字宋人把它們釋成赫字是錯的按銅器銘刻的一般規律這兩個字在銘文最後應該是氏族的名稱近代著錄的銅器裏面中族父鼎說中族父卜寶腹鼎在鼎字下有夬字三代吉金文存卷三十八董伯蓋說蓋白卜寶腹夬夬字下有夬字三代吉金文存卷六十四頁效父夬夬說休王易效父呂三用卜寶腹夬夬字

791 (2351)

下有契字象未山房吉金圖上廿二都是在氏族徽號的地位上寫的還有故宮博物院藏現存台灣的一個自銘兩字下面是召字的被寫體上面是側寫的夬字召字顯然是氏族名所以這個字也應該是氏族徽號

在豐鎬遺址裏發現的卜骨一塊有夬夬兩字另一塊有夬夬兩字在四盤磨發現的卜骨除了一個夬字外還有夬曰夬(當即隗字)素曰知兩句每句前一字也屬於這一類文字

在這些材料裏可以知道這種文字是用數目字當作字母來組成的在這裏已經發現的有一二五六(△)七(十)八等在四盤磨的卜骨和中方鼎裏都有大字把七和六字連起來不知是代表七和六的相加數還是相乘數還是另有意義但其它數目字很清楚我們知道五字寫作×是原始形式在小屯的獸

792 (2351)

骨上有時刻一個X的符號但在卜辭裏多用X字在豐鎬遺址裏的卜骨只用X而四盤磨的卜骨却用X可能用X的形式要早一些至於銅器上一概寫作X則是較晚的形式似乎因字形長而橫了過來卜骨裏常由四五個甚至六個數字來組成但有些周銅器却只用三個數字可能是簡化了

以上包括甲骨文共只十三個字材料儘管不多但已經可以看出來(1)這都是文字而且是有特殊形式的文字(2)周代這些文字已經僅用於氏族名稱由於氏族徽號最能保留古老的形勢所以即使這種文字當時已經不使用也還可以在某些銘刻中保留着(3)在豐鎬遺址裏找到了兩塊有這種文字的卜骨但事實上不論在殷虛或是在西周銘刻裏一般不用這種文字周國從文王以後才到豐鎬所以說這既不是殷文字

793 (2351)

也不是周部族先世的文字但可能是曾經住過現豐鎬地域的一個民族(例如古豐國之類)的文字(4)從四盤磨卜骨把殷文字和這種文字對照如委就是殷商文字的龜(應來看至少殷代還有人熟悉這種文字

這種文字的最大特點是用數目字構成的雖然現在沒有看見三和四但這些都是直線不是不可能的九字近於圓畫在這種字體裏就不相容了中國文字的數目字裏從一到八本

794 (2351)

說曾經有過一個民族創造了從一到八的寫法並且就用這八個數目字錯綜拼合成為文字而創造商周文字系統這個民族採取圖畫造成文字却接受了那個民族的從一到八個數目字的原有形式或者再加上一些X跟之之類

由於西安出土卜骨和安陽四盤磨卜骨有對照文字我們可以推測這個民族商代還存在而且他們可能住過西安一帶由於西周初年銅器銘刻裏還保留這種氏族徽號而不見於殷虛銅器我們也可以推測這個民族是西北方面的跟周部族也許還有一些關係(參考第十六冊三三至三五頁在甲骨金文中所見的一種已經遺失的中國古代文字)

李孝定曰此前後數例大抵均集數紀數字而成唐先生所引數例迄今所見者略盡於此惟唐先生之結論則似有可商唐

795 (2351)

氏疑此為殷周以外另一系統之文字其特點為所有文字均集紀數字而成而殷周系之文字特採取其字母以為紀數字並謂委即殷商文字之龜李亦即殷商文字之九云按傳世殷周遺文所見此類文字僅唐氏所引數例果如其言則此一民族所創之特殊文字何以未有其他發見且以紀數字為字母以組成若干文字就文字發生之理論言實少可能因紀數字有限其意易於重複雷同因之所能表達之字義局限性必甚大難以適應文字之需求此理實至顯而易見竊疑此乃紀氏族世系之特殊標識為一種太古民族習慣之遺留至其為用究係各紀數字相加或相乘則不可知如所引某曰隗某曰卍者乃謂某氏族之若干代其名為隗若卍也又所引卍某曰卍則召氏之若干代也謹貢所疑用俟博雅

796 (2351)

董伯尊

徐同柏曰：八二古文其通基詩絳衣箋降注於基告濯具也。
(从古卷七、六百周董伯尊)

參閱 2351 條唐蘭說

吳式芬釋其見據古二之一第廿二頁董伯尊

李孝定曰：吳徐二氏之說均無據說見前

仲舒文鼎

參閱 2351 條唐蘭說

李孝定曰說見前



阮氏曰：案又為手形說文云父手也象形三指者手之別多略不過
三也禮明堂位灌尊有勺夏后氏以龍勺殷以疏勺周以蒲勺考
工記梓人云勺一升儀禮士冠禮注云勺尊者所以斟酒也此勺形
有頭有口曲中而柄長合手禮圖勺以注酒于尊又挹取之以實
爵角祭禮重灌故作手持勺斟酒形示敬也(禮古卷一十五頁
持勺父癸尊)

劉心源釋手持觶曰阮書有尊釋手持勺案勺不象勺此如錐
乃觶形下有孔可佩說文觶佩角銳端可引解結內則注觶貌
如錐此子事父母所用(奇觚卷十七九頁父癸尊)

高田忠周曰按元釋為持勺形非此亦上文(釋義)之異耳
口以象器以象長柄或應有長柄屈曲者也上文从覆手此
从仰手亦皆為同意矣(古籀篇七第四頁)

李孝定曰劉氏釋觶說殊無據阮氏謂象手持長柄勺高田氏
从之按勺實象器有平殊不類長柄勺首二文(a、b)从手在器
中疑即盥字與契文作盥正同第三文(c)象手持器形與前二
文類非一字

𠂔

李孝定曰

𠂔

𠂔

李孝定曰

𠂔

李孝定曰

𠂔

李孝定曰字不可識兩旁所从疑耳字

801 (2355)

𠂔

李孝定曰

𠂔

李孝定曰

𠂔

𠂔

李孝定曰

李孝定曰疑國字象盾形惟又从口不知何義

802 (2356)

𠂔

李孝定曰

𠂔

李孝定曰

𠂔

李孝定曰字不可識

803 (2357)

𠂔

李孝定曰

𠂔

李孝定曰

𠂔

李孝定曰

𠂔

孫詒讓曰舊無釋此字為鼎象形字上象兩耳下象三足形後
李林父敵末有鼎字亦作𠂔之三與此字形文例故同是其
瑞證餘論卷二第十七頁改蓋蓋

李孝定曰孫氏釋鼎似可从

804 (2358)



父庚尊

李孝定曰字不可識

805 (2359)



父乙解

方濬益曰：筠清館錄以此器為舉釋首一字為兒形，按此器仍是解首一字自是爵之象形，釋兒形非也。（綴遺卷二十三、八頁）
（對形父乙解）

劉心源曰：爵字象形，荷屋釋兒形，子必釋舉皆非。（奇觚卷十八、六頁父乙解）

馬叙倫曰：倫疑此為說文之雀字，鳥有毛角，甲文作𡗗，乃側視形，此為從後正視之形。（詞三、六頁父乙解）
李孝定曰：諸說並無據，宜存疑。

806 (2360)



父乙爵

徐同柏曰：燕字象簍口布，瓶枝尾形，本燕觥字，讀若燕飲之燕，燕安也，樂也。（以古卷三十六頁商燕父乙爵）

吳雲曰：此爵與莊同，柏釋為燕字，云是古燕飲之器，張亦未謂象子形，觥者指趾皆具，尤子孫象形，文中所罕見者。（兩器卷一第十九頁父乙爵）

方濬益曰：字似血，按說文：血，飯食之用器也，象形，與豆同意。此文通體正似豆，兩側與篆文左右二畫，并為觥棱之象形，故疑是血之古文。（綴遺卷二十二、八頁血形父乙爵）

807 (2361)

馬叙倫曰：倫按舊釋，疑為孫然倫謂是兒之異文，傳苗甲子字作舉，宗周鐘有爾容，庚釋文實說：文，華字之異文，甲文作兒，兒與兒，兒與兒，皆為兒字，庚寫本切韻殘卷五支兒說：文作此兒，兒即甲文之兒，可證也。甲文又有爾，爾二字，唐蘭以為到書者傳苗之舉，宗周鐘所從之，其甲文與甲文同，而其下乃作兒，形者蓋即其之變，此亦其變體，兒從田得聲，田音心，紐子音精，紐同為舌尖前音，兒為子之轉，注字于支字，李皆假借，故金甲文或作甲兒，此蓋倪姓之族徽。（詞四、六頁父乙爵）
李孝定曰：釋血，釋燕，殊不類，惟馬氏釋子較近，惟甲文諸子並皆象小兒之形，而此文殊與小兒之形不類，宜存疑。

808 (2361)



文部解
△文部
△文部



文部解
△文部
△文部



文部解
△文部
△文部

徐同柏曰：文象紋之交互形，說文云：文錯畫也。象交文（从古文
十五，四頁同婦孺等）

吳大澂曰：疑文之變體，分旁事，分字大澂釋作文，與此亦相類。
（憲齋八冊三頁交父乙說）

劉心源曰：象象魚形，或釋文（奇觚卷三七頁魚說）

馬叙倫曰：倫按舊於象無釋，或釋為文是也。文為箭繡之遺畫，
固不限於作父也。此蓋箭繡者之圖語，刻詞八七頁父乙卯癸
李孝定曰：徐吳馬諸氏並釋文，可從。



文部解
△文部
△文部



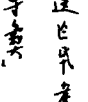
文部解
△文部
△文部



文部解
△文部
△文部



文部解
△文部
△文部



文部解
△文部
△文部



文部解
△文部
△文部

△文部
△文部
△文部

李孝定曰：此與所從當為同字。彼文商氏釋，則此亦當為
明字。惟商氏之說仍待考，並宜存疑。

白川靜曰：象兩目之象，然與所謂目文者不同。小篆常寶謂字
即明乃表示柔弱之象，側之字，御者之職者也。亦依此亦據其說。
此說乃與特化解為侍御之職相關之解釋也。然察其款識之例，
可知並不一定是目文。于氏引吳北江之說，則以為象增徽之象。

然文徵之象，另有其文，蓋不知其乃表示何物之形也。（金文通
釋第四輯一五九頁一四，康侯設林深明）



文部解
△文部
△文部

商承祚曰：与（師）乙卑之（師）為一字，當与（同）一繪眉一無
眉也。（十二野十四頁明觚）

李孝定曰：此上所從，疑个字不象眉形，其下亦非从明。商氏釋
明待考。



蓋文
(0627) △

方濬益釋單形曰：「(積古齋)釋為雙矢在架形謂雙矢所以旌武功吳佩叔則以為矢鏃聯屬取合族之義說更穿鑿今審此字乃單之象形上為雙柱三畫下垂象其足中畫右出下屈向左象其登正古文單字與林父敵銘卣字同而小異按說文單玉聲也夏曰璣殷曰單周曰爵从斗門象形從段氏注改定與爵同意段大令曰爵从單从又而門象形單从斗而門象形故云同意也此三爵者其狀各異今惟爵有存者耳清益按單於後世亦習見特不如爵之衆多段氏蓋未嘗攷索古器故有此說然其所改正則較二徐本為勝(綴遺卷二十三 夏至八夏單形解)

813 (2365)

高鴻緝曰：說文單，玉爵也。夏曰璣，殷曰單，周曰爵。从口从斗。口象形與爵同意。或說單受六升，古雅切。
羅振玉曰：案單从口不見與爵同之狀。从口亦不能象單形。今卜辭單字从斗上象柱下象足，从爵而腹加碩，甚得單狀。知許書从門作者乃由斗而論，卜辭从斗象手持之許書所从之斗殆又由此轉譌者也。又古彙文有節字，與此正同，但省耳耳其形亦象二柱三足一耳而無流與尾，與傳世古單形狀脗合，可為卜辭單字之證。又古散字作散與散字形頗相似，故後人誤認單為散。韓詩說諸飲器有散無單，今傳世飲器有單無散，大于者惟爵而已。故諸經中散字疑皆單字之譌。
按羅說是也。後王靜安及陸散單信為一物，又詩邶風碩人赫如渥赭，公言錫爵，爵字本當作單，單與赭為韻，傳云見惠不遇。

814 (2365)

一散則經本作錫，單轉譌為散，後人用散字不得其韻，又改為爵。其實散本單字，單與錫同部，不煩改爵也。其說至精確。字例二篇一二五至一二六頁。

李孝定曰：方氏釋單是也。羅振玉說尤精覈。

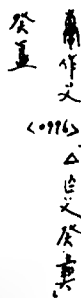
815 (2365)



文事鼎
(0117) △ 文事

李孝定曰：从二戰，顛倒相向，當即諄之古文。說文諄，亂也。从言，聲。傳諄或从心，諄，猶文諄。从二或或城，國古為同字。从二或無緣得有亂義，當為此文之譌。二戰相向有交戰之象，故引申得訓亂也。甲骨文作重，正與此同。余彙編甲骨文字集釋時謂與文之諄正从二或相向，說非與文从重實即戰若戰字，乃由重所省變合戈于二字之直豎，遂作重，非或字也。許謂籀文从二或實二戰之誤，予舊說亦沿譌。今正之於此。

816 (2366)



吳大澂曰𦏧𦏧古穗字象禾穗下垂形𦏧字與此同意許氏說
齊禾麥吐穗上平也穗敦𦏧古播補四十一頁

高田忠周曰按吳氏古鑑補載此文云古穗字象禾垂形所字
與此同意許氏說爾禾麥吐穗上平也此改為是余初疑古鑑

文作𠂔三即一中之意然此下作𠂔亦與U同此篆實重吳
文後再謂疑薄字古文詩野有蔓艸零露漙兮零即𠂔字𠂔字
下形古文作𠂔與此相合說文引詩作圓水部無薄為遺脫耳
然今見𠂔文下作𠂔與𠂔之作𠂔自異文而𠂔文綱字上形作
象總形連與此合故徵部說從吳釋云說文𠂔未成秀也
人所以收从介未與采同意此會意也又曰或从禾惠聲作𠂔
變為形聲也但此篆作𠂔象形而亦兼聲古文惠字多作𠂔為
省文段借也故此篆亦从𠂔實从惠省也(古籀篇八十二第一)

鄧泳若曰吳大澂以為古穗字象禾穗下垂形說文古覆補卷七第四十一葉羅振玉疑之故收卜辭諸字於待問編今案疑之誠是也字與黃字相

較其必為古佩玉之圖形無疑卽黃之初字也……當為國族之號
凡金文圖形……恐卽江黃之黃矣。(金攷一七〇頁金文餘釋釋黃)
文字內如是

〇 柯昌濟曰：𨔵字又見卜詞作甬，則以甲骨文不易刻畫之故，故填實絲形之中也。𨔵鼎彝字亦即此字，其字从車，當為最初之字。从車从𨔵，取古代以轡御車之誼也。若此文及卜詞之作𨔵，當从車聲，則為後起之字矣。說文：轡，馬轡也。从絲从車。詩云：六轡如組。此字當以从車从𨔵為古誼，而小篆之說可無待辨矣。

王獻唐曰契文有𠄎字前二十四亦作𠄎同上十作𠄎後
 五十三金文作𠄎𠄎作父舊多闕疑以形聲求之殆即後出綖
 字爾雅釋器綖綖也郭注即佩玉之組所以連繫瑞玉者邢疏
 所佩之玉名璫因名其綖曰綖案釋器又云璫瑞也瑞音同圓

以瑞名玉。昉於圓形器制。別有今繫以組由玉而言為璽由組
而言為璽。實屬一事。璽讀今音之威。與璽同。契由亦同。則此字
上從由聲。下象組綬繫玉為圓形。與璽正合。乃璽之古文形聲
字矣。璽璽雖見爾雅。不載說文。毛詩有璽字。體出稍後。其古文
當如契金各體。據知由有璽音。與璽同讀。中國文字三十四冊
六頁說璽線

李孝定曰吳大敦氏釋德高田氏從之按釋德者蓋緣形近於惠而德實从惠聲非取其形德字說文作采乃較早會意字此下固略近德形然不得解為惠聲也吳說待商柯昌濟氏釋鑾按字不从車柯說非是郭沫若氏謂為古佩玉之形其說近是然謂疑即黃之初字則殊無據金文黃字多見均與此不類即謂黃為殳之古文亦不能証此為黃字也王獻唐氏謂即縑之

古文蓋謂字象佩玉之組綬引爾足釋器綬下郭注為証於說
為長然亦不能確指

821 (2367)

𡗗

𡗗 𡗗 𡗗

李孝定曰𡗗不可識

822 (2368)

𡗗

𡗗 𡗗 𡗗

予省吾曰𡗗父丁自𡗗字蓋作𡗗器作𡗗舊不識金文編入於
增象按中从臣左右从犬即𡗗字說文𡗗司空也从𡗗臣聲梁
文地名有𡗗字作𡗗𡗗𡗗等形𡗗尊𡗗字从臣作𡗗李官父簋
𡗗字从臣作𡗗然則𡗗字中从𡗗其為臣字灼然明矣(古雅
七頁釋𡗗)

823 (2369)

𡗗 楊樹達曰說文十篇上𡗗部云𡗗司空也从𡗗臣聲復說𡗗司空
息茲切今書从犬之字多作𡗗形觀此文知其有所本矣(積
微一六九頁𡗗父丁自𡗗)

李孝定曰于楊二氏釋𡗗說不可易

824 (2369)

李孝定曰字不可識

廣文前
廣文丁
廣文丁

李孝定曰从月與殷同意或即是殷字从月疑肉字合之仍不可識

解文
△

826 (2371)

825 (2370)

李孝定曰从巾中疑卑字其上作「疑象鳥形」乃成字另





作「鼎」作「鼎」

一偏旁不可知合之亦不可識

參閱 0111 室字條馬叙倫說

非文
△

馬叙倫曰周召夫鼎等之匚即家之次初文是其昌據此匚字

及辛獎鼎等之字謂即古代四合院落之平面剖面形或作「」或「」即象居室之形匚則加屋之記號是也「」即說文之亞字金文率作「」亦其變也(刻詞十七頁亞反解)

李孝定曰此下所从即車之古文金文中皆讀為席即許書

828 (2373)

827 (2372)

馬氏釋亞謂即象之古文似有可商契文單字與此正同。



單文
(217)

李孝定曰此下所从乃單字亦即干之古文

830(2374)



單文
(217)



單文
(217)

高田忠周曰按字在鉤末其義無徵然依他器數例疑為解字
鉤云單姓腰觀留觀單並作之謂猶云專專專觀並記兩器名
耳今或為解形之省略者又或今為出字此雖異文解解同聲
亦當通用(古篇九十三第三四頁)

徐同指曰單新省文中作个齊省聲若釋為單蘇公之單

(從古卷十六第九頁周華虹觀)

吳式芬釋單見據古一之三第三十二頁其姓殘觀

劉心源釋解見奇觚卷八第六頁其姓殘

李孝定曰此下亦从單其上所从不可知釋單新解均無據
說宜存疑

832(2375)

831(2375)



單文



己秋



單文



單文

徐同柏曰單新省从甘聲詩賓筵曰祈爾爵傳祈文也行革

方濬益曰按此文習見舊釋為旗單者誤也今從薛氏秋識所

引王楚說釋為解也似角之象形疑即篆文解字之所本又似

曲之渚文(綴遺卷十二十六頁解父已貞)

劉心源曰宋人釋旗單二字誤認曲為田也宋說文曲下云東楚名岳曰田即此字所从又从單當是解疑後人變曲為角

也(奇觚卷七十五頁父丙爵)



參第237條丁山說

吳式芬釋美形單見據古(之二第六十二頁其單父丙爵)

吳大澂釋旗形單見憲齋二十二冊十七頁旗形單字父丙爵

王國維曰王復齋鐘鼎款識有美單由其文作象鳥在巢下而以畢掩取之又美單父丙爵有字則省鳥存巢手執于鼎之字則省巢存鳥(集林卷六第十二頁釋西)(集釋



P3506
P3506

李孝定曰舊說多釋為旗單二字或釋為箕形並誤惟劉心源釋為从單从於說為長然取王楚說謂當是解字所謂後人變曲為角則亦無據但隸定作解可耳王國維氏畢形為巢之說亦不可從畢單為同類器物契文多作與此迥異為巢之說似沿說文西下說解而為



單文

阮元釋旗單單曰爵舊釋作雞吳佩叔云此字从雀形从又當作爵周景王時單穆公名旗荀子壽于旗翼即其翼其其本字也(續古卷五、六頁旗單單)

方濬益釋為手執時解形曰薛氏秋識有鷄單彝銘釋為旗鷄單謂單為單子旗為單穆公之名王復齋款識所載陽洪景莊藏貞銘文並同積古齋款識從吳佩叔改釋旗單謂此字从雀形从又當作爵周景王時單穆公名旗荀子壽于旗翼即其翼其其本字也清益按釋爵是也以前為旗既未確又從薛氏舊說傳會為單穆公之名尤為穿鑿今以前卷所錄父已田銘

文作上二字消作中無爵形與爵書旗單又乙無銘作也同而筆迹小異或以為上表揚解之形又謂為角之象形以角從單為篆文解字所本亦恐未確按說文部首當之篆文作由與此文正合自應釋為字以單為解則爵書所引王楚舊釋是為下乃爵解之象形而此銘手在右與單無涉漢氏自二銘之在爵下者並殊今釋為手執爵解形者古無飲有取爵莫爵解受解諸儀而主人酬賓賓酬主人又先有降洗爵解之舉說文謂東夏名缶曰當置缶於前所以盛水備洗側其形者傾水之象也（綴遺卷二十三、九頁執爵單解）



劉心源釋由爵單曰自宋人誤召由為因至今無訂之者可怪也試思由甘二字同形否攷說文由東楚名缶曰由乃別是一







器決非甘字矣單或是地或是姓阮云周景王時單穆公名旗果尔何召不曰單旗而曰旗單也據古之一之二亦承譌釋旗爵作雀形从又持之又者手也與說文合車當解省此蓋作出爵解三器也而而銘召三器所謂卒銘不言卒器而言它器也復校記（奇觚卷十八一頁單由）

高田忠周曰按也他器亦有此銘蓋釋為旗雞單三字非上即由字或象形之段借應為專字即爵字尤顯明者又依器即知單亦解之省文也說文解禮飲酒角也禮曰一人洗象解之受四升以角單聲或作解辰聲亦或作解氏聲也古字省文段借之例當以單以辰以氏為之耳解各本鄉飲酒角也今从從氏本朱氏聲聲云儀禮記實二爵二觶四解一角一散注角

四升又引舊說解三升按疑古酒器之始以角為之故觥解觥觥等字多从角此說得實榮矣（古篇篇九十三第三三至三四頁）

馬叙倫曰吳式芬曰爵舊釋雞阮從吳侃叔釋倫按旗爵單皆非也此Y非單字乃單之異文其上之由亦單字今說文之單字乃合由而一之Y又譌為華耳Y為鳥形此器蓋文作Y可證也Y蓋Y之異文此亦取鳥者之族徽圖騰上下以單掩鳥而以手取之也（刻詞五〇頁單由）

丁山曰由文王復齊釋為鷄單阮元釋為旗爵單依王釋由形不著依阮釋旗形不倫細釋其形上蓋從同王國維

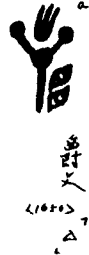
云象鳥集說文注所謂日在西方而鳥集象鳥在巢上者也夫由象集形則鳥應隸其上今鳥形退居其下理不可解如云象鳥由巢中捕出之形捕鳥者固不必于巢也山按藏龜百八三葉單上何從之同作留前編七第十六葉單上何從之同作留皆與由形相近知由中從鳥下象捕鳥之器捕鳥之器或曰單或曰單單古通作華其見于卜辭者形或作單或作甲金文或益鳥形作鳥文華釋執于非是其上從爪象飛鳥中從單句所謂掩飛禽曰單單之省形以又執單而掩飛鳥與蔡邕月令章之意合故知為單字下雖似Y而上不見同其設同于Y上絕肖後宋早字者惟父丙爵也Y形者之省文也者單之古象也（闕義五頁）

薛尚功曰銘三字曰旗雞單曰單者叔何所謂周其再與乎其有單字也故知單所以為姓曰旗則穆公族也單自襄公至穆公凡六世而世有明德今所載單父乙鼎銘曰旗單而文鎮亦相似耳（藏書卷十二第一二五頁雞單義）

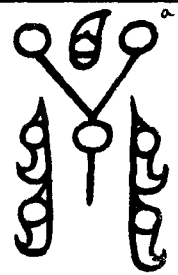
李孝定曰各家說者殊支離附會不決一一辨之劉心源說較有理致而云蓋作留爵解之蓋則舊說也丁山說此最善然以留為罔以單為畢遂視為契文之鳥丁引契文乃離字是其掩取飛鳥之象而此下明從單絕非單若畢字由在上與下半之丫分立亦非罔形故其說仍難免支離竊謂此字從留從單以變其義但加隸定存而不論可已

841(2377)

李孝定曰從留從單從罔字不可識



842(2378)



且已蓋
(2379)

李孝定曰與上文略同而小異仍不可識

843(2379)



且已蓋
(2380)

方濬益釋解象形曰此文上象解有蓋下有豐以承之之形儀禮公食大夫禮飲酒賓于解加于豐注豐所以承解者也如豆而卑非亦彝器銘所習見未審何義(綴遺卷十九六頁解形爵)

吳大澂曰首作形疑甲字也下作古古器字也器與獸符皆通疑古者冬狩時所作紀事之器也兩旁作非與析木形折矩形同一用意(卷二十三册十五頁器字爵一)

高田忠周曰按此蓋單錄文非即行來之行或是从行單聲字書無之逸文耳但此爵銘疑用為解爵同類器並作而銘載

844(2380)

于一器也(古鑑篇九十三第三)四頁

李孝定曰从聿从行另一偏旁似為丁字字不可識



聿文
<1197>
△

吳大澂倒其文並釋曰作倒干形禮所謂倒載干戈包之以虎皮名之曰韃囊也此爵倒干形外有物環繞之正象包以虎皮之形(憲齋二十三冊七頁倒干形爵)

李孝定曰字不可識

846 (2381)

845 (2380)



聿文
<1196>
△

唐蘭曰早非畢字字或作甲者本來早形金文有象形文字作甲者是也(卷二二)其字當釋為干早者干之孳乳字也(天壤文釋二十八頁(集釋 72556))

唐蘭曰按早即干字干禽聲近史記蘇秦傳禽夫差於干遂朱駿聲謂即周語之鈴遂墨子有禽父前入附會為世傳解之禽父侯殊可笑禽父即咸父咸古讀如咸也干於禽咸並一聲之轉然則孫詒讓以甲為禽實較羅為優惟早當為禽之本字而非省文蓋後世音讀差異遂加今聲耳(天壤考釋五十八頁(集釋 72557))

李孝定曰唐氏據孫氏之說釋此為早而讀為禽二者孰是其一為以讀諸辭無不允當其說端不可易早禽古音同讀及後音義歧異乃於早上加今為聲符耳早之為禽猶合从今聲由之俗體作於亦从今聲可證也惟唐氏謂早為干之說變則有可商干為盾之別名與母單諸字同源說見于單與訓四之早實哉然二物早之从干者實由象四匡廓形之口與柄形之所說變本非从干象變近干許君遂謂干聲然不謂从干也唐氏尤謂干早一字則所謂執干戈猶才以衛社稷者豈效命疆場亦執田網以從事乎(集釋二五六。頁)

李孝定曰唐氏釋為早讀為禽其說可從

848 (2382)

847 (2382)

高田忠周曰：單據古於說文所載之

單據，所以雅量之也。象形。

單字，然其形與單之形，其本身乃打野鴨之網之象形。故其律用說文之解說，則單（單田網也）字即相當於此字也。（殷金文亦作九二見，小篆亦不設，520 詳漢明譯）

849 (2382)

高田忠周曰：據舊釋曰：金文曰字皆圓形，無作方形者。況作井形，全無相涉。劉心源奇觚室吉金文述，揭此拓本云：井字稍近而未矣。井字外作井而內不作一沉，外形無作口者。此攷亦非。愚謂迴白與迴字作井，日即同省凡字也。此篆與日劇似是。當凡字與文凡字，从二此篆上下二橫是也。中一橫若二橫，其所括者，指事也。以象其意也。亦與作日同意。（古籀篇一第一五至一六頁）

851 (2383)

劉心源釋曰：井二字，見奇觚室卷六第一頁，井字。

李孝定曰：方氏之說，固支離少當。高田氏釋：凡亦非。凡為繁之古文，高田氏以說文最括之訓解之，亦失古義。與文：凡字作日，受

偏與此不類。

852 (2383)



方濬益曰：此文形方似矩而長，廣雅釋詁：矩方也。漢書律曆志：矩者，所以矩方器械，令不失其形也。今釋為格形者，矩形正，方此長。方與矩殊異。又器與蓋二字中皆有畫作一縱一橫以開格之器。文復出與井形相似，因釋為格論語為政篇有取且務集解及漢書刑法志集注皆曰：格正也。禮記端衣言有物而行有格。注：格舊法也。又後漢書傅燮傳：章懷注：格猶標準也。文選燕城賦注：引蒼頡篇曰：格量度也。此文雖不審何物觀其形狀，當是標準量度之器所用以為法制者，其勢側斜則又後世圖畫宮室几案之程式亦算法之所寓也。（綴遺卷十，一頁格形自）

850 (2383)



853(2384)

854 (2384)



855(2384)

856 (2385)

纂事有纂可知矣說文門覆也朱氏駿聲云即幪字之古文也說文幪幪也廣雅釋詁幪幪也幪俗作纂作纂然則纂字从門會意兼象形又从上古文从彡字或作彡或作止並省文也即知此字為纂字古音專連同聲故以門連為字形亦當連古吳文王(古籍篇六十五第一二頁)

柯昌濟曰上从殿下从專形與曾諸子鼎殿字相似或殿之古文

吳大澂釋又為五回字謂不識見憲齋十三冊二十四頁回字

李孝定曰又字與釋五可商五字古作X或X未見作又者回當釋為乃昌字合之則不可識高田氏釋為連柯氏釋殿

並不可信

858(2385)

857(2385)



盤文
<441>
△

李孝定曰从木而以繩盤繞之疑與東字義近



興廟
<471>
△

李孝定曰疑錄之古文錄金文作所叔何所叔虎並與此近

860(2387)

859(2386)

李孝定曰合紀數字成文說見前

[illegible]

吳大澂曰上作儿字形下作兩手捧柱形當即申字也（參前二册八頁八申壽）

吳大澂 同山疑非一字上八下與申字同入名也父己自 古今籍
補附錄二十頁

高田忠周曰按从申从八字形甚顯明者說文及諸字書不收古字逸文也愚竊謂命最古隸字隸者列也列者分布也从八

862 (2389)

861 (2388)

分別意也。从申聲。說文：臙从支、陳聲。又陳从自、从木、申聲。籀文作。然金文陳字从東，不从冒。若申，故陳字所从亦然矣。然則後世以支易八，以陳聲易申聲，令字變為臙，而冒與申形近，通用。故陳亦作臙。自與令字相涉乎？又按命或是臙字古文。說文：𠂔，夾脊肉也。从肉、申聲。素問：鏐刺論兩脾之上字，亦作𠂔。易艮列其夤，屬法夾脊肉也。从賁聲。或譌作𠂔。此篆从八，以象夾肉肉之公亦同意。又或八為指事。與𠂔字之八同意。存疑云。古籀篇五十八第一一至一二頁。

魯實先曰弁於卜辭作𠂔𠂔𠂔𠂔山山葉玉森疑為奄說文
郭沫若疑為種之初文又謂从行之𠂔𠂔強是衝字見甲片文
字研究釋
享金文之𠂔𠂔與𠂔𠂔同體張廷濟疑為曾見小技經聞金文
見小技經聞金文
朱建鄴釋為𠂔見小技經聞卷
吳大澂釋為八申二字見小技經聞

863 (2389)

[illegible]

舟从舟以會意每以象其履舟以示其冠冠履者一人之服故於自傳發為小名中夫缺之從履省從舟舟亦聲固已形聲皆合義指通明則卜辭之𠂔小內與金文之𠂔𠂔同體其為舟之古文斷然可識新詮之二載東海學報三卷一期三九頁

864(2389)

王襄曰：古夫字或作小，許書無之。夫作父，乙自作小，子立
故作小，是古文有夫字。按氏云：小許書無此字，而迭供朕皆
用為聲。此亦許書奪屬之一也。(置考地望七頁)(集釋 2249-2249)

郭沫若曰：與伐同側字於卜辭屢見，亦有用作人名或地
名者。於古金中亦屢見。前人每釋為八中二字，由非申字，屢氏
已辨之。屢釋於申下注云：吳中丞案：因篆文作申，遂謂子
由且乙角之由，蓋由屢之由，均即申字。今案：由象兩手持
杆形，雖不能知其為何字，其義與泰字所从之由同。由字亦
然，均非申字也。余案：泰亦可省作由，如毛公鼎二泰字均作

總則：內國泰字之初字也。由與由之別在側提，并未有作泰
前進之意。與即推之初字。說文云：推，凡推也。此正象凡推之形。
从八，作者當是一字。八亦分破之意，亦有从行作，前者殆即
是衡。前二推衡古當為一字。左氏文十一年：當父於衡，其(甲)
研釋(頁)(集釋 2241-2241)

葉玉森曰：按予著釋與與竟乃國名。似均未安。(前釋一卷
一二七頁)(集釋 2241-2241)

孫詒讓曰：此字上从八，下似从山，不知何字。金文父己自有小
字，予立故有由字，似並即此字。(舉例下四七頁)(集釋 2241-2241)

張東蓀曰：小由字的形體在卜辭中作由及小由二形，又有作
小由形者，恐怕也是這個字的一種形變。在金文中其形體變

化比較複雜，但大致亦可分為作由、立、與、父、二類。
又有作小由形者，立似手也是這個字的形變。此字的結構象

兩手持一雄狀物體，或向上鑽鑿尖端，兩旁的小撇是象分
開之意。其確切的意義，迄無定論。葉玉森集後未滿家的解
釋說：各家說見，葉沒有肯定那一家的說法是對的。並且連他
自己曾經說過的也否定了。我想：此字象兩手持雄狀物之狀。
當是泰字。大徐本說文七上：由，泰去麥皮也。从由，干所
由。變治小徐本作从由，干聲。按氏等參用二家之說，謂从由
干聲。一曰：干所以由之，許氏誤把白認作白形，遂將此字列於
白部。並且以泰為其本義。其實這個字當以分刺為本。釋名
釋用器：歸也。歸地起上也。漢書王莽傳：負籠荷歸，注：歸，登
也。王先謙補注：歸或作布。史記司馬相如傳：赤瑕駁，聲難布其

同則布又通歸。說文十二上手部：歸，刺肉也。从手，从布，廣韻：歸
刺也。說文十四上金部：歸，郭衣，歸也。集韻：歸，鐵衣，歸也。又有
綴衣，綴的意義與金文的形義尤為相近。史記史記：身自持
藥布正義布，綴也。漢書齊志：藥布如要注，綴也。所以開渠者
也。又說文於木部之根說：是布也。於金部之銘說：是布也。
可見布是幾種田畝的總名。說文七上：由，泰也。古者掘地
為田，其使穿木石象形，中未也。然則古時春穀掘地為田，是春
穀與掘地起土的姿勢相似。而古人穴居，類在地下穿土，所以
掘地起土並不完全向下。由字象兩手持雄狀物，或向上或
向前刺，形既象鐵狀，又極似刺。許氏誤認白為白，於是泰去
麥皮的意義顯顯，而其本義遂晦。但是在其他的地方還保存
着這個意義呢。(卜辭中定化說載集刊二九本七七七至七

七九頁(集釋 2411-2413)

李孝定曰說文重春去麥皮也从白干所以重之粟文作上出諸形郭氏釋據於字形無據釋史釋菴葉氏已自承未安王氏據金文鉄之偏旁釋此為夫於字形雖有可說而音義無考費氏據以論定此為弁之古文陳義甚富惟弁之本義為冕此字字形似與冕義無涉中余義亦疑當釋華惟未深考繼觀張氏此作與余意冥合引證甚備說當可以集釋(四一四頁)
李孝定曰當釋華象兩手持石斧之說亦可通插刺之形八示其分也許訓春去麥皮乃緣誤曰為但且春去麥皮之訓亦可由插刺一義引申得之也說詳拙編甲骨文字集釋七卷2415頁請參看高田氏隸定作命謂是古陳字亦沿吳大澂氏之

869 (2389)

誤申乃電之本字而此从兩手非申字也

870 (2389)

將文

名字

名字

名字

名字

李孝定曰疑名字

出

之戊爵

吳大澂曰出似慎之古文許書作卷與此相似卷二十二册十一頁卷父戊爵

參閱 0105 告字條吳其昌說

劉心源曰者諸省奇版卷七第二十頁父戊爵三

方濬益釋饗饗饗形曰象兩角兩目鼻口之形與彝器之作饗饗形者正相似左文公十八年傳謂之饗饗注曰食財曰饗食食曰饗此形於器亦示饗之義也續遺卷二十一第一頁饗饗饗父戊爵

872 (2391)

871 (2390)

正西鼎 空△西

李孝定曰：倒止形，當即許書之「久」。

877 (2393)

正中正解 空△中

李孝定曰：似即美字，延字亦由此尊乳。2375同。

878 (2394)

非正解 空△

李孝定曰：說見上。

879 (2395)

冊文度解 空△

李孝定曰：从口从止，當即地字。甲骨文出作若之則為地。2377亦同。

880 (2396)



國語
△
△

李孝定曰說見上



家鼎
△
△
△

高田忠周曰『足』字本作父丙此據古引鼎文也元釋作足跡形斷非今按此為足跡厥三字殊顯然說文『足』是也上象勝腸下从止弟子職曰問足何止古文以為詩大雅字亦以為足字或曰胥字一曰足記也此篆實上象勝腸下从止者也當與足古文作『互』證也又說文足訓人之足也在體下从口止止訓下基也然則全足為足足止兼之又却脚以下為足足首謂之止也足在中間為之基本弟子職所謂其義可察矣因謂大足字亦其本義之一轉耳毛詩序曰雅者正也言王政之所由廢興也又周禮地官大司馬注正之言政也夏官使帥其屬而掌邦政法政所正不正者也正政轉注字而正正義相通小雅大雅以



家鼎
△
△
△

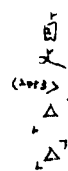
柯昌濟曰『世』即古延字說文延長行兒从辵聲案卜詞變作從丁未伐商貞作他皆與此字為一字而此器字較為古考古文殆與小篆从聲不合从止从彳即取人行步延長之義(釋華三五頁延父丁鼎)
于省吾曰父丁鼎有『世』字金文編入於坳象按从止从匕即此字『世』上象足趾或三或四或五金文習見此字此尊作『世』此盃作『世』可互證至偏旁之部位左右無別也(古籀七頁釋此)
李孝定曰當从于說

二五頁

方濬益釋足象形見說文卷三第廿七頁厥父丙鼎

李孝定曰『足』是古為同字釋足釋足一也

為正道以是為王政之基本猶人體以足為基本也自古正兩字相關如此故王字古文有作『正』从足者可證又一曰『足』也此段借為疑為疏也然疏也亦當足正者也但依朱駿聲說足正字以誤為本字又或以雅為之(古籀篇六十三第廿四至二五頁)

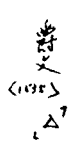


方濬益釋禹冢形足迹形見綴遺卷十第五頁禹形足迹

李孝足曰當隸定作𠂔契文有𠂔字與此或是同字高田氏謂是𠂔之或體𠂔字似難徵信

886 (2400)

885(2400)



卜楊樹達曰：沚與止同从止，通作也。（積微一六六頁）鄭義鼓。

陳德鉅曰：心羅拔玉釋洗吳其昌於書契解詁從之葉玉森釋
淡其餘諸家均釋為汴謂从水从止是均誤以止上之山為水
唐蘭於所著天壤閣甲骨文存考釋亦釋為汴見第六十一頁而於檢
字第三頁內又寫作止謂疑汴是亦不敢確信為从水之矣金
文中亦有此字年已蓋作則爵文作見金文編附錄當與此同余謂
此實為采字亦即番字之初文說文采辨別也象獸指爪分別
也古本考云：濤案五經文字上作象獸指爪之形蓋古本如此
此正象形字言象獸指爪不必更言分別矣又說文釋例云采

字當以獸爪為正義是爪之義當訓獸爪說文番古文獸獸足也。从米田象其掌。或从足字作踏。朱駿聲於通訓定聲謂此實即采之异文。殊為卓見。而說文釋例又云。米番蓋一字也。米下云。象獸指爪分別也。番下云。獸足謂之番。足以明之。林義光文源亦謂米已象掌指爪。其下不當復象掌形。从田者獸足所踐處也。是諸家均以米番本為一字是也。田象獸足側形。按許說象形其所寫與稿正之則作田與田形近與田截廿三田林二有為誤。按考或作足足証今試執獸足反視之多作田形按甲文田義為足故於旁着點象獸趾之形。又疑其原義為象獸趾所踐之跡。引為獸足耳。番字又作踏爾雅釋獸狸狐獬狔醜其足踏廣雅釋獸踏足也。今按增足作踏其義實贅也。說文月刊第一卷

888 (2401)

887(2401)

于省吾釋^出作^出見雙選卷下二第頁即棄

李孝定曰^出从^出數^出似非^出于^出楊^出二氏釋為^出法^出固可^出商^出陳^出德^出鉅^出氏釋為^出獸^出指^出爪^出之^出乘^出實亦無^出微^出止^出字^出已有^出趾^出形^出則^出其^出旁^出所^出着^出點^出安^出得^出更^出象^出獸^出趾^出之^出形^出乎^出至^出契^出文^出之^出出^出則^出固^出是^出法^出字^出不^出誤^出惟^出與^出此^出是^出否^出為^出同^出字^出則^出可^出商^出耳^出

方其來于^出（前七、二九、二）

頁七九、十、月、在^出（文錄六八五）

之^出字^出即^出也^出此^出與^出殷^出王^出室^出閼^出係^出繁^出衆^出故^出如^出

戊^出午^出卜^出賓^出王^出从^出此^出戰^出伐^出土^出方^出受^出佑^出（後上一七、五）

戊^出午^出卜^出賓^出王^出从^出此^出戰^出伐^出土^出方^出受^出佑^出（後上一七、五）

889 (2401)

從^出中^出常^出从^出王^出從^出之^出此^出戰^出見^出于^出卜^出辭^出（殷^出金^出文^出考^出釋^出七二一七四）

頁五、五、御^出尊^出出^出林^出澤^出明^出譯^出

890 (2401)

𠂔

女^出中^出自^出女^出中^出方^出字^出△

劉^出心^出源^出與^出上^出章^出字^出連^出讀^出釋^出連^出曰^出說^出文^出津^出斷^出自^出進^出極^出也^出从^出走^出津^出聲^出即^出津^出連^出本^出字^出今^出用^出津^出而^出連^出無^出人^出識^出矣^出津^出从^出聿^出得^出聲^出从^出聿^出者^出省^出字^出也^出此^出亦^出省^出又^出从^出𠂔^出即^出𠂔^出即^出𠂔^出（奇^出觚^出卷^出六^出四^出頁^出婦^出連^出自^出）

李^出孝^出定^出曰^出字^出舊^出釋^出矣^出

𠂔

𠂔

𠂔

小^出子^出大^出專^出△

方^出清^出益^出曰^出上^出三^出字^出中^出為^出𠂔^出刀^出形^出詩^出信^出南^出山^出執^出其^出𠂔^出刀^出毛^出傳^出刀^出

有^出𠂔^出者^出言^出割^出中^出節^出也^出公^出羊^出宣^出公^出十^出一^出年^出傳^出右^出執^出𠂔^出刀^出何^出注^出𠂔^出

刀^出宗^出廟^出割^出切^出之^出刀^出環^出有^出和^出鋒^出有^出𠂔^出刀^出左^出右^出不^出審^出何^出字^出疑^出是^出分^出肉^出

之^出形^出說^出文^出羊^出物^出中^出分^出也^出从^出八^出从^出牛^出牛^出為^出物^出大^出可^出中^出分^出也^出與^出此^出象^出

形^出意^出同^出亦^出見^出葉^出兵^出部^出舊^出藏^出自^出銘^出內^出其^出下^出當^出是^出手^出形^出非^出足^出迹^出以^出手^出

執^出刀^出所^出以^出示^出割^出切^出歟^出（編^出遺^出卷^出五^出二^出八^出頁^出𠂔^出刀^出父^出乙^出𠂔^出）

892 (2403)

891 (2402)

高田忠周曰：按「形」他器亦在舊釋為立斂形者非。愚謂此出字省文，石鼓文「造」字作「𠂔」，且此篆下形作「𠂔」，即「止」形亦「走」之省也。然則「𠂔」亦「造」之省文無疑焉。其兩旁作「𠂔」者，蓋「𠂔」字亦用為「𠂔」木字作「𠂔」亦同意耳。此字以「𠂔」木為形，通為「𠂔」音。此明稿字據說文「𠂔」木字，從「𠂔」木，𠂔聲。讀若「𠂔」，合篇八十二第一二頁。

參閱 144 乙字條吳其昌說

馬叙倫曰：倫按舊於「𠂔」形無釋。倫謂舊釋諸婦自之旁，倫即此「𠂔」形，亦皆契約書契之契本字，而說文「𠂔」之初文，今說文與「𠂔」格之半混為一字，釋名「𠂔」刻也，刻識其數也。墨子是數人之虛，而以為實，列子宋人遊於道，得人遺契者，歸而藏之，密數其齒。

蓋「𠂔」之初文本作「𠂔」，故變為「𠂔」，步則刻契之刀也。此與諸婦自皆作女者，蓋此作「𠂔」，蓋製此器者古皆婦女，任之與止則其氏族之名，後自作「𠂔」者，即造契之家，說文有「𠂔」字，疑初本作「𠂔」也。亦廢而契行，亦變作「𠂔」矣。利詞五九頁母自。

以方者，蓋「𠂔」步為分肉形，「𠂔」為刀形，見綴遺卷十一第一二頁。馬刀形母自。

李孝定曰：此文當及馬氏說釋契其下，「止」字亦當如馬說，不當與此文合讀。从「𠂔」者乃「𠂔」之形，為非从「𠂔」也。方氏說「𠂔」字，雖望文之訓不足深辨，高田氏釋「𠂔」亦無據。馬古文作「𠂔」，秦州木初出之鼎，此文中間所从，明是刀字，與「𠂔」字風馬牛不相及也。

894 (2403)

893 (2403)

盛張曰：金文有「𠂔」，「𠂔」與「𠂔」象手執刀契刻形，由于契刻要用刀，所以後起多有切契契而從「𠂔」，與刀省表動作（文物一九七六年六期四〇頁，岐山新出銀函若干問題探索）。

上章張忠曰：「𠂔」據說文上之「𠂔」，三代「𠂔」有「𠂔」字，此字乃「𠂔」省，去一「𠂔」者，也。惟相當於說文之「𠂔」。

動，巧初也，从刀，𠂔聲。

則「𠂔」為「𠂔」之聲，組之「𠂔」之字也。又有「𠂔」之字，雖無相當於「𠂔」之字，然求之於字形相近而合有「𠂔」字者，則有「𠂔」字，其形為何則不確也。（殷金文彙編第三三頁，小字，又專山，林澤明）

895 (2403)

方濬益曰：考鄉釋為二足跪矩，清益按此文與祖辛足迹尊同，意禮記曲禮曰：堂上接武，堂下布武，尊文兩足分布為布武之形，此兩足相接正取接武之義，「𠂔」則堂階之象形也。（綴遺卷二十二，五頁足迹形父癸爵）

吳大澂曰：上作兩足迹形，取繩武之義，亦即世世永保之意。旁作折矩形，取周禮折矩之義。（憲齋二十二冊十七頁兩足跡折矩形父癸爵）

馬叙倫曰：倫按舊釋「𠂔」為立矩形，倫謂「𠂔」即金文「𠂔」字說文直字所從之「𠂔」，即說文之「𠂔」字，是訓長行，長行謂長道，今俗傳長

896 (2404)

街長街者其直者長則橫者多元本作_通也省則為_止此與舊釋足跡鼎之_通同意(劉詞七七頁至七八頁父癸爵)

楊樹達曰余謂六書有象形凡形皆字也...銘文為_止丁父

癸四字吳氏釋足跡形二止矩形的父癸爵陳介祺寶書吉金錄

式拾貳冊_{十九}名為兩足跡折矩形的父癸爵陳介祺寶書吉金錄

卷二_{十一}釋作二足跡矩形的父癸爵方濬益綴遺齋集卷二釋卷

式拾貳冊_{十九}釋為二足跡形堂階形父癸劉心源奇觚室吉金文

述宗卷_{廿五}亦釋足跡形惟羅振玉殷文存下卷_一題步丁父癸

黃劉體智小校經閣金文卷_六釋作步矩形的父癸曾認二足跡

為步字最為得之(續微二四九頁止且癸爵跋)

張日昇曰按₂₄₄₄下半字即₂₄₄₄同文重錄

李孝定曰此文上是步字楊氏引羅說是也至下丁字是另一字說見前以條下著釋矩不可信全文矩字作_止象矩者但作_止古_止矩一字也馬氏釋延雖若可信然全文延字皆已為形聲字此但作_止釋延亦難數信

李孝定曰疑為步之形_通

李孝定曰疑為步之形_通



阮元曰兩手奉若所以承祭也(續古卷五二十五頁四葉)

金祥恆曰羅大經曰與目為正為征是也然正所从口或何

義未加說明余謂口者即城郭所从之墻國甲文郭作_止衛作

正象人足進行攻城之形衛為自衛征為伐人其意相承其義

則相友鄭樵六書略正象射的形黃生曰王雷訓射的射者必

以步趨其遠近之準而施的焉故从止(朱駿聲說文通訓定

聲正當訓侯中也受矢者曰正拒矢者曰之皆非也中國文字
七册一頁釋又日出也

嚴一萍曰釋氏曰又有品字^{廿一}或作品^{百三}字亦常見
如云乙丑卜介隻^{廿一}其^三丙申卜其^八立口其^九其^十
八十五貝我弗其隻^{廿一}其^三貝我甲子大其^九口^十乙亥
口設貝豕其^{廿一}其^三貝我甲子大其^九口^十乙亥
韋字而變其形斜字本从久牛反正平列不分上下說文斜部
斜對臥也从久牛相背則字形當以各平列為正此从本形於
字例固符合也其義多為圖之借字隻其者^通作^通也其
者因獵圖獸王制所謂圖也其義大其義同唯其其其其其
其者或以其其為義似尚用本訓耳其文舉例其下第二
小屯甲編三一(一二三)一三合因獵卜辭也亦用品字其辭

901 (2406)

曰

取入

庚戌卜其隻^{廿一}其^三其^五

庚戌卜其隻^{廿一}其^三其^五

甲寅卜其隻^{廿一}其^三其^五

甲戌卜其隻^{廿一}其^三其^五

甲戌卜其隻^{廿一}其^三其^五

卜辭於方國之征伐或用品字釋品為圖為征均無不可
然因獵卜辭之對象為禽獸當無征討之事釋品為征其不
立見然則釋品至確矣……品字之義有需修正孫氏之說者
品為圖之本字非借字錄甲骨用品之辭未見其其之義知與
韋乃絕然兩字耳中國文字十五册一頁三至四頁又二五頁

902 (2406)

釋品編

李孝定曰字當釋正契文與此亦同嚴氏从孫詒讓說釋圖似
有可商圖為術之專乳字倘釋此為圖於字形殊無可徵且
嚴氏所引卜辭一辭中上言正下言禽者同辭均未舉禽獸之
名似可解為禽獸若干也同版它辭言獲為獸者同辭均無正
字是真紀田獵之事同版卜辭所卜未仕為同事也

903 (2406)

用法高曰拙著金文卷釋七十七頁節析嚴著釋註五云
在甲骨文中……第一期武丁有正土方之語字有作正者
下從二止相對後而開或加于字如土方呈于我東豕其二
邑其方呈于我東人十出五人其方呈于我口其方呈于

我東豕其方呈于我東人十出五人其方呈于我口其方呈于
武丁卜辭字形下從二止也略有不同呈後不加于的如己酉卜
貞省往呈其方呈于我東豕其方呈于我東豕其方呈于我東豕
一月前六二六(一)三日丙口令口其方呈于我東豕其方呈于
二通甲寅卜口其方呈于我東豕其方呈于我東豕其方呈于我東豕
五通甲寅卜口其方呈于我東豕其方呈于我東豕其方呈于我東豕
陳夢家說其方呈于我東豕其方呈于我東豕其方呈于我東豕其方呈于我東豕
手呈其方呈于我東豕其方呈于我東豕其方呈于我東豕其方呈于我東豕
卜辭征伐方國亦曰呈字與正不同說文此讀若微呈當是
獲亂之微手呈其方呈于我東豕其方呈于我東豕其方呈于我東豕其方呈于我東豕
唐健垣从于字用法證甲骨文品字之不同中國文字第二十八册一九六八
更據鄭說及陳夢家說加以疏通證明文繁不備引然則此字
當釋為其即說文之其非正字也

903 a (2406)



𠂔
<0131> Δ

李孝定曰此𠂔圖之古文

904 (2407)



𠂔
<0132> Δ



𠂔
<0133> Δ

屢一詳曰第一期卜辭圖字皆作𠂔與武乙時增二止于口

中作𠂔(中國文字十五冊一八頁釋品細)

李孝定曰屢九釋此為圖可從然口中無二止形者仍當釋正

905 (2408)



𠂔
<0134> Δ

李孝定曰此字左旁與𠂔一文應是同字然則彼不當釋𠂔矣
全字不可識

906 (2409)






𠂔
<0135> Δ

李孝定曰此字上半是逆字右下旁似為欠字左下偏旁不可
識合之亦不可解

907 (2410)

李孝定曰：「擗當釋步，另一偏旁不可識。」

 𠂔 義文
 𠂔 文乙義
 𠂔 奪堂

〇 容庚曰：家人據冊上形（寶龜田一頁商銅簋）

吳大澂釋兌卦二字見憲齋七冊二十二頁冊兌父乙敵

李孝定曰吳說可从容說殊無理致

909(2412)

文豪集
(1917) △文豪

文豪集
(1917) △文豪

〇方濬益曰：此兩冊中爲三疊龍相向之形。（紹遺墨卷三十三頁冊冊父箋折）

a 馬叙倫曰。倫按舊於 S 無釋。倫以鈐有二。卽推之。疑是說文之
 S 二字。S 本是一字。爲鈎之初文。若然。則冊非書冊。乃柵
 也。柵須 S 以便啓閉。故後增 S 亦或二冊。其父爰之族徽 S 其
 所業也。或謂 S 爲 8 之異文。8 以編書。故編字從 8。亦會通然。
 金甲文。系字皆無如是作者也。(刻詞七四頁父爰爰)

910(2413)

李孝定曰方說雖不可信馬氏以為中乃鉤之古文亦無據所引或說謂為𠄎之異文則不如釋句為猶愈也字不可識

911 (2413)

𠄎

臣辰文發正

臣辰文發正

李孝定曰疑為「光」冊合文。光金文作「𠄎」為「光」之古文。象人戴冠形。此中「一」文作「𠄎」上从「𠄎」金文「皇」字所从同。皇字上亦象冠冕形也。字魯實光。光釋冕。於形尤近。光冕蓋同實異名也。見下二五一四文。

912 (2414)

𠄎

文丁

文丁

李孝定曰「豆」冊合文。

913 (2415)

𠄎

作文正

作文正

李孝定曰「亞」正冊合文。

914 (2416)

𠄎

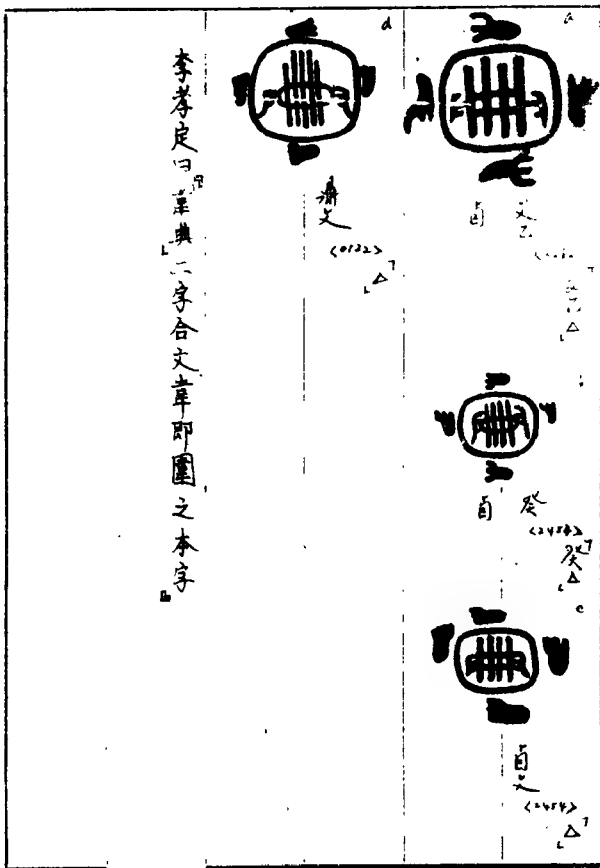
呼甫

呼甫

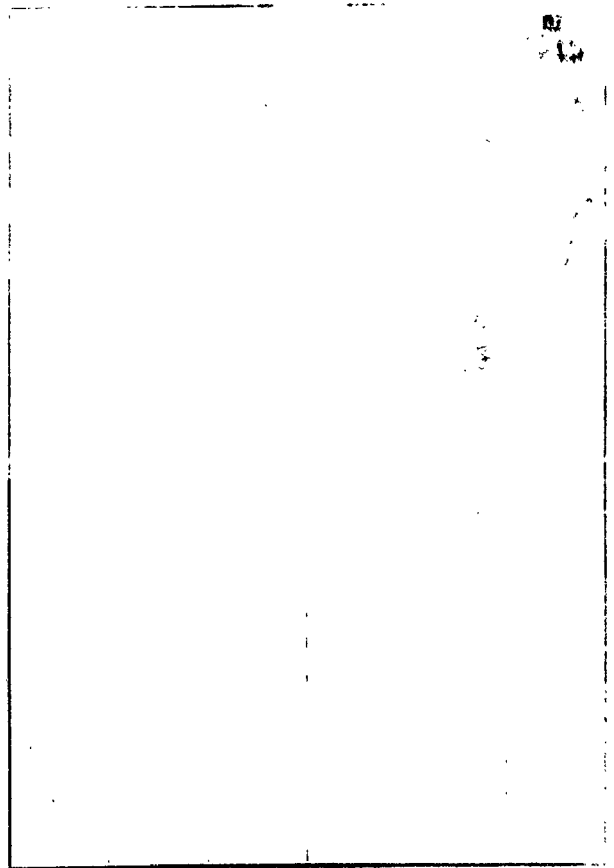
郭沫若曰下款首一字不識。當即「𠄎」之族徽。𠄎乃冊之缺飾文。舟書即「𠄎」之名。(兩枚十頁細商)

李孝定曰「下」冊冊四字合文。「下」字說見前。呼甫古文多段為「南」字。

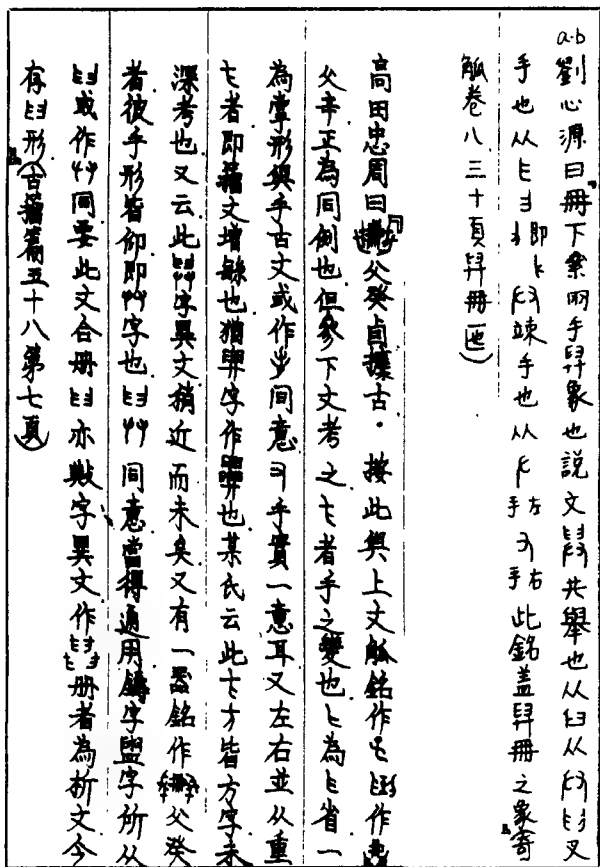
915 (2417)



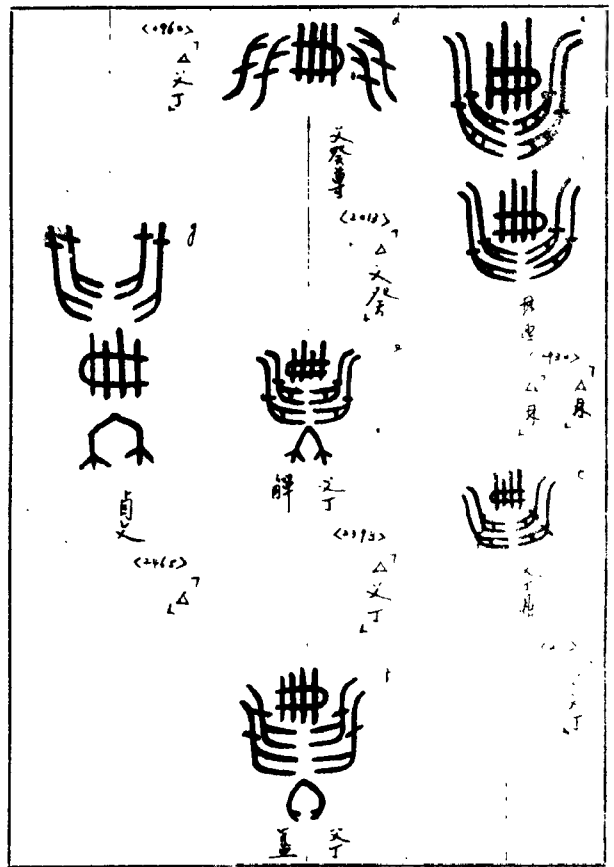
917(2419)



916(2418)



919(2420)



918(2420)

徐中舒曰銅器又有爵字作



父丁爵



父癸爵



爵文



爵

從兩端（一）從冊說文爵之古文作一編從冊與銅器中諸形相同（從一編與爵文同兩）最古代爵狀之爵與尊器之爵各有專字此即爵與本字銅器中述王冊命之詞大略相同茲舉數為例

王在周康新宮且王格大室即位申嗣父右暨入門位中廷北鄉王時史佚冊命暨

此王與史為編暨與申嗣父為編兩編相向以行冊命之事情形正與銅器諸文合古文爵及父癸尊所從之未均作例文形

銘當與之（劉詞六六頁）

白川靜曰奉冊之形概以左右二朱重疊其上置以冊字表示將來組格納冊被之形很明顯的這是有關夏耕的一種特殊儀禮（其字類見於金文當中宋以來讀為祭清金石學者則擇為同或再其字形與卜辭片之下半相似或許是真的省文但無法確定奉冊形的冊字在這裡是把耕種神穀的未組納而藏之的意思從這點看來很明白的也與含有牲牢的冊形兩冊形一樣同是一種祝祓的儀禮這些器物的作者恐怕是那些專掌神農農具的祝祓或度藏的人們（中國文字四十冊三〇頁作冊考）

方濟益釋奉冊見綴遺卷十四第一頁奉冊圖

李孝定曰從冊从四力力為犁之古文當為冊力合文力未古書為一字為農耕之具所以刺地起土者劉心源氏說也惟耕耨未耨考方氏釋奉冊誤力為又與劉氏同為氏說是也惟以與文精字為聲則誤徐氏說本不誤惟引說文爵之古文以為與此相同遂亦釋此為爵則大誤又謂古爵狀字與奉冊之爵各有專字亦殊無據說文爵之古文不見於傳世彝器及甲文未知所本其字亦決非从力也嗣字乃从同聲非以為義可亦非勿字徐說非是高田氏釋為殷亦緣誤力為手耳白川氏之說最為近是

又可證銅所從之「」確為未形了（又謝建時代世族銅政爵之爵字有變而末）（案列第二本一分四九五至五〇頁末案考）
馬叙倫曰倫據舊釋甘為舉為兩手奉冊形許瀚謂不似手形與王主父丁尊形倒順雖異筆畫正同後釋饒倫謂其象之為甘乃架之初文若絕非手形亦非饒字舊釋奉冊自之之亦最正之珠耳檢甲文有郭沫若釋饒倫以藉令鼎王農于謀田京叔與官司田證知甲文二字乃犁之初文從從來皆來之初文說來敵之凡或釋為秉倫謂與一字之即說文所謂耕曲木則所以發土之器校為象形失其故步失此作尚於物形為近器文作蓋陳列之多耳作是器者或即所謂官司耕田者與冊所以表受命也蓋安來之具此

柯昌濟曰五十六字
昇按王山尊文前舊釋龍豚疑本一字也字
四字為王山攸田甚難識似从龍从豚奉冊西亦有𣥵字與此字相近殆一字𣥵

郭沫若撰自序作繇見兩攷九七頁自序

郭沫若曰：「**𧢲**亦見於田尊，彼銘云：王曰：『伐田，於**𧢲**虎。』」**𧢲**一作父，丁事字與田獵有關，當是動詞。卜辭另有「一例」，**𧢲**田每翌日其田才涖，日亡戕畢。復下二所言者亦係田獵之事。余釋為龍小篆作**𧢲**，乃由此而為變者也。下通八三頁（集釋）
唐蘭曰：「**𧢲**為卜辭奇字，徐中舒釋麗，按麗實从鹿，金文自有其字，與此杖大形者迥異，其說非也。郭沫若為錢，今無其字，余按此當是獸及獸之本字。卜辭字或作**𧢲**，五从一犬，金文或作**𧢲**，光从三犬，或作**𧢲**，泰公鐘亦从三犬，而變**𧢲**作**𧢲**，或作**𧢲**，夷則从言，聲聲考才。」

929 (2422)

有𠂔為𠂔則為𠂔即後世之𠂔字說文訓𠂔為犬肉則已不知其本義而望文生訓矣卜辭又有𠂔字缺遺十當即金文𠂔𠂔等形所从出其作𠂔形如省為𠂔如𠂔又則有似於從甘从肉金文作𠂔形者亦然此皆𠂔字之形所從出說文以為从甘从𠂔者也至常見之𠂔𠂔𠂔則有似於从𠂔从肉𠂔為𠂔字故說文𠂔字重文作𠂔从𠂔从𠂔矣凡古文繁縟者後世恆變為𠂔易精義析為二則為𠂔為𠂔為𠂔金文之作𠂔𠂔者省之當為說文𠂔字古文之𠂔𠂔蓋才形之𠂔則𠂔之變也秦公鐘云𠂔𠂔萬民𠂔即𠂔字亦即𠂔字𠂔讀如厭合也安也𠂔協聲相近是𠂔𠂔猶協和也尸𠂔云𠂔𠂔而九事𠂔為从言𠂔聲當為說文𠂔之本字其讀亦同尸𠂔又有𠂔字則春秋以後已不知𠂔𠂔之為一字矣郭沫若以此為𠂔天壤文釋五十九非古龍字與此迥殊

930 (2422)

頁(集釋
7385
1
P3137
)

李孝定曰：象二勿相並， α 形增二。又字於義亦同。劉心源氏釋前三形為麗至確釋 α 形為麗則緣舊說之誤字乃耦耕之義許書所訓旅行亦與耦耕之義相因契文有𨾏字即麗之所本為从犬為从鹿耳𨾏或亦作𨾏乃羣犬耦耕之家服牛乘馬之前蓋有以犬為農耕者矣予前編甲骨文字時收𨾏作麗306頁而於𨾏字但加隸定313頁實未深考𨾏是否為麗字實無確據而於𨾏字但加隸定313頁譚氏釋耦於義雖是而於形音無徵字从二而𨾏則真麗字也諱氏釋耦於義雖是而於形音無徵字从二勿聲之其義為耦勿限音亦近也徐中舒氏之說本諸劉氏而古文其義為耦勿限音亦近也徐中舒氏之說本諸劉氏而說尤美備可从郭唐二氏之說予前已於集釋中辨之不贅。

931(2422)

癸未卜貞：王在蘇林，成獸十月。(續三四〇、四)
 父田隴(甲一七六三)

四
後下。二三、一三

在蟹(梓五五)

戊子卜貞王其田籍亡攷
辛卯卜貞王其田籍亡攷

(粹九七三)

自武丁期以來顯著之獵場中有狩獸。故田與獵爲二字也。且野與獵不過是字形雖不同而已。實係同一字。休者也。(殷金文)

按與應合為一字

2422abc
興
13/2abc

應合為一字

933 (2422)

𠂔^a
父
子
壽
'190',
父
子

李孝定曰象兩手捧器形

天

又羊文已正
(0110) 又羊文已

2

又羊天
又羊△文已
己鼎

雨

又羊文
△又羊文已
< 2818 >
己酉

雨

解 羊文
(200) △羊文

商鞅排合半角為一文釋教見十二家一。三頁附八頁又
教父已脫

935 (2424)

934 (2423)

册

册爲文甲部

馬叙倫曰：册字金文屢見舊釋册父甲觚作册子立敵有雲沙與此同文而册作册金文朕字多作册

朕字多作册而魯伯鬲作朕郭造鼎作朕辟侯盤作朕其從公即此字此所從之以秦公敵作朕齊侯敵作朕所從之十證之即說文之十字尋說文朕送皆從朕得聲而金甲文朕字率不從朕其爲蓋從以半聲以則從以十聲半即說文肝字所從得聲之半半蓋從十八聲爲博之轉注字亦十之轉注字也八爲臂之初文而俗呼臂爲胳膊此博半爲轉注字之證十爲阡陌之陌初文而甲從十得聲音入見紐封見同爲清破裂音八博音同封紐此十三轉注字得爲博半也史記魯世家肝誓

936 (2425)

尚書作誓說文策下引作策誓則十從八得聲之證也八讀唇齒音入非紐非心同爲次清摩擦音唇齒與古尖前又最近故送得從八爲聲又十音禪紐古讀禪歸定而定之一部份轉入喻四喻四亦次清摩擦音也肝從半得聲而音入晚紐晚亦次清摩擦音也以此相明此似即朕字所從之故特其義今不可遽證耳(利詞八二頁至八三頁父丁自)

937 (2425)

𠂔

𠂔爲文發鼎

李孝定曰：𠂔字从兩手奉皿一手在上奉皿沃盥之事也疑盥之古文與文盥作𠂔此更从収耳金文增水字於義始足

𠂔

𠂔

𠂔

李孝定曰：从下象器物形兩手捧之更增止旁字不可識

939 (2427)

938 (2426)

𠂔

𠂔

𠂔

𠂔

𠂔

𠂔

李孝定曰从周从𠂔疑周之異文

𠂔

𠂔

𠂔

李孝定曰从𠂔从𠂔象兩手取物之形字不可識

941 (2429)

940 (2428)

𠂔

𠂔

高田忠周曰按从𠂔从𠂔字形顯明者蓋與𠂔均皆恭持之意而亦與从𠂔皆同意也(古籀篇三十六第三八頁)

馬叙倫曰倫按舊釋饌父丁倫謂𠂔非饌也字從說文之𠂔从𠂔以兩手執𠂔乃說文之𠂔字此為初文耳甲文有𠂔高田忠釋𠂔是也𠂔亦𠂔字說文𠂔下曰食𠂔也食𠂔也當作設食也𠂔也𠂔也者𠂔字之義𠂔聲侵類𠂔聲幽侵對轉古書或借𠂔為𠂔其實生𠂔字當為𠂔𠂔則𠂔之轉注字𠂔則𠂔之轉注字也𠂔為𠂔物之義亦𠂔之初文說文𠂔下曰一白𠂔也此固校語也然必有所因而𠂔非其義夏敬觀謂𠂔從米得聲米聲脂類𠂔聲真類脂真對轉以聲訓也孫詒讓謂𠂔為𠂔譌孫說

942 (2430)

為長煮音照三𠂔音禪紐同為𠂔面前音也𠂔從𠂔即說文之𠂔字𠂔之初文也𠂔中有一象所煮之物也物既煮則𠂔古俗即就𠂔而食故此從𠂔以兩手執𠂔置於當食之所謂之設食說文𠂔設食也𠂔即金文師虎𠂔之𠂔字從食才聲食𠂔則一字詳疏此從𠂔才聲𠂔即甲文之𠂔字也才屯一字詳疏說文𠂔讀若屯則𠂔為𠂔之轉注字也以此知𠂔義為設食此器作𠂔者與𠂔爵作𠂔同意刻詞四二頁父丁爵

943 (2430)

李孝定曰从𠂔从𠂔高馬氏謂是𠂔字以古文偏旁義近通用之例說之說似可然細審之則仍有可商高古作𠂔乃象高祀之所宗廟之象也小篆形𠂔作𠂔許君乃謂象進𠂔食形為氏之說純就小篆偏旁分析為言高字實非可手持之物也殷時𠂔

字形未變固不當以孰食解之然則馬氏之說為無據矣字不可識

944 (2430)

李孝定曰从臼从南不知何字

𣎵

𣎵

𣎵

945 (2431)

𣎵

𣎵

李孝定曰从臼从甘从亞不知何字

946 (2432)

𣎵

𣎵

于省吾曰銘在內之兩面四字皆為系說文隨文系作𣎵系有作𣎵甲骨文作𣎵或𣎵此器作𣎵均象以手持絲之形說文訓為从糸一聲誤矣(雙劍下釋一頁系可矣)

于省吾曰前七四一雙乙亥𣎵易日乙亥𣎵九易日致存五
四乙未𣎵品藏七二三米拾二十四重被手不辨三
九八之夕乙亥𣎵立中四四六𣎵續一三二令口
六七九真手犬子京錄詒讓云說文系部系𣎵文作𣎵从爪此

947 (2433)

即蘇之省羅振玉云說文解字象繫也从糸聲羅文作𣪠辭作𣪠持絲形與許書指文合按羅羅說是也小臣象自來作𣪠余所藏系句矢
來作𣪠羅神變絲从來作𣪠均象以手提絲之形而糸之意自
顯梁文言糸言𣪠糸言𣪠糸品言糸米糸之意義舊所不解糸
經傳通作繫儀礼士喪禮著組繫注組繫為可結也左氏春秋
序以事繫日疏繫者以下綴上以米連米之辭鬼谷子中經綴
去者謂綴已之繫象言注繫象屬也禮記郊特牲云邊豆之實水
土之品也不敢用養味而貴多品所以交於神明之義也周禮
內饔辨百品味之物注百品味庶羞之屬吳文祀典曰糸謂
以品物繫屬以交接於神明也言糸者簡語耳言𣪠系𣪠為
酒糸系謂糸品物言𣪠系品語有不省言糸米猶他辭言登黍
登米不言登而言糸者謂以米繫屬於鬼神文雖有別義則無

948 (2433)

殊也(駢三第十五頁釋系)(集釋
P.3862—P.3863)

李孝定曰：从𠂔，下文即隸字，當即象之古文。小臣象，𠂔作𠂔，𠂔亦作𠂔，此重之。仍是一字。金文象與許書𠂔文同。于氏說契文象字之義是也。

赤塚忠回。辭中作「赤塚」字形。一曰左指葉體整。

癸亥貞旬亡禍在十月不_貞 (文錄七七)

夏司其龜有尤
續五二六方

倭大龜于京 (續文七九)

甲戌卜王曰貞勿咎于帝曰不咎
(釋三七大)

丁巳卜賓貞。產會于東。(乙之七〇八)

乙亥卜賓貞翌乙亥彫陽日。乙亥彫允陽日。(前七四二)

事表貞生月乙亥彫飛主中(粹三九八)

癸未卜貞王賓于自上甲至于多風。秋亡尤。(前二·二五·三)

乙未 品上 甲十 報乙 三報丙 三報丁 三示壬 三示癸 三

大乙十、大丁十、大庚十、大甲十、祖乙（新——三）

則用為武丁期之骨。心刻碑之署名。即所謂史官之名。又周

丁卯之方國名人名如

方黃虛方乍成
鄒中羽三下四三、四

三焦出二十色 小臣中示勅 (五) 副七、七、三

具伴先 釋三七一

以子孟爲桐廬者也。而此穀銀之小匪猶即其族之人而負此

名者也且爾方與方音似以假為原丁詩則之思亦未可知也然爾字自古所作爾字陳夢家又據之而以爾方與爾字子白豈之與方音良近之爾是相同即變方也律連二九九通然樂作方聲律不可通也設文作

揚雄之一曰治也一曰不絕也
从言絲字在文絲

古文與字形類似故不得不以辨字當之也然不當作變之義也

說文又有屢異也。蘇稽文集从𠂔𠂔觀臨之字形。以手法緯束之。

亦也字蓋當以此名也即是龜足之註源而是排列整理錄來

之意故雖之祭禮正如卜問龜曰上甲至于易衣及酌雖上甲

以下之各兄王備劉禪之辭中所明示微聲乃謂合多先理

依其順序而聲者也所謂綴于末者乃在東行雜聲之事也惟所

謂產難者、或因危微之勢、音聲即生、牢之意、又欲方蓋為普之樂、

951(2433)

950 (2433)

次之所生也。變更為鼎之轉音也。 (殷金文多釋九一一九二頁)
 小篆不設 (50) 林澤明譯



鼎
 古文
 丁
 文
 乙

阮元曰。案此象形字舊釋作鼎。今按其文是累兩象鼎之制。上若
 甬下若兩。甬亦作甬。象連山形。易艮兼山夏易首艮謂之連
 山。即甬山也。爾雅釋山。重巖隙是也。此文下為敦足之甬。上
 作仰孟以出氣。是甬字也。爵而銘以甬者。古甬字同獻。是
 獻爵也。 (續古卷二。八百甬爵)

高田忠周曰。按說文。甬屬。甬屬。从甬。大書故引唐本。从皮
 省聲。又甬。甬也。从瓦。甬聲。考工記。陶人獻甬。實二。司農注。無底
 甬。今見此象形。正是甬之象形也。蓋甬。甬本同字。甬當古文。凡
 鐘鼎銘文。有甬無甬。或借獻字。可證。但甬器。或金製。或瓦製。

故字或變為甬。為獻。因後人之分別。不令甬行。甬卻廢。 (合編
 七十六第一二頁)

馬叙倫曰。倫按孫詒讓釋血兩二字。是也。甬文作此二字。蓋以
 造血兩為業。者所作器也。血山實一字異文。詳疏。山即器血之
 器。本字甬。即今所謂鍋也。今北方往往二物同貴也。 (劉詞十頁
 血兩爵)

張日昇曰。按字誤。篆當作甬。

李孝定曰。按此文本作甬。从甬。从血。从羽。象炊時氣上出也。
 當即甬若甬之古文。高田氏說是也。說文。甬。甬也。一甬。甬即
 甬。甬。此象即象置器甬上蒸物之形。



甬
 文
 丁
 文
 乙

容庚釋瓶曰。象人奉井形。 (武英七二頁。瓶父丁蓋)

李孝定曰。容氏鍊定是也。字不可識。

𠂔

𠂔 𠂔 𠂔

𠂔

𠂔 𠂔 𠂔

𠂔

𠂔 𠂔 𠂔

足曰象手握九之形字不可識

高說文三下又部又手指相錯也从又象又之形初切牙

956(2436)

𠂔

𠂔 𠂔 𠂔

李孝定曰字不可識

957(2437)

𠂔

𠂔 𠂔 𠂔

李孝定曰象手執矢形當錄定作𠂔

958(2438)

𠂔

𠂔 𠂔 𠂔

馬叙倫曰倫按服𠂔異字服從舟反聲乃舟之兩服也此文作
𠂔不得釋服舊說非也𠂔報一字報為甲文作𠂔者之譌文𠂔
從又按𠂔故義為處當罪人也𠂔其省耳報𠂔又為一字說文
𠂔窮理罪人也辭壽謂此即今以詞定為供之供是也字當以
𠂔為初文今說𠂔為重文𠂔則𠂔之譌也詳疏按治𠂔人為𠂔
故說文𠂔下曰治也(刻詞十七頁至十八頁亞反解)
李孝定曰𠂔从又从𠂔為𠂔𠂔非是𠂔作𠂔从𠂔象人形𠂔不
知何義然不象人形則甚顯也又馬氏釋甲文之𠂔為報亦非
𠂔乃𠂔字又謂𠂔報一字報𠂔一字𠂔其初文說亦可商數
字於義雖得通然於形則不能證為一字也

959(2439)



豆 父 乙 乙

李孝定曰字不可識



父 乙 乙

方濬益象手執豆形曰按爾雅釋器木豆謂之豆竹豆謂之簠
凡豆謂之登是簠與登皆豆屬祭統夫人薦豆執校執醴授之
執饔鄭注校豆中央直者也饔豆下附也此正象執校之形(綴
遺卷十二十八頁執豆父乙乙)

吳大澂釋手執干形見卷齋十八冊四頁父乙乙

李孝定曰从父从干不知何器審其字形下从父象柝下
鐫當為兵器既非干亦不得象豆形矣方二氏之說均不可以

961(2441)

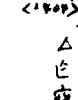
960(2440)



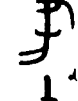
朱 父 乙 乙



朱 父 乙 乙



朱 父 乙 乙



朱 父 乙 乙

李孝定曰从父从朱疑是筆字或云从刀雖刀曰割當是古割字古
乙 乙 乙 乙 乙 乙

丁佛言曰朱疑是筆字或云从刀雖刀曰割當是古割字古
篇補補附錄三頁

高田忠周曰按姑唯一文似音義無以可徵者長然審篆形亦
自有可改焉說文朱籀刺也从手籀省聲周禮鼈人以時籍魚鼈
鼈鼈司農注謂以刺刺泥中搏取之此篆實籀字也从爪與手
同意也即象可刺之具此古文元象形後世變為形聲(古籀
篇五十五第三七頁)

962(2442)

徐中舒曰銅器又有朱字



朱 父 乙 乙



朱 父 乙 乙



朱 父 乙 乙



朱 父 乙 乙

象手象朱之形數文形尤完具小篆朱作朱即此形的筆誤說
文朱從木推半朱駁聲說朱非推半之用共為誤字甚明此諸
形釋為朱字於義甚允尤與甲胃文籍字偏旁(集刊第二本
一分一三頁朱相考)

高鴻緒曰象手推朱之形殆亦古籍字(字例二篇三一〇頁)

李孝定曰象手執朱形高氏疑籍之異構其義雖是而字形難
歛丁氏釋刺形確俱非徐氏釋朱謂篆文朱字即由此形論其
說可以高田氏釋籍望文之訓耳

963(2442)

月才

父邑
(117) △之

李孝定曰與
當像一字非从方也

964 (2443)

月才

父邑
(117) △之

李孝定曰與
不可識

965 (2444)

月才
父邑
(117) △之

李孝定曰字似从又从事不可識


966 (2445)

月才


父邑
(117) △之

李孝定曰象手執有屈曲形之長刀與甲文我字作
未審是一字否

967 (2446)



 𠂔



 𠂔

李孝定曰从又从𠂔疑是專字

963 (2447)



 𠂔



 𠂔

李孝定曰从又从𠂔字不可識

969 (2448)



 𠂔



 𠂔

方濬益曰說文商从商章省聲貝部商从貝商省聲此字作青
 當亦商之省文(綴遺卷二十九十三頁商劉)

馬叙倫曰倫按舊釋為庚字然實說文之訛字或為商省商
 蓋作器者之姓氏也才為門器此蓋業造門器者之圖語模作
 才者蓋所治者非一從才表其作也(刻詞八五頁商劉)

李孝定曰从又从刀商蓋其聲符也

970 (2449)



 𠂔



 𠂔

李孝定曰右旁所从與𠂔為一字左旁無由隸定

971 (2450)

李孝定曰當像左字

類書

安豆

李孝定曰 a 形从史从支 b 形从史从攴 雷非一字

973 (2452)

夏
(0033)
△7

參閱 0797 南字條 高鴻緝說

徐詒讓曰：𦍋，舊釋為厭，蓋以為獸字。攷說文甘部獸从甘，然肉部狀从肉，从犬，與此形並不類。今諦審疑當為𦍋字。說文𦍋部𦍋从犬，擊下也。从𦍋，𦍋聲。此从𦍋者，即𦍋形。从𦍋或作𦍋者，𦍋之變。說文曰：𦍋，青陽之象，从日，土其飾也。此文其義當為𦍋，省出為𦍋，而變从月為𦍋，从月于形義畧同。

陳邦懷曰字當假作慙說文心部云慙謹也禮記祭義云其親也慙疏謂質慙(攝政三頁下引)(彙釋 P.1001)

唐蘭曰右殷字卜辭中凡數百見。皆武丁時卜人之名。此字劉

鵲聲厭孫詒讓擇殷蘭接孫說極確惟自自皆即青字青形實

較後出謂為肖之變尚有未盡耳孫氏釋殷為殷釋肖為南則

以下辭每假青為南方故有此矛盾也故分析偏旁在古文字

研究中雖為最科學之方法有時却不免隔閡必別作歷史研

究始能完善也王褒承孫氏擇設而云即穀之古文

觀為日出之赤王氏之意不知何居羅振玉初誤以為數字

後以為不可讀王國維亦云未詳及商承祚作類編始定

此等字學者從之然此字聲義均不可知郭沫若氏因又謂此

庸一字矣。此本至確鑿而學者不從。如有取於聲義不

975(2453)

974 (2453)

明之般字者以青為四方之一般為易識而不知卜辭之青圓
當釋為青且有一部分當讀為般也南方之孫既孫映於學者
之心目青般之字不甚習見而南與青之聲又若甚遠故南本
有字無有知者矣般字以字形言之當象以受擊青發為青然
之聲以象意字聲化例求則從足青聲也卜辭用般字除卜人
名外五般殆皆讀為五般王亦般二之般似亦當讀為般(文
字記七十一至七十二頁釋青般)(集釋 71002-1 71003)

976 (2453)

唐蘭曰竊近人皆為為般余依孫詒讓釋般此云五般者當
如他辭之八青九青余若讀青般為般詳般度文字記郭沫若
曰青者釋為南子因為祭牲之事苦難解近時唐蘭始改釋為
青而讀為般今按釋青是而讀般則未為得如出于且辛八月

九青于且辛說為八般九般既不解如癸未卜帛氣(釋)當出
乙巳青犬帛氣(釋)多也乙庚羊犬(庫一六)青犬與羊犬對文則青
當是動物名更有一例曰癸九羊卯三青(庫野前)與卯羊卯牛
之例同尤足証青之必為動物由上諸證余改讀之為般說文
云小豚也癸玉裁云左傳青有先般字琰子蓋般即般字釋般
曰貌白狐其子般異物而同名也今卜辭既每以青為牲而與
羊犬同列自當是小豚而非白狐子矣(釋)考(釋)余按郭訂正
般余舊讀為優惟南須略加修正卜辭云牢生一牛出青(前一
二)是有與牛同稱云一羊一青(後上)是有與羊同稱然則有或
般乃畜子之通稱不僅小豕也莊子駢拇臧與般(注)孫子曰
般方言八爵子即及雞雞皆謂之般廣雅釋親般子也是般
聲有乳子之義(天壤文釋五十一頁)(集釋 71003-1 71004)

977 (2453)

許敬參曰(前)當釋鐘自象鐘形多所以繫之也與聲鼓同意刻
辭出土古器有鐘鐘特鐘均有自可證(存真八六頁)(集釋 71005)
于省吾曰(前)或釋般非是片羽二集上十三般非般作(前)松
補上三般作(前)按二者均係商器般从般聲般與般
迥別(前)按三七頁釋(前)(集釋 71007)

978 (2453)

李孝定曰古文(前)字畫之邪橫彎每無別(于省吾說見(前)然則(前)
之與(前)雖橫邪小異其為一字則無可疑且(前)形義變作(前)
亦為邪畫變為(前)畫或橫畫其(前)之迹因視而可識也于氏
謂此當釋(前)蓋偶有未諦耳(集釋 71008-1 71009 71010 71011)
李孝定曰(前)字當釋(前)卜辭(前)數百見為武丁時(前)人名此(前)當
即(前)大器也詳見拙編(前)甲(前)文字(前)集釋卷三第一〇〇一頁(前)

字條請參看其偏旁(前)甲(前)金文均以為(前)字亦以為(前)子
之稱(前)並假借也

979 (2453)

背

丁山釋背二字曰背從二來卜辭一作背聲云別體背者福也兄聲猶漢人言祝福矣中央三七卿其自三歸銘文考釋

丁山釋背二字曰背從二來卜辭一作背聲云別體背者福也兄聲猶漢人言祝福矣中央三七卿其自三歸銘文考釋

李孝定曰丁氏釋背二字共下一文釋彼不誤其上一文釋定作背亦可以然謂即其之別體則似有可商郭曲屈此上一兄字究當讀為祝抑即兄弟字並未可確知也

赤塚忠曰星觀之字即甲骨文之既之聲體字限前四一八〇之省聲係甲骨文中有同如祝之意之例觀字當作祝或以

之居聲字及不明之字二解然應解作聲也聲字中骨文作觀者二二八三觀後上五一三觀後六七周金文則作觀師觀師其德聲(宋伯我觀)聲字大凡與聲字心聲字關於聲字之通字法當作觀及曰

考下加又者乃以一子投根一手持條聲之便聲於下條為家更月釋觀聲一止陽聲諸報去七〇一更

以承(小卷)又从人之反文从反余以為其為來身許參實之意年即身乃身身然熱之意以參實即手研小卦而叩之之形也(漢字之起源九)

藏身聲之聲文象形二身參聲之形蓋又取收攬之意也若以改則此字正以自(身)為字素當然聲大者字聲則乃加二聲符

里者也

正此書作有反指為別重釋取一進也聲乃甲骨文卜辭之成誤又漢書紀事亦有祝聲之成誤但本館中並無抽象的祝福之意蓋乃指某種具體的祭禮者也以便引二三甲骨文例即有

貞... 乙酉卜頃貞其石中己 貞其禍度(後上八五)

庚戌卜何貞其年歲其禍度(後二五五)

己巳卜其通其年... 禍度是致五十一(後下六七)

禍度王受又 父己歲其善酒更夕酒 父己歲其夕王受又(後上五一三)

戊申卜貞王田于田... 往來亡州 此即為禍狀四其地度(前二二八三)

與通字之數祖先之祭事刻為一段恐為指下文之似字之一連串之字之意也(殷金文考釋第一〇一一頁即其前字一林澤明釋)

李孝定曰疑銀字異樣

李孝定曰从目从仰水未知與曼若取字有關否

高田忠周釋曰按从目而左文者疑為瞽字古文許氏更讀若詩據有梅文正據而其兩字同音通用可證此从曼聲與从果聲同義或云曼即曼省曼字非(古書篇四十七第七頁)

郭沫若曰金文曼聲父曼作曼若曼从目聲則曼曼之初文也或以兩手張目曼解其曼曼余目以流觀之即其義引中為引為長篇美(下通一至四頁下七二六九釋文)(集釋190)

李孝定曰按古書補補引在曼曼字作曼古林文作曼上从用若曰曼亦曰若又之形為許書遂以為從曼聲矣(為曼字亦)

可以同齊陳曼曼作曼曼上從曼不明其意曼曼父曼作曼曼其下均與曼文同(集釋九。四頁)
李孝定曰郭說應可以曼訓引郭引楚辭曼字即其義高田氏釋瞽亦有理致而於字形較遠



古文
(2458)

李孝定曰：从目，目下一文，不知何字。

988 (2458)



王季子
(2459)

高田忠周曰：按《莊子》幸下有此篆，即音字，其象麻皮形，此亦音字，古與文音亦一體，目病故或从音，下又作，此从目也。合則與，以為其形意然已從音，又從目為重複，如此者，雖言古文非體正者，與後世猶文其軌一耳。(古籀篇四十七第二)

(頁)

李孝定曰：高田氏說此為从音，又謂即音字，又謂从目，殊無理，致字不可識。

989 (2459)



前乙字
(2460)

吳式芬曰：許印林說：明上加一，疑眉字。(據古卷之一、四、十五頁明乙字)

徐同柏釋：眉目形曰：詩：國風：傳：揚眉上，廣清視，清明也。著比象者，亦詩：賓：筵：飲：酒：孔：嘉：維：其：令：儀：之意。(從古卷十四、二十三頁明乙字)

方濬益曰：按：簡：即：眉：說：文：眉：目：上：也：從：目：象：眉：之：形：上：象：頤：理：也：此：從：二：目：為：明：(為：眉：當：是：眉：之：古：文：與：器：銘：眉：壽：字：作：繁：為：籀：文：皆：正：面：象：形：小：篆：作：眉：則：側：面：形：也：(經：遺：卷：二十四、二十八頁明乙字)

990 (2460)

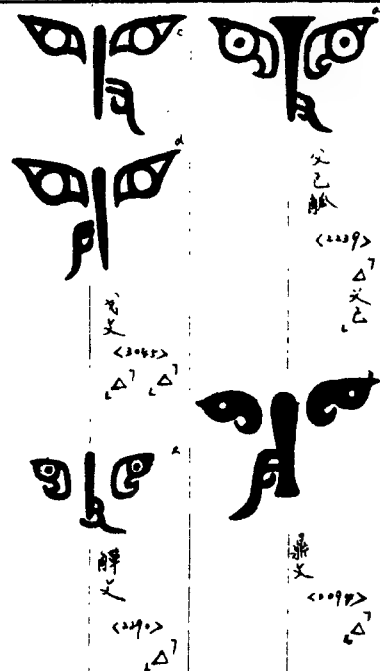
吳大澂曰：《說文》：古：眉：字：楊：詠：春：說：(象：眉：骨：形：(卷：二十一、冊：十、二頁明乙字)

劉心源曰：明从一象眉形。(奇觚卷七、三十頁明字)

馬叙倫曰：揚：折：孫：謂：一：象：眉：骨：形：倫：謂：此：說：文：之：眉：字：一：者：吳：善：遂：以：為：象：目：圍：是：也：說：文：曰：讀：若：書：卷：之：卷：則：此：即：今：抗：縣：所：謂：眼：圈：者：也：筆：作：此：文：疑：作：器：者：乃：眼：醫：故：以：此：為：圖：今：舊：式：眼：醫：猶：畫：眼：為：招：牌：刻：詞：二：六：頁：(明乙字)

李孝定曰：諸說中以釋眉較長，惟方濬益氏謂：眉壽字亦象正面形，與此同，則大誤。眉壽字之本字，象眉與壽字連文，皆假為美字耳。參閱 244 條。

991 (2460)



容庚曰此即字舊釋父二字然以父己觀之當釋一字

(續十二頁解)

薛尚功釋父曰商器以父銘者多矣瞿則未詳其為誰然瞿作兩目與商瞿祖丁兩目相似固未易以名氏攷也(歎識卷)

一第(二頁)瞿父鼎

徐同柏釋瞿父曰明即詩良士瞿之瞿毛傳瞿狀顧禮義也父即儀禮曰伯某甫之甫鄭注甫是丈夫之美儀瞿父蓋主器者字(從古卷八第(五頁)商瞿父鼎)

李孝定曰按此當即說文訓瞿目使人之瞿之古文契文作四小篆切从一目舊釋罔父合文於字形亦合然容氏謂當釋為一字其說是也

993 (2461)

992 (2461)



李孝定曰疑罔字合文



李孝定曰从睪下一大似中而非中字不可識

995 (2463)

994 (2462)

✕

魚
所
鼎
(0166)
魚
△

李孝定曰从光从又契文光亦作𠄎从光有繩倅其頸此疑與之同意求審是一字否

996 (2464)

杜子文
△杜子文
杜子文

李孝定曰字不可識與半字略近

997(2465)

李

畢文 (1995) Δ

李孝定曰「从羊从光字不可識」

998(2466)

重文
△文成 能重中

金

文庫
4706
△
文庫

b 參閱 2291 條孫詒讓說

強運關曰**中**敬父戊爵吳憲齋釋為姜字非是運開按師姜敵女歟可使**中**與此極相近**中**即又之古文也**古**篇三補卷三第十頁

999 (2467)

沙孟海曰其字從走友文(上)中作𠂔乃羊字甲文羊有作𠂔者羅振玉云象索之以索今之索其形蓋彌肖矣迷字見

於玉篇音羊進退貌然此亦後起之義史頌敦有歷殆與此同字吳大澂謂是藏之古文似無根據今按羊為善獸故引申為善祥之祥又轉為相伴之伴玉篇所謂進退貌者至是始近之矣今偏旁互通如延或作征退或作徂徒或作征返或作徂均見說文邊或作徂金鼎遺或作徂會鼎其例至夥其有添一小偏旁於大偏旁之內而不失其故聲者如過或作過遇鼎造或作過等造遇此例亦甚多若以陳繹品評法帖之法論次諸文則今之伴其為羊之孫迷其為羊之宗子而遷其為羊之別子乎中山第五冊四。八一頁據古錄釋文訂

1000 (2467)

柯昌濟曰老字从羊在人上形說文老西戌羊種也各本作从人段注从羊儿各本作从人从羊亦聲南方蠻聞从虫北方狄从

犬東方貉从豸西方老从羊此六種也案銘文老字與說文說相合或取羊種之類此蓋古代祗祗異族之說釋義三。八頁先父戊爵

吳大澂釋羊析木形姜曰姜字作羊首女字下有足形意齋二十三冊十二頁半析木形姜父戊爵

李孝定曰从老从彳當為老字異構沙氏割裂老字所从之止係之於彳說誤

1001 (2467)

古文

1002 (2468)

潘祖蔭曰張孝達說此是申字作器者名字作手顛倒對引一物狀申之籀文中畫屈曲象方引之意此象既出較小篆而手平列者義尤顯舉古一冊三四頁申自

方濬益曰說文申申神也七月陰氣成體自申東以自持也廣雅釋詁申伸也易繫辭引而伸之釋文伸本作信淮南子本經訓伸曳四時注伸曳猶押引和調之也此文正象兩手曳引伸直之形續遺卷十三頁申自

高田忠周曰按張氏軍連亦未知申之別字之理故其說亦誤卜辭有申字蓋以此亦連字愚謂此篆从受基顯一當指事此

為受字古文與上文皆同然雖本為从甲乙之乙者非是矣又按多訓振持義水曰乳也其形實振也古籀篇六十一第一九頁




羅振玉曰說文解字環大孔壁人君上除陞以相引使注未聞桂氏曰大孔壁者孔大能容手又曰漢書五行志雲門闕壁亦取孔大能容手以便開閉而於人君上除陞以環相引之說亦無徵證蓋古義之僅存於許中者也環為大孔壁可容兩人手人君上除陞防傾跌夫容故君持環且亦執環在前以牽引之必以環者臣職不敢以手親君也於文从手象手在前才象君手在後一者象環之形環形圓今作一者正視之為〇側視之則成一其環以引君上除陞故許君復援均訓引荀子性惡


1003 (2468)

1002 (2468)

篇注訓援為牽引禮記中庸注訓援為牽持之並與許書瓊法義同知古瓊援爰為一字後人加玉加手以示別其於初形初義反晦矣古爵鑲之鑲古亦作爰柔尚幣作留作𠄎毛公鼎作𠄎變一為一為形又失矣吳縣潘氏滂喜齋藏一自其文曰甲與卜辭正同蓋亦瓊字(增考中四十一頁)余釋

李孝定曰按說文爰引也从爰从于籀文以為車轅字架文正
象相爰援引之形羅氏引許書爰下說解人君上除陞以相引
以證架文攸字謂即君臣相引之象說殊迂曲蓋許君爰下所
說即古禮有之亦後世彌文之制非所以語於造字之本先哲
豈必以君臣相引而始造爰字乎字祇象二人相引之形自爰
假為語詞乃復製从手之援以代爰字援爰援並為形聲兼會


意字至爰之作據則於形已複矣金文作籀季子散金
已與小篆形近金文續文編四卷二十三頁下爰字下收作
月者數形按唐蘭氏釋曰為尋可从見前三卷尋下集釋
一四四〇至一四四一頁

李孝良曰舊釋中誤中乃古電字甲骨金文均作象電耀山折形此當釋爰羅說雖是而稍迂曲

𣎵^a

方濬益釋索刀曰此索當亦作器人名菊作刀匕形按匕為禮之缺記檀弓杜蕢曰蕢也宰夫也非刀匕是共又敢與知防是刀匕宰夫之事此或宰夫所作器乎（禮遺卷二十八頁索刀匕乙爵）

高田忠周曰按歸上乙二字並書即姓名乙也上與二字接者有此一字絕無文義可證然依篆形从刀从索自亦顯然而字書不收知古字逸文也許氏有刀部無索部始存于此云（古籀篇二十八第二二頁）

李孝定曰：髮絕，字古文說文絕。古文作，解云：象不連體絕。二絲語殊不調。按是从刀从絲之譌，以刀斷絲也。此从刀从索意。

同

1007(2469)

100112450



𠂔

𠂔

李孝定曰字不可識甲文變字有作𠂔其下所从𠂔字與此略近然諸書之實非一字也

1008 (2470)



𠂔

𠂔

李孝定曰疑古字異構

1009 (2471)



𠂔

𠂔

𠂔

𠂔

𠂔

𠂔

𠂔

吳榮光釋子辛月形曰子者紀月也辛者紀日也說詳中哉生明之形則紀日也爾清卷一第四頁商月形貞

方濬益曰皆為子執戈形从甘(經遺卷二十六二頁亞形鼎)

高田忠周曰按此不从𠂔而從𠂔者𠂔者𠂔也象折木表銳者形从𠂔象物挂之也蓋表銳者有不順曲𠂔之意故从𠂔代𠂔意自得通又古音𠂔𠂔轉通故从𠂔聲音亦同矣(古篇篇二十四第一三頁)

1010 (2472)

高田忠周曰按舊釋作子辛月三字非今審似音篇文作替者而下非曰字明是從月又𠂔為𠂔字與子自別然則此亦朔字異文無疑朔為月一日為始蘇晦為月盡也為終冥也此終而始順還不窮之謂也說文十二子文其次始子終亥云亥而生子復從一起子者始生之意也故此篆又從子會意釋名朔蘇也月死復蘇生也蘇生與生子其理一也還于始也故从𠂔與朔同又或云此篆从子从朔朔字異文與𠂔字同意子猶人也朔朔亦得通用(古篇篇二十四第一三頁)

馬叙倫曰倫謂逆字即說文之籀文𠂔彼作𠂔說解曰

一曰𠂔即奇字𠂔奇字蓋衡恒或郭顯卿所作書古文

官書亦作古文奇字晉衛恒所作隋書經籍志誤題後漢

議郎衛宏作孫詒讓有說說文重文多為呂忱所加一曰之

1011 (2472)



孝
孝
孝



孝
孝
孝

李孝定曰亦象陳樂之形惟不知當於今之何客耳

1016(2474)



孝
孝
孝



孝
孝
孝

李孝定曰从皿上一文不識未知是示字否

1017(2475)



孝
孝
孝



孝
孝
孝

比方清並曰上為手形次為皿形當是盥盥手之象也又或為洗儀禮士冠禮設洗直于東榮水在洗東注洗承盥洗者秉水器也又主人對賓盥及賓盥正纓注古文盥皆作況(經通卷五二十二頁手皿形)

高田忠周曰曰皿據古按元釋皿為手形為足形或云鼎下用火形皆非今審此瓚二字也說文瓚字解曰以拒醴鬱芬芳攸服以降神也从皿器也中象米匕所以扱之易曰不審匕也然鐘鼎古文皆作曾皿正與之合而與上文略相似即用為瓚形也瓚匕均皆吉祀之具故銘並傳也亦上从爪反形於瓚字無可證似可為別文者然依下文明以為連形



1018(2476)

字因瓚瓚字从又加與與字从又同意後世有瓚字用為養養兒義亦或與此象同說者云瓚是瓚字異文未必然矣(古籀篇七第四頁)





馬叙倫曰曰皿倫按舊釋手形舉足跡形吳式芬引許印林說足跡形未確吳縣曹代爵釋古文主鼎下用火是也孫詒讓以朱筆規於主字之旁蓋取此釋也倫謂此是說文之爪字曰是說文之皿字亦即說文之皿字無足耳皿止象中陷而可容物之器有足無足非刻定也亦決非足迹形然亦非主字主為自之後起字說見庚初文圖畫已然之燭所為火形有如是者燭則不得為曲而上細下火形也故倫以為火之異文置火於器下而手在器上作拒物狀亦有事於昌銑之意也豈

1019(2477)

亦業發者所為器(新詞三)

楊樹連曰：甲文有器字，作見業王森錄雲藏龜拾遺十三葉作見殷虛書契前錄六十一今辭二銘第一字形與甲文同，其為器字明矣。(續徵二四九頁) 器與鼎

吳式芬釋手形器形見錄古一之二第二十六頁手形爵

李孝定曰：此器字，楊樹連氏之說至確，與必當為一字。高田氏釋不知所據，此下有形，當另是一字。舊釋足跡形或鼎下大並非高田氏釋，蓋以上一字為遂連類及之也。

1020 (2476)






癸







癸

癸

方濬益釋子執杵杵形曰：說文杵杵杵也，曰杵也。古者掘地為田，其後穿木石象形，世本云：雍父作杵杵，宋衷注：雍父黃帝臣也。呂氏春秋云：赤冀作杵，白桓譚新論云：伏羲作杵，曰三說不同。按黃帝內傳以為帝斬蚩尤，因作杵，曰斷木作杵，掘地為田，以火堅之，使民春粟與宋衷注合。此文正象人持杵春粟之形，與形相似，蓋穿木石為之者。(綴遺卷十七頁) 癸杵杵也。高田忠周曰：此一字音義無可徵者，然考篆形，从而人持物，視其中其象可考也。篆字字古文，此即監人頤而下視器血之中也。又以即執持之意，古文多此例也。(古籀篇五十四第一九頁)

1021 (2477)




「」圖四十二按應作圖四十三所表示的圖形現在只有兩處








地方還保存着，這都是商朝或殷朝的舊稿，的字是藝術最端。第十卷第二十八頁在緋為殷文存一書裏面，據我所知，在高田忠周的古籀編出世之前，從來沒有認牠等於現世的什麼字，或甚至於有所注釋。高田忠周以為牠就是現在的「」字，他說：第五十四頁第十九頁，其聲與義已不能有確實的證明，不過仔細考察這個圖形，就曉得牠含有並有一人手持一樣東西，並且注視牠，可疑的是那東西還是隨後他又說：人頤而下視器血之中也，又以即執持之意。

我承認我還沒有十分明白這位日本學者的意思，一個正在注視下面一個器皿的人為什麼要手持什麼東西實在還要問他下視的到底是什麼東西。據我想起來，還有一種更易解

1022 (2477)

釋的說法是這樣：一個人的輪廓俯伏在一個臉盆上面，從他那個畫得很粗率的頭上垂下一把頭髮，並且他扭着這把頭髮，或是要浸到臉盆裏去，或是要拿出來絞牠，乾燥着，那畫着的態度似乎是很像的。(中山第六冊四九三至四九三九頁) 中國古文字裡所見的人形

柯昌濟曰：即古字，又見甲骨文，象人食傍形，取物盈滿於血，血也。篆文即从此字，遂變者華二九四頁癸盈卣。

李孝定曰：字象一人俯首就之形，與契文飲字作者相類。惟飲字側口下垂者為形，而此作為異。疑象一人俯首以管狀物就中吸取之形，惟不知當於今之何字耳。柯氏釋僅一字可據，餘無絲毫相類。方氏謂象人持杵春粟之形。

1023 (2477)

姑母論古文自有口字作^口何以从皿且持杵而舂何以从側
口形且杵形何以須與側口形相連凡此均不可解高田氏釋
擊以偏旁分析法求之最有理致然於口下下垂一劃未加說明
而此劃在此字中最關重要因知釋擊亦未合也L. C. Hoops氏謂
象就皿覆髮之形古文中象毛髮者多恍曲如^𠂔之^𠂔即象
束髮之形即^𠂔字从無以垂直粗畫象髮形者且髮形亦不
當與^口字相屬其說之誤昭然也

1024 (2477)

李孝定曰當是^𠂔二字合文旅字古金文皆从二人或四人
此但從一人古文偏旁多寡固不拘然一人無以會^𠂔意故知
非旅字也高田氏釋^𠂔不知何義

1026 (2478)

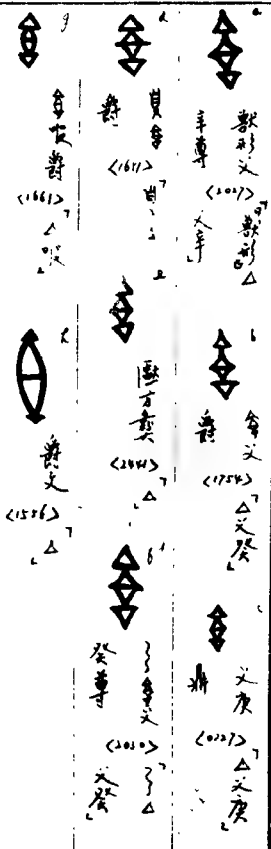
李孝定曰此字从水从皿可辨^𠂔不可識^𠂔似^𠂔本字惟其从
中在金文中皆玉形之^𠂔則此非^𠂔本字全文不可識

1027 (2479)



1025 (2478)

高田忠周曰按旅者古通用字又古文^𠂔皿通用^𠂔字或从皿
可證矣即知此亦意異^𠂔周禮世婦掌祭祀賓客廢紀之事^𠂔
女宮而濯漚為^𠂔及祭之日^𠂔陳女宮之具然則^𠂔亦婦
之類^𠂔(古^𠂔篇七十六第一八頁)
劉心源釋旅^𠂔二字曰^𠂔古^𠂔器也^𠂔金^𠂔卷一第二十頁婦^𠂔



上方潘益曰：多疑故之古文，故之音同對爾雅釋詁對會也。會合也。故之蓋儀禮謂之會，正取會合之證。此與會字同形，故疑為故之古文。（綴遺卷十七、二十四頁，歷父辛尊）

上方潘益曰：鮮氏款識有爵銘文，與此同釋為車。其說曰：先王之時，凡誥戒于酒，無所不致其嚴。爵銘車者，以示其覆車之戒。

耳（綴遺卷十九、五頁，車爵）

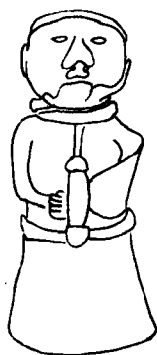
吳大澂曰：各疑古字之異文。作父辛尊，古鑑補附錄十九頁。

高田忠周曰：舊釋作車，蓋尹格自有鈐字左旁，即此字也。劉心源云：鈐為號字，愚謂現字。現古場字，金文揚字往往以之。然則此篆玉字古文尤顯然者也。其合即下文之各，即上文之——者，單系。者，雙系，實同意也。然上△是衡，下▽是璜，中◇與中一即衡牙之意也。後人從簡，以三為之，殆指事而實亦假借也。（古鑑篇七第一至二頁）

馬叙倫曰：倫按舊釋車字非也。此或亦高之異文。然子劍首之劍所從之劍實即說文孝之重文，作恭者之初文，兩手同械也。

劍為兩手同械，其義必為有羣者。故甲文劍字從之，劍即說文之報也。甲文有劍，即說文之圍字。金文之劍蓋為劍之異文。以此相證，劍為桎梏之初文也。清代手楷及今楷中所用之手械，猶似此形也。（刻詞十一頁，自爵）

馬叙倫曰：各為說文之昌器，刻著此文者，或言以此烹調，或為業烹調者之圖語。如今之飯館或為作器者之姓氏，其光蓋始制烹調者也。（刻詞一二七頁，父辛尊）



天从木告聲，殷虛出土匍匐有作左揭形者。

象人械其兩手，多為正面形，其側面當作88，中有二孔，以容兩手。上下用繩束之，上繩繫於頸，下繩繫於腰，字形與實物恰如形影相應。（釋錄一五四頁至一五五頁，楷）

劉心源釋高見奇觚卷七第七頁，高爵。

李孝定曰：劉心源氏釋高方氏釋車，又釋故。吳大澂氏亦疑高之異文，均大誤。朱芳圃氏引王襄萊玉森二氏之說，而以王說

為非實則二說並是王氏釋其字葉氏但說其意王說實尤確也高田氏釋王大謬馬氏釋拳其義近而其字則非字當釋拳確無可易執圍報翰畢盤諸字均以此為備旁可證予舊有說見甲書文字集釋十卷₂₂₉至₂₃₀頁牽字條下請參看契文牽字與此全同。

1032 (2480)

阮元曰：『案說文篆文善字从言作善，此从竹从言从艸省也。據古遺文言字作𣎵，與此略同。善，膳之省。』（《積古卷二十二》）

1033(2481)

上之頂作𠂔形者是也。積古齋所錄王氏款識之商飲文作𠂔，釋為飲，以為器名。其上與此同意，亦象卣蓋之頂，卽卣字之古文。釋飲亦非。（綴遺卷二十一，五頁，散形又戊寅）

李孝定曰：「阮擇善方釋敦，並難徵信。从𠂔，予前於𠂔字从舊說，釋眉，此亦从𠂔。未知是眉字否。从牽合之不可識。」

上之頂作𠂔形者是也。積古齋所錄王氏款識之商飲文作𠂔，釋為飲，以為器名。其上與此同意，亦象卣蓋之頂，卽卣字之古文。釋飲亦非。（綴遺卷二十一，五頁，散形又戊寅）

李孝定曰：「阮擇善方釋敦，並難徵信。从𠂔，予前於𠂔字从舊說，釋眉，此亦从𠂔。未知是眉字否。从牽合之不可識。」

朱芳圃曰：「上揭奇字，从口，从口，口象首形，華黃諸字皆从比作，是其證也。」當為枷之初文。隋書刑法志：「凡死罪，枷而掌，流罪，枷而桎，徒罪，枷鞭罪，桎桎枷鎖械也。」漢書司馬遷傳：「關三木，顏注：三木在頸及手足，此即三木之一。」李紱為錯，漢書高帝紀：「下郎中田叔、孟舒等十人自髡，錯為王家奴。」顏注：錯以鐵束頸也。《釋名》：「之，之重枷。」

1035(2482)

1034(2481)

製會意字之輔而必取口為偏旁乎字當存疑

周法高曰如李說从口从李說文有執言字从言執聲朱履聲謂字又作噪作噤作𠵽說文通訓定聲从李與从執同从口與从言同

1036(2482)

𠵽

李孝定曰从支从李从人而由臂內句字不可識

周法高曰此𠵽字與執同長大配士與其執事則𠵽注執或為𠵽參說文通訓定聲第三部六十四頁

1038(2484)

𠵽

李孝定曰从李从𠵽字不可識

1037(2483)

𠵽

𠵽

李孝定曰从支从李不可識契文亦有此字或為地名或為人各亦有作動詞用者周法高曰此執字也从支與从凡義近

1039(2485)



弄文

(4531)



弄文

(2287)




弄文

(1191)

弄文

(1191)

吳大澂曰：《說文》：弄，弄弄也。《古書補附錄》二十一頁。

高田忠周曰：按元釋為弄字妄甚矣。今審多即玉字。《說文》：玉，珎也。古文作。可證。然此从玉，正是弄字也。《說文》：弄，玩也。从手持玉。此篆形實是也。《詩》：斯干載弄之璋。左傳：九年傳：夷吾弱，不好弄。注：戲也。此為字本義也。玉是貴重之物，故以為珍玩物象之意。亦段借之一端耳。《古書補附錄》五十七第二一頁。

1040 (2486)

朱若園曰：上獨奇字，从手，从𠂔，𠂔為弄之初文。《說文》：手，部。弄，从手同械也。从手从共，共亦聲。同禮。上事格。弄而怪。弄，或从木。按多象其體。《說文》：其用，自為械。其兩手之刑，是。因之用，多以械兩手為象。占讀見。《說文》：屋東對門。《釋文》：一五九。自借。吳大澂曰：《說文》：弄，古弄字，即弄之省文。《說文》：二十二冊，二十二頁甲部。

1041 (2486)

李孝定曰：从𠂔，从奉。朱氏釋弄，謂兩手同械之象。其說字意是已。而於字形，難可徵信。考古文事類相近之字，備旁中，每得通用。凡以義類相近，故或作𠂔，以此例之，則此殆執之異構。與文亦有此字。其辭例多與執同。如契文每言執，冠其字亦作𠂔。可證也。詳見高邦彥《說文解字》三六頁。按執二字，徐下請參看高四氏釋弄大誤。



弄文

(1191)

弄文

弄文

弄文

李孝定曰：从二奉，从𠂔，𠂔不知何字。



弄文

(1191)

弄文

李孝定曰：从二奉，與从奉同。从葡萄為履之古文，字當隸定作𠂔，不可識。

1043 (2488)



弄文

(1191)

弄文

弄文

弄文

1042 (2487)

日

六書蓋
△父字

方濬益曰：車亦兩亭相對之形也。篆文中从回象城車之重車鼎从田則象城中街衢四達之形。此古文更省。綴遺卷六十五頁車父辛敬。

李孝定曰：方氏隸定作車可。从謂是車之古文待考。

1044(2489)

女

女
△父字
△父字

方濬益曰：釋諸亦非說文皆別事詞也。从白米聲。米古文旅字。此果从木非米。當是巢字之古文。說文部首鳥在木上曰巢。从木象形。按品部巢下云鳥羣鳴也。从品在木上蓋鳥鳴必在木杪。品則象鳥之羣鳴而為巢。巢則必在兩枝之間。象文尚無。為鳥棲於巢上之形。古文尚簡。但以二畫識其處望而知為鳥巢而已。莊子讓王篇堯讓天下與許由。許由不受。又讓於子州支父。而亦不受。王元美氏謂支父疑即巢父。按支枝古今字。豈以支為巢之所在。故二字可通用歟。書序巢伯來朝。尚伯作旅。巢命鄭注。巢伯殷之諸侯。國語。巢。奔南。巢。韋注。南。巢。揚州。地。巢。伯之國也。漢書地理志。居巢縣。屬廬江郡。綴遺卷十七。

1045(2490)

二十一頁女巢婦尊

吳大澂釋諸見憲齋十三冊十五頁。母。余。諸。婦。方。尊。

李孝定曰：方氏釋巢。雖若言之成理。然究於形難徵。就字形言。似仍以吳說為長。說文以米為古文旅。蓋言其音近。故字無作米之理。

1046(2490)

工

工
△父字
△父字
△父字
△父字

參閱 0591 工字條。吳其昌說。

李孝定曰：从又持戍旁。一畫不知何義。

周法高曰：0591 條第一形。吳其昌以為斧柯之類。琢木形。並釋左旁一畫為工字。

1047(2491)



參 參
<1297> 參
參

參閱 0591 工字條吳其昌說

李孝定曰：「从戌，从禾，象伐木之形，前一文疑與此同義。」

1048 (2492)



李
<0419> 李



李
<0419> 李

李孝定曰：「从木，右一文似刀，然與刀字微異，當為斤之初文，金文斤作斤，應即「」之省變，然則此「」折字也。」

1049 (2493)



李
<1297> 李

李孝定曰：「疑芽之古文，契文作「」，與此略同。」

1050 (2494)



李
<1297> 李

李孝定曰：「从「」，疑具字，不可識。」

1051 (2495)

李孝定曰从凡另偏旁畫象器物之形字不可識

李孝定曰从凡另偏旁畫象器物之形字不可識

1052 (2496)

李孝定曰當為旂二字合文

李孝定曰當為旂二字合文

1053 (2497)

李孝定曰从从从自从永當隸定作旂

李孝定曰从从从自从永當隸定作旂

1054 (2498)

李孝定曰从未从草不似為索之異文

李孝定曰从未从草不似為索之異文

1055 (2499)





女南才真
(201)
女△東帝女△
女△東帝女△





237
 237
 237



1695

^{a.c} 吳榮光釋室曰「主藏於宗廟謂之室」錫清卷二第二十三頁周

高田忠周曰按吳榮光題母主尊云此每室諸婦者主藏於宗廟謂之室此諸婦爲母作主而制器祭之何其說之迂哉且形與室字不合愚謂中多主皆象禾艸葉狀穠字从艸可證也禾字象形作或作皆亦同意也但此中多主諸形用爲七字七訓艸葉也似與總上貫一下有根象形一者地也此篆末唯一字从一他皆省一故無七似異而實相同耳然則此諸篆

1046(2500)


為宅字不容疑矣。又按銘元作𡩺𡩺。𡩺即旅字與者通。此左轉讀為者。女即諸字也。下帝宅亦左讀。宅者居也。帝者壻也。諸女壻除居室。文義可見。此銘雖短。自為文章也。古篇篇七十一第一

周名燁疑是古害字中作刀形中南諸婦即毋害諸婦
名燁案以上二文吳子釋為害字甚是詳見吳氏金文名象
疏證兵器篇丁氏疑為害字非也古篇考卷中二一頁

a-c 方濟益曰似宰之古文(綴遺卷十七第二十頁女象婦尊)

李蒼定曰方氏釋寧此下从卩與辛字絕殊說不可从吳榮光
氏釋寧此下亦非主字周名輝氏初疑害字似引丁佛言古


1057 (2500)

補補說繼又以吳其昌氏釋字為是不知其意何居按釋害字為近之下从丰若丰與小篆丰字近从山丰聲金文小篆增口亦為文字繁變通例惟此字在本銘書為人名周氏讀害為母害是以害字為動詞似有可商高田氏釋此為宅按宅字从毛篆作子其義雖與丰字略近而其形有別此下所从明是丰非毛也高田氏於女宰方彝銘文迴環讀之而謂自為文章說實大誤甲骨文諸鼎字類皆假為婦從無用為莫除之義者且鼎字許訓羹亦屬誤解蓋以鼎字篆形為又持巾而婦口內而鼎字古文作實象王鼎之形其卣束之可為鼎故其器即以鼎字名之耳

按小篆丰字見說文卷四下讀若介

1058 (2500)

॥ श्री ॥

高田忠周曰金文廟字所从即人執殤何廟之象即殤象形上作即以象有殤也古篇篇七第一一頁

方璿益釋山下子持扑形見綴遺卷十第二十九頁持扑祖戊

李孝定曰：从山下象人執器形。高田氏說字義近之，而釋為廟字，則亦無據。蓋執字古文作，象藝木之形，與此所从絕異也。

1059 (2501)

॥ श्री ॥

方氏謂山下子持外形亦無據



家

家

家



家

家

家

參閱 0111 字條馬叙倫說

參閱 0111 字條唐蘭說

1061(2502)

1060(2501)



家

家

家



家

家

家

家

家

家

家

家

家

家

家

家

家

家

家

家

李孝定曰从山从才从火分明可辨另一偏旁作才不知何字
 解象人在屋下偃卧之形當是才字繁文从火从才則不可解



家

家

家

家

家

家

家

家

家

家

家

家

家

家

家

家

家

方澤益曰此山下中為人坐形前為手形後為半月形左偏帚

為婦之渚文口則篋之象形也按禮記內則男女非祭非喪不
 相授器其相授則女受以篋其無篋則皆坐奠之而后取之又
 儀禮特牲饋食禮主婦洗爵于房酌亞獻尸尸拜受主婦北面
 拜送少牢饋食禮有司贊者取爵于篋以升授主婦贊者于房
 尸婦贊者受以授主婦主婦洗于房中出酌入尸西面拜獻尸
 尸拜受主婦主人之北西面拜送爵尸祭酒卒爵主婦拜祝受
 尸爵尸答拜易爵洗酌授尸此子或是尸形為主婦洗酌獻尸
 尸受爵之節文故為手及篋形以象之或謂口為盛水洗爵之
 器說亦近半月形不審何義(綴遺卷十一三頁至四頁子婦父辛

1063(2504)

1062(2503)

包)

李孝定曰此字金文編所摹有脫落原文於山丁吊丁四字之外另有形日形二偏旁(山)與甲文(山)字同甲文居象多釋賓帛下一字當釋丁為婦名以賓婦丁讀之於文義亦順通惟另二偏旁不可識仍以存疑為是清儒解金文者多喜采後世禮文牽附為說殊覺迂曲姑無論禮文之真偽不可知即此類金文製作之時期當早於後世禮文累數百千年於後世之繁文縟節安能預見及之手

1064 (2504)



非之

唐蘭釋義奸二字

<1176>
△

李孝定曰从山从義下一文唐先生釋為奸似亦可从从山似無義可說疑與从亞同為紋飾姑貢所疑以俟博雅

1065 (2505)



文子解
(2596)
9 4 文子

高田忠周曰按古文窬字作俞此今即其省也說文窬穿木戶也从穴俞聲三蒼門邊小窬也轉為說文一曰空中也段借為踰論語其猶穿窬之盜也與是也銘云窬窬文簡而其義未詳或謂門窬窬聞之義乎不如不為強解矣又朱氏駿聲云一切經音義引說文門窬穿木戶也三蒼門邊小窬也左傳華門圭窬以窬為之字亦作窬(古籍篇七十二第三七頁)柯昌濟曰字从穴从今今即古俞字殷契掄字作𠂔可證此字當从穴从俞為窬字說文窬穿木戶也从穴俞聲一曰空中也(釋華三一五頁窬父辛解)

1066 (2506)

方濬益釋罕見綴遺卷二十三第二十一頁罕父辛解

李孝定曰穴下一文高田氏柯氏並以為俞之省文待考

1067 (2506)

公實尊矣

頁界龍尊)

柯昌濟曰

也此字之一

之說尤謬

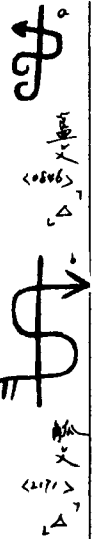
善
之
(014)
△⁷ △⁷

十八頁尋數)

正局(古論篇六十四第一八頁)

得待考其另

周法高曰左



方濬益曰：藝器文叔通作叔，為叔豆之象形。說詳前卷叔解。銘釋此文作弟，下从又為小篆所本。說文叔拾也从又，示聲。或从寸，汝南名收，茅為叔許君此解。蓋本詩七月九月叔直，毛傳文也。本誼為拾而可段，借為伯叔字者，古叔叔一字，本又作示公。羊定公元年傳：異大夫矣也。注：叔者，少類為緣，強又古微書引春秋說題辭：叔者，屬也。春生秋熟，理通體屬也。白虎通姓名篇：叔者，少也。爾雅：釋親父之弟，弟後生為叔。父之弟妻為叔母。又夫之弟為叔，皆以少為誼。且皆親屬。與春秋說題辭並合。叔少又雙聲，字少之為言小也。儀禮親禮同姓小邦則曰叔父，異姓小邦則曰叔舅，是也。蓋叔之為字與少字形近，當由少字。

孳乳而出而少字則出於小，又與弟字形誼近。故叔之本誼為拾弟之本誼為束，章之次弟而皆得段借為少小字也。（經通卷十六，二十六頁叔解）

方濬益釋中為叔曰：叔為藝器銘習見字，皆古文象形篆文作示。說文云：豆也。象示豆生之形也。按許君此語乃古訓與古文事字正合。當是史籀大篆十五篇之辭，以說示字，殊不見象形之意。經典通作叔，又作叔詩，未叔箋云：叔大也。齊民要術引楊泉物理論：叔者，象豆之總名。蓋豆之為物，其類不一，然蔓生者為多。故楚辭曰：菰蔹兮蔓衍是也。此文正象其蔓衍有所攀附之狀。其端三角象豆實是為豆生之形。故說文云：然說文無叔字，又與叔異義。藝器文只作弟，引仲為伯仲叔季之稱。詳七月烹葵及叔釋文叔本作

叔生民藝之，莊叔禮記禮弓：喉叔飲水，釋文皆曰叔，或作叔管子。城郭北伐山，戎出冬意與戎叔布之天下，房注戎叔胡豆據此知叔為後世俗字，以叔解銘證之，則叔又示之孳乳而生者，說立詳叔解。

高田忠周曰：按劉心源代釋叔非，此不从又，斷非叔字，而最古亦字，象形也。蓋下曰示之少也。从艸，露聲。廣雅：豆角謂之莢，其葉謂之藿。詩：白駒食我場藿，傳：藿苗也。此篆作示，即藿形也。以象嫩葉，S以象未蔓，以象根。其所依之桂也。未初主于食葉，故字象藿。示字已象藿，故藿字為形聲，以相避。示字先出，藿字後出，明白矣。但豆有蔓生者，又有莢生者，蔓生者，此篆形是也。又其下曰豆莢也，从艸其聲，其莢生者，亦篆形是也。亦亦象其少之形，亦當食其萌牙也。吾邦與羽俗，有此事也。但莢生

者蔓生者，其莢實皆相類，故總傳此謂未豆也。若論字形，象莢生者為古，象莢生者為今。此篆與卜辭相合，又卜辭有字無休，可證矣。又如害未教，井未鐘，未丁鐘，亦單鼎，亦中甬，說叔專聲，中姜，歸上文象藿，相以錄形，而無柱形也。（古籀篇八十三）

二二頁

徐中舒曰：籀文及帛父丰餘兩形字已形之末，作三歧或兩歧形，尤無繩形相似。說文微一曰：三糾繩也。易係用徽，繩劉表曰：三股曰微，兩股曰繩。御覽引通俗文云：合繩曰糾。此三歧兩歧，即繩三合或兩合之形。案刊第四本四分四一九頁弋射與弩之溯原及關於此類名物之考釋。

吳式芬釋叔見據古一之一第十六頁叔觚奇觚卷六第二十
四頁叔觚同

李孝定曰方氏釋叔是也而其說則殊誤此乃弔字與赤豆之義無涉伯叔字古用弔今用叔均假借也

仲
東
專
<2.71>
△

吳榮光曰按康說文解字云胡感切木垂花實从弓木聲弓讀
右合上聲草木之華未發幽然象形也（筠清卷一第一頁商仲
東亭）


吳大澂曰金匱吳中丞釋作束為小篆榮字異文仲束尊古鑑
補附錄三十一頁

參閱 1099 弔字條吳其昌說

李孝定曰：「非木之亦非弓，吳說未可從。」

1075 (2509)





書元
發自
△元發自專
△元發自專

[illegible]

良
五
新 学

(192) 丁 父
 月
 解 父
 (182) 父
 父
 月
 解 父
 (133) 父
 父

解 义
<1331>
西 义

劉心源曰：服阮元釋父每二字案說文服从舟及聲。此从尸即及（奇觚卷七，三二頁，月癸聲）。

高田忠周曰按从舟从父甚顯而字書不收古逸文也(古韻鑑)

柯昌濟曰搬字从手並移舟形愚謂搬即搬之古字今人謂移曰搬宋時亦有轉搬倉之名此語甚古搬疑紀古代移徙之事或人名錄華九〇頁搬父丁鼎

馬叙倫曰：倫謂凡為說文之ㄗ字，ㄗ受一字，今字作打，凡工謂刺舟也。說文般之古文作般，甲文亦作般，蓋般即凡工之合文也。作此器者，蓋以刺舟為業，所謂榜人也。（刻詞五四頁父丁鼎）

吳大澂釋韋舟二字見憲齋十九冊十頁韋舟凡癸酉

李孝定曰：从舟从疋。字作文，文，古文，文，偏旁得通。柯馬二氏釋舩是也。徐說並誤。契文此字从月，凡从文為般字，正體惟月舟二字。古文極

1077(2511)

臣辰
冊△
乙丑
實授△

楊樹達曰吳闡生文錄肆卷于思泊文選下卷並釋為先貞松堂續編中卷廿五載臣辰面銘文與臣辰氏釋者為先余謂此乃子字非先亦非光三氏皆誤釋也按臣辰器出土甚多如祝羅氏此書言之續編中卷廿五載別一盂文云父癸臣辰者
宋卷廿五載二器文云臣辰冊冊者字與盂面二銘同補遺上卷載一鼎文云父乙臣辰者拾卷拾捌載一爵文云父乙臣辰者續編上卷拾陸載二爵文云臣辰冊冊者父癸補遺上卷拾陸載一尊文云小臣辰父辛按甲文子字有免京出諸形
臣辰鼎爵鼓尊四銘文與甲文大同其為子字甚明盂面盂四器則與鼎爵鼓尊之作輪廓者填寶書之耳仍子字也(續微一)

1083(2514)

八一頁臣辰盂再跋)

楊樹達曰貞松堂集古遺文肆卷下載父乙乙葬銘文云父乙乙羅振玉於片字無釋劉體智小校經閣金文萃卷九頁亦載此器釋為光余謂甲文字字作兄前編重作兄後編下銘文字字與彼形同乃子字子與父為對文也羅氏頗習甲文乃於此字不能識可謂不能心知其意矣同書卷式廿六載父辛方鼎銘文云父辛辛冊羅氏於字無釋余謂此亦子字也下从与與从夕者同也(續微二三七至二三八頁子父乙葬跋)

1084(2514)

容庚釋父乙爵為先見善圖一五六考釋四一頁父乙臣辰先爵

魯實先曰案說文并之本字作免改之金文則有父乙乙鼎三二卷十父乙乙解三代十四父辛辛冊鼎三代二卷卅父癸癸三代六卷卅父乙乙葬父乙乙葬三代六卷卅凡此俱象并冕之形與重之作望望者同體中是皆免字初文亦并方或并氏所作之器(新詮之二載東海學報三卷一期(集釋244))

李孝定曰舊釋先特商楊氏釋子考甲文子或作兒上象髮之短畫皆長短參差劃數亦不等而此上三畫則極規律楊氏釋子蓋偶未察耳魯氏釋免并之於形極近其說可於子初疑免之異構今諦審之當以魯說為長免免古蓋同實異名也
白川靜曰關於銘末之圖象款識郭氏云
臣辰是作器者名其族徽或范押臣辰之器出土時

1085(2514)

有三十餘事今已見者錄者已在十器左右均有臣辰等字樣與此盂同銘者有尊卣各一具集古遺文著錄二爵銘為父乙臣辰凡與此為父癸亦器者不同蓋臣辰之諸父

即以臣辰為作器者之名者也然金文中似無以圖象標識以表示其名字之例郭氏在銘釋中云臣辰疑即史賈之名因賈乃十二辰之一以器為史賈之作器臣辰與史賈有名字相應之例云名字相關乃王念孫就春秋時期之人名及字之關係而立論者自其著春秋名字解詁以來金文之研究者亦好用其法以解釋西周之人名然事實上在西周前期實難有適合其例者況且如圖象文字者因其族人皆可用者也而求其與名字之對應關係實為無理之說

1086(2514)

凡文獻文選中釋為光其松續小按則釋光據敘居則以為即
 子字云以為與卜文甲子之子字相同故謂羅氏號治甲文乃
 不能據甲文以議此字何也不過甲文之子字乃正面形是否
 可作為同字實為疑問陳氏謂與微字相類似然亦實不相同
 字之上部與皇之上部相近暫且訓為光不過此一標識之器
 甚多其形狀亦各異有不同(金文通釋第七輯三四七—三四
 八頁三。臣長白林潔明譯)

光

發蓋

李孝定曰疑光字

光

父已尊

吳大澂曰疑古光字光父已尊(古補附錄十九頁)

丁山曰光進也從二先贊從此開

貝部贊見也從貝從光光字經傳鮮見惟父已尊有光形吳大
 澂疑古光字象二人交拜形當即贊見之本字士相見禮某
 也願見無由達某子以命命某見主人固辭不得出迎于門外
 再拜賓答再拜主人揖入門右賓奉摯入門左主人再拜受賓
 再拜奉贊出凡相見者必交拜形之謂二人交拜作足矣
 人上從丫是何取義曰象管符釋名釋首飾管建也所以建冠
 于髮也又枝也因形名之也據諸書禮因枝名管管之形本岐

出知人上之丫象管符形符者所以總髮亦以固冠詳求古錄
 士冠禮皮弁并爵弁并人上特著管者明其玄冠朝服緇帶

素釋其飾甚盛其事甚敬矣自後世變管冠之人為光交拜之
 義失不得不以貝為摯與管相見者之禮故曰光即贊見之
 本字從貝之贊光之後起字也凡經傳習用之贊佐贊引字古
 文亦但作光鈕樹王王筠等謂贊從光當兼聲桂馥專以進訓
 贊皆所謂一隅之見也(聞義三六頁至三七頁)

吳大澂釋光見卷齋十三冊二十頁光父已尊

李孝定曰吳氏釋光丁氏更謂即贊見之本字說應可以此為
 光則二五二四一文之是
 否為光又容有可商矣

氏釋塾說固似有據然塾字爾雅釋宮訓為門側之堂似與器銘所紀無甚關係愚目為不若釋為廟字古文之為愈也交尊朝王之朝作𡇗左亦作𡇗形與劉氏所引諸器𡇗字左方正復相似可證此字殆最古之朝字从人執食形者疑古代朝觀之事以食物相饗也其後段潮字為朝觀字即交尊字也从月即潮水誼而古誼失矣若再其後之頌鼎等器之朝皆作朝又倣朝暮朝字从車日在車中即朝是去古字誼訓愈遠矣从广从朝即廟字始紀受命于廟之誼韓華六玉真窺鼎

^a馬叙倫曰𡇗決非廟字倫以其從𡇗從人即說文之广為庵之初文亦今房屋以軒名者之本字詳疏說文之家為亞之轉注字而毛公鼎作𡇗祖己解之口為亞之異文子爵𡇗字所從之口亦亞字說文寓或作廌而𡇗為械人兩手則𡇗與說文之

1095 (2518)

圖是一字(刻詞五一頁圖五)

吳式芬釋廟見據古一之二第三十二頁子廟自

吳大澂釋廟見容齋十九冊二十頁圖五

李孝定曰舊釋廟柯氏从之大誤柯氏列舉廟字通壇之迹而不知此非从朝殊可怪也方氏釋𡇗於字形甚合古文偏旁广得通也惟謂家屋下有人坐而執器之形則誤馬氏謂與團是一字其說可商竊許訓屋頌下並後起之誼其期誼當與團字相同然遂謂同是一字則亦無據也高田氏謂即藝字亦殊疏誤藝古作𡇗乃樹藝本字此則象人械兩手安得為同字

1096 (2518)

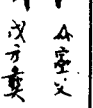
手林氏以為𡇗字亦誤𡇗从𡇗得聲𡇗即今𡇗字古作𡇗與此絕異

1097 (2518)

方濬益釋廟土午三字曰廟與𡇗同(綴連卷二十二第九頁子廟父辛爵)

李孝定曰字不可識

1098 (2519)



三
五

（集釋 P.156）

李孝定曰按說文竹冬生艸也象形下垂者箬簞也又絲毛絲
絲也象形金文竹字偏旁作竹竹竹諸形絲則作絲南強
師襄人絲絲不庚蓋契文众字與金文竹字偏旁全同惟契文
象二枝相連金文分別為二為異耳絲字金文均从木从重人

貌毛拜之形與果文此字不類竹枝皆對出契文作𣎵為原
始象形字金文分別為二側當晚出蓋象形字文字化之自然
過程也葉氏釋此為竹是也(葉釋一五六七至一五六八頁)

李孝定曰葉氏擇竹可從

北洞文物發掘小組曰：此字常見于卜辭，入十二編四八侯京津二、丁卯婦一四、寧氏二、夕岳征典、八為四三、侯所在地名，亦為氏族名。婦、寧為八族之女。（考古一九七四年六期三六八頁）遼寧喀左縣北洞村出土的殷周青銅器。

又曰：此妻寧與卜辭所記婦、寧當為一人，為八族之女。這條卜辭記載了八族之女活動的地方，在殷都以北與土方相鄰的

地方

卜辭又記四日庚申亦有來雉自北子晉告曰昔甲辰方征于
牧傳人十又五人五日戊申方亦征傳人十又六人六月在口
殷墟書契
菁華五

郭沫若同志根據以上兩條卜辭的記載推論婦妣所在的地在安陽以北千里而遠。卜辭通纂四喀左縣在安陽正北方何一千餘里。這同卜辭所記八族活動的方位和郭沫若同志推論的距離是大體吻合的。唐蘭同志認為北洞一號坑商代銅器的發現从實物上証明喀左一帶是商孤竹國的範圍。河南鄭州出土的商代前期青銅器談八有釋為竹的。卜辭通纂起文物一九七三年三期十一頁另有釋為竹的。二五三如所釋可信就从銘文上進一步証實了這一說法。考古一九七四年六期三七〇頁遼寧喀左縣北洞村出土的殷周青銅器

晏琬曰：「這個坑的二號壘銘文非常重要，其第三四字曾見于幾件晚商銅器，博古一、一六方鼎，懷未上九方壘，鄭中初上二卣前一字（圖三）从子从臼上左从瓜得聲，應隸定為「𠂔」，七春秋時期銅鼎銘有「𠂔」應即孤𠂔說文瓜字象形，徐鍇說：「外象其蔓，中象其實。」銘文「𠂔」字等形，正是如此。古壘文字徵戰國私印令孤佗、孤字偏旁本作「𠂔」，戰國前期器令孤君、嗣子壘、瓜字作「𠂔」，互相參照，不難看出瓜字演變的途徑。後一字从「𠂔」，許和銅器銘文中常見，前人或釋竹，或釋冉，按周代銘文中的冉都从毛作「𠂔」，象毛冉冉不同，于公而作為偏旁的竹作「𠂔」，則與公相近。因此，北洞壘中這兩個字是「𠂔」竹，即文獻裏的孤竹，全銘應為：

父丁孤竹亞光

(圖三) 幾件器銘中的替字。

考中一九七五年

參閱
2472條

父己葬
(1729)
父己

李蒼定曰右旁疑犬之形訛左旁不可識

1104 (2521)

[illegible]

子容庚釋光見善圖一五九考釋四二頁光父爵

唐蘭曰古文字裡的山字作或作火字作本已相近字後變做字後變做和愈易殺亂所以光字本作或體作从丘可證集古遺文所錄說文製器甚少說字或从或从解君見字或作不識由此却變成從火的光而字本作象炮羊火上變知亦光字

成形就誤為岳字了卜辭祖所祀的即後世的岳導論下五七頁

(集釋 7.2.920 — 7.2.921)

李孝定曰容唐二氏釋光是也

1106(2522)

1105(2522)

衛周故國號衛猶寶(國即德)本盾名用以防衛作禽封魯為周
任防衛之責故國號魯魯衛之名其義一也此義之似也

以字音證之漢書匈奴傳單于朝天子賜以玉具劍孟康曰標
首鐔衛蓋用玉為之師古曰衛劍鼻也衛字本作衛其音同王
莽傳即解其疏服虔曰琬音衛說文琬从玉琬聲從互矢聲
从二匕處去互首其下為地與卅形同而又同音衛衛又本作
處是卅當亦讀為衛處之在劍本(卅)與羽之在矢本同(處)俗曰
衛手是二匕乃卅之訛處殆从互卅聲此音之似也

以形音義證之則卅當為衛之初文(考報第一冊一九七至一
九八頁濬縣辛村古墓之清理)

李孝定曰郭氏釋此為衛比得牽合大夫文字考証常理殊不
足取此字與衛實無絲毫相關也衛本作衛為會意字从行已

為繁體其从卅者則累增之義符衛國古本同字故又从卅也
郭氏以卅殆矢之譌一語為其論証之唯一有力根據不知實
勾辭也人之是否矢字已未可必卅則更非行字郭氏此說之
誤固毋待辨矣字不可識

1112 (2526)

1111 (2526)

𠂔

且已𠂔
(227) 𠂔 且已𠂔

李孝定曰从大从夕或月字不可識𠂔象人一手持之狀金文
𠂔作𠂔𠂔作𠂔可証然月或夕均非可持之物其義未詳
周法高曰此古文風字也說文七上風从凡从夕𠂔古文風从
人𠂔此字从大與从人同參0919 風字條

1113 (2527)

𠂔

鼎文
(116) 𠂔

李孝定曰左上从𠂔疑同之異構乃𠂔字右側乃𠂔字當釋為
守字合文

1114 (2528)

𡩺

父而鼎
<0275> 父也

李孝定曰从門上不成文當為門之象形

1115 (2529)

𡩻

羊乙將
<0766> 羊也

李孝定曰从女左上側不知何字

1116 (2530)

𡩼

山女聲
<0310> 山也

李孝定曰疑婦之異構

1117 (2531)

𡩽

女執中
<0893> 女也

李孝定曰从女執中 字不可識

1118 (2532)

𡚦

𡚦
𡚦
𡚦

李孝定曰書為婦旋合文而偏旁位置最為奇詭

1119 (2533)

𡚦

𡚦
𡚦
𡚦

方清益釋女虞二字見綴遺卷十四第二頁女虞西

李孝定曰从女从𡚦𡚦當是一字非合文也𡚦疑是盧之𡚦
變吳文盧作界後增左為聲符此上之𡚦疑中之𡚦變从𡚦則
累增之偏旁也𡚦當為女姓

1120 (2534)

𡚦

𡚦
𡚦
𡚦

李孝定曰从女从𡚦𡚦一偏旁不可識

1121 (2535)

𡚦

𡚦
𡚦
𡚦

李孝定曰从𡚦从𡚦𡚦字不可識

周法高曰从𡚦从耳𡚦字也

1122 (2536)

田

古文

李孝定曰疑當釋町

1123 (2537)

田

古文

王國維曰古封邦一字說文邦之古文作田从田與封字从土从均不合六書之指... 田字从丰从田即邦字(史籀疏證封字條載王觀堂先生全集二四四至二四五頁)集釋(246)

李孝定曰土氏說可以封字象植樹以為標識與封字義近金文對揚連文恆見即顯揚之意樹木為標識亦欲其顯明也散盤銘自某至某一封正樹木為標識之意其字作田省田增攸其字古當作田變之作田作田皆同後世言封疆正用此義邦字从邑與从土田同意邦蓋封之草乳封之疆土則為邦矣封邦古音當同

1124 (2538)

𠂔

古文

李孝定曰此當釋友許書友古文一體作𠂔即此字

1125 (2539)

𠂔

古文

李孝定曰左旁疑而字而與文作𠂔與此略近右旁疑丁字

1126 (2540)


A stylized drawing of a human figure, labeled 'a'. It features a central vertical axis with symmetrical limbs. The head is represented by a small circle at the top. The torso is a vertical line with a small circle in the middle. The arms are represented by two curved lines extending from the shoulders, each ending in a small circle. The legs are represented by two curved lines extending from the hips, each ending in a small circle. The figure is shown in a standing posture.

冊文庚
(2268)
△冊文
庚同



戲
賣
(279)
△
冊

女
市
(2586)
山
市
△
市

 ^d
 丁 册
 丁 义
 丁 义
 丁 义

册文卷
鼎

卷一 目錄



五 文
(0916)

△
父
卒

室

△ 周⁷彝

○吳大澂釋庚曰：从庚从丙，當孫古禮器象形。字臣受冊命時所陳設也。舊疑庚丙二字非是。或曰：古文庚不从貝。《憲齋》十八冊十八頁婦庚貞。

1127 (2541)

吳大澂曰：「𠂔」从庚从丙，當係古禮器象形。字臣愛冊命時所陳設也。舊釋庚丙二字非是。或曰：古文廣不从貝，聿攬角，古竊補附錄十九頁。

○劉心源曰字从𠂔𠂔說文所謂秋時萬物戾有實也下从丙或釋庚丙二字(奇觚卷六五頁婦達貞)

高田忠周曰：庚，庚，聲，積古。阮氏云：按庚一字，即祖庚父庚之義。此庚字與薛氏教識商庚鼎庚字同，有庚，垂實之象，不觀此文，安識許叔重說文之義乎？按此說，真然。省此五。直為弟形，其下作人，即根入地之象。凡下文作丙，或作日，皆同。又如庚，良父，茲爵文，下省根形，正與兩篆相合。一正一略，即可見矣。說文：苗，位西方，象秋時萬物庚，有實也。即象形字。下文諸形

1128(2541)

皆然矣。易與先庚三日。後庚三日。禮記月令。其日庚辛。此為本義。又以紀年紀月紀日。又說文庚。承己。象人齋。段氏云。象大一經文。按小徐駁李陽冰說。从干。象人兩手把干立。不可從。今篆各本从陽。冰非也。中口者。象人齋。陽冰說非。固不須辯。且謂象人體斷。非又按言萬物者。實以艸木兼之。其實庚。然多且成字。形明。曾見其意也。然字元从木。與未字戊字同人。即小省庚。然有實多且成。自有是有連屬之意。故轉為更續義。續古文作庚。以會意也。詩大東西有長庚。傳曰。既入謂明星為長庚。續也。亦可證矣。段借為饋禮記。禮弓。請庚之。注。饋也是也。或云上義之轉亦通。又按庚。然有實。即充實盈滿之意。在馬充實盈滿。是所以安固也。凡康安康寧之康。以庚為本字。康从米。庚聲。庚同聲。通用也。古篇八十七第一三頁。

1129(2541)

馬叙倫曰吳式芬於父丁角釋為庚丙倫謹以舊釋為庚貞之
及舊釋婦女解之

吳式芬釋庚見據古一之三第二十五頁女庚卣

1130 (2541)

精
靈
車
#

郭沫若曰庚字小篆作兩手奉干之形然于骨文金文均不相類金文更有作𠄎者如身父庚鼎陶齋錄存十四卷作𠄎者如縣貞之版作父庚字此二庚字與殷彝中之一圖形文字極相似如牢桃角器內二銘文之𠄎册康作父辛與專之𠄎又女師貞父辛故均有此文又有單以此文銘鼎者前入釋為庚丙二字吳大澂以為從庚從丙當係古禮器象形字臣受冊命時所陳設余案此即古庚字也文既象形不能言其所從其下之丙字形蓋器之鐫耳觀其形製當是有耳可搖之樂器以聲類求之當即大鉦說文鉦鉦也俗於柄中上下通以金正聲又鉦小鉦也以金充聲軍濤卒長執鉦周禮地官鼓人以金鉦止鼓鄭注云鉦如鈴無舌有秉執而鳴之以上擊鼓司馬攢曰鳴鉦且卻合許鄭二家之說以求之可知鉦鉦一物特置


有大小而已二家雖未言有耳然既言無舌有柄中通執以鳴之則有耳自是意中事故鉦之形制通與此合其或名鉦者殆取其振而鳴之也形制既合而鉦從正聲在耕部與陽部之庚聲極相近鉦鉦例當後起則知庚蓋鉦之初字矣庚之本義其失甚古後行之義如庚更也續也道也或堅強貌釋名橫貌文帝紀大橫庚與鉦義均無涉蓋出自假借也从庚之字有庚字小篆作康从米云據之省據曰穀之皮然古文康字不从米卜辭之康祖丁或康丁即史記漢書作康若翁金文亦同如禁伯壘父敦之康餘屯右作𠄎伊敦之王在周康宮作𠄎文既不从米意亦絕無據義然羅氏猶沿許書以為說以庚下之點作為象穀皮碎屑之形此恐未必然也康字訓安樂訓和靜訓廣大訓空虛只空虛之義於穀皮稍可牽及其它均大相逕

處無由引伸余意此康字必以和樂為其本義故殷周帝王即以其字為名號據乃後起字蓋從未康聲古人同音通用不必康即是據也大凡和樂字古多借樂為以為表示如和本小樂本樂之義又如善字从宜古鼓字餘錯字从俞雅字亦本樂器之名然則康字蓋從庚庚亦聲也庚下之點蓋猶鉦之作點若點言之作𠄎若𠄎也是則庚庚二字可為互證此實僅存之一例矣(甲研釋文下第十至十一頁) (集釋 1407, 1430)

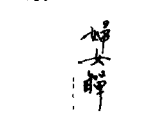
李孝定曰舊釋庚丙合文非是郭氏與高田氏並釋庚而高田氏沿說文為言遂以庚為象植物形說不可從郭氏之說於字之形義並無允當蓋不可易予者於甲骨文字集釋中已從其說見是書十四卷四二七一頁

李孝定曰舊釋庚丙合文非是郭氏與高田氏並釋庚而高田氏沿說文為言遂以庚為象植物形說不可從郭氏之說於字之形義並無允當蓋不可易予者於甲骨文字集釋中已從其說見是書十四卷四二七一頁

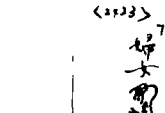
李孝定曰舊釋庚丙合文非是郭氏與高田氏並釋庚而高田氏沿說文為言遂以庚為象植物形說不可從郭氏之說於字之形義並無允當蓋不可易予者於甲骨文字集釋中已從其說見是書十四卷四二七一頁




婦女解



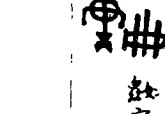
婦女解



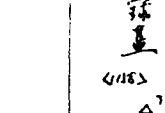
婦女解



婦女解



婦女解



婦女解

方濬益曰庚字舊皆釋為庚丙今審定一字舊釋似誤此與
 後二器均作册册者阮文達公曰兩册紀君命也（編遺卷五三
 十二頁册册庚情）

吳式芬釋庚册册見據古一之三第百四十七頁婦女解編遺
 卷二十四第百九頁婦女解解同

李孝定曰當是庚册合文从重册仍册字也吳氏釋為庚册册
 非是



婦女解



婦女解

婦女解

方濬益曰似是立兵之形疑是庚之異文（編遺卷十六第百九頁
 三兵形解）

李孝定曰仍是庚字



解文



解文



解文

李孝定曰左旁為庚之省文右旁不識



解文

李孝定曰从丰从一（字不可識）

地之柄所謂鐔也而不知小亦書人象矢之格中象三鐔也
以為尚書顧命一人冕執戣立于東垂一人冕執翟立于西垂
之戣鄭注今三鋒矛與矢其形制迥異矢以射遠矛以護身
矢類弓行矛則不然故矢有格說文矢一曰矢指陳弦處釋名
矢末曰指格會也與弦會也故書作矢或人如右圖

格羽

奇

鐔

而書作人者乃人々之譌斧鉞戈戚之柄謂之鐔以甲金文而
言如戊戌之字作中中戈作王金文戈作何作中(父乙然
無一作父者知非其柄亦明矣故知羅釋戣非也
至於中之音讀可由其所从之字推測之後下二二)

1143 (2546)

甲骨卜辭釋義亦作雉眾雉眾如

雉眾王不受

其雉眾

佚九二二

其雉眾

寧滬二五二

其雉眾吉

左不雉眾王曰弘吉

其雉眾

中不雉眾王曰弘吉

其雉眾吉

(右不雉眾王曰弘吉)

前五六一

五族其雉王眾

辭三三八二

雉字武丁時代作雉康辛作雉康丁从矢或增土康丁所从之

1144 (2546)

奎即至字象象矢至於地也其意義為陳軍旅也方言六雉理
也爾雅釋詁矢雉旅陳也郝懿行疏旅者師旅也人眾須有
部別與陳義近猶左傳僖公四年齊侯陳諸侯之師與屈完乘
而觀之齊侯曰以此眾戰誰能禦之蓋眾者諸侯之師也由此
可知雉雖雙聲皆从矢為矢聲而實从二(古文从二或从三
同文者如虫蠱蟲無別皆為虫也故其字中或中我知為矢而
非為戣也)(中國文字十一冊二頁又五至六頁釋字)

薛尚功曰說文癸之字器具四少而此鼎之癸大則可三已
蓋癸與丑相次物至是有紐結而未引連之象萬物之出也草
味而已草者至癸而齊味者至離而明癸正北方而冬也故一
河圖洛書三代傳寶而夏商為近故書畫之法未分至篆法既

1145 (2546)

立乃本其意而具四少焉自漢揚雄許慎博群書第訓詁而皆
不及知微此鼎則造書之精義與旨孰得而窺之哉(秋識卷一
第一九至二〇頁癸鼎)

吳式芬釋契見據古(之三)第四十三頁冊父己鼎

高鴻緝曰按父為桂字初文原象桂花四蕊形商周俱借為天
干第十名天干第十名周末復段三鋒矛癸字為之秦人另造
桂字以代父於是桂行而父廢(字例二篇四五頁)

1146 (2546)

李孝定曰羅氏以為戣之古文郭沫若氏謂癸戣一字其說蓋
不可易(吳式芬已)高氏謂是桂之古字說非此明是兵器之象

即說字亦不得象花形也。方氏謂與矢同意而未釋為何字。金氏釋矢蓋即沿方氏之說而加以闡明。並引泰雅族三鐵之箭以為証。說甚新異。然細審之則仍有可商。金氏引契文雖象雞象夫象諸條其說至確。然契文實無矢之文。而人亦同條者則厚見。並見鳥邦男般契卜辭。雖似不得解為同字也。其字類三七二至三七三頁。又作中般虛卜辭。編三四二八頁。我曰日牛子羊子豕中其義雖未明。然契文說字正由此演變得此而益信矣。金氏又謂作中下从人乃矢括而以人作中者為譌變。孰正孰變。並未易明。然此字倘果為三鐵之矢。則其字形當作中。而所見金甲文此字竟無一作此形者。如字形所示。縱橫交午。將何以及。速乎。高田氏以為庚字昧於字形演變之迹。說不可从。

1147(2546)

李孝定曰。舊釋「子」八二字。雖其說所謂。則「子」或有「子」八人者。未必可信。然就字形言之。釋「子」八不誤也。馬氏釋「保」蓋緣說「文保」之古文作「保」而「保」字初作「保」。繼之作「保」。然金文「保」字實無省人形者。且「保」字右下二畫。其左畫為後增。以與右畫相對稱者。斷無移之右方作「保」之理。其說實可商也。考說文「保」以八聲。與此頗近。未知是「保」字。或與八聲亦不遠。

1149(2547)

子

子丁壽

吳榮光釋「子」八二字曰。八即有「子」八人。如高陽氏高辛氏有才「子」八人之比。釋為析非也。《荀子》卷一第十頁。商父丁壽。徐同柏釋「子」八曰。八說文云別也。子前著此。禮大傳所謂別子也。《八》古卷十四。八頁。商父丁壽。

馬叙倫曰。倫謂「子」即說文之古文。保作「永」者也。八在「子」旁。猶孟姜敦五字作「孟」八在「子」上也。果為「保」之次初文。刻詞五七頁。父丁壽。

1148(2547)
















吳式芬釋「子」八二字。見《據古》一之二十一。第六十二頁。子父丁壽。

子

子丁壽

李孝定曰。从「子」从「八」。从「子」與契文「保」字二字所从相同。蓋「養牛」字之所从。後以施諸幼兒。蓋養育小兒之工具。所以防其傾者。如吾湘民間所用。枷椅之比。惟其字仍不可識。

1150(2548)

<p>  山 </p> <p>  女 </p> <p>  山 </p>	<p>  山 </p> <p>  女 </p> <p>  山 </p>	<p>  山 </p> <p>  女 </p> <p>  山 </p>	<p>  山 </p> <p>  女 </p> <p>  山 </p>	<p>  山 </p> <p>  女 </p> <p>  山 </p>
--	--	--	--	--

1151(2549)

唐蘭曰右單字舊闕舞按此字習見金文作 古文存上三
 又下三四 又上四單
 父戌單 又上廿等形看亦不識
 舊或以為 又上廿等形看亦不識
 專形非是又單字偏旁作 古文存上十
 廿單父 又上三三
 丁單 又上三三
 鼓厚字偏旁作 卷五一
 尸 又尸目
 鑄 又尸目
 單其字實當作單凡高古等字說文則此字當作單也說文
 單厚也从父高此僅據小篆說之小篆高作 單作 若相
 父也古文之作 等形者亦與父高之說差近然以言 者 則不能通矣又某為某之例數見說文表諸古

1152(2549)

(註二)此為殷虛原拓形此下均見於甲骨文之單字及从單字之偏旁。

此為段段原字形此下均見於甲骨金文之單字及从單字之偏旁。

然則其字本象巨口狹頸之容器。故章象米在耳中。耳象耳在耳中。而耳字毛公鼎作變耳从更可證耳亦容器矣。辭之字或變作與作相近故變作之耳。耳玉篇胡有切。萬象名義同。蓋六朝相承舊音也。今說文音胡口。

1153 (2549)

同。切亦從單之字。惟厚，厚字音同然。說文釋字卜解作章則單
單本亦同音也。說文謂覃字从單，鹹省聲。按省者必本有不省
之字。今本無从單鹹聲之字而遽言鹹省聲者乃由覃字之聲
難知而強為附會耳。今謂覃字當從單聲，覃與厚乃聲之轉，字
林云：覃甜同，甜甜韵近得轉。醇厚則聲近也。說文从覃得聲者
有：捍、單、噴、暉、裨、郭、裨、驪、津、鯁、潭、憚、憚、憚、專等字。而厚字無
由之得聲者。然則覃字不當讀若覃。其作厚音者偶變耳。金文
君見縣字曰：縣必缺大所誤釋為編緝後人多因之非也。郭沫
若讀必為挑極端。餘詳之而讀縣為履則誤。大泉改釋一五二戈弼威
縣必彤沙。或作形必興沙皆附屬於戈之物。縣與彤皆形容詞。
沙屬必縣著松之色。彤著沙之色也。縣字从才，當即才字所以出系
之變也。从糸之字多用為采色之義。見諸說文者如絺絺、絺、絺
之變也。从糸之字多用為采色之義。見諸說文者如絺絺、絺、絺

1154 (2549)

續總經總結素練綢練縹紫紅縹紫縹縹等凡廿餘字則縹
因可為色練也縹字說文所無以縹同字之例推之則當即
紺之異文是又單單同聲之證(文字記二十三至二十五頁釋
單單聲單)(集釋 1117-1162)

李孝定曰按說文單厚也从反高唐氏釋此為單以金文諸形
證之固有形如反高者其說蓋不誤竊疑與許書訓滿之
高作高當為同類之器物受物之器既滿盈故引申之義為滿
為厚也唐氏謂單單同聲其論據似嫌薄弱又謂从糸之字多
有采色之義舉鉏鉏等廿餘字為証實則糸為素絲施之朱則
朱施之縹則縹其采色之義似當於从之得聲之聲符中求之
與糸之義無涉也(集釋一八六二頁)

1155(2549)

李孝定曰唐氏說為象器物之形釋單是也予疑與𠂔或為同
字舊釋單然金文單字習見均與此異

1156(2549)

受 子父己解 父己 父己
徐同柏曰子下迺魚字鯢鯢之象(从古卷十四三頁同)

劉心源曰受未詳疑受之省變者則孫字也(奇觚卷六)
父己解
方濟益釋尊形見鐵道卷二十三第二十八頁子尊形父己
李孝定曰字不可識者說皆不可據

1157(2550)



父己解 父己 父己

李孝定曰疑與𠂔為同字惟此文器口之中作齒形不解何義
魚苟之口有側齒防魚之奪逸苟單音亦近未知是苟字否

1158(2551)

1161 (2552)


 舞
 (1878)
 △


李孝定曰字不可識

𠂔^a
𠂔
(1581)
△


李孝定曰字不可識。


• 1164 (2555)

1163 (2554)



 變
 <180>
 Δ⁷

李孝定曰字不可識





 <1576>



李孝定曰似从二月从工月疑^工之變未知是攻字否

1166(2557)

1165 (2556)



璽文
△

李孝定曰字不可識

1167 (2558)



璽文
△

高田忠周曰按璽之聲內唯有此字吳元釋為爵字非是今審篆形是璽字篆形古文說文璽三玉二石也从玉璽聲禮天子用金純玉也上公用駝四玉一石侯用璽伯用埴玉石半相埴也又周禮玉人祿圭尺有二寸有璽以祀廟注璽如璽其柄用圭有流則注禮記王制賜圭璽注璽爵也祭統君執圭璽注璽器也此篆則其象形也口以象璽口以象其流耳公羊篇七象

李孝定曰字不可識高田氏釋璽未知何據

1168 (2559)



璽文
△

羅振玉曰从貝乃珍字也篆文从玉此从貝者古从玉之字或从貝如許書玩亦作玩是其例也乃貝為珍乃會意篆文从玉今聲則變會意為形聲矣(增考中四十一頁上)(集釋 P2457)

郭沫若曰璽字舊釋珍不確余疑是璽从貝象形貝亦聲說文璽蚌屬似璽故大出海中今民食之从虫萬聲讀若賴又摩字下注云脩者為璽圓者為璽此字形既有圓意而貝聲與萬聲同故疑其為古今字也(釋考二〇〇頁下)(集釋 P2457)柯昌濟曰璽即包字茅即即茅也古包字許訓象人裹姪已在中象子未成形也又曰包裹也象人曲形有所包裹與此字

1169 (2560)

外所从相似內从貝古異文也(補釋)(集釋 P2457 P2460)

唐蘭曰圓从貝而以口繞之口即勺字亦即句字圓即是貝聲釋為璽玉屬璽給新撰字鏡璽贈也(天治本)王仁煦切韻璽給又璽璽給說文璽璽其字羅振玉釋為珍郭又以為璽甲並非也(天壤文釋十頁上)(集釋 P2460)

丁山曰璽用陶文有作璽璽(古陶文)正承圓形一脈演來依陶文當釋為璽說文不見璽字而玉篇有之云璽給也璽从貝句聲句从口口聲按从口聲璽給的璽說文云角貌詩曰兕觥

的的今本毛詩集傳作璽璽見於說文云以財物枉法相謝也此就漢律為說似不知璽即璽本字現在敢據陶文上溯甲身文補正說文曰璽璽也从貝口聲璽古文璽璽或从璽聲

1170 (2560)

(甲骨文所見氏族及其制度)。九頁(集釋)

李孝定曰唐丁二氏釋駒可從

1171 (2560)



許文
<1171>
△

李孝定曰似與上文為同字

1172 (2561)



許文
<1173>
△

李孝定曰字不可識

1173 (2562)



許文
<1174>
△

李孝定曰从子而臂有文飾下似从舟字不可識

1174 (2563)



𠂔
<1173>
𠂔

李孝定曰从网从𠂔从𠂔與執同意字不可識

1173 (2564)



𠂔
<1176>
𠂔

李孝定曰从𠂔从𠂔从𠂔古𠂔字字不可識

用法高曰說文𠂔盧敝器以柳為之或从竹去聲朱駿聲云
一說去亦古𠂔字說文通訓定聲第此字从𠂔从𠂔當是弄字
九部八十五頁

1176 (2565)



𠂔
<1177>
𠂔

李孝定曰上象一人坐而執杖下从止从𠂔象有人自外至字
不可識

1177 (2566)



𠂔
<1178>
𠂔

李孝定曰象兩人相臂左似从企右从𠂔字不可識古文人形
偏旁繪手並着指形着必指手之動作故此不得釋𠂔

1178 (2567)

𠂔

李孝定曰𠂔與上之略近字不可識

李孝定曰結構與上之略近字不可識

1179 (2568)



𠂔
<1786>
𠂔

李孝定曰家獸形不可確知為何字

1180 (2569)



𠂔
<3127>
𠂔

李孝定曰當象器物之形字不可識

1181 (2570)



𠂔
<3127>
𠂔

李孝定曰疑象飾物形字不可識

1182 (2571)

金文詁林 附錄下

文六百三十八 至二百三十四

孟

孟鼎王曰命女孟

吳大澂曰：「疑於字古文與『𠂔』相近，孟鼎王曰於命女孟，宜補附錄（一頁）」

劉心源曰：「於或釋永，說文鳥古文作『𠂔』，云鳥𠂔呼也，取其助氣，故召為鳥呼，此『𠂔』即『𠂔』。」
說文古文加『奇』，解卷二十四頁孟鼎。

丁佛言曰：「孟鼎永命女孟，原書入附錄，疑為古於字（古指補卷十一第四頁）」

1183(3001)

孟鼎王曰：「𠂔令女孟，吳憲齋云疑於之省，語辭也，運開按：僕兌鍾於庫，敬哉之於『𠂔』，以彼例此，可以無疑（古指三補卷四第五頁）」

柯昌濟曰：「舊釋於似非疑，示之變體，示命文誼亦通（釋華一三八頁孟鼎）」

周法高曰：「白川靜謂此字徐同柏，从古文卷十一劉心源奇觚卷二頁三十四，吳大澂密齋卷四釋於，于省，雙遷上釋為柯昌濟釋華乙中頁五十七，釋於為鳥二字乃一示之字，說文於字條：「旌旗之游，於蹇之貌。」

次列古文云：「𠂔，古文於字，象旌旗之游，及於之形，為與於有關，係之字，於於雙聲，近『𠂔』之字形，含於金文為『𠂔』或『𠂔』，之字中，示游，然彩飾於釋為『𠂔』，感動詞，金文通釋六，一孟鼎白鵠美案說，術館誌卷十二輯六六五頁。」

1184(3001)

文鳥篆下有於，篆古文鳥省。

于省吾曰：「鳥，歎詞（雙遷卷上二第三頁孟鼎）」

李孝定曰：「吳大澂丁佛言議運開諸氏均釋於，按說文鳥古文作『𠂔』，此殊不類鳥形，諸家說可商，柯氏疑示之變體，其說為長，說文示之古文作『𠂔』，與此形近。」

白川靜曰：「於在釋永奇觚卷齋釋於，文選釋鳥，釋華釋為示日，示命，文誼亦通，金文孟三字為一句讀，上文亦見，於為一字句也，齊錄金文錄錄所見之於，與此形相近，說文鳥為鳥也，之字文到篆古文文二子其子之左旁，乃以此形進化而出者也，於為二子。」

1185(3001)

似本為同字之字說，文中無於字，說文於字條下係旌旗之游，於蹇之貌，健序古文曰：「古文於字，象旌旗之游，及於之形，於為與於字有闕之字，於於雙聲，與於字形相近者，色既不全，文之為辭，歲年字，似為表示游於，彩飾者也，今釋作於，或歎詞也（金文通釋卷十二輯六六四頁一，一孟鼎林澤明謹）」

1186(3001)

示

我鼎
姚乙且己既祭

楊樹達曰：「示」字羅劉二氏皆無釋。郭沫若釋作禮。金文叢考壹
傳統思想。樹達按：甲文有「示」字，書契前編陸下象血，上象血，羅氏釋
作血，是也。此字所从之「血」與「血」字意同。示从血，示象薦血
於神前，蓋祭字也。又文有「示」字，書契後編上卷，羅氏釋祭是矣。但點
形象血，羅氏不知以為象酒形，則為誤說耳。示正敦字之省也。羅
能釋甲文之款，而不能釋此鼎之款。余釋示為祭，牙據字形言之，無類
能人言羅氏著書多不出乎點可信矣。一九五一年二月，偶讀于思泊吉金文選，載史喜鼎銘云：「史喜乍
朕文考翟祭於三日既為之跋，讀翟為禱矣。五日適被此銘，史喜
乍翟祭與我乍御祭恰足相證。」（續微一五二頁至一五三頁）我
作父己既跋）

1187(3002)

李孝定曰：楊氏釋祭於字形有微，於辭義亦可通讀，其說可從。

1188(3002)

示

姚乙且己既祭
姚乙且己既祭

郭沫若曰：「福」當是福之初字。卜辭中多有之。我鼎云：「福福二
作福。」毓祖丁自云：「王在庚降令曰：歸福於我，多高口作福。」
者，祚也。祭祀之酒肉也。古者祭後分送其酒肉曰致福，或歸福。
（文物一九五九第七期一頁）由周初四德器的改釋談到殷代
已在進行文字簡化）

1189(3003)

示

我鼎
姚乙且己既祭

李孝定曰：與訓條同字，結體小變耳。

李孝定曰：與訓條同字，結體小變耳。

庚申卜：「王省夕，其亡禍。」（後下二五〇）

壬寅卜：「即貞王省夕，其亡禍。」五月（粹五一〇）

丙戌卜：「湯歲。」（粹五一〇）

甲申卜：「貞王省夕，其亡禍。」（前一一五二）

丙子祖乙：「王省夕，其亡禍。」（乙五一九）

祭酒尊于神前而醴之，也蓋為所神之儀禮。凡其是夕禮與祭
禮同，因為天酬為祭，雖是祭禮之一，然於字亦不合。

1190(3004)

非韻之字也。與廣韻有韻字字形相近然其後起之字也。又在本
 韻中並非韻字而是名詞。解釋為韻字。(殷金文不釋) 九一九
 〇頁亞基茂鼎(51)林澤明譯

1191(3004)

𠄎

字書並立韻錄 在△錄次

丁佛言曰：𠄎來獸敵蓋 𠄎來獸敵器王十師案：𠄎从
 从𠄎古永字爲𠄎之變文愚定爲古𠄎字小篆𠄎从乙當
 爲之誤。流也从反尸亦即永之省不當入乙部。許氏說
 治也王十亂師即王十治師(古播補補卷十四第六頁)
 柯昌濟曰：𠄎字从示从受未易識(釋華二。四頁半圓敵)

1192(3005)

李孝定曰：𠄎字从示从受地名不可識。丁氏釋爲永甲骨文
 永字無作此形者其右旁从受从𠄎。丁氏以爲𠄎字亦有可商
 蓋商古文作𠄎象絲之糾結兩手治之之形作𠄎者乃省
 文此作𠄎並一而無之但以一𠄎無以見糾結之義也。

未保忠同。𠄎字中有𠄎字如

獲二十有五(後下三八七)

戊午卜𠄎其以我中女不(前七五九七)

己未卜在獲虎獲一月在阿(天八〇)

而于祖丁(粹二六〇)

用爲單位名詞人名地名及動詞。𠄎之偏旁或與𠄎有關係者未
 可知也。𠄎字。唐蘭氏解作而說之示之古文作𠄎。禮之古文作𠄎
 𠄎或爲示之訛變然此依𠄎之字刻爲之不相符於今之何字
 也。(殷金文不釋) 一〇六頁半圓敵(58)林澤明譯

1193(3005)

𠄎

天君鼎天君饗禮酒 天君饗禮酒

徐同柏釋禮面西字爲禮(視耐)曰：視耐視字讀若天子視學
 之視重其禮王故視視之(从古卷十三八頁商金鼎)
 丁佛言釋𠄎曰：𠄎天君鼎王饗酒亦爲𠄎之變。𠄎爲𠄎之變
 亂酒即治酒孫仲容釋標非是字見原書附錄(古播補補卷十
 四第六頁)

1194(3006)

高田忠周曰：天君鼎丙午天君卿禮。在介。按：積古齋如下
 文釋爲視字非是。今審从示从𠄎。𠄎古文通用。𠄎當𠄎
 省略文从示从𠄎省聲。亦當𠄎字異文下一字爲𠄎。卿讀爲𠄎
 昔曰：卿祭且舊樂或卿讀本義。天君卿大夫某即作器者略其

名未能定矣說文職以事類祭天神也从示類聲又類从類聲類从米疑亦米聲故米類可通也書堯典云肆類上帝周禮小宗伯四望四類又類宗廟社稷類亦通(古編篇九第二二頁)

吳廣生曰人名之類不從示非視字又情同又酉者情耐也所謂王饗醴命之類也(古文卷一第四十頁征人鼎)予省吾釋復見雙選卷下第一第四頁征人鼎

張日昇曰按諸家以右旁下半又下屬非是西清古鑑卷二十七飲文云天君鄉鼓酒與此文例同知字當作復

李孝定曰字但當釐定作復不可識不必強為之解也字在本解為人名徐氏釋禮為視已與字形絕遠且誤以所从又字偏

考下屬與酉字相連誤讀為耐說不可从吳氏亦誤以偏旁之又單讀為侑亦屬割裂原文高田氏釋復為類之省文是誤以从自為从頁自頁古無相通之例也又讀饗為鄉謂天君之鄉某即作器者說亦支離少當本解蓋言天君以酒饗復耳

王

毛公鼎王環王鈺

王

毛公鼎王環王鈺

徐同柏釋曰字位鑒从金鈺聲白虎通循道無窮則佩環能凌嫌疑則佩鈺从古卷十六二十八頁周毛公鼎

吳大澂釋鈺曰鈺古玉器名說文所無毛公鼎王環王鈺(古編補八十四頁)

劉心源曰徐从金稍蝕確是余說文八部余二余也讀与余同二徐皆不作音通訓定聲云即余之篇文故八部記文十二重一是也而都數仍云文十二重一与本部不符且二余二字亦不詞知米知案即余徐即徐集韻徐或作徐廣雅徐笏也礼王孫天子播珽方正於天下也諸侯茶前詠後直讓於天子也注茶讀為舒遲之舒舒懦者所畏在前也詠謂園綬其首不為雅

頭諸侯唯天子詠焉是引謂笏為茶即徐也(奇觚卷二四九頁毛公鼎)

郭沫若曰余為徐之初文則毛公鼎之玉鈺与番生毀之玉璽均必徐字為無疑从王从余余下有形与余相似而畧異者當是余之續說文有徐字云二余也讀与余同許未吉其義而係在余字之次就其形而言當即余若余之譌變應作為余之重文(金文二五三頁釋非余)

張之綱曰徐同邦釋鑒而讀為玦云从金鈺聲二吳仍之孫讀釋茶云篆作鈺徐釋不塙細審左形是重余字說文人部余二余也讀與余同以聲類求之當為茶之異文王茶玉笏也荀子大畧篇諸侯御茶楊注云茶古舒字王之上圓下方者也鈺蓋

諸侯玉笏之正字猶天子玉笏謂之璣也。綱案孫釋茶精塙。釋十一頁至十二頁。

董作賓曰：玉璠據劉心源考，即玉笏，或作璠。廣雅：璠，笏也。禮玉藻：天子搢璠，方正於天下也。諸侯茶，前註後直，讓於天子也。注：茶，讀為舒遲之舒。舒，懦者所畏在前也。註謂圍殺其首，不為推頭。諸侯唯天子誅焉，是以謂笏為茶，即璠也。（毛公鼎考年註譯二六頁）

吳闓生曰：吳大澂讀璠，古文卷一第四頁毛公鼎。

王國維釋璠，見毛公鼎銘攷釋（王觀堂先生全集二〇一六頁）。

1199 (3007)

李孝定曰：徐同柏隸定作璠，而讀為璠。王國維氏亦釋璠。按字實不從金說，似未安。劉心源隸定作璠，謂即璠字，引集韻璠，或作璠。廣雅：璠，笏也。為言董作賓先生及張郭諸氏並從之。考此字偏旁與金文余字略同。劉氏謂從重余，其說是也。

1200 (3007)

羊

湯中盤。林司湯中。羊，其聲。

李孝定曰：从艸从羊。羊與甲、骨、文、玉、字作羊者同。當是从艸玉聲之字。說文所無。

1201 (3008)

羊

以見符鼎。羊，△字。

李孝定曰：容氏隸定作羊，又其形與吳文、董字略似。

1202 (3009)



1205 (3011)

大文正 文正

寶博軒

癸

重刊△古文孝
父丁日陳章(卷二)

艸部云：莢，菜也。从艸，矢聲。从竹之字古丈多从隹，矢字甲文作。前編恆卷此所以與甲文同，其為莢字明也。（舊微一六八頁莢）
 大爵跋）

李孝定曰楊氏說可从

唐蘭曰在金文裡還有算字金文編科學出版社本九二五頁就是說文的算字用以蓋蒸飯的甑底的从草从竹都通用算可以用草做(金

1207(3012)

分

零珠鼎 零珠升

く
△
(
●
●
●
●)

131^b
鼎 上

香

分
料分
量
(3.09)
*

又高田忠周曰『釐珠鼎』又父奇觚刻釋一斗分幾近因謂又為
又省多亦為斗上文皆同非干異文也說文斗部鈔量物分半
也从斗从半半亦聲余料古今字古字从斗八晚周初有从牛
八之半而後亦生此料字然从斗之說則存焉〔古今篇十九第

b 郭沫若曰：从斗从八，當即說文斗字。古文獻中假半為之。漢書項籍傳卒食半粟。注引孟康曰：半，五升器名也。史記項籍本紀：半作芋。集解引徐廣曰：芋，一作半。五升器也。又索隱引王劭曰：言半，量器名。容半升也。今案王劭所言半，乃新字之誤。其字別作拳。

1208 (4013)

並讀奉聲。(金改二一八頁釋骨)

柯昌濟同半字與說文从八牛之說不合或晚出之體（釋奎）
（一〇四夏眉昧鼎）

李孝定曰余舊讀雙珠鼎名以為此乃八升合文今見郭氏此說始悟余舊說之非郭氏高田氏之說可从柯氏選釋為半仍有可商料从半乃會意兼聲字也

1209(3013)

ハ

創望鼎
(69) 不敵不△不盡又

高田忠周曰按从八从丌古文亥字亦彖省文說文亥字曰古文與彖同謂其形同也又說文彖从詞也从八彖籀篆以後借遂為之轉義素問六元正紀大論遂言之注盡也蓋因道進行也鈐意即是也古籀篇十八第三三頁

高鴻緝曰說文多从意也从儿豕聲徐醉切

段玉裁曰全書說解或言詞或言意義或錯見言从意則知象者从詞也

徐灝曰家者有所因而行之之詞今皆作遂

按八非文字象氣越于之形故有从詞之意豕聲副詞豕聲諧豕猶卒聲之諧醉也說文是部遂訓亡从是豕聲動詞亦徐醉

1210 (3014)

切後入通段遂以代家久之而家慶字例五篇一五四頁

吳大澂釋義見卷齊五冊七頁師望鼎

吳閬生釋遂見古文卷一第十七頁師望鼎

于省吾曰吳云周語注遂猶順也(雙連卷二上第十四頁師望鼎)

郭沫若曰不分不更分當讀去聲謂不敢不守本分不守規矩也(兩政八頁師望鼎)

李孝定曰舊均釋義讀為遂可从吳氏引周語注以順釋遂於本銘亦可通讀許以从意訓家蓋猶今言如意彼氏之解稍覺

迂曲

1212 (3014)

1211 (3014)

余

余字新 (2661) 余字

李孝定曰字不可識

余

余字 (2772) 余字 (2772) 余字 (2772)

阮元釋余爵曰吳佩叔云爵字象爵下垂三足形余爵者居錫余爵而作彝器也商人尚質故略言之案古爵字有與此相似者見李氏撫古遺文余爵或作器者比與名(續古卷二二頁余爵壺)

孫詒讓曰舊釋為余爵今審爵字作爵殊不類竊謂當為匱之省金文匱字从匱並作匱此省其上半作爵後勒季方鼎勒字作匱萬形下半作匱之一正與此相似勒从匱省故亦變从匱此當合為匱字爾雅釋蟲作唐諸本州別錄作蟾蜍說文字與匱同類故古或从匱與匱匱字同意吳分為二字非是(餘論卷一第四頁余爵壺)

1214 (3016)

1213 (3015)

高田忠周曰積古齋款識釋此篆為余爵二字疏漏殊甚今審全銘二行二字每字均調此篆斷非二字亦非合文因謂說文舉字訓對舉也此篆下形明是二人對舉物之形也上作余余即厚聲余與古音同部通用論語與與如也皇疏猶徐徐也蓋徐徐者易因來徐徐莊子應帝王其臥徐徐是也與與即徐徐之段借字是古與余兩聲通用之確證也然則此篆為舉厚與文無可容疑矣但作舉者以手為義此篆以兩為形均皆同意

(古篇五十五第六至七頁)

李孝定曰阮氏引吳說釋為余爵二字非是爵字甲骨金文多見不作此形高田氏釋舉說與余音近通用固是然此字下半所从不象二人對舉之形且舉乃與之後起字古與與同字象兩入并盤共舉之形後衍為二言其相授受則為與言其共舉

則為與舉字之義固與與同从與不徒以之為舉也釋此為舉於字形不合孫氏以為唐諸之象形字於說較勝然金文龜字所从之龜雖說變不一猶能得龜形之恍惚此作無復得見龜形說仍以存疑為是也

1216(3016)

1215(3016)

王上尊

王上尊田氏說曰王上尊形(ABC)

劉心源曰白或有作一白者釋主曰釋十月皆未得篆形也果白為一下从甘甘篆作甘為口含一旨从匕从甘篆作亦或有作一白一白从口与从甘同意旨古刻偏旁證之如師運方尊諸从白康鼎諸从一白皆即一白交鼎諸从一白師奎父鼎諸从一白皆即一白是此銘為旨字無疑矣(奇觚卷五十一頁王田尊)

柯昌濟曰山字劉幼丹先生說他文作山下从甘證以師遠方尊之諸字从白即旨字旨諸通案劉說近是自文又有山字諸自亦與此近可證古字或从口中涎出形明甘旨之誼也(華二三〇頁攸田尊)

1217(3017)

于省吾曰亡父丁隕有王上攸田慈之語占一器作白阮元釋主釋一徐同柏釋賄從十劉心源釋旨十一按釋主釋賄釋旨並誤占由乃由之初文孟鼎有字从由作占梁文有占字唐蘭釋由天考是也占作占从一从一一也由从口中橫畫乃文飾攸與慈均為地名梁文習見爾雅釋詁由自也王由攸田慈者言王自攸而往田於慈也(古雅八頁釋由)

阮元釋主見積古卷一第二十一頁王主父丁尊

1218(3017)

徐同柏曰賄古文作賄賄實字从青从貝此賄字亦由从一从白一引而上行之象讀若留留通進賄有進義故从一白氣从口出與子同義賄訓賜賜予也故又从白占字从口(從古卷十第十四頁商攸尊)

李孝定曰阮氏釋主於字形無微於銘意亦不洽徐氏釋購於字形絕遠劉氏釋旨字甲骨金文習見其上均从夕不从一劉說未安于氏釋由於義為勝說文無由字王國維氏謂由古同字是由乃器名契文有由異字無由介詞之由契文有由自無用由者于氏引孟鼎有字从由作山証此為由按作山下从目所以象首上象賈形乃象形字轉變作賈乃从曰帽由聲耳非謂由為賈之本字自不得以此証由之為由也字與契文山字為近疑當釋古以讀本銘又不可通不敢遽定亦據忠同山加藤博士以為賈之象形賈字之起原曰五九夏即推是為古字以是則為社即解作永福之意也上意然甲骨文字中可以解作古之字有也如依此字作社則蓋有可若異識之館也也解有也

1219(3017)

頁王其有曰多邑 頁力曰多尹 (乙八七二)
 註此曰(四)之異體也改曰說也周禮六說之中有說詩解風是之方中有說于桑田破人作誤于桑田說祀用子鄭社也聞于田獵則周禮司祝之職掌四時之田表貉之祝號當然乃邑公說者也以余和見則詩周南之麟趾不南之弱廣本為田獵之說也
 (殷金文多釋一〇七一〇八頁雙車(四)林澤明譯)

1220(3017)

劉心源曰自古刻諸字證之如交鼎諸从山師金父鼎諸从山知此為旨字(奇觚卷六二頁旨旨)
 吳大澂曰乃在器形(憲齋十八冊三頁象形旨)
 李孝定曰吳說為長非旨字也

1221(3018)

郭沫若曰同字同自作山不類女設作山姑馮句鐘作同所以同字二頁均上出从同之字亦如是与此有別此特君之畧形耳(兩改一七二頁黃君毅)

予省吾釋同見雙連卷下二第二十五頁其同設

李孝定曰郭說是也蓋同字从月乃盤之古文不得作月也

1222(3019)

平古並 中古並

商承祚曰或釋加(十二家二二頁 雲七頁 叔白殷)

李孝定曰加字从力不从又或手商氏或說待考此與鹽字偏旁相近未知何字也

1223(3020)

郭沫若

郭沫若釋所讀作新見兩改(一五頁 伯製鼎)

李孝定曰郭氏釋所讀為新蓋此銘云 馮車畫 郭氏虎

字實不從介介字契文作 金文作 若斤均與此迥異諸書

字形或是 句字金文他器句字作 句與此略近

周法高曰台川靜金文通釋第二二轉三三頁一二五 師製鼎

1224(3021)

周憲鼎 中古並

吳大澂曰疑后之古文后合三字相對許氏說△三合也合

从A口此从A象后口形如雷之有蓋合則口在下后則口在

上或古文有作合者後人變从戶非本从戶也(憲齋四冊二

頁 憲鼎)

劉心源曰說文作 小蟲也从肉 聲據此則 即圓字

或是圓字段氏刪去聲字 許書無 字也不知部首 即 即

後人家異讀異員下亦云 聲可證也篆法 口珠形亦有

能拘者如倉舍邑谷台等篆皆从 亦有从 者攷宗周鐘

倉舍公遠鼎 王在新邑又天人盤邦字之 居 舍 說文

谷作 台作 台可證此月从 即 也(奇觚卷二三頁

1225(3022)

師嘗所

楊樹達曰兄字作 確是兄字非后字 中兄疑當讀 賜也

(續微七九頁 眉鼎跋)

張目昇曰按字作 與兄同 劉心源釋兄字為月人未確然銘

文曰 兄字師眉意甚難明 故容氏存疑焉

李孝定曰吳大澂釋后以后合為言謂后不當从戶蓋謂此字

下半之 為合 之蓋也其說殊誤與文后作 象以手攷

戶形固不以攷蓋為義也劉氏釋月於字形絕遠字固不從

肉也字與兄近而略變其形即祝之本字契文祝作 象人跪

禱於示前或作 亦祝之異構古文 字者手形者必示手

1226(3022)

作又弓之小變耳

1227(3022)

止

絲治姓鼎 絲△姓作統此

止

古得解 △信也

方濬益曰字从召从二當即召字二或美文也(綴遺卷二十四十六頁召通解)

高田忠周曰按此从人从召甚明舊者下文皆同然字書無之古字逸文也(古編篇五第三八頁)

阮元曰案治字有關畫(續古卷四第九頁魚治姓鼎)

吳式芬釋文見據古二之一第六頁治通解

郭沫若曰蘇治姓乃姓姓女嫁于蘇者治如非國族則當是字左傳隱十一年若朝于蘇不敢與諸任齒正義引世本氏姓篇

1228(3023)

謝章蘇舒品札終泉畢通十國皆姓姓字無與治相近者蓋是女字(兩改二四二頁蘇治姓鼎)
李孝定曰治字从台台从召召字从次次从欠與此迥異阮吳兩氏之說非也方氏以為召字近之而字又从二方氏以為義文未可遽定也郭氏說是而其字不可知高田氏謂字从人亦非

1229(3023)

身

能身事 能身是子

身

身 身 身

休

商承祚曰本書第一六五號是智蓋智字作身又作台能身尊

智字作身羅振玉隸定作紀貞遺七不可據這是從口紀聲的




字契文智字從紀作身或身又契文四方神名與書名敘事刻

辭因因回紀書曰紀字左半微泐或釋宛非是本不從山金

文智字數見智從宛聲宛從紀聲以意會之其字象以繩系肉有紀轉之象豎畫作余一人紀紀應讀作紀戰國器右里盤

1230(3024)

α 予省吾擇胎見雙蓮卷下二第一頁能獨尊古文卷四第十一頁能獨尊同

李孝定曰契文有智字作从與此同于省吾氏釋契文彼字為智而於此字則釋蓋偶未察耳商氏釋此為智可从字在此兩處均為人右

以赤隊忠曰物蓋即說文外秦人市買多得為肉从乃从夕蓋至也之局字也惟並昨由乃及夕構成乃由肉及醬肉之形構成而一

乃春菰也。故鄉即說文：「菰，蒲屬也。从艸，馬之屬字也。盛公，失公之
美稱也。」（殷金文序釋第一五五頁）能句奪（198）林深明譯。

廣教王 (1370), 用信△

郭沫若曰：厲敷用拱用璧，用召告其右子歆史孟……召告即昭告。右者上位之人，自己的領導。其人為子歆史孟（考古一九七三年二期六九頁厲敷蓋銘考釋）。

予省吾釋首見雙蓮卷下二第十四頁。屏教飯。吉文卷三第三
十二頁。屏教教同。



李孝定曰金文首及偏旁从首之字多見其下均从目。又他字偏旁中以目代首者亦多見。首字未見从口作者。此下从口。釋首似未的。筆者未見于瓦原文。未審其說云何。今第就字形立論耳。

𠂔^a
魚教置
<1180> 用△首⁷

周法高曰此字于省吾釋眉³⁰²⁵釋為首合釋為眉首^{雙選下二頁十四屏}
 教^銘 郭沫若釋此字為侶³⁰²⁵釋為告^參

予省吾釋眉見雙選卷下二第十四頁展教讀

吳閨生釋稽見古文卷三第三十二頁。屢教敦

李孝定曰吳氏釋稽于氏釋眉恐亦讀為稽未見原文不敢妄
議按金文稽字多見均从頁首或頁首聲此文右从旨不誤惟
其左似非从尸蓋尸字金文作若與此不類果是从尸
則在偏旁中或可與頁通作然他銘稽字亦無一从尸作者

為可疑耳此銘上下文不知何似手頭參著資料闕如未敢遽

銘子貞

郭沫若釋咸見而改一九八頁銘子貞

李孝定曰郭說可从此銘云金正月丁丑王春子貞治王年于
咸咸圓宜

1236 (3027)

1235 (3026)

王季子貞

王季子貞

王季子貞

王季子貞

王季子貞

王季子貞

方濬益曰常熟楊詠春太守沂孫釋為啓按此字从耳从口於
啓意為近今姑從之(綴遺卷十六二十七頁王子父丁厥)

劉心源曰聽或釋班或釋居皆非此字从耳从口乃聖省古文

聖聽通用樂記小人已聽過釋文聽本作聖廣川書跋泰山篆

皇帝躬聽史記作躬聖齊侯壺宗伯聖命于天子召聖為聽

案郭公考鐘子春為之馬汗簡耳部註云聖實聽字也凡

古刻聖字从耳命于天子從聖元武說文云聖从耳呈聲

觀郭公考鐘聽字知聖字从王从耶和古文聽字此云聽獻人

反聽者聽其自便呂覽樂成寡人盡聽子矣注聽從也父丁厥
天子作父丁聲亦此字此義寄厥卷三三二頁太保鼓)

孫詒讓曰案臣吳從許瀚釋為同謂子同即大保之名以篆文

審之殊不類攷前天子厥天疑大字子同作父丁聲釋之

與此臣字頗相近疑一入竹作器臣陳介祺釋為班揚沂孫釋

為石無並不類諸案兩文似皆从耳从口从十說文口部耳

耳語也从口从耳字右似亦从耳又十部野詞之輯也从

十耳聲此即野字也又前亞西彝西字作日據古二父癸宗彝

臣臣父癸宗尊彝臣吳亦釋為丙並據古疑皆耳野兩字之變

體又疑此與天子厥兩文或當為聖之省說文耳部聖从耳呈

聲此从耳从呈省於字例亦得通聖或借為聽後趙公華鐘聽

元器聽作耳亦从耳从口是也據古三之二又三之三齊二省

1238 (3028)

1237 (3028)

未能決定要非商西兩字則固無疑爾(餘論卷二第三頁大保敦)

郭沫若曰：「取古聖字亦即古聲字。从口耳會意。聖以壬為聲。字稍後起。聲字更屬後起。左氏聖姜公較作聲姜。字猶不列入後二字始分化。(兩政二十七頁大保敦)」

柯昌濟曰：「从耳从口當為古聞字。吳清卿先生疑為聽字。審之文義似不若聞字之為順也。」(韓華一五八頁大保敦)

馮敘倫曰：「孫詒讓謂……曰疑聽。和公華聽元音聽作耳。似同。倫謂……曰即說文聖字所從之取。為聖之初文。轉注從王得聲。為聖復從聖省。惡聲為聽。從口從耳會意。(刻詞一二〇頁且丁紙)」

楊樹達曰：「按取字从口从耳乃聽字之初文。會意字也。後加聲旁。立為聖字。許訓為通。謂从耳至聲。說形義皆誤。此文王伐求子為句。取一字為句。謂王伐求子。求子聽命也。呂氏春秋知士篇云三日而聽。(精微八十七頁大保敦跋)」

張日昇曰：「按劉心源以取字屬下句。並釋厥為人讀。王伐求子取厥率友作。王伐求子取厥入友。故有聽其自便之言。唯屈文前曰伐後更曰。王降征命于大保。大保克敬無違。似無聽其自便之意。劉說恐非。字从口耳會意。即古聲字。郭說可以。」

李孝定曰：「劉心源氏釋此為聽。極確。及後諸家多有从之者。按字从耳从口會意。猶衍从壬為形聲。則為聖。又衍為从聖省。惠聲。則為聽。遞嬗之迹昭然也。契文有(𦔻)字。即今聽字。可証。劉氏讀大保蓋始文稍誤。字在此始為人名。非聽厥人友也。方氏釋

啟說非啟。从口啟聲。啟則啟尸之意也。柯氏釋聞亦未諦。金文聞字皆作(𦔻)。𦔻入形而省一大耳會意。契文聞字作(𦔻)。與金文同。弟人形小異耳。聽聞義近而構字之法不同。不得混為一談也。郭氏謂取古聖字是也。然謂亦即古聲字則猶未安。蓋聲字契文作(𦔻)。从(𦔻)象聲。从(𦔻)从(𦔻)會意。聖聲音義並相近。故左氏聖姜公較作聲姜耳。非謂聖聲一字也。孫詒讓釋(𦔻)於字形雖可通。然于契文(𦔻)字从(𦔻)則難索解。釋(𦔻)則於字形亦遠。蓋字从(𦔻)乃耳之象形。文非从耳从十也。且金文(𦔻)字皆作(𦔻)。作十者乃七字也。孫氏後說不誤。楊氏讀大保蓋始聽一字句絕。亦可通。馮氏說取聖聽三字遞嬗之迹。極確。高田氏之說則殊誤。」

啟說非啟。从口啟聲。啟則啟尸之意也。柯氏釋聞亦未諦。金文聞字皆作(𦔻)。𦔻入形而省一大耳會意。契文聞字作(𦔻)。與金文同。弟人形小異耳。聽聞義近而構字之法不同。不得混為一談也。郭氏謂取古聖字是也。然謂亦即古聲字則猶未安。蓋聲字契文作(𦔻)。从(𦔻)象聲。从(𦔻)从(𦔻)會意。聖聲音義並相近。故左氏聖姜公較作聲姜耳。非謂聖聲一字也。孫詒讓釋(𦔻)於字形雖可通。然于契文(𦔻)字从(𦔻)則難索解。釋(𦔻)則於字形亦遠。蓋字从(𦔻)乃耳之象形。文非从耳从十也。且金文(𦔻)字皆作(𦔻)。作十者乃七字也。孫氏後說不誤。楊氏讀大保蓋始聽一字句絕。亦可通。馮氏說取聖聽三字遞嬗之迹。極確。高田氏之說則殊誤。」

白川靜曰：「求子取聖即所謂孫父也。取其名。取之字。釋依徐論。蓋齊釋聽聲。釋聞。釋微。居句讀作。王伐求子。取以取為聽之初文。解為。謂王伐求子。求子聽命之意。以為因曾一度聽命。臣服於周。後。故降命于大保。然求子取又猶作王子。取有其所作器之。故曰。」

又子取作父丁章。

啟說非啟。从口啟聲。啟則啟尸之意也。柯氏釋聞亦未諦。金文聞字皆作(𦔻)。𦔻入形而省一大耳會意。契文聞字作(𦔻)。與金文同。弟人形小異耳。聽聞義近而構字之法不同。不得混為一談也。郭氏謂取古聖字是也。然謂亦即古聲字則猶未安。蓋聲字契文作(𦔻)。从(𦔻)象聲。从(𦔻)从(𦔻)會意。聖聲音義並相近。故左氏聖姜公較作聲姜耳。非謂聖聲一字也。孫詒讓釋(𦔻)於字形雖可通。然于契文(𦔻)字从(𦔻)則難索解。釋(𦔻)則於字形亦遠。蓋字从(𦔻)乃耳之象形。文非从耳从十也。且金文(𦔻)字皆作(𦔻)。作十者乃七字也。孫氏後說不誤。楊氏讀大保蓋始聽一字句絕。亦可通。馮氏說取聖聽三字遞嬗之迹。極確。高田氏之說則殊誤。」

農自 王親命
白△白

劉心源曰：信从人从知字，象音池行也。（奇觚卷六十五頁農自）

柯昌濟曰：信古智字，華二八五頁農自。

吳閔生釋：見古文卷四第十四頁農自。

予省吾釋：信見雙選卷下三第十一頁農自。

李孝定曰：劉氏釋信於偏旁為近，惟「卜」似非人字耳。吳氏釋文隸定作啓，而於本銘，文則還書作啓，無說。考本文偏旁實不

1247 (3032)

从启。吳說非是。于氏但隸定作信，說較於慎。

1248 (3032)

韓直 彭錦鋒
△日南貝

高田忠周曰：按東下廿字，作日與下句王廿把廿字作日合。此廿戶文義明白，因謂東下廿字為專，者，簿也。記錄版也。今戶籍簿，說文專本訓六寸簿也。又籍下曰簿，書也。荀子儒效篇：履天下之籍，法圖書也。史記蕭何世家：高祖入關，何獨先走丞相府，收圖書，以是具知天下戶口。阮瑀書：可證矣。然此云專廿戶者，以其簿記賜之也。其事與近世無異。（古籍篇七十第二五頁）
柯昌濟曰：當是古思字。石鼓文第九鼓：舫舟思歸者，釋思字作由。與此字上所从正同。此字下从口，古思字或从龜形，从口會意字也。甲寅文亦（華二七〇頁戊辰長壽）

1249 (3033)

郭沫若釋：廿曰知，會為思者，以思字於卜辭或作龜，與此形近。口為廿，由下文王廿記可證。（青研二十二頁戊辰長壽考釋）

吳式芬釋：思廿兩字見隸古二之三，第八六頁戊辰長壽。

吳閔生釋：思廿兩字見古文卷二第二十三頁韓直。

予省吾釋：思廿見雙選卷下二第七頁韓直。

1250 (3033)

李孝定曰：吳式芬釋：思廿思字从自，與此不類。且思廿亦不辭。吳閔生于省吾郭沫若諸氏並釋：思廿郭氏並釋下，自字為自，以與韓直習語相應。考金文思字作思，思形與此有別。惟庚鼎思字作思，與此略近。然金文賜思之辭，下必係以，

直故郭氏釋下一字為自而其字作戶乃戶字與自字迥異故上一文是百當釋為咄猶有可商也高田氏釋上一字為咄讀為專而以薄籍說之蓋由下文戶字推勘而得金甲文自字通作為若字字形已略異其用者為語詞無用為薄籍者且其錄所載實錫之辭固有臣若干家人焉若干之語亦未見薄籍若干戶之辭其說似有未審

本家志曰魯日當郭氏所釋若字與若字迥異若字通常作留其作會之例武丁期之族名有留又祖庚祖甲時期之族名有留

辛巳卜行貞王賓父丁歲口單叙亡尤在自自 (通纂中村)

恐即咄之地也又武丁時之神名有

戊干卜敵貞勿作御見于九留其獲 (續五、一六、八)
戊干卜敵貞勿作御見于九留其獲 (前六、四〇、二)

九留九留據此則咄與留為同一字也又敵亦有寫作敵故與咄為同一字以錄之咄乃咄字之稍有變形之字也丁山氏(殷商民族方國志一〇四頁)以為九留即仇由蓋即戰國策中智伯所代之仇由也其考証尚有議論之餘也然其後論蓋可從也
金文考釋四二頁辭彙(山)林澤明譯

音 咄 音 咄 音 咄

吳式芬曰徐福莊謂古嗣字讀如辭阮釋司桂未合釋壽案皆未確得虞司寇白知壺與此是一字从口从无篇海舌疾二切音自口小貌許印林說咄蓋咄者既无聲至擬既既无其例也(據古卷二之一八十二頁咄敦)

徐同柏曰嗣古嗣字讀如辭說之辭作器者名古文辭从寧辛猶理寧篇文辭从司寧司也謂主其理也是文从无為反欠飲食逆氣不得息也从无與从寧同意(補古卷八、三十三頁周辭敦)

劉心源曰咄人名阮釋司此從吳釋案古刻既字从口从宁与比同此又从口篇海咄音自許印林曰為咄者(奇觚卷十六、二)

八頁咄敦

李孝定曰條同指嫌定作詞可从惟謂从无與从甬同即嗣字則有未審无訓飲食气逆不得息則亂字所以其繁體作咄象兩手治熱形二文風馬牛不相及何緣相通吳式芬引許印林說嫌定作咄謂即咄字之省然其字除口无二備旁外明尚有一畫不如嫌定作詞為較通也

替

丁傳禹
替
丁△亡聲

李孝定曰字不可識

1255 (3035)

替

郭沫若曰
替
△亡聲

郭沫若曰字當是動詞如擇取之類或擇為故下一字當是器蓋謂融毀故物以鑄此征戒也(兩改一六三頁郭諸平証)李孝定曰字不可識

1256 (3036)

替

辛鼎
替
△亡聲

替

臣辰
替
△亡聲

高田忠周曰按此篆替即朋字鐘鼎古文之常形也下亦明从口而說文無朋字是必古字逸文其義或與朋近乎(古籀篇四十九第二七頁)

郭沫若曰替篆象器中盛雙玉之形亦見辛鼎云度用替平則明備義叔夷鐘達亦明替平解亦有此字作替若替彼字王國維釋為豐之初文本銘及辛鼎文說為禮字正通禮者謂儼禮之也(兩改三十二頁臣辰蓋)

1257 (3037)

郭沫若曰替豐之異文讀為禮(金文一三三頁約讀補遺辛鼎)

郭沫若曰替字亦見辛鼎彼銘云度用替平則制此與卜辭之替替字為一字王國維云替一字卜辭國字後編卷下第四葉或作𠄎或作𠄎其證也此二字即小篆替字所从之𠄎古𠄎口一字卜辭出或作𠄎或作𠄎知𠄎可作𠄎替矣曲又美辭文此諸字皆象二玉在器之形古者行禮以玉故說文曰曲行禮之器其說古矣惟許君不知拜字即𠄎字故但以从豆象形解之實則豐从𠄎在口中从豆乃會意字而非象形字也盛玉以奉神人之器謂之𠄎若豐推之而奉神人之酒醴亦謂之醴又推之而奉神人之事通謂之禮其初當皆用𠄎居豐二字其分化為醴禮二字蓋稍後矣(觀堂集錄今金文二)

1258 (3037)

例均从口与卜辭同从拜与卜家同即豐禮字也(金攷三
二八頁臣辰孟銘序釋)
C 容庚曰豐字書所無義如寶錫(善園廿九頁臣辰孟)

C 陳夢家曰豐字即說文珪(或作穀)字此假作割成穀詩甫田以
穀我士女此言穀百生豚即分百姓以豚(金攷七七頁西周銅
器斷代士上孟)

李孝定曰郭氏引王國維氏說釋豐可从丰从口从珪即豐
字所从之珪也予前編甲骨文字集釋時於豐字條下引王氏
珪字之解未加論列而於二卷口部之末並收珪四二形為一
字以為說文所無字至今思之蓋有未的珪四恐非一字珪四

則當从王說釋豐為是郭氏以儀禮解豐字以讀臣辰孟銘義
亦允當陳氏釋珪然此下从口當與珪字有別高田氏釋朋華
銘之朋實與之誤字珪朋古亦可通然此實非珪字不得通
讀為朋且以朋字讀諸銘義亦不可通也

C 何川靜曰郭氏釋為禮字曰

昔象器中盛雙玉之形亦見辛鼎云虔用昔厥刺刺有
爾儕義叔夷鐘造爾朋刺卜辭亦有此字彼字王國
維釋為豐之初文本銘及辛鼎文說為禮字正通禮者
謂禮禮之也

即以字為禮字禮禮之意者也陳氏則以字為裁割之義曰
即說文珪字此假作割成穀詩甫田以穀士女此言穀
百生豚則分百姓以豚

1260(3037)

1259(3037)

若據郭說則銘文之意為士上與史吏對百姓行儀禮贈之以
豚之意儀禮者乃長上對於使者所行接見使者而贈之以禮物
者也然此銘文中昔商之主語為王為紀念其寵樂而作器者
也因而以此解作儀禮於文者不合

又若據陳釋則是以銘文之廢于成周昔百生豚為王命之語
則是士上史吏分百姓以豚然下文與眾事相連義應解作相
同之關係則是兩人更贈百姓以肉豕此亦於事理不合
者也

百生在經籍中作百姓用如天下之群黎其意蓋與金文中則
言一族之子生喜鼎中余其用吾我宗子與百生亦與百生
為對文又詩歸中亦有保厘兄弟保厘子孫兄弟與子孫對
舉子孫亦為百生即是此銘之賜賚乃賜臣辰一族子孫以豚

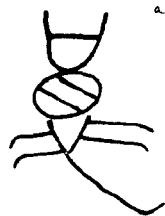
對相當於宗子之族之代表則賜之以肉豕其等士上史吏兩
者或其中一人受而賜等賜賚者也蓋在此般禮中臣辰之族
為助禮者若以百生解作廣義之百生則是指參加成周般禮
之庶般邦族之義以此等邦族為賜與之對象似難於理解

昔之字辛鼎周存中亦見曰虔用昔厥刺刺多友多友贊幸萬年
佳入辛作寶器以昔于朋刺多友多友亦與幸萬年眉壽云云
因乃以鼎為昔朋友者从其語例言之則與禮禮昔用卿爾皆
克禮佳用獻于師尹爾友婚媾又杜伯盤于好朋友等之贊禮
好等之意相近此器中昔贊對文並言以長上得賜與之事若
如王說讀作豐則蓋為隆賜豐厚言褒賞之盛之語也(金文通

釋第七輯三四五—三四七頁三。臣辰貞林潔明譯

1262(3037)

1261(3037)



李孝定曰字不可識

李孝定曰字不可識

李孝定曰字不可識

參閱前引徐朱德熙表錫圭說

1263 (3038)

𠂔

李孝定曰字不可識

孫詒讓曰𠂔與前敵余以邑𠂔有嗣又云余既歸有嗣曰𠂔

今𠂔𠂔二字同但二字筆畫互有美缺無由實定此敵作𠂔與

彼又歧互不能辨其形聲諦審其偏旁與前師餘敵𠂔𠂔徒不

本後毛公鼎命女𠂔嗣公族𠂔𠂔三𠂔字𠂔字左有相類舊並

釋彼為繼其字亦見薛叔誠敵𠂔敵師敵敵敵敵敵敵敵敵敵敵

齊侯鐘並傳纂清舛不甚可據皆不及毛公鼎之明哲而吳縣

潘氏所藏克鼎亦有此字作𠂔據拓其字尤明析諦審當是從

井从女即說文女𠂔之𠂔字也說文从部井从女𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔

字例如前我部鼎𠂔字作𠂔即其比北者金文左右易𠂔𠂔𠂔𠂔

同部如邦邦𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔

𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔

1264 (3039)

鼎左从𠂔正同惟彼右从𠂔此左从口小異亦從口𠂔字不

見於說文蓋亦𠂔之異文聲義並同毛公鼎𠂔字為𠂔之段借

字經典亦多作𠂔其義為使師餘敵諸器義並同此敵曰𠂔𠂔

我考我母令前敵又曰𠂔有司則當是聽從之義𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔

俾𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔

使從也古音并與比卑聲並相轉𠂔有司謂從有司亦猶少牢

饋食禮宗人諸祭期主人曰比子子也并卑聲類並相近故

又與比通詩大雅皇矣篇克順克比樂記引詩比比餘論卷三第

作俾比亦訓從左昭二十八年傳擇善而從曰比比餘論卷三第

二五至二六頁召伯虎敵

高田忠周釋讀曰𠂔字義正與下文合但我形甚異然我字至

多變體不難數作打明我壺作林未向父敦作𠂔王孫鐘作𠂔

此右旁在𠂔二形亦為我字異文無疑也阮氏云皆有闕畫疑

是古文𠂔字也吳大澂以為𠂔字皆形全無涉今正然則此篆

1265 (3039)

元𠂔字𠂔即古文𠂔識音近故段借為識且謂此篆一口向

上一口向下兩口相背者所以論識難語然此篆雖言識字異

文亦依段借義為形復出可知矣(古籀篇五十二第一六頁)

郭沫若釋讀讀作𠂔見兩版一四四頁兮甲盤

李孝定曰按孫氏古籀餘論釋召伯虎敵第二器銘文有𠂔

字亦以本𠂔𠂔字並舉是也惟釋此為𠂔讀為比謂是聽從之

義則有未盡孫氏又引毛公鼎𠂔字以証此字說更非是二者

非一字也此字當以召伯虎敵第二器作𠂔者為正象一人

父縛兩手旁有口臨之執訊之義也郭氏釋讀極是甲骨文作

𠂔較此略簡此作𠂔右旁已有讀變不可遽定然審之

𠂔

𠂔

𠂔

1266 (3039)

劉心源作口無釋（古密卷六第七頁召伯虎鼓）

參閱 0275 訊字條

咄

召伯蓋
<1312>⁷
今余統△

李孝定曰此契前文疑係一字郭氏還定為一字見特論變更甚耳

1268 (3040)

3

毛公鼎金口金雁
(680) 金△金雁 眉

徐同相釋艱曰字位喃从口角聲詩小戎雲艱占白金為飾从古卷十六二十九頁周毛公鼎

吳大澂曰：「鳴徐同拍，釋作鰭，說文鰭，環之有舌者，或作鑄。詩小戎鑄以鰭，輶箋云：『鰭以白金爲飾。』大澂按：『魚象環下有舌形，即扁鑄之鰭。如今鐵，鎮帶環者，上有缺口，可啟閉，此則置于軾前，以繫駟，內轡，徐釋是也。』（憲齋四冊九頁毛公鼎）

劉心源曰喻近人釋釐云从角从口象環有舌形案說文釐環之有舌者从角實聲詩小戎箋輶之釐百白金為飾疏納騂內鑿鑿於軾前其鑿之釐百白金為釐也(奇觚卷二十五頁毛公鼎)

高田忠周曰按古編補引徐同柏釋作釃詩小戎箋釃以白金為師字作𠂔从口角聲大激又云按𠂔以繫駝內轡徐釋是也然審篆形𠂔與釃字絕無涉也又孫詒讓說此為噎字段借為釃然字形迥隔因謂此亦為贏字異文也𠂔正與上文合𠂔亦與石鼓文及金文𠂔字相合即𠂔之異文又貝作𠂔側見質寶等字此𠂔之側文也但銘意段借為釃字釃字本義訓冠系也以糸嬰聲亦非銘意繆轉義為周禮巾車樊繆注今馬鞅司農注繆謂當胸銘意是也詩采芑鉤膺絳革傳樊繆也繆膺義相關如此故銘云金贏金雍文義至順贏繆古音同部也(古) 篇九十九第(二)頁

張之綱曰徐同治釋艘云字作𦨇从口夨聲詩小戎箋艘以白金爲飾二吳从之憲齋云魚象環下有舌形孫詒讓釋𦨇字云

1270 (3041)

1269 (3041)

李孝定曰字右旁所从與角絕異張之綱氏已辨之徐同相氏釋讀為臙非是孫詒讓氏釋為臙於形最為近似然臙字師實蓋有之作臙臙臙李蓋作臙其上均从臙文臙形之省蓋象首形此上从子雖未知是否臙字然與象首形之出不類聞一多氏遂以臙子臙一字為說以証此臙釋然臙免相通古文子中殊乏他証聞氏之說雖甚辨終不可以此字之形與甲骨文明字最近唐氏釋明讀為明似較通達也

1275 (3041)



毛伯之臙 毛伯之臙

仲此實字也

柯昌濟曰臙舊釋角非是宋師案故作朕後男臙故臙字作臙正與此同形可證釋華二〇頁伯臙父故李孝定曰此與臙文為一字特彼上从子此上从臙為小異耳

1276 (3042)



毛公鼎解字 毛公鼎解字

徐同柏釋曰臙字古今字（从古卷十六二十六頁同毛公鼎）

吳大澂曰臙與魯公伐邾鼎字相似古克字也意樹四冊五頁毛公鼎

郭沫若曰字舊或釋為或釋克若刻吳式芬釋襄孫詒讓初疑是器字後以吳釋為近是云說文四部設篇文作與与此相近設襄聲同此疑借為贊襄之襄克鼎有器字或亦釋襄案此當即列字亦即是又管子小匡挾其槍刈耨耨蓋本耨草之器即象耨形也象柄端有耳以容手又之引伸有治理保養扶植諸義此言大辟厥辟猶克鼎言保辭周邦詩南山有臺

1277 (3043)

保艾爾後又克鼎思學厥心其字下倭从毌當亦之繁文蓋又之為器可用以剪除草卉亦可用以剪除蟲害也（全攷二六一頁至二六二頁毛公鼎）

張之綱曰篆作臙下半泐徐同柏釋為臙據古釋為襄案齊釋為克孫詒讓云釋襄近是說文四部設篇文作與此相近設襄聲同此疑借為贊襄之襄克鼎有器字或亦釋為襄綱案散氏盤襄字有作臙形者與此畧同（斜釋二頁）

高鴻緒曰臙字下體已泐吳清卿讀為克王靜安以為釋為克者殆非也近人依劉幼丹說讀為襄字謂贊襄之襄从設省亡聲隸定為臙今按其義則是其形則未之敢信（毛公鼎集釋七七頁）

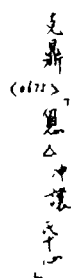
1278 (3043)

李孝定曰吳式芬釋裏與劉心源克鼎釋文同孫詒讓郭沫若兩氏从之並引繡文裏為証於字形優有可徵於銘辭文義亦覺順適於義為長諸家釋克釋郭氏一說釋文並有未諦

亦名以洛水洛水之上亦名以覓是其舉做宗邦實無疑義覓與畧雖似小異然既同戴又為部首義必相同而一從各聲一從覓聲又為同一聲紐現母其為一字通假亦已明白是故覓自當在洛陽傳近麻朔卷一第一五頁小臣避餒郭沫若釋覓見兩改二三頁小臣避餒李孝定曰徐吳兩氏隸定作覓是也

徐中舒曰罍從𠂔。魏三字石經尚書君奭古文克作𠂔。形均與此相近。孟鼎女乃𠂔余乃𠂔。一入其左旁。所從之𠂔即此字之下半。吳大澂憲齋集古錄釋為克。此為地名。其上半所從之𠂔說文毇字從此。籀文毇作𠂔。從𠂔形尤顯然。集刊第三本二分二八一頁。趙敦考釋。

之外城也。城之內為自成周之東方之基也。
三編七二七頁。六三。八。匪。設。林。深。明。譯。



高田忠周曰𡵓即孌字與𡵓通此𡵓从女从𡵓即古文𡵓字詳于四部說文𡵓煩𡵓也从女𡵓聲𡵓从衣𡵓聲故與此从𡵓聲者相同矣朱駿聲云孌孌字古多以孌為之（古篇篇三十八第三〇頁）

參閱 343 條郭沫若說

方濟益曰：从門从女，或釋恪未礪。（經遺卷四第三十一頁譜夫克鼎）

李孝定曰劉心源擇讓郭釋裏讀為讓其說是也高田氏釋讓於形雖得而於義未合其後說是也而說字形稍覺支離餘說並未諦

器

散盤

散盤之有制案也其從△

阮元曰：散盤之省。從古卷八八頁散氏盤。

高田忠周曰：按萃編釋兩非阮為長說。文韻篇炊乞从兩聲。又韻从昭頁為形而或體省作賈。此从賈又省耳。省文之例亦多此類矣。《古籀篇》七十六第一九頁。

高鴻縉曰：兩與𠂔亦一字之異。作說文𠂔讀若過。大徐古木切。段氏曰：今俗作鍋蓋與鼎文作兩象兩有柄變而為𠂔。王靜安曰：兩从兩四聲。說文四讀若謹。古音歌元二部。陰陽對轉。故𠂔字亦以四為聲。又許君謂秦名土𠂔曰𠂔而𠂔从蓋𠂔攸从鼎。

散氏盤皆閩中器。是秦語亦本其地。古語蓋惟閩中有是語。有是字矣。《散盤集釋》五七頁。

高鴻縉曰：說文𠂔秦名土釜曰𠂔。从兩平聲。讀若過。古木切。徐鍇曰：土釜瓦為之。又文趾之南或用土為鍋。

段玉裁曰：今俗作鍋。土釜者出於蜀也。

按字象器形。器似兩左有柄。右有煙口。或作𠂔。兩見散盤。王靜安以為四聲。說文四讀若謹。古音歌元二部。陰陽對轉。故𠂔字亦从四為聲。《字例》二篇（二一頁）。

王國維曰：兩从兩四聲。說文四讀若謹。古音歌元二部。陰陽對轉。故𠂔字亦以四為聲。《觀堂》二〇三八頁。散氏盤考釋。郭沫若釋兩見兩改一二九頁。矢人盤。

1288 (3046)

1287 (3046)

李孝定曰：王郭兩氏均疑定作兩。可从阮氏以為从兩。品省無據。

𠂔

達自易趨案白△

丁佛言曰：𠂔遺自𠂔。錫貝五朋。疑𠂔即越。《古籀補》附錄五頁。

高田忠周曰：按舊錄釋今審片。即𠂔之小變。此越字也。越為王



臣名也。《古籀篇》六十三第八頁。

參閱《條吳閩生說》。

李孝定曰：此字及走从尸。尸似月字。當是从走月聲之字。高田氏以為尸即𠂔之小變。乃越字。說有未諦。吳閩生氏疑定作𠂔。謂即召公名夷之變體。蓋以𠂔字與此為一字。謂其字乃从大从𠂔。𠂔即𠂔之形變也。按古文字未定。形偏旁位更重。

1290 (3047)

1289 (3046)

 舊釋趙
 趙專
 趙自 趙即獵字見石鼓文 (續古卷四二十三頁愛鼎)
 △對王休

阮元曰：趙即獵字見石鼓文。(續古卷四二十三頁愛鼎)

高田忠周曰：今審此篆从走从鬼，鬼與下文鬼同而字書走鬼兩部無趙字，似當為古字逸文。又按說文趙字从鬼聲而鬼部脫趙字徐鉉補之然趙見爾雅古有此字明矣趙或亦為姓字與姓訓醜也故从鬼實从醜省从佳聲與姓相同因謂趙亦趙字異文說文趙下云从走佳聲此即从醜省聲左傳桓十七年公會邾儀父盟於趙趙為地名亦當為人名(古籀篇六十三第一六頁)

吳闓生曰：此趙疑即召公名爽之變體今姑以趙書之其字从大扶鬼形也隸變遂為爽耳趙自作𧈧形尤明其所扶之字下有口象器物形乃𧈧字之省文故史篇謂召公名醜其確證也爽與醜音亦相近其字則本為大扶醜二文本一字耳今人考古介於筆畫之間固見其慎而古文筆畫最變幻難定如此器趙字再見則書為𧈧故皆以趙字釋之實則仍是一字凡一字再見則往往變體書之亦恒例也趙自亦然其字再出則書為𧈧其所扶為何不可知要之仍為一字之變形則斷可識也讀者不知其為一字或讀趙或讀醜或讀𧈧故詞意往往難明又其字下皆著止故但知為走旁不知此等偏旁可增可減隸變或為走或為大一也即如此鼎永字从彳从止作彳實仍永字他器萬年無疆多書為彳實仍萬字皆一例

也古文卷一第一二至一三頁愛鼎

吳大澂釋道見憲齋十三冊十二頁趙專

郭沫若釋趙見兩政一五頁趙專




李孝定曰：字从走从鬼，鬼不知何字吳大澂氏釋趙按金文書作𧈧若𧈧與𧈧迥別說非吳闓生氏隸定作趙謂即爽字亦誤說詳𧈧字下高田氏謂从鬼於形已不類又由鬼字連及趙字又由音近遂謂趙當為姓更進而謂此當即从走佳聲之趙其為句辭昭然可見蓋即今此字誠為从鬼則不取其義必取為聲果取其義則與佳字無涉若取為聲則鬼部之字多矣


又安知必為趙省聲乎

上^a
 中^b
 下^c


大蓋
王平呼天師曰易錫△觀星
王令命諸夫承日謂△曰癸日(

丁佛言曰越字从走同大敵柯昌泗以為趙字許氏說趙趙趙也
趙下曰趙趙久也案字書趙本作趙又與趙同然則此當云从
越从肖省古攝補補卷二第六頁

高田忠周釋趙曰此篆左作右作而下行少省又上从友夕多省略也此蓋籀文又或奇字者但姓趙未聞史述之乎抑亦假借字未詳矣據古錄引許仲林說疑彼字履古文从舟从頁从足此省足猶齊侯鐘作省舟也左傳僖四年賜我先君履注履所踐此說甚惑矣此篆無足形亦無頁形與履字別(古籀篇六十三第一三夏)

高田忠周曰按古彳走兩部通用趨遼當同字也起古文作亦其一例耳說文移遷徙也从走多聲經傳皆借移為之蓋趨下曰趨趙文也行還文之意亦為還遼轉義也方言跌聲也注江東言跌一曰小兒行跲同趨亦同遼也古篇篇六十五第

柯昌濟曰然字從耂釋从犬从目从走古字之異體說文狀犬肉也从因犬此从目疑為从因之逸體也韋華一八二頁大敵張曰昇同拱字从扌从止从𠂔非从犬从目从走柯說非是

李孝定曰 a 形从  乃走字古文偏旁走走得通此兩从之蓋古文特例也其右乃月字月戌古聲韻皆同卜

解有聲字羅振玉氏謂為歲月專字以別於天體之月其說蓋是字即从月戌聲也此从走若走月聲疑越之異構釋然釋趙釋趙並有可商

劉心源釋作徙曰徙舊釋作然云既从口从止又从小篆說之
戈火此東周文字之紹籀文而益蔓者非古文也案此字从口
止从炎止即炎實徙字說文徙古文作𡗗碧落文徙居側盼之
規作𡗗知此口即夕之省文走即走又从止則合徙𡗗二字為
之煥季盤徙介居作𡗗可證吳中丞既誤為然又率亦東周文
字過矣（古審卷六第二頁大駁）
郭沫若嫌定作趨見兩改八七頁大駁

$$[H]^a$$

同婦鼎
 亡△
 婦事鼎

吳大澂曰：『當卽世字異體。禮記曲禮去國三世釋文：念孫云：三冊五頁作世婦。』

高田忠周曰按从走而省巳疑亦歧變勢即迭字也古籍篇六

李孝定曰吳氏釋世無據按世當由卅字衍變金文卅作卅世作卅其餘世字形多變與此迥異吳說非也高田氏釋或於字形差為近之然未可遽定也

1201 (3052)

1302(3053)

飛

飛 自 丁 寅 降 尊

方濬益曰字不可識以點畫求之疑述字(綴遺卷十一二十二頁)

劉心源曰字从走从巳即耳从尸即反又字合之為趣(奇觚卷五七頁趣尊)

李孝定曰字不可識

ΨΦΦΥ

初 丁 寅 降 尊

陳夢家曰「饌」構形極複雜從素从追从土它與殷末卜辭(前

237)所見一樣乃是祭名洛誥戊辰王在新邑烝祭歲與此銘所記同例召誥越三日丁巳用牲于郊牛二越翼日戊午乃社於新邑乃于三月丁巳用牲于新邑之郊與此銘同在一日可能是一事(金選一。四至一。五頁)西周銅器斷代35士卿尊

李孝定曰陳氏錄定可從

周法高曰于省吾雙連下卷容庚參以此字及左下方之小「工」字分為二字陳夢家合為一字陳氏以白川靜以之以為左

1304 (3055)

1303 (3054)

旁从官止右旁及史字篆文下字為工實為一字史字形似率字或體象附遊饌之飾左旁从自形自乃胙肉之象本來用於軍事(金文通釋二七敬士卿尊白鶴法高案此字右旁與殷契中五德祭祀之一崇有相似之處李孝定曰說文親食也从風从食才聲讀若載于氏始觸類旁通是諸形並為親字董先生說與之吳合而說一為之論變較之于說尤多勝義二說誠不可易也(集解四頁)案金文此字右下方之「尸」即卜辭中之尸或死也左下方之「止」乃其聲符此字殆即洛誥戊辰王在新邑烝祭歲之烝之本字也(必集金文有用作烝祭之烝左方之自白川氏謂為胙肉之象然則左上方之「尸」乃象倒口以就食也上聲據周氏上古音韻表止隸之部止韻照紐三等古音為(三)烝隸部蒸韻照紐三等古音為(三)聲韻皆切

1305 (3055)

合觀載隸之部代韻精紐古音為(三)亦同源字也

白川靜曰饌卜辭中有相似之字用為祭名于氏將之拆為二字以上字之左旁从官从止右旁為史之繁文下字為工字然猶當是一字史字形者似率字之或體象附有遊饌之類之飾之象左旁从官形在者胙肉之象本為用於軍事之物作器者之飾似為士職者故此或為含有軍禮之意義者也其造字之意與歸字有相通之處獻侯鼎中言宗周之大祿孟爵則言成周之初率此蓋言新邑之初饌之事故可視為三器中時期最早者器制銘文亦與此相配合者也(金文通釋第七輯三一九—三二〇頁二七敬士卿尊林濤明譯)

1306 (3055)

知真諦

周作人文考△公室傳集

劉心源曰：道從仲，即黃古文首字。从止，即是。非德字也。奇觚卷十六。十二夏伯襲鼎。

郭沫若釋瀛見兩政一一六頁伯震鼎

李孝定曰劉氏釋道按西與德字所从西字同非首字下亦非
从心劉說可商郭氏釋獮於形為近然西亦非頁字但當隸定
作獮耳

易卦彖辭

郭沫若曰：今案其字當從四止才聲。止本此之初字。四止示足跡之
四出無定也。當即彷彿若仿之異文。證易乃疊韻聯綿字。卽仿
徨若彷徨。莊子逍遙遊大矣。此二聯綿語古無定字。或作方羊。左氏
七年傳。或作仿伴。呂氏春秋行論楚辭。又或作仿洋。淮南原仿洋。楚辭
招魂傳。遠遊淮南釋神訓。
國語英語作仿佯。荀子君道篇及禮論篇作方皇。本器則作砒。
易耳。（金攷一八一頁釋砒易）

楊樹達曰：雖卽喪字，他器喪字皆从四口，此从西止，為異耳。旂鼎云：文考遺室，寶尊散喪，旂用乍父戊寶尊，與此銘句例正同也。（續跋八十四頁易鼎跋）

1308 (3057)

1307 (3056)

子書吾以弗取故上明
之。臣等讀卡弗致治洋
道進卷二

李孝定釋義曰論變更甚無義可說（集釋四四）（長）

李若定曰：喪字自甲骨文以至篆文，訛變至多。此从四止，从艹，即甲骨文从艹作^𦰇者，所訛變。楊氏釋喪，其說可从。郭氏釋^𦰇，可商。盖从艹，猶它文从^𦰇。均甲文艹形枝幹之訛變，固非方字从四止則葉形之訛變也。

1309 (3057)

李幼文題
(1225) 李幼文△空寶殿

張目昇曰按超即超字讀作聲超聲古音同在宵記合聲古音超屬徹紐聲屬澄紐銘文超作寶餽即聲亡寶餽李孝定曰按字从习似非从刀疑字乃从走知不可聲之字似為李父之名讀為語辭之聲竊謂可商

1310 (3058)

後

女作丁三區同鄉王連達
送達 無出入同意
用卿王

作

仲井

用卿王

作

大信

王公偉大信易錫

送達

用卿王

作

送達

用卿王

明

伯卿文鼎

用口王送

送達

作

伯卿

送達

用卿王

送達

用卿王

劉心源曰：促即後即退說文叙下云：「古文夷字此銘从卜即
尼詳井尼」又从彳為後說文後行平易也此即韓詩周道倭夷
之夷毛詩作倭遲者也。四壯釋文倭本又作 匡課正俗八遲即夷
也古者邊夷通用說文遲重文作退即後彳是二形古文通用
是從後遲遲一也遲待也（奇觚卷三三三頁太保敦）

高田忠周曰：按此銘篆法古樸勁銳真殷商文字也故與卜辭
正合但銘意非泳字本義疑段借為永字禮記中庸以永終譽
又詩既醉永錫祚允傳引也之類是也即領祝之詞或云永賞
古音同部借永為賞古篇篇四第三頁

郭沫若曰：依字說文云：讀若綿縣之碑。案此即讀為俾使之俾。
（兩政二十七頁大保敦）

參閱 0114 逆字條馬叙倫說

柯昌濟曰：疑衍字衍大也卜辭有卜衍貞之語其字與此字亦
同从才从人从水取漫衍之誼古會意字也（華一五九頁太
保敦）

吳蘭生曰：旅嘉也字本作從旅同字從舞即旅舞也陳公子
叔原父作旅觀旅字作旅可證此字或釋永或釋道皆不可通
不知古文旅從永三字每相亂也（古文卷三第參三頁太保敦）

吳式芬釋道見據古二之三第八十三頁大保敦

吳大澂曰：疑古導字之省（憲齋七冊五頁大保敦）

李孝定曰：此下所收實非一字。a. 兩形。容氏錄定為途是也
然謂途與出入同意其說未聞。b. 兩文。當从郭氏說釋旅
大保蓋銘旅字郭氏讀為俾亦是。此文劉心源氏釋遲吳蘭生
釋旅並謂旅从同字柯昌濟氏釋衍馬叙倫氏釋从其說並非

高田氏釋永謂假為永按古永永永不分於字形尚不誤惟謂
借永為賞則非。a. 兩形則又是一字不可識。
b. 由川靜曰：王口大保第二字據古釋道日導之使升也解作永

之而使之升也。以乃乃賜與之禮之事悉齊古同奇觚非之
乃是後字得之義也。其成功而行賞賜也。曰
說文後行平易也。此即韓詩周道倭夷之夷毛詩作倭遲

者也。匡謬正俗八遲即夷也。古者遲夷通用。 遲待也
此銘蓋言王得大保成功而歸錫之土地
此說於字形上有困難。又從銘文之文例而言。得其成功而歸而
賜與之說。實為遲遲之解。吳蘭生釋第二字為旅。旅嘉也。蓋以

為嘉賜之義也。而以乃字難為从字。改與與旅。與相因。以陳公子
叔原父作旅觀之。旅字从乃字作為証。以乃向來釋第二字為永

大主釋字爲依據說文依讀曰釋釋之釋以爲乃俾使之俾即使從之語也。向作最者乃下內之休辭爲使大保賜休也。命人行賜與之事之例。亦有如中氏之器有南宮氏。今大史先襄土等例。然本器中上文記降征命于大保。大保克敬亡謬。乃稱大保之事功者也。故宜賜者非大保莫屬。若休爲受賜者。銘文中不應以爲其事功也。後微后中作第二字不識。所當闕疑耳。而無釋道考則釋如字。陳氏則依郭釋作依。而以休爲休賜之義。以受賜者爲大保。章以爲即衍曼衍之義也。然文義亦難通。

余意第二字之字形與永字有相似之處父乙蓋三代六之永寶之永字是也然永多因爲制詞此處用爲初詞者則僅見於列

周之器之簠簋則永祐福以文意言之字明顯也乃表示王對于
大保之功而褒賞之行爲之字也字之所以有有像似也蓋
一之像字然作爲動詞之位乃用爲喜似先人之意保似也較
二十者爲同一人之器其字形稍異與本器爲同字見於歐美一
之中每設銘曰用饗王送口送口故典送送同語今姑以口爲
與送同義之字至之意也（金文通釋卷二輯六二一六四頁三）
大保設林澤明譯

周法高曰李氏說「レ」兩文當从郭氏釋為「レ」讀為「レ」解作「レ」
「レ」文逆象「レ」傳猶言「レ」逆造同義今猶言「レ」派遺容氏謂與
出入同意者謂他始有言用餐食王出入也

1316 (3059)

1315(3059)

受_レ命_レ 大47 復_レ桀_レ造_レ凶邦_レ 大97 用_レ爵_レ戾_レ逆_レ造_レ 冬終 用_レ竈_レ造_レ德_レ安_レ 終多

庚 古文得蓋
《說文》
又泉
庚 庚之
《說文》
乙專
乙△陽奔日口


 德
 丁自 德作文
 (2556) 丁 止
 文 丁


 德
 克鼎
 (0677) 易女中
 某入變


 德
 重 15金

實憂
 △參傳其
 衆止
 陸虞重
 陸侯△逆
 作憂
 上宜登
 上宜儲
 上宜儲

之畫口鐵十台口
大△之從鐵登其結

高田忠周曰按銘似人名然審字形正从走从支此曾侯鐘銘
自西夏之鼓此字史上有乙此為鼓聲也(古鐘銘篇六十三第四頁)

1318(3060)

1317 (3059)

吳式芬釋遂見據古一之三第大三頁遂未置

郭沫若釋遂見兩改一二一頁大克鼎

李孝定曰此下所收亦非一字。至_上當隸定作_遂形與上五文或是一字不敢遽定吳氏釋遂無據當以郭說為長。子形高田氏隸定作_遂謂_上有_乙乃篆筆其說或是不然則當隸定作_遂與前六形迥異也。

1319(3060)

待

遂_上丁_上鼎

高田忠周曰按古音_上土同部代土聲以_上聲不為異矣_上實泰字段借為_上耳(古籀篇六一五第八頁)李孝定曰_上从_上从_上字不可識高田氏謂_上从_上為_上即泰字假為_上按_上形不得釋_上其說可商。

1320(3061)

逌

王_上逌_上王_上之金_上

李孝定曰_上从_上从_上乃_上造字_上即_上篆作_逌許訓疾即此字也。

1321(3062)

逌

康_上逌_上清_上上_上果_上高

逌

以_上逌_上逌_上以_上逌_上以_上逌_上

逌

以_上逌_上以_上逌_上

逌

以_上逌_上以_上逌_上

以_上逌_上以_上逌_上

以_上逌_上以_上逌_上

以_上逌_上以_上逌_上

以_上逌_上以_上逌_上

以_上逌_上以_上逌_上

以_上逌_上以_上逌_上

以_上逌_上以_上逌_上

周法高曰逌字作_逌甲骨文有_逌字_上辭通纂攷釋第三八。片下云。

逌當是古疑字。象人持杖出行而仰望天色。金文伯疑父_上文作_逌从_上與此从_上同意。牛聲也。秦刻詔版文_上疑作_逌从_上省省_上存止子聲也。小篆作_逌雖稍譌變亦从子聲。子聲本聲與疑同在之部也。說文謂从子止_上失聲者未得其

1322(3063)

解形聲之字例當從起古人疑字自應作僕若僕矣
說文疑字當是返字的論變（零釋五頁康侯殷考釋）

高鴻緝曰羅振玉解甲文天字天字曰許書無此字殆即疑字
象人仰首旁顧形

卜辭通纂曰凡「」當是古疑字象人持杖出行而仰望天色
或加牛聲秦刻詔版加子聲
子聲牛聲與疑同在此部

按此字甲文天字原象掉首傍徨之形為疑感之疑之初文
倚文畫物託形寄意動詞至商文作「」者傍徨於作乎否乎
也作「」者策杖傍徨於行乎止乎也作「」者策杖傍徨於行
止之意甚明金文作「」者亦傍徨於行止之意作「」者意與
前同特字加牛為聲符耳秦刻詔版文作「」者就前字變入為
大變止為「」而易牛聲為多聲也至小篆作「」者與詔版文

無甚差異而小篆「」字則詔版文之省去子聲者也故以
上各形皆一字之衍變（參劍二篇二六六頁）

王獻唐曰「」至于金文疑字从「」从「」就是「」字玉篇「」字周
代康侯圖章有「」體渚白送尊有「」體金文編列在附錄裏
實都是「」以後用牛法音必定迭有變音不得不注總之疑字
本訓為進初只作「」从「」从「」周代前期金文用之以後加牛
注音周代金文亦用之訓作疑惑乃是同音假借假借而小篆
字又寫錯无怪說文沒法講通（黃縣吳器九四頁）

周法高曰「」貝塚茂樹新出禮伯達器考（東方學報京讀）禮司土
達即禮司徒達吳象人持手杖凝然而立以為說文「」字條
不敬捷其背之捷適合開口發大聲叱責以杖打之形狀白
川靜以為「」乃疑疑所以非打杖叱捷之形（金文通釋一四康侯殷白銅美術館）

誌事
四縣余謂當釋為疑與戴音近相通即史記聘季載之名也
疑

李孝定曰各家釋疑是也王獻唐氏以為从「」長聲於說為長
詳見前吳字條下

疑

齊碑「」人「」徒
大宰宰

疑

子未名金
中判「」徒
之「」「」

潘祖蔭曰吳清卿說「」說文曰古文旅周禮大司徒辨邦國
都鄙之數此从「」从「」都省疑即徒字（擊古二冊八頁齊子中姜鐸）

吳大澂曰「」即徒字未子釜鐸字即此字（憲齋二冊二六頁齊侯鐸）

吳大澂曰「」从「」从「」者省聲釋作徒（憲齋二十四冊二頁陳太公子和子區）

高田忠周曰「」字書所無此當光異文考石鼓文籀文多从
走走以取茂美此亦當是又或从遠省左莊二十二年傳光遠

郭沫若曰：「遠字原作𨔵，从走亮聲。叔夷鍾有惑，亦从亮聲。彼

讀如都則此正當為徒^呂（兩攷二二頁素鈔）

郭沫若曰徒從吳大澂釋綸鑄大徒大宰亦作弟也。与此同。惟吳說為徒御之徒則非是。余謂徒當是刑名。言給徭役也。金攷

張孝達曰：小篆徒从彳从土。此从彳从省，省是古文。攀古二册第十三頁齊子中姜麟。

李孝定曰各家釋徒下可从高田氏謂是光之異文光字古文上均从火與此迥異且釋光於銘辭不能通讀其說可商

旂作又度事又考
 之考△
 經史又頁
 與自
 △自見之
 實受事于節

王孫望者鐘
王孫△者墨丹
其志金

^a 丁佛言曰：此父戊鼎疑遺字，或以為送字。右从倭省，說文籀作𠂔。古播補補附錄四頁。

強運開曰：以王孫鍾鼎世即遺諸人名也。丁書入附錄疑為

遺之異文連開按丁說是也林義光文源云說文災古文黃象形論語曰有荷蕢而過孔氏之門按古𠂔𠂔又云申古𠂔𠂔

非申字當為饋之古文一象物形二象兩手奉之以饋人留鼎

遺亡猶从彳此篆从彳即貴之省从走並从彳定為遺之古文
可以無疑

古鑑三補卷二第九頁

^a 高田忠周曰按此篆似遺有異蓋遺字也小即昭之省形此或與貴通古籀篇六十六第一五頁


郭沫若曰王孫遺者遺字作從余曩誤釋為遺今案所作

父戊鼎亦有此字。曰文考。崇。寶。賚。弗。敢。速。以文意。字形。而推之。正應爲遺字。（兩攷一六一頁王孫遺者鐘）

α 予省吾釋遺見雙選卷下一第三頁旂作父戈鼎 三之卷

一第三十一頁旂鼎同。

李孝定曰此字各家釋遺可从郭氏考遺者即擅弓之容居並定其時代為邾宣公說尤詳贍


 毛公鼎
 <060>
 勿佳壘△律
 廼氏

高田忠周曰按古攴補釋建字是但彼篆文有誤今正如憲疏集古釋作遠庶人資遠資共非吳氏自家矛盾也今審篆形从

是，彳又三部古文通用也。又聿加四以涉秉字，秉建古音同部，知是从聿从彳，東省聲，建字餘文顯然者也。說文禮立朝律

也从聿从彡。朱駿聲云：按从律省。廷省甚有理。馬說文：律下云。

均布也从彳聿聲然聿為最古筆字彳者行也均布之意筆者書也律令之意筆令以流行普及此謂之律而制定其律此謂

之連然其意連為先律為後而其字律為先連為後故律字早

已受意方建而生點建亦固受意于律此所註建類一首同義相受者即轉注之正例也宜立律為首建字屬之許氏收律于

1329 (3065)

1330/3066

予部收建于足部者誤矣今正若強依許氏例律建皆當收于

律部其古篇六十四第三四至三五頁

郭沫若曰速即律之餘文釋名云律累也(兩攷一三八頁毛公鼎)

郭沫若曰律乃律之異文律累也(金攷二六五頁毛公鼎)

張之綱曰徐同柏釋速據古同憲齋釋建孫詒讓云釋建近是

但建从又此从走者古文之變也其讀當為捷說文木部捷距

門也言難過捷塞網罟象筋又云雖即雅雅速者澤不下速是

其初亦同徐釋殆後又改釋建與(釋八頁)

王國維曰建鼎文作律諸家皆釋建然說文建字與延字俱在

又部而古金文延字與石鼓文建字所从之建字均从止不从

止則此从走者非建字疑律之或作也(觀堂二〇一頁毛公鼎

銘考釋)

李孝定曰此字舊釋速建王國維氏謂古文偏旁建字从止

不从走遂疑律字高田氏更講通舊說謂律建為轉注按建律

均从律律古祇作律未見作律者古文繁變似無此例高

田氏遂謂律加四以涉東字東建古音同部知是从律从走東

省聲建字繁文按形聲字聲符多為獨立偏旁如高田氏之說

聲符混於形符似為少見且讀律讀建於銘辭亦不甚洽適未

敢遽定也

1332(3066)

1331(3066)

張

秦公敦

強運開曰張也秦公敦以邵皇且縣嚴器各以受屯魯从遄从

豈豈即大之變體蓋即从走从歟為遄之餘文(古篇三補卷

二第八頁)

郭沫若曰遄殆歸之異文从走从市省鬼聲也(兩攷二四九頁

秦公敦)

吳闓生曰御近也各格也銘文御上作山華畫小變耳(金文卷

三第三十三頁秦公敦)

于省吾曰御疑微之或體微格猶言昭格爾雅釋言微召也召

昭古通(雙選卷上三第十八頁秦公敦)

張日昇曰按郭沫若謂从鬼聲也似非鬼郭說誤

李孝定曰字从走从止即鼎光諸字所从之偏旁从止不可

識于氏疑微之或體亦無確証吳闓生釋御說非郭氏謂从市

省鬼聲並誤強氏釋遄與于氏釋微同為無據

1334(3067)

1333(3067)

但休上

鄭始高 鄭始△母錄其意焉

徐同柏曰：鳩舜後氏周初封虞幕裔商孫關父之子胡公滿於陳遂為陳姓字从為从是鳩為姓為聲楚為姓亦佳遂知過即鳩字也（从占卷十六十頁周鄭伯鳩焉）

方濬益曰：為从是即荀子以偽為為之所本意古為字本作過或省作偽又省作偽說文是彳二部字多相通如迂之或體為征迨之或體為徂迨之或體為徂往之古文為迂迨之古文為迨後之古文為遠徐安行也人部徐緩也義相近是徐亦徐之消文其見於樂器文者如德一作德萬一作邁或省作萬或省作偽又省作偽皆是小篆分為偽為二說文以為訓母猴也偽

1335 (3068)

訓詐也後人不復知古為本作偽而荀子人之性惡其善者偽也二語遂為口實謹案欽定四庫全書提要曰：卿惡人恃性善之說任自然而廢學因言性不可恃當勉力於先王之教故其言曰凡性者天之所就也不可學不可事禮義者聖人之所生也人之所學而能所事而成者也不可學不可事而在人者謂之性可學而能可事而成之在人者謂之偽是性偽之分也其辨白偽字甚明後人昧於訓詁誤以為真偽之偽遂譁然指擊謂卿蔑視禮義如老莊之所言是非惟未睹其全書即性惡一篇自篇首二句以外亦未竟讀矣 潘益 宋禮論云性者木始樸材也偽者文理隆盛也無性則偽之無所加無偽則性不能自美性偽合然後聖人之名一性偽合而天下治又正名篇云慮積焉能習焉而後成謂之偽是荀子書中為多作偽不僅性惡一篇

1336 (3068)

也今得此銘可知過字以次過消之變 漢書淮南王安傳使人為得人而西也此偽為二（綴遺卷二十七二十八頁至二十九頁鄭始高）字古又互相通段

高田忠周曰：徐指莊說鳩舜後氏周初封虞幕裔商孫關父之子胡公滿于陳遂為陳姓字从為从是鳩為姓為聲楚為姓亦作遂知過即鳩字也此說未是此篆明从走从為亦當遠字異文而許氏从出會意之指遠矣彼或以出為它之泥定字耳朱氏駁聲云按遂迨疊韻連語此字後出或體之鳩即莊子食之季蛇字也亦復製字 韓詩羔羊遂迨迨漢童子遂盛碑當遂迨迨字亦作遂要古唯當作它它後作遂迨迨即許書迨字（古篇六十六第五至六頁）

1337 (3068)

而叔倫曰：吳氏引徐籀莊說……字從為從走，鳩為姓為聲，楚為姓亦作遂，知過即鳩字也，孫詒讓曰：說文本部有摺

字，此似從果從走，未知何字……徐字徐釋過辭長然謂是陳姓則未然，依文釋當讀為為，為為丑之轉注字，古書以差為進獻者，皆借為為，為，差高同為次清摩擦音，差音心紐，高音曉紐也，說文作為，從凡事聲，草差並從羊得聲，草為高之轉注字，而音轉入釋紐耳。（刻詞一二二頁鄭始高）

1338 (3068)

李孝定曰：字从走从為，當即為之繁文，金文中多見此例，方氏言之詳矣，方氏引四庫提要及禮論以証為偽義通，其說固是，然謂从彳从彳亦通過偽一字則誤，古文偏旁彳是相通，然夫見彳是與彳相通者，不能據說文徐訓緩徐訓安行其義相近遂謂彳彳相通蓋从余得聲多有緩義，徐字从人余聲，為人性之緩，徐从彳余聲，从彳有行義，余聲有緩義，故徐訓安行，安行

自

無事鼎... 官制... 虎臣

徐同柏曰：通即傾字問正也。通側猶云反覆審克之意也。
（自古卷二十四頁同郵專鼎）

徐同柏曰：通即傾字問也。通側猶云反覆審克之意也。
（自古卷十、十二頁同郵專鼎）

劉心源曰：結必舊釋。結釋余釋。結釋此二字見於古刻者。余所覽此鼎而外惟殷虛盤耳。必字與此同。無庸贅。惟此字設文作居。明是从厂从昌。凌非高字。盤文作𠂔。
亦是從系从昂。更非从高。即此鼎之𠂔亦是系。旁昌非編也。
致趨鼎惟王來格于成周年。𠂔。趨人名。謂有厚。毛公鼎書。
器。我用觀。厚。𠂔。皆厚字。與設設同。說文曰：𠂔。厚也。

1343 (3071)

从反昌及昌者。倒昌字。昌篆作合。倒之則為昌。小徐云：昌者進上也。昌進上之具。反之於下則昌也。又說文厚。今作从昌。从厂。昂。昌同形。故此鼎从系。系即古。从昌。篆盤从昂。設設直昌。厚為之同形。通殷實皆結字。而趨鼎毛公鼎之厚字。文義亦可讀。昌矢。分。不。集。韻。結主尹切。布帛幅廣也。或作綽。管子：君臣丈尺一綽。制注綽。古準字。或作準。周札內宰出其度量。準制注：故書準為設。杜子春讀設為純。詩：白茅純束。傳：純束猶包之也。箋：純讀曰屯。戰國策：錦繡千純。注：純束也。參見音義。知結即純束之謂。奇觚卷二十三頁無惠鼎。

1344 (3071)

高田忠周曰：按此篆釋皆非。阮氏云：通玉篇云：通也。謂通達反側之虎方也。不啻誤此篆讀。亦釋臣為方安。亦甚矣。又徐

莊說：通即傾字問正也。通側猶云反覆審克之意。成字與李頌鼎頌壘成字同。象方字从舛。舛反書成方。判法也。其誤出于一轍。而亦謂虎為成。其見殊非。又萃編引諸家：徐云：道字。顧鄭並云：顧字。亦皆未確。今審又蓋走之異。古者側之之變形。上从自。添八形。此與自字異。文作𠂔者。同形而異意。此自即𠂔之省。亦𠂔之大略也。然則此為通字。省文無疑。側訓通也。見史記平準書。東隱結云：通側虎臣。文義亦至順矣。古書篇六十六第三。至三一頁。

于省吾曰：孫云：說文無通字。疑貞之異文。通側猶之先後左右。虎臣即周禮虎賁。先後王而趨。以卒伍。詩：大雅蕩云：不爾爾德。時無背無側。毛傳云：背無臣側。無人也。此銘通當訓正爾。雅釋詁云：貞正也。謂正在王前。變選下一第一八頁無惠鼎。

1345 (3071)

阮元曰：通玉篇云：通也。虎方西方也。謂通達反側之虎方也。續古卷四第三十頁無專鼎。
吳闡生曰：通與傾同。古文卷一第二十一頁無惠鼎。

郭沫若釋：通見兩枚。一五一頁。無惠鼎。
張日昇曰：按貝上有一直畫。郭釋：通於字形不合。

1346 (3071)

李孝定曰：諸家並釋傾。通然實从貝。上不从卜。諸家之說似有可商。高田氏釋：通亦與字形相遠。說宜存疑。郭氏釋：通則是。欺字。異文。然字亦不从貝。

備

吳式芬釋道見據古一之二第
五十一頁通雅方濬益說同見

綴遺卷六第十九頁析子孫通敵

李孝定曰吳方二氏釋道字形差近然甫字當作斗與此所

以偏旁有別二氏之說恐仍待商

1347(3072)

十

余義鐘 余昇公見說古金

徐同柏曰「鑄」二字始釋作卽云夫無聲近夫義為扶三撫
甫通故古文撫作從扶从甫作撫是三文始卽字也(从古卷
十三五頁周卽倪編鐘)

劉心源曰「徐」或釋迹非上史迹說文無作卽古文作齊从几此

从春即古文又从几即「下」下文徐从几知古文登乘字从几

是會意(奇觚卷九十七頁傳兒鐘)

孫詒讓曰「此鐘為楚人僕兒作以祭其祖者所紀世系甚詳蓋
余義生述斯于斯于述生茲駘茲駘生僕兒是余義為僕兒之

1348(3073)

曾祖述則僕兒之祖也故述字三見前作扶後二作扶作
徐下增口形當卽且字說文且古文因僞祖之名特加口以為
標識故其文殊異古文多段且為祖金文龜甲文通例如是非古文述字或从且
也又因其為標識文非正字故作口與下文僞且字亦異皆金
文之變例也(名原下一四頁)

高田忠周曰「阮氏云迹字作徐又作徐古銘往往有一字而異
文屢見者余萬述者言余氏至迹始大也萬訓大見廣雅此已
失釋又殊傳會為說甚非又從古堂款識學引吳侃叔說云並
為卽字夫無聲近夫義為扶扶撫甫通故古文撫作從扶从甫
作撫是三文並卽字也春秋許僖公名業此其所作之器鐘也
此攷尤誤今審二文从是一文从才古文才走通用恆例也右

1349(3073)

作徐卽徐之省且為象形說文古文作徐下形亦同意也要乘
字轉義為登也升也故古文或从大从艸下象乘石與登字从
此又以豆借為乘石形同意也周禮隸僕洗乘石司農注玉所
登上車之石也其石形今於此篆見之又左傳宣十二年車馳
卒奔乘晉軍史記高帝紀淮陰侯復乘之正義進也然則乘字
亦當从走才會意卽知此篆為乘異文一字作乘太人之聯形
耳(古籀篇六十三第四一至四二頁)

1350(3073)

郭沫若曰「僞」一字說文無郭氏古文乘來从几卽此字所从
或卽乘之籀文如征討古作正後益為征若延(廣雅)也(兩攷
一六三頁傳兒鐘)

阮元曰迹字作迹又作迹古銘往往有一字而異之屢見者

(續古卷三第頁楚良臣余義鍾)

張日昇曰按阮釋迹於形音皆無所取郭釋乘迹是

李孝定曰阮氏釋迹而字不从亦張日昇氏之說是也張氏謂郭說近是也按此从人蓋人之端變說文乘古文下从几而此从几蓋乘石之屬與小篆象人乘樹其事類亦近劉郭高田諸氏以為即乘之繁文於字形優有可說可从徐氏釋無按小既非夫安得重傳作郭說非

1351 (3073)

迹

國美錄

(2997)

張日昇曰按國美錄無此字

李孝定曰當隸定作迹

1352 (3074)

𨾏

仲嚴父盤以秦李公來

吳榮光曰嚴氏盤來字與此畧同(錫清卷四第三十頁周仲嚴父盤)

楊樹達曰吳榮光釋𨾏為來孫詒讓云來字未滿餘論上廿亦不言𨾏為何字今考𨾏字从禾又與黍梁麥諸字連文其為穀名殆無疑義竊疑其當為𨾏字之或作也說文七篇上米部云𨾏早取穀也从米焦聲𨾏字从進進當為古文造字之省作說文六篇下走部造字从走告聲或以舟作船金文郭造鼎造字兩見字皆作𨾏其字既从走復从舟今此銘𨾏字从進殆造𨾏字有告之形也造𨾏二字古韻同在幽部聲亦相近故造聲之字可通假為𨾏弭仲嚴云用盛秬稻秬梁秬稻秬梁四穀

1353 (3075)

連文與此銘詞例正相類此以𨾏與黍梁麥連言猶彼文以𨾏與秬稻梁連言矣(續微一八二頁仲嚴父盤跋)

李孝定曰吳榮光氏釋來然於从舟無說故孫仲容以為未確楊氏以舟聲求之釋此為𨾏雖於字形無確証然殊有理致似可从也

1354 (3075)

寧通

寧通

寧通

孫詒讓曰案寧通舊釋為遠說文無此字改後五鼎通字作增此文與彼異同但增具形疑亦通之異文(餘論卷二第二頁田強款)

高田忠周曰按此亦通字而高下从貝購說文所無只玉篇貝部購巨律切不訓其義蓋為古字逸文此从購省聲也又按說文增具文作購增高與實實為古音通故也然說文又無購購字遠不得其正字矣(古篇篇六十六第七頁)

馬叙倫曰倫謂史也乃遺字從史省聲蓋省之後起字以貴為行賈者故增多也說文無此字商婦顧商字

1359(3077)

作函故知此是遺字(刻詞二五頁甲詞款)

吳式芬釋遠見據古二之一第十二頁田強款

柯昌濟釋遠見華一六一頁寧通款

李孝定曰按商字契文作函而函諸形其上从平若平與此作中者迥異金文商字其上亦與契文同故知此非从商又金文通字多見均與此略同惟此多一貝字備旁孫氏謂疑亦通之異文其說可從

1360(3077)

德

散盤

高鴻緝曰德从是與上文復字同叔弓鐸今稱齊叔尸鐸字亦如此蓋是惟本銘此字上作也與其他德字作由或由者略異說文直心外得於人內得於己也从直从心(心古文切)又德升也从彳德聲切按道惠之惠古只作惠田侯因資鐸作由是也从十目心會戒慎恐懼之意本銘德字偏旁作由殆變體从八十目心會意古人用字恆以升也之德代十目心之惠此同音通段之通例也金文多如此秦漢以後視為固然王筠曰鐸鼎作德德德諸體未有从直者如以說文為用小篆則秦碑作德秦介作德秦量二一同介一作德不知許君所本何書按魏三體石經錄古文篆文

1361(3078)

書三體其德字作德德德其竹錄古文與說文所載古文皆指孔壁所出古文經而言乃戰國末年齊魯之文字又晚近洛陽出土之銅子壺乃戰國初年器銘有純德字作由十目之下贊一曲畫則直心之體實為戰國時由字之異文許君有所本矣(散盤集釋五四頁)

劉心源曰德从是與上文復字同亦弓鐸鐸字亦如此(奇觚卷八二七頁失人盤)

李孝定曰劉高二代為釋德說應可從从彳从是固可通惟此上又从八為異耳

1362(3078)

債

趙孟取遺

取公

債

揚孟

取公

債

取公

取公

取公

取公

取公

取公

取公

主頁

毛公鼎取

取公

取公

取公

取公

取公

取公

孫詒讓曰

債字舊釋為貝攷鐘鼎款識載取遺五等毛公鼎

取遺卅爰與此文並畧同薛釋載取遺為債吳擇毛公鼎取下一

字並為貝徐同柏釋為賦皆不靖依篆文上从帛省下从貝从

走與載取同毛公鼎則唯作責又省走形說文無此字竊疑當

為遺卅遺字之異文前召伯虎弟二畧鼎字作肩鼎形亦作

可證古帛聲責聲字音近多通用如論語詠而歸魯論歸作

是其例也餘論卷三第三一頁揚啟

強運開曰

毛公鼎取遺卅吳書入增錄云徐同柏釋

賦運開按與親小大楚賦之辭不類說文新附賦賜也从貝兄

聲攷古兄字亡隹从生古光字亡難又汪往字亦均从生得聲

此篆从貝从生古賦字也取遺卅字謂取金卅字以相賜也

疑矣

疑矣

疑矣

疑矣

1364 (3079)

1363 (3079)

郭沫若曰遺或作債載若舊毛公大抵乃貨字苦不能

得其讀(兩攷五十七頁趙鼎)

郭沫若曰貨字之書所無金文中習見每言取口若干等

字以貝坐聲字或从走若作益取其流通之意所謂貨幣

欲其行如流水也貨字金文所未見晚周刀幣多段化字

為之殆取簡畧急就且易通識之故段之既久轉益之以貝

而成貨字也(金攷二六六頁至二六七頁毛公鼎)

吳闓生曰舊釋賦未是字从生从貝生疑左之別體番生敦

取遺卅爰揚啟取遺五爰籀敦取遺五爰蓋即貨之異文(古文

卷一第四頁毛公鼎)

張之綱曰徐同柏釋賦據古釋貝憲齋仍徐釋據

載取遺五等揚啟取遺五等與此文並畧同其字从走較此

尤備疑為遺之異文蓋遺以金也舊釋債賦釋貝並非網案

原文上从帛从工下从貝疑从帛省聲似即為歸之正字或古

文歸飲食作饋饋貨財則作賣猶爵色以絲製作裁以韋製作

載之例與(辭釋十頁至十一頁)

陳夢家曰微字數見舊不釋從貝或省彳或省走應指征取罰

畧西周中期金文多記取微五盾惟番生毀及毛公鼎則所取

微者為二十或三十(金攷三〇七至三〇八頁西周銅器斷

代揚毀)

陳小松曰彝器銘中習見取微若干等之辭龍殷銘曰取微五

1366 (3079)

1365 (3079)

之亦當為取徵五等。觀曰取徵十等。番生假曰取徵廿等。毛公鼎曰取徵卅等。其取徵之等數多寡不齊。以五等為最少。亦最見三十等為最多。徵字舊以為賦字。不確。吾鄉許石枬文治金文之學。余曾與論及此字。許文以為即徵字。其言至當。至取徵以為何用。及不尋之故。何在。迄無定論。為金文上懸而待決之一大疑難。余每讀諸器銘。初苦不得其解。久之乃於諸殷銘中。覓見竹書。皆理官之事。始恍然。取徵五等。其用意同於周禮司寇職。以兩劑禁民獄。入鈞金三日。乃致於朝。然後聽之。者之入金。與今之訟費相類。惟冊命之詞。體例尚簡。不能如周禮之詳耳。又悟費即徵之繁文。為徵金明信之專字。自上言之。謂之取徵。自下言之。謂之入。與周禮合。中央四十。釋揚假訊訟。取徵五等。

1367 (3079)

周法高曰。金文中又有費字。也是用等來計算的。
王曰。趙命女。汝。不。作。徵。自。來。銅。馬。官。僕。射。士。唯。訊。小。大。又。隣。取。遺。五。等。易。易。女。亦。市。幽。亢。蘇。所。用。事。趙。鼎。
王若曰。凱。卞。銅。工。官。銅。景。田。甸。單。銅。空。居。單。銅。銅。銅。單。銅。寇。單。銅。工。司。事。易。女。亦。市。維。旂。旌。凱。訊。取。遺。五。等。揚。假。
王若曰。蘇。命。女。銅。成。周。里。入。單。者。辰。諸。侯。大。亞。嚳。訊。松。罰。取。遺。五。等。易。女。尸。美。臣。子。家。用。事。蘇。王。令。觀。銅。公。族。卿。事。大。史。索。取。遺。廿。等。易。朱。市。思。黃。韓。蘇。王。景。環。玉。琮。番。生。假。
王曰。父。盾。已。曰。彼。松。鄉。專。寮。大。史。寮。于。父。即。尹。命。女。蘇。解。公。族。卿。事。有。銅。小。子。師。氏。虎。臣。季。秩。製。事。呂。乃。族。于。吾。敦。故。王。身。取。黃。卅。等。易。女。簪。也。一。貞。鄭。圭。鼎。朱。市。思。黃。王。環。玉。琮。

1368 (3079)

其次則均是五等而五十廿廿均為五之倍數。此中恐亦有若何之關係。又金鼎則一夫之價當值二十等。知價值亦不甚昂。取價若干等。蓋言月取若干以為薪俸也。大系頁五丁山云。
由貴之誼。測之疑。皆讀為徵。徵篆文作。弱與讀上之往極近。殆即篆變之端。儀禮士昏禮。納徵玄纁。束帛。儷皮。如納吉禮。鄭注。徵成也。使使者納幣以成昏。賈疏。按春秋左氏莊公二十二年。冬。公如齊。納幣。不言納徵者。孔子更周之文。從假之。實故指幣體而言。無論幣質。徵文。要禮經言徵者。秋言幣是幣。即徵矣。漢書武帝紀。有司以幣輕多姦。注。幣。錢也。錢幣之幣。古當作貝。貴之從貝。與幣讀同。尤可證金文所謂取價。與禮經納徵。不過事有取納之別。物則同為玄纁束帛矣。金鼎。

1370 (3079)

王曰。截。令。女。卞。銅。主。從。官。銅。指。田。易。女。截。玄。衣。赤。日。市。蘇。游。楚。從。走。馬。取。價。五。等。用。事。趙。假。
王曰。收。女。毋。政。事。帥。先。王。卞。明。井。用。寧。乃。酌。鹿。石。若。毋。敢。不。明。不。中。不。井。乃。毋。政。更。毋。敢。不。尹。不。中。不。井。今。余。佳。歸。妻。乃。命。易。女。簪。也。一。貞。金。車。奉。較。畫。轡。繫。朱。號。圓。新。虎。賁。魚。表。旂。令。馬。三。匹。取。口。口。等。收。假。
王易假亦市幽黃用口邑于莫諸子有各取遺十等假假。
用後遺黃絲。五夫用百等。金鼎。
此字作遺。遺。遺。遺。諸。形。容。庚。金。文。編。列。入。附。錄。下。頁。九。郭。氏。云。
大抵乃貨貝等。若不能得其讀。等數以毛公鼎之廿等為最多。其次則番生假之廿等。法高按。其次則為觀觀之十等。又云。

1369 (3079)

之用幣字或讀為懲猶今言罰款也幣古以兩計後以匹計
左傳閔二年齊侯歸衛公夫人重錦三十兩杜注以二文雙
行故名兩三十兩三匹也又昭廿六年傳申豐從女賈以
幣歸二兩注亦曰二文為一端二端為一兩二兩二匹也禮
記雜記納幣一束束五兩五兩由鄭注計之亦為五匹山謂
計幣之兩初當以重言即尋音諱尋載籍今作尋或曰當六
兩或曰當二十兩大抵主六兩之說者為多頗疑古代幣歸
重一兩當尺重六兩當步(即一弓之長)五步當束約三十尺
即後世所謂匹凡金文言取幣皆以五尋為度者正周官媒
氏所謂凡嫁子取妻入幣純帛毋過五兩也丁山卿其直三
海中與日新文物周刊三十七期民國三十六年又同上
四十期陳小松撰揚鐵訊取徵五尋亦云徵字舊以為賦
字不確吾謂許石柯文以為即徵字其言至善吳蘭生吉
金文選卷一頁四云舊釋賦未是字以生公貝生疑左之

1372 (3079)

別體蓋即貨之異文郭氏十批判書(民國三十五年)
附云金文中有一字為西周後半葉所常見的是毛公
鼎或從人旁或從走之走大約是貨字也依六書來說
是從貝重聲從走或從走之走大約是貨字也依六書來說
通行之意按吳郭兩說相近不可從
按丁氏釋為徵即幣帛是也至於丁氏關於兩束的說法正確
與否是另一問題正如郭氏所指出的以五尋為一單位連進
之數均為五之倍數而幣帛的單位為匹那麼很可能帛一匹
的重重相當於五尋現代布帛雖然通常用匹來計可是口語
裡實地較密的布每尋約重十斤的布指一匹布重十斤是一
內廿兩帛八匹一丈三尺四寸大半寸三〇三三所謂一匹
可能指每匹重廿兩的帛也
是布帛用重量計算之例
王國維釋幣上

其在賓禮則天子以待客(周禮)象串以九式均節財用大
曰幣帛之式注幣帛所以贈勞賓客者諸侯以朝覲書召誥

1372 (3079)

太保乃以燕邦冢君出取幣乃復入錫周公曰拜手稽首旅
王若公其在嘉禮則會禮以納徵饗以酬賓食以備食禮
之所行莫不有幣
按南書召誥孔疏引鄭玄云
所賜之幣蓋璋以皮及寶王大弓此時所賜召公見象服之
民大作周公德隆功成有反政之期而欲顯之因大戒天下
故與諸侯出取幣使戒成王立於位以其命賜周公
召誥取幣為金文取幣之確證幣即幣也取幣若干尋的話多
出現在君主的誥命中並且和賞賜的東西在一起那麼也是
天子所賜與的禮物了陳小松前引文云於揚說銘中窺見所
意同於周禮司寇職以兩罰禁民獄入鈞金三日乃致於朝然
後聽之者之入金與今之訟費相類惟惟冊命之詞體例尚屬不
能如周禮之詳耳又傳贊即謂之罰之繁文為徵金明信之尋字自
止言之謂之取徵自下言之謂之入與周禮合後就諸器銘

1373 (3079)

分別註釋其不及者計有四事一無小訟入東矢大獄入鈞金
之分庶民訟獄一爭微金五尋二取徵之數少於鈞金三士庶
子與庶人取徵之數有別庶人取徵五尋都邑士庶子取徵十
尋國中士庶子取徵二十尋或三十尋四各官各執其事不可
訟獄取徵此金取徵之事不必皆屬秋官職掌按陳說不可通
一者取徵之數因人的地位而異並非屬秋官職掌按陳說不可通
之事而曲為之說者三者為鼎亦有微字用微者如晉鼎的文義也
明明不勝於微說之事了又有釋為徵說者如晉鼎的文義也
合不
幣字既指幣帛為什麼又從貝呢按金文有貨字戴家祥說
以意求之當即帛之古文蓋古者幣帛二字為交易貨財
之通名釋玄應一切經音義十四帛古文作幣古文四聲
引茅君傳作絲是知貝帛二字本有互易之例古金文貨鼎
有貨字從貝父聲今以貝帛互易例之殆即帛之別稱許
君於貝部實注南蠻賦也从貝宗聲應劭風俗通云盤飧之
後輸布一匹二丈是為賁布按賁為布右字亦从貝故幣帛

1374 (3079)

布以貝不从中讀自可尋戴家祥實字說清華學被研究院
年1927國學論叢二卷一號P7民國十八

可見實字從貝也不足為異了（零釋五一頁至五六頁師所鼎
考釋）

董作賓曰微即鈞金周禮司寇以兩劑禁民獄入鈞金如今之
訟費陳小松說按金文習見取微若干手疑為規定徵收訟費
之限制最少者五手次之十手二十手最多者三十手此為最
高足見毛公盾地位之尊（毛公鼎考年註譯二四頁至二五頁）
陳仁濤曰別創專名以名貨幣之貝（即李濟所引別於裝飾之
貝即李濟所引如毛公鼎之貴召鼎載饒之續揚饒趙鼎番生饒
之趙古銅之聯或類皆此名之異書也而吳大澂釋賦（見憲齋
強運開釋賦（見說文古籀三非例如趙鼎取趙五手一語無論
補卷上第六

1375 (3079)

釋為取賦五手或取賦五手均嫌扞格難通即其並非確證之
証又貝字之上作生或坐者象貝之系亦猶卜辭半半象玉之
系也別加彳或走者則以示貨幣流通之意味也郭沫若以為
垂字（見十批判失其解矣）金匱論古初集一一至一一二頁
金幣與銀錢

高鴻緒曰貴吳清卿釋賦不類王靜安未詳近人緣定為貴以
為貨幣字按此字金文亦屢見

（龍蓋）取備五爻（作制）

二番生蓋取備廿爻

三楊蓋取備五爻

四趙鼎取備五爻

1376 (3079)

五載蓋取備五爻

此字或隸為贊字書所無應即押金保證金之類近人陳小松
以為訟費待考（毛公鼎集釋九四頁至九五頁）

譚戒甫曰贊阮元釋儀吳式芬釋貨各家多承用徐中舒釋微
歷史研究一九五七年第五期論西周郭沫若初為成贊（金文
是封制社會五六頁一四一六行郭沫若初為成贊（金文
（日本版第八）這些皆誤但郭復釋本銘改寫為贊謂為金屬貨
幣很對只可惜關於字體來源和音讀不詳其實此字分明从
貝從聲還有載饒銘也有此字從字說文另有古文从多作從
故說饒者生饒趙鼎三銘都作從楷書可作遺據說文從从
聲又說生从土上讀若皇故毛公鼎銘的贊因省只
从生聲作贊音讀是沒有變化的

1377 (3079)

古時生既讀皇而皇與黃同屬唐部臣紐自可通轉假用故此
贊字很可以讀成黃音並認作黃義

漢書食貨志下金有三等黃金為上白金為中赤金為下孟康
說白金銀也赤金丹陽銅也按說文金古文亦从土今燒通
的土既發赤或發紫故丹陽銅當即是紫銅俗呼紅銅管子地
盤屬上有丹沙者其下有駐金駐為燈炷字炷色紫紅故駐金
也即是紫銅的別號

古稱五金除黃金為固定專名外其他銀和紫銅也可稱金如
上面所說但紫銅既可稱赤金還有一種黃銅豈不是也可以
稱為黃金嗎不過黃銅與黃金會不混要如真金相混如尚書
舜典言金作贖刑孔安國傳即謂金為黃金而呂刑言其罰百
錢錢字从金本是銅孔傳却說是黃鐵同是一人而前後異釋

1378 (3079)

總覽臨危故孔穎達疏想解決這一個矛盾說所謂黃金黃鐵皆
是今之銅那是正確的但由此可見名詞的混亂要想根本免
除這個混亂惟有另造一個字來代替它之一法於是這個形
聲字的債就很有自然地應運而生了中華三輯七九頁至八十
頁西周呂器銘文綜合研究

李孝定曰此字金文君見吳說亦滋多徐同柏氏釋賦吳闓生
氏釋貨珠詁林氏釋道張之綱氏釋歸郭沫若氏亦釋貨強運
開氏釋賦阮元氏釋債吳式芬氏釋貨譚戒甫氏釋黃謂是黃
金專字陳仁壽氏似運以為貝之繁文高田忠周氏雖未釋為
何字然亦以為从貝往聲以上諸說均不可從惟周法高兄來
釋微一說博引旁徵說不可易今請略一辨之據此所收五文

以微蓋二文最為完整蓋揚蓋二文省又毛公鼎為最簡从
彳从走可通此不具論从彳非帶省乃鼎蓋微專字所从之彳
从王疑玉字篆文微蓋為从彳从又與从文同是微蓋二文明
明微字也但多一偏旁貝蓋即納微之微之初文也釋賦之說
蓋以文義求之惟於字形僅一貝字相同字音則全不相涉其
誤可毋待辨而自明自餘釋貨釋債釋黃釋鐵諸說之誤與釋
賦同張之綱氏釋歸蓋沿孫詒讓氏古文帶聲貴聲多通之說
而此實不從帶歸乃从官聲亦不從帶聲則此文不得讀歸甚
明張氏又謂歸食為饋歸貝為贄實為臆必之辭難以徵信強
氏釋賦之說較有理致惟強氏謂此从往聲實誤往字與文作
止从之小篆亦同此从止明非从之亦明非往字是強氏之說
為不足信矣釋貴之說亦以往聲為前題其誤亦同且黃金之

1380 (3079)

1379 (3079)

專字何不運取金為偏旁而必取貝亦不可解也陳仁壽氏釋
貝謂此為繁而彳為貝之係古文繁簡雖不一然未見如是特
異者也至釋微一說非惟字形可徵且微之文獻其義亦歷歷可
考說不可易也竊疑微說之實或當讀微即今罰微之意未必
皆實錫之事也

《六》取微五字

彳 彳 彳 彳 彳

李孝定曰从彳从又从希當讀定作彳字不可識

1382 (3080)

1381 (3079)

劉心源曰：阮釋遠疑是還讀為旋（奇觚卷二三五頁召鼎）

高田忠周曰：劉心源云：阮釋遠疑是還讀為旋。按著釋皆非。古文鐘字所从重形作重，重聲。重亦其从目者，重字也。重亦重聲。故鐘得重聲。又說文：鐘字，金文作鐘。說文：重，籀文作重。亦以重為聲。重亦重聲。故也。如動字，金文有作動者，均皆同例。因謂此篆亦連字，即連鐘文，實與鐘同。銘意疑段借為東。王在東宮見，故曰東居。銘下文有詒東宮語，可證矣。（古編篇六十四第一七頁）

1383 (3081)

譚戒甫曰：鐘字篆編難識。阮元釋：還劉心源釋：還皆相差舛。郭沫若照字體寫出作鐘，也頗有出入。其實此字左从金，右上从東，即是鐘字省。金文重作重，从牛，四，目，形，東聲也。或後左省牛，用作聲符，右下不是召字，當是尸口二字。說文：衡，通道也。从行，重聲。二字聲義皆同。不過此為地名，只因形勢衝突，特著其義為尸口。猶云關口頗疑。此鐘或是後世潼關地帶的本字。大約當西周時渭水下游由驪山至黃河曲處總名為潼。故東漢在河曲以南置潼關，至宋在驪山以北置臨潼縣，可以意識到這塊地方的廣長與險阨，也就是這個鐘字的本義所由來了。（中華三輯七二頁西周金文綜文綜合研究）

1384 (3081)

李孝定曰：釋還，釋還於字形均遠，並誤郭沫若錄定亦非。譚戒甫說此字殊有誤致，推其地望，或亦可从。惟字从叩不可解。耳。高田氏與譚說略同，惟謂假為東，則誤。東字甲骨金文習見，母煩假借，且所謂有本字，東字亦假借，惟東字之假借乃古人臨文偶用別字，斷無別字更用繁體之理。且同銘有東宮，何此處獨用假借乎？高田氏以為連之繁文，亦非。當从譚說，定為衡字。

唐蘭釋作連，見文物一九七二年一期五九頁。永孟銘文解釋。

1385 (3081)

李孝定曰：從金，右旁不可識。

李孝定曰：從金，右旁不可識。

1386 (3082)

仲盤
△以金

以孝達曰：「達字毛詩有說，文無。」（纂古一冊五四頁仲盤）

柯昌濟曰：「疑治字異文，治以金即謂鑄器。」（辭華三二三頁仲盤）

李孝定曰：「字不從台，張柯二氏說並誤。从才，从合，即許書會之古文。字从合，許君即以合訓會。又走部有途字，訓逕及也。蓋合本為容器，即今盆字。名詞其動詞作途。又古文从才，从走，得通。途古為同字，後尊乳為二耳。銘云：「途以金，即合以金也。」

1387 (3083)

途
聲傳
△以金

郭沫若曰：「从彳，讀為告，字復以去為聲也。此乃後起之複聲字。」

（兩改二〇七頁叔夷鐘）

李孝定曰：「郭氏錄定作傳，讀為告，其說可从。去聲，告聲，古同在三部，故得用為複聲也。」

△以金
達而尔側刺

1388 (3084)

後
△以金
△以金

徐同柏曰：「舊達舊勞，惟達改勞詩小雅山川悠遠，維其勞矣。周禮司勳事功曰勞。」（从古卷六三十七頁周禮）

高田忠周曰：「按劉氏古文書云：「阮釋作達，非宋周禮過達，聞來造作，漢中平洗，當世造作，延元延順十月造作，達並與此合。是造字也。造者成也。又惟達余者，佑我以成也。默敦女右惟小，子亦此意。蓋釋為達，形義並隔。如劉說，文意可通。然謂宋周禮得與此同字，矣亦甚者，彼即迂字，明顯見于迂下。又劉氏引漢器文，非是。漢人篆法多不合古，固不足為證也。愚謂此即上文省略而上鼎云：「又達，女文意亦同。或直讀達字，義亦通矣。舌大，同音，即知作達，猶作達耳。」（合編篇六十六第一〇頁）

1389 (3085)

阮元釋達，見積古卷六第十九頁卯敦。

劉心源釋達，見奇觚卷四第三十頁卯敦。

柯昌濟曰：「達字異文。」（辭華一九一頁卯敦）

吳闓生曰：「達猶助也。」（古文卷三第二十七頁卯敦）

郭沫若釋達，讀作達，見兩改八五頁卯敦。

李孝定曰：「阮氏釋達於字形無據。於銘文文義亦不通。說非劉心源與闓生二氏釋達於銘文雖勉可通，讀於字形亦遠。高田

1390 (3085)

氏亦釋造又謂或讀為連同於字形不合劉氏引宗周鐘作從字釋造以証此字固誤高田氏非之而謂是迂字亦非鐘文乃逆字也郭沫若氏釋退而隸定為造無說蓋以文數得之也柯昌濟氏從之並誤按字从彳从交交乃友字古文金文大字偏旁有作方彳者此又多一斜劃是友字也說文友走兒从犬而一之其足則刺友也刺友有躡頓義此从彳从友友亦聲其意當為躡頓說文所無惟說文走部有逆字訓行兒其音韻與友並同同部又有逆字其形全同訓前頓也即躡頓之義躡頓亦行兒惟義較明確同部而有兩文義訓有別故搜玉載桂馥二氏食調訓前頓者字當作逆彼氏並依玉篇選改篆作逆按二氏疑之是也惟彼氏選改篆作逆則有可商同部重出固非許例按當刪彼篆而以前頓之訓移入前篆為其本義蓋行

1391 (3085)

兒之訓殊疑也此銘彼字當即許書走部之逆銘云余非敢夢先公有逆彼即逆頓進止之意又許書足部有跋字訓蹠蹠跋經傳多段顛沛為之正友市同讀之証从市但取其音从友則音義並見矣跋跋逆當為同字彼者古文跋者異體逆則為後起純形聲字矣

1392 (3085)

劉心源曰造王云未詳阮釋作遠非宗周鐘逆連開來造作從漢中丰洗甬世造作從元延鋪十月造作從其此合是造字也造者成也又雅連余者佑我且成也毀鼓女右雅小子亦此意(金書卷七第十五至十六頁明說)

大豐蓋 王降七勅 爵△南

劉心源曰復說文後古文作復實蓋進退作復与此同奇觚卷四十二頁天無敵

柯昌濟曰退字从食聲與敵字从聲同(釋華一七三頁大豐敵)

吳闓生釋復見古文卷三第二頁大豐敵

郭沫若釋復見兩改一頁大豐敵

李孝定曰劉氏釋退柯氏從之是也郭柯二氏釋復均無說按復字金文習見大抵作復字得中與此迥異此作復與篆文略

1393 (3086)

同當从劉說

1394 (3086)

李孝定曰从永右下偏旁不識

史頌

又頌鼎
6582
合文
頌

吳式芬曰許印林說史頌敦之獐獐與君夫彝之獐是一字乃

招字也。招字古文變體最多。𠂔𠂔即頌鼎之从言也。𠂔𠂔从手。

从臼从卩即頌敦之从又从少也高即君夫彝之从貝也齒齒

即召薛書召夫尊南宮中鼎如此擇古尚書乃召六卿召字作

出據參詳數字定奪。拓字似不甚謬。
B (據古卷三之一五十六)

頁史頌敦

得德通慶賞之謂德（从古卷二、十六頁周史頌鼓）

年傳使執訊而與之書注通問訊之官吏記司馬相如列傳改

1395(3087)

遺信使云云蓋古訊信字通也。其銘弟五字。曰。其。相。信。一。字。謂。相。問。也。左。傳。成。公。四。年。子。以。曰。寡。君。與。其。一。三。臣。共。聽。而。君。之。所。欲。成。襄。公。十。一。年。王。叔。子。宰。與。伯。與。之。大。夫。瑕。禽。坐。獄。于。王。庭。士。句。聽。之。昭。公。十。四。年。晉。邢。侯。與。雍。子。爭。鄆。田。久。而。無。成。叔。魚。攝。理。二。十。四。年。晉。侯。使。士。景。伯。泄。問。王。室。云。云。相。信。即。泄。問。也。伯。臣。得。泄。問。王。室。與。聽。列。侯。之。訟。即。王。人。得。相。信。侯。國。審。矣。

學古一冊十一頁 史頌鼎

a-b 吳大澂曰：『傳舊釋德非是。當即聽訟之聽，與耳聽之聽不同。』

聽日理日整日休有成事皆聽獄之詞也（憲齋十冊十六頁史頌鼓）

吳大澂曰考史頌敦當史頌敦蓋文疑古文聽獄之聽與視

聽之聽不同周禮大司徒疏聽待也故从彳从聿洪範疏聽者受人言察是非也故又从言古攝補附錄十三頁

ab 劉心源曰：適當是睦許印林釋拓。
見據古錄三之一。所引拓變體皆無。

來歷一踵辟氏之謬而不敢信詳君此字从去即去詳智鼎与晉省作去

从彳 卽是古刻偏旁从走者亦作彳 如矢人盤復

字 古列攬 鼎還字可證蓋中即止也(奇觚叢書四九頁史頌
攬)

○劉心源曰讀从彳从書乃合讀字為之彳是同意從原从彳也

遺龍龕手鑑音獨遺也(奇觚卷十六十九頁史頌所)

1397(3088)

1798 (3088)

ab 丁佛言曰：據史頌歌器文，抄皆史頌歌蓋文原書均入附錄，以為古文聽獄之聽案字，仍是德散氏盤王孫鐘單伯景鐘德皆从是。此上一字亦从是，右下之中，即止之變原書以去為古，相字則右上作益與師鐘父鼎德字同，例古文言心二篆互通，下一字从言與从心同。（古音補補卷二第十頁）

c 高田忠周曰：按元段借為價，是實遺字異文也。从彳與走同意，亦與返作故延作征同例。如下文，亦即止變形，他字多此例。又此上文从言，从讀省聲也。（古音補補六十五第一三頁）

ab 郭沫若曰：僕字頗詭異，疑是从走，音聲之字，又乃止形之訛。古文止又字形每互變，古文睡君犬段價字作價，音鼎賣字作

賣，石鼓文遺字作續，所从音字均与此同，而与小篆微異。此疑即是遺字之異，段為觀，觀謂省視承開也。（西政七十一頁史頌歌）

c 柯昌濟曰：據省釋德意謂或相之異文，相相道也。（續華一四一頁史頌歌）

ab 高鴻緒曰：遺此字甲文作𠂔，文曰貞王，𠂔土貞王勿𠂔土方，𠂔七、四，茲全文作𠂔，从彳，从省，亦聲。周秦間作循，从彳，省聲，又作𠂔，从彳，从聲，說文謂是視行也。視行與行視同，即孟子巡狩者巡所守也，亦即省省耕而補不足，秋省斂而助不給之省也。視行即省視而行，說文循行順也，从彳，省聲，一切經音義卷十一引行示曰：循按行示當是行視之通，段後鈔說文者以

1400 (3088)

1399 (3088)

行示不協，改為行順，便氏刪順字，王筠以為兩義行也，順也。今按循之本義決為行視也，如月令命司徒曰：循行國邑，周視原野，命司徒循行縣鄙，命有司循行積聚，本銘此處正用此義。至循亦以同音通段為順，如左氏文十一年傳：國人弗狗，服本作循，云循順也，是也。此又今本說文行順也之所由鈔謄矣。但此循字史頌蓋四器銘俱如此，而史頌鼎二器銘俱作循，是乃从彳與从走意原不殊，而復加言為循字之音符耳。又高鴻緒曰：說文循行順也，从彳，省聲，詳連切。又訓視行也，从彳，川聲，詳連切。

按一切經音義卷十一引行示曰：循行示即行視之通，段如月令命司徒曰：循行國邑，周視原野，命司徒循行縣鄙，命有司

1401 (3088)

循行積聚之類是也。視行即行視之意，其字甲文作𠂔，从彳，从目，十聲。金文變作𠂔，从彳，从省，亦聲。構造與行視之意均同。小篆變為循，从彳，省聲，又變作訓，从彳，从聲，意雖勉強可說，但循或巡字構造全為形聲，有行無視矣。（字例五篇一八二頁）于省吾釋讀曰：省謂視察也。（雙選卷上三第十頁史頌歌）

吳闡生釋循見古文卷三第二十四頁史頌歌

李孝定曰：說此字者多參互說異，請略辨之。徐同柏釋得按得字，甲金文俱从貝，此不从貝，徐說誤。周孟伯釋相按相字从木，此上从艸，若中非木字亦非，中字安得釋相？又于省吾釋古國召政作出通讀，此是召字，則更不與中字通。

1402 (3088)

金文習見類若作𠂔。多者甲文及金文編及金文編則多不俱舉。安得此是。召字。周
氏君宋人深說。殊不足辨也。吳大敦釋聽。按聽字。甲文作𠂔。
金文作𠂔。與此迥異。吳氏蓋知其然。故謂聽訟之聽與耳聽
之聽不同。不知其何所據而云然也。劉心源氏釋𠂔。蓋以此所
以𠂔為許書𠂔之古文。而𠂔字各本說文作𠂔。又因非其義。按
窗从目。光聲。此上从𠂔。若𠂔顯非許書訓地。單之共也。吳闓
生釋𠂔。無說。高鴻緒氏亦釋𠂔。其說雖較近理。而實未安。考𠂔
字。契文作𠂔。說契者。若𠂔釋𠂔。余从𠂔。玉森氏說𠂔。釋𠂔。高氏謂
𠂔。與𠂔同字。蓋偶未察。𠂔乃音字。从生。而契文𠂔。字累數十見。
固無一从生作𠂔者。知非同字也。郭沫若氏釋𠂔。讀為𠂔。其
誤與劉心源氏同。丁佛言氏从舊說。釋𠂔。蓋𠂔字。金文與契文
補字最近而下皆从𠂔。其上決無从𠂔。生作者。此非𠂔字。甚明。高

1405 (3088)

田忠周氏釋𠂔。其說與郭說同。誤。惟于省吾氏釋𠂔。其說最
為的當。而其嫌定則仍小誤。此下从𠂔。實从止之𠂔。此例金文
習見也。省吾古當為同字。省从目。生聲。其本義當訓視。目病生
翳。乃復起別義。省許訓視。而曰。从眉。省。義無足取。又云。从𠂔。則
更無義可說。竊謂𠂔从𠂔。乃从𠂔。之𠂔。以象形既論。遂與省別
為二字耳。此从𠂔。从省。有行視之義。與𠂔文辭意正合。
劉心源曰。債篆與𠂔清館藏蓋文。同其器文作𠂔。是亦从𠂔。即
說文𠂔之古文。皆也。讀實專字。从之。加言。為言。即讀省。加言。為
債。實遺字。古字是通用。說文遺𠂔。遺也。且為贖字。此𠂔當是贖
或是贖。則即贖字也。古補補釋𠂔。為聽蓋不知𠂔即𠂔也。古書
卷一第十頁史頌鼎。

1404 (3088)

阮元曰。子自𠂔或釋作𠂔。元所藏𠂔。蓋共字。與此相類。
(積古卷五、三十頁大保奩)
吳式芬曰。許印林說。阮釋予。案薛書伯姬鼎其釋𠂔。阮
書𠂔。蓋其釋共。共亦𠂔也。此字右畔與伯姬鼎𠂔。蓋同。左畔
加𠂔。而釋為予。定非是。然亦非共。非𠂔。薛書乙酉父丁彝有
𠂔字。釋𠂔。與此特筆畫小異。當即一字。(據古卷一之三四四
頁大保奩)
劉心源曰。傳人名阮元。釋予。吳式芬釋共。吳又引許印林說。薛書
伯姬鼎其釋𠂔。阮書𠂔。蓋其釋共。共亦𠂔也。此字右畔與伯

1405 (3089)

姬鼎𠂔。蓋同。左畔加𠂔。而釋為予。定非是。然亦非共。非𠂔。薛書
乙酉父丁彝有𠂔字。釋𠂔。與此特筆畫小異。當即一字。案許
說是也。(奇觚卷一十五頁大保奩)
馬叙倫曰。吳式芬曰。許印林說。第一字阮釋予。薛書伯姬鼎其
釋𠂔。阮書𠂔。蓋其釋共。共亦𠂔也。然皆非是。薛書乙酉父丁彝
有𠂔字。釋𠂔。與此特筆畫小異。當即一字。倫按許說是也。遺從
是。其聲說文從𠂔。之字。亦或從𠂔。如後古文作𠂔。或從𠂔。作
𠂔。是其證也。金甲文此例猶多。為房屋間架之架。本字。其初
文蓋本作𠂔。變為篆文作𠂔。不能象形矣。此文作𠂔。校他器又
作𠂔者。猶未盡先故形。蓋分之為二。即室之兩架也。刻詞八
六頁大保奩。

1406 (3089)

李孝定曰許印林氏釋遺各家从之是也

男山男山男山

格伯量 穀人初雲谷社木

孫詒讓曰偶者釋為偶以字形審之似當為達致魯原鐘聲達
巨餘鐘達作謂之此作偶即彼文之省第五器作偶形尤
近也徐誦卷三第十七頁格伯敦

高田忠周曰格白蓋零谷析木禺谷按地名也又一器借偶為
之疑亦堪為正字書免與它竭夷今文作禺缺禺端通用可證
亦猶禺隅通用也今古篇第十第五頁

高田忠周曰按元釋禺非左旁作明是人也此篆禺字顯然
但銘義地名未詳說文腐桐人也从人禺聲朱駿聲云相人也

1408 (3090)

1407 (3089)

桐相形近而誤相人者像人也一名偶(古篇篇三十二第三八
頁)

丁山曰林義光曰通古文作偶格伯從彳從田方丙方丙皆古
旁字本從田方或從田丙為邊誤複之也源窺其義似謂魯即
邊字其識甚卓然謂散氏盤作德田以形近譌為自不憚改古
文以就已說斯亦倍妄矣(闕義十五頁)

吳式芬釋偶見據古三之一第廿九頁格伯敦

劉心源釋達見奇觚卷十六第廿七頁角生鼓

予省吾釋達見雙選卷上三第廿三頁格伯敦

吳闓生釋禺見古文卷三第廿六頁格伯敦

郭沫若釋達見兩改八一頁格伯敦

李孝定曰按字書錄定作偶諸家之說未可遽定焉字从肉此
篆所無釋偶亦同蓋誤林氏釋達丁山氏已明其誤劉心源孫
詒讓二氏釋達於義為長然與全文他達字亦頗不類未敢遽
定

郭沫若錄定作達見兩改八一頁格伯敦

1410 (3090)

1409 (3090)

牙

牙字之義
牙字之義
牙字之義

牙

牙字之義
牙字之義
牙字之義

高鴻緝曰說文牙壯齒也象上下相錯之形古文字牙五加切

按犬牙相齧人牙不相齧此不過象自上視下牙之形金文見展教書字例二篇九二至九三頁

朱子圖曰說文牙部牙壯齒也象上下相錯之形古文字牙按牙象兩物互相鉤搭之形釋名釋兵弩鈎強者曰牙廣雅

釋器機謂之牙此牙之用於弩機者也考工記輪人牙也者以爲圓抱也王宗淦曰兩棘交合之壯齒曰牙此牙之用於車輪者也

章炳麟曰三體石經以爲爲康尋齒字从公而關虞或作關

牙然則公亦古文牙字石經借爲康耳牙公皆初文相變牙从古文齒則準初文也文始按章說近是余謂公壯齒也象形重

文作牙从四牙聲公與牙音同而形義俱異非一字也釋

郭沫若曰子牙父不可能是姜子牙太公望并从器制花紋文

字等等各方面來考察也都無法說通同志們便多疑爲周穆

王時代的君牙此說頗有凭據古文尚書中有君牙篇書序云

穆王命君牙爲周大司徒作君牙今傳爲古文君牙篇當然是

不可靠的史記周本紀中獨沒有提到這一篇但幸好在漢書

問的和睦君牙的職位是大司徒受金百車者來也很合乎身分這些都可以說是君牙說的有力證據但是依然有問題從器制花紋形制和銘文文字的結構看來說爲穆王時器仍然爲時過早花紋器制都太簡陋了文字結構草率也就到了很難辨認的程度穆王時代沒有看見過這樣的真器但如果說爲春秋時代倒還比較相稱因此我另外有一個看法子牙父應該是齊桓公時的鮑叔牙

又史記魯世家莊公有三弟長曰慶父次曰叔牙次曰季友叔牙後爲季友命人迫使用毒自殺可見魯之當權者中也有人名叫叔牙并且與齊之鮑叔牙同時但魯莊公時魯國沒有那樣的威權足以使戎獻金百車故此一叔牙不足以妨害鮑叔牙說的成立

獻金于子牙父不是獻給子牙父個人而是通過子牙父獻給諸侯的聯軍故子牙父得到獻金之後即以之分別賞賜于同盟國的人考古一九七三年二期六七至六九頁展教書銘考

子牙音釋牙見雙連卷下二第十四頁展教書吉文卷三第

十二頁展教書同

李孝定曰諸家均釋牙可從篆文作牙與此略近

牙

勸

勸

勸

高田忠周釋駢曰按元釋遺非今審表形下从足上右旁从欠皆顯然者而居盾稍缺鮮愚謂凡即欠變勢一筆殊長且舉旨即省省皆厥古韻同部故合皆厥為此形金文形聲字間有此例也(古篇篇六十二第第九頁)

郭沫若曰遺亦當是遺之餘文(兩攷一九五頁郭遺遺) (314)

李孝定曰郭氏釐定作遺謂遺之繁文郭遺一曰郭遺遺遺遺義近名字相應也其說可從高田氏以巨為岩於形已失更謂皆厥同韻遂謂此為駢字蓋高田氏以足為足已失之況金文偏旁从止从走同足止義近故可任作足是偏旁相通之例雖

少見然不可拘執表之也即謂此當作足巨當釋省然同韻者多矣安知此位是駢字乎

1416 (3092)

1415 (3092)

勸

勸

勸

李孝定曰當釐定作緩字不可識

勸

勸

勸

勸

阮元曰喪字薛氏說藏穆公鼎作喪實當作喪與此正同特文有繁省耳(稽古卷二十一頁戊寅父丁鼎)

徐同柏曰器有守義手執扑所呂守之(以古卷十十頁商耐鼎)

方濬益釋虎曰說文品部無器字口部噓大笑也疑即噓之異文(綴遺卷二十六二十七頁丙申角)

吳大澂曰噓从虎从四口疑噓字銀文虎鳴也按說文噓聲也噓高聲也噓呼也讀若謹故虎鳴亦從四口(憲齋二十一冊十六頁丙申角)

1418 (3094)

1417 (3093)

吳大澂曰：𧈧从虎从四口，疑𧈧字之缺文。虎鳴也。按說文異聲也。𧈧高聲也。𧈧呼也。讀若謹。故虎鳴亦从𧈧。丙申角器。古編補附錄二十頁。

高田忠周曰：按此篆从支自顯。左旁从虫。从𧈧。𧈧字𧈧或从𧈧聲。作𧈧俗作𧈧。𧈧通𧈧。𧈧通𧈧。故𧈧亦或作𧈧。又𧈧各三聲。通用。故說文別字。或作𧈧。𧈧亦或作𧈧。然則此篆从支𧈧聲。亦當教字異文也。即知又當有作𧈧。作𧈧者矣。又此文義疑段借為格。古編篇五十五第三九頁。

高田忠周曰：按或釋𧈧非是。愚初謂𧈧字缺文。沈思細審。亦自與𧈧字別。此𧈧即𧈧省文。𧈧似虎。亦有異者。𧈧象形。此即𧈧。

字異文也。說文：𧈧似𧈧。𧈧長一丈。水潛吞人。即𧈧。出日南。从虫。𧈧聲。𧈧亦作𧈧。𧈧作𧈧。並見集韻。又作𧈧。集韻：𧈧名。如𧈧。𧈧長三尺。利齒。虎渡河。擊之斷。卵如鴨。吳都賦：𧈧𧈧。𧈧法與上說同。可證此篆即以𧈧為形。从𧈧省聲。與作𧈧略同意。𧈧意。𧈧樂。𧈧通。𧈧與。𧈧通。𧈧疑其皮也。𧈧為貝名。或𧈧。𧈧連讀未詳矣。古編篇九十七第二六頁。

柯昌濟曰：𧈧疑𧈧。𧈧从支。疑古𧈧字。說文：𧈧虎鳴也。从虎九聲。𧈧注大雅。關如𧈧。虎毛傳：𧈧虎之自怒。𧈧然。口部：𧈧虎聲也。𧈧。

與𧈧聲。𧈧皆同。𧈧古為一字。此文从虎从𧈧。𧈧即古𧈧字。吳華三一四頁丙辰角。

朱子圖曰：从𧈧。虎聲。𧈧為𧈧之繁文。考古文从口之字。或从𧈧作。如詩：小雅北山。或不知𧈧號。釋文：𧈧本又作𧈧。爾雅：釋樂大。𧈧謂之𧈧。釋文：𧈧或作𧈧。𧈧之為𧈧。猶𧈧之為𧈧。𧈧或增文。示手持。以𧈧之。因而𧈧號也。釋文：一五一頁至一五三頁。

吳式芬釋器：丙申角。見據古二之二第二十六頁。丙申父癸角。於戊寅鼎則與上字。連讀釋。見據古二之二第二十六頁。戊寅父丁鼎。

吳闕生釋義曰：𧈧𧈧二字。舊皆未詳。或釋為王闕。非是。案𧈧𧈧。𧈧與𧈧字。與此正同。此云：𧈧𧈧。即𧈧𧈧也。古文卷一第四。

十頁戊寅鼎。

劉心源曰：𧈧阮釋月。喪今从吳。釋𧈧是口在序上。又从𧈧。𧈧之會意。然右旁有𧈧。乃父字。吳未審出也。父𧈧乃作𧈧者。名𧈧。𧈧卷十六第六頁戊寅父丁鼎。

李孝定曰：从𧈧。从虎。𧈧文又增一。𧈧字偏旁。當隸定作𧈧。即𧈧字。柯昌濟朱芳圃二氏之說是也。阮元氏釋𧈧。其喪字甲文从𧈧。若𧈧。𧈧聲。金文聲符。𧈧字。𧈧變特甚。至小篆連讀變而近於𧈧。𧈧二字。許君遂以𧈧亡。會意說之矣。此文分明从虎。安得釋𧈧。徐同柏釋器於字形略近。然虎之與𧈧。其形較然有別。𧈧字固未見从𧈧作者。其說之誤可知。吳式芬氏前後說自為矛盾。

後說為長然文中未見手字偏旁其說亦不可从吳闓生氏釋
 夾蓋指釋喪之說而誤讀為夾所引克蓋喪字正从日喪聲也
 然此實非喪說已見前則讀為夾為無據矣方濬益氏釋噫而
 字不从取可毋待辨高田氏初說不誤繼乃釋為从支噫聲以
 為故字異文而讀為格蓋緣誤假鼎文所从為字為豐所致蓋
 時治金文者每誤喪為豐高田氏則誤認此為豐而不審此字
 分明从虎也

朱學忠曰：報左旁與喪字不同乃喪字也（考宜使失設疑
 表示以字之音故據其音推之則為獻字後古書之書寫作獻三
 代金文存之報本則作獻然其為厚來之字則所為銘銘而現
 者則難于辨別即以乃厚來之字劃而為之其音之字音故以

原為獻之音符亦不改變也（飯金文考釋八一頁戊寅夏受清
 林澤明謹）

傳事 亞△
 (2107)

徐同柏釋干曰：干杆也又敵也牆所曰杆敵也干古文考成也
 宗廟成則落之所謂考也詩序斯干宣王考室也傳干澗也
 澗水之源迺又一義（从古卷十三二十二頁同傳事）

劉心源曰：此字从丁即匕反刀字也从干確是干篆自宋百來
 鐘鼎家皆誤曰干為刊詳觀此篆从入一當知于干篆添絕
 不可提矣噫（奇觚卷五九頁傳事）

高田忠周曰：此刊字左文也說文物類也从刀干聲禮記棟記
 刊其柄與木注猶削也段借為采書為真隨山刊木采即同刊

則本以為并此謂之刊其刊以對之而為懔懔者謂之刊然此
 刊所从干亦為象形會意要二義皆當段借以干為之（古籀篇
 二十八第一四頁）

李孝定曰：劉氏釋刊而丁實非刀字徐氏釋為干万二字於說
 為長丁實柯之古文亦即可字契文从可之字多从此疑當為
 从干可聲說文不載亦不見於後世字書蓋古佚文也又疑可
 万古為一字許書万下說解支離實無確証蓋此字舍枝柯一
 義外實無他義可求也

未可確指耳陳氏釋許而甲青金文「午」字从無作「若」者若謂「象杵形而許字實从「午」聲亦不得以「杵」為「午」也徐氏釋「午」而契文自有協字作「若」者足証「午」當釋「古」說詳拙編甲青文字集釋「古」協二條下徐氏又以契刻契結繩解此字且謂二者合其韻即為「叶」說理微婉實不可从

1431 (3096)

趙中鼎
又趙中鼎
虎盧屋
口口△△

于省吾釋「十」見雙溪卷下一第十四頁趙中鼎言文卷一第二十五頁趙中鼎同兩改六九頁趙中鼎其二同
李孝定曰于說可從

1432 (3097)



郭伯讓
舊釋討
郭公馬其斯

孫伯讓曰舊釋為討以篆文審之殊不類今攷當為說文言部說从言尤聲此右从「夕」即尤形也徐論卷二第七頁郭討

郭沫若釋討曰此郭討與郭伯御戎殆是一人一字一名也(兩改一九四頁郭討鼎)

郭沫若曰郭君之名見于春秋者八世曰克字微曰緄曰遷陸曰纘耳曰緄曰華曰穿曰益無與御戎相當者由文字觀之疑在春秋以前然相去亦不遠(兩改一九三頁郭伯御戎鼎)

1433 (3098)

張日昇曰據疑就字說文三上言郭曰就果也从言尤聲周書曰報以庶就

李孝定曰郭氏以舊說釋討可从字从「夕」所加「」在腕下當為寸字異體孫氏疑就字可商尤字甲青金文均才「字形與此不類也

1434 (3098)

古
道
12
山
上
皇
母
降
授

也

呂伯益
用獄△為白伯

伯虎敦)

奇觚卷四二八頁召伯虎鼓

而中箸以象芒刺金文作𦵿則變以爲而後箸木

1435 (3099)

召伯虎戲

初也。謠，謠也。從言，叕聲。朱氏駿聲云：叕當作衆也。爾

1438 (3100)

古鑑篇五十二第三〇至三一頁

柯昌濟曰獄諫即訟古文从東聲末葉器罕訟字而獄諫之辭屢見則諫為訟之假字明矣（釋華一七八頁召伯虎鼓）

楊樹達曰諫字說文訓備擬促與此文義不合柯昌濟謂為訟之假字是也（釋華集古錄按說文十篇下立部諫字小徐本云从東聲讀息括切以屋鍾二部對轉為聲諫亦从東聲與諫相同宜有頌字之音而可通假也孫仲容說之為刺餘論三卷然字从東非東故柯說為長）（稽徵二六九頁六年瑀生鼓鼓）

郭沫若釋諫見兩改一四四頁召伯虎鼓

李孝定曰阮氏釋柏按字非从采即云从采从言亦未與从諫同意之旨阮說非劉氏釋諫按朱字金文屢見均與此異劉氏

引幣文為說幣文身說變不足為據高田氏辨之是也柯氏釋諫讀為訟揚氏从之按字从采不从東柯說無據此意蓋緣上文獄字得之而字形不合實不可从高田氏釋諫按垂字古文下均从土不从木於形已疏以讀銘辭文義亦覺牽傳惟據阮氏釋諫於字形吻合讀為刺引周禮秋官三刺之文為証於義亦較長其說可從

劉心源曰諫舊釋作柏引說文指文辭不知指文作諫而指之指文則作諫皆與此別釋乃反諫字右从言左為采古國幣文云重一兩十四銖作琫其所从之采上體多一橫筆正與此同獄諫者下獄誅之也（古書卷六第十八頁召伯虎鼓）

1440 (3100)

郭沫若釋諫見兩改二七七頁鄧公鼓

李孝定曰郭氏錄定作諫可從其說未詳

郭沫若釋諫見兩改一六三頁鄒諸尹鉦

1441 (3101)

諫

高田忠周曰按古文音通用又自下曰小阱此則明是曰井與井同又从小即知忠亦治字此篆為詔異文說文詔諫也从言閭聲或作詔从召即自聲也荀子脩身以不善先人者謂之詔詔諂之言詔也謂以佞言詭之也然似从詔省兼意者矣禮記玉藻章母詔注謂傾身以自下也論語貧而無詔皆古義也疑詔為指文增錄者而此文非詔字義疑段借為閭說文閭里中門閭尹即司里門之官數（古籍篇五十二第三九頁）

1442 (3102)

李孝定曰高田氏說此頗有理致惜於字形未合古文音通用是已右下亦从臼而右上固非从井即从井亦與从臼意復又決非从人也郭氏隸定作諸右上似非失字亦未安字似為地名

1443 (3102)



和伯隸新
信和伯△自
(076)
自實日蓋泥

李孝定曰容氏隸定作隸可從

1444 (3103)



年者居專
△者居台文
(2113)
乙實陣專

李孝定曰容氏隸定作奔可從

1445 (3104)



五鼎一
不△王△△從
(077)

高田忠周曰按从畀从𠂔甚顯𠂔亦隸字省形然則此从𠂔畀𠂔三字疑并當其字義然說文并隸畀三部無此等字亦古字遺佚耳姑附于此俟旁證云元釋為觀字斷非是(古籀篇五十七第二七通)

郭沫若曰隸字三見以文義推之當是𠂔之古文說文𠂔作𠂔𠂔从古文𠂔形与此近此象奉盛器之形(兩攷三十七頁小孟鼎)陳夢家釋𠂔曰祭有祭事祭食亦有祭事(金選二一八頁西周銅器斷代五七小孟鼎)

李孝定曰按字从西象器形从𠂔象欽足界虛字多从之𠂔𠂔等字所从亦畀同乃事𠂔之器从𠂔郭氏謂象奉盛著之器未

1446 (3105)

如何據此郭氏既釋此為盛之古文遂以肌解以就其說耳此銘漫漶殘缺殊甚難以屬讀姑有王季子從之語郭氏之釋以意逆之耳於字形殊無據也字宜存疑

白川靜四專字與上文之專相似故論中以南字為同字其文

故專字與上文邦復不專字同蓋並釋為親本末端以下
諸字亦兩字上文云兩賓王手兩下文王各廟而王邦復
延王全文與此同……今所藏秦鼎文云井侯延南形季
延南即延南蓋延登施命之意

延氏以專而專為一字皆是延登施命之意然其引以為例證之
季鼎之文一如上述是賜與之以祿禮者也蓋專以延登而

而作專之例且蓋為施命則應記其事也且本燕銘中專字三見
專字亦三見其字形雖然有別而皆為不同之字也

大篆中以專為專之古文

專字三見以文義推之當是專之古文說文從下文至
形與此近此篆專為專之形

蓋專之專應於禮之前行之因故已進入行禮之際上祭之事
典禮節不念且字形亦難視乃公室之字也

字恐為序持爵形之專之專史獸鼎銘有爵形之下以此又
有爵字家執爵而專乃專此之專也字之主意既相同史獸鼎
作尹賈史獸鼎字有爵形二釋則賈為為賜與之專故蓋為以爵

之禮而與之榮寵之事也字又與毛公鼎之賈內勅大命之賈
相近以字形言之則專專乃指祿字之禮專蓋相當于許所云公

1448 (3105)

1447 (3105)

三錫爵者也此處特別預先聲明邦復不專字因在大篆之時先
賜王諸君及三子專禮在三王之時之使亦以其禮賜邦復故
特記其禮節有別也(全文通釋第十二輯七〇二一七〇二頁
二二小五鼎林澤明釋)

吳大澂釋尊見憲齋十五冊十七頁鄭伯姬蓋蓋

張日昇曰按此字已收入正編中見登

1450 (3106)

1449 (3105)



小子射鼎
△周文已定事

吳榮光曰射字从目从弓形从兩手奉之郭忠恕汗簡收射字云出義雲章義雲不知何書能弋古文未可菲薄矣此文更从目會意為異(獨清卷四第四頁周小子射鼎)

方濬益曰說文射弓弩發於身而中於遠也从矢从身射象文从寸寸法度也今以舞器銘及石鼓文證之射皆作射象右手扣弦注矢之形也人矢也又手也合三形而成字此文从身从弓則象兩手開弓之形獨未見有从身从寸之射字而說文以為篆文疑後人誤以古文之身為身以又為寸因作射小篆緣此復造為从矢从身之射取義於發身中遠易象

形為會意而古籀文射字之初意以矣是此字之變當在李斯胡毋敬之前而鄉壁虛造之弊正不始於東漢也弓上从四則又為目之象形禮記射義曰射者進退周還必中禮內志正外體直然後持弓矢審固持弓矢審固然後可以言中蓋固在手而審在目从四所以見審固之義也又按射即射字之古文古射數二字通用爾雅釋詁豫射厭也釋文射本作數詩清廟無射于人斯禮記大傳作數葛覃服之無數禮記緇衣作射振鷺在此無數韓詩作射射數又通釋洋水徒御無釋釋文譯本作射又作數作憚皆音亦厭也(綴遺卷十八十八頁小子射鼎)

劉心源曰異作射从異省射省古射作射手持弓矢形小篆从寸身李斯之要也即此經傳數射通用此合異射二字為之也(奇觚卷二二頁師

異鼎

高田忠周曰按射者視而可發也从目以會意固為至當又左手執弓右手執矢从手亦為會意然靜致異作異毛伯真亦同然則此或當从弓異省聲要此篆射字異文無可疑矣又或釋異異數古通用字又或與數擇通劉心源古文審非吳釋云按說文異引給也鍾鼎文多用為擇如異乃吉金屢見之矣又用為厭數字靜致靜學無異毛伯真無不成其皆異省古數字通用射詩服之無數魯詩故數作射詩無射于人斯禮記大傳注作數詩在此無數毛作數轉作射余足釋詁豫射厭也釋文射本作數凡說卦水火不相射詩矧可射思好介無射太元三歲不射皆數字此鼎之爾蓋合異射二字為之射古文作射象手

執弓矢形即此字所从也此說與鄭攷稍近(古籀篇二十九第四頁)

柯昌濟曰射字从目从射劉幼丹先生曰古數射通用此合目射二字為之案即數字之古文以音通射不必云合文也(釋華四九頁數鼎)

予省吾釋異見雙遷卷下一第四頁小子異鼎

李孝定曰容于二氏均錄定作異并可以劉氏謂从異省無據予說未見待考方氏以為射字从目所以審之也其說固可通然甲金文射字多見未見从目作者古人造字固不必繁複若是也所說射數相通者緣同音通假不能証射數一字更不能

赤塚忠曰：關於異字，則由日與并構成，并為弓，急張之貌，蓋為道即復之音也。則是以復為音符之雙字也。（段金文老釋五九頁）

小
子
聖
賢
訓
(30)
林
深
明
譯

𠂇

毛公鼎 金 升 大 命
△ 重 功

毒

象伯曰：錄自且老
有金華子圖邦

又有△于周邦


人劉心源曰：蒼用爲丞，或釋勞非累，設鼓云有，意于我家舊釋。

婚娶非釋說文女部婚猶文作𡇗季良父壺婚講作𡇗錄

伯戔古畫變作臣省輦詳後攷說文爵作爵象爵之形中有

鬯酒又持之也又者所召飲器象雀形者取其鳴節足也

許言𪔐象雀形則古刻从𠂔𠂔者亦然其从𠂔即卩卽𠂔从𠂔从𠂔即止卽足古刻从止之字亦作𠂔象足形詳考楚鼎已寓卽足之義其从𠂔

巨者為魁省小篆存豈省矩意實同此於爵字形義已葡文說
 觴籀文作金湯从爵省仲多壺作爵从亦司亦爵省
 孟鼎瓶即爵即雀用為戲皆古利爵字之證 又从中女字

1456 (3108)

1455(3107)

也中亦知古刻婚字从爵女會意詩有齊季女疏云女將行嫁

父醴女而俟迎者婚从爵義蓋取此許書猶文从爵即旁从止乃之變从弓為巨諄从戈為中諄必寫者涉於夔字而誤雷

據此訂之此銘余非事又昏無唯正昏皆用籀文煇為昏又書

轉畫車與宣宣畫車同即輓也說文車部輓車伏兔

車也从車慶聲玉篇作輶廣韻作輶小篆从車古刻从𨋖車當亦

播文之錄也若散散之查與此銘亦勤大命竝从爵省非婚

字皆不乃菴也說文𦵏𦵏象虫也一𦵏刻為二謂之𦵏𦵏𦵏合𦵏字當从女用𦵏今所用𦵏字乃借𦵏而誤从巳也

从豆蒸省聲蒸从艸丞聲丞从火丞聲丞从卩从巳从山 = 高

奉承之義此銘从分為爵省小篆从𠂔益省也𠂔即後人用為

合查字而音讀亦變
許云燕省聲徐作居隱切
 召燕即字誤入真郎非也
 求伯戔鼓自厥祖

考有奔于周邦从四即軍即豐豐詳後凡數數詳前敲敲詳前伯伯詳前戲戲詳前敲敲詳前之

1111

有豎豎與此諸豎動皆用為丞豎從省從豆从爾雅釋詁丞能

也黃雅譯沽一蒸美也是其義譯者孰與昏字目昆奴羊說之

奇佩卷二 四大頭至四七頭 毛公月分

公卿

象台集曰七字名文作事以又從省聲說文所無愛古文也

字七音印證之具也。凡文字之有音無也。一曰事也。廣雅釋詁音韻

此書既捐之舅文懿文公。茲於林廿二日。纂修乃名。兼言於册。

也。昔劉謙伯嘗言：乃祖考有女子，弄琴，女作香奩，見此，感作墓

終其真耳推進下二子頭毛公也

孫詒謀曰金文又有象字象台高王若曰象台辨論象乃且老

又入奔于厝并燕州从牧廢省聲當即指之爲燕說文

撫也古文从手从収字多互通故摠亦作𢵿矣又毛公鼎云𢵿

董大命單白鹿云李氏董大令台與永歌文復敘異宋校書

1458(3108)

1457(3108)

字上即从耳中从止者古文从皿从豆字下多作此形蓋為飲器故亦从此小篆變為卣即由於此象故从卣者亦與从止同意金文四字偏旁多作卣字又或作卣皆其證也唯據孟鼎□兩文從耳字者从耳乃得為卣省此諸文或無耳則直是从卣省蓋卣字尤簡但推其義知必讀為卣耳原下二頁

孫詒讓曰舊釋為勞以篆文審之殊不類今攷此字上从卣古文下从收實當為卣之變體後毛公鼎云卣蓋大命卣字作卣與此正合之三古文卣字蓋上从古文卣省毛公鼎作卣者卣下又从豆省詳述象此似與彼異同彼吳亦釋為勞誤同又後象伯戒云卣自乃且考有卣于周邦之三卣作卣下从收亦與此同彼吳釋為始實亦當為卣說文手部卣撫也从手

1459(3108)

卣一曰壽也古文从手字與从収多互通此借為卣字書盤庚不省作勞釋文皆本或作卣孔疏引鄭君注云卣讀為卣也此卣蓋猶勤勉之意餘論卷二第三〇頁單伯鍾

孫詒讓曰案舊釋為始以文義求之當為卣字前單伯鍾三之後毛公鼎之三並云卣蓋大命卣即卣字吳並釋為勞誤有指猶云有勤勞也詳單伯鍾毛公鼎又云前曾侯角云曾侯作卣卣口用卣車徐同卣釋為卣許瀚釋為卣云古卣字說文作卣云卣文車部卣云古卣字卣書婚屨見皆舉失真即說文所載亦難免傳寫之誤其卣云卣古文下體作屨與屨下體同殊無理解之一案許說近之而未盡也金文卣字屨見形聲雖不能詳說大較从女从古文卣省說文屨部屨禮

1460(3108)

器也象卣之形中有卣酒又持之也所以飲酒象卣者取其鳴節足是也古文作卣象形疑古文卣字當取卣禮合蓋之義故从卣省此从卣者似即从卣為卣之上半形从卣者蓋與卣同金文卣字多作卣作卣並詳卣盛酒器故从卣省毛公鼎作卣者又似从豆省豆卣皆器意亦異同說文卣形無義例可說竊疑實當作卣上象卣形下從豆省傳寫訛變耳但此从卣省實从卣省因古文卣字从卣从耳从女此省女耳而从卣者收與手義同金文多互用明當為卣之異文實非卣字也詳前

卣字又有卣字作卣之三彼偏菊即从此可以互證蓋屨屨字作卣从女正借卣為卣毛公鼎作卣不省與此義同此右从

1461(3108)

巨者即古文耳古文始本从要省五鼎卣字右亦从耳也餘論卷三第三三至三四頁單伯戒散蓋

強運開曰毛公鼎蓋大命吳憲齋以為古勞字寫謂其義則是其字則未端詳案字形當為古勞字說文卣部勞傳也從卣米聲米古文卣字讀若書卷古同音俱可通段遷釋為勞於義無當此蓋段借為勞倦也按古卣卣字其首與旁同象伯戒故卣字其首與米相近可為旁一之證說文勞勞也从力老省聲段氏則以力為旁聲注云轉入終日馳騁左不捷書捷或曰勞勞云勞今倦字也據此則漢時已倦行勞廢矣是知勞倦為古今字尚書倦于勤即勞勤二字相連之確證金文勤每省卣蓋是勞亦可省卣矣古卣三補卷十三第七頁

1462(3108)

郭沫若曰：鼎字亦見毛公鼎與單伯鐘二器均言彝重天命，舊釋無說，孫詒讓釋指謂以收古文晉者聲，王國維仍釋勞，謂象兩手奉爵形，古之有勞者奉爵以勞之，故以兩手奉爵為勞，以釋勞為是，蓋以兩手奉爵，爵亦聲也，僅言兩手奉爵，可以為飲，可以為獻，不必便是勞，唯以爵為聲始能定其音讀，古字當作勞，象人有為酒所亂而手足無所指之形，此單以爵不得釋為指字，（兩攷六十二頁至六十三頁，余伯猷說）

張之綱曰：徐同，釋登據古釋勞憲齋同，云余伯猷說自乃祖考有爵于周邦與此同孫詒讓云：禽字說文所無，當即指之異文，說文手部指撫也，一曰摹也，廣雅釋詁指順也，又昏或訓勉，余伯猷說禽字正同（附釋二頁）

1463 (3108)

命者，即書盤庚之恪謹（天命也），爵可讀恪，蓋可讀謹，可讀勤，均同音通，段大命猶天命也，（爵為勤詞之尊，即儀禮冠禮尊於房戶之東之尊也，禽為勤詞之爵，即禮記王制爵人於朝爵以功之爵也，今其本意皆為通段意所掩矣）（毛公鼎集釋七八頁至七九頁）

楊樹達曰：彝字舊釋為婚，孫仲容古籀餘論以其字下从卅，謂當釋指，是也，惟孫君據書盤庚云：不昏作勞，鄭君注：請昏為飲，訓為勉，謂有指指云有勤勞，餘論上卷恭拾此字，指字蓋二說，義嫌迂曲，余則謂指字當讀為勤，說文力部云：勤，能成王功也，从力，重聲，昏與重古韻同在痕部，聲亦相同，故二聲之字可相通假，知者易九三云：屬彙心，彙，虞翻本

1465 (3108)

高鴻緝曰：鼎文彝重，劉幼丹以為蓋用為燕燕進也，其字上从爵，省，殷設有禽于我家，余伯猷說：自厥祖考有禽于周邦，皆用為燕燕清鄉，疑禽為古勞字，王靜安曰：禽，象兩手奉爵形，單伯鐘勞重天命，余伯猷說：蓋有勞于周邦，字皆如此作，古之有勞，奉爵以勞之，故以兩手奉爵，蓋諸家皆讀勤，緝按：禽與禽均从升，从爵，為爵字之動詞，而仍可通段以代名詞之爵，爵之从升，猶之面（滿尊之象形文）之作鼻（古仲高，孟爵父癸殷）雖尊彝案象形文應為尊之作鼻，鼎之作鼻（面重父癸）也，凡字之加从升，或以者皆為動詞，但無不可通段以代其原字，故禽與禽皆應讀為名詞之爵，而釋燕釋勞皆非也，酒器之爵，即爵祿之爵，是以殷設有禽于我家，即有爵于我家，余伯猷說：殷有禽于周邦，即有爵於周邦，單伯鐘與本鼎之禽，蓋大命，即爵重天命，爵重大

1464 (3108)

作閑，閑，重通作，知指無動亦可通作，一也，後漢書百官志云：光祿勳，卿一人，掌宿衛宮殿門戶，劉昭注引胡廣云：勳，指閑也，易曰：為閑寺，宣寺主殿宮門戶之職，據此知胡廣謂漢官光祿勳之勳，即易閑寺之閑，勳與閑通，如亦可與指通，證二也，楚辭是美人云：與賁黃以為期，抽思云：曰黃皆以為期，按二句語意全同，而一云賁黃，一云黃皆，知屈子意固視賁黃與黃皆為一義，文雖有倒順之殊，賁即是皆，較然甚明，故王遠注云：賁黃蓋皆時，王遠以皆時釋賁黃，義即本之屈子，蓋賁為皆之後起形聲字也，證三也，詩小雅召旻云：昏極靡共，鄭箋云：昏極皆奄人也，昏其官名也，極，極陰者也，漢書叙傳云：烏乎史遷，黃胥以刑，按太史公下獄室，受宮刑，班孟堅稱為黃胥者，以其身體見毀，與昏極為奄人者同，故惠定宇徑釋

1466 (3108)

兼為腐刑是也見後漢書補 曾為奄人兼為腐刑義同源於音同也證四也本此四證有指當讀為有動明矣皆音 (稽微二十頁永伯或改再改)

王國維曰勞鼎文作勞象兩手奉爵形單伯鐘勞養大命象伯敦蓋有勞於周邦字皆如此作古之有勞者奉爵以勞之故從兩手奉爵齊子仲姜簋單叔有成勞于齊邦齊侯罍鐘蓋勞其政事字又作勞則與小篆勞字為近矣(觀堂二〇〇一頁毛公鼎銘考釋)

徐同柏釋登見從古卷十六第二十六頁周毛公鼎

吳大澂曰勞字象兩手奉爵形單伯戎敦有乃祖若有乃考于周邦與此同(容齋四冊五頁毛公鼎)

李孝定曰此字各家說者紛紜糾結不清推原其故大抵聞爵不辨所致今請略言其故金文聞作𠂔象人着大耳音假作皆作𠂔其義無涉也字形與爵字作𠂔者近前賢每不辨此遂致糾結劉心源說此字雖若甚辨然實支離滅裂且一無是處即坐此故各家之說略辨之如下徐氏釋登劉氏釋燕此二字古文均從兩手奉豆其一上从肉一上从米為異而此實從兩手奉爵二說之誤立見矣吳大澂殷古勞字王國維郭沫若二氏以之蓋謂兩手奉爵有勞問之意然誠如郭言兩手奉爵可以為飲可以為獻安知必為勞字郭氏既身設此問乃謂字乃从升从爵爵亦聲連可定其音讀為勞按勞爵古音雖同郭

1468 (3108)

1467 (3108)

而韵讀實連爵聲何以讀勞其說未聞郭氏說音字亦誤蓋以經為音之本字遂有音象人首為酒所亂手足無措之謬解不知其純為假借字也諸字在本銘中讀勞雖可屬讀然字形甚遠說不可从張之綱氏从孫詒讓氏說釋指亦緣以爵為聞之誤說已見前不贅揚樹達氏亦从孫說釋指而讀為飲其義較勝然字形已誤其說雖辨不能从也孫氏說古文增以取省其誤亦緣不識經為音 強運關氏釋弄而讀為奉德義亦可通其誤亦在字形至實非弄字也惟高鴻緝氏運讀此字為爵其說最為通達爵動則讀格動有爵於周邦即讀如字文从理順說不可易也小篆爵从寸即从以之變二者用為偏旁古得通作又增說為意符耳唐蘭曰毛公鼎勞動大命作爵象伯戎蓋有勞于周王作爵象兩手捧爵形爵與勞音近此無兩手形而上从凡而句法與

1469 (3108)

承伯蓋相似當仍讀作勞師克盥有勞于周邦作弄則有兩手(文物一九七六年一期六三頁何尊銘文解釋)

劉心源釋作春曰春者釋作𠂔非案說文豆部登豆屬从豆弄聲此从木即承省从以从且即古文豆合之為登蓋非此銘所用義此段為春蓋言有春顧于我家也象伯戎敦有乃祖若有弄于周邦毛公鼎爵蓋大命皆春字也古籍補疑是勞字失篆形矣(古書卷六第五頁殷敦)

按此需金文編未收薛氏二十西清二六續古十據古二一著錄見福目八三六頁

用法高曰本字定教授從高鴻緝讀為爵與格通按爵為爵頭音格為古振音聲母懸殊韵部亦異爵錄藥部郭沫若從舊說

1470 (3108)

釋勞謂從勞聲更非因勞與勞聲韻相差更遠或當為會意

字勞爵王念孫江有誥董同龢等同隸宵部

林泰輔曰魯基之書鄭業數云此字與下文余非高又勉及楚

賁無唯正氣相近彼二文為古音字唯此文下從艸稍異書盤

庚不台作勞正義云鄭玄讀音為餒訓為勉書當是餒从艸从支

字義相近勉勤大命文理亦洽(中山第六冊四五九六至四五

九七頁毛公鼎銘攷)

1471 (3108)

林孝定曰从林从収豈字似皿不知何字

李孝定曰从林从収豈字似皿不知何字

1472 (3109)

說文

說文

阮元曰巽字作巽者說文巽卦之巽作巽巽義同同此巽旅蓋人

名氏(積古卷八八頁散氏盤)

吳大澂曰巽阮相國釋作巽散氏盤(古籀補附錄五頁)

劉心源曰同下从巽說文刀部巽卦也引易巽卦是巽巽通也

高田忠周曰按巽為人名音義無可徵者又審象形从网从巽

从二皿尤明哲者字書無之為古字逸文然則巽字音義不可

詳況巽字固不可詳矣今並為逸字姑存于此云阮氏云此巽

字作巽者說文巽卦之巽作巽巽義同同此攷妄甚愚初謂巽

即并字立即由巽二田與一田同意此為番字今訂正云(古籀

篇十七第一八頁)

郭沫若曰巽字不識當是動詞旅當即甬攷从鼎之號旅號旅

乃甬時王臣中之司訊訟者彼鼎甬从攷攷衛攷時王既命攷

衛攷旅旅立誓此銘之立誓當亦同有王臣以為實曰罰曰傳

素非王朝哉能措施之二器時同事同故知旅即號旅

殆含即就參詣之意(兩攷一三〇至一三一頁失人盤)

李孝定曰阮劉二氏釋巽字不从巽說誤高田郭二氏隸定作

巽可从郭氏引甬攷从鼎說此銘亦可以惟此字仍不可識耳

1474 (3110)

1473 (3110)

𠂔

李孝定曰：从欠从収从替，而并不可議合之，亦不知為何字。

李孝定曰：从欠从収从替，而并不可議合之，亦不知為何字。

𠂔

高田忠周曰：按此二史，聞訟判決之言也。竟者盡也，升夫即盡。夫盡夫任，掃除者亦盡其數，附于田邑也。噴附同音通。

高田忠周曰：按此二史，聞訟判決之言也。竟者盡也，升夫即盡。夫盡夫任，掃除者亦盡其數，附于田邑也。噴附同音通。用此篆與形與上諸文同，實亦升字也。然字从會，有義，詩衛風淇澳篇：會弁如星。傳弁皮弁，所以會髮。髮會謂弁之縫中飾之以玉云云。然此从升會，意遂非升字而為免異文也。此後出字弁免通用，故此以免為升下。《古篇》三十四第一九頁。柯昌濟曰：羅疑古羅字象雙手執，因獲佳形，會意亦為象形說。文羅以絲致為也。从因从維，蓋从維為晚出之說矣。章厥羅羅疑通羅與罪通，訓書用罪罰厥死，用德章厥善，乃皆詞也。《釋華》二二一頁，隔比蓋。

郭沫若釋：昇，謂昇乃官職，名見兩政一、二四頁，隔比蓋。

李孝定曰：从欠从収，其中固非佳字，然亦與會字不類。柯氏釋羅若羅，實誤。郭氏雖定亦可商。高田亦謂从會而謂上之因為升形，引詩淇澳傳弁所以會髮為証，遂謂此為免升異文。按一實象因形，不得說為升。升之釋會亦可商。即全二釋並不誤。然會髮之訓乃毛說，古人製升字，安得逆知毛傳而為此篆文哉？字不可識，宜存疑。

𠂔

楊樹達曰：然與釋是，余以下道字推之，疑至為人名或官爵之稱也。《釋微》一五三頁，我作父己，獻跋。

于省吾釋：承見雙連卷下一、第四頁，我應善圖四五，考釋一四頁，我方鼎同。

李孝定曰：从欠从収，其中似弓字而不甚類，似非从尸。楊氏之說待考。

容庚釋：與見善圖四五，考釋一四頁，我方鼎。

未家忠曰：此字，予有古氏所作水畫，以為即篆文之字也。又西周初金文，小篆連筆，似以字用為永，王命之永，與此字。

簡不同乃同一紐構之文字也
然段正是篆文之收(丞字)而且事實上承乃與古音相同若如是
則當解作經書中之冬聲之丞之也(殷金文老釋八九頁亞
若我鼎(5)杯深明譯)

1479 (3113)

大印解
李孝定曰字不可識似當隸定作坊

1480 (3114)

附
造如專
△從宗重

高田忠周曰按抗亦作挽作抗並段借為剋說文剋剋也从刀
元聲元元同字剋亦當作剋也楚辭懷沙剋方以為圖分注剋
也字亦作剋據蒼則剋也又考工記故書挽摩之工五司農注
讀為剋上林賦抗士卒之精注損也即借抗為之也(古篇篇二
十八第一九頁)

1481 (3115)

高田忠周曰字明从臼从友文元元與元同字古文曰手通用
此當抗字說文抗動也从手兀聲詩正月天之抗我上林賦注
抗搖也蓋本義謂兩手持之蕩搖振動也方言抗不安也實其
轉義也字从臼為意尤為互順字亦作抗元元同字猶抗或作

軌可證矣(古篇篇五十五第三〇頁)

李孝定曰高田氏以為抗字似可从从臼與从手得通元元亦
為同字

1482 (3115)

望土設軍家而
7012 △望土永鑄
△望土永鑄

柯昌濟曰舉字作望象兩手舉物離土形着釋舉當不誤

1483(3116)

李孝定曰舊釋筆於字形全不相涉說非吳雲氏釋寅寅字訓進金文習見大抵从矢从𠂔象矢之進也假為干支字此契金文諸寅字迥異吳氏說非郭氏謂即契文𠂔字是也然謂契文𠂔即𠂔字以音讀求之固近而於字形無據待考譚氏謂是𠂔字取偏旁𠂔加以割裂謂不為支𠂔之三角架取上八形與𠂔相合謂是𠂔省說字萬無是理且𠂔形亦不得省而為𠂔也

1484(3116)

《大分》
墨 墨 拜頤首

毛公鼎
<060>
刺
△

牽強附會甚非今審以「非」字省此上作「𠂔」疑「𠂔」文下作「𠂔」即
𠂔字說文「𠂔」部𠂔屋所容受也从「𠂔」成聲蓋亦與盛字相似在
屋曰𠂔在皿曰盛因謂此𠂔亦盛異文从「𠂔」所以盛。黍稷之
形竊聲然盛亦非𠂔意或段借為釘釘字別義廣雅釋器拴檣
釘也此云𠂔釘亦車輿之具不敢妄臆姑為古字逸文存于此

1486 (311?)

1485 (3116)

吳寶輝曰說文與裏古文此略省亦裏古文意也謂徐同柏作
轆(毛公鼎文正註十六頁)

張之綱曰徐同柏釋轆云說文轆車衡三束也曲轆轆縛此从
𠂔从成束成則轆成矣二吳从之孫詒讓釋盛云說文無此字
徐讀為聚轆於形並不類鑿金當謂涂金與考工記匠人白盛
之盛同阮款識散氏盤有𠂔字亦與此同綱索徐讀聚轆二
字句孫則連下金字為句以𠂔字形義言孫說為長唯云此𠂔
字與散盤𠂔字同不無可疑蓋彼文上半與此畧同下半則
似辰字未可遽足彼為𠂔也(對釋十五頁至十六頁)

高鴻緒曰近人著秦祖楚文考釋曰孫詒讓釋為考工記匠
人白盛之盛塗飾也甚是楚辭九歌湘夫人播芳椒兮成堂成

一本作𠂔即此字成堂言塗室之堂約𠂔者即約革而加塗飾
緝按此說極精但鼎文𠂔下字應是𠂔之殘省原當从
𠂔音門塗姓血于省成聲動詞从𠂔勢故有塗飾之意以成爲聲
故得用成或成通段楚辭作𠂔者應是鈔謄鼎文約𠂔為實錫
之物應釋為塗約之𠂔𠂔用為名詞殆如今日之油或漆也車
上所以束約者多為革革束而以油漆類物塗之所以使之固
也(毛公鼎集釋一。六頁)

張日昇曰按字下半从成似非从成

李孝定曰徐氏釋轆無當於字形孫氏釋𠂔為考工記匠人
白盛之盛高鴻緒氏引祖楚文考釋之說謂即楚辭九歌湘夫

1488 (3117)

1487 (3117)

人成塗別本之𠂔高氏又從而引申之謂字當从𠂔勢故有塗
飾之意此說極精可从此義無正字為成爲盛並為假借僅
別本楚辭𠂔雖屬鈔謄猶存𠂔聲蓋古字雖亡而語言中猶存
此音此義速假成盛為之耳

𠂔

伯德蓋 白𠂔𠂔𠂔

高田忠周曰按古籀補引為要字非今从吳式芬釋要作𠂔或
作𠂔又或作𠂔與此篆稍近自異而說文𠂔𠂔周成王時
州屏國獻𠂔𠂔人身反壤自笑笑即上骨弁其目食人北方
謂之土𠂔爾雅曰𠂔𠂔如人被髮讀若贊一名集陽从𠂔象形
但說文亦必有𠂔𠂔即𠂔二𠂔也其實元唯一𠂔此篆可證而
作𠂔者為籀文增減𠂔字或作𠂔者同例耳又𠂔似自𠂔說
文作𠂔似由亦𠂔由均為象形下作𠂔𠂔為𠂔字異萬字下
形亦往往如此也𠂔𠂔似人故字从𠂔𠂔為𠂔面𠂔為被髮字
形自應得字義如此者豈為要字乎(古籀篇六第頁)

1490 (3118)

1489 (3117)

柯昌濟曰：說文解字中，也象人，要自白之形，从白交省聲。要，古文要，即此款第二字字體。

吳大澂曰：與許書中，字相似，當是要字。《說文》八册，第十八頁，伯要府款。

李孝定曰：吳大澂釋，要說因誤。高田氏以為即說文體字，亦無據。按从內之字，金文多作外，契文則作內，象手持形，許訓獸足蹠地，不知所本。此文下从心，非內字甚明，但當隸定作地，以古文體字例之，則隸定作要亦可，字不可識。

1491 (3118)

郭沫若釋：見兩改一二九頁，失人盤。

李孝定曰：劉氏釋，引古老子文，要作也，出汗簡，疑是。高字亦與，其字無涉。劉說非。高田氏釋，文此下所从，實非，文字又引朱駿聲說，謂其中从羊字，亦作據，故从收說，殊支離，不可以郭氏隸定作是也。惟何以側書，是何義，並不可知。古人右旁奇字，人死字亦隨之俱亡，類此者甚多，不能盡識也。

1493 (3119)

盤

散盤 二七頁失人盤

劉心源曰：美或釋，周亦非古。老子美作，與古遺文作，與此合。《奇觚》卷八，二七頁失人盤。

高田忠周曰：按山即山字，古文用為火字，火上从羊，殊明。說文羊，小熱也，从火于聲，從大訂作，从羊聲，與此最合。廣雅釋詁：于，火明也。又羊訓據也，从二从側入，一入為干，二入為羊，讀若杜。朱氏駁證云：羊者，犯之甚者也，字亦作據。史記荊軻傳：右手據其臂是也。然則羊字或當从門，門手同意也。上作可，疑政明之意，與四字口內作丫，公同意。此羊火雖異文也，又或云：可借羊之，合以為日，从火从日，並取熱意。猶與字之類。《古金篇》十三，第二七頁。

1492 (3119)

盤

散盤 二七頁失人盤

劉心源曰：刊本有作，解者有作，解者各從，刻畫，凡為標仿也。即如阮釋作，不惟象形，絕異文義，亦不能通。余謂此，拓直是，朕字从反月，从分，从耳。《奇觚》卷八，二八頁失人盤。

孫詒讓曰：解字上从陶，金文眉字多段，為之，下从女，从系，疑當為要之變體。說文曰：部，古文作，要，从系者，疑為要約同義，故亦从系。皆繁，結文也。《餘論》卷三，第五三頁，散氏盤。

郭沫若曰：說段為契要之要。《兩改》一三一頁，失人盤。

1494 (3120)

郭沫若曰：余初以意推之，釋疑讀為考。八書第一今來此釋不確，字當是繆乃繆之繆文，說文要書為一字，篆文作繆，古文作繆，本文上體所从與小篆形近，下體右側復从肉，則要書字也。或云所許書之古文，字復从糸，自當為繆，繆字說文所無，集韻謂與繆同，果當是繆約之要之本字，周禮小宰六曰：聽取予以書契，七曰：聽取予以質劑，八曰：聽出入以要會。鄭司農云：要會謂計最之要書，鄭玄云：書契謂出予受入之要，凡簿書之最目，獄訟之要辭，皆曰契。左氏襄十年傳：使王叔與伯與合要，王叔氏不能舉其契，由禮獻要者執右契，鄭注云：契，券要也。質劑，於左氏文六年傳又謂之質，要杜注云：質，要券契也，是則書契質劑要會，均券書之異名耳。左氏經傳，即厥左執券矣。（金文一七七頁至一七八頁金文餘釋釋續）

1495 (3120)

阮元釋禮考曰：執禮考，史主禮考之史也。（續古卷八第八頁數氏盤）李孝定曰：阮氏釋禮考，按禮考字，金文累數百見，與此絕殊，阮說非。劉氏釋禮考，按字未見从友，及八劉說亦不可从。據此，禮考釋，謂即要之篆文，郭氏从之是也。郭引經傳要字義訓，以禮本銘義亦順通。

1496 (3120)

考之要書，論其不四類，年謀。

孫詒讓曰：觀从要，从要省，亦說文所無，以聲義求之，當為說文心部愆之篇文，愆，是通此，或當為愆之借字，愆為助語，詩書常見此，愆，其不曰俾句，愆余，咸安，胤士句，如是，則文義約，可通，但從要省，于義難通，要古音亦與胤同，古音胤衍延三字，同部，互通，故說文謂部，或作衍，此胤衍相通之證，周禮大祝衍祭，鄭注云：衍字當為延聲之誤也，此衍延相通之證，餘論卷三，第四五至四六頁晉邦金。

高田忠周曰：此字上作，即要之省，下从言，又从見，見依恒例，此為邑字，然此有別疑，胎之異，因謂侃言要三字古音皆在同。

1497 (3121)

部，此亦要字異文，言侃並以為聲也，說文謂齊謂之坎，用象，紅持之，門為口，口推，內火，象形，篇文作，關此非，姑意，即段借為侃，轉義侃，本訓剛直也，从川，取不舍，晝夜，又从古文信，蓋知用心，類，無已之意，此借要為侃，故字亦从侃，往見此例矣。（古書五十八第一九九頁）

1498 (3121)

郭沫若曰：觀乃古諫字，知者，許書裏字古文作，謂漢全解衣而耕，謂之裏，新出三字石經，曹伯康古文作，與許書古文略同，然此字結構，當有訛變處，余疑上體乃象雙手持，而其事耕作之形，下體乃從光得聲，古文光或作，罕，由段王來，獸，自豆，繫在口，諫，王卿百，（東漢）王，（金文）罕，由，貝五，朋，用作，此字作，乃從言，聲，像以兩手拔除地上林。

吳閨生釋觀讀作覲見古文卷四第三十三頁晉邦蓋

李孝定曰吳闈生允隸定作體讀為既既从兄聲其說宜若可
从於本銘韵讀亦協惟辭義不可通為可疑耳孫氏謂从嬰从
侃省按嬰字許訓推林納火而此文所以林字乃在竈口之上
不得為嬰字其右下明是兄字亦不得从侃省孫氏以此為
誣讀本銘於顛字句絕而以此文屬下讀雖亦可通然於字形
不合說不可从高田氏之誤與孫氏同郭氏釋此為謀引說文

襄之古文及三字石經曹伯襄古文為証其說確不可易



戈文平鼎
46
戈圖△陰
匕文

辛寶陳棄

聶

二 孟鼎
△戲
△覆
王

寶
△
寶

寶
△
寶

毛公鼎
<680>
鄭木圭

寶
△
寶

○劉心源曰：𠔁，即𠔁說文𠔁所引校𠔁者，从𠔁，𠔁省，然𠔁姐𠔁作𠔁，則从𠔁从𠔁，𠔁者手持之象，正所校持也。此从𠔁从𠔁為𠔁，省是為𠔁，字林弓鐔女應，爾公家乙公𠔁永寶用，鼎其義為𠔁，說文𠔁用也。从𠔁从自，自知是𠔁所食也。自即讀若庸廣韻𠔁字𠔁為𠔁，古文是𠔁，即𠔁，即𠔁也。𠔁寶𠔁是𠔁器，周礼春官典𠔁器注：𠔁器伐國所藏之器，若崇鼎、賈鼎及𠔁其兵物所鑄銘也。𠔁𠔁者功也，銘功之器，故曰𠔁器。（奇觚卷二：四九夏毛公鼎）

高田忠周曰按徐同柏說鬲寶祿圭之瓚也瓚以玉為之形似鬲此說誤矣此篆即鬲字異文銘段借為獻也說文瓚桓圭也公所執从玉獻聲此云玄圭獻寶其意明矣獻寶者猶謂寶獻金文用字往往有此例也蓋獻从獻聲獻从鬲聲故鬲獻亦通用也(古編篇七第一三頁)

郭沫若曰今案甬乃古甌字象形甌之為物上下二層下層
 為甬今之鼎鍋上層為甌故此甬字即於甬上再著一層以象
 之小孟鼎銘每見甬賓或甬王邦賓等字樣均假為獻納之
 獻金文甌甬之甌復多段獻為之甬寶余謂當讀為瓊寶
 《金攷》二六七頁七（公鼎）

徐同柏釋南曰：標圭之璜也。謂之高寶者，璜以玉為之，形似兩玉人注璜如盤蓋焉之說者，或如盤也。從古卷十六第二十八頁周毛公鼎。

陳夢家曰：商下一字，辨文商高，是抱匏的玉具，稱為璜，稱之為商璜，是商約抱匏之玉具。同此約璜字，見於以下西周金文。小孟鼎即立璜，賁即設易女璜，章三師詢設易女璜，匏匏一貞，主璜，敵設，尹氏受賚，敵圭璜。毛公鼎易女璜匏匏一貞，鄭圭璜，寶除小孟鼎璜讀作賁外，其餘圭璜、璜璋之璜，都是璜。圭璜之形制，漢世注者不一其說，詩早麓鄭箋云：圭璜之狀，以圭為柄，黃金為勺，青金為外，朱中央矣。周禮典瑞注引鄭義云：於圭頭為器，可以抱匏，標祭謂之璜。引鄭玄云：璜，大五升，口徑八寸，下

有槃，口徑二尺，若工記玉人注云：璜如盤，其柄用圭，有疏前注國語魯語韋昭注云：抱匏之圭，長尺二寸，有璜，以祀廟。金選三。頁西周銅器斷代五宜侯矢攷。

又曰：寶與有同訓，助周禮大行人賁慶以贊，諸侯之喜注云：贊助也。左傳傳二十五晉侯朝王，王享醴，命之宥，杜注云：宥，助也。左傳傳二十八年，晉侯獻楚俘于王，王享醴，命晉侯宥，如此則銘文贊，即有賓，左傳傳二十八晉侯獻楚俘于王，王既饗，有之，是蒙命賁，與此銘先享右錫相屬。金選二一七頁西

周銅器斷代五七小孟鼎。

李孝定曰：徐氏釋南，而此文兩上更有一層，其形製不類，且釋南以讀銘文亦不可通，劉大猷釋南，按此字不似，且象兩上有

1504 (3122)

1503 (3122)

物不象所以枝兩說，不可從。高田氏釋南，讀為獻，較舊說已勝。然庸寧許訓南為兩，而此字兩上更有一物，高田氏並未細審其形製也。郭氏釋南，許訓既屬於字形最合，於孟鼎銘讀為獻於毛公鼎銘讀為璜，均辭從理順，不可易也。此為觀之原始象形文，而觀則為後起形聲字。

白川靜曰：商高，恐即與璜字，圭璜字因為抱匏之具，斷代曰：商下一字是抱匏的玉具，稱為璜，稱之為商璜，是商約抱匏之玉具。同此約璜字，見於以下西周金文。

小孟鼎即立璜，賁即設易女璜，章三師詢設易女璜，匏匏一貞，主璜，敵設，尹氏受賚，敵圭璜。毛公鼎易女璜匏匏一貞，鄭圭璜，寶除小孟鼎璜讀作賁外，其餘圭璜、璜璋之璜，都是璜。圭璜之形制，漢世注者不一其說，詩早麓鄭箋云：圭璜之狀，以圭為柄，黃金為勺，青金為外，朱中央矣。周禮典瑞注引鄭義云：於圭頭為器，可以抱匏，標祭謂之璜。引鄭玄云：璜，大五升，口徑八寸，下

敵設 使尹氏受賚敵圭璜

毛公鼎 易女璜匏匏一貞 鄭圭璜寶

所以商引諱早麓，金周禮典瑞注，若工記玉人注，國語魯語韋昭注，皆以說明其形制，要言之，乃用於標禮之抱匏之器也。關於以字，陳邦福氏尚有異說，曰：

兩設即毛公鼎兩寶，即數兩章四數的略文。左傳定四年傳載成王，分魯以夏后氏之璜，蓋可參證。

陳氏之釋文，商高下一字，雖脫漏，然蓋以為與所設之兩章四數相同，而有助數詞者，不過即設之文，應讀作，兩章四數，一難以作為有助數詞之例，以璜而特訓為商高者，恐指殷式之形制之意，漢代各家亦異其說，蓋亦由於其形制上有不同之處也。金文通釋第十璜字，四〇一頁，四一頁，五二頁，後失收，林氏

1506 (3122)

1505 (3122)

少白川靜曰：高帝用佐主蕭之字也。然在此恐爲表不令遠以迎者之禮之動詞。漢書王莽傳述王莽采之文曰：

周子序述主于作順。延登贊曰。假王佐政。勤和天下。王平第之乎。便役之意也。陳氏以高詹贊言宴之義也。然固乃即位而行之禮。以晏則應酬作序述。

馬步良於季氏臨盟無參盟之字大抵左書从口或附有流水之

二月廿侯社嘴移麥麥易主金閣下晚間从井侯社事
用鑿多口反

此一哺禮乃甚厚使君賜與來寵榮而行者也真益二銘中明

李奇事 才八月乙亥辟井侯光祿正吏喟形參憲易金用乍陳

李益 井使光祿吏李福于李安使易李全乍益困从井候社
事困奔走風之益口口

字恐爲表示以至鑽行標之禮名之本意之字無何以以形或法
形之物然當與未熟之哺相同乃對廣表所行之禮也（金文通
釋第十一輯七〇〇一七〇一頁六二小孟鼎）

贊敵圭鬲
 鬲五十間
 圭鬲
 鬲

1508 (3122)

 𪛗 李孟 <1950> △于參之口 △
 御道六運
 𪛘 李鼎 <1666> 井侯杜 △
 于參
 𪛙 比鼎 肅儀

弗其付△△其且祖△△依△△其徭萬年
 △△主依街致告于王曰弗能許△△我

耳
 通

[illegible]

字石△△△△△
擬皇且祖丁△

○劉心源曰今據篆形釋之耳當是嘯玉篇嘯雉鳴也案說文嘯亦嘯字篆熟任五味氣上出也許曰𠂔象氣出此𠂔象出氣孔余見北人鐵竈三足旁爲耳出氣如煙筒卽𠂔也此銘卽仍是𠂔之象形字時未可鹵莽讀之耳或曰說文𠂔釜也讀若

過即錫字今人識錫不識酤此酤即酤後人變牛耳然則酤即
酤：即過風俗通姓氏篇過氏過國傳左夏諸侯後曰為氏
蓋酤之為過正如魯國韓寒周舟陳田祁龜號郭祝鑄許鄧同
聲通段不足為異也（奇觚卷二十六頁酤比酤）

上 孫詒讓曰嘯字金文單見右旁从𠂔作口說文𠂔象腹交文三
 足而此改為从𠂔形聲皆絕異金文𠂔字常見皆不作此形孟
 鼎殘字𠂔作𠂔用與此嘯字偏有正同撤氏盤有𠂔字作𠂔
 亦疑卽此字从口从𠂔形缺簡小別爾此字說文未收說文𠂔
 字云炊气从𠂔𠂔聲嘯𠂔或省𠂔
 之省但𠂔字經典未見義亦難通耳玉篇口部始有之而訓為
 雞鳴則於此證無取攷𠂔歷古音同部故說文𠂔漢令作𠂔
 从𠂔聲金文疑借𠂔為歷說文歷傳也爾雅釋詁歷相也此𠂔
 亦取傳告相導之義故其字从口(宋)林七卷二九頁周麥鼎攷

1510 (3123)

1509 (3125)

者亦謂之過也。秦集云：用辭并侯出入，逆連謂逆連之人出入，亦謂出入之人。此銘云：辭御事，亦謂御事之人也。續微一五五頁秦孟蓋跋。

ab 周法高曰：此字除見於禹攸比鼎及甬比簋作人名解外，見於下列諸器。

秦孟，甬于秦寧，甬口。

秦鼎，并侯往甬，巧秦。

秦彝，甬，巧秦，甬，用甬并侯出入。

秦尊，甬，甬，侯逆連。

吳閻生謂甬即甬字，甬也。吉金文錄卷二：郭沫若謂段為燕饗之燕，大泉頁四二：秦彝，甬，此云：甬聲在歌皆非也。當以白川靜部燕在元部，歌元二部可陰陽對轉。

之說段為標說文辭，秦名土釜曰辭，从甬，中聲。讀若過，標字从果聲。果與辭通，皆歌部字。古音為 γ ，標為元部，古音為 γ ，聲韻皆切合。白川氏謂毛公鼎：鄭主甬，實鄭為用主瓚之禮。瓚侯鼎：瓚侯方內，瓚于王，乃傳之。王國維以鄭傳解作標禮，庚寅，鄭章，史獸鼎，實，鄭，鄭傳，鄭為與標禮有關之字。周禮典瑞：標圭有瓚，以肆先王，以標賓客。又鄭人凡祭祀，賓客之標，事和鬱，以實，而陳之。又玉人：標圭尺有二寸，有瓚以祀廟。標為祭祀時賓客之際所行之禮。金文通釋六：秦孟蓋銘第一一：韓，法高案：毛公鼎：傳圭，瓚侯鼎：乃傳之。金文編收入頁六二一：韓，法高案：毛公鼎：傳圭，瓚侯鼎：乃傳之。金文編收入附錄下頁三：（3123）標為標，無害於甬之段為標。惟白川氏將3123甬與3123甬相混，則非。因毛公鼎：鄭主甬，實，白川氏既从郭沫若讀為標，主瓚，實則3123甬不應與3123甬相混。

方濟孟曰：當是書說文書用也。从甬，从自，自，知集者所食也。讀若庸。此下从用，與用義相同。（續通卷十四第30頁秦孟）
李本定曰：此文除从口，或一外，與上甬字全同。甬與甬同類，器物所固有，或烟口者是也。至其音讀，則當與甬有別。甬聲多釋辭，讀為過，以讀秦器諸銘，亦怡然理順。其說可以至。辭攸比，从諸，則為人名，無義可求。辭，令作觸，已易象形為形聲。其用亦與甬屬之辭小異。蓋辭之本義為甬，或曰甬，一物數名。蓋古今方言殊語耳。方氏釋甬大誤。按甬亦事之誤字。草金文作 𠂔 ，新編為 𠂔 ，再編為 𠂔 耳。其字與此迥異。至玉篇訓鐘鳴之鳴，當別是一字。从口，甬取其雄鳴相似，遂以為聲。與此無涉也。王國維氏亦釋辭然，謂从一，與我字旁从相似。我聲，辭聲亦相近，則有可商。此文从一，明是象形，非以為聲也。至小篆之辭

許謂从巾聲，亦誤。實即从一之形，語耳。高田氏以為集韻之獻形，雖近似，然無以通讀秦器銘文。此字或从口，非口耳字，實烟口之象形也。

a 白川靜國：楊氏釋作甬，音過，至之義也。其說曰：

甬，說文云：秦名土甬曰甬。與此字不協。然說文所讀若過，知古怪傳之文，必有假甬為過者。故許君云甬，而此銘亦正假甬為過也。呂氏云：若秋其寶，而云：但更過於矣。高田云：過猶至也。秦彝，甬，以孟為一人之器，則銘云：并侯往甬于甬，甬亦過也。

楊說乃據說文，甬讀若過之音，以字為過，至之義者也。然僅同聲，未至而作甬，之事，並無其例。又考彝有甬，并侯出入，運命

之文于其訓就主難通也

嘯與嘯之形相近。嘯為與。主嘯連用之字。嘯之初文也。然小孟鼎中嘯字用作動詞。嘯之初文也。蓋即本嘯之嘯。毛公鼎有。嘯主嘯寶之說。用主嘯之禮稱爲嘯。蓋侯爵亦有。蓋侯駘方內。璽于王。乃嘯之。嘯。王。國維皆釋作裸禮。唐蘭辨又有。新章之說。史獸鼎中。曾史獸以。嘯。嘯。嘯。皆當爲與裸禮有。同。之字。

若以嘯為主嘯之嘯。嘯爲其動詞形。則可認爲嘯即相當於其後之裸禮者也。

周禮典瑞。裸圭有瓚。以肆先王。以裸貴客。

同。爵人。凡祭祀賓客之裸事。祫饗也。以寶華而陳之。

同。玉人。裸圭尺有二寸。有瓚以祀廟。

裸爲祭祀賓客之際所行之禮也。(金文通釋第十一輯六二〇)

一六二一頁六〇 麥孟林深明譯

白川靜曰。嘯。口。郭氏以爲。嘯。送。之意。以第二字爲御事。送也。

第三字爲送。送之義也。專銘有。嘯侯送送。專銘有。嘯井侯出入。三

器之表現各異。而皆用嘯字。

楊說於此句亦疑。爲另一解。曰。

嘯字。與上嘯字同。而用字異。別有麥尊。亦以人之義。其銘

文云。麥。揚。用。作。嘯。嘯。嘯。用。嘯。侯。送。送。于。思。泐。釋。之。云。失。令

段。用。嘯。王。送。送。可。證。嘯。爲。送。送。之。義。其。說。是。也。古。人。字。義

往往相同。經過。謂。之。過。蓋。變。過。者。亦。謂。之。過。也。麥。尊。云。用

嘯。井。侯。出。入。送。送。送。送。之。人。出。入。亦。謂。出。入。之。人。以。銘

云。嘯。御。事。亦。謂。御。事。之。人。也。

1520 (3123)

1519 (3123)

則是。以。銀。三。字。讀。作。嘯。御。事。嘯。爲。饗。宴。之。義。也。然。以。嘯。爲。過。又。解。作。饗。宴。過。者。等。乃。無。理。之。解。也。顧。松。道。居。中。亦。取。其。御。事。之。解。以。上。可。疑。嘯。下。一。字。與。嘯。或。顧。之。形。相。近。其。字。不。明。末。一。字。不。系。釋。作。矣。也。亦。不。明。確。今。暫。缺。釋。(金文通釋第十一輯六二二頁)

一〇 麥孟林深明譯

白川靜曰。嘯。爲。迎。賓。之。時。之。裸。禮。也。郭氏大。京。新。版。中。所。記。曰。嘯。聲。在。歌。部。燕。在。之。部。歌。之。二。部。可。陰。陽。對。轉。云。以。字。與。燕。同。義。乃。以。爲。與。饗。同。義。而。解。之。者。也。然。嘯。與。饗。之。儀。節。不。同。周。禮。典。瑞。稱。裸。人。中。只。有。裸。禮。是。獨。主。祀。祀。載。的。(金文通釋第十一輯六二四三頁六〇 麥尊 林深明譯)

用。嘯。侯。送。送。出。送。以。嘯。燕。揚。麥。尊。用。嘯。井。侯。出。入。

1522 (3123)

1521 (3123)

氏釋帶揚氏从之按此下从美實兩下着火之形論絕非羔字二氏之說誤也張曰昇氏按語云是帶兩字帶需字从帶需無此同於說爲長惟張氏謂此乃从皿則覺未審張氏所引兩字諸變體可証也張頤張萬鍾二氏釋煮按此字从采甚明契庚兒鼎一丈不同不得謂是者之省文也

盤

吊夜鼎用錫

用△用

阮元曰：鄒鼎字从佩，此鄒鼎字中作只，即古文佩之省字，或作鈇通體。左傳正考父鼎銘云：體于是，鄒于是。此取義義正同。（續古卷四，十一頁叔夜鼎）

劉心源曰：𦍋，說文：𦍋，都云：𦍋，也。重文作𦍋。𦍋，鍵案：𦍋，下云：鍵也。𦍋，即𦍋字。今俗以米屑熬之，令稠，謂之打欠子。即𦍋也。寄觚卷十六，十五頁。叔夜（折）

高田忠周曰說文𩚑南也从𩚑侃聲𩚑或从食衍聲𩚑或从食連聲被氏云衍食見內則飡見孟子𩚑見韵食

1531(3126)

1532(3127)

引左傳愚按鬲亦鬻也故此篆从米省即𩺰之變文鍾鼎佩字作𩺰可證又改鬲為皿皿取于盛義也亦與鬲同意狀即𩺰之變𩺰字義為鬻鬻固當从米會意知小篆即从省文此字或元从鬻省乎(古籀篇七十六第一九頁)

郭沫若曰：叔夜鼎目征呂行用𪔐，用𪔐美。舊釋用𪔐南用𪔐南案說文𪔐南也从𪔐但聲。然𪔐南或从食衍聲。𪔐南或从食干聲。又云𪔐五味盃𪔐南也从𪔐南从羔。詩曰：亦有和𪔐南。𪔐南或省𪔐或从𪔐誤省𪔐小篆从羔从美。今𪔐字之說自是𪔐南字。从米。𪔐當是聲。釋者因𪔐侃形近故釋𪔐南案其實乃兄字也。字从兄聲。則不得為𪔐南。……𪔐美為𪔐則𪔐必与之相應。字為動詞而讀兄聲。準此以求之。余謂乃𪔐南字之異也。說文𪔐南_魚也。从𪔐羊聲。古音羊聲与兄聲同在陽

部蕭字本多異文。按玉裁云蕭亦作翺。亦作翺。韓詩予以翺之。惟鎬及釜封禪書禹收九牧之金鑄九鼎皆嘗亨翺上帝鬼神。翺卽祀志作翺。亨翺許而切謂煮而獻之上帝鬼神也。毛詩假湘爲之。毛曰湘烹也。今器作翺。又其一異矣。《金攷》二二二頁至二二四頁釋鑾）

錫樹達曰。錫字薛尚功釋體。形音並不相合。阮氏首釋帶。云从𠂔者。古文𠂔之省字。吳大澂說文古籀補。李孝陸從其說。樹達按𠂔字說文從𠂔。古文信从川。金文兮仲鐘指鐘並作𠂔。保侃母殷作信。並从橫川。叔氏鐘作𠂔。从橫川省。與此形皆不合。而𠂔字在金文中常見。乃兄字則阮氏二吳之誤釋明矣。余疑此字當為說文之帶字。三篇下篇部云。帶。鍵也。从𠂔米。銘文从米。與

1533(3127)

$$1534(3127)$$

舊唐書 或謂 高如今之烹字 亦通 (續微一四六頁 故夜無賦)

李孝定曰 書 从郭冰若說 釋 見 訓 條 下

1559 (3128)

從美

陳公子獻用 郭高 編 梁

徐同柏曰 美 嘉也 (从古卷九 四頁 周陳公子獻)

方濬益曰 說文 郭而健也 从 郭 而 米 聲 比 从 美 郭 而 清 與 郭 而 之 或 體 郭 足 郭 阮 二 家 款 識 所 錄 同 叔 夜 鼎 銘 之 郭 均 同 意 爾 雅 釋 言 郭 康 也 孫 注 則 曰 郭 而 清 康 也 (續通卷九 三十二頁 陳公子子獻 遠父獻)

郭沫若曰 郭 郭 字 从 郭 而 从 米 从 匕 已 當 是 聲 已 聲 在 之 部 与 蒸 部 為 對 轉 此 實 蒸 之 古 字 也 舊 釋 為 美 非 是 蓋 郭 郭 非 調 美 之 器 而 殆 梁 亦 非 作 美 之 材 字 形 不 合 尚 其 餘 事 (南 政 一 八 三 頁 陳公子獻)

1540 (3129)

郭沫若曰 陳公子獻用 征用行 用 郭 美 郭 梁 郭 梁 上 一 字 若 均 釋 郭 蓋 亦 以 下 體 美 火 字 為 蒸 而 云 然 也 今 案 此 与 上 郭 字 同 意 乃 以 郭 而 省 从 火 蓋 不 从 蒸 且 郭 郭 非 調 美 之 器 殆 梁 非 作 美 之 材 釋 美 者 蓋 未 深 加 思 索 也 余 謂 當 是 蒸 之 異 从 米 从 匕 已 聲 已 与 然 之 蒸 陰 陽 對 轉 也 (金 政 二 二 四 頁 釋 梁)

吳國生釋蒸 見古文卷四 第二十三頁 陳叔原父獻

李孝定曰 方氏釋 郭 蓋 以 其 从 米 也 然 此 實 梁 上 郭 而 郭 而 二 字 同 例 从 米 實 與 郭 字 相 合 為 意 符 之 一 部 分 古 文 字 備 旁 亦 多 任 意 增 省 郭 而 字 合 米 郭 二 文 會 意 此 字 原 當 以 郭 為 意 符 更 增 之 未 在 古 人 視 之 原 無 不 可 然 實 為 衍 文 也 方 氏 釋 美 郭 氏 已 辨

1541 (3129)

其非美氏亦釋為美而以小字旁注 蒸 字 蓋 以 文 義 求 之 當 為 蒸 而 未 達 其 故 郭 氏 謂 字 从 已 聲 是 也 又 謂 已 之 異 蒸 之 蒸 陰 陽 對 轉 即 古 蒸 字 共 說 是 也 郭 為 蒸 物 之 具 殆 梁 亦 待 蒸 而 後 熟 釋 蒸 蓋 不 可 易 也

1542 (3129)

1545(3131)

鼎集釋九二頁至九三頁

周萬生曰併字原文徐同柏釋暖劉心源釋并吳式芬釋繼吳大澂釋駿孫治讓釋壯吳寶燁釋恭丁佛言釋并亦有釋繼釋敬者就中以釋并為近者字形及金文中此字前後語氣有既怎麼又怎麼與及和的意味這裏先說用司六自過後又說併司六自累八自執好像司六自累是本職司八自執是兼職故暫釋併參一九五七第八期五二頁鄧縣周代銅器銘文初釋

柯昌濟釋繼見釋華一一九頁字鼎

1551 (3131)

郭沫若曰釋字在此并說為精亦可通蓋用為收藉之藉而改一二二頁大克鼎

徐同柏曰字作較左旁从人并會意從古卷十六第二十八頁周毛公鼎

李孝定曰此字金文習見其右旁从人形最為明也从并似欠似見省人形也从口省止形也中印皆从止之形為左上

从止似立字然立非可持之物也文或从並伊知但象二物非从立也左下从并諸文皆同亦甚明白并亦非可持之物必以

為聲也未讀諸家釋文則先讀各器銘文即顯疑為兼字既讀高氏之說實與我心竊謂並不可易也請就諸家之說一分析

之與大澂釋駿改金文暖字偏旁均从夕若夕無一與此相同姑無論字不以馬與與關生氏引師錄說一文以為其右似

1552 (3131)

偏旁安得釋駿劉繼二氏釋併蓋以左旁作並并與并相似而其誤甚顯也云然然諸文並并分立其非并字甚明且右旁雖為人形然从示手持之意與从人者有別至孫氏以為从女者則是从止之誤釋也若或釋繼改繼絕古當為一字與文絕作在象斷然形許書古文作劉繼从丁當為从丁之誤亦象以刀斷然也金文繼作繼指數與與文絕字極近可証其始當為一字此諸文與之無然亮相似非繼字甚明也或釋靜其誤可無待辨劉心源氏引許書并下一日之說謂从凡正與从持二合按許君一日之說實為不辭以者何義二者何物安能與此字相牽附乎吳寶燁氏釋為恭字謂左為共於形已遠右為龍之變異則更不知所云矣郭沫若氏釋精改精字契文作持手持未與此字左旁迥異金文精字則多从昔聲亦此文所無不得釋為

1553 (3131)

精字也丁氏釋聲與此字僅一旁从并字相同於形体無據丁謂為人以手據法治事之意說亦支離不可以也林泰輔氏釋劉於字形無熱毫相涉其誤毋待辨惟高氏釋兼謂象人手持二相同之物并聲其說可以小篆兼从手持二木與此同意惟無聲符是變形聲為會意就文字演變之過程言為變例矣小篆兼从又與从凡同意此从二尸疑為王帝之屬之象形字亦與小篆从木同意也

1554 (3131)

劉心源曰象下一字者釋作繼未確說詳郭說此字象形與彼又與高關駿(古書卷六第五頁假設)

劉心源釋作併曰也下一字者釋作繼心源疑是併字通并从美即并从夙即繼會并下云从持二干之意也(古書卷六第九

觀足(大16)令女(大18)汶果晉觀足對各(大21)綏嗣我西臨東隔
傳駿百工牧臣妾(大23)王令敷錫鞶繡九陂(大27)綏五邑祝(大40)

斁命于外內之事

1555 (3131)

 \therefore^a

身自
舊釋又
<27.4>
公姑令△朝回
△△愛摩

阮元曰：古邑字作又。見汗簡。（續古卷五，二頁邑尊）

方濟益曰舊釋以又為邑謂即汗簡文字以叔敖故風字偏旁
从又證之自是又字說文又手足甲也从又象又形（續遺卷
十二 二十二頁又卅）

1596(3132)

劉心源曰又古文𠂔字見說文蠶下阮釋邑引汗簡𠂔字非也
(奇觚卷六十四頁又卣)

柯昌濟曰「又古蚤字」取蚤形說文蚤習人跳蟲又聲又聲入字案又即古蚤字續華二八五頁又卣



△戊戌中假分

李孝定曰客氏隸定作是似可从字不可識

楊樹達曰。按又字阮氏積古齋釋為邑吳式芬璠古錄釋為义吳大澂方濬益劉心源及近日劉體智小校經閣金文並從吳說。周金文存釋為丑。今按諸家之釋皆非也。又丑二字並从又。又字不从又也。余謂字左旁蓋从二。右旁从欠。乃次字也。師湯父鼎款字所从之釁字。釁字又旁並作下字。从人从二。象張口出氣形。此次字所以欠字與便並同。可以證也。（續微一七四頁次自隨）

李孝定曰。歸審字形以揚說釋。次為長字右非从又也。

1557 (3132)

1558 (3133)

仿

五族文星

五族文作幻由錄膝段八

李孝定曰字不可識其左旁所从不可辨認即康定亦不易也

假

小臣單解王後大克商

王後大克

方濬益曰假即假通作格書竟與格于上下說文人部後漢明

帝紀皆作假于上下爾雅釋詁格至也釋言格來也言來自覓

商也又易家人王假有家馬融虞翻注皆曰假大也象下傳王

假有廟荀爽陸績姚信注並同禮記禮運是謂大假鄭注亦云

假亦大也若云王後大克商義亦通(綴遺卷二十四十五頁至十

六頁小臣單解)

郭沫若曰假即假字段為假若假(兩政第二頁小臣單解)

陳夢家曰字从厂从聖說文曰汝願之間謂致力于地曰聖从土从又讀若見廣聖就是擬此處假作屈曲屈曲轉洋水屈此

1960(3199)

1999(3194)

羣魏書序既職假命詩有客宴和周本紀作既職假命秦東魏敵國法云職假也王後大克商是成王身二次克商即克武庚之族金遷二四頁西周銅器斷代小臣單解

李孝定曰方氏釋段讀為格非也按段作段从从二皮上痕也段即康本字此明从厂从土从又當从郭沫若說釋段讀為友於義為長陳夢家大釋聖讀為段改聖字與文作段與此有別且雖克連文義亦猶復也

白川靜曰王後大克商首王字極為難解因依其解釋之不同而分別以器為武王期或成王期且本為理解是缺之因假所在因題元在於第3字字林曰字詳而與段文字詳段新以則釋作是

1961(3199)

通武王克商時假即假字假為反若假武王以文王紀元九紀武王東現兵至孟津後以十一紀即渡孟津克商

此此王後大也

即讀作王後大克商武王伐商之前後二役中前役諸侯不期而會於孟津者及於八百之數然至後以非天命之時期一度

遂軍後二年討之皆亂果遂至是則此于聖子皆受厄乃率諸侯

至於商郊牧野殺紂以次一役後克武王以武王以武王

力述後役之事則王後大之表現既顯明又顯明若為其義則當

作王反後克商故厥初以為後文有誤例以為應作王克商後反

以克商之後迫于成王之意也而謂及乃至例乃至平字之事

也王以為以釋誤例乃金文中平字之事然在銘於字廟之重器而記述如以重字之事之短文中不應有以釋誤例也郭沫二氏

1962(3199)

三多、八喜、上二、又一、多果畢不又、

1963 (3135)

元王基山主與之計人子占一戶科賦候詔皆上
不抗不之

1565(3135)

三多、八、上、一、二、又、一、多、果、畢、不、又、息、

1564 (3135)

1963 (3135)

元王基山主與之計人子占一戶科賦候詔皆上
不抗王之

1566 (3135)

1565(3135)

周法高曰如白川氏之假定屬實則全疑假為備米駿聲說文通訓定聲第十六部四十三頁偏字下引左氏宣十四傳辛偏之兩注五十人曰偏昭元傳偏為前拒服法二十五乘為偏極五傳先佛後伍法車戰二十五人為偏成七傳合偏兩之一馬注車九乘為小偏十五乘為大偏

1567(3135)

康

台鼎峙持未口口其金數六五

高田忠周曰按此篆諸家本皆合元如此也即从門與弓同意其義劉心源說云大五乘者大量也小雅量二謂之乘十六斛史記田敬仲世家田常以大斗出貸小斗收之漢書食殖傳漆十大大斗注大斗者異於量米粟之斗也此攷似是合篇五十六第二六

1568(3136)

譚戒甫曰矢五乘阮亦大五乘郭作矢五乘大和東皆非周禮大司寇職鄭注古者一弓百矢又夏官司弓矢職其矢屬皆從其弓法從弓數也每弓者一屬百矢按此乘疑假為履象第紐履並紐聲近通用據此五乘即五履當是五百矢中華三輯八

四頁西周金器銘文綜合研究

郭沫若釋東曰矢五乘即五百矢也(兩改九八頁自鼎)

李孝定曰郭氏釋東非東本當作木東之東兩端作譚作木乃似从木而實非从木也此字中畫上端稍左曲有似於木然全文本字上端亦有左曲者如善夫克鼎之休作以此字是否則矢五乘亦即矢五束也若是从木則直當釋為兩手同械之恭讀為拱以讀本銘亦頗順通或仍當以釋東為是也譚氏讀東為履可商與銘失之文屢見未見言若干履者不如釋為東解為束之為愈也高田氏誤矢為大遂致舛悟耳

1569(3136)

𠂔

伯孝期道伯孝公傳詠道

徐同柏曰對字从出从豆从寸良書通作樹(从古卷三三十一頁周伯季金)

吳大澂曰𠂔最奇字之異文日夢期(古籀補附錄二十三頁)

郭沫若曰此字舊或釋對東當是數字讀為凱若豆說文無凱字豈下注云還師振旅樂也……从豆微有聲是與凱為一字凱亦正从微省特有亦自錄簡耳(金文一三頁名字解訪伯孝數)

柯昌濟曰字从寺从日象骨節形當即古骨字異文說文未收(華二一七頁伯孝期蓋)

1570(3137)

楊樹達曰：刻心源古文篇訓釋……評說鼓字云：鼓字連易其體字从止从立，即豈也，从卜从夕，即夕也。此可謂割斷評盡矣……劉氏雖識其字……而云白為地，名孝鼓為人名，則仍誤讀也。余謂由孝乃制器之名，鼓鑄，依韻四字當連讀，云鼓鑄者，謂鼓索以鑄器也。淮南子本經篇云：鼓索以鑄以銷銅鐵，高注云：鼓擊也，索治鐘排索也。左傳昭公二十九年云：遂賦晉國一鼓鐵，以鑄刑鼎。孔疏云：治石為鐵，用索肩大動，謂之鼓。今時俗語猶然，按傳云一鼓鐵，鼓字似以服虔量名之釋為長，而孔疏說鼓字之義，恰可說明此文鼓鑄之義矣。他器多只云鑄，而此器獨言鼓鑄，讀者遂忽為不之覺察，皆以鼓字屬上白孝讀之，誤矣。（續微二七六頁至二七七頁白孝讀鼓）

1571 (3137)

吳式芬釋鼓見據古二之二第三十五頁白庚蓋

張日昇曰：按徐同指釋孝為秦子二文其誤顯然，又楊樹達釋孝下一字為鼓，謂从月即豈从卜从夕即夕，然字左旁下半似从卜非从文也。

李孝定曰：字左从止或寺，字異文，右旁不可識，字不从豈，釋對釋鼓並無據。金文鼓字多見，所謂立而上見之，豈地無後置左側，而與象鼓形之，手難之理也。楊氏釋鼓以為動詞，而與下鑄字連讀，無論字不當釋鼓，即為鼓字，似亦不能以鼓鑄連讀。彝銘中言鑄某器，作某器者多矣，獨未見於作若鑄之上，更加一動字者，此不應獨異也。郭氏釋鼓謂即凱字，亦屬無據，柯氏

1572 (3137)

謂日象骨節形，左从寺，當即古文骨字，右旁之月，已與與文骨字作目者絕異，且骨字亦無無从寺之理，是則此為凡說矣，字不可識。

1573 (3137)

利

王生七統
王生女

方濬益曰：象手持雞形並象之變體（綴遺卷二十六二十二頁亞形父丁角）

李孝定曰：字當釋利，說文作利，利為篆文，與文習見多與發字連文作利，發為卜辭恒語，或作，延發金文利字亦習見，惟右旁又下多从巾，容君不察，收此入附錄實一字也，說詳拙編甲骨文字彙釋卷三第971—978頁。

1574 (3138)

讀史
(1144)
△中別用作文乙尊章

李孝定曰从戕从又从子當是从子戕聲惟字不可識隸定作殷可也。

東坡忠曰：陸字象文作𠂔，金文亦有作𠂔者。之則𠂔，豈非陸之
 異体字与？予方之合文也哉。或与陸為同一族者如是，則方文未
 註疏至是之例也。（殷金文彙編六八頁，陸字子彝（卅）杯深明譚）

1575 (3139)

楚子
楚子△鑄其劍
楚子△鑄其劍

高田忠周曰按古文見夏通用多是爭字古文此為賴古文說文雖好兒从頁聲詩所謂賴首是也(古籀篇四十五第二三)

郭沫若曰：賤古錢字。（兩攷一六八頁楚子簠）

1576 (3140)

李孝定曰郭氏擇韻可从六國文字頗多詭變左旁是貝非見

發
<117>
平不
吉甘
具
△

李孝定曰字不可識

周法高曰白川解釋裸謂十二家云末一字不識麻朔末一字
釋福字近帛形與麥器或小孟鼎之哺同字乃被除之裸禮金文
通釋第十八輯二四
七頁九四致微二

1577(3141)

齊陳寔受盜
齊陳△不敢盜
席

郭沫若釋史記作曼曰陳曼疑卽田襄子盤襄子名多異文
史記集解引徐廣曰盤一作堅索隱引世本作班堅殆盤字之
譌因形相近班盤聲俱近曼(兩改二一六頁陳曼曼)

李孝定曰舊釋曼待考

1578(3142)

區別當解作以裸實之禮與之。金文通釋三三史獸虎白麟
美術雜誌第七卷三七一頁。

李孝定曰：舊釋勞說非詳見前。謝下揚說之誤亦已見前。不
贅。強氏釋勞按字與爵形略近，而實非爵字。取兩字校之，即判
然明白矣。高田氏釋專其誤亦緣未能詳審字形所致。郭氏引
鄭玄經注釋此項於義為長，然諸家經說多異，又苦無實物為
証，未敢必信耳。

劉心源釋為爵曰：爵者無釋，案鳥獸專爵作爵說文作爵，此與
此月鳥獸禮書之書作爵，今作爵俗省也。古書卷一第八頁庚
補錄。

白川靜曰：白末一字難識，由來有勞字二說。釋勞者為文，微羅
張玉王國維字羅氏以為字，必手持爵形，有功者持爵以勞之也。
畢玉公鼎之鳥動大，今為例小，按文係手亦同。微羅文選則缺釋
勞字，說楊樹達作之，金文之勞字與此字形不同，故美鍾字之勞
字與說文古文之形相近，與此為別字也。以析昌濟釋為各字為
是云，以為乃動字之初文也。

今按：柯釋字為爵是矣，然實史獸虎文難通，金文謂音當
讀為鳥獸史獸之鳥勞也，鳥動古音同字通。

昏動之用肩相假，詳見後，微左之末，伯或改再跋。其字下部與
爵字形近，金文之始，殆亦以此字形，今就爵之字形，羅說可取，乃
表示禮具之功之事也。字始一如其字形，所不原義，豈為以爵
禮具之義，則此銘當謂：爵者，禮具之行為禮具之功者。

也。同禮典瑞有以裸圭裸于廟，圭之禮，小玉，圭中可見其禮，必即
以其禮當與之名也。其金有官之字形，可視為合禮之禮之禮，動
者，其後之字形，與爵為別字也。陳氏釋爵為瑞，與說瑞者，在圭
也。若乃極圭則入于賜物之例，師還尊中以圭瑞為賜物，以此
言實與下文區別者，乃謂以裸圭之禮與之也。金文通釋第七卷
之七〇一三七一頁三三史獸鼎林深明譯。

次11 易 錫 費 執

爵

伯殿文主 伯△文△殿主方
連伯△文△殿主方

李孝定曰：舊釋定作爵

戰鼎 西史命公事

李孝定曰字不可識

吳蘭生隸定作𣪠 見古文卷一第三十頁非余鼎

容庚曰𣪠入名字不可識(頤齋一頁𣪠鼎)

周法高曰當是與字

沈子夏 也同義公 陳孝 我多弟子

鄭師許曰扶培植之義詩有扶之杜杜當即土字音段說文扶樹兒玉篇云木盛兒皆有種植意今作𣪠從又植意更為明顯(文史學研究所月刊一卷五期一一頁沈子夏敦蓋新釋)

吳蘭生釋釐見古文卷三第三十五頁沈子夏敦

郭沫若曰𣪠雖未之古字从十持木从大天亦聲示模作教刑之意也天聲雖在宵部與幽部極近此與裏字連文懷素亦成語也(金文三二二頁沈子夏)

1588(3146)

1587(3145)

陳夢家釋佐見金選二二三頁西周銅器斷代五九它敦

李孝定曰當隸定作𣪠吳氏釋釐釐字訓坊象以手持杖擊子之形金文屢見此从大象人走時兩手擺動之狀與釐字形俱遠吳說非是郭釋隸定作𣪠而讀為未敦似可通然金文未之文屢見字均假𣪠為之後又增自為聲符作𣪠未見如此作者郭氏雖亦未能自信其說於一九五七年增訂本金文大系考釋四六四九頁沈子夏銘考釋中已刪去此條按此字从𣪠與从𣪠同意从大象人之走有大杖則逃之象郭氏謂有𣪠作教刑之意是也惟不審當於今之何字耳陳氏釋佐未聞其說陳氏或以其文从𣪠乃左字故有此解考甲金文左右作𣪠𣪠單用此二字時分別明白惟偏旁中則往往𣪠𣪠無別

1589(3146)

釋此為佐未知所據鄭氏釋扶誤夫為大偏旁中𣪠大無相通之例其說可商

內川靜曰裏釐也𣪠字未詳郭氏釋作懷素文錄以為裏釐蓋誤全文皆有其字字形與𣪠大異字中寧近於逋通之通字陳氏釋作佐而無說裏釐二字初詢其目的誤為𣪠字子夏敦惟設分己弗與并之誤裏釐與𣪠同義之誤也(金文通釋卷十五解)

駁林陳明譯

1590(3146)

白

董氏鼎

白

董氏鼎

阮元曰。既說文以為古賢字。漢國三老袁良碑文。優賢之寵。賢正作既。州字通既。說文解州字云。呼難重言之。从四州聲。讀若祝。案列仙傳有祝。難公說文又云。祝一曰从兒省。易曰。兄為口。為亞。此則二口之下作四。直形而不作州字。有从兒遺意。較从州得聲為更古矣。說文解州字云。祝也。王逸楚辭注。男巫曰祝。禮曲禮。商官六大有祝。無巫。知商人尊神。巫祝合為一職也。禮古卷一十四頁。既州鼎蓋。

高田忠周曰。董臨鼎古文審。劉心源云。阮氏作既。既鼎按臨字離為二。舊釋作既。既二字。古猶補同。今按。猶可釋作既。若既。

从州。豈州字。蓋古文臨省。一口耳。口汗簡作。此二口作。是也。兩旁之。則錄文。孟鼎。乃口作。之。禮毛公鼎。汗簡引。岳碑。乃口有錄文之證。煩季盤。乃眾則。全形。與此肖矣。按此說。稍近。此即品之省。為錄。亦水。之變形耳。古鐘篇三第(二頁)。

李孝定曰。阮氏釋既。既二字。而讀州為祝。說殊支離。可笑。案上不从又下。不从州。於字形絕遠也。劉心源氏釋臨。說不可易。

早

吳式芬

吳式芬釋。見據古三之一第十七頁。吳父。董。柯昌濟曰。史古國名。山海經海內經。炎帝之孫伯陵。伯陵同吳。權之妻。阿女。緣婦。緣婦。三年。是生鼓延。鼓延。始為族。郭注。二子名。愚案。山海經之史。或即古代史氏之先。古代於氏族及人名。往往不分。如昆吾。義和之族。是也。堯典有史。斯蓋上古故國也。其國地大約在齊地。左哀六年傳。齊晏孺子。葬史。冒。冒。或。因史國之故。壤為名也。釋華二九六頁。吳父。董。李孝定曰。吳郭二氏。釋史而字實从口。按古文偏旁。史。史。史。得通。與許訓。史引。禮文。史以。續竹之。證合。此不从手。執仗形。恐。

非史字也。

吳式芬釋教見錄古三之一第六十七頁藉田鼎

吳大澂釋規見卷齋五冊十二頁謀曰鼎

吳闓生曰：敝額同字，頒所賜也。若讀殿，不謂余謂臣舟形近易亂古文。姪字時作舟旁，是其證。《古文卷一》第十四頁藉田鼎。李孝定曰：按二吳及郭氏後說，均釋敝額為頒，意固可通。而此字左旁絕非舟字，釋敝無據。吳闓生氏謂臣舟形近易亂，古文姪字時作舟旁，實誤解也。劉氏釋風，按古文偏旁，从凡从収，或从又，可通。然未見从又从凡相通之例。且左旁亦絕非月字，說未可據。高田氏分析字形，與劉氏同，而改釋為招，讀為亮，釋招之誤，同於釋風，讀為亮亦無據。楊氏釐定作政，極是。然讀為聖

1599 (3150)

命亦覺不詞。強氏釋敝蓋以左旁所从為也字，按此从刃與金文姪字旁从相同，定是臣字，非也。也字，按也字許訓女陰不誤。篆作𠄎，與契文有字異體作𠄎，所从之𠄎形近，即所謂象女陰之形也。郭沫若容庚二氏並疑之。郭氏於說子蓋印字釋為也，說云：也，說子名字乃古文西，象西之平視形，說為以為象女陰，非也。又字與它，即蛇古亦有別，因古音相同，世多混為一字。學者不可不辨。見一九五七增訂版兩用。按說子蓋印字，即字，其正體作𠄎，象蛇形，音假為西，金文習見，非象西之平視形也。古器物象形字皆側視，未見作平視形者。器物之形或圓或方，倘作平視形，將何以別之手？惟郭氏謂也字有別，則是也。容氏於金文編十三卷八頁，它字下云：它與也為一字形狀相似，誤析為二。後人別構音讀，然从也之也，故馳地施大字。

1600 (3150)

仍讀它音而說字今經與容作也，可証徐鉉曰：說詔之說，今別作也，非是。蓋不知也，即它也。說文也，女陰也。望文生訓，形讀俱乖。昔人蓋嘗疑之，按容氏此說，真所謂指鹿為馬，它之象蛇形，金文諸它字固明白如畫也。之象女陰，已見上文。明明二物，安得為同字？至容氏所舉也聲它聲相混之例，實緣也它古音同，部之故。形聲之字，取以為聲聲同，任作非同字也。至彙編西字，古假它字為之，今作西，从匚也聲，並緣音同之故也。也二字，均與西之本義無涉也。二氏之說，似辨而實誤，易滋學者疑，故附辨之於此。強氏以此所从為也字，更誤以十里矣。至強氏謂古也字有作舟者，以與此字旁从相比附，按所引此字實名字，从月从口，月夕通用，實為名字，非也。也字，全句云：慎為之名，可証。

1601 (3150)

劉心源曰：史字時口側置左旁，亦異體也。用為使古字通也。使令拜諸首曰者，王使其僕名令者，拜諸而訓之也。《古書卷二》第（四頁令鼎）

由川靜曰：句末郭氏始以弓下之，之今古通讀作收命，以為陳命之義也。曰陳言方同，通因之，也然收通之字，豈非从田，陳氏字誤釋，謂收以文義推之，當是施行之意。據古釋作收之錄，則係其義，楊樹達氏以字為也之初文，以為即到了力命，而之注所引字林與說文之義也。

本銘在上文，說徐刻之賜書，下文則著恩戴之說。楊氏謂銘文不記王賞之文，而此文則無論如何，都應是與賜與之事有關之辭。故郭氏以降命解之，已然在字可上，字釋作陳書，屬困難，而釋作

1602 (3150)

命之令則為作器者之名應屬下句
余意字或為治之異文終為始開載者之形貌之字述其辭之事
亦曰啟啓字為句今字屬下句郭氏以為今字下有重字而改釋
作政命大系新版中則以為乃由於鈔錄而生之重字而改政命
之釋而以政為版鍾之義也即退而取據古文錄之說也此字不
論為何字乃謂實行先商之王言之事也又案齊順稿中以字存
夙宿之義也然其說與全文之預解至異故留待待詳（全文通
釋第十四輯八一頁七三今藏林深明澤）

1603 (3150)

李孝定曰吳式芬大澤敬按敬从許訓自急教之荀與州部之
華姑或即假省為之荀或竟是敬之古文自急教即與敬義相
近也金文敬有作𡗗者雖與此文左旁略近然明是从荀而此
文左旁明是从么从口非敬字也方濬益氏隸定作敬可以从吳
大敦氏釋敬亦非

1605 (3151)

85

吳式芬父蓋

吳式芬父蓋

85

李孝定父蓋

李孝定父蓋

吳大澂曰按說文有敝字訓合會也疑此即敝之變體（卷十
四冊二二頁李良父蓋）

吳式芬釋敬見據古三之一第十七頁吳式芬父蓋

方濬益釋敬見綴遺卷十四第二十九頁李良父蓋

1604 (3151)

吳闓生曰薛錄有敝姬作寶彝故當是國族名（古文卷四第二
十頁李良父蓋）

張日昇曰按吳氏釋敬於字形不合

1606

敬字蓋

敬字蓋

吳式芬釋敬見據古三之三第七十四頁撫叔敦蓋

李孝定曰从文左旁所从不辨何字

1606 (3152)

禽道
72
禽又
△
祝

徐同柏曰可啟讀若振也（从古卷十、三十頁周禽龔）

郭沫若釋豳見兩改十一頁禽獸

陳夢家釋文見金選五七頁西周銅器斷代13禽毀

李孝定曰郭沫若釋政謂是臧之別構按臣乃豎目形而此所
以與臣臣絕遠郭說非是陳慶家氏从阮元氏說釋敝按甲骨

金文辰字作𠂔內諸形雖異此所从略似然諦審之仍有顯別說不可从考姬字蔡姑蓋作𠂔季宮父蓋作𠂔司寇良父蓋作𠂔中伯盤作𠂔其所从並異此同則此仍當隸定作𠂔與𠂔為一字惟義仍不可曉

白川靜曰。最要堂中聯作款。不成文義。後古以爲脈字。受脈之事也。从石則以爲脈脈之脈。郭氏誤作。當有取視以取即覽。藏之義也。陳氏無說。後古聯此句曰。

春官大祝在卿宜于社稷或失其職故周公謀使治其事

禽石

此則以又爲依者也。又曰。

啟 玉篇訓方類考此書讀為脈左成十三年傳成子定脈子
社社治脈宜社之內也

1608(3153)

1607(3153)

既天既釋視爲宜故以辰爲辰所作也師之階之軍禮也然其據其釋則是銘文作周公諱余宜余依服宜文義難以量通也

按殷王而訓擊而字乃擊股肉之象也似在古代作爲戰爭之禮
所行之呪之一種也卜辭有師歷師之金之辭歷者震驚之意也
師之震驚之事屢見于經傳書是典震驚服師詩常武徐方緝蹙
震驚徐方又詩長發有不震不動者皆此也原是蓋指因呪力而
師衆是懼蹙蹙之事蓋時敵人而行故蹙蹙術鎮之爲威者也字
爲去肌肉之象顯示該種呪之行爲之方式从而銘文與明公殷
之書使又因工相同應讀作禽又威視又字禽有備有之義蓋以
震驚敵方之師張之意也(金文通釋第三輯一〇七一—一〇八
頁一〇禽殷林澤明譯)

1609(3153)

虞敦蓋1180而錫壺音虞△金十鈞虞△用口用壁其右子吹更文壺

周法高曰此字于省吾雙選下二頁十郭沫若考古一九七三
 厲教蓋均釋教教者靈夷君長之號參0531教字下
 鈔者釋

予省吾釋教見雙選卷下二第十四頁展教餞吉文卷三第三十三頁展教數同

李孝定曰于氏釋教其說未聞按說文教字从出从放訓遊於放部出部重出與此字形雖略近而此字在本銘為人名無由註其音義疑未能定

1610(3154)

帮

教 伯鼎 伯鼎

柯昌濟曰字从華即黃之異文黃古族名竹書紀年宣王伐條戎奔戎或即其族(華一六頁教伯鼎)

陳康曰金文編列入附錄(下)後而未釋今以為即釐字之省假作萊乃是萊國之名克鼎之釐假作釐或黃和師釐之釐所以从之釐都和鼎文相近而從來得聲萊與釐黃與釐是相通假說文萊華華爾雅釋草釐華華說文黃賜也詩江漢傳釐賜也此釐白應是萊伯春秋宣七齊侯伐萊杜注云萊國今東萊黃縣春秋襄六齊侯滅萊左傳定十齊魯夾谷之會若使萊人以兵劫魯侯孔子稱萊人為裔夷杜注云萊人齊所滅萊夷此萊夷當是般後子姓之國般本紀贊和左傳隱元正義

1611 (3155)

引世本來為子姓春秋大事表卷五亦以萊為子姓(金選二二六至二三七頁西周銅器斷代通觀)

王獻唐曰教伯鼎字作教左从宅坐華字克鼎作參仲義父鼎作參石鼓文作參沿為小篆的參又加艸作參上為參而下即華實是二字一字說文有兩解依據爾雅仍為一解其中間一聲左聲右聲是一樣的上邊枝葉或繁或簡也是一樣的這樣鼎文偏旁的參便是坐華

教是从支坐聲的形聲字音讀為坐玉篇坐為火于切讀若教教字也應讀教古音坐華統隸魚部華亦讀教禮記郊特牲篇天子樹本華為華即太極可証後世字書把教讀古音華讀今音使它有別

教从參聲讀教復从支會意又如何解釋後代不用教體有

1612 (3155)

代替字作教也作挽作提教見廣雅訓詁集韻說與挽同打也故挽从各从虎為聲古音皆隸魚部以挽証教通有虎音也就足教音支在說文訓小聲教字從而會意讀音為教正是故挽今山東人打人有名稱叫做忽廣雅提擊也方言南楚相推搦曰提忽的本字應作提提也就是故挽它們的古文誰知竟在西周器銘中發現就是教字

可以再提一個古文証據紀侯鐘銘云己紀侯侯作寶鐘从阮元以來只知阮為紀侯名字不能解釋音義其實侯人是虎字只省寫了一條虎腿金文習見卜辭也有左邊卜形乃支字手持的卜古文卜文通用梁伯戈的魁即大孟鼎的愧可証它从虎為聲从卜會意今體應作教音義同教也就是故挽和提鐘為西周物教伯鼎同在那時候這個字最少有兩種寫法一作

1613 (3155)

教一作般似乎山東南楚各處這種擊打稱謂不是後出詞源最晚有兩千七八百年的歷史

以上只是要証明教音既然音讀為教則教國故城的舊名為教城就很自然的能轉為灰城

音轉類由雙聲疊聲而韻部音讀相近轉得更多教城的教音和灰城的灰音黃縣及其它山東人讀法通為雙聲同時教灰韻讀也很相近有這兩種條件就可以說教灰為音轉後人依轉音餘字教城就成了灰城但是黃縣人又叫灰城為歸城歸灰為疊韻字山東人讀這兩個字聲紐亦極相近疊韻紐近而轉也是一條常見的規律後人依轉音餘字又成了歸城(黃縣吳器一五二至一五四頁)

1614 (3155)

李孝定曰：柯氏謂字从舉，當即責之異文。按金文擇字屢見不鮮，均作未見。从舉者，柯說似有可商。陳氏謂為釐字之省，按金文釐字均从來或末，未見从舉者。王氏釐定作釐，謂是从支舉聲，於字形為近，說似較長，然亦未敢遽定也。

1615 (3155)

𠂔

台鼎，正口口不口金

孫詒讓曰：𠂔，舊無釋。今案此字右从金，古文𠂔字則疑是𠂔之壞字。𠂔之變體左从馬，見前。𠂔田鼎大鼎，𠂔三不𠂔，𠂔後五鼎。此文有𠂔，亦詳不，但文義未能推究耳。（餘論卷三第 六〇頁留鼎）

譚戒甫曰：𠂔字甚奇，然印得很清楚，我以為是从金人出會意。金即說文𠂔的古文。𠂔訓驅，古文作𠂔，此或即是𠂔的本字。因𠂔人出與𠂔逐，義相合。（中華三輯八七頁西周金文辭源文綜合研究）

1616 (3156)

知且關可也。

盛張曰：西周後期已出現𠂔刑，在金文中已有例証。記訴訟的台鼎就有。

余無通，其冠正口，其不口。𠂔，𠂔余。

𠂔字右邊一筆，或勑者未能識，加上𠂔文上下連帶，缺一兩字，就更難通讀。郭沫若同志說：余無通，其冠云云。惜勑字過多，意難盡曉。大率謂所冠無多，不必苛責也。現在識出𠂔，即𠂔之殘，其上也。顧為𠂔字之殘，意思就很明確了。台鼎記匡父厥匡寇，自禾十絲，台告到東官，于是匡何，自籍首求曉說，我沒有盜得什麼首長。正，不要言𠂔。我這証明偷盜是要受𠂔刑的。台鼎開首記：唯王元年六月既望乙亥，王在周穆王大室，顯為穆王之

1617 (3156)

後的某王郭沫若同志定為孝王，屬西周後期。這時已有𠂔刑，其上引叔何所謂周有九刑，興起于叔世。即晚正是相當。

古初𠂔刑皆背，月的是荆條，呂覽直諫王之罪當背。引席王狀，孫申名，束細荆五十，跪而加之于背。尉繚子也有百人背灼人之責。束人之背，因而訊之，講的正是獄訟情形。漢文帝始改背脊為以如淳曰：然則先時皆背也。史記廉頗相如傳：廉頗聞之內相負荆，即袒露出背肉。負者荆條，漢備受鞭索，隱負荆者，荆楚也。可以為𠂔也。說明至戰國仍然如此。說文𠂔，古文作𠂔，象手執𠂔形，本𠂔之伐，正是从人从𠂔，表示𠂔人，是為𠂔刑之本字。而自鼎之𠂔，于𠂔字又加出旁，當象荆條之形。本𠂔𠂔字，應用荆條，否則就會𠂔死。總之這些都是研究奴隸社會的寶貴材料。（文物一九七六年六期四一頁岐山新出殷虛若

1618 (3156)

𠄎

說文公鼎 說文公鼎

下中此鼎

劉心源曰說文段或作段案盤不顯𠄎休𠄎段為𠄎即或體此从𠄎即𠄎之倒形从𠄎即𠄎有美文者鑄範𠄎也(奇觚卷十六十七頁說公子鼎)

孫詒讓曰𠄎字書無釋今攷从𠄎从支當即𠄎之異文薛叔藏齊侯鐘鐘女台戒戎𠄎作字亦从支與此同又从𠄎者錄錄文也後晉邦金有𠄎字與此字形相似之𠄎疑皆一字金文通例作𠄎字皆借𠄎為之此文𠄎𠄎兩見者𠄎為說公子之名與𠄎器義異也(羅古二之二姑氏說姑氏自餘論卷二第二十一頁說文公鼎)

1620 (3157)

1619 (3156)

郭沫若釋𠄎見兩改二四五頁說文公鼎

李孝定曰劉氏釋段殊誤按段字从皮从二非一二乃𠄎之本字象皮上𠄎也此字明从𠄎从𠄎安得釋為段字郭氏釋定作𠄎是也然未能証為今之何字孫氏謂是作之異樣可從考作𠄎古均段𠄎為之以其義屬人事故小篆从人从𠄎从𠄎未見相通之例然有所作為𠄎當用𠄎故𠄎亦得从𠄎作𠄎矣

用法高曰師發段師餘父段教叔市容庚讀段為賜詳見條下引

1621 (3157)

𠄎

說文公鼎 說文公鼎

李孝定曰字不可識

1622 (3158)

番5

頁鼎
(0610)
王默
于晉△

楊樹達曰：數字以支番聲。番即今倉廩字。金文廩字多从米也。余疑此數字殆假為林。古林亩二字音同，故可通作。林為獸之所聚，古人狩獵往往於林。國語云：唐林射兕於旋林。太平御覽捌百玖拾引竹書紀年云：夷王獵于桂林，得一犀牛，並其蹏也。說文卅部云：蔀，蒿屬。从卅，林聲。力稔切。按爾雅釋卅云：蔀，蔀郭注云：今我蒿也。亦曰蔀蒿。段注說文云：蔀同蔀，是也。此林廩二字通用之證。梓，呂林鐘之林。今不知其本字。然金文多作蔀字，蔀為加聲旁字。非林字加聲旁字，卽亩字加聲旁字也。（稽徵八十頁）

1623(3159)

吳閨生釋康見古文卷一第十五頁

郭沫若釋敵見兩攷二九頁頁鼎

張目昇曰按字非从畜疑从南

李孝定曰字从爵似與南字有別金文康字多作𠂔與此甚近當據定作畝音畝地名固不必如楊氏說讀畝為林始得為地名也

1624 (3159)

平

齊憲君鉞
(2992) △憲君卅
鉞李固樂

高田忠周曰按此文麟髯褰布也。从巾。枚聲。讀若頊。一曰車衡上
衣。蓋古文巾。糸通用。褰或髣異文。然褰褰假為異字。固當通用。

高田忠周曰按吳本無釋似致矣今審篆形乃卽才之異形右
从攴此攴字也而又从糸此明繫字也然繫說文所無唯廣雅
收此字訓緝也廣韻玉篇亦有之此當爲古字逸文又按說文
有繫字訓繫布也巾系或通用繫亦或爲帶之異文乎古籍篇

1625 (3160)

劉心源曰肅从肅即敏叔伯父戴繁釐作尙繁時布衣作
不常其所从之每竝可互證說文作錄此作繁也(奇觚卷十一第
十一頁漢繁安辭)

方濟益釋繳見綴遺卷二十六第十六頁繳憲君餅

李孝定曰劉氏釋繁按字所从牙與甲金文每字有別劉說待商高曰𠂔謂即廣雅繁字與說文𠂔字得通按此所以亦非牙字字不可識

1626 (3160)

劉心源曰：允、斂二字合文，舊止釋作斂，非觀下文作斂，又作斂，一單傍名一兼係姓也。寄錄卷二二五頁（見鼎）。

孫詒讓曰：案《說文》小子之名，凡三見。此作斂，下一作斂，第二字最明。折乃从崔从支，从貝，此當為斂之異文。詳前師獲鐘之說。舊釋此字為斂，後二字為斂，非是。但此字从冊从允，又从曰，第三字亦从冊允，下又有義，蓋亦似所未詳也。（餘論卷三第五七頁見鼎）。

丁佛言釋斂曰：斂，同斂，莊述祖云：及貝，斂，或从斂，或作斂，並同。由禮記曰：積而能斂，鄭氏樂記注云：斂，放也。

案篆文分斂作斂，飛斂作斂，雜肉作斂，此从貝，其義為財寶，當是古分斂字，而或从斂，或从斂，似古分斂飛斂字無別在。見鼎曰：小子斂，曰：適，詔贊曰：皆為人右。（古書補補卷七第六頁）。

高田忠周曰：曾鼎并叔在翼為吏，乃小子斂，以限於于并叔，又效父直，訟訟，延于王，又舍，簡大五，乘，積古。按：舊釋作斂，依下篆从佳也。然他二篆不从佳，且皆均从貝，此自別字也。今案斂為斂，與斂李敦合，而二為義文，第二篆以爲斂之變，亦口為義文，唯第三篆竹即斂之省，而从佳耳。又解下作日者，非鼻口之口，而為貝省文，鼎銘實字作日，可證。且依第二篆，當下从二貝，最顯然矣。右从支，又从身，是允字，然依革篇所引此與允字少異，蓋亦支之異形耳。然則此从斂，从斂為形，唯第三篆

从敗省，从斂，斂，固同聲，通用耳。因謂此為斂字，異文說文，敗也。从支，貝，敗，敗皆从貝，籀文从重，貝作點，即與此下形合。夫物壞則斂，斂，敗字从斂，會意之指，尤協焉。或謂分斂，壞敗意通，此當釋為斂字。然此等字，敗形不失，而斂形各異，況亦作斂，此造字時，意專于敗，而不專于斂，故定為敗字云。并俟來哲。（金篇六十第三〇頁）。

譚戒甫曰：斂是三合成義的字。左上海，說文曰：部有晉字訓為告。此冊上从卩，說文有古文冊从儿作冊，當是異體字。右上為允，下是敗字，三合不知何義。或是氏族集團的名號，亦可用子個人。此即其例。（中華三編七七頁西周金文綜合研究）。

吳闓生釋斂讀作斂，見言文卷一第二十六頁見鼎。

郭沫若釋斂曰：贊與斂殆是一人。（兩政九六頁見鼎）。

李孝定曰：此字繁複，殊難辨折，但隸定作斂可已。同名它文，或从佳，亦當如字隸定，釋允斂合文。允，晉敗合文，釋斂，釋斂，均難確信。

木

木部 木部 木部

阮元曰：戈扶作器者氏與名春秋傳夏有戈國其受氏久矣扶字見說文義通扶此扶字筆畫糾連篆體之近乎革者一種古卷四五百戈扶鼎

柯昌濟曰古文戰字說文戰戰戰也從佳聲即此字金華一〇七頁戰鼎

李孝定曰此字備旁之可辨者惟林戈二文即隸定已甚難連論確證阮柯二氏之說並難徵信

木

木部 木部 木部

李孝定曰右旁疑从干从戈左上疑从木左下不可識

1632 (3163)

用

用部 用部 用部

吳闡生釋用曰實以伐角所得之具古文卷一第十頁且子鼎李孝定曰吳氏釋用可以角貝之義未可確知

用

用部 用部 用部

李孝定曰似當隸定作象字不可識

1634 (3165)

1633 (3164)

甲

傳自傳子朕
左里矢族
考△

△高田忠周曰按跡上云御田父令小臣傳云々而此句命傳之辭故知里即御田父父考者也然此字音義無可改唯今審篆形貌叔禹作專與之與作亞象形與此篆相似而自異此略與豆字近蓋謂此字連象形上作四者象編竹之目而與籀文从

同意同即田亦田也上即其樹與豆同意也姑附于此俟來

昔云若夫謂為朕字異文从目从炎省者近甚矣(官楷書八十

第二(夏)

△郭沫若曰里當即空字所从出與松堂有左里矢族四(通文一均有左里二字字与此同又有左里矢族二右里矢族五善甫四〇亦有

數事左里一右里大字均作目工里与里當是一字里殆从目工聲即眼空目空之空今人稱眼孔又稱眼眶均聲音之轉變孔乃

之孔里為形聲字里乃眼空之象形示眼空如盂未有孔道与腦

空相連也形變為空从穴工聲由象形變為形聲由專字變為

公者矢卜解屨見工無大字(前編四三三)字又作只(若丁口其

通纂取亦即此里字之省變者也知里里為空字則天族文當讀

為左控右控与矢指旁之文必有相關說文云控引也句奴者引

弓控強是則諸矢族殆燕趙物与胡接壤而習用胡言傳自之

里當讀為事工之工傳口口朕旁里殆言承繼其先帝職所缺二

字必係動詞故如補以用承或用纂字即能奈貫(金攷二五一

頁至二五二頁釋非余)

李孝定曰郭氏謂此與下文里為一字故以左里亦作左里郭

說是也字當是从目工聲亦如郭說然謂是空之古文且謂與

文之里若丁口亦即此文之省變則並待商郭氏又謂眼空即眼

孔孔乃白孔之孔指事亦似未確孔金文作少乃象有孔形指

乳頭之孔會意非白孔之指事字也

左里矢族
左里矢族
左里矢族

參閱311條郭沫若說

李孝定曰說見上311條

伯

德鼎
三易
△貝廿四

李孝定曰：从目，似為牛之錯置者，然則或是訛誤視之，時未可遽定，此是人名。

1639(3168)

春

十一年
△大書不列十開氏

李孝定曰：此當是从目來聲之昧。

周法高曰：此蓋黃盛璋作，十一年庫壽夫肖，趙不準，
口口坤所為釋此字為「春」，試論三晉兵器圖刻和年代及
期三，是也。
九頁

1640(3169)

泉

泉伯自
△伯錫貝
△史書
△史書

此从自，从示，有是泉字也。（續古卷五，二十七頁泉伯自）

此徐同柏曰：說文舉从本从白，此（泉）即白字下伯——引而上行之象，與本同意。（从古卷一五頁同泉伯自）

此方濬益曰：泉為地名，即泊字。說文泊灌盞也从水自聲，左襄公二十八年傳以其泊灌釋文泊肉汁也。此古文从自象鼻形，下為水象鼻液之下垂與湊字同義。說文湊鼻液也，故泉亦訓汁。（續遺卷十二，六頁泉伯自蓋）

此劉心源曰：泉即泊，公史辨湊，事有泉，謂有盞也，即此非泉字，寄餘卷十八，三頁姜自）

此柯昌濟曰：徐籀莊先生釋，非是。恐是急字。說文急喘也从心从自，自亦聲。徐曰：自鼻也，氣急以鼻會意，此字自下或象心省形，毛公鼎心字，思假作台，可證（續華二九三至二九四頁急伯自）

高鴻緝曰：說文急喘也从心从自，自亦聲，相印切。按急鼻呼吸也，字原倚自（古鼻字）畫有氣出入之形，由文自生意，故託以寄呼吸之意。動詞，秦時文字聲化，變作急，从自，心聲。說文釋撰造誤，又用有急國姬姓，查急伯自，實乾嘉時徐籀莊同柏從古堂款識，光緒三十二年十月出版，錄此，誤認急為急，唯王八月，噴伯錫貝于姜，用作父乙寶，博華三代吉金文存十三卷，卅六頁亦載此銘，又文存六卷四十七頁載一鼻銘曰：公史遷，張事又有，泉用作父乙寶，博華風，急未上，確似周初器。

1642(3170)

泉

1641(3170)

攷成王母后邑姜太公望之女據此二銘則錫急伯貝之姜必邑姜而公使很事有急者公必周公也西清古鑑卷十三載此
事曰周公史彙知編者亦未通讀之也又急字自周秦以後或作厯以自尸聲說文厯卧急也从尸自聲厯誤以尸為急符而訓解加卧字宋人且誤以厯字之音許介切當之大惑後人矣林義光文源急字下曰古有泉泉字疑即急之變體雖未加詳解其思甚精字例二篇二八四至二八五頁

吳式芬釋泉見據古二之二第三十九頁泉伯貞蓋

于省吾釋自平見雙選卷下三第十一頁泉伯貞

吳闓生釋見古文卷四第十五頁泉伯貞

李孝定曰字象鼻升端有物下垂不為細則為急毛傳自目涕自鼻曰細按細當作四古文作卍即象鼻細下垂之形以股為數名既久鼻液之義乃增之水旁為形聲之細或更製形聲之渠耳林柯高諸氏均以為急字亦自可通以周有急國証之釋急或尤切也

1644 (3170)

1643 (3170)

吉

毛公鼎

高田忠周曰吉字徐同柏釋吉古籍補从之吳大澂復釋為吉皆誤吉友來氏亦改云央字稍近而猶未盡吉今審察形下明作吉說文吉古文自字是也上山形亦與央字从口全別而公族之族作突然則吉字所从山形亦為叔字可知矣然於字絕無有見者蓋自白同字於者族之省族與同字皆為吉之異文也銘意借為族字故殊不从央而从山即族省族字轉為吉為伴為徒因字亦變作侶始亦用此義也建庶口族用同意直語也古籍篇二十七第二三頁

高田忠周曰此篆諸家釋各不同吳氏古籍補引徐同柏說釋為吉字又急齋集古自釋蓋皆非又孫詒讓劉心源二氏疑而

1645 (3171)

未定今審察形下从自即自字見說文又此銘族字作肉所从从作門與此篆上形作山略相合然此篆亦者字異文可知矣說文云者从艸古文旅其實艸即泰字與旅通用已詳上注而今依此篆益信者字所从艸即為旅字段借矣旅者眾也庶也者字从旅形聲兼會意故許氏傳古說云艸古文旅其有所原可知而已然此諸亦或可讀為旅與庶對言文義尤順矣古籍篇四十七第四八頁

1646 (3172)

吳寶燁曰說文貴此貴字省文意急疑作資毛公鼎文正註十五頁

吳闓生曰吉字未詳者釋為皆未確疑與國差錯實靜安寧之實同字當讀為誰也古文卷一第三頁毛公鼎

張之綱曰徐同相釋音據古釋資案齋同孫詒讓云皆疑實之
壞字頌歆作資頌鼎作資並與此相近徐釋音吳釋資並非勿
離建庶人實言勿離舉人積貯以自利也綱案孫釋自為實
似矣惟諦審此文上从山當為央省下从資實即說文自部自
之古文篆畫明晰可辨若云从貝彝器中貝形至繁變無如此
作者即殷契有作肉形者亦與此異其非从貝可知攷方言十
二自盈也說文皿部盈滿器也言部諸語氣滿聲在人上从言
自聲是自有盈滿義足與方言相證疑皆為舊息之息正字蓋
息本為喘息字因經典皆段息為皆借字行而正字廢許既未
收他書亦未見此字遂不復可識幸方言出盈也一訓反覆推
求尚可得其較迹(料釋八頁)

1647(3171)

吳大澂曰資即大資于四番之資(卷齋四冊七頁毛公鼎)
郭沫若曰貯字亦精勁殘文作皆孫云疑實之壞字是也惟連
上讀二句勿離建庶人實言勿離舉人積貯以自利也則非是
余謂此者賦也蓋連下讀呂氏春秋先識覽樂成篇載鄭國古
語我有田疇子產賦之我有衣冠子產貯之孰殺子產吾其與
之貯與賦對文可知貯亦猶賦此乃古義之僅存者(左氏襄三
十年傳首二句作取我衣冠而櫛之取我田疇而伍之櫛伍均
用假字頗隱晦)凡金文言貯之例如頌鼎官餉成周貯廿家乃
食賦二十家分甲盤淮夷舊我負晦人安款不其負其賈積
其進人其貯毋敢不即儲次即市又毋敢不儲光貯格伯殷格
伯殷又其來于儲生學即一均足貯義(卷四二六頁毛)

1648(3171)

公鼎之年代

李孝定曰此字下从自甚明上不从巾諸家釋貯於銘文雖可
屬讀然於字形無據吳大澂氏釋資吳寶煒氏釋資於字形尤
遠張之綱氏謂是落息之本字以其从自也然从自之字未必
是息其說雖辨難可遽信高田氏之說支離滅裂不可及也古
文字不可識之字正多未可強作解人也

1649(3171)

FF 存專 存專其字之已
有解釋 存專其字之已
高鴻緝釋羽曰象二羽相疊之形(字例二篇五九頁)

吳式芬釋友見據古二之一第五十二頁叔友八枚蓋十二家一
八七頁居二〇頁叔友父故蓋同

孫詒讓曰所字亦難識改說文又部友古文作𠂔金文大鼎作
羽叔友父故作𠂔與此略同或當為羽之(見舉例下十五頁上)

(集釋 299)

王襄曰古羽字(見類纂正編四卷十七頁下)(集釋 299)

1650(3172)

李孝定曰按此篆右非从馬諸家釋駢擇鵠擇駘皆涉下文而誤左旁疑言之異文右旁於佳形為近未審是何字也于省吾釋為𨾏見雙選卷上之二第十五頁大鼎

劉心源曰王馭二字合篆舊釋作鴉巨為从王為今案玉字篆
 鑒不得作玉惟說文古文王如此是王字也右旁从馬省从又
 即御之古文馭也端清館奏作蹂釋為駟古審卷一第三頁大
 鼎

劉心源曰：鑄即駘，詳樂石文述。（奇觚卷十六第十六頁大鼎）

吳閨生釋為錫見言文卷一第二十六頁大鼎

周法高曰如李氏說則誰字假為驢

耀

鼓鐘

△
△
△

高田忠周曰按倉意即鎗鎗說文鎗聲又鎗、經傳金文皆所恆見詩麥蕭和鸛雖、是也又審此篆形、是即秦字與者字所从作𠂔作𠂔或作𠂔、相同然則从佳从秦甚顯然唯雜字說文所無當雜字省文說文鎗離也从隹黎聲一名楚雀其色黎黑而黃字亦作𠂔爾雅鴝黃楚雀舊注一名倉庚或借麗為之詩州木疏黃麗鵲是也字亦謫作𠂔方言𠂔黃是也今俗亦作鵲同或云鎗離元同字似是黃麗古音同部黃秦亦轉通故也但銘意疑用為𠂔皆秦亦在同部𠂔、離、為常語銘云鎗、

二總、謂鎗聲也又𠂔、離、謂聲和也文義自順矣古籀篇

九十四第(二六頁)


郭沫若曰：「雉」字原作「𪔐」，舊釋爲「雉」，字形不類。統季子白盤有「𪔐」字作「𪔐」，与此左旁形近。故余釋爲「雉」，卽「𪔐」爲之。爲「雉」則舍之。思「雉」之「𪔐」八字，皆聲疊韻互相經緯，音調極諧適。兩收五十三頁宋同鐘。）

于省吾曰：輝泰公履作銑，當係一字。（雙還卷上）第一頁宗周

李孝定曰書錄定作難郭氏釋難謂即雋字以讀銘文殊為諧
洽然左旁殊不類央字終可疑耳高田氏釋難謂為難字省讀
為暗未詳所據不敢贊一辭

按左旁下半分明从人安得為委
字如謂是難之省文則字無聲旁

何由知之

丁山曰：篆文作，當是子隻合文，亦殷之王子也。《中央》三七如

其自三器銘文考釋

李孝定曰：丁說或可從

赤塚忠曰：隻獲之本字在卜辭中，又之九、八、東、得、之、四、八、三、用、為、
地名，蓋為封于其地之人，又或為有某字以之，子姓之人也。隻子
之法不見于卜辭。《殷金文考釋》第十八頁，即其自第三、山林保
明譯

1659 (3175)

郭沫若曰：《詩》字字書所無，疑是舊之古字，用為酒尊之爵。《兩政

五十五頁：適殷

陳夢家曰：字從鳥，聲其聲符疑是說文之果音，如米其字應
是鳥類之禽，或即是鳥而加聲符者。爾雅釋鳥：舍人及斧巡注
並云：鳥野鴨名。《曲禮》下正義引：爾雅釋鳥：鵲沈鳥注云：似鴨而
小。《曲禮》下正義及本草拾遺引：尸子並曰：野鴨為鵲，家鴨為鵲。
《詩》：鵲鳴，鵲鳴，鵲鳴。鵲與雁，鵲云言無事則往。
弋射鵲雁以待賓客為燕具，可知鵲是水上之鳥，是所謂野鴨。
可以弋射而烹食者，鵲是禽之一。爾雅釋鳥：曰二足而羽謂之
禽。《金遷》二七三頁：西周銅器斷代：適殷

1660 (3176)

吳其昌曰：《詩》：子從父，父于韻，象以干，適也。《詩》：子從父，父于韻，象以干，適也。

吳其昌曰：《詩》：子從父，父于韻，象以干，適也。《詩》：子從父，父于韻，象以干，適也。

李孝定曰：《詩》：子從父，父于韻，象以干，適也。《詩》：子從父，父于韻，象以干，適也。

周法高曰：《詩》：子從父，父于韻，象以干，適也。《詩》：子從父，父于韻，象以干，適也。

1661 (3176)

潤切音：《詩》：子從父，父于韻，象以干，適也。《詩》：子從父，父于韻，象以干，適也。

1662 (3176)

前伯益
王今仲秋歸△白伯益哀 紀表△白△白科手

前伯益
王今仲秋歸△白伯益哀 紀表△白△白科手

丁佛言曰：『前歸字疑古世字。汗簡作前或謂是古昔字。』
番須生靈：『子孫永寶用疑古世字。』
古籍補附錄五

高田忠周曰：『按此字古文說文前辰也从竹而兆。古文別字許氏云字从兆。从重八。與此篆少異。愚謂竹字展意有足。』
即指事也。而分難之意。又結義為楚國姓氏。史記誤作羊。鳴訓之羊。象隱音彌是也。非（古籍篇八十九第二四頁）

柯昌濟曰：『按字从羊从二人。疑即說文前字。異體字當从羊音。或為楚為同族。因羊姓復以為國。稱亦西周時國名也。』
八九頁歸錄款

周名輝曰：『竹部前。前伯益。丁書入附錄。疑古世字。連開按前錄。變从北。作前。竹本讀若前。丁形近。前當即古前字。前白乃人名。張氏定為前字古文。今從王國維說。考定為前字古文。名輝案。王國維云。余謂前即前字。小篆前字从羊从儿。乃从羊从儿之變。又說文。先古文作前。尤與前字相似。其上半。乃羊之說。其下亦八之說也。臨文中。述其祖有功於文。武當指先賢從武王伐紂之事。前伯益即前伯無疑。云云。』
集見伯益。王說是矣。說文羊部云。先西戎牧羊人也。从人从羊。羊亦聲。南方蠻國。

从虫北方狀从犬東方餘从旁西方先从羊此六體也西南夷人德德从人蓋在坤地順有順理之性唯東夷从大大人也夷俗仁仁者壽有君子不死之國孔子曰道不行欲之九夷象摶珠於海有以也余以為此从竹竹即羊字省文也說文云竹羊角也象形而後虛卜辭先字作竹竹其从竹者固可與此篆互證也前字从與與从儿形聲並連前以音丁古音在之部與古音在音部（古籍考卷下一一至一二頁）亦有分別不容混為一談

于省吾釋先見雙連卷下二第頁番須生靈

郭沫若曰：『前即說文前字。今作前。歸字以羊為旁。段為魁偉威環等字。下稱其父為武前。王國維語楚語言教聖』

武公叔夷。禮言楚武公。因資重言考武公。又番須生靈用。勝即元子。孟姜均段為銘美之辭者也。兩段一曰七頁前伯

李孝定曰：『郭說是也。非今作前。篆體作前。从竹與此極近。丁氏疑世字。按世字金文作世與世應為一字。古以三十年為一世。故由世字為世也。此字與之絕遠。丁說大誤。王國維氏釋先強運。謂字省用名輝三代从之。按契文先字便是均作分。金文作分。均从羊从人與小篆同。與此有別。王說非是。柯氏以為从羊从二人。即說文前之異體。亦誤。』

卷之四

夢子西
△△△行章

李孝定曰：書錄定作夢字不可識。

表盤

表盤
史公受使
王今言

丁佛言曰：表盤，聚許氏說書交積材也。象對交之形，案即古構字。从交，許云交也。連以二橫象象架架形，結構字當作此。舊釋其非。《古書補補》卷四第四頁。

高田忠周曰：劉心源云：此篆為典字。按阮書太保集云：用作真。與清館太保集文與之同。而篆作典，知用即典字。蓋从重冊。此从並冊。从止乃倒丁字。說文作冊，云从冊在丁上。小篆省一冊，即典也。以此知書錄之史，其為人名亦與字。阮釋為典誤。據古圖，典亦云永寶用。亦从倒丁。从並冊與此同。此亦人名也。又按此典从並冊，因知並冊乃冊之缺文。實即冊字。父乙鼎。

1668 (3179)

1667 (3178)

冊父辛與。皆當釋為冊矣。此政有可者。又有不可者。要此篆釋其非是。今審無即重冊之省。必即象其編綴有次第。帶之。亦象重編。而此殊更作必者。造字之意。專主于此也。然則此為古文編字。說文編次簡也。从糸。扁聲。又扁下云。暑也从戶。冊。戶冊者。門戶之文也。字从扁。亦猶从冊也。从糸與必同意耳。或云。辨為扁字。古文斗自是象形。駢冠子曰。五家為伍。十伍為里。四里為扁。斗即其區域之意。又或云。木部曰。構。辨方木。从木。扁聲。左昭二十五年傳。惟是構榘。所以藉幹者。注。構中。冬。牀斗。即構部象形。此从構聲。猶過穿矣。然下文作辨者。冊為冊省。必為必省。均皆同意。而亦當知辨亦冊之缺文而已。《古書補補》六十九第八頁。

1669 (3179)

阮元釋其見。獲古卷八第九頁。表盤。據古三之二。第二十三頁。案盤同。

劉心源釋其見。奇觚卷十八第廿五頁。表盤。雙選卷下三第第六頁。案盤。古文卷四第二十七頁。案盤。故同。

李孝定曰：阮氏釋其共。共乃以之繁文。此字與之絕遠。阮說非是。高田氏引劉心源說。以為典字。未知所據何書。高田氏以為編字。按此文未見重冊之象。與典編諸字無涉。劉心源丁佛言于省吾吳蘭生諸氏均釋其說。似可。余頗疑。書之異構。未能定也。

1670 (3179)

𠂔

𠂔子解

𠂔子解

徐同柏曰：𠂔从尸从𠂔，古文𠂔（从𠂔卷十四，三十二頁）同𠂔子解。

吳大澂曰：𠂔疑𠂔之古文或釋幼（卷二十，八頁）父丁解。

吳大澂曰：𠂔𠂔子作父丁解疑𠂔之古文或釋幼（古籀補附錄二十二頁）。

劉心源曰：說文𠂔履也，讀若𠂔或云此為𠂔（奇觚卷六，二一頁）。

解。

高田忠周曰：按說文𠂔履也，一曰青絲頭履也，从𠂔戶聲，讀若𠂔，𠂔之𠂔此篆正是也。吳大澂云：疑𠂔者文非𠂔自別一字也。

（古籀篇六十九第一九頁）

柯昌濟曰：𠂔字从𠂔从系，說文𠂔履一曰青絲頭履也，讀若𠂔，𠂔之𠂔从𠂔戶聲，即此字（釋華三一，七頁）。

李孝定曰：諸家或釋𠂔或釋𠂔，以𠂔形言，釋𠂔近之，惟左旁从𠂔與𠂔字作𠂔者不類，頗疑𠂔形，然則𠂔是从𠂔𠂔聲，未知是𠂔字否。

1672 (3180)

1671 (3180)

𠂔

伯𠂔子解

李孝定曰：𠂔不可識。

高田忠周曰：按依文𠂔形，此𠂔𠂔字異文，說文𠂔古文作𠂔，有𠂔誤而此𠂔近似𠂔者，治正之意（古籀篇五十六第二一頁）。

柯昌濟釋𠂔曰：𠂔𠂔是地名，余疑為𠂔𠂔二字之假字，𠂔从𠂔聲，𠂔字則未能實釋為𠂔也（釋華三一，七頁）。

張日昇曰：按𠂔字上𠂔作𠂔，非𠂔𠂔字，柯昌濟因謂𠂔从𠂔聲，而𠂔𠂔𠂔為𠂔𠂔實則𠂔為𠂔字之誤，𠂔𠂔之說不可从。

李孝定曰：𠂔𠂔从𠂔从肉，不知何字，柯氏釋𠂔𠂔未可也。

李學勤曰：燕下都遺址出土的青銅兵器有些附記工尹和工燕王等作行議錄，右次者青共攻堅（三代吉金文存一九五二三）。

1674 (3182)

1673 (3181)

1660
看 尹公孫符

燕王置作行鐵銀在攻有口攻众本一枝經關金文拓
工尹也分左右尹字約這一寫法還見于易縣出土的不知古
銅器(文物一九五九年七期五四頁戰國題銘概述上)

李孝定曰字當錄定作胞

向彭直道 向△白旅校(18)
△其書方易字子永寶同

賢

金志鼎 但本史李差依
奇△為之

賢

佳△ 但史李奇
△為之

△商承祚曰然字不可識左从肉下从虫魚也說文達之古文虫
皆如此作(十二寶六頁楚王會志鼎)

李孝定曰字不可識

朱德熙錄定作膳(見歷史研究一九五四年一期一〇五頁
壽縣出土楚器銘文研究)











伶

寧鼎 伶仲以果有制
達或後曰 擬改△

郭沫若曰膳字从肉从象乃國族名殆即豫州之豫說文云豫
象之大者从象予聲此从肉蓋亦喻其物之大也古豫州之野必
有國名豫者故周本偽者造擬九州即因豫以為之名其豫字
則本作膳也(兩政二十八頁寧鼎)

吳其昌曰膳地名其字從象按河南古為產象之區詳吾友徐
服象及象左氏襄公七年傳云公會晉侯于鄆杜預注鄆鄭
地為即象鄆即鄆也其後錄書邑作中與中同形故邑旁誤為
予旁而為豫字豫者象邑也故中州為豫州實則省邑亦同豫
州實象州耳此作膳明其地產象蓋為鄆鄆豫之初文則其地
實為今之河南可知(厥期卷一第一八頁寧鼎)


陳夢家曰第三行第六字是所伐之國名右半是肉左半是獸形不能識金文能字从肉其左半的獸形與此稍異若是能字當指熊羆之熊(金選三八頁西周銅器斷代·寧鼎)

張日昇曰按字右旁非象之形師湯父鼎象字作羅振玉釋為从人从象志古者役象以助勞立獵與陰鼎為字均省水作豕不長鼻為象之特徵故特加于頭上以表著之今字所从不作其必非象明矣
李孝定曰字左从肉其右旁郭吳二氏均以為象張氏非之按字雖與象之正體有別然說為變亦可備一說也字當錄定作據是否即左裏七年之及九州之據並待考

1678 (3185)



齊石我 齊石我造車鐵信


高田忠周曰按从肉从鼎又从日亦或肉字从二肉猶从一肉但並字書所無古字逸文也(古籀篇四十一第三三頁)

李孝定曰从肉从貝當即許書肉部之其說未詳





1679 (3186)



傳自 師田父金今日言白

阮元曰字从虎从刀即劇字省文(積古卷六十二頁師田父數)



吳大澂曰从虎从刀說文所無師田父古籀補附錄十八頁

高田忠周曰阮氏云从虎从刀即劇字省文非劇俗字也古从力作金文有劇字耶此明从刀从虎當為古字逸文但疑虎字古文或有作與利字古文作同亦刀變然則此或為省亦虎字也从刀者如利有虎爪之利猶刀刃之銳从利省以會意不敢自妄臆斷存疑俟考(古籀篇九十一第三三頁)




1680 (3187)

吳大澂釋劇見憲齋十三冊十一頁師田父專

方濬益釋劇見綴遺卷十七第廿八頁小臣傳專

李孝定曰左旁是否虎字未可遽定諸說待商按馬字六國文字有省作者倘此果為虎字亦但當省作金文从虎及从虎之字均未見省作此形者說宜存疑

1681 (3187)

羅西章書曰王助美人名為周王后妃字不認諸傳自有伯助父羅振玉三代吉金文也是人名周字(文物一九七六年六期五一頁陝西扶風出土西周虢季子白盤)

唐蘭曰：割字亦見小臣傳。王則姜夔是移王伯右（文物一九七六年六期三八頁用青銅器銘文來研究西周史附錄）

割

格伯

格伯

吳榮光曰：割字說文無釋作系此拓蓋作刃器作起說文斷古文作割解云古文斷从自自古文重字此拓即割而小變其不从自者古文重亦作此从之而又加到中耳又鑑之或體作割从刀事聲出下之到中或即重下之寸總之與斷音義同也（清卷三第二十七頁周格伯敦）

劉心源曰：說文釋系二吳釋斷皆非說文絕从糸从刀聲此省耳耳（奇觚卷十六三七頁周生鼓）

高田忠周曰：此說至詳似是然則此釋為割為至當也字林割裁也有制度而割劃地界可定也但斷割同音義亦相近

互通不嫌為篆亦見斷下又按斷書从首為義當以斷頭為本義金文所謂斷首之義也而割無首義割或元斷字段借為斷字異文說文斷裁也从刀从自，古文絕紹下引周書曰：割，無佗被禮記大學作斷，今但此類皆重言形況字即為割裁（古書卷二十六第三九頁）

郭沫若曰：初疑紹有說文紹，一曰緊糾也（兩攷八十二頁格伯敦）

柯昌濟曰：割即約字下與書連文文誼自見字从刀从系其誼未詳（華一七六頁格伯敦）

周名輝曰：系部古約字象繩約束形（格伯敦）吳氏定為約字古文，今考定為絕字古文

名輝案：約字从糸从刀與約字从糸从弓者異換从糸从刀象以刀斷糸之狀說文糸部云絕斷絲也从糸从刀从尸古文作出象不連體絕二絲今案假虛卜辭字作糸或作糸（書契前編一則象體絕二絲而割字从刀从糸則象以刀斷絲之狀與約字从糸从刀同意且段紹云格伯按田正其疆界假猶正也谷杜木復原各旅游案云云乃格伯按田正其疆界假猶正也幼猶重也重字古文亦从刀作割則周金文正讀疏詳之矣惟此文阮伯元釋為系吳榮光釋為斷長沙楊先生則以為讀與到同案王森云陳乃乾藏真孝珠積古齋款識批本謂約字从糸从刀當是絕字正讀疏則承用龔說而證明之也（古書考卷上一九至二〇頁）

楊樹達曰：初與到同。（續微廿七頁格伯說跋）

吳式芬釋：斷見據古三之一第七十九頁格伯敦

于省吾釋：初見雙選卷上三第十三頁格伯敦

吳闓生釋：約見古文卷三第二十六頁格伯敦

李孝定曰：劉心源釋：周名輝氏从之。周說字形无審諦不可易也。吳闓生氏釋：約按約从勺為聲。此从刀會意。勺之與刀其形也連也。郭氏以从刀為聲符，故以為紹省。吳氏蒙光引說文斷字古文作始，从刀因謂此字从刀者亦為从刀，不知此字明

明从來也。

1687(3188)

1686(3188)

刺

刺字之及非

李孝定曰：疑當釋刺。它器刺字有作。刺大刺。刺生。刺。刺。諸形者，與此極近。

刺

刺

刺字之及非

刺

刺字之及非

吳式芬曰：疑是刺。與專同。漢書蕭何傳上以此刺屬何。關中事。師古曰：與專同。翁清卷三第四十五頁周專也。

吳雲曰：按刺或釋則說文則从刀从貝。古文作刺亦作刺。又作刺。今篆形近似疑是刺字。此作器者之名。無文義可釋。姑闕。按。改。西。卷七第十五頁放蓋蓋。

方濬益曰：吳荷屋中丞釋為刺。疑非。是此消中當是則字之異。文按說文則从刀从貝。古文作刺。此从自亦貝之象形。名為重。

1689(3190)

1688(3189)

高田忠周曰吳云疑是割與專同漢書蕭何傳上以此割屬何關中事師古曰與專同按吳攷未矣此字即與古文𠂔亦肉字又从刀此與𠂔古文割相似自別當臠字古文說文臠切肉也从肉專聲此即从肉从刀切肉會意而从專聲專有細義亦當兼意也朱氏云廣雅膊臂也段借為臠儀禮檀弓膊謂腓腸也又為輪考工旋人器中膊崇四尺方四寸但銘義人名不知其取孰義也古篇篇四十一第三。頁

吳式芬釋劄見據古二之一第四十一頁劄記數

柯昌濟曰創字又見割叔散作割與此一字字从因从臣从刀因古席字見羅先生說契謝字說殷契謝字作𠂔从兩手据地席以謝之狀此字當从席聲疑亦古謝字謝當為國名謝叔或其國之君也國語謝西之九州詩小雅肅肅謝功是也（釋義）

張目昇曰按方濬益謂：為重文並以效父敵例之其誤至顯
 二字見³⁵¹⁷
 李孝定曰吳式芬氏釋掇蓋以 a 形从 𠂔 與說文 𠂔 之古文
 一体作 𠂔 者近似然於此字从 目 無以解之矣 b c 二紋所
 从更與 𠂔 字不類吳說之誤至顯方濬益氏釋則 b c 二文所
 从似為貝字然謂下从 𠂔 與从 𠂔 同乃示重文按金文實無此

1690(3190)

側金文子孫重文及它字重文習見均作「無作」者呂者且
呂是否即為「」字亦有可商也呂疑與契文「呂」為一字契文
呂為「宮」字古文雖字从之為聲可証至效父殷之「」字為所賜
之物諸家所釋雖異要非宮字可知此文从呂疑亦以之為聲
蓋从刀从貝呂聲之字也至果何字則不可知隸定作「劉」可也
柯氏謂从囙乃席字實誤席之象形字當作「囙」說文席之古文
作「囙」其形已稍訛與「」形為近然不當作「」形之「」也至沿羅
氏囙字誤釋謂此亦「謝」字則更一誤再誤矣高田氏謂是从
肉因釋此為「膾」字按从肉之字甲骨金文屢見均作「夕」或「諸
形」無作「囙」或「諸」形者至以所餘偏旁為「專」字亦於字形絕遠
不可从也

1692(3190)

鑄客馬科△傳△變△心△為△之

李孝定曰字不可識

朱德熙表錫圭曰：現在我們再來討論上引大鼎的銘文。這條銘文裏有好幾個字不可識，其中最關鍵的是出現了三次的發字。根據目前所掌握的戰國文字的知識，這個字似乎有以下兩種可能的分析途徑：

可以認為這個字上端从乘，試與下列乘字比較

于省吾 鄂啟君節考釋 考古
一九六三年八月期 圖版捌

古璽文字徵附三
五上公乘畫印

1693(3191)

採取這種看法我們可以說這個字从肉从刀从乘但我們的分析只能到這裏為止。這個字到底是什麼字在銘文裏是什麼意思都無法作進一步的推斷。這條路是走不通的。另一條途徑是跟下面幾個字比較。

勝

勝

勝

a 見于東陵鼎。于有音。南周金文錄遺七〇。銘文第二字从字。似與印江陵行宮大夫銘。但郭若。故節。東陵之陵。與此相。無年。勝字亦與此字。右旁相。似。故。此字為勝。春。勝。天。勝。市。文。化。局。文。物。組。天。津。市。新。收。集。的。商。周。b 只是把。a 所。以。的。厂。轉。了。一。個。角。度。二。者。顯。然。是。一。個。字。c 見于春秋。時。代。的。齊。器。叔。夷。簋。卷。下。六。七。頁。銘。文。說。易。錫。女。汝。釐。都。口。釐。用。為。地。名。跟。金。文。从。勝。的。字。比。較。可。知。此。字。从。刀。从。乘。从。釐。釐。字。所。从。之。釐。多。亦。有。時。省。作。疑。是。勝。之。繁。文。a 跟。c 字。形。本。見。金。文。編。六。九。三。一。六。九。四。頁。

1694 (3191)

近似。只是省去了c字上端的末。又增加了肉旁似可解為从肉从勑省。釐定為勝。大鼎勝字跟a和b十分近似。也可能是勝字。

典藉中釐和勝等从喜聲的字通。用。例如春秋魯僖公。史記。作釐公。漢書。禮樂志。郊祀歌。十九章之六。媼神。善釐。師古注。釐。讀曰禧。這類例子極多。不贅舉。大鼎此字如可解勝。似當讀為勝。說文。食部。勝。酒食也。或體作勝。爾雅。釋訓。詩小雅。天保。言。蠶。為勝。毛傳。都說。勝。酒食也。勝。又。可以。訓。為。炊。儀禮。士虞禮。勝。羹。在。東。壁。而。面。鄭。注。炊。黍。飯。曰。勝。又。特。牲。饋。食。禮。主。婦。視。勝。羹。于。西。堂。下。注。同。呂氏春秋。仲冬紀。滂。勝。少。濃。高。法。勝。炊。也。周禮。地官。序官。膳人。卷。二。人。士。膳。八。人。其。四。十。人。鄭。注。引。鄭。司。農。云。膳。人。主。炊。官。也。又。膳。膳。人。掌。凡。祭。祀。共。盛。共。王。及。后。之。六。食。凡。

1695 (3191)

賓客。共其羞。羞之實。饗食亦如之。大鼎之勝可能與周禮膳人相似。也是主飲食的職官。

東陵鼎銘曰。東陵勝。壽。春。勝。銘。曰。口。口。勝。勝。字。都。在。最。後。上。文。說。通。大。鼎。集。字。以。下。七。個。字。應。分。三。段。來。讀。每。段。之。末。也。是。勝。字。這。就。是。說。這。些。勝。字。所。處。的。語。法。位。置。相。同。就。辭。例。看。把。某。勝。某。來。勝。解。釋。為。職。官。的。名。稱。是。最。合。理。的。東。陵。很。像。是。地。名。以。地。名。名。勝。猶。漢。代。是。安。尉。縣。雍。縣。尉。之。以。地。名。名。尉。縣。安。尉。縣。雍。縣。書。百。官。表。漢。代。金。文。中。冠。以。如。果。東。陵。確。係。地。名。那。麼。集。勝。集。勝。地。名。之。所。以。名。勝。多。不。贅。舉。勝。的。集。也。很。可。能。是。一。個。地。名。考。古。學。報。一。九。七。二。年。一。期。八。二。至。八。三。頁。戰。國。文。字。研。究。六。種。參。閱。以。米。德。熙。表。錫。主。說。

1696 (3191)

勝

仲舒之而。仲舒之而。仲舒之而。

李孝定曰。右旁當為力聲之字。而左旁不可知。即釐定亦不易也。

1697 (3192)

策

高田忠周曰：按古經釋義云：銘詞稱策乃邦契，亦有國者之器矣。劉亦從之。說文策，馬也。從竹束聲。疑與策字轉注。考工記：輅人輅前十尺而策半之。禮記：曲禮：則僕執策立於馬前。此為本義。又轉為莊子：齊物論：師曠之技，策也。注：杖也。並皆非銘意。而策字古多段借為冊。周禮內史：則策命之法，以簡策書。玉命：銘意亦是也。或謂策與策通。秦策：錯數策。注：著也。其轉義為禮記：仲尼燕居：田獵，戎事大其策。注：謀也。銘云：策乃邦者，猶言謀乃國事也。亦通。又策字段借為諫。廣雅云：策，箴也。又為箴。莊子：連生篇：元端以臨卑策。李注：欄也。又為策。方言：策，小也。此字借用尤廣。又按此篆，尚為策與師策敦述作續，合又作樂例見。

高田忠周

說文解字

高田忠周曰：按古經釋義云：銘詞稱策乃邦契，亦有國者之器矣。劉亦從之。說文策，馬也。從竹束聲。疑與策字轉注。考工記：輅人輅前十尺而策半之。禮記：曲禮：則僕執策立於馬前。此為本義。又轉為莊子：齊物論：師曠之技，策也。注：杖也。並皆非銘意。而策字古多段借為冊。周禮內史：則策命之法，以簡策書。玉命：銘意亦是也。或謂策與策通。秦策：錯數策。注：著也。其轉義為禮記：仲尼燕居：田獵，戎事大其策。注：謀也。銘云：策乃邦者，猶言謀乃國事也。亦通。又策字段借為諫。廣雅云：策，箴也。又為箴。莊子：連生篇：元端以臨卑策。李注：欄也。又為策。方言：策，小也。此字借用尤廣。又按此篆，尚為策與師策敦述作續，合又作樂例見。

1698(3193)

廣字又古文竹作从見說文及金刻然則此為策古文無疑古

按諸篇八十第(二五頁)

吳國生曰：簡即策字說文述古文適是其篆古文卷四第一三頁策字自

劉心源釋義見奇觚卷六第十三頁草字自

郭沫若釋康見金攷一四二頁金文韻讀補遺案字自

1699(3193)

李孝定曰：劉氏釋策高田氏從之。按說文策，从竹束聲。考形聲之字一形一聲，必分立無形符聲符合為一體者，此文明為獨體之文，安得以形聲字解之。況「竹」亦非「竹」字，釋義釋康並於字形無據，說宜存疑。

策

北子單鼎 北子單鼎

方濬益曰：說文部首筆，策屬所以推棄之器也。象形。此筆从甘。說文甘古文，策是筆，亦策屬。與筆同意。疑即筆之異文。綴遺卷二十四十九頁北子解。

李孝定曰：方說似可。又疑與契文甲為同字。契文之甲，唐氏釋罕讀為禽字，在此銘為人名，無文義，可釋未能定也。

1700(3194)

策

高田忠周曰：今小篆或友名，注：口。古文無△大文，詳曰。

柯昌濟曰：據疑古異字之異文。釋華二二(頁兩比蓋)

李孝定曰：以其从三夕，柯氏疑定作，疑謂是異之異文待考。

郭沫若釋康定作，見兩攷一四四頁兩从盤

1701(3195)

工

無意鼎 官制王通例虎在

阮元曰官司瑞王之瑞舊釋作佐或作空皆非是字从工从鳥形是鴻之古文大也(稽古卷四二十九頁無專鼎)

徐同柏曰佐字本佐左从少此少即少之變象手刀形佐王當指大司寇之職掌建邦之三典自佐王刑邦國詰四方(以古卷二四頁同鄉專鼎)

徐同柏曰佐字本佐左从少此少即少之變象手刀形(以古卷十十二頁同鄉專鼎)

吳大澂曰紅古工字或从鼻後人誤作紅漢書紅工二字通用鄭志鼎銅紅如此經典司空與司空之誤(古補補二十四頁)

1702 (3196)

銅紅者治工也一說司空也稍得其冒繁而未能定也阮氏元云官司瑞王之瑞舊釋作佐或作空皆非是字从工从鳥形是鴻之古文大也又徐鍾鼎云銅即司字此當讀為銅佐字本作左从少此少即少之變象手刀形佐王當指大司寇之職掌建邦之三典以佐王刑邦國詰四方何其迂遠之甚哉又吳氏大澂頗通古文者而於此家為怪說曰蓋古文工字有作紅者見焦山鄒惠鼎刻紅漢時女工作女紅即紅字之治誤安知不因工字作空而誤讀為空耶漢唐以後司空見慣不以為異云云安亦甚矣愚說如此後見奇觚室古文述曰以此力異文敏字金文或从力作勤而毛白與敏字作勤可證此考亦似是但紅功通用字故今姑存于兩部俟後證云(古補補六十八第二八頁)

1704 (3196)

劉心源曰紅或釋紅或釋空皆不合篆形心源果敏从支而封弓鐸作勳从力于或攻毛伯彝敏文王三姑之敏亦从力作勳

知自為古文力字并庚專告無与亦力字可互參是紅為功矣世本晉謹曲沃少正襲生司功大伯氏姓篇晉大夫司功景

子士甸弟佗因官為氏是司功為晉官當即司勳之職(晉服老二十二頁無專鼎)

高田忠周曰按元釋司空是然字明為紅異體古文系字有諸

形為正形多為變形而亦有作此紅及錄字是也古音紅工同部故借紅為司工之工與古音空工同部故借空為

工同例說文紅赤白色也从糸工聲南方間也此篆明顯若此然前賢眾說紛紛無定尤為異矣幸編引徐云空顧鄭並

云佐案此乃紅字古與工通見漢書酈食其傳董仲舒傳兩注

1703 (3196)

吳闡生釋紅讀作工見古文卷一第二十一頁無意鼎

柯昌濟曰司空字作功段藉字也舊釋甚是(釋華一三〇頁無專鼎)

屈萬里曰按鄭志鼎官司工之工字作紅吳大澂謂即紅字說

其說甚允(甲釋四十頁二四七此釋文(案釋一〇四)

張日昇曰按此字特次劉心源柯昌濟吳闡生等釋功或空並與上字連讀為司功司空然司字似當與官字連讀官制於金

文中為君見成語乃一動詞組如伊尹彭官制康宮王臣委

百工李孝定曰阮氏釋鴻按自非為形甚明說不可以徐氏釋佐或釋紅左旁非少亦非亦並誤或釋空僅聲符相同亦無也証且

1705 (3196)

字不能與上同字連讀張日昇氏疑之是也劉氏釋左旁為力按金文力作才無作此形者劉說亦非金文勢字作()所以即此字左旁所从象禾采形即禾字此字當讀走作紅應為从采工聲蓋古佚文也紅王為王號非與上文同字連讀為司功若司空也臨意蓋即所司為紅王之選側虎臣耳

1706 (3196)

柯昌濟曰元字作珣當為元之古文奇字(釋華一八一頁師面款)李孝定曰柯氏从吳大澂氏釋元按金文元作()作()此文右下从()與元似近而實非此說待商阮氏釋珣尤誤高田氏謂右上之()象器形()為項字乃聲符項聲即工聲當為珣字異文按()非頁字甚明頗疑為()之譌變此或珣之繁文未可遽定

1708 (3197)

劉心源曰珣聲蓋云公族名是也(古書卷七第十二頁師面款)郭沫若錄是作珣見兩故八八頁師面款

珣

師面蓋云族名聲入右師面()按()聲入右師面()自()中()之()

阮元曰珣聲之珣從孫訓如觀察釋字从工从鳥象形與同無專鼎珣字相類特文有繁省耳(稽古卷六二十五頁師面款)

劉心源曰許印林云珣阮釋珣未確按毛公鼎珣自鳥字皆从鳥則阮釋為近(奇觚卷四二三頁師面款)

高田忠周曰按阮氏云此珣字從孫訓如釋珣即珣字為佳與此右形不似吳大澂云此古元字此說尤非今審篆形从工明

曾昌疑器形因謂此為珣字異文說文珣似墨長頭更十升从瓦工聲讀若洪昌即其象形也又珣有似允而金別此項字省

變項亦从工聲故此从項聲也亦或从瓦字變形存疑(古書卷二十九第一四頁)

1707 (3197)

五

師王戎人()師王戎人()

于省吾曰說文古文巨作王此器作正即巨字(雙劍下釋四頁左單戈)

李孝定曰于說或是然無確據仍當存疑

1709 (3198)

阮元釋工居二字曰說文無工字有居字解云極巧視之也此工字疑居之省文巧政也居居猶言考室也(續古卷五三十七頁)始見劉心源釋工立二字曰工卽居卽展(奇觚卷十七十八頁)縣紀

孫詒讓曰卽釋工居二字然說文無工字唯有居字云極巧視之从四工此作兩工字或卽居之省卽釋爲卽工居卽亦無文焉可說今審其形與四相近卽居當爲居字之省前聲中在四聲字作聲從徐同相釋爲居(釋古二其字下亦从四與此同)次說文琴部象形古文作琴从金聲从琴必聲古文作琴是古文琴从金爲形與小篆琴从琴爲形異竊疑蓋當爲

琴之異文古文琴實不如是作也(餘論卷三第十九至二〇頁)指改集

高田忠周曰按工說文所無音義無徵然造字之法止於三數故三合兩二爲之世合兩廿爲之依此例居字當从兩工不可从四工此古有工字明矣今推其義从二工固工之上者必當有美巧意矣此四亦與蓋通工四當與詩云彼美孟姜同意是謂縣妃也辟白有明纖纖此美姬以配縣所以有惠卽縣白室家歸意如此無不通也阮氏云說文無工字有居字解云極巧視之也此工字疑居之省文巧政也居居猶言考室也蓋誤四字爲居殊非又劉心源云工卽展字列女傳八引詩展彼碩女義通藏立案亦最明舊釋作居非伯見展立者縣妃言我之得爲縣白妃者乃伯辟父見立而展成之也見字如今人書札云

見贈見示之見此故亦非寒豈見字耶四豈立字耶(合編第八頁)

郭沫若曰豈亦豈字与卜辭之作豈者同豈卽讀爲體恤(兩致六十八頁)縣紀

于省吾釋豈見變遷卷上二第二十七頁指改集

李孝定曰阮氏釋工居二字劉氏釋工立二字按下所从實工之稍變者當从孫詒讓說定爲四字字當隸定作豈郭沫若謂與與文四爲一字當釋豈讀爲體恤郭氏之說於義爲大疏阮謂是琴之古文其說可商小篆琴作琴(六)象琴端豈象酒弦之柱乃象形字此文不象琴形从工从四亦與琴無關也高田氏謂工卽展猶爲近之然謂四與豈通工四與詩彼美孟

姜同意卽謂縣妃則不知所云矣豈要有豈妻縣妃自縣妃若謂以豈妻縣妃則作豈者必先知有此美孟姜之詩且四字又安得爲縣妃乎

劉心源曰豈者豈爲豈省案說文豈極巧視之也卽展字列女傳八引詩展彼碩女義通藏立案亦最明舊釋作居非伯見展立者縣妃言我之得爲縣伯妃者乃伯辟父見立而展成之也見字如今人書札云見贈見示之見(合編卷五第十四頁)縣紀

周法高曰劉氏誤釋豈(豈)爲伯見二字故有此誤解

咎

咎大 咎 (1022) 咎大也且丁寶

李孝定曰疑為者之殘泐

咎

咎 咎 (1022) 咎大也且丁寶

周孝生曰郭字原文似召伯虎般書字大半疑因蓋底狹小略有省變項上一畫或代表省略部份比照原蓋文象當亦是放牧之竹故郭字受參一九五七第八期五三頁郭勝周代銅器銘文初釋

朱芳圃曰說文咎部咎厚也从反咎馬叙倫曰咎厚也以聲訓咎為咎咎義當生於咎倫疑此今言意物已訛曰好之好字指事為意物則咎之明所意者孰可傾而出之六書疏證按馬說聲附非正義也字象短頭長頸鼓腹之器當為項之初文說文无部項似響長頸受十升从瓦工聲讀若洪急就篇觀覽阮瓦甕虛頤注項短頭長身之器也此正其形象矣從音理

1714 (3200)

咎

咎 (1022) 咎大也且丁寶

咎

咎 (1022) 咎大也且丁寶

吳大澂曰咎字古義字从義从万万當即予之省文義姚雨金補補二十五頁

柯昌濟曰義義和氏之省金文或作戲中或作兮史記補三皇本紀文帝後甘怡戲露之戲是已華一五一頁義姚雨

吳大澂釋義見卷齋十七册十六頁義姚雨

李孝定曰字當从万義聲諸家釋義可從

1715 (3201)

言之畢與項古讀匣紐雙聲候東對轉形既相符音亦切合畢為項之初文昭然若揭矣(釋義一二頁至二二頁畢)郭沫若釋畢曰欣是地名則馬專蓋之二約喜亦當是地名如非同地異名則是區域有大小(文史三一七頁盡器銘考釋)李孝定曰郭氏釐定作喜雖可得其彷彿然實有未的此下口形與上體相連實為器物之獨體象形字非从豆从口也朱氏釋為畢之本字謂乃器物之象物是也復就音理求之謂畢即項之初文說亦可從周孝生氏謂此文似書之六半定為郭沫若說殊神準書字毛公鼎用為庸字足証說文壙之古文作喜之不誤為城郭之象形讀為郭字確屬後起此文明象器形與城郭之義無涉也

1717 (3202)

1716 (3202)

𠂔

六五 錫△書一自

唐蘭曰易重一箇重字所从的豈即重字考報第十二冊八頁宜庚矢假考釋

郭沫若釋重曰當是地名重也即重地所服之邑(文史三〇九頁矢假考釋)

李孝定曰郭說可從而釐定則當从唐說

白川靜曰重二字諸家解釋各異然字乃執事置於重二之象也凡以字為地名即其地之邑之義也然以流例言之與重地一而相同新代中學史教習之口述之例口字从林林亦與重同凡禪堂之說皆與重有音義之文(金文通釋第十輯五〇〇頁五二)

宜休矢假林深明釋

按白川氏釐定作重B氏指高本漢

1719(3203)

1718(3203)

𠂔

中書省自△類從重

李孝定曰从虎从丙中象枝翅形字不可識

𠂔

同重 自△東至十河

強運開曰𠂔同故自勝東至于河按从水从虎當是古流字說文水流从水虎省聲詩小雅流池北流箋云豐滿之間水北流是流池乃水名也(古書三補卷十一第一至二頁)

高田忠周曰𠂔新字作𠂔此𠂔為介即𠂔字也說文𠂔虎聲也从虎介聲是也但𠂔段借為𠂔說文𠂔水也出東海黃東西入泗从水介聲此𠂔所同聲通用也收亦赴字文卜同聲也文義自順(古書篇九十一第四頁)

打昌齊曰𠂔字从𠂔河从奇省古字繁文(釋華二〇一頁同說)

1721(3205)

1720(3204)

予者吾釋就見雙選卷上三第九頁同飲

吳國生釋俗讀作洛見古文卷三第十三頁同飲

楊樹達釋就見續微二二三頁同飲

郭沫若曰流昭即陝西之洛水其流域約與河道平行而在其西東南流入渭以達于河(兩政八七頁同設)

李孝定曰柯氏釋洛按此文右旁分明从虎未見在字柯說無據強揚郭諸氏所據拓本似與此本不同不然不得云从水旁也若據此本則于氏釋是也高田氏謂左旁从介殊誤

𧇧

項新詩曰康從虎右用達考新句
通系水命
康从虎右純枯

𧇧

𧇧

項新詩曰用達考新句
康从虎右

阮元曰亦見薛書統姜說康雅訓為固即康健之謂也(釋古卷四三十五頁頌鼎)

吳大澂釋康曰𧇧或从爪从𧇧从又虎象虎在押以手搏之與長字同意故康有敬畏之義頌鼎(古籀補二十六頁)

劉心源曰𧇧舊釋度曰為健字或又釋𧇧釋爵皆不合象形心源曰為从𧇧蓋𧇧省从虎即虎省當是禱字𧇧其聲也康說者安福之謂(奇觚卷二二二頁頌鼎)

林義光曰說文云康虎行兒从虎之聲讀若於枯之非聲度古作𧇧𧇧是也廣雅康敬也象神中有虎兩手近之之形變作𧇧𧇧作𧇧或作𧇧以文之即𧇧之誤(文源)

高田忠周曰按舊釋作𧇧非如吳大澂云康或从爪从𧇧从又虎象虎在押以手搏之與長字同意故有敬畏之義何其隨索傳會吳氏不知篆形又不知度字本義也愚說見據字下今案此篆形从𧇧尤明顯者唯𧇧形未詳耳愚竊謂此篆為𧇧字𧇧文𧇧去毛皮也从革𧇧聲論語曰虎豹之𧇧蓋與革義相似革字古文正形作𧇧者獸革象形𧇧者兩手製作之也𧇧从革从𧇧𧇧即𧇧之𧇧𧇧時文字多借𧇧為𧇧𧇧者謂四𧇧之內寬且大也然則𧇧字之義謂製革為功可伸展之可廓張之

也詩云𧇧𧇧朱𧇧作𧇧者蓋其象形也但𧇧文常借𧇧為𧇧𧇧字却用為他義雖亦亦當時之通例耳要當時𧇧借𧇧為𧇧故从𧇧𧇧為𧇧𧇧从革𧇧為𧇧也又按此字段借為樂也𧇧云康𧇧也佑即康樂也𧇧爾雅釋詁康樂也禮記樂記而民康樂是也𧇧𧇧古音同部𧇧樂轉通也(古籀補五十九第三頁)

徐中舒曰舊者皆釋度說誤金文度別見追殷云度風夕秦公鐘殷云度敬朕祀度從虎從文與此形體迥殊夏象虎頭在網中兩手上下持之疑象文與即由此字形論所致

說文是部夏聲求也從夏人在穴案從人者𧇧變作𧇧在此則為𧇧形之譌從穴為從𧇧之譌從夏者其下半之卜當與目形相連為從虎之譌此字全體皆涉形似而誤可以夏部之𧇧

證之聞鄉之聞漢書王莽傳作聞是受相通者當主由從虎形之省而通

說文虎部云柔章也從北從皮省省聲蓋文作虎此字亦為虎形之通蓋從北從夕並是從爪之通反今據說文為從虎之省

從虎之通漢印作虎從虎不從文據羅氏所集碑別字虎從虎者有晉中書侍郎有岳魏魯南驛安豐王妃馮氏中山王元熙元顯舊隋蓋美入等墓誌及唐石涼詩從虎者十亦當與目相連為虎形之通虎篆作圖乍觀之則如目上移於目下斯為卜或半矣又唐智積墓誌作虎從虎尤與虎形相近又說文叔部數從虎為虎形之通說見從貝亦象從虎之通理古書多與虎相亂說文虎從虎注云

1726 (3206)

山海經西王母之上有瑤琨瑤琨郭傳瑤琨玉名竹書穆天子傳重龍氏之所守曰技斯瑤琨郭注瑤琨玉名引左傳贈我以瑤琨按左傳成公十八年今本作瑤琨信公廿八年瑤琨今本作瑤琨張守節史記瑤琨作瑤琨

蓋瑤琨古本一字瑤琨所從之審又作數說文以審為故審文瑤又作數從虎者而之形論從同者虎之形論又在右旁者蓋所從之又或與虎形並列故此置於審形之右

說文瑤之古文作瑤是數之古文有審審二形書決範古文作思曰審今文作思心曰容蓋古文作審而今文以容讀之容容形近故也說文瑤之或體作瑤瑤者皆由瑤形致論以其偏旁

高篇下半從岡尤與容形相似也說文玉部瑤瑤古文叔部數審古文並相通同例則數

1727 (3206)

叔輕輕亦當相通而叔部叔輕(或體)為漢整之整讀若叔與叔整音義迥殊者此其故如不知叔之本形則殊不易索解案叔亦虎之形論象虎頭在綱中當即陷於溝整之意(叔部又有叔之通形而與整在金文中形極相似是讀若叔者當從貌得聲貌整並入聲字

據上述諸證知康康即康康當讀為康音康長也(爾雅審深明也聖也智也詩長發云藩昔維商長發其詳藩昔即聖哲康音猶言聖哲長發也(集刊第六本一分三三至三四頁金文叔解) 高鴻緝曰西泮即甲文之字之變原从二手舉網捕魚魚亦聲乃魚字之初形此从二手舉網虎省聲魚聲虎聲古同故知

1728 (3206)

為魚字之變此處通段為娛說文娛樂也詩聊可與娛傳娛樂也是也(爾雅考釋四五頁)

徐同指曰虎古文健字从手从虎虎健之象也從古卷十二第廿六頁周頌歌)

李孝定曰舊釋虎於形不合劉心源釋虎謂从虎為从虎之省說殊無據然謂左旁从角則是也高鴻緝氏以為漁之異構說非據要文雖乃會意兼聲字非徒以魚為聲也从魚仍以數為主安得易為从虎乎徐中舒氏之說牽附糾纏莫可究詰形論之說展轉相因而終歸於虎字不敢苟同也高田氏謂字从貌近之而謂以形未詳不知何以一轉而為鄰字高田氏又謂字當讀為樂於結義雖合而所借本字之鄰則於形無據也余初亦疑此文為貌後說文貌訓虎所攬畫明文謂是从虎字聲

1729 (3206)

殺改為从虎守是也。金文號从虎从受。从守从受均是从二
 爪之端。爪寸支於偏旁中側亦得通。字乃从虎从二爪會意。惟
 諸銘此字如釋為號。難以屬讀。且此字明以从守不得以从手。
 說之改金文。嗣字多見。从守為从守之省變。取兩手治亂絲之
 形。此字偏旁从四亦與亂絲意近。四或竟是从守之端。說亦可通。
 劉心源內謂此字左旁从鳥是也。字書是从鳥。鳥聲。雖不知當
 於今之何字。然於諸銘則當讀為餘。字餘古音在十七部。在聲
 在五部。古得相通也。此从金。讀為康。餘純佑。我亦諸通。
 郭沫若錄定作康。見兩政七二頁。頌鼎。

1730(3206)

周法高曰。如李說。从虎聲讀為餘。乃魚部歌部通轉。案當讀為
 蝦。說文蝦大遠也。从古段聲。詩賁之初筵。賜爾純嘏。卷阿純嘏。

爾常矣。見說文通訓定聲。第九。虎聲段聲同。隸魚部。

<449> 譚幻康受。見說文。

1731(3206)


四 字書
 月部
 字書

郭沫若釋度。見金文。三三頁。讀讀補遺。字康。

李孝定曰。與上文為一字。但稍省耳。

1732(3207)

五 字書
 五部
 字書

徐同柏曰。叔下一字从羊从皿。當是古萬字。說文萬。煮也。从
 羊聲。玉篇。作醬。从蟲。將聲。古文萬。作。從皿。會意。將
 萬同物。故萬字。或从皿也。 (从古卷一。四頁。同叔萬父鼎)

吳式芬釋。五。見。據古二之一。身四八頁。叔五康。

李孝定曰。余氏釋萬。而此字所从。絕非羊字。余說所引二鼎
 字。古文實非康字。且亦非同字。但俱从萬。而耳。徐說殊疏。誤。吳氏
 釋五。而實非从于。字不可識。

1733(3208)

本考定曰字當為器名容庚氏於所著商周彝器通考四六六頁十五行釋此為盤字說似可以蓋字从皿實為从皿之小器器為區而銘換會盟亦與區之為用相磨惟是字上从臼从一與金文朕字所从相同而不从水似不得釋為盤字然求之銘意得盟又極通或當以盟之形為說之矣

盟字

徐伯璽 王字通卷一

阮元曰盟當是玉篇孟字盤也大約前書于宗廟既合書史紀于盤又成此紀記土之蓋昭慎重也(續古卷七十六頁格伯璽)吳榮光曰野翰說阮拓作盤字小異此拓器作盤蓋作盤案符也書叔夜鼎彝作盤太公墨作盤形相若說文盤在盤部此从臼而岐其上象分裂中有到大象寬从皿器也定為盤字為清卷三第二十八頁周格伯敦)劉心源曰盤阮釋孟二吳釋盤皆非說文由从臼从于缺从欠自聲缺者缺血也古者缺血為盟此从缺省皿省會意乃盟字也(奇觚卷十六三七頁甬生說)

孫伯璽曰盤从臼从火从皿亦古文之異者嚴可均釋為掃以篆文中又似于也第器作盤形尤相近若然則當為盟之秋義亦得通徐論卷三第十八頁格伯敦)

高田忠周曰此字格伯敦王在成周格伯獲服馬乘打個生乃寅廿田則折格白連殿姓復乃從格白安復句復乃割零谷杜木偶谷游萊涉東門乃書史載武立盤成盤係款用典格白田其萬年云云據古所收數本如此按湯清館引第一第五又續古引蓋文同第二第四阮云鑄字蓋依鑄亦有作盤者也又吳光榮以阮釋為非云此盤字阮拓作盤此拓器作盤蓋作盤案符書叔夜鼎彝作盤太公墨作盤心盤形相若說文盤在盤部此从臼而岐其上象分裂中有到大

象寬从皿器也定為盤字武立盤者武人名立莊通謂監視也盤即孟字盤之聲孟通注謂新鑄鐘殺牲以血蓋其聲部也之義為陳以血蓋器之陳因名為盤也又奇觚室文述收拓本二同第二第五刻云二家皆非此為盤字說文由从臼从于缺从欠自聲缺者缺血也古者缺血為盟此从缺省皿省會意武者武周語不通步尺寸之間蓋謂劉氏解篆形殊非說文古从干口不从臼又干旁有二點而劉氏不言及之甚粗矣今細審此盤即上文盤省又从干亦聲也古音干盟同部然此篆亦與字異文無幾也但文義疑段借為菜者識也(古籀篇二十二第(一八頁)

郭沫若曰蓋字亦見陳賡說及因齊鐘彼二器用為度數義此同為限限義故阮君神祠碑說阮以為之與与此同(兩政八十二頁)

格伯殷

楊樹連曰：鹽字从鹽省，矢聲。疑當讀為矢，論語雍也篇云：子見南子，子路不說。夫子矢之曰：予所否者，天厭之，天厭之。集解云：矢，誓也。（續微廿七頁格伯殷跋）

吳閔生曰：鹽或讀為鹽，音義既具，象以成之。（古文卷三第二十六頁格伯殷跋）

李孝定曰：阮氏釋五上所从矢，于字通吳，實乃从矢，从干也。阮說誤。二吳釋鹽，尤誤。鹽者，沫之古文。詳見拙著釋金文，累百數十見，無一與此相類者。吳榮光氏所引兩鹽字，則屬字也。郭氏釋鹽亦僅第一形，是近然，第一形如是，从矢，則是从矢，則是不

1738 (3210)

矢不得為鹽字，它二形尤遠，既不可从，楊氏釋矢亦僅第一形，是近然，第二形非矢字，且所引諸語，殆也。夫子矢之之矢，乃誓之借字，非用其本義，而此字除从矢，姑如外，復从矢，將何所取義乎？而曰矢釋鹽，改首二形，皿上有兩點，似是水字，然鹽字至今為會意字，何以从矢？聲，此說實可商也。劉心源氏釋鹽，謂从飲省，皿省，會意，按劉氏所釋，於字形均合，可從而其說，仍有未安。字蓋飲，皿為鹽之象，皿上二點，所飲血也。今血字从皿上一點，此从二點，實即血之異構也。字即从布血會意。今作飲，乃其異體，飲之故从欠也。孫氏後說，與此同，而未有說，今為詳之。

1739 (3210)

子木子金，日口示△

高田忠周曰：按文斷續不可讀，但依字形，皿部無似之者，蓋即宜壞文，即有古篇第二十二第一（一頁）

郭沫若曰：皿字說文以為皿之或體，讀若灰，一曰若賄，本銘似即讀為賄，所謂分有薄罪之類。（兩政二二頁子木子金）
郭沫若曰：乃皿字，稍泐，說文皿小區也，从皿有聲，讀若灰，一曰若賄，蓋皿或从右，銘中此字殆即讀為賄。（全政三四六頁丘開之益老釋）

李孝定曰：郭氏高田氏說同，按字不从右，宜存疑。

1740 (3211)

子木子金，日口示△

高田忠周曰：按此字即皿之異，上有大字，合為查字，又从肉，从米，即食物之意，此篆當為饘之異文。說文饘，餽田也，从食查聲，是也。詩七月：甫田，稌稊，彼南畝，稌稊也。孫法饘野之餽，左傳三十三年：傳其饘，饘野饘曰饘。（古篇第八十八第二六頁）

郭沫若曰：皿乃泆字之異，泆連通三字，石經書無連通之古文，作泆，乃从泆，與泆，與泆，从水失聲，同意，失与厝古同，至部也。今通泆从水，从厝省聲，从皿乃餘文。說文泆，水所為泆也，故泆有通泆過分之意。（兩政二二頁子木子金）

郭沫若曰：舊本識余謂此乃泆字之異，泆与逸古字通用，量歲所公，正始石經尚書無逸，篇逸字古文作泆，王國維魏

1741 (3212)

石經改作說此字云

集韻述古作體，卽此字。久者久之，力者少之，王若公之，諸也。尚書中逸，諸字古本多作肩，或作侑，多士大濞，沒有解，釋文云：沃音逸，又作侑，注同。馬本作肩，云過也。多方大濞，圖天之命，肩有辭，多士大濞，沃有辭，句例相同，是爲孔本，亦間作肩，又如盤庚，予亦猶謀作乃，逸其後有逸口，日本所有，未改字，尚書逸，皆作侑，集韻本時，薛孝宣書古文訓本亦然，若肩侑本一字，說文無侑字，蓋以爲肩之俗字，以久从儿，在古文雖無區別，然則馬本作肩，与作侑之本固無異，此字蓋本从水从肩，轉譌而爲，猶疾字之又轉譌而爲，也。今案雖示沃之異，乃从淋，淋古文，肩聲，与沃之从水失聲同意，失聲与肩聲古同，在至部也，今逸之上半乃漏字，从水，肩有聲，僅

1742(3212)

肩上尸字反作爲異，謂卽沃矣，从皿乃其隸文，說文沃水所澆，沃也，較注云。

蕩沃者動澆奔突而出，禹貢道沃水入于河，沃爲受，本作沃，周禮疏師古漢書注所引不誤，且更記水，經注皆作沃，惟漢書地理志作軼，軼，車相也，正与沃義同，左傳彼徒我車，懼其侵軼我，又曰，迭我軼地，迭卽沃軼之假借也，凡言沃沃者，皆謂太過，其引伸之義也。

沃有過出之義，今通案本器銘正相通，銘吉闕人樂，威金，閉口，又□外通金，意謂字闕之吏舞，威金，或於金內容木以減其量，同，或於金口著物以益其量，同，通爲沃若，威金，之異，無疑，（金攷三四二頁至三四頁丘闕之金考釋）

1743(3212)

李孝定曰：王莽二氏之說，是也，字从未，不从水，蓋作諸者，以爲沃，蓋之專字乎，高田氏說非。

1744(3212)

大篆 李公

蓋形身，轉文，王今曰：△卦頭首，△曰：△卦頭首。

吳世昌曰：蓋蓋族名，或所封地名，非個人私名，此字不見於說文，而見於廣韻，通鑑，東漢封國有蓋吾，桓帝本封蓋吾侯，其地北齊併入博野，今河北有蓋縣，殆卽其故地，考說一九五八第一期九一頁對蓋蓋族考釋一文，的幾點意見。

同善生曰：蓋集韻徒回切，音類器名，這裏是器主名，他是以器命名的，據傳王莽娶厭菴來小子語，知他和王同宗，犧尊原蓋蓋字所从的豕形，豕爲先豎，一豎象喙的上半和耳，二豎象喙的下半，三豎象身及尾，四豎在左象前足，六七八豎在右象第九十兩小豎在尾端，左右連同尾尖象尾上的毛，這和馬字的尾一樣，禮記豕曰剛鬣，豕是豕的特徵，故甲文金

1745(3213)

文都有畫翼的。頌壺家字所从的豕則已省變用一振曲線描括翼的外部并把尾上兩根小毛省去小篆也是這樣說文象毛足而後有尾毛即描畫楷書又把翼變成一啄一碟豕多肉也是特照故甲文金文都有畫肥碩體形的方彝蓋字就是這樣文參一九五七第八期五二頁邵鵬周代銅器銘文初釋

李孝定曰从豕从皿當釐定作盞周吳二氏所定猶未審耳契文來字均假盞字為之字作𠂔異體頗多均與此相類非从豕若象也

1746(3213)

羽

高田忠周曰按此篆从皿从量从北从羽甚顯然者吳大澂釋翼非余謂此亦糧字古文皿米通用登字或作梁可證皿者所以食米者所食者義相涉而通用又量所以別分輕重糧運月以為量注猶分也北亦分別之意也故量字从以會意此蓋為聲上又从羽羽施之意孟子師行而糧食單旅出行而糧食於羽施之下或云从羽為翔省又為量省翔翼與量古音正同部也此从量聲又从翔翼聲重聲字金文往有之故知此糧翼文又按糧字古文从皿此益亦與彼同為羽即鳥字合羽為翽字翽亦與鳥通用史記楚世家吞三翽六翼索隱空足曰翽可證然此篆从翽亦鳥字義兩用可以盛糧故糧字从兩猶米皿

1747(3214)

通用矣未能決定存兩按坎來哲云(古籀篇八十三第八至九頁)

郭沫若曰字从皿量聲蓋乃羽南古文之異叔夜鼎用盞用翽字從皿與此同量字从羽量聲當即量之古文說文望樂舞以羽矚目矚有其首以祀屋辰也从羽王聲讀若皇此亦从羽而量聲與王聲同在陽部也从皿量聲當亦烹醢之屬而平銘當讀為糧解弟有与此相類之字曰龍入翽

羽母子用乍右母辛降樂字从聲南从米从匕量聲亦同是翽字之異而同讀為糧(兩政二二五頁賢跋)

1748(3214)

按郭氏釐定作盞

李孝定曰郭氏高田氏說同可从惟郭氏釋此為醢而讀為糧高田氏則以為糧之本字似以高田氏之說為長惟高田氏云

米皿得通翽兩得通則不可信蓋梁乃形聲或體梁盛之以皿故从皿梁為稻餅故从米所以供食故又从食作養齊次則其聲非皿米食三字得通也翽兩則偶用別字耳

1749(3214)

開作文章自
宣此商△
(269)

李榕定曰字从八从月四月非从肉也丁說待考

耕世集

△₁ 匪黨作文
寶陣

商承祚撰辨見十二家二二三頁雪八頁辨以葉亡父癸說

李孝定曰商氏隸定可從

1751(3216)

今夏
(1972)
全同△數
于皇王

郭沫若曰：「**𡗗**字當是敬之古文，从𡗗古文𡗗省，并聲。」（《兩叢第五頁》）

郭沫若曰：「余疑敬之別構，從春（古文慎）省井聲。」（「青研七十九夏令彝令殷與其它諸器物之綜合研究」）

李孝定曰郭氏所釋可備一說然金文數字多矣此銘獨異為可疑耳

斜王棟鼎
“¹⁹” 斜王△周具良

金鑒傳其鼎

郭沫若曰：『量殆糧之異文。』（兩政一五九頁）
鄒王權新

吳閻生釋禮曰徐偃桀王中國謂之桀夷自成周盛時不能服也徐金文皆作桀禮从井取型范義即度量字(古文卷一第三十八頁徐王禮鼎)

李孝定曰吳說為長

1753(3218)

今夏
(1972)
全同△數
于皇王

郭沫若曰：「**𡗗**字當是敬之古文，从𡗗古文𡗗省，并聲。」（**响攷**第五頁）

郭沫若曰：「奔余疑敬之別構，從春（古文慎）省井聲」（『音研七十九』）夏含羣《金文與其它諸器物之綜合研究》。

李孝定曰郭氏所釋可備一說然金文數字多矣此銘獨異為可疑耳

斜王棟鼎
“¹⁹” 斜王△周具良

金鑒傳其鼎

郭沫若曰：『量殆糧之異文。』（兩跋一五九頁）
鄒王權（新）

吳閻生釋牂曰徐偃稱王中國謂之淮夷自成周盛時不能服也徐金文皆作倬牂从井取型范義卽度量字(古文卷一第三十八頁徐王牂鼎)

李孝定曰吳說為長

1752(3217)

床

床生新
舊釋床
△生字義

柯昌濟曰：潘書引周孟伯釋床案此字似从厂从來微來蓋有
余與此字頗近床字亦不見說文（釋華七七頁魯內小臣簋）
周孟伯曰：說文廣古文作床漢書地理志以廣作部此床疑即
床字訓如部也（纂古卷一第十九頁魯內小臣簋）

張孝連曰：床疑即床蓋之省古廣來音同聲通借此當讀來
生來生猶歸生也詩始我來年魯詩作釐年左傳晏薨國語作
晏萊詩釐爾主釐釐爾士士皆資之借字又按床生之床
與釐聲皆一字通借方言陳楚之間凡入乳而雙產謂之
釐尊廣雅釐尊健壽也玉篇尊孖雙生也然則此床生殆以
孖生得名若寤生之類耶（纂古卷一第十九頁魯內小臣簋）

1754 (3219)

李孝定曰：字不從來周張二氏說非柯氏錄定作床按字亦非
從來未不知何字金文來或作來其下年與此同未審是從來
省否

1755 (3219)

羽

羽西專
△羽字義

李孝定曰：从矢从二甲不知何字

羽

羽文鼎
△羽字義

劉心源曰：羽古鑑第一鼎作羽第二鼎作羽第三鼎作羽
此作羽當是羽（奇觚卷一三二頁羽父鼎）

高田忠周曰：按說文：羽，羽本也。一曰：羽，初生兒。从羽，疾聲。此篆
上作羽，正為羽字。羽即疾之變也。說文疾古文作疾，金文皆同。
許解云：从厂象張布矢在其中。此篆則厂以象張布，升以象格。
格上插羽矢在其下，結構即原射義。此晚出變體之證。（古籀篇
九十六第二一頁）

1757 (3221)

柯昌濟曰：羽丹釋義案釋義非是當即羽字之古文也說
文羽羽之羽風亦古諸侯也从羽开弓部亦有其聲與羽字訓

1756 (3220)

相同皆解小篆之說婦女解亦有此字象手執羽形知弄古訓
為射鳥者之稱此器序从矢尤可為証而古之官名亦取此類
(釋華四七頁辨父鼎)

本考定曰字不可識即錄定亦不易諸說並待考

1758(3221)

言

伯言之蓋
伯言父也

楊樹達曰金字羅振玉無釋劉體智小校經閣金文萃卷七上亦
載此器於此字如字書之亦無釋余謂此器字也說又此字作金
从高省从口然金文有金字作金小篆有金金文有金字作金
金聲鼎云其用夙夕鑄焉字作金八二聲金聲鼎云其用走
字作金十二聲下形並與此字同可證也(續微二三九頁白高父段
跋)

本考定曰揚說可從

1759(3222)

齊

齊字
伯齊父也

齊

齊字
伯齊父也

齊

齊字
伯齊父也

本考定曰从高下似从喪字不可識

1760(3223)

齊

伯齊之蓋
伯齊父也

徐同柏曰伯下一字从父从市父讀如市市古文市此讀為市
象市下有覆形通讀字也顧亦伯齊(从古卷十七二十八頁同
伯聽跋)

吳大澂曰市字从市从市即古市字(憲齋八冊六頁伯齊父
跋)

吳大澂曰市陳介祺釋作齊伯齊父敦(古籀補附錄十四頁)

劉心源曰說或釋齊非說又較高也从市九聲尤異於凡也此
从即九省(奇觚卷三十頁伯就父跋)

1761(3224)

高田忠周釋說同按古籍補附錄引依陳介祺說為喬字然字
明从京與喬作喬自異此乃見之省吳氏式芬得釋矣又別
有喬象被即敵字自異矣(古籍補編七十三第二四頁)

馬敏倫曰倫謂喬為就之聲注字從京又聲又尤音同喻三
聲同之類也(刻詞一七一頁白喬教)

吳式芬釋就見據古二之一第八十三頁伯就教

李孝定曰吳式芬刻心源二氏之說足也餘說非徐說更不知
所云矣

1762(3224)

西

音庚詩

音庚下

阮元曰案音說文篇文作替即奇字替(稽古卷七十三頁
音侯蓋)

吳式芬曰許印林說替乃古婚字說文作慶云篇文車部讀
云慶古聲字薛書婚屢見皆摹失真即說文所載亦難免傳
寫之誤其所云篇文古文下體作慶與慶下體同殊無理解中
部慢訓塹地以巾攔之又讀水溫難唐韻乃昆切明是音音而
謫作慶旁若慶旁當讀乃高切矣惟下體誤慶故與慶混今
見象伯敦有婚于同邦婚作替上體與此真恰合則此為婚字
無疑(據古卷二之一四十九頁至五十頁音侯角)

1763(3225)

徐同柏曰舊古辭字同體辭人注斯可展云辭門也十葉為
實百二十實為集呂需之焦中此所从古文亦實葉之象
曰象物在器形甘即雨之下體集呂需之焦中之象从葉
以帶則為需之聲矣(自古卷十二四頁同音侯角)

方濬益曰(稽古齋)下半同琴誤釋為需今審拓本定作真許
印林明經以象伯敦有婚于同邦婚作替上體與此真恰合定
為婚說甚確從之(綴遺卷二十六二十八頁音侯角)

孫詒讓曰舊吳從許漸釋為婚故古文婚字本以象者要省詳
孟又有字單伯釐作需之三二毛公鼎作需之三亦从需
省从収此下無収則當即需之省文與毛公鼎需字同上从需
即書下从廿與象伯敦从卅同蓋皿之變文說文四部四象與

1764(3225)

毛公鼎从卅亦畧同也(餘論卷二第六頁音侯角)

參閱3108條孫詒讓說

高田忠周曰按古籍補引云徐同柏說需字是又據古辭蓋下
說云需字篇文作替即奇字替此攷更非今審下形作需即
字異文上作所斷非三子需字又非需之上形也唯玩文意
此需即需也其文無幾蓋謂曰十葉為實百廿實葉以煮之
為需(一曰需百卅之華此上形作卅象其所集之物又或象
百卅之華三形者亦多略不過三之理也)(古籍補編八十三第一
八頁)

1765(3225)

高鴻緒曰說文載金部謂籀文觴从爵省今魯侯觴作卣卣是
从卣卣(爵)易省聲觴仲多壹作爵从爵易聲孫詒讓曰疑卣卣
觴為唐諸姬簋作爵从爵易聲丁佛言曰左下象爵之足形
篆書誤為从角足見魯侯器確為觴而或云爵或云角所當正
也(字例二篇三〇〇頁)

郭沫若曰爵字孫詒讓可信史獸鼎尹賞史獸勳錫(獸)鼎一
爵一爵字作象又勳字作象象隻手持爵象伯戎設有勳于
周邦作象毛公鼎勳勳大命作象象隻手奉爵蓋醴之初
字均假為勳諸字雖各有小異然一見即可知其大同(青研九
十九頁魯侯爵釋文)

1766(3225)

郭沫若釋爵見兩改一九五頁魯侯爵

李孝定曰字象爵形上从丁象柱形三其柱者殆形體偶誤耳
郭說為長方代釋婚按其所引象伯殷一文實仍爵字也金文
婚多假借之古文為之字形與爵字近似前賢多誤混說見前
高氏釋觴謂从爵易省聲按易金文作昇或者作亨未見省作
丁者且即从易省則从一丁足矣寧繁複若此乎吳式芬氏之
誤與方氏略同徐說殊無理致孫氏析字形亦誤謂下从卣乃
卣之變文按此象爵之三是非从卣也餘並詳前爵字條下
說地蓋爵字為勳謂蓋醴之初文均假為勳高田氏釋此為爵
其說亦誤蓋沿前賢爵會不分之誤所致又明言其字形不符是
自為矛盾也本銘爵字連文義自詣通

1767(3225)

白川靜曰第四字據古璽許瀚之說釋作婚以來其說盛行據
五曰惟婚故用盟耳以為因婚而作器也然从大將銘讀作兩付
與下之毫字相連解作婚老猶嫌望文生義也孫氏以字形與釋
作勳同之字相近故釋字為爵史獸鼎有爵一爵一之文字形與
其爵字取相近此處當為作爵即記其器名也(金文通釋
輯一二八頁一二三魯侯爵林深明釋)

1768(3225)

《金》

爵字蓋初口△

高田忠周曰以文推讀此篆疑鄉食字異文尸亦尸之重錄與山
作同同意鄉飲之事亦當行于宮中故字从山猶宴字从山也
姑定為鄉字(古籀篇八十八第三〇頁)

郭沫若釋爵見兩改二二七頁魯侯爵

李孝定曰郭氏但隸定作度無說高田氏以為饗字而實無據
本銘殘初實難以文義推求也郭說為長

1769(3226)

食

什處之盤
用風餐飽
仲氏

孫詒讓曰：『食』字無釋。吳榮光釋：『為餐未塙，荷伯就故云白就父作，荷就與此字同以字形審之，疑當从食从頁或當為恩聲之省，伯就父故从人則似从優省，但字書未見，不知何義也。』孫詒讓卷二第十九頁仲獻父盤。

吳闔生曰：『餐即食之繁文。』(古文卷四第二十八頁仲獻父盤)

李孝定曰：『字當錄更作傾，莫詳其義，蓋為盤例為水器而飾有木葉，麥諸穀名，蓋盤亦有用作食器者，如黃韋俞父盤銘云：黃韋俞父自作，其用當與此盤相類。』

食

舊釋餐

王季子大室
大室

食

王季子大室
大室

食

王季子大室
大室

食

王季子大室
大室

強運開曰：『餐』呂鼎王季子大室从人从夕从飠，當即古飠字。
(古籀三補卷五第廿九頁)

高田忠周曰：『按於文義知祭字異文也。祭者察也，故从食从察。省聲。从食猶从彘肉在其中也。會意亦顯。』(古籀篇九第一七頁)
郭沫若曰：『餐即饔字。方言：饔謂之饔。饔謂之饔。金文多用為館字。』(兩漢二十八頁饔字)

郭沫若曰：『餐字亦見呂鼎。彼銘云：唯五月既死霸，辰在壬戌，王饗于大室。彼字作餐。』正以夕作，此銘上從月，蓋古

1771 (3228)

1770 (3227)

人月夕字每通用不別也。又右里器盤字作餐，所以死字与此同。小篆从己，亦稍異矣。由二器之辭旨与文字之結構以推之，當是饔之古字。从食从死，亦聲也。漢人用為館字，方言：館謂之饔。饔謂之饔。饔即餐之異。『(金文三二四頁臣在銘考釋)
打昌濟曰：『餐从人从月从人食，當即祭之異文。』(詞林典故又作以和等形，从以手持肉祭示之狀，此加从人蓋義文。薛氏鐘鼎款識十一尹自惟十有二月王初寧旁，爾字與此字為一字，特轉摹形記耳。鐘三六頁呂鼎)

吳闔生曰：『餐當亦餐祀之義。郭讀館非是。』(古文卷一第15頁呂鼎)

陳慶家曰：『餐是居字，字从人从食，从乃得聲。後者說文以為即詩：我姑酌彼金罍之姑。』(金文選七七頁西周銅器斷代上卷)

1772 (3228)

馬承源曰：『餐亦祭名。舊釋館非是。薛氏鐘鼎款識尹自銘云：王初寧旁，與孟爵銘王初寧于成周，辭例正同。舉亦習見之祭名。』(文物一九六三十一月德方鼎銘文管見)

李孝定曰：『字當釋餐，要氏說是也。說文無此字，而御覽八百五十三飲食部引說文有此字，解為豆。鮑玉篇亦有此字，解為豆。和豆是古本說文，當有此字。今本佚之耳。解為豆，鮑義屬後起。』(云：餐于大室，餐者京年均餐祀之義。郭氏讀為館非是。大室為餐祀之所，非館舍也。柯氏謂是祭之異文，強氏謂是館字，陳氏二氏錄定作，當食，並非。)

白川靜曰：『餐，郭氏釋館，陳氏釋居，郭氏之銘釋曰：餐字亦見呂鼎。彼銘云：唯五月既死霸，辰在壬戌，王饗。』

1773 (3228)

于大室。彼養字正从夕作。此始从月。蓋古入月夕字。每通用不分也。由二器之辭旨。與文字之字形與聲類以求之。余謂此當是館之初字。从食宛宛又聲。出館養。

京猶詩云出宿于沛。

从字形聲類雖可釋為館。然尚難於首肯。又陳氏釋為居之根據如次。

疑是居字。字从山从食。从乃得聲。後者說文以為即詩我姑酌彼金罍之姑。此字亦見于呂鼎。王居于大室。麥尊。會王居錫京。皆成康時器。此器上祀王行大禮于宗周。下言出居錫京。則此二者之性質。可以分辨。宗周之

于豐。錫猶成周之于王(周)。

此說以字从乃即始據此而釋之為居。

1775(3228)

1774(3228)

館

衛心直
△衛始世作

李孝定曰。字當錄定作。從食。慶聲。右旁所从。與金文諸慶字極近。

△

御用△

李孝定曰。从人。其下。與。自字之異體。或當錄定作會。

玉。眼。忠。曰。會。字。似。今。自。之。合。文。然。應。作。會。字。也。會。字。也。在小。圖。收。獲。之。時。作。其。對。藏。之。會。而。但。收。獲。者。也。許。小。雅。甫。田。有。

曾。孫。之。孫。如。流。如。雲。曾。孫。之。皮。如。流。如。雲。乃。求。于。斯。會。乃。求。乃。斯。會。

蓋。在。田。稼。時。有。作。其。收。藏。之。所。之。例。也。(殷。金。文。考。釋。七。三。頁。五。御。尊。四。林。澤。明。譯)

1777(3230)

1776(3229)

舒

毛公孫鼎
唐蘭釋觀厚二字
（67）
我周△厚子
果洎我友

劉心源曰饔說文食部作𩇛云設飪也从𠂔食才聲讀若載古亦同爲載石鼓文省車𩇛衍𩇛西𩇛北是也(奇觚卷二五十一頁至五十二頁毛公鼎)

于省吾引劉說並曰觀讀載語詞雙選卷上二第五頁毛公族

李孝定曰書從劉唐二氏之說釋為觀厚二字于氏讀觀為戴以為語詞說亦可以

2

△公自排古衆金

李孝定曰此字下半與「乘」字上半略近不知何字。

1779(3232)

𠂔

大作大伸一區
錫切羊欄
(133)
錫切羊欄
錫切羊欄

५

揚東嗣子
<1375>
果嗣△等

10

朱伯夏歸舟
 錦△敵討甄揚天子不祿魯休子孫
 歸△其遠萬年日用萬子家室

^C吳闡生釋降曰吳以歸奎為人名屬下讀稱為歸奎敦殊誤以其不知中為逆之變體而誤認為半也此象兩止降卑形即

吳閨生釋馬曰馬本作司蒼釋勿未是案矢較錫司辭則與此正同則為馬字無疑無異敦司四匹與此亦甚似也。會文卷三第十四頁揚敦。

郭沫若曰：鄭始新新字异文段為誓洵子孟姜壹司誓作嗣新此之司誓蓋周禮秋官司約司盟之類（兩改一一八頁揚殷）

陳夢家釋茂曰司茂即周禮之享次鄭玄注云次幄也（金選）

李孝定曰按字从攴从二中从攴乃倒止形與从又意近舊釋
𠂔頗有理致惟久又意雖近而無相通之例不能逕定為習字
也吳氏於大作大仲蓋一文以為為馬字於字形毫無根據所引
無異蓋馬字兩見作𠂔不從攴均與此絕異說殊疏誤於手伯喜
一文又釋為𠂔字謂从攴从𠂔為止之變象兩止降省形按既作𠂔
則無降省之象必以為𠂔字其字亦當作𠂔果字作此形則

1781(3233)

1780(3233)

又為三個止形其說流謬實無可采郭氏於揚蓋一文以為
折字亦誤字明之从久不从介也郭氏於季伯蓋一文以為參
字差近金文中止為止者恒見新為止郭氏所錄定似不
誤然大作大仲蓋一文所从有作十者似不能謂為止之為變
恐仍以隸定為各為較切也

1782(3233)

李孝定曰字不可識下平願難隸定姑寫作查可也

1783(3234)

楊樹達曰字羅振玉無釋按武英殿藏器圖錄廿三葉小校
經閣金文卷式五五並載此器於此字亦皆無釋余謂此字从木从
尼尼為古夷字漢書高帝紀云別將司馬尼將兵北定楚地又地
理志越蕭郡蘇示下云尼江在西北顏師古注並云尼古夷字又
樊噲傳云與司馬尼戰陽東師古注云尼讀與夷同說文六篇上木
部云槲赤櫟也从木夷聲詩曰隰有杞櫟按許君引詩見小雅
四月篇毛傳亦訓櫟為赤櫟蓋許君用毛說也(櫟微二三五
頁李居白鼎跋)

李孝定曰楊說可從






1784(3235)

李孝定曰从木从大書隸定作栌

1785(3236)

近來置
(1379)
通
△鑄其實置

吳式芬釋未見據古一之三第六十三頁遂未錄

李孝足曰吳氏釋乘接為耕田器古但象形作作乘古蓋一字也乘之象形無作之理馬氏釋乘似差近然乘象人立未上斷無省之理此字中畫直貫乃獨體非从大从木也古文偏旁雖或卽率不拘然有關字義者則然毫不苟果如馬說則木杪直貫臂下而兩足空懸何以會乘意乎字不可識不可強為之解也

采嘆並
<1021>
△嘆也寶穀

李孝定曰：疑帝字師，因毀帝官之帝作示，古所从與此極近。

必鼎
 <1679>
 語教文通語贊曰予
 王參門口日本△

劉心源曰：檣，舊釋校非。余伯戩、敵、四苟之苟，作方，此从木从牙，是檣字也。木檣者，以木標識地界，周禮職金注所謂楊柵也。奇

強運開曰抄抄習鼎木枋用責按不疑故駭方嚴允亡方段方
為防求伯故右關四方亡方均與此右傍相近吳憲齋云方古
旁字借亡四方之方運開按方方均為古旁字是枋即古榜
字矣古刑法有榜笞榜掠之稱木枋用責殆即榜笞之謂也古
竊三補卷六第二頁

高田忠周曰：按舊釋作本枝用債篆形非是。又夫句讀此丁明
 方字巾亦與半竹之个異。與枝迴別。蓋巾為兩省。雲菊同字。此
 亦楠字也。說文：楠，所以輔弓弩。从木，菊聲。字亦作楠。俗變也。轉
 義為管接也。字亦變作筓。此云木楠亦疑為此義。銘專云：所訟
 契約之事。此句當謂若有違約者，往于王門下加管接之罰也。
 (古編篇八十五第三四至三五頁)

譚戒甫曰：榜原作榜。字與說文古文旁作兩相近。考聘禮記百
 名以上書於策，不及百名書於方。鄭注：名，今謂之字。策簡也。方
 版也。集韻：榜，或作榜。木片也。按古時契約寫在木版上，故書木
 榜與書于方句意全同。(中華三輯七九頁西周金文辭文錄合
 研究)

1790(3239)

郭沫若釋榜見兩款九六頁自鼎

李孝定曰：諸家均釋榜，可。以其義則以劉心源氏訓揭，舉為長。

1791(3239)

李孝定曰：疑邦字。說文：邦，古文作。當為由之字。誤从田从
 平。平亦聲。與文邦字正作。古封邦二字形音義均有極密切
 之關係。封與文作。从土从平。平亦聲。从土从田。義同。封字从
 土，樹木以為標幟。封之則有邦國之別。封邦古音不別。其始蓋
 為一字也。請參看拙編甲骨文字集解六卷167頁邦字條及十
 三卷邦頁封字條。下此从田从木其義亦同。

1792(3240)

木

史系五 史公說

上平聲

李孝定曰：此當釋某。說文：某，酸果也。从木从甘。關縣古文某从
 口又梅。梅也可食。从木丹聲。某或从某。金壇段君謂：梅為木名
 某則望梅止渴之梅之本字。其說非也。某下徐灝說文後注：某
 云：梅或體作某。當附於此。蓋漢人移之。其說亦是。此从木从呆
 正。某字古从日。从甘。每得通也。某之古文作。正由某字。某
 耳。

1793(3241)

劉心源曰：按舊釋作某从木呆。即梅之重文。某亦即某之古文。
 詳說文某酸果也。古文某从口知某即梅。本字矣。此梅為木太
 平。案字記：梅，伯國九域志：殷伯路史國名。紀燕郡南有故梅城。
 姓某子姓梅伯之族。(金匱卷五第十七頁史某某)

木

散盤
《木部》
木

阮元曰：杜字作橙，見《檀古遺文》。《積古卷八》八頁散氏盤。

吳大澂曰：《木部》古杜字，从者省，从土，許氏說杜甘棠也。散氏盤《金篇補》三十一頁。

劉心源曰：《木部》古文旅下从土，乃合堵字為之。或釋杜非。《奇觚室》八二五頁，矢人盤。

高鴻緝曰：《木部》者，聲者从日，从木，聲此。《木部》聲此，聲與者聲同。特後又加土聲耳。《散盤集釋》十六頁。

郭沫若釋橙，見兩改。《二九頁》，矢人盤。

李孝定曰：劉心源氏釋橙，高鴻緝氏又從而申之，於義為長。

1795 (3242)

1794 (3242)

樂

《樂部》
樂

劉心源釋樂，見《奇觚室》卷十一，第十一頁，漢安樂餅。

方濬益釋樂，見《綴遺》卷二十六，第十六頁，綴忠君餅。

李孝定曰：字當錄定作米，劉、方二氏之說並誤。

樂

《樂部》
樂

阮元曰：古文困从止从木，見說文。此篆字上體作足，古文止下體似从禾，當是困字，言以一井公田所入之五困錫康也。困，康之困者也。《積古卷五》三十三頁，康樂。

高田忠周曰：阮氏云古文困从止从木，見說文。此字上體作足，古文下體似从木，當是困字，言以一井公田所入之困錫康也。按《說文》謂困古文疑為困字也。从木止為會意，困困音通，猶近古文作斂也。然則以困為困，而謂樂是困字，古文牽強，殊甚矣。且此篆上作足，是為足字，楚字金文作樂，可證。但說文無足字，篆蓋指字省文，說文《樂部》木也。从木，聲聲讀若莫，刈之聲。

1797 (3244)

1796 (3243)

吳闓生曰：『臬阮讀困考說文困古文朱非困也郭讀為丹五蒙引虞齋自錫貝十朋又丹一桷為證謂丹為丹砂案丹砂五蒙其細已甚仍當以井地之解為是但五臬之制今不能詳耳』
文卷二第一九頁虞齋

于省吾釋某見雙選卷下二第十頁處葬

1799(3244)

(136) 谷麻△步東門
飯人細芭谷杜木邊

周名輝曰卅部與葉同 柏伯餽 饌獻之以為葉字 丁氏定為
葉字 今考定為桑字

名輝案字从彖手爪是即篆文𠂔亦即今文奎說文自部陸
 從自老聲即其字矣由其字从爪从𠂔皆象手形故余以𠂔即

1801 (3245)

1800(3245)

桑中篇後世持桑歌詞其遺俗未泯者諾即其字乳字矣然何以證中字从木即桑字也學般虛卜辭習作中咸豐藏龜第一作中同上第二百作中戰國楚簡並作中據于中之說而推證其為从桑从日之字謂古代農桑耕織並重農桑事業早已盛行于商代故特備此最有用之桑木為春日樹木之代表因以造為春字其說固已允矣是若為採桑之字桑為被採之木已昭昭然可見矣至格伯餽鮪云般之厥幼絕帶谷杜木偶原谷旅游桑者帶谷與偶谷對文皆山谷名旅桑與杜木對文皆樹木名也封疆樹木之制見于周禮及散氏盤銘文者正讀疏文詳之倘以為桑字則不但與字形不合與古制文法悉相乖謬矣古書考卷中一至三頁

1802 (3245)

劉心源釋桑見奇觚卷十六第三十七頁頁生款

吳闓生釋桑見古文卷三第二十六頁格伯款

郭沫若釋桑見兩坎八一頁格伯款

李孝定曰劉心源氏釋桑於字形吻合吳闓生釋桑亦可通蓋以二丫象所采之物然則此為采之篆文二說皆可通情難於文義斷之耳郭氏釋桑周名輝氏又從而申之按二氏之說實有可商契文喪字从口桑聲所从桑字雖多繁變要皆以木形為基本形態桑之為用主於葉故特著其葉以為象形與木字作丫但象葉幹枝之形者有別由木變為桑遂漸為而今之

1803 (3245)

桑字許君以木解之實誤周氏說最若二字亦沿其誤請參看拙編甲骨文字集釋六卷桑字條下

新字

王二八各仲仲仲

△桑△字△仲

吳大澂曰說文解字从分也从重八八別也亦聲考經說曰故上下有別又同部別分解也从凡从刀疑古文別字从凡从刀不从凡从刀之變體加刀為別加木為梨格仲尊款當即梨字史游急就篇簡札檢署梨檣家是漢時別字有从木之字周禮小宰傳別注傳別券書也釋名荊別也大書中央破別之也廣韻別分別也分契也又分竹也類篇捌兵處切音肺券契也明萬曆初山陰古冢出晉太康五年瓦甓即古傳別之遺制梨捌荊別皆別字之錄文从為別之省文自小篆改从凡而凡外俱廢矣字說二八頁別字說

1805 (3246)

1804 (3245)

吳大澂曰𠂔𠂔疑別字古文从木即史游急就篇簡札檢署製
積家之製𠂔即𠂔與𠂔字相近疑古別字本作𠂔或作𠂔也周
禮小宰注傳別券書也不从木格仲尊古禮補附錄二十五頁

孫詒讓曰案𠂔字舊無釋吳引翁同書說釋為𠂔吳大澂釋為
別阮歆識吳彝有𠂔字阮亦釋為𠂔此與彼畧同翁說即本於
彼後象伯戒𠂔作𠂔據古三毛公鼎作𠂔據古三吳釋為獨徐
同柏釋為𠂔諸釋並不塢今攷吳彝云華固朱執斯象𠂔文同
毛公鼎云朱嘉固襲器固即詩大雅韓奕之薪執號與𠂔亦同
此字與彼連屬為文其字疑當為𠂔之異文說文土部垠地垠
𠂔也重文圻垠从𠂔此𠂔字亦从𠂔从木或从𠂔吳彝又
唯象伯戒𠂔毛即𠂔聲良聲相通之證毛詩大雅韓奕傳云𠂔
公鼎形𠂔

式中也爾雅釋器云輿革前謂之輶郭璞注云輶以韋鞮車鞮
是輶與輶同第車式故二物同鞮鞮字即輶之省衣者實一字
也餘論卷二第二四頁格仲尊

丁佛言曰𠂔折專許氏說破木也一日折也此从木从𠂔从
𠂔𠂔有分解義正合以𠂔破木而分解之也古禮補附錄卷六第
三頁

高田忠周曰按𠂔字所从𠂔皆作𠂔此其省文實亦𠂔字異文
也蕭泰來皆𠂔字而𠂔𠂔古音同部故𠂔亦作𠂔不為異矣古
籀篇二十六第三六頁

柯昌濟曰𠂔从木从𠂔疑古𠂔字華二三二頁格仲尊

李孝定曰𠂔字當錄定作𠂔諸家之說並未審諦柯氏釋𠂔而
未言其故吳大澂別而所从之𠂔實非𠂔字亦非𠂔字僅憑疑
似而遽為定論實難徵信孫氏之說較優然謂此即象伯𠂔之
𠂔毛公鼎之𠂔則難遽定字在本銘為人名而象伯𠂔二文
為車器似為从衣𠂔聲之字遽定為一字似難徵信且即為
一字亦難証其必為輶字郭沫若氏亦定為𠂔字見兩政一三
行與柯氏同蓋以毛公鼎銘此字為車器推知然字从𠂔而得聲
𠂔字未必从𠂔聲𠂔𠂔之音讀不可知則釋輶釋𠂔並為無據
矣高田氏釋𠂔衣蓋謂此所从𠂔𠂔𠂔並即𠂔字即𠂔字異文
尤誤肯契文作𠂔段為南與𠂔字迥異按𠂔字篆作𠂔乃酒

器象形與此字所从𠂔旁實風馬牛不相及也

散盤
<47>
△東連石
△東連石

吳大澂曰：鈔阮相國釋耕散氏盤（古籀補附錄三頁）

劉心源曰：詳說文，枳籀文作𣎵。𣎵从枳，又从辛者，合𣎵字為之。或

釋耒或釋旂皆非(奇觚)卷八二六頁矢人盤

高田忠周曰按說文從帛持止也从稽省卓聲賈侍中說木之

如此篆木為禾省山為旨省多亦少之小異即稽字異文無異

吳孫氏謂為游字。姜殊甚者。阮氏釋耜稍愈於孫然。耜說文所

無古文从木作杼與此自別今訂正云段氏云徐鍇曰特止也

立也。按如有所立卓爾當用此字。《古詩篇》八十七第二五至二

六頁

吳大澂曰疑卽梓字（憲齋十六冊八頁散盤）

李孝定曰據當隸定作𠂔諸家所釋並不可據高田氏以為𠂔字尤誤

1811(3247)

1810(3247)

禮部
(109) △ 官寶
L

李孝定曰：从木从口。此篆字古文。另一偏旁不可識。

龍印
(1008)
王命傳任夏
一△飲之

方濬益曰冥侃超釋禪為菴之古文爾雅階閣即誅陰之陰左傳鹿死不擇音亦以音為陰說并精塙（綴遺卷二十九二十五頁）

龍虎節

吳大澂曰楷吳東發說楷古文菴爾雅陪閭即諒陰之陰周龍節吉籀補附錄三十四頁

劉心源曰：楮阮依吳說，釋菴彼云：口中有小槎，此拓碣然从口，不从日，當是楮公羊成二年事。于楮而窺客注，凡無高下有絕加躡板曰楮，疏但有懸絕，力躡板者，皆曰楮，是所謂篲一楮者，即今案板之類。（奇觚卷十一，七頁漢龍節）

1813(3249)

1812 (3248)

高田忠周曰按此借櫓為儻也漢書注儻石儻一人之所負儻是也櫓櫓手木兩部甚混而古尚兩部通用者抗抗打打同字可證(古籍篇三十一第四〇頁)

高田忠周曰龍虎尸王命之遺貨一櫓似之積古按此銘諸家釋文未得妥當此命下有重文下命蓋為令字歟藏字例今命通用也遺訓碑正義非銘意也遺與古音轉通此當與櫓通用貨者庸也庸者用也櫓即櫓字省文齊庚虎櫓字所从者形作櫓此又省尸也古餘文計字言旁作音百此八下从言無疑說文櫓櫓也从木虎聲非銘意此當段借為儻字漢書劉通傳守儲石之樣者注一人之所負儻也是也似即銅字銘云王命令櫓貨(櫓)之者猶今世出使者賜何等放費之類也因以

1814 (3249)

定使人資格也尸下云使山邦者用虎尸土邦者用人尸澤邦者用龍尸龍虎尸者使山澤之人所執也阮氏云江侍御櫓櫓作格云疑借作倍此從吳侃叔釋侃叔云櫓古文卷爾雅附屬即諫陰之陰左傳虎叔不擇音亦以音為陰海鹽近出古觀有櫓壁字櫓亦古文卷蓋卷之壁也可與此文參證後漢書皇甫規為中郎將持節監關中兵軍大疫死者十三四親入卷廬巡視三軍感悅此節銘云王命命惠貨一卷似之事正相類蓋軍行遇表故王命貨一卷以接單之病疫者而為慶樂以似之也此銘雖微亦可見古書行單既體恤兵卒復無纖芥騷動官民皆可法也黃山谷云今俗書庵字於篆無有當據後漢書作庵不知古文作陪作閣作陰又作楷也元按吳釋其確然以愚觀之吳氏後書發說而已彼所謂楷壁之文楷亦楷字尸尸通

1815 (3249)

用盾即省力八而為形與省尸作皆抑亦同意櫓壁文義至順矣(古籍篇八十五第八頁)

饒宗頤曰天櫓以郭君節指字證之乃格字即天格也爾雅釋天彗星為櫓或謂之掃星妖星也天官書云三月生天格長四尺歲星之精出東北西方其出則天下兵爭也蘇林曰格音櫓打之櫓顏師古曰格音白講友供周書器服解格禁壹一楚龍節背文一櫓似之郭君車節如櫓徒屯廿格以當一車其字作格與櫓此作格應是一字天格與天櫓天櫓皆為彗星九歌登九天兮撫彗星彗星春秋以來屢見記載史記天官書太史公曰春秋二百四十二年之間彗星三見又齊世家齊景公語晏子彗星將出彗星何懼乎楚續書年代屬戰國初期有彗星紀錄自無疑問漢書天文志石氏捨櫓捨彗異狀其殃一也必

1816 (3249)

有破國亂君晉書天文志引河圖云歲星之精為天格至蒼蒼凡七星英倫斯坦因數燈卷所見星圖(以)最末為天格圖之如下



(集刊第四十本上一二至一三頁楚續書疏證)

張振林曰郭君節車節銘文裏有這樣一句文(也)格徒屯廿格台(以)壹(壹)一車郭沫若先生釋格字為格謂格疑是背負的東西猶今俗言背子从文義上看這種解釋是可通的至于為什麼要那樣解釋郭氏却沒有作文字學上的說明段祿非羅長銘二同志則以為格徒是空手持挺不持兵刃的士卒管子象馬作白徒墨子非攻下誤倒作徒倍流火同志在一九六〇年八九合期的文物中介紹了長沙出土的銅龍節謂該節背面銘文一格似之的格字與郭君節的

1817 (3249)

楷字同形當為盛物器具究竟當為何物未提出自己的見解與長沙出土的龍節形制和銘文相同的過去也曾發現過不只一器轉轉見于各家的吉金著述從拓墨的紋飾和文字筆劃差異來互相參校一共有四器原刻本續古甯鐘鼎彝器款識背銘第二字作楷口中多出一筆是由于拓墨不精而誤摹其字本應作楷與其它的節文相同(此器後為吳大澂所得對楷字的解釋各家是不一致的且有很大的分歧一江德量釋楷云疑借作倍原注云續古甯鐘二吳東發釋楷讀作巷方澤益吳大澂等从之原注云吳大澂始得此鐘之信云但吳大澂發(均見吳容甫尺牘卷四最後頁而說文古編補將楷字三湯雲列入附錄三四)是使來對吳大澂說又不敷肯定了)三湯雲賜釋天槍天楷之楷謂天文紫微垣外右為天槍左為天楷即此楷字原注云金四劉心源謂為公羊成二年踊于楷而闕客

1818(3249)

之楷即今之案板原注云奇觚室吉五唐蘭先生釋為楷讀作

釋原注云王命傳卷十一見一九四一年北京連同郭殷羅沈火三說的

解釋便有八種了

郭君啓節和龍節都是楚器該字在此二器中的訓釋是應該相同的郭君啓節出後的殷羅沈火二說和過去的五種解釋令人都不能首肯在此不談就是郭氏的背子之說也只能在文義上解釋郭君啓節于龍節則仍是格格不入的那末楷究竟當為何字便有重新考慮的必要了我根據多方面的心得體會認為是楷字茲提出三點理由向前輩和讀者們請教一春秋以前的青銅器文字結構一般要比小篆來得錯綜複雜降王戰國特別是較晚的楚器(如會志鼎盤諸客鼎盤但勻等等)文字筆劃多數趨于簡易甚至有些簡化得很厲害這是

1819(3249)

大家所熟知的即以此兩節的楷字而論其聲符就是國差楷的楷字之簡意即是說由層省而為告雖然僅省去一二筆因筆勢結構已變便令人一時難于捉摸這講的是形二楷字在古籍中除用為建築物上的名詞簷閣檣檣的訓釋外還有解作動詞的擔擔管子七法篇不明于則而欲錯儀畫制猶立朝夕于速均之上擔竿而欲足其末的擔竿據管子集校說現在能看到的最新的宋楊忱本和明刻趙用賢本均作从木之擔明刻的劉績本朱東光本和無注古本改擔為擔可見古代的擔字同今天的擔字在音義上是相同的到了王引之乃將擔字改為擔謂即極字此後學者多沿其說(見管子集校八三頁)我以為那是應改不妥當的國語齊語有負仕擔荷句注云背曰負肩曰擔任抱也荷揭也很明顯七法篇該句的

1820(3249)

比喻是謂竿擔于肩上欲其兩端不動是很難的從而說明不明于則而欲錯儀畫制一定得不能什麼效果肩不能恒靜其末就不足止尹知章管子注說的夫欲定其末必先靜其本正是這個意思這講的是音義

三爾雅釋天郭璞注今荆楚人呼牽牛星為擔鼓擔者荷也楚辭哀時命負檐荷以丈尺寸欲伸要(腰)而不可得王逸注背曰負荷曰檐檐一作擔洪興祖補注檐檐并都鑑切這是據楚方言談的

1821(3249)

綜上所言擔以肩訓荷是齊語也是楚方言若按照文字的源流和發展看先有从木之檐然後才有从手之擔从古今文字形體結構轉變而言楷即檐字因此我認為以楚方言釋楚器上的楷字為檐再聯系該國人民負重用肩担而不用背負的

習慣鄂湘皖贛諸省至今仍然如此所釋是較為恰當的那麼
鄂君啓節那句銘文的讀法應是女(如)檐徒屯廿檐台(以堂當)
一車而龍節的背文則為一檐似之意義也無不可通龍節這
句的意思乃指使者持節所至該地官吏除按常規給以館舍
之外還要供給一檐的食物至于檐的定制量之大小因未載
于先秦典籍只好存以待考了(文物一九六三年三月四十八頁
至四十九頁檐徒與一檐似之新證)

于省吾曰女(如)檐徒屯二十檐台(以堂當)一車金文王命傳王
命傳貨(任)一檐似之檐字阮元釋晉江秋史釋檐說詳唐蘭
王命傳考國學季刊六卷四期按釋晉之不可據辨見唐文然
唐釋檐以為輶軒之輶也不確當因為古文字中的酉字及从

酉的字若見下部都不从口而且節文作輶徒仍然是講不通
的自江秋史釋檐為格馮云鵬劉心源均从之郭沫若文謂格
徒為脚夫擔東西般(非羅)長銘文以格徒為白徒按釋格之
誤在于以今楷定古文詛楚文有意倍二字从音均作音音與
否古同字金文否字屢見與舍形迥異此節與王命傳的檐字
均从音節文上一字从音下一字从音(中間橫劃向上彎)二形
一變一正楚器樂字若見有的上从音可互證舍从以乃从八
的連畫非从口金文口字作H左右都為直畫與八有別舍字
以从八作音形為正體其所从的音作音或音中間缺直畫乃
晚周音字的省變器樂書法的緣字从言楚器邵王鼎的謹
字从言均作音晚周籀文信計二字若見其从言作音音音等
形末一字从音與言古同字其他籀文从言的字如此作者

1823 (3249)

1822 (3249)

不勝繁舉詳羅氏古籀文字征會即詹的初文管字孳乳从厂
作詹金文國差姬的姬字从詹可證小篆孳乳从厂作詹漢印
僭耳之僭从詹猶存古文說文以詹字為从言从八从尸段玉
裁謂从尸聲徐灝謂从尸聲均屬臆說會系从八言聲的形聲
字說文訓八象分別相背之形會有分擔之意故从八清代學
者不主張从言聲者因為古韻言屬元部詹屬談部二部很少
通協其實言音二字同源異流金文言字所从之口往往加之
以點或小橫與音字無別伯矩鼎用言王出入使人言應讀作
音通款款謂款聲楚王頌鐘其章其言即其章其音再以典籍
證之墨子非樂上的黃寶言孔章呂氏春秋順說的而也言之
與響列子說符的言美則響美三個言字并應讀作音古韻音
屬侵部詹屬談部便談通協檐為檐的初文古籍檐荷字本作

1824 (3249)

檐或檐擔為後起的俗體字漢書貨殖傳稱樂千檐顏注謂檐
人檐之也楚辭哀時命稱負檐荷以丈尺兮王注謂荷曰檐節
文言如檐徒屯二十檐以堂一車堂應讀作當古化文有堂十
介即當十介說文古文堂作坐節文是說檐荷的人徒屯集二
十檐以當一車因為節文規定以五十乘為限如果不用車載
而用檐挑則集二十檐以抵一車下言以毀于五十乘之中古
籍每訓毀為亏為缺言聚足二十檐則由五十乘中減去一車
之數由今計之一檐約為百介或百餘介則一車的載重量約
為兩三千介上文所引的王命傳稱貨一檐似之任作貨猶金
文保之作貨這當系王的檐徒凡任一檐者所到的地方要供
給饌食免征就不用說了這與每車兩節的毋于掉似反正為
載舟車運行所用的人徒是為鄂君啟服務的所以規定為國

1825 (3249)

家不能供給饌食。基于以上的論證，則言為从八言聲的形聲字，寧為厯為厯，即擔和儋的初文。今作擔或担，這就尋出了言和从言的字的演化規律。這不僅可以知道古稱肩挑者為擔徒，和今日量物以擔為計的來源之遠，同時也可以看出古代勞動人民從事繁重體力勞動的擔負和車載的比重。考古一九六三第八期四四五頁郭君啟師考釋。

李孝定曰：此字高田氏釋擔，謂假為儋。張振林于省吾二氏所釋亦同，而于氏說字之形義尤為審諦，其說可從。

1826 (3249)

樹

樹蓋 大保銘厥

臣公金

高田忠周曰：「易李臣括金从木从剗，吉聲知是桔字也。但木剗沾二或一之缺乎？」（古籀篇八十五第三一頁）

柯昌濟曰：「樹古括字，今文作桮是也。」（華二五五頁樹義）

李孝定曰：「二氏之說可從。」

1827 (3250)

林

師義蓋

今余學今如達晉中員於公
左右虎臣正維人矣

吳式芬曰：「林，古文木字，此借作和。」（據古卷三之二，五十四頁師義敦）

劉心源曰：「林从林，即林，古文从木之字多从木，如休从木是也。」（奇觚卷四，二十七頁師義敦）

孫詒讓曰：「蓋銘作林，器銘作林，吳無釋案，當為無即鄰之省也。無專則無字，作林，與此相近。阮氏云：無字當讀為鄰，古鄰字每省邑是也。」（拾遺下，十二頁周師義敦）

高田忠周曰：「按吳式芬云：林字，古文木，秦字有或作林者，可證又劉心源云：林字，二家並非今審篆形，上明从人从林，下又从木。」

1828 (3251)

然依陶器藏器，从木即足，此為正形。作木者，泥兩木脚而論無疑矣。然鐵即整實，即歷省，而上又从人，古文人，尸通用。歷當歷字，說文履部，履履下也。从履省，歷聲是也。愚竊謂說文初先有林，而後有歷，有歷又有履字，此必有誤。歷元作整，从麻聲者，當籀文增缺耳。又歷亦實整，吳文整元从止，又从足，足者人足也。最古文作了，或連人以作人，於是乎遂為履形。又古文止是通用，故履變作歷，依歷亦整，更變作履，因以為从履，說訓云履下也。若夫履下，歷重而為之者，蓋亦整字轉義，履恐非古字也。古籀篇六十二第二一頁。

1829 (3251)

郭沫若釋林見兩改一四六頁師義敦

李孝定曰諸釋似以郭說為長未能審也劉氏謂古文未木得通其例實少見所引休字从木作木蓋緣與左旁人字作人者相並因於木字上畫微曲取其茂美非未木通作也此字惟在旁似是未餘二者一似未一似木未能定也高田氏釋體殊嫌牽傳

1830(3251)

問

禽蓋王伐桀

王伐桀

郭沫若曰楚即楚之異文从林去聲蓋多釋無說為鄭評不知古無字並不从林也(兩攷十一頁禽段)

柯昌濟曰桀字从林从右聲右即去字見卜詞亦地名卜詞王因于去是商代有去地桀字既从去聲或即卜詞之去蓋釋鄭侯非是(鐸華二五七至二五八頁禽齊)

唐蘭曰禽鼎禽蓋說王伐桀侯岡刻尊岡刻貞說王征桀(商周彝器通考上三九五頁)蓋應讀為蓋(林和州通用去和蓋通用)墨子耕柱篇韓非子說林所說的周公伐商蓋就是左傳昭公九年的商奄也就是尚書上的奄(考報第二九冊三六頁西周

1831(3252)

銅器斷代中的康宮問題

陳夢家曰疑即蓋侯蓋即墨子耕柱篇韓非子說林上所述周公征伐之商蓋左傳昭九作商奄昭元作奄奄蓋皆訓覆而古音並同所以吳世榮吳公子蓋餘左傳昭廿七作掩餘蓋侯即孟子所謂之奄君說文都周公所誅都國在魯後漢書都國志魯國古奄國周本紀正義引括地志云兗州曲阜奄里即奄國之地也集解引鄭玄曰奄國在淮夷之北據竹書紀年南庚遷于奄盤庚自奄遷于殷則奄者為商都所以左傳定四說因商奄之民命以伯禽而封于少皞之虛(金選五九頁西周銅器斷代禽段)周名輝曰邑部或从無口口邑之省也(王伐鄭侯銀)吳氏定為鄭字今考定為楚字吳子馨云彝作彝鼎作彝將其所从

1832(3252)

之古序正之作則為楚字甚明矣羅振玉亦釋楚見集古遺文王伐楚侯即矢般之王伐楚伯也其說甚是楚字从林从足此文作桀从林从去足去義同(古為去字古文見余所著說文古文餘義追記條中)考卷上一一至二頁

郭沫若曰楚字徐同相釋楚吳大澂釋無讀為許案此當以釋楚為是字從林去聲與楚之從林足聲同意古無字作楚或作𣎵乃楚之初字象人手持三鞭而舞並不從林(青研七十五頁至七十六頁)今與令段與其它諸器物之綜合研究)周法高曰怯從去聲猶羽與翌在卜辭同用為祭名高本漢假定魚部之去字在較早之時有合口韻尾卜拙著論古代漢語的音位(中國語言學論文集)更推論魚部之羽字在較早之時有合口韻尾然則桀與奄相通亦不足奇蓋原來隸屬祭部在

1833(3252)

較早之時亦有合口韻尾也故得與葉部之益³⁰⁸通用(參³⁴³意)

李孝定曰从林去聲柯昌濟氏謂即卜辭地名之去國可通惟去侯不見於載籍且字何以从林亦不可解說不可从唐陳二氏均謂為益謂即古奄國謂益即奄是也然此實非益字蓋益蓋今錄聲益實非从去蓋作益許君解為从血从大按字實蓋作益益蓋從大从血作益從大从血蓋蓋從血象蓋身即合益之異構訓覆其引申義以為語辭則假借也唐氏謂去和益通用是誤引今錄說古文不知益不從去也郭謂即楚字是也去楚古聲韻並同今楚字从足聲去³⁴⁴正古音亦同部也

白川靜曰陳氏以此器為伐楚之器之一與禽設並列故第三字釋為楚以之為與禽設之楚侯相同者也然尚有可疑唐蘭

氏亦同陳氏以為楚字即蓋商奄之奄是也亦以器銘為記述踐奄之役者然並非有征伐之字第三字通考中一如字形文選斷代中釋為楚不過禽設之字形明顯地從去本形中則無口形且亦非从雨木或雨禾之形就字形而言與楚無涉之義最為接近可解作為乃言該禮禮之事蓋王親臨祭祀之所於行該禮儀禮之際對參與該儀禮之樂助賜予各禮賜賞也(金文通釋第五輯二一五頁十八舉舉初舉林潔明譯)

白川靜曰蓋長豐堂中錄說文釋為許大據古字通之从去中釋作楚以乃即相當於許小雅采邑所云之征從周公者即許之才叔也云誠屬武斷之說大至以為楚之異文謂去是同聲之陳夢家以為非曰說以為乃字乃蓋字之異文也然所云者相當

於踐奄之役其說曰

所伐之國疑即蓋侯蓋即墨子耕柱南郭子說林上所述周公征伐之商蓋左傳昭廿七年作掩餘蓋即蓋子所謂之奄左說文部周公所誅郕國在魯後漢書郕國志魯國之北也集解引鄭玄曰奄國在淮夷之北據竹書紀年南庚遷于奄蓋庚自奄遷于散則奄由商部所以左傳定四說同商奄之氏今以伯禽而封於少皞之虛左傳昭元周有商奄杜預云二國皆嬴姓正義云世本文也諸書部說周公伐奄與此器合

關於蓋奄同聲說文段注有詳論此且可以說明音韻上之問題然問題乃在於楚是否可以釋為蓋也楚字今較多有楚伯字明

明从足郭氏以為古侯伯無足稱而以令叔之楚伯與本器之楚侯為一人然尚有疑問也蓋從去本器之楚無从去並非全不可通然蓋字僅見於楚器蓋並可以証明兩字字形相近者也釋事謂蓋乃卜辭所見之去字也

徒文作王伐楚侯周公伯禽等从之則蓋疑乃成王親征時之物也可以說是與踐奄之役關係最深之器也然以楚即蓋以乃即奄者是否適當尚難確足是以乃伯禽入魯之前之物則恐可列入成王前期也(金文通釋第五輯一〇四一—一〇五頁一〇金文通釋第五輯一〇四一—一〇五頁一〇)

金文通釋第五輯

或鼎
<0627>
達
于
△
貝
五
朋

楊樹達曰。水者。東之古文。曷文假為錫。錫東同。錫部字聲亦相近也。(稽徵一五三頁。我作父己。顧跋)

予省吾釋奉見雙蓮卷下一第四頁我鼎

客庚釋幸見善圖四五考釋一四頁我方鼎

李孝定曰楊氏說可从銘云亦具五朋可証

苗王墓誌
(1387)
大令命

新新

毛云
(0180)
歸△組修大命△
組多教念玉畏威

吊向真
(1260)
用龍△△△
保我邦我家

徐同相釋造曰。字作𡗗。古文造作𡗗。又作𡗗。此从山朝聲。从立。

卷十六、二十七頁周毛公鼎）

以吳大澂曰：古造字說文古文造作𩚑，頌鼎作𩚑，頌壺作𩚑，
从𠂔从月，與叔同，父敦字同。詩閔予小子遭家不造，箋云：造

成也(憲齋四冊六頁毛公鼎)

孫詒讓曰當當爲國其字亦不見於說文以形聲求之疑當爲
 𡗗之異文經當讀爲董𡗗當讀爲循言董督循順以奠安保守

我邦也餘論卷三第十二頁叔向啟

高田忠周曰按此篆元用為憲鼎文之例家竄兩字所从以形皆均作〇然則此篆亦从宀明矣而宀內从𧈧亦甚明哲然字書無竊字竊必是客異文說文𧈧似孤善𧈧獸从多舟聲論語孤𧈧之厚以居古字多借𧈧為之列子湯問篇𧈧踰汶釋文似孤善𧈧獸也又今本論語無衣孤𧈧者立皆是也蓋舟各古音相通故也然則此字元雖為客字已以𧈧為聲此字固當借用為𧈧又古有象形之改借𧈧亦似𧈧或是𧈧之變形為从𧈧聲者亦可矣又爾雅釋獸𧈧子𧈧注其𧈧者名𧈧今江東呼𧈧為𧈧𧈧字亦作𧈧（古篇篇九十一第二。頁）

比吳璣燁曰說文趙遂古文此从叢从舟亦遂古文憲魚禪造誤

郭沫若曰：「**𠂔**乃古貌字，口象形，𠂔聲。𠂔貌同𠂔。幽宵音亦相近。」（兩攷一三二頁）叔向父殷。

比郭沫若曰此字於本銘兩見本行作^朝下第廿一行作^朝蓄
生殿文作^朝叔向父殿文作^朝字中一文右旁分明以符作。

舊釋造乃因與竊庸若竊造形近雖失尚不甚遠釋遜則全無是處然字之外圓亦非从宀若口以本銘第二文右下峒之作

闕筆者推之。蓋从囟。面省。說文訓囟為象人面形。金文諸字尤象。字中从𠂔。當即𠂔字。字當是聲。準此形聲以求之。余謂

𧢲乃古文兒。兒字說文有兒。貌諸形。又引書惟貌有稽作𧢲。是貌古無定字。貌从豹省聲。豹聲在宵部。𧢲聲在幽部。幽宵

苗王墓誌
(1387)
大令命

新新

毛云
△組修大命
組修大命

吊向真
(1260)
用龍△△△
保我邦我家

徐同相釋造曰。字作𡗗。古文造作𡗗。又作𡗗。此从山朝聲。从立。

卷十六、二十七頁周毛公鼎）

以吳大澂曰：古造字說文古文造作𩚑，頌鼎作𩚑，頌壺作𩚑，
从𠂔从月，與叔同，父敦字同。詩閔予小子遭家不造，箋云：造

成也(憲齋四冊六頁毛公鼎)

孫詒讓曰當當爲國其字亦不見於說文以形聲求之疑當爲
 𡗗之異文經當讀爲董𡗗當讀爲循言董督循順以奠安保守

我邦也餘論卷三第十二頁叔向啟

高田忠周曰按此篆元用為憲鼎文之例家竄兩字所从以形皆均作〇然則此篆亦从宀明矣而宀內从𧈧亦甚明哲然字書無竊字竊必是客異文說文𧈧似孤善𧈧獸从多舟聲論語孤𧈧之厚以居古字多借𧈧為之列子湯問篇𧈧踰汶釋文似孤善𧈧獸也又今本論語無衣孤𧈧者立皆是也蓋舟各古音相通故也然則此字元雖為客字已以𧈧為聲此字固當借用為𧈧又古有象形之改借𧈧亦似𧈧或是𧈧之變形為从𧈧聲者亦可矣又爾雅釋獸𧈧子𧈧注其𧈧者名𧈧今江東呼𧈧為𧈧𧈧字亦作𧈧（古篇篇九十一第二。頁）

比吳璣燁曰說文趙遂古文此从叢从舟亦遂古文憲魚禪造誤

郭沫若曰：「**𠂔**乃古貌字，口象形，𠂔聲。𠂔貌同𠂔，幽宵音亦相近。」（兩攷一三二頁，叔向父說）

比郭沫若曰此字於本銘兩見本行作^朝下第廿一行作^朝蓄
生殿文作^朝叔向父殿文作^朝字中一文右旁分明以符作。

舊釋造乃因與竊庸若竊造形近雖失尚不甚遠釋邈則全無是處然字之外圓亦非从宀若口以本銘第二文右下嶋之作

闕筆者推之。蓋从囟。面省。說文訓。囟為象人面形。金文諸字尤象。字中从𠂔。當即𠂔字。字當是聲。準此形聲以求之。余謂

𧢲 乃古文兒。兒字說文有兒。貌諸形。又引書惟貌有稽作𧢲。是貌古無定字。貌从豹省聲。豹聲在宵部。𧢲聲在幽部。幽宵

二部音極相近故貌可以辨聲也(金攷二六四頁毛公鼎)

張之綱曰徐月相釋為籀云古文造作船又作船此从月朝聲據古同卷齋云古文造作船頌鼎作船頌壺作船此从月與叔何故國字同詩遺家不造箋造成也續造謂續成天命也孫謹云釋造未塙叔何故字作國形甚明哲惟从口則伯口未詳要非籀字無疑此或避之異文當為循之段字肩聲避聲古多通用禮記豚曰脂肥釋文脂本或作豚是其例雖循言申雖循順也網案孫釋避而讀為循於形聲頗合惟疑从口伯口蓋猶泥于秦篆不知古文从口字往往作口如此鼎中家作國宏作國可證叔何故口形摩訶遂似口耳(辭釋六頁)

1842 (3254)

周名輝曰國疑古造字毛公鼎

亦毛公

父殷

今考

名輝案此文自來無確釋惟長沙楊先生近日說之最恰可為定論揚說云按國字毛公鼎兩見不可確識以意求之蓋憲之假音字也說文十篇下心部云憲敬也从心客聲經傳通作恪國从口國聲國始是國之或字說文九篇下牙部云國似國甚睡默也从牙舟聲引論語曰狐國之厚以居按說文國字从牙金文國之所從國字从希希多同是獸名从希猶多也許引論語作貉者今論語假貉為國貉可假國知國亦可假為憲矣然則國國大命猶書盤庚之言恪謹天命國夙夕猶進饒及本銘上文之言度風夕克鼎之言敬夙夜也尋恪字詩書中屢見不一金文中不應無其字顧今絕不經見者正以金文字作國不

1843 (3254)

作憲恪爾揚釋精確非難備不能道故備錄之以證世之治金文者(古籀考卷上二〇至二二頁)

董作賓釋造曰造成詩閔予小子遺家不造箋造成也(毛公鼎考年註譯二一頁至二二頁)

揚樹道曰按國字兩見不可確識以意求之蓋憲之假音字也說文十篇下心部云憲敬也从心客聲經傳通作恪國从口國聲國始是國之或字說文九篇下牙部云國似國善睡默也从牙舟聲引論語曰狐國之厚以居按說文國字从牙金文國之所從國字从希希多同是獸名从希猶多也許引論語作貉今論語作貉者今論語假貉為國貉可假為國知國亦可假為憲矣然則國國大命猶書盤庚之言恪謹天命國夙夕猶進饒及本銘上文之言度風夕克鼎之言敬夙

1844 (3254)

夜也(番生說云用國續微廿九頁至卅頁毛公鼎跋)

周法高曰此字徐同柏吳大澂董作賓釋造孫詒讓張之綱釋造讀為循郭沫若釋貉國讀為網網高田忠周揚樹連周名輝釋貉段為憲案釋造者是也金文用饗王逆造進諸家讀造國可證舟聲與古聲可通

1845 (3254)

李孝定曰按字當錄定作國不可確識徐同柏氏釋造郭沫若氏已辨其非孫詒讓氏釋造讀為循張之綱氏从之按字从舟甚明釋造於字形不合郭氏釋貌讀為網於文義雖順通然亦苦於字形無據允契文有之作口郭謂此从口為面之省且引毛公鼎一文从口者証之按口乃口之殘泐不能據以証字且謂字从國聲當即就之異文其說亦有可商說文國下各切金

攷攷君謂下各乃銘之友切。緡从舟古音當在三部而各在五部。并各二字聲韻均遠似不得為親之聲符也。揚樹達氏謂為憲之段借於銘義亦通。然所據僅說文緡下許引論語狐緡之厚以居。而今本作貉。因謂从舟得聲者得諸各聲據上引緡下段氏注文則此項論據亦嫌薄弱。蓋許所見本與今本異。未必字得通讀也。且毛公鼎銘有爵蓋大命高鴻緡衣讀為恪勤。甚是。則此國字之是否亦假為恪容可商也。吳寶燾氏釋遂於字形絕遠說非高田氏說與揚氏同。

古字未見以形義求之疑當為从歸省後不娶故余來歸歸作從从省。羅三陳昉啟用追享追作。羅古三當為遺之異文。皆其比例此當為持遺之義。餘論卷二第二九頁趙鼎。

高田忠周曰今審从貝从人从省。三文合形尤顯然者而字書所不收。此當謂古字逸文耳。但竊謂此蟻字異文說文蟻蟲食苗葉者。吏乞貸則生蟻从虫貸聲。此但即貸之省。省亦為蟻省。文說文蟻下曰禽獸蟲蟻之怪謂之蟻。正與蟻蟻義合。代虫以蟻會意之指愈顯矣。然此非銘意。銘即用蟻為貸說文貸施也大戴千乘以財授長曰貸。即此意也。不敢妄斷存疑俟考。古篇九十九第四一頁。

徐鼎
厚趙又
子漢云

吳式芬曰徐摺莊說。賴从貝刺聲。此从貝从東。刺省讀為贅漢書高帝紀注應劭曰賴恃也。晉灼曰賴利也。與爾雅釋詁賚賜也。予也。音近義同。據古卷二之三七十三頁趙鼎。

徐同柏曰賴从貝刺聲。此从貝从東。刺省讀為贅漢書高帝紀注應劭曰賴恃也。晉灼曰賴利也。與爾雅釋詁賚賜也。予也。音近義同。據古卷十三十頁同厚趙鼎。

孫詒讓曰案字舊無釋。吳引徐同柏說釋為賴云。賴从貝刺聲。此从貝从東。刺省其說殊迂曲。竊謂此字从省从人从貝。

郭沫若曰傳疑饋字。从人从貝省聲。省乃省之聲文。从山(兩)攷二十九頁厚趙鼎。

柯昌濟曰傳从貝不見字書。未詳。釋華一(一七頁厚趙鼎)。

李孝定曰字當隸定作賴。徐同柏氏釋賴按字从省甚明。不从東。安得為刺省。契文賴字作(亦與此絕遠。孫郭二氏之說於義為勝。然不知究為何字耳。高田氏釋蟻讀為貸。於形音均無據。說不可从。

白川靜曰傳郭氏釋作饋曰疑饋字。从人从貝省聲。省乃省之聲文。以又傳為饋送之意。此說蓋出自餘論者餘論曰。

傳字舊無釋。吳引徐同柏說釋為賴云。賴从貝刺聲。此从貝从東。刺省其說殊迂曲。竊謂此字从省从人从貝。

貝古字未見以形義求之疑當為从歸省。當為遺之
異文皆其比例此當為持遺之義又遺讀為有遺謂兼
公以物遺趙因以作鼎也

孫氏舉不契假之余來歸陳助假之用進考之歸進字形證明
其說從古釋字為難解作資之義故三者字說雖異其義殆相
同不通關於遺送之物為何則無說

字象从人从省从貝省象懸系出師時之社肉之形以此與貝
配合字象貞戴之象也參照拙稿釋師故謂饋送亦非僅為饋

送盤饌之義蓋以祭肉及貝遺之者也本器中所言者亦與
軍禮有關又饋者蓋為含有此種意義之行為也又饋當讀作
被動式金文通釋第七輯三五九—三六〇頁三一厚趙方鼎
林潔明解

1850 (3255)

貝 余義錄 余△遺兒
故古金

徐同柏曰貝字積古三釋作萬吳氏釋作挽云通倪古倪倪
既倪既業聲象義於同(从古卷十三五頁同部倪編鐘)

劉心源曰萬兄合象或釋兒右二字非邦太宰簋萬年字作
兒又一簋作兒即此只為兄字(奇觚卷九十七頁傳兒鐘)

參閱320條高田忠周說

郭沫若曰貝當是動詞殆俾使字字之義(兩政一六三頁微
兒鐘)

阮元釋萬見積古卷三第五頁楚良臣余義錄

1851 (3256)

按諸家作貝誤容庚據商周金文錄遺作貝是也

李孝定曰字不可識徐氏釋挽於字形為近阮劉二氏釋萬非
是或當錄定作費

1852 (3256)

貝 余義錄 余△遺兒
王季門曰口木榜

方濬益曰貝字見貝鼎小子貝其右从允此諸說文數繳數
也从佳繳聲一曰飛繳也此文亦當以从數得聲(綴遺卷二
三頁師贊夷則鐘)

劉心源曰數說文作數云繳數也一曰飛繳也从佳繳聲案
鳥罍也罍四之屬可收可放者按此云繳字當作比奇觚卷二
二五頁貝鼎)

參閱316條孫詒讓說

1853 (3257)

參閱316條丁佛言說

參閱316條高田忠周說

譚戒甫曰說文林部有枚字佳部有數字皆讀音如歡此贅从貝聲音讀與同中華三輯七八頁至七九頁西周自器銘文綜合研究

郭沫若曰贅與數雖是一人兩政九七頁音鼎

李孝定曰當隸定作贅譚氏之說可從

郛

齊侯重其人民郛邑 齊侯既遷 齊侯重其人民 齊侯重其人民

吳雲曰陳頌南說郛即郛之譌然篆文郛邑二字亦明白無可疑者致春秋郛有二鄭氏據曰桓二季取郛大鼎于宋北郛也僖二十季郛子來朝南郛也杜氏以北郛為郛國南郛為宋邑南郛即在北郛城南二里顧氏據高主之其說是矣然此外尚有二郛左傳成十三季焚我箕郛郛晉邑則是晉亦有郛也成十八季侵城郛城郛宋邑則是宋別有郛也晉郛在今太原府祁縣界城郛在今徐州府蕭縣界二皆與春秋時齊地遠唯南郛北郛並在今山東曹州城武縣東南二十里有郛城宋地理郡郛成侯國水經注泗水篇黃溝又東逕郛城縣故城南此郛城當為郛成漢書外戚表成郛屬濟陰即其地新莽改郛成郛為成後漢書外戚表成郛屬濟陰即其地新莽改郛成郛為成南郛其地志屬注之郛成本郛成武縣之郛城無涉

近齊竟宋邑之郛計自隱十年辛未取郛歸于魯後不聞其地入于齊唯郛國之郛春秋書來朝僅一見公羊傳以為失地之君孔沖遠謂即僖二十季傳當辰所云郛之初封文王之子聃季之弟即其國無時君李號不知誰滅之而羅泌路史遂牽合宋路郛鼎以為宋實并之其說終無確據疑此郛無齊滅之或侵其地取以封陳氏百唯經傳皆無明文未能臆斷竊謂郛即高唐之高郛高唐相近如晉郛之郛春秋大事表引高氏曰今太原府祁縣西有郛城俗呼其地曰高城村里語相傳猶存古音高城本郛城則郛邑即高邑齊有高唐邑其初疑亦名郛後轉為高唐似郛稱郛又稱郛妻一類左傳襄十九年風沙衛入于高唐杜注在祝柯縣西北聚二十五季祝佗祭于高唐杜注高唐有齊別廟蓋齊之宗邑也穆孟姬為陳無字諱之陳氏始

大故城在今濟南府新城縣北四十里是高唐為陳氏邑故以是記所封之地亦未可知若然則齊郛兩郛邑之郛上一字地理志齊郛臨淄師南父所封以其郛臨淄水故曰臨淄作郛者蓋以水為義記以邑為義地下一字郛作郛左傳古右後梁即僖之異文左傳昭三十季陳郛代樂高戰于郛杜注後梁二之地今臨淄西南三十里有嶺山絕標皆在齊郛當是舊郛二子所食地故以是記兩郛卷五第十五至十六頁齊侯中壘紀之故存之以俟改

方濬益曰郛為國邑名春秋時宋晉皆有郛邑此則齊地通作糕公羊莊公二年夫人姜氏會齊侯于郛左穀作糕記注曰齊地穀梁莊公四年冬公及齊人狩于郛公羊同左氏作糕雷溪之曰說文黑糕字本部糕木皮也玉篇木部糕木皮也又齊地名知糕者糕之譌字又定公九年齊侯致糕媚杏於衛杜注三邑皆齊西界水經注引關駟十三州志日今成武縣

1864 (3261)

從甲骨文兩周金文到小篆隸字的形體，一直沒有甚麼大變化。早期文字的例字不必舉了。就拿戰國時齊威王的銅器陳侯午敦三代八來，看隸字寫作各。荀孟的隸字寫作古。荀文春錄四一。

事。這跟兩周金文和小篆的寫法沒有甚麼不同但是在戰國時代的印璽貨幣及楚國的銅器上曾經出現過兩種變體。這兩種變體跟戰國時代許多別的變體字一樣很快就消滅了。除了在古器物銘中偶爾出現之外沒有留下任何痕跡。第一種變體大部分見於印璽文字。貨幣文字中也間或出現。寫作自、自、呂等形有時在下方加一個口字。例如：

韋 韋
微附 一一 以下簡稱微
韋 韋

一、徵附

九徵附

難 養

這一系列的字以前是不認識的。羅福頤的古璽文字散把它們收在附錄裏，但現在排比在一處，就很容易認出來了。第二種變體僅見於楚國文字，特點是隸字左右兩部分寫得分開了。例如禽志鼎銘中的雙獲字。

陸
 蓋銘
 陸
 蓋銘

這兩個隻獲字只是把雀字的左右兩部分略略拉開了一點。整個字還沒有走據，所以很容易認識。但是這種趨勢繼續發展下去就產生了一種奇詭的形體，例如長沙出土帛書

見蔣玄伯

長沙一楚民族及其藝術第二卷

圖版二七又蔡季康長沙楚書考

根據兩者基本原物為歸納起來有下面三種形體

吳帝國主義分子級去

1867 (3261)

𠂔 𠂔 𠂔 秦季裏把這個字釋作𠂔。見所著及沙書考字形雖有點像，但是用來讀萬書文辭，却無法可通。這個字實際上是會意，𠂔是變獲字所從的隹字的繼續發展，只是左邊一部分為變為𠂔或𠂔罷了。我們引萬書原文來看。

佳 繼 某年某月

2. 元祚四月五月

其佳 四月五月

3. 拜天仁福神口各止拜天仁灾口則惠止

佳繼天作福神國格之佳繼天作災國則惠之

釋作佳字不僅字形上有根據而且以之讀帛書也文從字順
 辟之為佳決無可疑詳見拙著長沙帛書釋文

現在我們再回到龔字來。這個字的變體大致有下面六種

餘
 三代三三
 餘
 三代三三
 餘
 三代三三

三代二五五
 頤太子鼎
 三代三四四
 三會青鼎
 三代三二二
 六鑄客鼎

這六體又可以分為兩大類 A 類 包括 1、2、3 三體 木字都寫在右下

方B類6三體45
木字都換到左下方去了我們若把上面所

從的人或A和下面的木去掉把當中的一部分拿來跟禽

鼎的隻字長沙帛書的隸字比較清清楚楚地是個隹字，這個

字不容易認讀有兩個原因第一「隹」字左右兩部分顛得太多

了個人社會為兩個獨立的部分。第二B類的值字的左邊

卦分和水字疊在一起書中於一豎身是公用一筆兩處原是

戰國用游歷學字結構方式之一例如

同 → 同 同
分 → 分 公
同 據 剩 → 分

1869 (3261)

1868 (3261)

所以嚴格地說B類三體是簡單字

由此我們可以確定籀字從A從佳從木，隸定作彙，就是現在的彙字。

上端為甚麼從A呢？說文解字卷五A部。

A三合也，從入，象三合之形。讀若彙。

彙與合古音同部，所以許慎用聲訓的辦法來解釋，他說A從入，又說象三合之形，自然是附會之辭。從古文來看，A恐不過他說讀若彙，却是有根據的。這在古文字的諧聲系統裏可以找到許多證明，這裏不細說了。

根據說文解字，我們知道A是彙的聲符部分，我們把彙解作彙，除了字形的根據之外，這個證據也是很有力的。

上面說過A B兩類的不同，只是木字左右部位不同，這和楷

1870 (3261)

書雜字比較一下，也是很有趣的。雜字從衣集聲，應該寫作隸，但楷書把木字移到左方衣字之下，寫成隸和彙字A B兩類情形如出一轍。

把彙解作彙，除了上述的證據以外，更有力的證據就是它可以用解釋秦隸楚簡文的一個極重要的現象，楚簡文中，彙字除了和隸字連文以外，還跟幾個別的字連文，例如：

彙客為命，三代三二 彙客為命，又同書七三 彙客為命，三代三二 彙客為命，又同書七三

彙客為命，三代三二 彙客為命，又同書七三

和彙版一樣，這兩處也都是人名，那麼這三個人名的第一個字為甚麼都是彙字呢？只有一個解釋，彙是他們的姓。歷史研究（一九五四年一期九九至一〇四頁）壽縣出土楚簡文研究

1871 (3261)

朱德熙《秦簡文》曰：壽縣楚簡文中屢見彙版二字，在壽縣出土楚簡文研究（一九五四年一期）以下簡編研究。

中，我們根據彙版彙版為彙版為之，三代三二 肯定彙版是人名。

又根據彙版彙版大子之彙，三代一 認為彙版是太子，由于版字和楚哀王的名字相近，推斷彙版是哀王。

仔細考察一下，就可以看出這個說法的證據是不充分的。從邏輯上說，彙版為某某之裏的某某，不一定是人名。從事實上說，下面兩條簡文裏和彙版處於相同的語法位置的六室、七府就都不是人名。

彙版為王，右六室為之，三代二五五

彙版為王，右七府為之，三代三十九

研究者定彙版為楚太子名的主要根據是以下三條簡文。

1872 (3261)

彙版大子之彙，三代一八二六

彙版大子之彙，三代二五五

大子彙，彙版同上

第三條簡文裏大子彙三字和彙版二字是分開刻的，文義不相連屬。一二兩條簡文明明在大子之前冠以彙版二字，似乎很可以証明彙版是太子的名字，不過這裏有一個語法問題。

先秦人身分與名字并舉時，總是身分在前，名字居後，例如公子翬，春秋桓公三年，左傳：桓公五年，王季子也。世子商臣，春秋文公二年，大夫元咺，春秋：桓公五年，令尹子文治長，大司馬昭陽，春秋：宣公二年，如果彙版真是太子名，那末按理應稱太子彙版，不應稱彙版太子，正如太子申生不能倒過來稱申生太子。

一、據價值從這一點看，把彙版解釋成楚太子的說法就很值

1873 (3261)

得懷幾

壽縣出土的楚器裏有一個特大的鼎三代三二六見附圖

金名曰集是集是集

這個鼎的銘文對於研究集服二字的全義來說是十分重要的。但由於銘文中有好幾個字不認識，我們在為研究的時候就把這個重要材料撇開不管。現在看來，這是很大的疏忽。現在知道集服是廚官之名，一切問題就迎刃而解了。集服的集字意義不詳，信陽楚墓出土的銅匜木柄和木節上也有集字。河南省文化局文物工作隊，河南信陽楚墓出土文物，物圖錄六四七三頁，河南人民出版社一九五九年。鄂君啟節有集尹官名。一九六三年八月期國故論衡。這些集字和集服的集可能有關聯。附記李學勤戰國題銘概述下文物一九五九年第一期已指出如果集服是太子私名，則應作太子集服，不能作

1874 (3261)

集服太子并謂集服應為管理王室飲食的有司。考古學報一九七二年一期八〇至八三頁戰國文字研究六種

參閱 191 條朱德熙《秦簡說》

周法高曰：朱德熙《秦簡說》在歷史研究一九五四年一期壽縣出土楚器銘文研究一文中，以集服為楚哀王名，作當時為太子文繁不備引。後於考古學報一九七二年一期戰國文字研究一文中已知其誤。乃以集服是廚官之名，讀服為廚，並謂集服之集可能是地名。參見余於金文彙編一四七頁釋侃一文中已讀服為廚。參見余於金文彙編一四七頁釋侃一文中已讀服為廚。

1875 (3261)

李學勤曰：集下一字，服據廣雅是饌也。集字之義在此可能同于司各器都是烹飪器或溫器，他們應為管理王室飲食的有司。王鼎附記集服表示此鼎為集服所掌管。集服下附記太子鼎專表明該器為太子所專用。文物一九五九年第一期六〇頁戰國題銘概述下

1875a (3261)

集

不集是，不集下文印

字文齊

李孝定曰：似可隸定作集字不可識

1876 (3262)

師先通

△白石師先入

師先通

丁佛言釋隆曰師先說丁麟年柯昌泗俱以為隆字案从日

从土有豐大高大義古書補補卷六第五頁

郭沫若曰雙字字書所無疑是退字之異說文後卻也从日

日久一日行遲得古文从走此省若走而自台从土台殆

亦聲(而攷一五六頁師先說其三) 李孝定曰丁柯二氏釋隆於字形無據說不可从郭說為長不

亦

師先通

△白石師先入

李孝定曰字不可藏容氏隸定可從

1878 (3264)

1877 (3263)

師先通

伯公年作款

孫詒讓曰案隸字兩見从从即隸字與單伯鍾求伯戎

字不見於字書以聲類求之說文口部吻或作脂是會聲勿聲

古通此補或當為物之異文說文勿部勿或从从作物旂即周

禮司常之雜帛為物此上下文並闕不知作何解前伯旂尊旂

字作旂旂二形似與此同彼吳从許瀚說疑為旂之異文未

靖之三一又司土敦旂銅土晚作寶尊敦旂吳疑為旂字又伯

旂與伯旂作乃宗寶尊與旂吳釋為旂舟二字亦並與此相近

並(釋古)似皆一字以形求之旂旂並从火疑从燠省旂則从

而而省介皆旂字之展轉流變也(餘論卷三第五四至五五頁

五五) 高田忠周曰此篆元釋旂稍近然旂从子石鼓文中旂鼎皆明

作子形與此作子自異而如旂字从子與此子形相近此字

為旂異文無疑也且如上文形明从子然當讀為旂況此不从

1880 (3265)

1879 (3265)

龍字純釋作增參

1534

徐龍字純說

廠

旗長

△△△寶傳
車用條

李孝定曰：从火及攷攷書是聲。



伯氏許尊伯伯作寶

尊尊(伯)

吳式芬曰：許印林說：說文攷部：廠从三犬而非三火，其有火旁者，獨標字耳。火部有兩火者，惟煥與熯，皆無似處，而煥訓旌旗，標旆訓族旗，飛揚。玩此文筆勢，極盡飄搖飛揚之狀，或煥旆古文如此，而小篆變之，未可知也。二字當居一于此矣。就二字擇之，旆字較長。(據古卷一之三、四十九頁伯旆尊)

吳大澂曰：廠从折下燒柴形，火光炎炎，許氏說燒柴焚祭以祭天神，小篆省中，為中猶省之變為史也。(憲齋十九冊十五頁伯案貞)

1882 (3267)

1881 (3266)

吳大澂曰：廠从折下燒柴形，火光炎炎，許氏說燒柴焚祭以祭天神，伯旆尊字，亦伯旆尊字，小篆省中，為中猶省之變為史字也。(古籍補五十六頁)

高田忠周曰：吳榮光與大澂皆引尊銘也，榮光釋旆為甚大，激釋旆，辨說尤於而速亦誤矣。今審篆形，即炎之古文，亦古文作，可證。又从二火，即炎字，即是攷字也。殊从攷者，取于飛揚之意，說文：攷有所吹起也。从欠，攷聲，讀若忽，思元賦：攷神化而蟬蛻兮，注：輕舉允是也。或云：攷从炎，會意，似是矣。(古籍補三十五第六頁)

馬叙倫曰：俗謂此說文之篆字也，亦即煥之初文。煥，煥古讀同，在泥紐，藝為陶，此器蓋文作，從火從木從炎，凡木

於火上，所以為煥也。音轉則為如，考切，說文木部：檣從此，而諸家不信，紛紛為說，以說文無煥字也。論語有公伯寮。

(刻詞八九頁白讀尊)

李孝定曰：字从火，甚明。另一偏旁作，者與金文關字，偏旁作，者極近，分明是入形，入頭上着三小點，非火字也。惟又从，與人形之下，頗相連，亦非止字，此字遂不可解矣。馬氏釋此偏旁為凡，高田氏釋久，似矣而未是也。許印林、吳大澂二氏所釋，一無是處。馬氏、高田氏所釋，差近，亦未可據。字實不可識，如欲強為隸定，則作，旆為較長也。字象一人執旆，下有篆火，蓋旆旆生活之家意字。

1884 (3267)

1883 (3267)

𠂔

父乙葬
△作父乙

李孝定曰从𠂔从𠂔另二偏旁一作𠂔未知是人字抑為𠂔字
一作𠂔不可識

1885(3268)

𠂔

𠂔
𠂔
𠂔

李孝定曰从𠂔古𠂔从祖而入不可知

1886(3269)

𠂔

通𠂔
𠂔
𠂔

𠂔

𠂔
𠂔
𠂔

高田忠周曰按从尸从月字書所無此當从月尸聲為𠂔異文
說文𠂔日近也从日匿聲或作𠂔从尼聲尼與匿雙聲通然日
與月固同意日近月親也尼尸古音同部通用故此尸聲也銘
意即為𠂔近義以近臣史通使于缺疾之處也通金使命而還
有功子事故賜金褒之通因以制此器以告于祖考也又或說
此𠂔讀為𠂔見爾雅從𠂔或云肉字亦作𠂔與日月字同此疑
𠂔省非是金文有𠂔自作𠂔與此不同矣(古籀篇二十三第
二頁)

郭沫若曰肩字殆即𠂔字之異文古月夕字無別尸与已亦同意特
左右互易耳字在此當讀為𠂔(兩攷六頁通𠂔)

1887(3270)

李孝定曰郭說為長高田氏以為𠂔字尸尼固音近然古文中
無日月相通之例也

1888(3270)

印

今余非敢△先△

又有進連

徐同柏曰夢不明也字亦作夢（自古卷六、三十七頁同邪設）

劉心源曰夢讀歲較梁傳昭二十年自夢釋文夢本作歲可證

（奇肱卷四第三十頁邪設）

于省吾曰嚴云夢借為歲劉云見上

棄也變選卷上三第七頁邪設

郭沫若釋夢見兩改八五頁邪設

李孝定曰諸家釋夢於本始讀為歲可從

劉心源曰夢王云未詳阮讀為味來讀讀歲從首為同形段借穀梁昭二十季自夢釋文夢本作歲可證（古書卷七第十五頁邪設）

○

自非上觀△非生也

○

王傳作△余△玄舉

△孫詒讓曰案自為釋為西依篆文當為面字後周填區面皇父

面字作○釋立二又周填散作○釋立三之一篇並與此同篇

釋區作面不誤惟此作西當據彼訂正（餘論卷一第六頁西弗

生觀）

△馬叙倫曰孫詒讓初釋自為面又以為是面非面倫謂自所

從之○與金甲文面字所從之○同○乃○之初文○矢之器

也此中上是土字然則此必為形聲字或從土○聲或從

○土聲古書爾雅二字相通爾雅為連語則此蓋土○聲

為填之聲同侵類轉注字說文無填而闕之重文作填蓋從

門協聲是古有協字也然毛公鼎易女聲中一○號叔鐘口

于天子自○即說文之○說文誤為從面其自與此所異者極

微而自從之得聲金文實借為面而聲幽類而聲侵類幽

侵對轉則自自實一字聲有轉變耳篆形當以此為正（刻詞

九七頁弗生觀）

吳武芬釋西見據古一之三第六十頁西弗生觀

△方濬益釋面見綴遺卷九第三十二頁函弗生觀

郭沫若釋面王孫鐘讀作宏見兩改一六〇頁王孫遺者鐘

李孝定曰按字當釋面孫氏引周填器二面字謂與此同是也

覆被蓋屬不必為韜矢器之專名也小篆函字則由周娘器
二函字所演變許君失其故訓以其讀與舍同遂訓為舌也其
所引俗字作脰當為舍之俗體从口與从肉同函之俗體固無
以肉之理清儒注說文者均沿許君誤說故於函字之義訓糾
結不清非無故也馬氏謂此與自所異極微殊誤自乃酒器此
象盛兵器之囊字形雖略近其義則風馬牛不相及也吳式芬
氏釋函亦以形似而誤郭氏讀為宏而王孫鍾一文實非从弓
其說待商

1893(3272)

𠄎

作且手解

𠄎

𠄎

周縣生蓋

𠄎

賸設

吳大澂曰𠄎疑古棘字周棘生敦(古舊補附錄十六頁)

劉心源曰棘亦可釋葉說文葉古文作𠄎汗簡引古尚書作𠄎
並与此肖(奇觚卷三十五頁周棘生敦)

高田忠周曰按銘意人名音義無徵然吳大澂云疑古棘字吳
式芬亦作棘為是此上从倒矢相並如下篆矢形殊明棘元為
木名唯有世束刺人故字从束而轉義即為銳鐵之意字亦从
矢為會意左昭四年傳挑孤棘矢疏棘亦有箴取其名也又詩

1894(3273)

斯干如矢斯棘傳授廉也於是乎字亦从矢以會意小爾雅廣
器棘戟也同音通用而字亦或應作棘耳(古舊篇八十七第二
一頁)

柯昌濟曰棘當是國族之稱論語有棘子成為古之棘氏左傳
所載地名棘者甚多未可確指(籀文三十七頁棘虎解)
吳式芬釋棘見據古二之二第六十二頁周棘生敦

李孝定曰諸家釋棘高田氏並說从矢之義可從

1895(3273)

𠄎

𠄎

𠄎

吳榮光釋貞曰貞卜也卜而從也此貞从古文鼎舊
卦為對文春秋傳曰貞于陽卜王將祭故卜非卜其曰卜其牲
用如春秋之下郊牛為清卷三第二十三至二十四頁周畢中
孫子敦

吳其昌曰銘有云王鼎貞畢登然鼎者古文貞字也說文貞卜
問也从卜一曰鼎省聲(貞字)又曰古文以貞為鼎籀文以鼎

為貞(貞字)今按無鼎鼎作貞者籀文及是故貞作貞貞足證

說文貞鼎一字之說矣貞者殷祭之一種甲骨文字有曰貞武

丁者殷書契前編有曰貞于母己者前編卷一有曰貞之于

大甲者前編卷一頁十有曰貞于王亥者前編卷一貞于

大甲者前編卷一頁十有曰貞于王亥者前編卷一貞于

1896(3274)

祭于也。康王去殷未遠，故猶有貞祭之制。古經注貞，賓訓正，使無甲骨文字發見，終不知貞爲祭之一種也。（歷朔卷一第四三頁畢啟）

劉心源曰貞卽鼎字說文鼎下云播文巨鼎為貞是也卜辭貞卜問也(奇觚卷四第七頁畢攸敵)

李孝定曰鼎上所从下非卜亦非才釋貞釋鼎並有可商辨氏釋鼎而讀為在於銘意雖洽然苦於字形無徵也

劉心源曰舊釋貞从古文鼎案說文鼎下云古文臣貞為鼎猶文臣鼎為貞說改說解二貞字作貝佩牖云古文臣貞為鼎

篇文臣鼎為則今審古文臣貞為鼎是也篇文當是臣鼎為貝
 說文則鼎實鼎故為篇文則貞實故此鼎為貝之證役說是郭
 說非也古文臣貞為鼎者如散氏盤咎師氏貞鼓鼎從王伐梁
 及此鼓之祭皆貞字而叔夜鼎鼎庚媼鼎鼎叔單鼎貞墉夜君
 鼎鼎明我鼎泉中鼎為簠顧鼎皆用為鼎則郭說是役說非
 也洪範傳內卦為貞周禮太卜注貞問也(古審卷六第十五頁
 畢段跋)

1898 (3274)

𣎵^a 𣎵

高田忠周曰按此字从止疑是之省古文是部字往省作止是也玉篇廣韻皆有連字訓探伺候察之義亦貞字本義之轉也字亦作偵見說文新附中鈕氏云偵通作貞廣雅偵問也玉篇偵取慶切東觀使先登偵之按周禮天府季冬陳玉以貞來歲之徵惡鄭注問事之正曰貞鄭司農云貞問也周易曰師貞丈人吉問於丈人國語曰貞於陽卜據此知古通作貞禮記緇衣引易恒其德偵鄭注偵問也問正為偵據周禮注則禮記亦當是貞此論為至當矣凡異文俗體之出概皆依于轉義加偏苟以會意从人从走意同然偵逋固不正文但依此篆其周末俗字可知矣鄭玄用偵可有所原古篇篇二十九第二四至二

五頁

郭沫若曰：𩺰，卽鼎字，从止乃，隸文。猶史獸鼎，爵字作𩺰也。
(兩攷五十四頁才盡數)

劉心源曰：貞下从土，即土者，乃道字。（奇觚卷十六第二十七頁）

阮元釋其見續古卷六第三頁。貞敦據古二之一。第五十一頁。貞敦同。

李孝定曰此上从「屮」於「才」為「𠂔」非「卜」字郭說似較長也

1900(3275)

1899(3275)

上中書

李孝定曰字不可識

1901 (3276)

火

五部 口 口 口 口

火

火 母 子 子 子

徐同柏曰人持器形益古與字斟酒之象(从古卷八、二十二頁商子母子爵)

孫詒讓曰案火舊釋為媿今審篆文左形从火不从女當為媿字從五鼎殘字代媿方媿字作或之三與此相類唯左右形聲互易又省鬼而从而小異耳(徐論卷一第一至二頁女子爵)

1902 (3277)

馬叙倫曰倫按舊釋媿為媿孫詒讓謂疑媿左形媿是從犬非從女也倫謂火為走之初文從犬象走時揚手形走其後起字也思為鬼怪之鬼本字亦可畏之畏威嚴之威本字古所謂鬼怪乃山都木客狴狴之類人形而異者也人形故字從人而

復與人異故義為怪異甲文作果申鬼從人由聲孟鼎鬼方字作或從火由聲由即說文部首之由然說文訓為鬼頭則以鬼字從之而不悟其為由字也謬為之說非本義或非本訓也由與說文鳥字所從之由是一字乃由之異文由音照紐古讀歸端東楚謂由曰由蓋由為由之聲轉由音非紐古讀歸封封與端見同為清破裂音故鬼音入見紐由聲幽類故從鬼得聲之鬼在幽類由聲之類故鬼聲入脂類鬼畏則一字乃鬼神之鬼從匕鬼聲匕為畏人實與尸為一字詳疏媿蓋從火鬼聲其義亡矣此蓋女壬之姓氏也疑即左傳叔隗李隗之隗古書姓氏之字多譯音故陳常可作田常荀卿可作孫卿況隗亦從鬼得聲故傳作隗字耳然說文之媿乃隗姓之本字(劉詞四一頁女壬爵)

1903 (3277)

阮元釋史子二字見續古卷二第四頁母壬爵

吳式芬釋媿見續古一之二第十六頁女壬爵

吳大澂釋媿曰釋子史非也史下从儿非史代亦非子字

二十二冊二三頁媿姓爵

方濬益曰作媿為媿之消文(綴遺卷二十二第二二頁貴姓爵)

姓爵

郭沫若釋媿孟鼎二見兩改三七頁小孟鼎

李孝定曰按火形郭沫若氏隸定作越是以火為敘字氏以為走之初文亦是火形火仍當是鬼之異構特由畫下貫小

吳耳有餘諸家所釋並誤。孫詒讓氏以為右旁从鬼馬氏从之實未審諦。

1905 (3277)

𧢲

五鼎
乃辟一人

高田忠周曰𧢲。𧢲云勉爾雅釋詁勝也。按古籀補作𧢲云亦克字。此劉釋為愈象形原當作𧢲而今係刻舛審銘意主親命孟執行大事而余就朕小學女若無勉余更召辟一人為女輔佑又或謂恒軒本作毋勿勉猶母不能也或謂女勿勉者勿勉猶言勉勉或作密勿同意余乃辟一人者信孟璧之也亦通劉心源云此言女勿有勝我之心蓋欲其聽訓甚為曲解銘下文云命女召艾云云王曰孟召夾云云即知前說為妄當(古籀篇四十二第二二頁)

吳闓生曰𧢲者刻責期待之意克刻同字微子我舊云刻子後漢書李賢注刻猶責也此言勿過期待我言文卷一第六頁孟

1906 (3278)

鼎

柯昌濟曰𧢲舊釋克非是審之與克形不類當為𧢲字說文𧢲也从力免聲王注亦省作免漢書谷永傳閱免道樂顏注閱免猶免也案此文勉余乃辟一人於文誼正合韓華一三八頁五鼎

陳夢家曰𧢲字从免从刀舊不釋此字亦見漢世君有行鏡銘中西周金文則為人名三代又從肉从免之字見本文第844等器勿勉即詩十月之交龜勉從事漢書劉向傳引作密勿(金選一八一頁西周銅器斷代文五鼎)

予省吾曰吳北江先生曰勉期待之意微子我舊云刻子後漢書申屠剛傳注刻猶責也克刻同字言女勿過期待我當輔辟

1907 (3278)

我(雙選卷上二第二頁五鼎)

郭沫若釋𧢲見兩政三四頁大五鼎

李孝定曰此字諸家有𧢲𧢲二釋按左从𧢲𧢲似為動物之象形字與克作𧢲若𧢲者不類然亦非免字免字說文不載段氏謂當从免省象免走不見足此曲說也考甲文免作𧢲象人戴冠冕之形乃冕之本字此文既非克亦非免二說未可遽定

亦據忠曰𧢲即大五鼎銘勿勉余乃辟一人之刻字也以力向刻之意也又為作𧢲字卜辭有

1908 (3278)

員于汝甲御史方將(乙一三一四)

刻与尤在義上相通之處乃相連之事也及止上記之卜辭

後下一三三中央與刻而者蓋亦則刻乃以殷之官職者為

也上通卜辭及庫車原丁時期之物故在殷末其人存在於殷

了恐係之夢也(殷金文序釋一〇四頁)予刻專(林澤明譯)

白川靜曰字二字予藏以為乃勝之我之字因此言女勿有勝我

之心蓋欲其聽訓也亦不宜作為註命之辭與下文之銘辭不相

應文林釋字乃刻曰

刻者刻責期待之意刻同字微子我舊云刻子後漢書

李賢注刻猶責也此言勿過期待我當輔弼我辟輔也宜

宜用辟我一人師望鼎周辟于先王並同

刻者刻責之意以此為期待之義然並不能解作勿過期待我

此一情於文意不合陳氏釋作勿過二字通讀以為與古語之

勿與同注曰

刻字从克从刀舊不釋此字亦見漢世有行徒銀中西

周金文則為人各三代八二〇从克之字見本文第八小

臣趙殷(四四)耳書字等器勿刻即詩十月之文通刻从東漢

書刻傳引作克勿

以勿混字解為通刻之說亦已見于韓非然通刻乃指目刻之事

此即之文意也尤為明顯故錄之也非以乃辟通于與相似乃

要亦其輔助之意之誤陳氏德上之文之意也

女妹長又不服金飾即服小字女勿勉金乃辟一人似說

五早(或)妹是有服位就事于三之小字勿字于王故有下

1910 (3278)

1909 (3278)

今從金世五云

以為即曰五世早年受命以服位之事就事于小學既任教王

之職後而無教王之事故今命世以下之事三意也作為註命

之辭似甚失後漢之旨者也

第二字乃難釋之字也字从小與之義故打陳等以字从免而釋

作勉然免字亦不同恐為免之初文也高雅釋訓有免此體未

也李巡注屈己卑身求得于人曰體柔爾雅之訓乃能釋詳大雅

板無房兮咄之兮咄者也然無為有此正典勿混金乃辟一人同

意此字乃毛公所附錄之故女妹以乃辟通于艱之文意相通

勿勉係作天子之我五命之責其直言者也(金文通釋第十

二輯五九一六六一頁六一六五鼎林澤明譯)

1911 (3278)

困
困
困

本書定曰字不可識

1912 (3279)

齊刻本

卷六 二十五頁 師酉鼓

阮元釋本東曰：「千商奉字作篆，說文奉字作𡗗，此作𡗗，下似亦象手承之形，是古奉字也。東字說文訓為木束，从义持木。」（稽古卷六，二十五頁 師酉鼓）

吳大澂曰：「感刻疑秦字之異文，師酉鼓，古諸補附錄十五頁」

容庚曰：「秦夷段，紹嘉同志所釋不誤，而郭老改釋作春夷，蓋根據師酉蓋而誤，師酉蓋秦字作𡗗，郭老釋作𡗗，金文編入之附錄（下二五）今得此蓋，可確定為秦字。」（文物一九六〇年八月七十八頁 師酉蓋及師酉蓋考釋的商權 師酉蓋）

1913 (3280)

李孝定曰：「吳大澂代疑秦字是也，說文秦下解云从春省，或本省此正从春，不省字，當从春，禾會意，國名是別義，蓋其地宜禾，因以得名歟？」師酉蓋云：「秦尸夷，蓋即後之秦國字下从禾，又省，象手持禾春之播文，从林，疑亦叔之譌變。」
劉心源曰：「秦舊釋作奉，東二字案此字从禾，象杆形，即午字也。奉从丰，示从午，說文秦作𡗗，云从禾春省，籀文作𡗗，即此字也。」（齊卷七第廿二頁 師酉鼓）

1914 (3280)

方濬益曰

字似守上一畫疑是義文，吳清卿中丞說文古籀補釋為𡗗，按此作器人名意，造之字不可強識，今釋守從近似也。（綴遺卷九，二十三頁 守廐）

劉心源曰：「說文作𡗗，即此（奇觚卷八，七頁 守廐）」

楊樹達曰：「方濬益引吳清卿說釋𡗗，方氏釋守，似皆未詳。余按𡗗，仲璽云：用成盛，木格，籀梁木字作𡗗，金孟鼎云：我賁殷述，令述字作𡗗，小臣譔殷述，東述字作𡗗，此字上从木，下从𡗗，籀銘木字及金孟鼎小臣譔殷述，述字所以木字近似，疑當釋𡗗也。」（釋微八十九頁 宋顧跋）

李孝定曰：「楊氏之說於形為近，劉氏釋𡗗按必字契文作𡗗，然此絕異方氏以為守字，亦差近，然謂上畫是義文，是強守形就己說也。」

1915 (3281)

也。（釋微八十九頁 宋顧跋）

1916 (3281)

火

實字三蓋
△字三已文幸幸

李孝定曰按字从火疑火之稍異者則當是內字唯又增之四點不知何字

1917(3282)

火

伯伯天鼎
△字三已文幸幸

李孝定曰从火其下半疑从又从戈然未可遽定

1918(3283)

角

曾姬無卣蓋
△字三已文幸幸

楊樹達曰安當讀為按史記術將軍驛驛傳云按榆路舊塞集解引如淳云按行也陳鑑奎云陳鑑立事歲餘月戊寅各格按安陸按紐漢陰與格茲安陸句例同也(補微二二頁曾姬無卣蓋跋)

劉節曰守字諸家作安節按字作厠釋安未是此守字也父乙觚見殷文存卷守字作甲壘印文字見壘印文字守字作甲二文又字皆反書壘銘作厠从厠从厠會意从厠者寸之反書也(攷存二二頁壽縣所出楚器考釋)

郭沫若釋安見兩改一六六頁曾姬無卣蓋

1919(3284)

李孝定曰劉節氏釋守於形較近其說為長甲金文女字無作斤者以為寸字則差近

1920(3284)

俞

△ 已 旅 韓

李孝定曰：从山从王，疑寶之異構。然其下不作王，未能定也。其下非从豕，若「爰釋家非也」。

1921(3285)

𠂔𠂔

子
占
(700)
△ 女子庚
祀障

家

頤
貞
<2705>
用
鼎
子

予省吾曰：𣪗即必當為秘之初文。金文必字，休盤作𣪗，賈盤作𣪗，無𣪗鼎作𣪗，其遞行之迹為由𣪗而𣪗而𣪗而𣪗。而𣪗說文必分極也。从𣪗聲，按从𣪗乃形之譌，𣪗與𣪗聲異韻皆不相近。段玉裁注改為从𣪗，𣪗亦聲，不知古文本不从𣪗。𣪗文八字作𣪗，从𣪗之字分作𣪗與𣪗字，所从之二點有別。𣪗字本義屢為秘之初文。廣雅釋器：秘柄也。秘無以為象，頗假器物以明之。从𣪗象某種量器。朱點散落下象斜柄。从𣪗所，以視其柄之所在，蓋指專字也。秘字从𣪗乃後起字，一必亦作秘。金文作𣪗，均為祀神之室。粹一五三，即犬乙祀中院獸骨刻辭。文武丁祀秘字从𣪗，無左右兩點，乃省體。前（十八）文武

1922 (3286)

丁必可知祕即必均為祀神之室。詩：「貞用錫于乃姑。」周：「用將焉于汝之姑之神室也。」子貞子作婦姑葬女子母庚。周：「祀陣葬室祀謂於室室祭祀也。」室从宀其為宮室之義尤顯。說文：「室安也。」淮南子：「覺冥室穆休于太祖之下。」注：「室寧也。」安寧義同奉神主於深室自有安寧之義。經傳祕室亦作閼。詩：「閼宮閼宮有徂傳。」閼閉也。箋：「閼神也。」說文：「閼閉門也。」祕神也。徐鍇：「曰祕不可宣也。祕之言閉也。按傳：「閼為閉。」與說文「閉門之訓」符。箋訓閼為神是。讀閼為祕也。」二說雖異義猶相近。神室幽邃故言閼也。說文：「投注謂室經典作密是。」密為古今字。室亦通冥。詩：「斯干。」噶：「其正噦噦。」其冥傳：「冥幼也。」正義：「爾雅亦或作竊。」某氏曰：「詩云噦其冥為冥竊於義實安是也。」按詩言「正謂正室之前」冥謂正室後深幽之處。易繫辭：「以通神明之德。」

1923 (3286)

九家注隱藏謂之神太玄文乃窮手神域神域幽冥也古人藏神主於廟室之幽冥處因謂其室為冥後世但知閼與冥為形容宮室之閼暗冥竊而古制湮矣中略綠之冥即必字書為秘之初文从必从一示其柄之所在指事字也說文以必為密从八弋聲誤以指事為形聲而聲亦不符梁文假必為祀神之密室字亦作秘金文作𡩊从山而密室之義益顯矣見駢三第

1924(3286)

密

通鑑 卷一百一十五 中石趙

高田忠周曰按古文山广通用恒例故此篆从广义密字或作
介故此篆亦从弋弋即二必之省也此密邑名又姓周語王
游於漚上密康公從注康公密國之君姬姓又云其後一年王
滅密叔蓋康公以前之君耳(古篇篇十三第六頁)
吳闓生曰密本作密釋密誤也陽鼎有侯伯即此字(古文卷一
第二四頁趙鼎)

柯昌濟曰密叔人名國語周語密康公韋注密姬姓也(釋華
一九一頁趙啟)

郭沫若釋密見兩改五七頁趙鼎

李孝定曰郭氏錄定作密是也字不从必非密字

密

通鑑 卷一百一十五 中石趙

徐同柏曰完从山从舌為么子相乳見說文爰部量字下通完
字會意讀若軌物之軌(古文卷六三十八頁周頌歌)

高田忠周曰按阮氏釋宮王昶釋室並非銘別有宮字作宮
與此篆迥異形愚謂宮即室即宮字五字籀文从重五作五此
其省變也說文密宮也从山吾聲此實密字省文銘用為地名
也(古篇篇七十二第一〇頁)

李孝定曰从山从舌徐氏謂从舌即首字所从其說非是按
字金文作𠂔乃从𠂔形所譌變或又省作𠂔均與此所从
𠂔迥異且即如其說則此文何以為完亦未見說明不可从也
高田氏以為寤字亦可商字非从五也按𠂔疑為𠂔之省變則

與契文𠂔字略近未知是一字否𠂔字唐蘭先生釋正

劉心源曰密阮釋作宮王作室皆未確(古篇卷七第十六頁耶
啟)




宛曲結句

空來△鼎亡文
笑寶傳葬 (A-B)

吳式芬曰徐彙彙說……**𠩺**古文覓古文寶作𠩺此字即寶字从寶與从貝同義（據古卷二之一八十一頁覓𠩺𠩺𠩺）

徐同柏曰：「**竊**古文**𡵓**，**𡵓**古文**竊**，**𡵓**塞此害，即**竊**字从**竊**與从貝同意。」（《古考》七，二十八頁）商賈呼尊。

孫詒讓曰以字形審之詡疑卽兄之隸繕文後叔家父蓋兄作
𠂔从艹省此从𠂔似卽𠂔之省變又增冂形餘論卷二第七頁

高田忠周曰按銘意爲人名初謂固蓋寶之省又从兄然字書無寶字此疑既之異文既亦兄字俗體兄本義爲長也一轉爲

滋益義再轉為賜與義因字亦變从貝作貺而古者貝為寶故寶貝同意故貺亦變作貺今見徐縮莊說云。俞古文規古文寶作寶此字即寶字从寶从貝同義與詁說合然再審按。銘下文云寶尊與寶作俞即知俞斷非寔蓋俞為舍字人者介之省略此作俞為正文而古文舍余同聲通用。人者人也此兄用為人猶作子然則此為徐字異文說文陳緩也从人余聲廣雅釋詁徐遲也又徐徐形音義皆近通用易困來徐馬注安行見此以徐為徐也。古篇篇三十二第二。夏

李孝定曰諸說並未可據字宜存疑徐疎之說猶能得其彷彿
高田氏以从(舍)為舍字以从(兄)為从(人)遂定為倫字則凡說也
考舍从余聲古文作舍與此已屬相遠从兄从人古更無相通
之例也

1930 (3289)




呂王堂
(291)
呂王△世大雄專堂

李孝定曰字不可識

劉體智隸定作竊見小校卷四第八十頁呂王竊乍大姬堂

己亥終上孟周
己丑石周△
宣用句萬年

吳閨生曰：《圖》與《輦》略同，餘尚有《用輦語》、《旅行旅所須》、《言文卷》三卷三十七頁，已候教。

李孝定曰：从山从車而形不可識。吳氏謂是輦字，其說無據。

1932 (3291)



呂王堂
(291)
呂王△世大雄專堂


李孝定曰字不可識

劉體智錄定作竊見小校卷四第八十頁呂王竊乍大姬堂



己亥終上孟周
己丑石周△
宣用句萬年

吳閨生曰：《學英叢略》同，餘尚有英叢語、益行旅所用、言文卷三第、三十七頁已候教。

李孝定曰：从山从車而形不可識。吳氏謂是輦字，其說無據。

1932 (3291)

1931 (3290)



禹鼎今我佳即井廟于文王
今我佳即井△

于政王正政德

徐同柏釋勉曰字作𢌿古文𢌿 = 促勸勉一聲之轉（从古卷

方濬益曰：廟古文𡩺。《綴遺》卷三，二十七頁。五鼎。

吳大澂曰：「內疑古憲字說文憲敏也从心目害省聲憲與害聲義均不相近似非从害周禮布憲注憲表也謂縣之也司寇正歲縣其書于象魏布憲亦縣之于門閭及都邦國此兩字正象布憲之形立表于門閭而縣書于其上也」(憲齋四冊十六頁孟鼎)

吳大澂曰同疑憲之古文許氏說憲缺也从心目害省聲憲與害聲義均不相近似非从害周禮布憲注惠表也謂縣之也司寇正獻縣其書於象魏布憲亦縣之於門閭及都鄙邦國朝士注意謂幡書以明之此同字正象布憲之形立表於門閭而縣書於其上也孟鼎令我惟卽刑憲于文王古籀補附錄一頁

孫詒讓曰孟鼎字俞于政王正德若政王令二三正俞字最奇古難識今參互家料知亦即商字也舊釋爲龜或爲惠杜誤上从亼即許所謂从入金文入門字合文多如此作竊疑此正家屋棟宇穹隆下覆之形不定屬入字也下从凡則正家兩戶一牖形以師面爲牆下从尤聲之此西周最古文字近原始象形文義倒致精而于政王正德若政王令二三正者商受也說文商字注云商受也商令猶言稟命謂所受

1934(3292)

19 33(3292)

於文王中正之德及命二三官正之令也（名原上二二頁）

孫詒讓曰案同字最奇異難識舊釋為𠂔引徐同柏云尅字作
𠂔古文𠂔𠂔𠂔𠂔𠂔一聲之轉今攷金文𠂔字雖未見而籀文
諸文从𠂔者皆象形籀文𠂔二之三龜公考鐘不作同徐吳
所釋殊不塙吳大澂釋為憲則于形尤遠其誤不必辯矣今通
攷金文參互推案乃悟此字實當為𠂔說文𠂔部云𠂔穀所振
入也宗廟羹盛倉皇面而取之故謂之𠂔从入从回象屋形中
有戶牖此上从口即說文所謂从入金文入門合文多如此作
但此𠂔然下覆即所謂象屋形者當與𠂔同意實非入字中从
𠂔則正象戶牖形此西周文字乃真古文正體小篆變𠂔為回
乃與本形殊不相侔矣凡象形字分之多不能獨成一字說文注中入回二字乃借以此況非正从此

1935 (3292)

二字 其見於金文者惟召伯虎散卣字作籀文三之二說文
 也 下半亦迭午作井形 其文微有省變 它如諸偏旁从卣之字則
 足證古文不从回也
 散氏盤圖字作本楚公鐘散字作籀文二之二此字
 之知其 兮仲鐘康字作又作籀文三之二允盤散字作
 从卣也
 籀文三 允散散字作籀文三 址與此形合此外如兮仲鐘
 誥字又作籀文二 兮田盤字作籀文二 毓叔鐘字作籀文三 雖篆畫各
 蓋作籀文三之二又二 子廟占圖字作籀文二 雖篆畫各
 有變易而於戶牖形成不相近 址與此可互證卣者後也
 說文 籀文 俗
 籀文 亦作方言粟敬也 亦作廣雅釋詁敬也 字說
 文 籀文 籀文 引申之義 徐論卷三第 四七至四八頁 孟鼎
 丁佛言曰 孟鼎吳憲齋釋憲憲疑為廋字通 粟本作
 莫中亦寫作从入象屋形中有戶牖 粟也 鼎文今我佳

1936(3292)

即并稟于文王正德者言我佳從受于文王正德也古篇補補附錄二頁

高田忠周曰此篆从山形為象形亦為宣字說文桓訓亭郵表也从木豆聲桓記檀弓三家視桓楹注四植謂之桓周禮大宗伯公執桓圭注雙植謂之桓桓宮室之象所以安其上也蓋桓形如我邦神社前之華表者有二植者金文王宅于門是也又有四植者此篆作明是也此从山桓聲即為宣字錄文明矣如銘志段借為典古音典宣轉通型字經傳以刑為之詩我將儀式刑文王之典魯語夕省其典刑皆當證銘意也吳大澂釋劉心源從徐籀莊釋詁云莊釋最確勉也三家未改篆形與文意也古篇篇七十一第一四頁

1937(3292)

吳寶燁曰說文門从門同此下字上橫下垂由下登上義門古文南公鼎文釋考十七頁

吳闓生曰周吳以為憲字殊讀為康謂即稟字案叔毛鼎有其井而吳配句又稟自康字亦與此近古文卷一第六頁五鼎

楊樹達曰窗字得有刑法之義者愚疑字假為品廣雅釋詁一云品法也王氏疏慈琳一切經音義卷一東正引說文稟从窗聲廣韻稟音華錦切此知窗亦可讀唇音故从窗之窗可與品相通假也說文窗或作康窗為康字所自出篆文从尸與古文从山同也積微六一頁全

于孟鼎四跋

郭沫若釋窗讀作康見兩跋三四頁大孟鼎

1938(3292)

李孝定曰方濟益氏釋龜徐同柏氏釋勉當亦由龜字轉讀按龜為龜古文偏旁从龜者均象龜形與此迴異孫詒讓氏辨之是也吳大澂氏釋憲謂象布憲於門之形於字形毫無根據乃不惜駁說文以就己說殊不足采高田氏以為宣字考宣字从昌與此迴別高田氏引禮記檀弓及周禮大宗伯鄭注以証桓為四植之華表遂謂此乃从山桓聲當為宣字篆文說殊牽附不可从吳寶燁氏以為門字按此上明从山不从一其下雖與門字略近然實非門字吳說無據惟孫詒讓氏全文偏旁从窗之字以証此為窗亦即康字其說確不可易銘文當以今我唯即刑康于文王政德為句刑同型法也康受也銘言效法並取受于文王政德也

1939(3292)

白川靜曰窗為窗釋為憲奇詭作通餘論釋為栗井窗之字亦見于叔口鼎西清二即井窗有就于此型之意也金文通釋卷十二輯六二一頁六一五鼎林氏明證

1940(3292)

俞

井鼎
王漁子公

柯昌濟曰安之異文中雖似从每實乃女之訛釋華一一五頁

井鼎
吳闓生擇安見古文卷一第十五頁井鼎

李孝定曰二家均釋安从市从中国無別然其分明又从父實非安字說宜存疑

1941 (3293)

周
王馬周

吳大澂曰詩振鷺我客戾止傳云客二王之後序云有客微子來見祖廟也白虎通義王者不臣篇不臣二王之後者尊先王通天下之三統也詩云有客有客亦白其馬謂微子朝周也魯詩亦謂客為微子與毛詩序傳合余所得微子鼎有為周客三字客作羽下云錫貝五朋用為寶器鼎二款二其用莒子乃帝考非帝之子不能尊其考為帝考周王之客殷帝之子其為微子所作無疑也許氏說文解字憲敬也春秋傳曰以陳備三憲今左氏傳作三恪漢魯峻碑魏孔羨碑並作恪大澂以為憲恪恪皆當讀客三恪即三客古客字从客从已後人變已為心再變為恪皆客字之異體恪訓敬客亦訓敬呂覽終座以為上客

1942 (3294)

注客敬也孔叢子恪敬也禮之如賓客也客恪二字古本一字(字說十五頁客字說)

吳大澂曰周古憲字从客从已後人變已為心許氏說憲敬也春秋傳曰以陳備三憲大澂案憲當即客之異文二王之後謂之客周封三客虞夏商之後也周憲鼎古籍補五十九頁

劉心源曰客从宮與从山同意古文之錄也或釋憲非井庚尊王國策客亦从宮也
銘牙自王格于呂又一
自作曰此客从呂亦然(奇觚卷二二頁)

高田忠周曰按謂此為客字是也但以已為心之說失穿矣憲後人改作恪古無此體也說文(客)敬也从心客聲故客憲亦通

1943 (3294)

用也亦古字省文段借之恆例也漢人多作恪魯峻碑敬恪恭儉帝堯碑若不度恪唯及字林恪恭也作恪今經傳作恪者後人改竄耳或云古以各為恪後誤為恪存參古籍補四十三第一九至二〇頁

高田忠周曰據吳天濤說通穿且謂客憲同字殊非此字从宮宮門同意或云字从目即同四从四各聲即諸字客或从諸聲此亦增缺之例又或云从三口亦口字籀文增缺之例紐亦各字未可遽定要字為客異文不可疑矣此亦上文改各為叙之類也存參古籍補七十二第一二頁

1944 (3294)

李孝定曰諸家均釋客可以劉心源氏謂从宮與从山同意說亦通連吳大澂代謂客即憲字說亦可通然謂後人變已為心

則殊穿鑿蓋容憲義同憲則後出憲敬專字耳

1945 (3294)

𡩺

能勿事

能勿錫貝于兮

公大五朋

李考定曰疑窗之異構矢窗五朋者陳而受之也

1946 (3295)

𡩺

門五在

李考定曰當隸定作𡩺

1947 (3296)

𡩺

窗鼎

津公今命△鼎史諱曰△字係

貝△同字作窗公寶傳鼎

郭沫若釋窗見兩改二十八頁窗鼎

李考定曰郭氏隸定可從

1948 (3297)

治之勿懈也。戊下一字半，防無辨然。其為萬聲之字，無可疑矣。蓋是通字也。廣雅釋詁：「邁，往也。」詩：「崧高，申伯信邁。」時邁，時邁其邦。是也。邁下自字，彷彿可讀。此銘屬文，與毛公鼎云「賜女絲斧，用成用征，相似姑附于此」。俟來哲之正云。（古編篇七十三）

（一〇頁）

吳寶燁曰：「說文載作戔，言之間也。此作國，只口字上下位置稍殊，又加勺以間之也。」（南公鼎文釋考十五頁）

柯昌濟曰：「戔，舊釋是說文戔塞也。从戔聲，讀若虞書曰戔。三苗之數。」（釋華一三七頁五鼎）

郭沫若釋：「戔，見兩改三四頁大五鼎。」

三訂國之意也。詩：「崧高，申伯信邁。」有，王命御邁。其，人名，即此是也。（金文通釋第十二輯六七一頁，六一六五鼎）

按：白川靜所釋乃五鼎此句，卽之下一字，諸家多作口。

柯昌濟曰：「戔，缺，極放也。書：「戔，戔於羽山。」戔，舊釋是說文戔塞也。从戔聲，讀若虞書曰戔。三苗之數，戔下字。二文模糊，細審之，頗似通。二字，謂窮放罪人於遠地也。」（釋華一三九頁五鼎）

徐同柏此句，釋作「破我，如國，人土，曰戔」。四字當是地名。下二字，半缺。從古卷十六第三十六頁周五鼎。

吳闓生釋作「微我，如口，厥土，曰戔」。二字未詳，或云疑即戔戔之異文。（古文卷一第七頁五鼎）



伯 戔 金 伯 自 用 鑄 金

丁佛言曰：「戔，白，戔，鑄，从口，从戔，戔，似津，又為口之變。然字書無戔字，或曰戔，即戔，古編補補附錄五頁。」

吳大澂釋：「戔，見意齋十四冊二三頁伯建金。」

李孝定曰：「吳丁二氏之說，並不可據。字不可識，即隸定亦不易。」

李孝定曰：「吳大澂氏釋戔於字形，無絲毫相似。上文有極字，吳氏蓋讀為戔，相連類釋此為戔耳。說戔無據。吳寶燁氏釋戔尤無理。戔，高田氏以為戔字，倘置此字所从另一偏旁，豈不論其說差為近之然。氏謂从戈與閔同意，已為肌說。蓋說文僅謂戔从閔省聲，與其義無涉也。」因引說文閔下說解說此文所从之戔為戔，力士之鑄，穿鑿傳會。至於此極不足論也。丁佛言氏謂當是古割字，殊有理致。蓋銘文上言賞錫之事，所錫有邦司四伯，王臣十又三伯，高田氏以為戔內都邑之官是也。是所錫者，除車馬冕衣紱舄之外，乃有都邑。故下言「戔割口自厥土者，言於所錫之都邑，要加分割也。」

白川靜曰：「此三字，石事，留與萬字相似之形字，或即都字。還之意也。緊接上文，將受賜之邦司，王臣等，使各由還於土。」

寅升兒鼎
1069 孫公之
孫公兒

重刊

魚 齊
美 偉

作賸△
豐五

高田忠周曰按見人形意近而通用此亦寒字也左襄四年傳伯明后寒棄之注寒國銘意亦同此義古篇篇七十二第一五

卜郭沐若曰寧以內鼻聲算算之錄文蓋古寬字小篆从寬
聲字形既近音亦同在元部蓋異作也漢隸多作寬从寬聲
(兩攷二一二頁齊侯盤)

○郭沫若曰：寬兒鼎卽字與齊侯盤卽字。余均釋寬。蓋字从山。寬聲。与小篆之从山寬聲。字例相同也。寬并乃寬之餘文。與寬聲同。

在元部。寬可从莧聲。亦可从莧聲也。漢隸正多从莧作。如石經論語作寬。劉寬碑作寬。是也。揚震碑復作寬。寬亦莧之異。如分之。或作分矣。衡方碑與張綱功德叙作寬。从穴見聲。蔣君碑作寬。似从寧省。見聲。見卽莧。所以得聲。今彝銘有甯字。則漢隸諸體未可一概以俗字目之矣。(《金文一七八頁金文餘釋釋甯》)

吳閨生釋寔見古文卷一第三十六頁寔兒鼎

李孝定曰吳氏隸定^a形作窠。可。从唯^b形實从兒作疑非一字郭氏釋二體均作窠按窠从窠得聲窠字說文訓山羊細角者復明言窠字从此是窠為動物之象形字而此二文一从日一作兒一从兒均與窠形不類郭說待商。

1958 (3301)

1957(3301)

肉毒

實業公司

△
手 侯
里 侯

力勝重

高田忠周曰按此字說文所無他器亦未見者然審義形有可
改者上形作肉即內字下作宮當與字異文說文與古文作
豈可證當下之又與寸同意然則此篆合內專二字為形也因
謂內即與从女同意禮記昏義以聽天下之內治注婦德之法
也蓋婦者重謹之意即婦女之常道也內則曰男不言內女
不言外婦字从內其會意可知矣銘云婦侯經傳所無疑袁字
之段借左傳袁鏤地名又有陳袁濤塗蓋亦應出于地名袁从
袁省聲(古篇篇三十八第一四頁)

柯昌濟曰案豐字當即蔡之古文此字文字所从形聲似與蔡字不類實則乃以萊字轉假為蔡說文艸部萊草也从艸祭聲

王荅友先生引玉篇莽艸芥也以丰部說艸莽也推之則此當作草丰也今蔡國莽字皆假用訓草丰之字古文或未必然意古蔡國莽字作變變雖當與蔡音讀相同乃非訓艸丰之字當似从害省聲从叢叢字之形又與卜詞所載叢字頗近殆同為莽之古文莽字見於禮經古有釋菜見周禮大胥禮記月令奠菜見儀禮士昏禮之禮菜之為物為祭祀之必需是以屢見卜詞也又卜詞有从叢从酉之字从酉者酉酒古通从酒更足徵其為菜之古字矣菜蔡古讀相近所以段菜為蔡也从害省聲告蔡聲亦相近者也

《釋華二一〇至二一一頁蔡侯簋》

李孝定曰按柯氏擇契文之策為兼於形音義並無足徵此篆
下半所从又與所擇契文有別柯說待商高田氏之說似稍勝

1960(3302)

1959(3302)

然謂其下从頁亦僅形體略近難以徵信其上亦非內字字宜存疑

1961 (3302)



齊侯壺

齊侯壺

其人民部也蓋公莫無新

吳榮光曰元(元)審舞上之字皆夏字夏大也故九夏皆訓大非夏而之夏其篆形兩目而下从夂甚明夏舞猶言大樂大韶封華耳(清卷二第二十八頁周齊侯壺)

徐同柏曰(寶古文廟从門嬰聲)(从古文卷十二十三頁周陳桓子鉞)

吳雲曰(陳頌南說)聲篆文作(中)白字乃古文西字下從女字當為聲即聲之正字王氏伯申曰(寶讀為眉方音眉老也楚史老子子疊古音微與文通)蓋有門音故轉為眉其字即聲字聲從聲省從西分聲蓋從聲省從西文聲字當為書作蓋音隸之

1962 (3303)

變也今案字當為聲古聲聲通鍾鼎文眉多假聲或假聲伯碩父鼎之(寶)項鼎之(寶)公鐵鼎之(寶)晉姜鼎之(寶)姜父鼎之(寶)皆伯靈蓋之(寶)皆借聲字為眉字其斧史鼎眉作(寶)中(寶)字乃古文字字此即聲變作蓋之祖而周公筆鍾之(寶)作(寶)氏盤之(寶)眉作(寶)通蓋之(寶)眉作(寶)下皆從女而(寶)體與此(寶)變無差不是是皆聲字則聲變為一字而與眉通用也六書略謂聲狀聲者從且非也聲為俗體聲為正體蓋本作聲故易繁辭成天下之聲聲荀虞皆作成天下之妮妮以字從女而涉妮也聲從聲省聲亦從女得聲女聲與兒聲同在殺氏古音弟五部詩檇模勉勉我王荀子富國篇引作蓋蓋我王則又以聲而涉蓋之即蓋的確證疑乃張參五經文字謂蓋字不合六書而徐鼎臣以說文無蓋字謂俗加文作蓋遂以妮當聲惜未以此

1963 (3303)

器正之(兩雲卷四第十三至十四頁齊侯壺)

吳大澂曰(寶)古字字齊侯壺蓋無用(古寶補四十二頁)

劉心源曰(寶)釋度非二吳本皆从(寶)此从(寶)合校知是从(寶)从(寶)中說文要作(寶)古文作(寶)即此字下體乃要字又(寶)為要惜字書未載也(奇觚卷十八十九頁齊侯壺)

高田忠周曰(寶)徐補莊云(寶)觀省(寶)古文廟从門嬰聲(寶)廟(寶)謂合(寶)其廟與禮祭統文合蓋廟字異文至多徐氏此攷非無理也然未得據不可凡定今審篆形說文(寶)為要字或有作(寶)又古文作(寶)即(寶)字省文古音(寶)與通耳然此篆與即

1964 (3303)

案又即宴自顯矣但說文戶部無宴當謂古字通文而銘云從
 爾大樂此句當言舞曲之事楚辭傷時音異衍兮要姪注舞容
 也即是慎止亂舞淫曲以從正樂修典禮之意也當證宴要同音
 字故下文或唯作要(古籍篇七十二第二六頁)
 郭沫若曰宴字是大淑釋宴以文辭按之近是蓋是宴之變
 作以要為聲取雙聲也(兩政二三頁渾子孟要重)
 李孝定曰字但當隸定作宴郭沫若氏从吳大澂氏說謂即宴
 字之變體取要為聲然金文宴字習見均从晏與此有別此銘
 讀宴固可通終苦無據耳吳雲光氏引陳頌南氏說謂此金文
 習見之譽字殊誤金文譽字乃沫之古文讀為美說詳拙著
 釋譽與末一文此字明是从山从要與譽之結構迥異其趣
 不能混為一談也阮氏釋此為夏亦不可以

劉心源曰蓋下一字藝釋作夏古籍補作匿者未確阮作夏云
 从囙从又合下無字解為夏舞今審阮所釋本第十二行篆
 作雙第十五行重出此句作聲既無囙目又皆从女知其有意
 附會也今案文意蓋下當是二地名無讀為舞即孟子朝儀或
 讀為燕漢書地理志泰山郡有萊蕪縣蓋即觀頌鼎入其萊蕪
 是也齊侯追拒子欺之因觀見此二地之人而相與凱樂(古審
 卷四第五頁齊侯編)
 周法高曰宴讀為娛說文娛巧也今字作娛舞賦觀嫵妙以娛
 盛兮注淑艷也宴舞猶言娛舞高田氏說近是

陳慶家釋見金選一六三頁西周銅器斷代44耳尊
 李孝定曰字當隸定作庭
 白川靜曰侯太子耳尊者至廟或宮室等聖地時用者从耳耳下
 之一字蓋為表示廟庭之字字形奇異難以解釋陳氏以為可與
 李尊之考宮之宮字比較但由形之字在重醜之醜形中亦與典
 祀宮之禮冠之形相近要言之乃指祭祀之處也(金文通釋第
 十輯五八一頁五二耳尊林潔明譯)

劉心源曰突从山當是止之稍殘者或釋(奇觚卷四十六
 頁豆閑鼓)
 高田忠周曰劉心源云突俞當是地名突从山當是止之稍殘
 者或釋(按劉前釋是然下形作山即山字山即左右手
 也亦與从山同意此則省火耳蓋文義為搜爾雅搜賦也(古審
 篇七十二第三三頁)
 郭沫若釋突見兩政七七頁豆閑鼓
 柯昌濟曰案即古突字从山从又从火又曰煇與古突字从火
 从支取以火搜尋物之證也(釋華一九二頁豆閑鼓又二二八

李孝定曰字可錄定作譔不可識

1973(3309)

[illegible]

1974 (3310)

吳大澂曰：因若一謂之環。古環字象形。字說：古鑄補二頁。

四頁至二五頁皆鼎）
高田忠周曰按段氏云環取其無窮上也象形文字唯當作○而與圓古文無別故此作連○也詩盧令盧重環是也要此亦古文象形後變為形聲之一例耳（古篇篇七第八頁）

1975(3310)

洛矣。鉢、鈴有與，以作大師。毛傳云：鉢、鈴者，茅蒐染韋，一入曰鉢，鈴以代鉢也。鄭箋云：鉢者，茅蒐染也。茅蒐，鉢聲也。鈴，祭服之韋，合韋為之。茅蒐所以染絳者，與。市多言赤，色正相應。許說，鈴非市而賤之，然字既从市，自當為市屬之一。且微之小雅，足知其制亦不賤。疑是戎裳之韋，所以起軍事者。○兩攷七十七頁至七十八頁。豆閒設。

1976(3310)

免餼錫汝赤白口口用事。

南李鼎王錫赤日市玄衣蒲屯
揚毀錫汝赤日市玄衣蒲屯

右諸器中之一奇文舊釋環蓋以其象連環也然金文自有環字且此字乃市之標識而揚殷文更从市作必与市字連文環市古亦無是例余竊釋介以為象貝介而葉相連之形又誤釋克鼎及師發殷之叔市為叔市讀為介遂據以為例今案此釋亦非是字圖象貝介二葉相連之形蓋乃哈之初文段為哈說文哈士無市有哈則如極關四角八角形與介服其色鉢賤不得與環同从市合聲哈哈或从章許說哈非市然哈既从市則哈仍市之一種矣小雅瞻彼洛矣鉢鉢有珣以作大師則鉢鉢亦不賤許說非也毛傳云鉢鉢者茅蒐染章一入曰鉢鉢以代釋也鄭箋云鉢者茅蒐染也茅蒐鉢鉢也鉢祭服之釋合章為之茅蒐以染絳色者器銘之市多言赤色亦相應(金攷三三頁釋也)

1977(3310)

吳其昌曰按以上各字皆呂字之變形也所以明確斷知而不疑者第十字四為宮之所從西清古鑑自屬有軌自銘文完具而臨本失真據古錄亦著錄此器源出嶺南古齋阮氏阮誤以為專影無得實而殘剩處若僅存十三字必合兩書而觀之乃見其全文曰乙亥尹格于宮其宮字作同又以甲寅文字攷之殷虛書契前編卷二頁三有宮字作同又卷四頁十五有宮字作同又同頁有宮字作同又書契菁華頁十有宮字作同以其餘甲寅金文之宮字作同作侑者比較之故知其由呂變口由口變四也故斷知即呂之變文也今更進而探究其義伯俗父鼎曰錫赤日市市玄衣帶束聖殷曰錫女赤日市錫用事尤殷曰錫女赤日市用事官鼎曰錫女赤日市錫用事錫字尚依稀可辨利鼎曰錫女赤

1978(3310)

市廛所用車載殷曰錫女載衣赤日市錫旂又徒殷曰錫女赤口口旂用車中間缺三格當是日市錫三字又豆閑殷曰錫女載衣日市錫旂用獨揚殷文云錫女赤師市錫旂於此可知(一)赤日市乃一專名故作亦日市者六作日市者一作赤師市(二)揚殷之師字蓋又即日市二字之合文(三)赤日市恒與錫旂相連亦恒與載衣載玄衣相連又赤日市又通作赤市若頌鼎頌饒頌壺師酉殷伊殷休盤趙鼎簋簋何殷師毛父鼎師饒殷等器之所銘是也亦通作赤市若毛公鼎番生殷宰辟父殷等器之所銘是也亦通作載市若師盂父鼎趙鼎一變專見自等器之所銘是也又通作叔市若大克鼎師饒殷等器之所銘是也又通作且市若師兌殷二之所銘是也又通作市若變殷之所銘是也亦市又轉作赤表

1979(3310)

若數殷之所銘是也又轉作赤若伯晨鼎之所銘是也叔市又轉作叔金若吳尊之所銘是也亦有單作市者若大孟鼎作册麥尊西清古鑑鑒鑒等器之所銘是也錄上列諸專詞而通觀之除市字上無形容詞無可別白及赤表赤亦今暫無可攷及於市之於未詳外餘如且市即組市載市即緝市組市與緝衣正為同類之物而且為組織經緯古初之本字組之作且正猶載衣織之作載也朱市即赤市朱讀即赤也赤市日市赤日市赤師市實為一詞謂以赤呂飾之于市也謂以小赤金粒飾之於市上也故赤呂市又即叔市而叔市又即為叔金亦呂為金粒之明證也叔即叔之本字其讀豆類也詩朱叔金即金之如豆粒者也叔金市之即為赤呂市斯呂讀為如豆金粒之堅證日字之即為口字之堅證也

1980(3310)

自宋薛尚功輩釋穀之字為環字後清人相沿並不能改然毛公鼎養生餒師邊餒等器明有玉環字且最尊最重最穀環字尤數見不一則此非環字明甚容庚金文編已知其非而入附錄郭沫若兩周金文辭大系始決為新說以易之而以謂乃介字則失之尤速郭氏曰市屢見舊釋環余謂乃象貝介相連形大克鼎有叔市亦介市也石經春秋介屬盧介字古文作穀頁七今按叔象上有豆蔓下有豆粒以手拾之之形故叔字之義為豆又為拾說文叔拾也可證與石經古文穀從木從示從文者風馬牛不相干涉者也郭氏之說得毋誤認陽貨為孔子乎武大文哲季刊六卷一期二五九至二六二頁金文名象疏證

1981(3310)

陳小松曰呂市見于彝銘免餒豆閉餒赤呂市見于南季鼎利鼎載餒赤跡市見于揚餒以上呂字作雙環形相連此字也屢見于卜辭作雙方形相連呂受年後下即其一例宮雖字有從它的雖字也有從雙環相連的前可證兩形同字彝銘宮字也有從它的西清周尹格自這個奇字我以為是呂字其理由是

一說文呂脊骨也象形是說呂象脊相連之形此雙環和雙方相連即象脊骨相連之初文呂乃轉變後起此較呂形象形更為真切

二此奇字與予字上面相同說文予推予也象推予之形推予之說頗難理解奇在呂字下說昔太岳為商心呂之臣故封呂侯从心呂之臣的說法才知所謂推予就是推呂也就是推心

1982(3310)

置呂地信任如後世說推心置腹一樣由此可知予字上面是呂而自後推之即所謂推予之形因推予以重任然後予才可以訓給予

三說文宮室也从宀躬省聲投注按說宮謂从宀呂會意亦無不合宀統其外呂居其中也呂者脊骨也居人身之中者也據此可知宮字中間所從是呂躬從呂卜辭和彝銘宮字既从此奇字可証它即是呂字

四說文序東西牆也從廣予聲廣因厂為屋也予呂聲同從廣謂之牆從宀謂之宮也可助証

五漢印從予的字如射字予旁作予也作予旁作予見漢印分韻呂字初形和後起之形同見于予字中尤為同字之明証

1983(3310)

凡此都是此奇字為呂的根據字既証明我們進一步討論呂市呂與市同尚書呂刑禮記孝經尚書大傳史記周本紀引作甫刑甫可讀為輔呂市就是輔市輔市的名稱雖未明見于載籍但據禮記明堂位服虔之文見下再從裳和斧象等來推論它是有的為便于討論先設一談輔和市的意義

甲輔的意義

(1) 說文輔白與黑相次文

(2) 考工記白與黑謂之輔鄭注此言刺繡采所用誘以為裳

(3) 詩小雅采芣玄表及輔傳與(2)同

(4) 爾雅釋器斧謂之輔

(5) 周禮司几筵輔依鄭注斧謂之輔其繡白黑采以絳帛為

1984(3310)

質

(6) 桓二年左傳火龍黼黻杜注白與黑謂之黼形若斧
以上黼有二義(1)(3)說黼是白黑線刺繡的采文(4)(5)說
黼是九章之一的斧文以白黑線繡之
乙市的意義

(1) 市為命服的專稱禮記玉藻一命黼黻幽衡二命赤黼幽
衡三命赤黻蔥衡鄭注此玄冕爵弁服之釋尊祭服異其名
耳孔疏他服稱黼祭服稱黻(黻為市之象文祭服即命服)
(2) 因為市為命服它不單在顏色上形式上分等級在文飾
上也分等級禮記明堂位有虞氏服黻夏后氏山龍火周龍
章鄭注黻是服之釋也舜始作之以尊祭服為湯至周增以
畫文後王彌飾也山取其仁可仰也火取其明也龍取其變

1985 (3310)

化也天子備焉諸侯火而下卿大夫山士黼章而已
此說士的黼章無文飾大夫以上市有不同的文飾

(3) 市的文飾所在禮記雜記下釋長三尺下廣二尺上廣一
尺會去上五寸紕以爵章六寸不至下五寸純以素紕以五
采鄭注會謂領上縫也領之所用蓋與紕同在旁曰紕在下
曰純素生帛也紕六寸者中執之表裏各三寸也純紕所不
至者五寸與會去上同紕施諸縫中若今時條也陳奐詩小
雅車攻疏是諸侯與其卿大夫同服赤芾然服同而制
有異公侯前後方大夫前方後挫角形不同也諸侯會以火
山卿大夫會以山文不同也唯色同赤耳

此說命服之市領縫上按其等級有不同的文飾
如上所述所謂黼市可以有兩種情況1. 領縫上有白黑線的

1986 (3310)


































總文2. 領縫上有斧形白黑線的繡文據乙(2)市的繡飾無斧
形但有繡飾這一點是相合的如此黼可能表示的不是斧形
而只表示繡的采色據乙(3)紕以五采白黑文是五采中的二
采這也是略同的書顧命王麻冕黼裳裳的繡飾不止于斧形
采色也不止于白黑二采而是五采但書特言黼裳依有繡依
純有繡純則黼或為凡有總文之通稱詩玄衣及黼裳與玄衣
同賜可能為黼市之簡稱與豆閉殷易玄衣玄衣呂市南李鼎
王易亦呂市玄衣我殷易玄衣玄衣呂市文制正同可
以互証據文飾而言謂之黼市據顏色而言謂之黻市赤市朱
市兩據而言謂之赤黼市猶裳之稱黼裳裳裳形裳也(見書顧
命)至詩則為黼市之專字猶給為黼給之專字(見說文)尤足証
呂市之為專名詞

1987 (3310)

市之有文飾僅見于明堂位雜記鄭注呂市幫助我們更深刻
地了解這個制度也幫助我們間接了解書的黼裳詩的黼
是很重要值得稱述的資料(考報第十七冊六一至六二頁)呂
呂市

于省吾曰金文亦市習見亦省作市市字免毀作市習鼎
作市利鼎作市豆閉毀作市角李鼎作市壁毀作市揚毀作市
載毀作市薛尚功釋環款識清儒之考金文者多因之吳大
澂云市古給字从市从重環形許氏說制如榼缺四角此从日
正象四角圓形後人改从合台日形相近也古籀郭沫若
云余謂市當是給之初文象形段為給其作市者則給之初文
也(大篆說文)李旦丘釋曰為紕(金文)按薛吳郭李四氏說並誤
即雍字之初文梁文雅已合文早期作市晚期作市















1988 (3310)

其昌云然則此口已合文之口字果為何字乎曰此邑字古文作者所从之口亦即宮字卜辭作者所从之口或曰之單文亦即說文邑字籀文作者所从之口之單文亦即古辟雍字申骨文作者之原始初文也解詁二續按吳說是也惟謂為邑字所从之口待酌佚七三四受年為地名後下四一三乎林二二三于萬東拾二弔弗其氏果莫日為同字均應讀為郭沫若釋為通失之離字作金文作官字作向金文作向官同均从得聲其所从之或合或分一也說文以官為从船省聲誤矣離字小篆作隸變作以契文離已合文作置及離官从聲證之知金文字塙為離之初文作方形金文作圓形者以契刻易於為方也亦市之亦作師者












1989(3310)

繁文也市字經傳亦以蒂韞韞散綴緋為之儀禮士冠禮韞韞注韞韞韞韞也禮記玉藻一命韞韞幽衡注韞韞赤黃之閒色所謂韞也說文韞韞也一命韞韞再命赤韞按韞韞雙聲並影紐三等字韞謂黃色也鄭以赤黃之閒為說未允韞借字韞正字韞之詁訓為中和詩清廟肅雍顯相傳雍和韞韞記盛德外水曰辟雍注雍和也詩苞有若葉雍雍雍雍傳雍雍雍聲和也和與中義相因說文中和也國語同語詠之以中音注中音中和之音也按雍既為中和之義故引伸訓中和之色中和之色黃色也左昭十二年傳黃裳元吉黃中之色也論衡驗符黃為土色位在中央說文黃地之色也曰虎通五行首者中和之色風俗通皇霸引尚書大傳黃者光也厚也中和之色按以色言中和之黃色曰雍猶以聲言中和之鳥鳴曰雍雍也其不遲稱黃

1990(3310)

而緝雍者亦猶幽衡之幽不遲緝黑而緝幽也要之金文言赤市言市為雍之初文赤雍市即赤緇市雍市即緇市赤猶朱也雍謂黃也亦黃色即詩斯干箋所稱帝者天子純朱諸侯黃朱之黃朱也古雅九至十頁釋赤市周名輝曰市部古給字从市从環形許氏說制如植缺四角此从正象四角橢圓形後入改从合合形相近也吳氏定為給字古文今考定為市環二字合文名輝案揚盤銘云賜女衣時臺齊今舉免盤銘云易賜女衣日環市用勝乃祖考事此市分寫足證此為合文者一事也衣時當讀為赤環赤韞毛公鼎銘云易賜女璧璽一直郭圭南寶朱市鼓忽黃玉環玉証云云此賜玉環之見于金文者字作環

1991(3310)

可證此為合文者二事也師遽方尊銘云王手宰利易師遽瓊圭一環此王以瓊賜臣下與揚盤銘毛公鼎銘所稱同制可證此為合文者三事也而戴盤銘則云易賜女裁玄衣衣日市臺齊與揚盤銘所列器數全同可證此為合文者四事也金文中合文如伯夏鼎銘彤弓彤矢作於師湯父鼎銘作以其與赤合文讀法全同或以赤玉環之賜為疑案詩木瓜篇云投我以木瓜報之以瓊瑤又云投我以木李報之以瓊玖說文玉部云瓊赤玉也或以赤為亦環璧也肉好若一謂之環當由周人尚赤故赤市赤為赤環彤弓朱黃黃即璜字赤金象然之賜時見于周金文中也古編考卷上一二至一三頁周法高曰金文有字與市連用

1992(3310)

錫汝赤日市(錫汝赤日市)

錫汝赤日市(錫汝赤日市)

錫汝赤日市(錫汝赤日市)

錫汝赤日市(錫汝赤日市)

錫汝赤日市(錫汝赤日市)

錫汝赤日市(錫汝赤日市)

錫汝赤日市(錫汝赤日市)

于省吾釋赤日市云

薛尚功釋環款識十四一二九清儒之考金文者多因之吳大澂云帥古輪字从巾从重環形許代說制如楹缺四角此从日正象四角楹圓形後入改从合合日形相近也(古籀補七十三)郭沫若云余謂日當是始之初文象形段為始其作

1995(3310)

都是形容市的帥非名詞不能釋為始

案說文四下予部

幻相詐惑也从反予

徐灝說文段注箋云戴代伺曰兩環相貫上象其紐借為幻惑之幻是也阮氏鍾鼎款識習鼎銘有文作日即古環字假借為幻惑之幻郭象注莊子齊物論曰是非反覆相尋無窮謂之環環即幻也荀子臣道篇朋黨比周以環主圖私為務言幻惑其主以圖私也環與還同故反幻為予

周伯琦朱駿聲林義光之說略同案環幻聲母同屬匣紐古韻同屬元部可見日字形音義都可取徵於說文此字在金文中當假為環或組

說文十三上糸部縲帛赤黃色也一染謂之縲

1995(3310)

帥者則始之初文也(大系考釋七七)李旦丘釋日為紆(金文

研究二五)按薛吳郭李四氏說並誤以縲文應已合文作

置及離宮从日聲證之知金文日字塙為縲之初文縲文作

方形金文作圓形者以契刻易於為方也赤縲市即赤縲

市縲市即縲市赤縲未也縲謂黃也

案甲骨文都作方形金文俗于宮尊宮字所從作日也是方形離字金文所從之也與日形不同可見金文中對於此二形

本來自有分別不得拿契刻易於為方來解釋的而且縲離古

音東部縲離文部韻部迥異也不宜泛談通轉吳郭讀為始亦

非豈開假以載衣日市對舉南李鼎以赤日市玄衣對舉載假

以載玄衣赤日市對舉載當指巾的顏色釋名釋地土黃而細

密曰瑱郭從吳大澂釋為縲非也載玄都是形容衣的赤日

1994(3310)

又五下韋部韋茅菟染韋也一入曰韋

段玉裁注士冠禮注云韋韋縲也此鄭以縲釋韋以韋釋

韋玉藻一命縲韋注云縲赤黃之間色所謂韋也按未黃之

間色曰縲糸部縲帛赤黃色是也爾雅一染謂之縲縲者縲

之假借字一入曰韋即一入曰縲也

案縲環幻古音同縲元部縲離文部縲若從未聲則縲祭部為元部之陰聲若從未聲則縲微部為文部之陰聲音都相近縲

從原聲縲字屬清紐重同縲上古音韻未縲歷史語言研究所

集的復原縲牙音疑紐縲縲喉音影紐和環幻縲喉音匣紐也

相近聲韻俱近所以能够通假日字或從市作帥大概是從市

日聲和韋字從韋未聲相似從市和從韋一樣這從始字或作

始可以證明的市字經傳作第韋韋等帥字經傳作縲縲縲

1996(3310)

等

禮記玉藻一命緼黼幽衡再命赤黼幽衡

記文五下韋部轉教也一命緼黼再命赤黼

都拿赤和緼並舉可見赤師市連文師應當解為緼或緼于說

為雅雖然不對說日假為緼却是對的零釋一一九頁至一二

三頁釋⑤

陳直曰環字命敦習鼎伯裕父鼎俱作日說文云璧內好若一

謂之環以王景聲毛公鼎環字篆形與小篆合紅崖碑云王其

還四方還作〇蓋最初之象形金文象二環形即連環也莊子

天下篇云連環可解也與金文之證正合金文拾遺第八頁

于省吾曰日舊釋環莊子謂連環可解也似為象形字惟曆鼎

師連尊皆有環字揚說亦師市師字合文亦猶矩罔之作矩

罔是日市為同用之物非玉環之環但不得其詳耳(雙選卷

上二第十一頁音鼎)

李孝定曰按此字金文習見而說者紛紜莫可究結舊釋此為

環本不誤而近來古文字學家以金文別有環字遂於此字釋

環多致疑議今諦審之日者古象形字環則從起形聲字為文

字聲化恒見之現象本不足異也諸家或引契文四字與此相

証而於四字則或釋雍或釋呂而讀呂為庸為鄰為金粒不

一其說今考契文之四或作日實乃宮之古文象兩室相屬後

增山作宮乃偏旁累增實仍一字而說文以脊骨說呂與宮迴

不相伴宮字為無从呂之理許書宮下以躬省聲說之亦非四

之與日其形極近故諸家斷言之以為一字周法高氏已辨

其非周氏更就語法求之証相非名詞不得釋給說亦精當周

1998(3310)

1997(3310)

氏從舊說釋此為環而於諸銘日字則讀為緼於詞例語法並

極諸通其說實不可易蓋此本為環之象形初文幻即假此為

之篆作日其形小變耳金文此字則假為緼與上赤字並言

市色果如陳小松氏之言讀此為鄰則舊訓鄰為黑白相間與

赤字相連為不詞即如陳氏之說謂鄰為五采亦不得與赤字

連文也于省釋此為雍引契文雍已作置為証按置實當讀為

宮已後世文獻作雍已者聲之轉耳契文雖字亦以日為聲然

呂字不得選擇為雍也日既非四亦非呂則諸說之誤自明

不暇一一辨之矣

以赤日市

日市

林司浩叔

李孝定曰疑伯氏二字合文

2000(3311)

1999(3310)

夕

逃五

逃作寶傳與介

李孝定曰：象人形而臂下着「短畫」未詳何字與與文「夕」字形近。

卯

統

卯 歸 卯 子 戌 卯
高山山 錫 卯

李孝定曰：从夕从人，「卯」或是「尸」字，未可確指，字不可識。錫云：歸，「卯」于我多，高山山，錫，「卯」疑與契文「卯」字作「卯」者近，祭名，多，高山山，當是地名。

蘇家忠同，即卜辭

丙午句己卯（乙一三二四）

之替也，口寫作「山」者，往往有之，說文：「卯」也，然字由「入」及「各」樣成，蓋以人足之趾至居厚，我以此為人名，与俗同之俗同，誤蓋以服事于人，更為職事者也。（殷金文考釋八四頁，各頁）林深明謹

2002(3313)

風

研

研 山 望 五
發 寶 傳 章

李孝定曰：疑从人从象，字不可識，人名。

卯

李

李 卯 文 卯
李 卯 文 卯

李孝定曰：字不可識，人名，右从人，左旁未詳。

2004(3315)

2003(3314)

𠂔

徐伯璽《說文解字注》△人從𠂔

吳榮光曰：許翰說伯璽釋訓如今案伯亦地名伯即似之為
似猶任之為姓練續劉夫人碑任似為口是也《清卷三第
十七頁周格伯敦》

吳式芬釋似見據古三之一第七八頁格伯敦

郭沫若釋伯見兩改八一頁格伯敦

李孝定曰：吳榮光引許翰說釋似謂即妙字說或可從

𠂔

鍾定鼎《說文解字注》△人從𠂔

李孝定曰：字不可識疑與𠂔為一字

𠂔

國差《說文解字注》△人從𠂔

阮元曰：依字辰有以口（《清古卷八十二頁齊侯鐘》）

高田忠周曰：阮氏舊釋誤作依云辰有從口亦合齊鐘孫詒讓
駁云：續古文苑作俗當為是也今審篆形系即氏之變文之疑
象木本根抵系即心字下从口右有為昏明矣然則此篆釋俗
為是說文附會也从人合聲詩曰曷其有俗一曰佑佑力兒詩
君子于役文傳至也即其會也又曰俗者段借重言形況也
（《古籀篇三十二第四五五頁》）

吳闓生曰：體从井取型范義即度量字古文卷一第三八頁徐
王體鼎

郭沫若曰：此字自續古以來誤刊作𠂔以致了不可識今案字乃
疑字之別構也秦器刻辭疑字多作𠂔此系即彼𠂔從人與從
子同意日即心余以為乃足所著履卜辭出字作𠂔前人以爲
象納履形然亦作𠂔（《續編上二》）是即日口同意之證疑字例從
止作𠂔止本足形與從履形之意無別也（《音研一五六頁國差
韻讀》）

李孝定曰：字从人从口可辨而𠂔形不可識阮氏釋侯國不足
據高田氏引孫詒讓釋俗郭氏釋為疑之別構然𠂔形與𠂔
𠂔均不類辭意以存疑為是字為人名助作俗疑此文之
率急就者

△ 鍾劍兵

楊樹建曰：倣至鑄兵語殊難解。荀子賦篇云：無私罪人，懲革戒兵。戒本作養，依王念孫校改。揚注云：懲與倣同，備也。倣至劍兵與荀子懲革戒兵語意相類也。倣倣二二三頁，鄒尹鉅跋。

李孝定曰郭楊兩氏均釋微字形相近說似可從說文微訓戒
征用於戰陣銘云微至劍矢其義亦協

(0050)
曾孫△兒

徐同柏曰：禮字積古參釋，佗傳吳氏釋佗倪也（以古卷十三、五頁周鄭倪編鐘）。

吳人激曰禮吳東發釋為僕僕兒鐘古籀補附錄六頁

劉心源曰：傳近人皆釋僕家僕，不得从「𠂔」。說文：「𠂔，从壽，𠂔。」
从老省，𠂔聲。老从人毛作火，而太牢歸父盤作𠂔，𠂔弓，𠂔作
𠂔。又壽字孟姜匿作𠂔，𠂔𠂔，弓，𠂔作𠂔。𠂔所从之火，𠂔變為火。
𠂔篆形如此。銘从𠂔亦然也。下从𠂔，即𠂔在。与壽合實非从
𠂔。」（奇觚卷九十七頁傳兒鐘）

高田忠周曰兒鐘曾孫鵬兒余述斯于之子又曰鵠之字父余
昇時鵠兒事吉金歸鉅以鵠蘇鐘積古。按此器阮元傳楚良臣
余義鐘徐指荃偽鄒倪純鐘皆非猶莊云銘中鵬字積古全釋
作僕吳氏仇釋作倪下文景字積古全釋作萬吳氏釋作倪云
通倪古倪攪敗阮純素聲象義並同吳氏稍近然解其字形未
詳此昇卽為兒甚明而從又與文同此為敗字無疑但只
為義文愚謂又亦兒之變省从重兒為編增又與石同阮訓
石地惡也从厂兒聲虎野同聲此从支从尻聲也此鐘為余氏
鐘敗兒迭皆其族也銘迭遼同字磬昇亦同字阮氏所謂古銘
往往有一字而異文者是也(古篇篇六十第四二至四三頁)
郭沐若曰儼字舊或釋儼或釋儼均不確古人名字奇字
不能識(兩攷一大三頁儼兒鐘)

阮元釋僕見續古卷三第五頁楚良臣余義鍾吉文卷二

予省吾釋傳見雙選卷上（第十五頁）傳兒鐘

李孝定曰字不可識阮氏釋僕于氏釋僑於字形無徵高田氏說殊支離不可信郭說較長然棘定作僂从𠂔亦未安

位

立開通用併
乃是考事

劉心源曰併或釋供非此字从小乃古文大字詳太保鼎汗簡
人部引義雲章丞作併即此丞通承奇觚卷四十六頁豆閉殷
郭沫若曰併字不識當是原承水部述之意（明政七十八頁見
閉殷）

于省吾曰併經典皆作滕釋名釋親屬姪甥曰滕滕承也（雙溪
下二第二三頁豆閉殷）

柯昌濟曰併疑滕字異文左所从當為共字即古朕字從其聲
也（華一九二頁豆閉殷）

周名輝曰人部併豆閉殷 許君云供送也案供即滕余別有說
丁氏以佚即滕 今考定當讀若承

2013(3321)

名輝案銘文云王曰開易錫女哉衣環駮旂用併乃祖考
事長沙楊先生云併讀為承繼也余以伯長鼎銘陳侯因齊殷
銘成鼎銘師虎殷銘師酉殷銘證諸經傳故訓渙然冰釋怡然
理順無有疑義矣（考見本書上卷）是此銘云用朕乃祖考事者
謂繼其祖考之事業也供讀為承者楊氏所舉之外如釋名釋
親屬篇云姪甥曰滕滕承也承事嫡也而丁氏謂供即滕說文
云滕物相增加也則與銘文義相抵牾矣其別說雖未見由此
可知其無當凡丁氏不達故訓不通文例者類此（古編考卷中
一一至一二頁）

2014(3321)

楊樹達曰按併說文訓送與此銘文義不合字當讀為承詳
秦風權輿云于嗟乎不承權輿宣公十二年左傳云鄭師為承毛

公傳杜預注並云承繼也孟子滕文公下篇云不承哉武王烈趙
岐注云承續也楚辭招魂云朱明承夜兮王建注云承續也併
與承古音同在登部聲亦相近故二字得通用釋名釋親屬云
姪甥曰滕滕承也併滕古今字此併承聲近之證也（續微六十
六頁豆閉殷說）

吳闓生曰併滕同字承也（古文卷二第二〇頁豆閉殷）

陳慶家曰字書所無以文義來看當是虞續嗣續之義（金選二
八〇頁西周銅器斷代 76 頁豆閉殷）

李孝定曰按併字容氏金文編初版收入八卷人部併字條下
以為併字異文其說是也增訂版別之附錄蓋又疑之矣楊樹

2015(3321)

達氏說此字甚精關可以小篆从大即之形論之又之繁
變也

2016(3321)

李孝定曰疑傳之異文从山與龍節作

李孝定曰疑傳之異文从山與龍節作

李孝定曰字不可識

李孝定曰字不可識

2018(3323)

2017(3322)

高田忠周曰按从匕實及人也其形器文完蓋文殘缺又

高田忠周曰按从匕實及人也其形器文完蓋文殘缺又

更

郭沫若曰紹字兩見一作倣一作倣乃倣形刀聲之字且繫于

郭沫若曰紹字兩見一作倣一作倣乃倣形刀聲之字且繫于

2020(3324)

2019(3324)

吳閨生釋像見吉文卷三第七頁并伯敦

朱芳園曰：字从言，聲。爲象獸形。從義文，改爲畜，聲。註之當即鮑之初文。爾雅釋獸：鮑，鼠郭注。今鮑似鼠，赤黃色，大尾，啖鼠。說文鼠部：鮑，如鼠，赤黃而大，食鼠者。从鼠，由聲。廣雅釋獸：鼠，狼鮑。王念孫曰：今俗通呼黃鼠狼，頭上之鼠，與金文孫字所从之鼠，亦作鼠，相同。說文鼠部：鼠，鼠也。从鼠，厂聲。又鼠部：鼠，鼠也。从鼠，持，是蓋獺。獲此物時，用繩索繫其頸而懸之，詩魏風伐檀：胡瞻爾庭有縣貍兮。此即其形象，惟所懸之物略異耳。如若皆其變形，從言之縣，與由音同字通。荀子禮論：先王恐其不文也。

是以錄其期足之日也揚注錄讀如由漢書元帝紀不知所錄頗注錄與由同是其証形義既符音亦切合各之為訛可無疑矣（釋叢卷上十一頁錄）

李孝定曰字右側象獸形。象其首。與契文篆字从者同意。下之。象耳形。从象獸之豐尾。與習見之卜有別。亦猶狼字作。亦特異其尾也。郭氏謂左从刀聲。因讀為紹。說蓋可從。惟篆定作。則未安。不如逆釋作。紹為長。本字右象。紹形。篆文改為从彡。亦猶从虫从。之。比以共名代專名。為文字變。亂之通例也。朱氏謂為从糸。可商。蓋由先有釋帥之一念。因傳會為絲。以成其說耳。柯氏說殊無理致。而田氏釋為信讀為。其說與朱氏略近。

2022 (3324)

2021 (3324)

周法高曰：古川靜樸作貍，解為熊，貌之屬。金文通釋第二五
群二八九頁一四

七
 人
 伯也鼎
 <000>
 白伯
 △
 亡
 孝△
 差有册

李孝定曰：「不知是一字，抑二字，不可識。」

204(3325)

2023 (1324)

甲

曾無印堂△安林為謀修焉
問之無碼

劉節曰望字从郭沫若說唐蘭氏釋虐於義難通字體亦不合
(攷存一二三頁壽縣所出楚器考釋)

郭沫若釋望見兩改一六六頁曾姬無郵壺

李孝定曰郭氏釋望於形差近惟金文望字習見均从豎目从
月與九有別說宜存疑

2025 (3326)

甲

李孝定曰李曾誤讀誤釋
甲字从衣从甲

劉心源曰俗說文甲作甲此从丁為甲有甲者鏡衣故从衣是
甲之會意字或曰今即中丁衣省奇詁卷十六十二頁伯長鼎

孫詒讓曰詒讓案命字阮釋為袞袞說文衣部袞從衣公聲是袞固袞
衣袞作命親本龍鼓錫女固袞衣袞作命親本龍鼓錫女固袞衣袞

佗金文大姑公聲與小篆同此非命字既與諸器袞字不
同且中込丁不込公若呂為袞則失其聲矣竊謂此即甲之變體說文

甲象木戴字甲之象古文佗命此佗命者從衣從甲省甲為日名藉為
戴衣之名因沾衣而省○此形聲聲乳之側也(拾遺中十七頁康鼎)

丁佛言曰今康鼎甲胃干戈古甲字从衣从丁許氏說从木戴
字甲之象(古編補遺卷十四第六頁)

2026 (3327)

高田忠周曰按孫詒讓氏之攷精義至瑣可從今更讀曰鍾鼎

古文甲多作十猶與祿古文作祿从十同甲字亦當作甲為正
其作甲者省文也然則十十皆為古文甲字無異而字又从十

者於六義實屬會意蓋古有从衣从甲東衣字以為戎衣之專字
作甲者為段借字其實東亦甲之轉義吳文(古編篇七十七舉
七頁)

高鴻鑑曰說文小畫也从八从人人各有介古拜切
按說解以借意為本意非也此乃介胃之介之本字羅振玉以

為象人衣聯革之形是也字倚介畫衣聯革之形由物形生
意故為聯革之介名詞周時有介字見康鼎文曰賜介萬干戈

(即介胃干戈)作命者衣為意符著其屬丁為形蓋一象介之兩
袖一象介之身亦屬倚文畫物由物生意字以介胃為本意以

鱗介為借意或又通以代疆界之界故有介畫取介等意後或
通段甲乙之甲以代介久而甲胃甲蟲甲壳等詞乃習以為常

實皆以介為本字皆應以介為初借字而甲則同音通段也(字
例二篇二四二通)

于省吾曰衣部釋甲(雙選卷下二第十頁康鼎)

李孝定曰此字釋甲釋介於義均是於形則未安甲字金甲文
習見均作十或采上甲字作田為小篆作甲所自昉然從未見

省作丁者不應此字獨異高氏謂丁象介形則與从衣意複意
有未安存疑為是

2028 (3327)

七頁

2027 (3327)

文士部張字重文作斤。即斤聲。良聲相通之證。毛詩大雅韓奕傳云：軼式中也。爾雅釋器云：輿車前謂之軼。郭璞注云：軼以車軼車軼是。與同音。軼式改二物同舉。古籍論三案。孫綽尚有可商。爾雅說報。諸通合。譚部璞以車軼車軼釋之。雖若有所實。指然前人已有疑之者。郭璞行爾雅義疏云：報者說文云：車軼前曰報。詩載馳引李巡曰：輿車前謂之報。前以車為師。曰報。郭云：以車軼車軼者。說文：軼車前也。詩韓奕傳：軼車也。軼軼中也是。軼軼即車前。郭蓋本此為說。但軼中名軼不名報。恐非也。郭又云：郭注軼當為軼字之誤。即璞以報軼為一物。其所本當如郭所言。非必另有確證。孫今復祖郭說。則是金文諸器既言軼又言報矣。且如桑伯戎說：吳尊固新分言師。允設單言新而不言固。可知固與新斷非一物。亦不必同屬於軼。

2037(3329)

余謂新乃新之古字。說文：新當磨也。从革斤聲。左氏定九年傳：吾從子如勝之有新。正義云：勝馬之有當服馬之胸。胸上有新。秦風小戎游環背驪傳云：游環新環也。游在背上所以禦出也。要云游環在背上無當處。實勝之外。勝以策其出。是則新乃馬之胸衣。故古新字从衣。象其形。从上有環以貫驂馬之外。勝故从東。斤聲也。伯良鼎之畫所乃假所為之。尤足證字之當从斤聲。至報與新。余謂當為一字。均新字之晚出者也。以馬而古。新當其磨。故曰新當磨。以車而言。則新在最新。故曰輿車前其實一也。說文既收新字。復以報字同出者。殆漢人據爾雅文所竄改其說。解云：車軼前曰報。全襲爾雅文。正其左證。郭璞求之不得。誤以軼當之。李巡謂輿前以革為車軼。則從順文為解而已。又廣雅釋器：彌軼謂之新。則以新為繫軼之類。

2038(3329)

說文：輿車衡三束也。曲軼輿縛。直軼輿縛。輿縛即是彌軼。此恐新字義之後起者。既知新之為新。則固斷自是二事。故未較與吳尊分言。(金攷二七一頁至二七二頁毛公鼎)

張之綱曰：徐月相釋儀云：从衣折聲。其象也。詩梁山傳：儀覆式也。據古釋：儀字與此。案：爾雅仍徐釋：孫伯謙釋：盤云：此字不可識。余伯戎說：收敵實置。吳尊諸器並有此字。與此相似。舊釋儀：釋：儀折折並不塙。此文从新左形。似恭又似木。攷古折折二字形近。可通。此新刻疑即盤之異文。說文：金部盤：車禮結也。从金。折聲。讀若誓。盤為車禮結。與輿同為車前。及兩旁革飾蓋皆以朱。輿為之。故連類舉之。綱案：新字孫氏所誤。古猶餘論於格仲尊。余伯戎說：蓋兩器中此字並釋為報之異文。謂古斤聲良。

2039(3329)

聲相通而於此。錫則又釋為誓字。前後不同。推其意。輿訓以車。軼車軼輿。輿與誓相似。錫記所錫車服。必不同。指車軼一事言。故又審校字形。从月从衣而釋之。為誓較之釋輿于義近。是然徐釋儀與詩釋義合。且折蔑古音同部。可通。似不得盡以為非。惟據古釋上文。辭字為聲。聲轉義同。則此文自不可再釋作儀。故釋此為輿。與誓釋為折也。竊疑此字似即今之縵字。而讀則為輿。所謂長較之輿。以朱約之也。說文：衣部縵。从衣是聲。或作祇。故禮記檀弓：吉事欲其折折。爾雅注：折折安舒。兒詩：好人提提。是鄭氏讀折為提。蓋古文提折聲通。提从是聲。縵亦从是聲。縵或从衣作祇。是氏古通。故或轉从氏。而此錫實借為輿字。屬之上文。朱鑒輿為句于義似合。若然。則上文辭字據古釋。聲說可通。而下文官字亦當仍舊釋為輿。庶幾各當其義。

2040(3329)

轉通段義近于鑿姑附此以備商榷(新釋十三頁)

吳大澂曰疑古職字(意齋十一冊三頁秉伯戎啟)

劉心源曰襟从束从新即繫說文繫衣至地也从衣野聲竹角切直音云襟測角切短衣也此結蓋合襟繫二字為之無論其短其義則衣也說文補短衣也即襟又云褊弓衣也禮明堂位載孤褊注孤褊旗所以張幅也其衣若褊廣雅釋器褊弓藏也內則敝單而褊之注褊褊也是褊褊通用襟蓋孤褊字矣(卷二第四十九頁毛公鼎)

吳闓生曰新即懷字履賦也(古文卷一第四頁毛公鼎)

2042 (3329)

李孝定曰此字着釋紛紜莫可究詰釋析釋懷均無詳解可置勿論高田氏引孫詒讓說為言其說支離未有確證惟郭氏釋新最有理致然亦由孫說釋報得之郭氏說新為馬之胸衣以証說文當膚之訓殊見巧思與金文結辭所見此字上下文言馬具車飾之意亦合說蓋可從其他諸說未暇一一辨之矣

《大雅》朱統固新
《知》朱統固新
《新》

2042 (3329)

教伯自
《義》
《義》

李孝定曰此字上从人或尸下半所从不知何字全字不可識

𠂔

仲皇父
《義》
《義》

高田忠周曰按文曰王中皇父作𠂔𠂔盤盂𠂔𠂔即與婦嬪同志服事之義也而依義形正良字也尸下从又又从𠂔即手字此為補增之類(古籀篇五十六第二八頁)

李孝定曰高田氏釋良云依義形正良字也其說可商補增之字有重疊其偏旁者然未見有从手从又重疊之字此疑尾字異構

2044 (3331)

2043 (3330)

履

履蓋 △色履 履伯

實蓋蓋

于省吾釋履見雙劍上十三頁考釋三頁履字履白體蓋

李孝定曰于氏隸定作履可入人名無義可說

2045(3332)

殊

殊伯殊鼎 李伯△作

△實蓋

李孝定曰文似从舟从車字不可識

2046(3333)

胙

胙蓋 △色胙 胙伯

實胙

李孝定曰文似从舟从步或从步不可識

2047(3334)

𨾏

說文𨾏或公骨作𨾏

𨾏有蓋六

李孝定曰容氏隸定作𨾏謂即𨾏字說似可以

2048(3335)

磨

△作寶堂

2050(3337)

高田忠周曰阮氏云乳養也。五穀所以養人也。按阮釋是而
其訓義非說文。鄭人及鳥生子曰乳。獸曰產。从孚从乙。乙者玄
鳥也。明堂月令玄鳥至之日祠于高禘。以請子。故乳从乙。請子
必以乙至之日者。乙春分來秋分去。關生之候。鳥少昊司分之

2052 (3338)

2051 (3338)

吳蘭生曰：「既即易有孚盈缶之孚，阮釋乳誤言文卷四第二頁叔朕蓋。」

李孝定曰：「契文有乳字，作𠂔，象乳子之形，與此略近。阮氏釋此不為無據，然此文右旁諸變已甚，亦未見乳子之象，讀其銘辭，釋乳似未安，以劉郭諸氏之說為長。」

2053 (3338)

大蓋 女 嬰 履 大易 錫 里 (履)

吳式芬曰：「許印林說：履古文从舟从頁从足，此省足猶齊侯鐘作踴省舟也。左傳僖四年賜我先君履，注云履所踐履之界，據古卷三之三二十六頁大數蓋。」

孫詒讓曰：「自吳釋舟于形不誤，而自舟為舃，舃音月為舃，涂則義不可通。譚案：銘文月字增綴，音字下其形甚小，當自音月二字合為道字。古逸之字有變，逸月者，鄒子重用，聲去其義，舃即道字。說文造必正告聲，古文舃，舃月是其證，道即導之段字。」（拾遺下十頁周焚燬鼓）

2054 (3339)

強運開曰：「自大數蓋象以嬰履大錫里，从頁从舟省足，自大數蓋又一器从頁从止省舟止亦足也。」（古籀三補卷八第八頁）

高田忠周曰：「按說文，𠂔，面也。从頁从肉，朱氏聲。云按肉聲讀若素，字亦作𠂔，時抑聲素，爾雅：國語：威施，面素皆以素為之。蓋此義當以解結意，大映皆王之臣，並有封邑者也。王令善夫名民者，傳命于映，以映封邑，改賜大也。映敬王命，弗敢愛，濟好意而求行易里之事也。於是大就其封大以賓饗，以賓禮厚遇民，與映文義至順，趙即造字假借，𠂔或作𠂔，見集韻，依此篆為古文也。此篆有釋作首舟二字，非是。」（古籀篇四十五第五頁）

2055 (3339)

郭沫若曰：「履，履有字，今作履。」（兩攷八十七頁大數）

柯昌濟曰：「說文履足所依也，从尸从彳从女，舟象履形，𠂔古文與此字正合。」（解華一八三頁大數）

李孝定曰：「此篇第一文从頁从止，第二文雖為變而近於舟，亦不宜附會為許書履之古文。𠂔蓋从頁从舟，亦未見有着履之象，孫大樸道說似較長。高田氏釋𠂔讀為素謂是从肉於形愈遠矣。」

劉心源釋作𠂔，曰：「𠂔者，釋作𠂔，非說文𠂔待也。从立，須聲，專用須而無入，𠂔矣。此字从頁即𠂔，亦即𠂔，上𠂔為古文首，从𠂔小篆用𠂔，為須耳。」（古籀卷六第三頁大數）

2056 (3339)

設設中橋置置
設設△駒岡作

文乙事

李孝定曰按金文見字多造作𠂔𠂔𠂔諸形與此文相
較惟𠂔从人形之𠂔有異耳字當釋良見者目前視良字有
反顧之象易曰反其背不獲其身是其義也古文望从豎目卧
象俯視見則前瞻良取反顧製字之妙於此可觀矣

赤喙忠臣與皇(是字融)然錫字有作即之例故當以西字爲準
鑑之說解作錫字也(殷金文孝鐸六八頁華子彝卅)林深明謹

2057(3340)

7.5> Δ 也女丰博真

(2)
7
△易錫
婦聖

李孝定曰：「从頁从鼎與許書頂字篇文正同書是頂字本銘頂
為入名。」

2058(3341)

天龍帝釋鼎
天龍帝釋鼎

天龍島

李孝定曰與小篆類字形近未知是此字否。

庚娘馬
庚娘乍叔△尊馬
(A.C.)

庚辰年秋△華高 (A.C.)

徐同柏曰：嫗髮者文通作嫗髮，韓女嫗同，易鄭注：佗女須。本影須髮字，故字又作鬚，字書：嫗同髮，恐是同鬚之訛。（从

古卷六、四十三頁國庚姬鬲

吳大澂曰附从女从頁說文無此字庚姬甬姬作𠂔𠂔古籀補附錄二十三頁

高田忠周釋塊曰按元釋地安殊甚吳大澂釋頤亦非如吳釋亦為鑿妄可通而此亦蓋鬼異文。自亦象形。古篇篇三十八第三
(二夏)

二五

2060(3343)

2059 (3342)

周名燁曰：女部中，度，姪止。叔規專兩，說文所無，集韻胡典切。音峴，女字也。強氏定為集韻規字。今考定為姪字古文。
 名燁案：意齋集古錄卷十七冊九葉載此銘云：吳清卿識。考定為南字，見周姪作叔姪。此第一器銘文，陳高永寶用此篆。金文研究集。吳清卿識。今人吳子馨定為姪字，甚當。其文从女从多，或作从多皆鬼字古文。即說文之白字所謂鬼頭象形其作。形尤與說文目篆所謂頭也象形之文相合。與目字篆文作目古文作四，圓形者有別，即以強書所錄如芮子鼎，姪字作。復公子毀銘，姪字作，皆从女从多，而多字从白从人，與此篆合。說文鬼，始云：南姪作叔姪，陳高永寶用此篆。銘論之矣。周金文研究。叔姪為姪姓之女，姪之通婚與春秋僖公二十三年傳狄人伐虜，咎如獲其二女，叔姪李姪納諸公子。

2061(3343)

晉文公重耳姬姓。公子取李姬之事，相類。南姪蓋叔姪之女，為其母作。不姪姓。
 器也(古編考卷下二。至二一頁)
 李孝定曰：右旁从見或稍異，釋為从頁，猶不相遠。實未見與鬼字相近也。左旁異，用字差近，而諸家均釋為从女，實所未喻。金文女字及从女之偏旁多見，未見有如此作者。惟本蓋諸家釋姪之字作，亦與它器姪字懸異，因當存疑，不當並此亦釋為从女也。

2062(3343)

高田忠周曰：按从馬从𠂔，說文所無。然說文𠂔字，經傳多作𠂔，而其本字為𠂔，蓋其與𠂔古音同部，固可通用。即如駢與𠂔同字，說文駢馬青驪文，如博基也，从馬其聲(古編篇九十二第一。頁)
 李孝定曰：高田氏說此文左旁从𠂔，可从右旁似見而異，不知何字。高田氏釋為从馬待商。

2063(3344)

強運開曰：魚亡羅振玉曰：此當是顛頂之頂字，借亡鼎(古編三補卷九第一頁)
 李孝定曰：羅說可从，參見334條。

2064(3345)

獻

獻侯之字，唯或王太才在宗

周南字獻侯之字

李孝定曰：當錄定作獻，入行字不可識。

白川靜四郭陳二氏以顯為獻公之私名，綴遺云：獻侯名意連。

字例顯

賜貝之時往往有將得貝之地加以說明之例，如：

繇尊 丁巳王省夔且王易小臣繼夔貝。

小臣繼夔 王令易自率征自五顯貝小臣繼夔層累易貝

雖可認為與此兩者同例，然據對天子則用私名之義，姑以是

為私名，字在盾之周圍列四口，象祝冊，祝禱之象，其進字之意

與與顯相近（金文通釋第七輯三三五—三三六頁二九）獻侯

鼎林深明譯

獻

董經堂：△釋卜寶堂

李孝定曰：从首與从頁同，下半不可辨，似為心省，然則當是顯

傳

師許鼎 白德文通得

△古三百字

郭沫若曰：疑顯即顯字之異，讀為獻。（兩政二十六頁師許鼎）

郭沫若曰：顯字不識，疑是顯字之異，讀為獻。（金文三七一頁

師許鼎）

周法高曰：鼎銘的顯字從絲從頁，歷來都沒有確當的解釋。

郭氏續攷：顯字不識，疑是顯字之異，讀為獻，古與今對文古

三百寺蓋假制假字必重於周，故言今弗克厥罰也。

吳其昌疏證：此銘方顯與夏古皆為地名。白懋父怒其不

從王至方顯，故白懋父通罰其所得于夏古地方之二百歲。

容庚善圖考釋：顯古未詳。

吳蘭生吉金文選得即貝字呂重字貝字正同羅古蓋貨貝之名

按大豐殷顯考字作顯從絲從頁從頁與從頁同說文日部羅象微妙也从日中視絲古文以為顯字或以為顯顯不羅曹休作羅顯則作顯是顯羅顯諸字並可通鼎銘的羅疑假為顯說文糸部純古文蘭从糸見見字也許是頁的訛變吧沈士石鼓文研究三專寶號輔仁學誌十三卷一二合期17.63.68(民國三十四年1945)謂一茲與玄茲同字二茲茲於古兼有牽引之義說文玄田為玄即章之省三茲茲有玄茲兩讀取象於絲之形者其義由一原而分為四派一茲茲有玄茲兩讀取象於絲之形者其義由一原而分為四派一茲茲有玄茲兩讀取象於絲之形者其義由一原而分為四派

2069(3348)

楊樹達曰吳蘭生以羅古為貨貝之名台鼎云通俾歡以召酒及羊茲三專用致茲人吳蘭生亦疑羊茲為貨貝之名文錄一卷辛白鼎云乙已克茲五十牛見小校經閣式曰茲曰羅其字皆以茲余疑其為一事也(積微二八四頁師旅鼎跋)

聞一多曰茲即說文糸之羅文錄宋系居即聯繫成串之琚也(聞一多全集二第五九四頁璞堂雜識)

2070(3348)

李孝定曰从目从絲可得顯義其形又於羅顯諸氏釋顯可從聞氏誤釋為茲蓋誤月為小矣
白川靜四書古三字係羅顯蓋庸中作主釋文錄以為茲貨貝之名然乃以上文之得釋休以之為是誤明說已部改得茲二字連讀

文錄中以台鼎之以台酒及羊茲三專用致茲人之手茲與上茲同為貨貝之名

羅思為絲束之名或為羅之古名亦未可知辛白鼎小校三有口茲乃子克羅五十牛楊以以為本茲之羅古與辛白鼎之克羅為相同之羅思克羅人之已(金文通釋第十三輯七五七頁六七師析鼎林澤明釋)

2071(3348)

乙亥鼎 尸△蓋
衛馬王旁賣貨貝 王△商
徐同柏曰尤就省(从古卷十一二十頁商糾集)

2072(3349)

吳大澂曰乙亥方鼎 丁△太保敦 才△子敦三字相類隸今之古文古籀補錄九頁
劉心源曰乙亥當令之異文辛子敦王△賣貨明金文義亦是令讀無命也(奇觚卷二四頁釋鼎)
強連開曰乙亥大保敦克當令

持尸形非是實皆為古敬字也與孟鼎敬省亡同特訂正之
(古鑑三補卷九第三頁)

周名輝曰名輝案字上三列象火之形與字從火同
山同意故客庚金文編重定本所錄與余跋泰始集二世詔版
論皇字說見孔傳萬里相應由是汪榮寶顧實齋皇字之議得
余而定之古鑑考卷上一三頁

楊樹達曰字吳閔生于思泊並釋光是也古火字作此从省
火也(種微一六五頁尹光鼎跋)

楊樹達曰字徐同指釋為尤吳式芬據古錄金文從之
今按徐說非也此字與尹光鼎字同上从火省下从人乃光
字也光商者光讀為既商讀為實二字同義連文也守宮專云
周師光守宮事字當假云王榮宰當貝五朋委與光同此皆單

言光者當商云子光商當貝二朋與此銘皆以光實連文者也
叔夷鐘云敢再拜稽首應受君公之賜光此以光與賜連文者
也(種微一六六頁鄭彝跋)

李孝定曰釋金釋敬均屬比附辭意釋光於字形差近然亦以
从火與金文从火偏旁不合唐文庵先生古文字學導論釋此
為光未詳字宜存疑

2074 (3349)

吳大澂曰

陳介祺說子執于形作父丁蓋古鑑補附錄
二十三頁

劉心源曰印从丁說文部省下作丁即此从丁即已已當邑
省疑印字也或釋子于二字非寄脈卷六三三頁左印蓋

高田忠周曰按古鑑附錄引又引陳介祺說子執于形非今鑑
右即人形實凡之省也凡有所執之意从凡與从手同意揚字
亦从凡作執可證又左作即與同古戰字也于為干犯字
故从一指事戰為干戈字作于以象形後从戈單聲遂為
形聲戰者盾也人手執凡于盾此為打字不容疑焉說文舛枝
也从手于聲朱氏聲聲云按指柱之意莊子釋文引說文抵也

因謂規字訓擊也即人手執戈主于犯外打即規人手執干
主于守內因轉為抵觸義也然則規規兩字義相反矣然志戈
打人名(古鑑篇五十五第三五至三六頁)

馬叙倫曰陽為說文之祝字從公即拜手之拜本字甲文祝字
作斯形陽陽其謂字所從之公與此一字全文禽鼎祝字
所從之公亦拜也其更具體者為與與及文之同說
文齋之補文作其所從之公即其說文也丁為示之轉

注字示初文當作從天之本字作一者即說文之晶
字晶為星之初文乃象星之多而非從日也變為四再
變為川又誤為川故說文示之古文作而矣(種微本知非日
月星而但為星者初民之觀念同三辰並專亦三辰並有祭

2076 (3350)

2075 (3350)

祀。然上古巢居穴處，所患者風雨，有風雨則不能安居也。且亦無所得食，若星見則無風雨可期，故以為神示其凶吉，以無星為凶，有星為吉。姚鼐以為星即暗字是也，是示之本義為表示，因而崇拜之而有祭祀之報焉，故即借示為祭祀之字。說文禮祭諸文所以從示也。及從又持肉於示前之祭字作，遂為祭祀之本字，而祭祀乃有專名，示亦復其本義。說文示部所屬如神祇禍崇諸文，即從表示之義者也。文從一〇〇會意，甲文或作丁，蓋本作一〇，僅以一星表之，或作工，則從天之本字，地之初文，並作一者，或作示，則星有大小，作丁則變體，作王蓋又王之變，此作丁者，從一十聲，十音釋紐，示音林三，因為舌面音，古讀又同歸於定也。蓋本作示，從示而加十為聲，故金文通伯敦宗字作示，仲

2077 (3350)

追父故作俞，或者鼎有祔字，亦從示而作示也。丁蓋其省耳。
(刻詞一九頁至一二〇頁父丁蓋)

吳式芬釋子干二字見據古二之一第十四頁立戈父丁蓋

郭沫若曰殷彝有戈祝蓋曰戈，形作文父丁彝，此以卜辭之祝或作𠄎，後下廿，若𠄎同上，十劍之自是祝字，其為象形更顯著，可知余說之非妄誕矣。知此則可知卜辭於天神地祇人鬼何以皆稱示，蓋示之初意本即生殖神之偶像也。又凡从示之字，得此亦賴若明白如畫，故宋即祀此神象之地，祀象人跪於此神象之前，祝象跪而有祈禱告祭，則持肉臣獻於神，凡此等字均卜辭所有，且多未脫圖畫文字之吟域，按其意實象形文字也。
(甲研釋祖妣第十二頁)(象釋附略)

2078 (3350)

李孝定曰：當从郭馬兩氏之說，釋「祝」而兩家說「示」之志均不可。从請參看甲骨文字彙釋「示」條。高田氏亦从舊說从「干」而釋此為「干」，實未審金甲文固別有「干」字也。

2079 (3350)

𠄎

𠄎

𠄎

𠄎

𠄎

𠄎

𠄎

𠄎

李孝定曰：右从尸而左不可知，未由隸定。

2080 (3351)

𠂔

吳大澂曰字當釋刊列與作專章也念齋廿三冊第二十頁

婦

劉心源曰疑是从弓从于即邦省奇觚卷七第二九頁樂婦

吳大澂曰字當釋刊列與作專章也念齋廿三冊第二十頁

劉心源曰疑是从弓从于即邦省奇觚卷七第二九頁樂婦

方清蓋釋化見無遺卷十六第三十一頁泉婦

柯昌濟曰疑于之變體(釋華三〇九頁亮婦)

李孝定曰从于从尸字不可識

素嫁忘曰邦曰乙邦字或解作列或解作化或解作人(奇觚)然其不安當以音作于相近之音求之即疑也疑女性之先祖有姓姓字等然解以定有疑字曰乙謂于乙日祭祀之意也以乙為具神號音也(殷金文考釋二四一二五頁廣婦)

𠂔

吳大澂曰疑即我字右旁似戈非(念齋二十四冊二頁陳太公子和子區)

劉心源曰則从昂即鼎字(奇觚卷六三七頁子木子釜)

高田忠周曰按劉心源釋則非銘上文有斜字作解此从子與彼合此亦从斗也左旁作昂未詳大者人也或疑為兒字異文但斗部無斜姑存于此或云此當斜字異文亦蓋非異文日自是為象形說文有窵無鹿古文从山通用山广同用此鹿即窵字也窵下曰深僻極也从火兆聲讀若挑轉義備雅釋言窵也又聞也七發目窵心與始意疑是也又漢書律歷志有鹿焉

注不滿之處也此日有空隙即不滿意即斜象形固不可定存參(白編卷二十七第四二頁)

李孝定曰从尸或从人左旁不可識高田氏之說莫可究詰

方清蓋釋定為欺見綴遺卷二十八第十八頁陳子木釜

郭沫若釋為劇見兩改二二一頁子木子釜

𡗗

字彙補 伐角△

吳大澂曰𡗗从庸从尸古文从邑之字或省从尸如孟鼎邦作𡗗之類知𡗗即邨之邨說文邨南夷國邨亦作庸書牧誓及庸蜀先鬲微盧彭濮人傳云庸濮在江漢之南憲齋五冊九頁馭方鼎

強運開釋邨曰𡗗(馭方鼎)王南征伐角𡗗吳憲齋云从庸从尸古文从邑之字或省从尸如孟鼎邦作𡗗之類說文邨南夷國與是鼎南征之文合(古籀三補卷六第九頁)

高田忠周曰按通字所从𡗗形作𡗗即知此左旁亦𡗗字右旁作𡗗非刀非尸自是人變然則此為𡗗字𡗗說文所不收集韻

僞狂也玉篇引甘泉賦揜變體而扶僞狂本亦作僞但僞亦許書所無朱氏駿聲云說文僞狂走也从走𡗗聲字亦作僞廣雅釋詁僞狂也又見呂覽明理亦作僞禮記禮運故為不僞疏證飛也亦作𡗗江賦鼓翅𡗗𡗗此說可從銘云角僞蓋亦僞更名或謂說文𡗗刮去惡瘡肉也从刀𡗗聲𡗗𡗗通𡗗古文𡗗𡗗相似釋者誤𡗗作僞猶過於穿此字舊釋或作僞如古籀補引陳介祺說𡗗字大澂疑為古邨字从邑从尸古本通用不僞亦甚矣又按趙通亦當同字回避也為本訓狂走為轉義狂走者行不正直也其狀與遠然回避同(古籀篇六十三第一三至一四頁)

柯昌濟曰𡗗古夷名从𡗗从尸尸即古夷狄夷字疑即古裔夷裔字左足十年傳齊侯以萊人叔魯侯孔子曰兩君好合而裔

2086 (3354)

2085 (3354)

夷之傳以兵亂之裔不謀夏云云裔南音近此字當為从𡗗𡗗即古裔夷字也(華一二八頁鹽侯鼎)

郭沫若釋觀曰角觀未詳疑即𡗗之屬(兩枚一。七頁鹽侯鼎)

李孝定曰字右旁从尸柯氏以為尸字謂字乃古夷名其說蓋是而左旁所从未可確指釋觀釋邨釋僞並覺未安

周法高曰鹽侯鼎王南征伐角觀大系頁一。七角觀未詳疑是𡗗之屬案角觀疑即𡗗𡗗左傳文十四年楚莊王立子

孔潘崇將襲𡗗𡗗使公子𡗗與子微守而伐𡗗杜注即𡗗舒春秋宣八年經楚人滅𡗗杜注𡗗𡗗二國名孔疏𡗗𡗗二

國名者蓋轉寫誤當云一國名案釋例土地名有𡗗𡗗舒𡗗𡗗舒𡗗舒𡗗以為五名則與文五年滅𡗗同阮氏校勘記

案云羅泌曰𡗗與𡗗𡗗別𡗗𡗗𡗗陶之後僞姓若𡗗又是一國僞之三年滅矣杜氏分𡗗𡗗為二國名孔氏遂以為即文五年楚所滅之𡗗皆臆說也按陸榮云是廣韻𡗗字有力竹切一讀隸屋韻三等來紐角字有盧谷切一讀隸屋韻一等來紐古音同隸殺氏第三部故得相通(金文零釋一二六至一二七頁釋觀)

2088 (3354)

2087 (3354)

酉

毛公鼎主
△標主
△標主
△標主

酉

△標主
△標主
△標主
△標主

△徐同柏曰：瑞字位屬戶薦省，與古文見从薦从見，服古薦也从戶省，古文揚从孔或从戶，同體玉人裸圭，魯語位也，主說文位瑞圭讀若暢，（从古卷十六二十八頁同毛公鼎）

△吳大澂曰：即說文云升高也，卷與玄同聲，相假卷圭當讀圭圭，卷四冊八頁毛公鼎

△吳大澂曰：即說文云升高也，卷與玄同聲，相假卷圭當讀圭圭，卷四冊八頁毛公鼎

△劉心源曰：說文作瑞，重文作瑞，古文作瑞，解云升高也，卷與玄同聲，相假卷圭當讀圭圭，卷四冊八頁毛公鼎

△丁佛言曰：即毛公鼎原書謂即鄭之省文案，與或从戶此特後戶於右非从邑省，（古補補卷三第六頁）

△吳寶煒曰：說文裸此兩字敬舉，酒象形，裸古文志，全疑作卷，（毛公鼎文正註十五頁）

△郭沫若曰：王國維云：字雖不可識，然毛公鼎有圭與矩，圭相將，蓋即圭主矣，然則鼎所云王乃傳之者，謂王裸方也，取方者王，謂取方酢王也，周礼大行人，侯伯之礼，王礼一裸而酢，即此事也，（見堂訓集，今案王說至確，蓋傳即圭主之錄文）

見康亦即古裸字，从人从収以奉圭，讀也，舊或釋為僂，卷字有異，卷與裸諸形，形音雖相近而實有不同，不可混也，（兩汶一〇八頁，蓋侯新）

張之綱曰：徐同柏釋瑞據古釋獻，卷齊釋卷讀為玄孫云，說文無此字，徐吳所釋皆未瑣，以文義推之，疑當从庸从戶或瑞圭之異文，說文玉部瑞圭，公所執是也，从戶者瑞戶義同，綱案鄭左上从戶與曰同意，（此左上下兩字，散漫似連，當故孫疑从虎實非，小篆兩下不連形異，左下从昇聲，昇為瑞文，并升，桓古音同，部猶錄之，宿文作瑞，从昇聲，其證也，右从戶，瑞義同，當為桓圭正字，蓋桓為借字，瑞為後起字也，非此器幾不知古文有此字矣，孫氏以覆本左上作虎，據文義推測，疑為瑞字，其深識有足多者，故詮

釋形聲以申之，若卷齊釋卷實大誤，（新釋十一頁）

高鴻緝曰：說文瑞升高也，从昇，句聲，或从戶，古文昇，七然切

又謂登也，从足，卷聲，瑞古文還，从手，西，七然切，席記卷古還字，地理志引春秋經云，衛卷于帝邱

按字倚昇，畫物形，白，即所昇之物也，由文昇生意，故託卷物之形，以寄卷之義，動詞後人加足，增移動意，作還，還行而卷，廢三體石經還之古文作瑞，即許書卷下古文毛公鼎卷字作瑞，所卷之物為瑞形，从升與从昇同，（同即聲聲，與卷陰陽對轉，又取方鼎作瑞，所卷之物為量及物形，變為白，故許以為白聲，字例二篇二九六頁）

王國維曰：『鄧侯侯方鼎作『𠂔』，小孟鼎作『𠂔』，皆作『𠂔』，案說文『𠂔』部，與『𠂔』高也，以『𠂔』，何聲？『𠂔』，或从『𠂔』，實从人，許君从『𠂔』，又人部，『𠂔』从人，从『𠂔』，亦聲，案『𠂔』形與『𠂔』近，其或體『𠂔』字，从『𠂔』，从人，疑即『𠂔』，『𠂔』二字，至人部之『𠂔』，既从『𠂔』，又从人，字尤繁贅，實亦『𠂔』字也。』
(觀堂二〇一五頁毛公鼎銘考釋)

于省吾釋『𠂔』讀作『遷』，曰：『說文：『遷』，登也。謂登之于府庫也。』
(遷卷上二第六頁『𠂔』侯鼎)

柯昌濟曰：『遷字从『𠂔』，義文。』
(釋華一二八頁『𠂔』侯鼎)

李孝定曰：『以字形言，諸家釋『𠂔』者是也。』張之洞讀毛公鼎『𠂔』主為『𠂔』，亦是『𠂔』侯鼎，王乃『𠂔』之疑，當讀為『𠂔』，之『𠂔』，獻古音同部。

郭氏據王國維說，遷釋為『𠂔』，似覺未安。

2094(3355)

2093(3355)

①

居鼎

△居婦媿

②

居鼎

△居婦媿

阮元曰：『案說文解，『𠂔』字云：『象人裹妊，已在中，象子未成形也。』此銘
△內作子未成形，是古『𠂔』字通，與『𠂔』字注，『𠂔』如妊之圖。』(續
古卷四四頁包君鼎)

方濬益曰：『勺中从『𠂔』，亦人之象形，與篆文从『𠂔』同意，釋為古文
『𠂔』字說自可通。』(綴遺卷十四三十三頁包君鼎)

劉心源曰：『中作『𠂔』，乃倒『𠂔』，即友之古文，見無量鼎。』
友有通用『𠂔』中友，即『𠂔』中有富是『𠂔』之古文。 (奇觚卷十六四頁
規鼎)

2095(3356)

高田忠周曰：『按說文，『𠂔』，覆車也。从『𠂔』，『𠂔』聲。詩曰：『維難于『𠂔』。』或作
『𠂔』，从『𠂔』，『𠂔』聲也。古字省文，段借之例，唯當以『𠂔』以『𠂔』為之。許
於此下引『𠂔』，爰詩以證字義也。蓋『𠂔』之言『𠂔』也。『𠂔』以『𠂔』為
也。毛詩作『𠂔』，爾雅亦同。許先出『𠂔』，當从三家意，以『𠂔』為正。』
(篇十七第一五頁)

高田忠周曰：『說文：『𠂔』，象人裹妊，已在中，象子未成形，即此字也。
元氣起於子，子人所生也。男左行三十，女右行二十，俱立於巳
為夫婦，裹妊於巳，巳為子十月而生。男起巳至寅，女起巳至申
故男年始寅，女年始申也。又『𠂔』，裹也。象人由形有所包裹也。經
傳皆借『𠂔』為之。然以人由形為字者，與『𠂔』字作『𠂔』以象腹裹者
不同。小篆作『𠂔』，从『𠂔』，誤矣。今見金文，圖作『𠂔』，作『𠂔』，作『𠂔』，即

2096(3356)

知門是小篆之也然則說文門部文字或應有可以△者也
若果有之△皆△之省也又金文門字亦作△此變文而與他
字形相涉者也△字每字所从△疑元从門之△△猶與穴同
意也又△字亦从△疑△△互通用而小篆皆混于門部耳
按△者△之缺△以象手足其意生長于已而未成人形也△
篇四十第一五至一六頁

△柯昌濟曰阮釋包案之形誼胥不相合考宗周鐘數熊熊之
熊字上方所从與此字特小異耳疑從熊字省文从口熊楚姓
也楚之先在夏商立國稱熊不稱楚殷武所伐之荊楚乃別一
南夷熊繹熊通皆以國為氏亦非以鬻熊之名而然鬻熊疑亦
非人名乃氏名也蓋熊之為氏稱實肇于陸終之孫穴熊穴熊
音近其所以為稱與夏有熊見於左傳殷有熊盈氏見逸周

書皆其證矣此器之圖字既從熊從熊字之圖未見左傳而楚
實氏熊則是國當即熊又即楚稱尤也華六七至六八頁圖
君婦鼎

李孝定曰案字从△非△字△乃人形之稍變者而此亦周
之形非一字也其中从△類動物之形不解何字要非△未
成△可知阮氏說誤高田氏申阮氏說釋為△蓋以中所以為
兔形然字不从△中亦不似兔形說亦無據劉氏以為圖字圖
圖字均从口不从△又何以中从側友均不可解柯氏據篆字
舊說釋熊為言所據已誤則此字之不當釋熊可以無辯諸說
並宜存疑

△

堅次盧

△ 王季次之
△ 堅次盧

郭沫若曰余意乃察之別構從△發聲△即炒字小篆作
△說文云△南教也从△南發聲才言作△云△乾也△晉之
△或謂之△郭注△即△字又注爾雅釋草云△稀有可以燂
食△釋文引三倉燂熟也一切經音義云△炒古文△南煮△熟
四形今作△南崔寔四民月令作△炒古文奇字作△今此字
从△作△知炒亦古文矣从△發聲與△△發聲同字在此
讀為燂△兩改一八二頁眼次燂

郭沫若曰廣者察之別構也察字毛公鼎作△新出失金彝
及矢令段均作△從△下象呂中有火以難柴呂者鑪也此從

△與△同意△火字也如沈兒鐘庶字作△(石鼓文庶字亦
如是作)子仲姜鐘裝(第)字作△曾伯裘簋印燂又鄧湯字
作△晉邦蓋變字亦作△所從火字均作△與△字相混
大抵皆東周人書法也故此從△少聲符也少聲與△聲同在
臂部故知△即是察矣字在此乃讀為燂庶盧者尋常燂
炭之鑪也(青研一〇七頁新鄭古器之一二考校)
李孝定曰郭氏謂从△炒聲讀為燂竊謂△乃後加運轉為炒
或較長

𡩺

終上自 𡩺 王字子

△咸園

劉心源曰：𡩺向釋廐未確，今闕疑案。从厂从俗，於厓字為近。奇𡩺卷六十四頁貉子自。

高田忠周曰：𡩺从广尤明顯，𡩺即𡩺異文，𡩺即𡩺而說文無𡩺。依詢詁同字例，有即𡩺異文，說文廐廐也。从广包聲是也。劉氏古文審云：廐字，𡩺與𡩺同，非是。但𡩺意疑地名，說文卽下曰：地名从邑包聲，或是也。又𡩺字本義，周禮天官庖人左東元年傳為之庖，正莊子養生主庖丁皆是也。𡩺音篇篇七十三第五至六頁。

柯昌濟曰：廐字从厂从去，从人，𡩺从去聲為法之異文，說文法依山谷為牛馬園也。石鼓文亦有法字，此云庖于法審為訓作。

牛庖之字矣。華二八四頁貉子自。

吳蘭生曰：廐从矢从又疑射字。𡩺文卷四第一四頁貉子自。

陳夢家曰：𡩺是法从厂从欠，玉篇欠廐張口也。說文云：法依山谷為牛馬園也。漢書楊雄傳：蕭該音義引三蒼云：因山谷為牛馬園，謂之法。是王庖于法，是王將所獵獲之獸，中閑于山谷間，但法不但是中閑牛馬于山谷之園，亦是驅逐禽獸于山谷而田獵之法。

文選吳都賦：劉淵林注：法，閑也。因山谷以逐獸也。
文選上林賦：郭璞注：因山谷逐禽獸為法。
漢書楊雄傳下：李奇注：法，逐禽獸園陳也。

2102(3358)

2101(3358)

漢書司馬相如傳上：蘇林注：法，獵者圍陳逐禽獸也。

若如此說，則王庖于法，是王為園陳逐禽獸于山谷間而捕獵之，應以捷說為勝。金選二四一至二四二頁西周銅器斷代貉子自。

郭沫若釋廐：見兩改一九八頁貉子自。

李孝定曰：廐，釐定作廐。柯陳二氏釋法，是也。𡩺云：治王庖于法，咸宜。亦與許訓義合。高田氏釐定作廐，讀為庖，於𡩺意似尤協。然誤在釋法為法，說不可从。吳蘭生氏疑為射字，其誤亦顯。

白川靜曰：廐，字之義，韓華已有其說。陳氏更詳論之曰：

說文云：法，依山谷為牛馬園也。漢書楊雄傳：蕭該音義引。

三蒼云：因山谷為牛馬園，謂之法。是王庖于法，是王將所獵獲之獸，中閑于山谷間，但法不但是中閑牛馬于山谷之園，亦是驅逐禽獸于山谷而田獵之法。文選吳都賦：劉淵林注：法，閑也。因山谷以逐獸也。文選上林賦：郭璞注：因山谷逐禽獸為法。漢書楊雄傳下：李奇注：法，逐禽獸園陳也。漢書司馬相如傳上：蘇林注曰：法，獵者圍陳逐禽獸也。若如此說，則王庖于法，是王為園陳逐禽獸于山谷間而捕獵之，應以捷說為勝。

廐者，謂逐禽獸于山谷之園之事也。古者獵山谷所獲之獸，陳氏與韓華同以王若于法，釐定作廐，又以王庖于廐為一讀。然作廐之王字，則重複王字二字，應作廐，胡解也。金文通釋卷十四：韓八三五頁七五，貉子自。林氏明證。

2104(3358)

2103(3358)

餘

郭沫若曰：餘疑即番字之異。下象獸掌及指爪形，与番同意。聲也。余文片作作，自是厂，余攷：二四頁釋

予省吾曰：小雅楚茨為豆孔庶，毛傳庶羞也。鄭箋庶勝也。祭祀之禮，后夫人主共饗豆，必取肉物肥勝美者也。雙選卷上二十八頁鄭王耀鼎。

吳闓生亦釋庶見古文卷一第三十八頁徐王耀鼎。

李孝定曰：銘云用饗，△腊于吳。兩氏釋庶於解意甚協。然金文它庶字均作匣，下从火，與此不類。郭氏疑蹟字，字形解意均覺未安，字宜存疑。

2106 (3359)

頁

方濬益曰：按汗簡引王存又切韻，厭作𠂔，此或厭之省。經道卷七十二頁叔多父盤。

孫詒讓曰：字从厂，从頁，攷說文頁部煩顛也。从頁尤聲，重文。𠂔或从厂，此疑當為煩从厂，即𠂔之省。从頁者尤頁之合文。前伯就敦就作𠂔，尤亦作𠂔，可證。𠂔古二說文，𠂔部又有𠂔字，義與煩同。一切經音義引作煩，則此或即从𠂔，从煩亦未可定。尤又聲類本同也。餘論卷三第十四頁多父盤。


李孝定曰：从厂下所从於𠂔字為近，惟身有橫文為異。不知何字方說固不可據。孫說尤誤。古文偏旁絕無省𠂔為𠂔之例。尤



頁合文之說，尤覺不倫。

2107 (3360)

2105 (3359)

2108 (3360)

郭沫若曰商字作結構亦詭異然由文義及字形判之必為商字無疑殆从衣从中同省聲也(兩攷一四頁亦伯段)柯昌濟曰庶字从庶从衣古字之異體也(釋華一九〇頁歸各散)

吳闓生曰庶从衣巾聲此即說文厘字說文厘少劣之居也巨巾切與此字音義俱合形亦相近(古文卷三第七頁伯敦)周法高曰白川靜謂此字从衣从中衣與衣禮有關之字段借為遠商之義(金文通釋一四五頁伯敦)白鶴(案郭說从衣从中同省聲非是)同為肉說文商衣裾也从衣肉聲可能為此字之端變實則从巾从衣聲據周氏上古音韻表商隸部祭韻喻紐四等古音為周表一四〇頁商隸微部開韻影紐古音為聲韻俱近故得諧聲肉隸月部祭部及物部微部

娘紐聲紐與商不近

李孝定曰諸說均就銘文皮傳為說分析字形則殊無據不知蓋闕可也

2114(3363)

2113(3363)

臣事
△ 舒事對
△ 舒事對
△ 舒事對

陳夢家釋長見金選一六三頁西周銅器斷代44耳專

李孝定曰字形雖與長近而不从人本銘此字為人亦無義可求說宜存疑

少曾
△ 少曾
△ 少曾

楊樹達曰易字上从凶下截不知所从考據古隸金文一之三卷四一葉鼎云口口口魯參分魯字雖不可讀其字上確从凶余去年五月跋上樂鼎讀為容此易字从凶與樂鼎同蓋亦當讀為容謂盛可容二溢也(續微二五三頁分層量器跋)李孝定曰揚九謂字从凶當讀為容而不能定為何字竊謂此為獨休之文不能謂為从凶其字與契文眾字形近惟於銘文未能索解耳

2116(3365)

2115(3364)

針

量侯△作寶
量侯△作寶
量侯△作寶

潘祖蔭曰周孟伯說字左為虎右為十與彪之从彡不合而
考古文从彡之字形或从寸作耐爵或从彡作彪說文于耐曰
諸法度字从寸于爵曰又持之也蓋以耐之寸為尺寸爵之寸
為又手今據此銘則才宜屬彡之變體而非以才為在之恆例
其耐與爵之从寸與又亦皆為彡之變而非法度之寸象手三
指之又也誠以刑罰之字多不从寸不宜耐獨以法度為義爵
與耐用通說文于耐曰彡其飾也即爵彡亦宜為飾或爵本从
豹省雀象形亦聲耳因其變文作又遂以手持為說乃望文為
解非本旨矣今世俗書于寸才又之偏苟率無分別其積習之
由來亦有漸也

張孝達說字从虎从才當是豺之或體詩以豺虎並偏其食
猛賊人相類故或从之耳(琴古一冊四三頁景侯敦)
吳大澂曰十張之洞釋作豺量侯敦(古籀補附錄十六頁)

高田忠周曰按左旁似虎少異疑康字康與彡形近故以康為
彡耳說文豺狼屬狗聲从彡才聲爾雅釋獸豺狗足(古籀篇九
十一第一九頁)

李孝定曰此字右旁从才諸家無異詞其左旁所从疑是虎字
而全字仍不可識

鹿

鹿
鹿
鹿

方濬益曰說文康鹿也从鹿因省聲麗留留文不省此从鹿
與鹿形近疑是康之異文(綴遺卷十六三十一頁康婦觚)
吳大澂曰鹿字从鹿从匕說文所無(卷齋二十三冊二十頁
鹿婦爵)
柯昌濟曰字从鹿从匕說文所無字當从鹿从匕聲疑鹿之假
字也(華三〇九頁鹿婦爵)
劉心源釋集見奇觚卷七第二九頁康婦爵
李孝定曰吳柯二氏所作康定是也而柯氏謂假為鹿則殊無
據與文自有鹿字

赤城忠曰鹿字與十解之字稍異然仍是同一文字也(甲骨文字
字無角全文字有角中骨文字蓋有角之字也若為同一文字
則如綴遺所云即說文之
康康也从鹿因省聲

康字也但中骨卜辭中
康康也从鹿因省聲
周如人名或族名以中骨卜辭之例推之則在殷王朝中其勢
力下之各族婦人亦生仕而幸王朝之職故以一康婦與卜辭
中所見之族婦相同應解為乃出自康族而仕於殷王朝之婦人
也(殷金文彙編第三二四頁康婦觚)林沅明謹

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

數

明也。或云此義當以燁為正字。亦通古音。卓乃與亮皆同部也。燁下曰明也。書立政燁見三有俊心。今本作灼。灼燁互通用也。
(古篇篇九十三第二頁)

郭沫若曰：燁字舊均誤釋為熊。唐蘭云：字乃从泉。此聲。音當如說文本部。从水。此聲之象。讀若燁。燁之乃雙音聯語。

其說至確。蓋燁：數之猶勃之達之燁。燁也。士父鍾亦有此語。而燁字作燁。燁在石鼓文與庶燁為韻。知聲在魚部。是

燁字組如數聲如燁。正為燁字之音。(兩改五十三頁字周鐘)

郭沫若曰：燁字原文稍泐。呈燁形。下倖所从者為燁字。毫無可疑。石鼓文所泐有此字。曰其胡孔庶。庶之燁之。望之燁之字。

與庶燁為韻。知在魚部。庶燁均作燁。唐蘭謂庶燁當如庶燁。若

燁與數為雙聲。今知庶在魚部。則又与燁為雙聲。唐說

与余各得其半。而此字之釋通全。有并李燁自及燁燁字作

燁。与本鐘文無殊。而同人之語有李燁燁則作燁。知庶與

燁燁非一字。音必相同。燁又下辭及達小子燁之。燁燁有說文

燁燁也从庶音聲。讀若燁。乃其燁燁。而音聲燁燁亦同在

魚部也。丙申父燁燁又有地名燁燁字。則燁燁之錄文也。諸字均

當以燁燁。而說文言部謂燁燁讀若庶。庶當係字誤。疑是庶

从泉。庶聲。當是燁燁之燁。盛也。燁也。庶从史。庶聲。當是燁

為能熊字通(餘論卷三第三一頁善鼎)

高田忠周曰：按說文：熊，虎獸也。似兔青色而大。象形。頭與兔同

足。與鹿同。籀文作熊。蓋上乃母。象形。故猶大也。下乃為子。象

象形。故殊小也。而此篆从兔。下亦从月。月即象字。乳汁之意。即

與作兔同意也。兔獸者。今人所謂囊鼠也。其狀兔首鼠身。足節

頗與兔似。又腹外有包皮。內有乳。以裏育兒子。即熊字之形。即

熊字之義。顯然可見矣。但此銘云：庶。數。以表王臣威儀。與

詩六月曰：四收脩廣。其大有顯。薄伐獫狁。以奏膚公。有嚴有翼

共武之服。共武之服。以定王國。文意相同。因謂庶。即灼。段

借數同。燁。即燁。亦奉。段借為豐。實為半字。灼。謂美盛。半。謂

能耐之義既久而本義遂假火光然之之熊為獸名字耳金
文多用此為重言形況字亦方國之名卜辭云王賓象亡尤
似為人(案釋三〇七七頁)

又曰按諸家說為象之古文或是然金文象象變義近通
用者蓋諸字並以虎為聲故音近通假徐氏說一亦恐非然
則虎乃从音聲與許訓象為从虎音聲者異趣今仍收為說
文所無字亦慎之也(案釋三〇八一頁)

李孝定曰此諸文自來說者皆釋為熊字近人始多疑之唐郭
于諸氏疑定為象是也郭氏以為从象虎聲當讀為象數象
象猶今語蓬蓬勃勃磅磅磅其說實不可易徐氏釋骨謂象
文骨與金文象形近說近比附又引詩焉公劉胥京並見以證

師酉殷象京並見尤近於象周氏已論之矣惟周氏引饒固處
說釋此為澤所據者僅魏三體石經書無逸釋字古義二休作
象(案釋三〇七七頁)一係為疑二者一从虎一从畢亦得為一字甚明三
休石經古文或假象為澤耳倘即據以証象為澤論據似嫌
未足也高田氏說虎字字形甚是讀象象為灼灼亦近然不
如薄薄之詞從理順也

劉心源釋作能曰曰西門曰能曰泰曰京曰與千當是諸夷之
種類名目(古書卷七第十二頁師酉說)

2130(3368)

𧢲

𧢲 𧢲 𧢲
其定更重

李孝定曰似當隸定作𧢲字不可識

𧢲

𧢲 𧢲 𧢲
其定更重

方澤益曰與并李變自變字形近自銘字从史此从口从尹為
變之變體釋燕非也(綴遺卷九四頁史變置)

孫詒讓曰案𧢲字舊釋為燕諦審篆文从𧢲从君疑當為麋之

異文說文𧢲獸也象形頭與兔同足與鹿同身即君之到文後

追敦頤字作𧢲史頤散作𧢲(案古)可證篆文从𧢲與从鹿形

義並近古文多互易後集婦𧢲象字作𧢲亦麋之異文(案古)從易

鹿為𧢲與此正同此又易禾為君說文鹿部麋也從鹿因省

聲籀文作𧢲不省君因聲類亦相近也麋為麋之俗體雖不見

於說文然於形聲無悖或古本有此體矣(餘論卷二第五頁史
燕置)

2131(3369)

2129(3368)

馬叙倫曰孫詒讓曰攀上從毘下從彡必非燕字疑當作磨蓋變鹿為毘彡則君之到文也後來婦觚象字亦與此同倫檢舊釋象婦觚字作𠂔與此不同彼自從鹿即說文之麋此似從毘君聲君從口尹聲詳疏證故此可作𠂔也刻詞一四六頁史記集解

阮元釋燕，見續古卷七第十三頁史燕，蓋

吳大澂釋克見憲齋十五冊第二三頁史克盤

劉心源釋變見奇觚卷十七第二九頁史記史鑑

李孝定曰劉方二氏之說為長。从耳特中畫未上出耳釋燕釋
克殊無據。疎氏謂是康字。从鹿从鹿無互通之理。高田氏說
字形一無是處。可以無辨。

2134(3370)

2133(3370)

學

西中角
<867>
在△原

高田忠周曰此字上音與下音合以得毘形又从酉从五音亦當別一字而字書無音字況音圖字書所無也然愚謂此从毘音聲書从酉五聲為迷字音音同聲知音即音字古文說文音獸名从毘音聲讀若寫是也依卜辭又云在上音道小子敦云音男王姬音殷周古國名經傳失載耳或謂說文邑部部東海縣故紀侯之邑也从邑音聲音部古今字耶又依此篆明知毘音為同字無用者省略文也又或謂五巨古文相近音亦同部音疑匪異文匪即醜字醜吾得通用要此字先哲所云皆非今附記以備參云孫詒讓云龔釋為音云說文帛部帛實五穀五穀者六斗也其重文从瓦蓋以陶為之貝或以朋計或以器計

2135(3371)

或以量計此十甬則六斗矣大略後其多也吳榮光又云貝十下是庸說文甬屬上體顯从声知非从瓦也今案此文上顯是从甬非从瓦亦非从声下从五从酉从甬亦非甬也龔吳兩釋並未塙此當釋為魯字遺小子款招字作𠂔龔定為魯字以為甘尾之尾此鈕正與之同魯為地名故字又从泉十即才字古金文以十為在者至多若才字也十魯用乍父癸龔言在魯地為此器也兄癸卣丁子王錫爵兩八丙申貝在寒用作兄癸龔文例與此同在作十亦與此可互證古金文紀錫與之物或言款或不言款詳略無定例龔吳必以十魯為貝之數量宜其舛錯而難通矣此說為最愈者然云地名故从泉非龔字所从貝用段借以為乳計意不可分龔用為二文也又先是許印林亦有說云十下字擇庸近是六書故引唐本說文庸虔省此文中

2136(3371)

有又形或是度不省即與吳同如此字亦極矣吳氏古籍補收此于疑字中云與魯同尚愈於為庸為庸之迂矣要與吳許諸家未達通篆形故為此誤妄說(古籍篇九十三第二二至二三頁)

郭沫若曰丙申父癸爵後有爵字乃地名余謂此即象之錄文蓋从象與音聲也(金文三九頁李書說)

葉玉森曰丙申角為魯象二字合文商代謂與敦文同亦非(前釋卷二第六頁)(集釋四)

吳式芬曰許印林謂十下字釋庸近是六書故引唐本說文庸度省此文中有又形或是度不省(據古二之二第二六頁丙申父癸角)

孫詒讓曰蓋銘作器銘銘作器釋為庸云說文庸部庸實五般五般者六斗也其重文巡耳蓋呂陶為之目或曰朋計或曰器計或曰量計此十萬則六十斗矣大略侈其多也吳氏又云貝十下是庸說文庸屬上體顯作虎知非巡瓦也今案銘文上顯是巡瓦非瓦大非巡虎下巡五巡因巡泉大非兩也聲與兩釋林不塙此當釋為魯字連小子鼓招字作余旁定為魯字目為即目尾之尾此銘作魯正與之同魯為地名故字又巡泉(拾遺下四頁周父癸角)

方濬益曰續古齋款識連小子鼓有魯字釋為招按此字从瓦不从召釋招殊非此當較錄說文自部無此二字而號叔旅鐘及鐘鼎均有魯字此正兼魯魯二字為文也聲義無攷在此作器自是地名無疑(綴遺卷二十六二十七頁丙申角)

吳榮光曰龔定盒云說文庸部庸實五般五般者六斗也許書於器名則不言其所容受於量名則言之可見庸是古量名其重文从瓦蓋以陶為之具或以朋計或以器計或以量計此十萬則六十斗大畧後其多也

吳子強說庸說文庸屬上體顯作虎知非从瓦也(續清卷二第

五十一至五十二頁周父癸角)

商承祚曰連小子鼓作目字丙申角作魯與此畧同吳中丞謂疑即許書魯之古文續編十卷第五頁(集釋四)

李孝定曰郭氏謂是象之繁文又謂蓋从象與音聲其說可商誠如郭氏之言則與魯同字矣魯字當从高田氏說从龍音聲即許書魯字字蓋魯象合文或即讀魯音聲也

飛

彈石重

飲重

方濬益曰說文飛鳥翥也象形王大令曰鳥之右翥者凡四畫其一翥也二三翼也其四尾也飛之翥則開張矣則左右奮揚矣尾向下首向上是直刺上飛之形也(綴遺卷八六頁樊君飛翼)

丁佛言曰飛翥君靈原書入附錄疑康之異文案字當釋康三體石經康古文作康此下一是从米省(古籍補補卷十第一頁)

高田忠周曰按銘意為響君名音義無可徵者然響篆形亦康字也凡亦之變此篆以象正視之形猶半半字作響者象側

視形猶犬與字雖字形有小異實相同耳吳大澂釋作虞然未
形何在耶吳改斷非(古編篇九十三第六頁)

柯昌濟曰字从鹿从午疑即說文之麋字與午聲近古文或从
午也(續華二〇七至二〇八頁桐君齋)

李孝定曰柯商之說為長其下究何所从未能遽定

𤝵

狀蓋 𤝵 𤝵 乙

車寧

高田忠周曰按銘意為人名音義無徵然審篆形川與潮作潮
淵作淵象作川之類同是正象兩岸中有流水之形也右作𤝵
亦犬之小變此亦𤝵字異文無疑益援鄭注𤝵田閒溝也𤝵字
从溝讀通水形尤為妥當矣(古編篇五第一頁)

李孝定曰高田氏之說可從

𤝵

𤝵 𤝵 𤝵 𤝵

車寧

徐同柏曰𤝵通作𤝵釋名釋器用𤝵𤝵也古人多呂所能為
名如及斯伯與是也此字𤝵𤝵者當亦取此義(从古卷一十
六頁周叔振說)

強運開曰𤝵𤝵叔振說从犬从戌當是𤝵字人名也說文新附
有此字舊釋𤝵非是按此說銘篆皆从𤝵(古編三補卷十第
三頁)

柯昌濟曰狀說文云大形也从犬片聲此器二字即狀之異文
(續華一六三頁叔振說)

李孝定曰諸說於字形並不類此疑𤝵字虎形稍訛耳

狀

莫專 唯公于

宋周

孫海波曰：狀不可識，疑為篆字。說文：遠，高平之野。人所登。一子
宿疑此為从走，篆聲之字，而苦無證以明之。此與金文遠字備
旁相近。考篆字書雖不載，以聲類求之，當為从走田聲。故遠字
从之得聲也。遠見古音同，隸元部。金文中，諸侯朝見天子也。每
云見于宋周，如麥專若二日侯見于宋周，匿侯旨鼎云匿侯旨
初見事于宋周，皆是亦與此結辭例相同。此蓋假篆為見，歟。
縣與器（三頁莫專）

由川靜曰：狀字，未釋之字也。从具，于聲。古有與原字之古文相通
之處。孫海波曰。

2145 (3375)

狀不可識，疑為篆字。說文：遠，高平之野。人所登。一子
疑此為从走，篆聲之字，而苦無證以明之。此與金文遠字
偏旁相近。考篆字書雖不載，以聲類求之，當為从走田聲。
故遠字从之得聲也。遠見古音同，隸元部。金文中，諸侯朝見
天子也。每云見于宋周，如麥專若二日侯見于宋周，匿侯
旨鼎初見事于宋周，皆是亦與此結辭例相同。此蓋假篆為
見，歟。

以此字即篆字，見假借用為初見，見事之字。陳氏亦以是與原字
相近。曰

依文法，皆是動詞，字近於金文的原字，此也。大約是往于
宋周之義。

以是是于從之義，然从原字似難事出于從之義。

2146 (3375)

狀之字，形與篆之古文相近。說文：遠，高平之野。人所登。一子
宿疑此為从走，篆聲之字，而苦無證以明之。此與金文遠字備
旁相近。考篆字書雖不載，以聲類求之，當為从走田聲。故遠字
从之得聲也。遠見古音同，隸元部。金文中，諸侯朝見天子也。每
云見于宋周，如麥專若二日侯見于宋周，匿侯旨鼎云匿侯旨
初見事于宋周，皆是亦與此結辭例相同。此蓋假篆為見，歟。
縣與器（三頁莫專）

以下為冊命之文，以狀乃記述因父祖而嗣服之冊命之事者也。
據此則莫先公既沒，嗣子親自赴王室而受其祖考之服，本意
所歸，父既歿，而市項告于王，惟十又一年九月初吉，丁亥，王
才周，太子大室，即王室，嗣生內存，即王。

2147 (3375)

似亦記當時之事者也。並述對當時隨從之受賜者之事。然錄之
錄，蓋為受賜之初文，相當於師氏受賜之項，其之義，實與日之字
蓋亦承此字義者也。（金文通釋第七輯三七六一至七八頁）
田墨堂林深明謹識

周法高曰：白川氏蓋誤從郭氏大系釋師氏受賜之告為「非
是」，作字條部說。實錄之「實」訓，與此結之「狀」為動詞者不相
當。當從孫海波陳夢家釋為「原讀為觀」。

李孝定曰：此右所从，疑當為動物象形字，左不知何所从。

2148 (3375)

威

師表蓋文(15)

吳式芬曰疑是惑惑亂也古只作或後人乃加心(據古卷三之二十五頁師表敦)

吳大澂曰威古威字不從火師表敦威淮夷狀師表敦器文從戌从巾許氏說火死於戌陽氣至戌而盡今經典通用威(古補補五十七頁)

劉心源曰威从又从國即擲也此當是賊从又者手取之也古文罵表狀曰虜此云賊淮夷義亦然也(奇觚卷四二六頁師表敦)

2149(3376)

強運開曰師表敦蓋文

師表敦器文與蓋文敦異

殆范鑄有缺蝕耳吳憲齋釋曰威未端竊謂威淮夷餘我員賄臣即介淮夷之詩亂不修職貢也威即古詩字篇文詩从二或與此相近段玉裁云擲象兩國相達擲戈相伺亂之意也此篆右从或本古國字左从巾持一正象擲戈相伺之形說文父篆下云巨也家長率教者从又舉叔與此篆左旁合與父相或亦有詩意故定威篆為古詩字可以無疑(古補三補卷三第三頁)

郭沫若曰威即父字之異父字本斧之初文古作以象以手持石斧之形此从戌从巾从又為父字之異無疑(兩說一四六頁師表敦李孝定曰諸說並未安疑未能明)

2150(3376)

劉心源釋作漢曰漢舊釋作威案此篆刻不可定而此蓋文

作威即說文漢之古文威也一即水省故从水省作一可證漢淮夷淮夷之在漢上者宜王伐淮夷之詩多言江漢詩地理考引陳氏說臣為淮南之夷是也(古補卷六第十二頁師表敦吳大澂曰威古威字許叔重謂火死於戌陽氣至戌而盡古文不從火(憲齋讀稿下冊二十五頁師表敦)孫詒讓釋作威注云未端拾遺下十一頁周師表敦)

白川靜練定作威見金文通釋第二九輯六三頁一七八師表敦

周法高曰釋威或受讀作無乃發語詞屬下句讀劉先讀為漢後讀為威皆非郭讀為斧屬上句非是

2151(3376)

禾

居蓋以△實余一斧

高田忠周曰按劉心源云實為人名舊釋作素非故射弓鐸為女敵案作團毛公鼎卿士案作團可證此是素字此說尤佳此當作素之省也說文素素祭天也从火从畚古文慎祭天所以慎也呂覽季冬及百祈之薪燎法燎者積聚柴薪置與牲于上而燎之升其煙氣蓋素燎古今字也說文燎放火也从火麥聲書洛誥若火之燎于原詩正月燎之方揚箋火因為燎又周禮司烜氏共墳燭庭燎法樹於門外曰大燭於門內曰庭燎儀禮士喪禮注火在地曰燎執之曰燭七二義原皆素字引伸段借不素已从火又从火作燎此為重複此素乳所以變多也又素部燎也从火素聲讀若龜燎亦素字轉義古唯當作素

2152(3377)

也愚謂春即禘字古文从大即火字作木ハ、亦火省从日从
日並省肉字也。養業焚柴又加牲。禘祭亦當有此禮。故从火肉
會意。禘養字必相關。故養亦从春養字。从木从木省皆可焚之
物。木亦與神同意也。禘下曰以真受福也。从示真聲。此兩真字
義即慎也。慎禘音義皆近。故古文或借春為慎也。許氏未達今
禘。古篇第十三第二〇頁

李孝定曰：于說或是。毛公鼎祭字从火从與此近。

2153(3377)

𤇀

𤇀

𤇀

吳榮光曰：𤇀者何參也。𤇀字句紀夏小正以參見參伏紀時此
言參見也。紀時或用日或用月或用參。篇清卷五第十七頁周
安作公仁。葬

徐同柏曰：𤇀古文𤇀从兩自。此从兩白。與自同。又字
从大。此从支。𤇀又與郊通。說文𤇀盛也。此燕召公名讀若郊。
(古篇卷七二十一頁周夷尊)

万清益曰：按𤇀从二百从大。古文从二自。徐謂白與自同。是也从
大。通亦說文𤇀字。或从大作𤇀。可證史記魏其侯列傳有如

2154(3378)

兩宮整將軍張晏曰：整怒也。漢書作與。是與與整通。古當从
赤。清為大篆文。又清从大耳。詩采芣芣。路車有與。毛傳曰：與赤貌。
又瞻彼洛矣。棘給有與。傳曰：棘給者茅蒐染革也。孔疏曰：與
赤貌。傳解言與之由。以其用茅蒐之草染之。其草色赤。故也。據此
知與之為字。以从赤見。讀此文自是人名。非疊字。(經遺卷十八
十頁至十一頁夷尊)

參閱136條𤇀字下強運開說

2155(3378)

高田忠周曰：按篇釋若缺。按此𤇀字也。始意為人名。說文𤇀
肉也。从肉在火上。篇文作𤇀。授氏注云：𤇀肉各本作炮肉。今依
楚茨傳正。小雅楚茨傳曰：𤇀𤇀肉也。𤇀𤇀傳曰：𤇀火曰𤇀。正
云：𤇀𤇀也。謂以物貫之而與於火上。以𤇀之接𤇀者俗字。古書

作抗手。謂曰抗扞也。方言曰：抗𤇀也是也。𤇀𤇀言炮言𤇀
傳云：毛曰：炮加火曰𤇀。抗火曰𤇀。𤇀𤇀不必毛也。抗火不同加
火之通近也。此毛意也。強運注曰：炮裏燒之也。𤇀加於火上也。
𤇀𤇀之火上也。三者正與𤇀𤇀相合。然則𤇀與炮之別異。又
可知矣。許宗毛義故𤇀下云：𤇀肉也。用楚茨傳為文。即𤇀𤇀之
抗火曰𤇀也。不用𤇀𤇀而用楚茨者。其字从肉。故取𤇀肉之文。
也从肉在火上者。有串貫之加火上也。此可以得𤇀火之意。依
後說。此篆實其象形也。古文肉字作𠂔。作𠂔。偶與白字相似。
然則此𠂔即兩肉片十者串也。下从火。後世或者从肉火作𤇀。
(古篇第十四第一四至一五頁)

柯昌濟曰：𤇀字說文盛也。从大从𠂔。𠂔亦聲。此文似是从二日
从火。古韻頗難考究。殷契亦有𤇀字。其字似訓作祭。名其詞往

2156(3378)

往有祭某某爽妣某是也从二日从火於說文訓盛之誼亦合
 釋華二三五至二三六頁疏專

于省吾釋雙見雙選卷下二第一頁雙專

李孝定曰子氏但隸定作雙蓋慎之也餘說皆望文比附未可
 以舊多釋顯然此字實未見从大或从赤之象亦不得釋赤也
 高田氏釋爰此从日何由知為从肉吳氏釋是於字形尤遠

2157(3378)

美

伯榮鼎
 由△作旅鼎

李孝定曰字不可識

2158(3379)

𠂔

伯榮鼎
 伯△白隸氏口

李孝定曰字不可識

2159(3380)

𠂔

引鼎
 引作文丁
 引文丁

𠂔

引鼎
 引作文丁

柯昌濟曰缺無字侯證(釋華六一頁引鼎)

李孝定曰當隸定作𠂔字从佳从𠂔大倉意佳或亦為聲


2160(3381)



鼓琴

予省吾釋黑見雙選卷下二第一頁

李孝定曰黑字篆从爻田會意此下不从炎蓋明上亦與自形不類于氏之說待考字頗象魚骨或蛇蟲之形人名之字多無戔可求其難識類此

 亢 人名
 左子万康以 亢 人名
 乃反事 疑大字
 唐蘭曰亢字作有舊並釋太非也亢說文作介凡小篆從介者
 古咸從太故知介即亢字也趙鼎云赤巾幽介柯餽云赤巾朱
 介並當讀為亢幽亢朱亢即幽衡朱衡是其確證也
 叔平先生謂漢隸亢多作方 國刊第四卷一期二六頁作册令
 中重斜上亦余說之一證焉
 尊及作册令并銘考釋

容庚曰：師人名。珂蓋赤市朱。喻堂集古錄下九七建鼎赤市幽。他
 器皆作黃。疑黃之異文。即詩采芣赤芾在股。邪幅在下。之邪幅。

此大字正象其形禮記玉藻段衡爲之注云佩之之衡誤之甚矣（善園三七頁全尊）

爲敘倫曰。齊者新夏之異文。秦公散夏字作鼎。明是從頁。
 頁字。金文率作𠂔。本象人首身臂手足之形。夏從頁而復從
 𠂔。又於手上增一足上增二。倫謂𠂔乃他人之手。𠂔二乃
 恆格也。從頁而持桎梏施於其手足。於六書爲指事。夏蓋
 華之初文。論語求善價而沽諸漢石經沽作賈。禮記夏楚
 收威。書爵典鄭注引作檣楚。爾雅山榎舍人本作檣。方言
 凡物之壯大者謂之榎。或曰夏。此古夏聲字相通之證。古夏
 同爲古根音。亦聲同魚類也。此作𠂔。金文有赤市朱介赤
 市幽介介介與此一字。彼皆借爲𠂔。𠂔夏音同臣紐聲
 則魚陽對轉也。故金文皆借爲𠂔。莊子吾未知駭智之不

為新楊樓楷也。術字說文所無，實為械之音同，匣紐轉注字。蓋古謂被械者其音即原於術械，說文夏，中國之人也，必非本義。俗疑夏是古民族之族徽，刻向謂負戴之臣，械其手民足，其實恐是古民族之習尚，如穿耳鼻之類，焉或即此民族，故號曰夏。及禹有天下，聲教四被，為政治中心，因謂中國之人為夏耳。介者夏之省者也。《利詁》一二三夏至一二四夏父癸癸。

2177(3385)

高鴻緝曰：說文介，人頸也。从大省，象頸脈形，尤或从頁。古解按字原象人立高處之形，應為高亢之意。易曰：亢龍有悔。朱子本義曰：亢者過於上而不能下之意也。是為確證。立高處而不能下，甲金文形與義合。《利詁》為高處之通象，故列指事動詞，亦借

用為狀詞。小篆形變而義不可說。說文云：人頸也。乃項字訓誤。著于此，頤頤亦另字。頤，頤向，上曰頤，頤向，上曰頤，均从頁與亢之為高亢者意別。《字例》三篇一頁。

李孝定曰：此與下3386為一字。諸家釋亢者是也。字在諸部或為人，或則假為黃。玉佩字，唐郭二氏之說，並是。馬氏釋夏及說金文夏字之義，並可商。此字象人正立形，而於兩腋之間著一斜畫，其本義不知何指。高氏謂象人立高處之形，當以高亢為本義。然字除失專作介者，或可釋為从大从門，餘均作介。兩腋間著一斜畫，亦未見有立於高處之象。說文以頸脈說此字，亦當是借義。

2178(3385)

大

趙孟頫書

大

趙孟頫書

郭沫若曰：元字原作大，卜辭有此字。殷契佚存四三，以本銘証之，其說至確。蓋此与它器言示市幽黃者同例。元乃黃之段字，古音同在陽部也。何殷之示市朱元亦然。黃本古佩玉之象形文，段為黃色字，而失其本義。典籍中以衡若珩代管之，漢儒解為佩玉之橫，失其義。《兩政》五十七夏至五十八夏趙鼎。

2179(3386)

郭沫若曰：金文何殷三易，何亦市朱公。幽堂下，趙鼎易，女亦市幽。余約誤釋為太字，苦難索解。近見卜辭亦有此字。《契契》存，唐蘭釋為元，云小篆之介，即由此出。《兩政》引，乃悟金文二例均是元字，乃段為黃，与它器言示市

朱黃及亦市幽黃者正同。《金政》二四三頁釋元黃。

李孝定曰：說見上3385。

《大22》
朱元

2180(3386)

吳大澂曰：△作之祖考專寶說。
△其易字：子、太、寶。

吳式芬曰：許印林說：疑猶文契字，从𠂔从矢。（據古卷二之三十五頁□款）

徐同柏曰：契古文登，此象兩足形，大衆人形从𠂔从大，目足踞，其𠂔之象讀與樞同。（从古卷八、二十九頁同登註）

柯昌濟曰：發字从𠂔从矢，取發矢之義。古字訓發為射禮記射義發彼有的，發發射也。史記曰：發跡指示皆足，徵古字之證矣。（輯華一九六頁發啟）

李孝定曰：字上从𠂔實从二亡，不从𠂔諸家說待考。

吳式芬曰：徐籀莊說……燕象燕乙形，讀如燕飲之燕。（據古卷三之三、三十五頁五鼎）

徐同柏釋燕曰：字作𠂔象燕乙形，讀如燕飲之燕。（从古卷十文、三十六頁同五鼎）

方濬益曰：燕從徐籀比象燕之兩瑕，歧尾形上為手形，乙形為燕飲之註。（經遺卷三、三十六頁五鼎）

吳大澂曰：契即換之古文上从𠂔有以手揆度之意，說文𠂔字據文正，契知契本古字，今乃通用契反以𠂔為古文，誤矣。意齋四冊十五頁五鼎）

吳大澂曰：契，象古契字五鼎（古籀補附錄一頁）

劉心源曰：燕从徐籀莊釋或釋非篆形，文義皆失。（奇觚卷二、三九頁五鼎）

高田忠周曰：契，心源云：燕字從徐籀莊釋或釋非篆形，文義皆失。按：契釋亦非，此當篆字是說。文繁，燒柴，焚祭以祭天神也。从𠂔，𠂔聲。古文从𠂔，有聲作𠂔，虞書至於岱宗，柴，馬注：祭時積柴加牲其上而燔之，然則作柴者，以示為義。此篆以𠂔為形，以明此字均皆此聲，蓋謂以即感柴之具，或𠂔為具，大為火，異文而𠂔以象煙氣，燔氣外散，與𠂔之𠂔同意。銘云：繁，燕祀並祭名，文義至順。或云：柴與此通，有此動字，燕祀，靜字，此說猶失於穿矣。（古籀補九第20頁）

吳闓生曰：燕本作𠂔，从象鼎形，中有乙以調和之下，象火形。古鼎形字多如此，今姑作燕，以便讀。（古文卷一第5頁五鼎）

郭沫若釋契讀作柴，見兩改三三頁大五鼎）

李孝定曰：字上从𠂔，其明下从𠂔，與𠂔同意，或竟是用字之誤。字當為从𠂔，此聲，此讀讀為柴，郭說是也。高田氏選釋為柴，亦未安，蓋或釋燕，匪夷所思矣。

白川靜曰：上的部氏訓為，有柴，燕祀，陳氏訓為，右柴，非。祀與上之，在字御事相對之注也。皆謂舉行祭事，因而祭文應訓為有柴，燕祀之事，非字，字，奇異難釋，然从文義，而古，五鼎，乃祭祀之名也。（金文通釋卷十二，釋六、五十四頁，六、一、六、五鼎，林氏明證）

大

字蓋王使十臣守使于△

△字馬西(△)

高田忠周曰辨清吳云夷者天子畿內邑莊十七年傳有夷諸夷是以地為代按此考似是凡金文夷狄之夷皆借尸為之此為畿內邑名故殊書本字以分別乎要歸夷亡連語也又按此篆已變已之小變此从尸故下文亦有以尸為之者(△)篇三十九第一四頁

參閱1342夷字條吳其昌說

參閱1146尸字條陳夢家說

2189(3393)

田倩君曰夷是正面立的人字身上負着弓這是個象形而兼會意字說文夷平也从大从弓東方之人也切脂

李旦丘氏云

大衆人的正面而(人)則衆人的側面故从大與从人同意因而从大之字亦可从人研究(金文(金釋)二八至二九頁釋夷)

吳大澂曰夷下有重文(舊唐書十冊九頁使夷故奇觚卷四二頁字鼓同)

李春定曰吳氏釋夷可从

2190(3393)

大

最以三△字白傳
文伯高以△馬于△

方濬益曰最說文最壯大也从三△二目為最三目為最益大也一曰迫也讀若易處義氏詩曰不醉而怒謂之最今毛詩作愛又北周書代王達謚最諸本作最誤品為品并從目之義而失之文選西京賦巨壘最最最即最之俗字詩正義引西京賦作最是唐初文選猶未作最是(綴遺卷二十七二十三頁榮伯馬)

吳大澂曰最古要字从三△小篆从三目三大詩內最于中國傳不醉而怒曰最文伯高最地名(古鑑補五十九頁)

孫詒讓曰說文部云最壯大也从三△二目為最三目為最益大也一曰迫也讀若易處義氏詩曰不醉而怒謂之最金

2191(3394)

文文白爾有此字作最吳大澂以上从三△即橫目之變體也(名原下一二頁)

林義光曰說文云最壯大也从三△二目為最三目為最




益大也按三目最壯大義古作最(伯象三人壯大形从大)

形△大其頸壯大之象(文源)


高田忠周曰按說文最壯大也从三△最聲又最訓壯大也从三△三目然目怒曰最力怒曰最皆謂其偏極者最亦為疾也最字缺以最為本字然最與音義皆近古字省文唯當以最為最其實元同字古今文也(古鑑篇三十七第七頁)

高田忠周曰按古鑑補引云古最字从三△小篆从三目三大詩內最于中國傳不醉而怒曰最是也說文最壯大也二目為





2192(3394)

三目為最益大也即會意顯明者而此篆从三大甚明目作
 △其奇然敦字毛公鼎作敦敦作目古省文作△明矣又
 說文一曰迫也讀若易處李氏詩曰不醉而怒謂之最蓋引毛
 傳以證轉義也最本義與最近也隸省作最朱駿聲云字又誤
 作最魏都賦森回內鼎淮南墜形食木者多力而最段借疊韻
 連語西京賦巨靈最屈注作力之兒也屈即眉之誤體此說亦
 佳然人用力狀最屈者實當最字轉義(古篇篇三十九第一一
 頁)
 柯昌濟釋謂與最小異即一地也見韓華一五一頁又伯
 李孝定曰方氏擇異其形相近說或可从本銘為地名無以求
 其義也

2193 (3394)


 李孝定曰字不可識
 乙寶事
 乙寶事
 乙寶事

2194 (3395)

劉心源曰近人釋狂然从火為大非犬字从米為朱非生字
 大當走省集韻越重株切(奇觚卷六十二頁)蓋仲越自
 高田忠周曰按吳大澂等皆釋為程字今審篆形火是犬字斷
 非大字米亦與生自別蓋疑米之小變而大疑香之省古文香
 走通用而省走作大側見遺字及起越諸字即知此亦迷字異
 文省釋為程殊甚矣(古篇篇六十六第一三頁)
 龍宇純曰陳氏藏一占銘文云
 鑒中庚作李文考寶陳彝日辛
 庚為作器者之名蓋喬吉金錄釋為狂徐同柏更謂狂與疑名
 字相應徐以為疑字遂謂狂疑名攝古錄從其說奇觚室吉
 字相應徐以為疑字遂謂狂疑名攝古錄從其說奇觚室吉

2195 (3396)

金文述則釋為並存釋狂之說云
 越近人釋狂然从火為大非犬字从米為朱非生字天當走
 省
 朱善旂敬吾心室彝器款識則釋為秋字保守一點的如貞松
 堂集古遺文綴遺而彝器改釋周金文存並無釋文金文編也
 只收於附錄之中案此字从火从米即篆字為最之初文絕
 無可疑諸家釋文以為狂或秋字實在捕風捉影略無道理劉
 氏認米為朱金文朱爰二字形固甚近然前者作米若米中或
 為一點或為一橫畫與後者作米左右二畫下垂絕不可混不
 過劉氏說火即大為走省却極具眼力第一說文走字从火形
 雖與此火不同然而那是小篆的譌變金文走字並从火走字
 作金文或作或即省作見趙字

2196 (3396)

專字見趙自煇字見趙姓爵後者三代吉金文存誤摹作煇
金文編從之收入附錄以為與五鼎煇同字此據商周金文錄
遺第三甲骨文有一辭云

庚申貞其令亞大馬口見殷虛文字
甲編二八一〇

大馬二字相連或釋為走馬辭錄述似乎更是走省作大的

明證即使退一步說走並不能省作大然而由奔走二字仍可
知大代表奔走的意義走字金文作奔字金文作奔字

奔走二字義同可知一从止一从辵只是用以區分代表語言
中的兩個不同的音位表示奔走之意的主要是大尤其大鼎
走馬字作象人奔跑於路中並不以从止來表示奔走的意
思大表示奔走之意便更無可疑復就字形言大象人上下其

手也正是奔走的樣子那麼此字從大無論其是否走省只要
他不是聲符而是義符其義與奔走有關便可斷言金文五鼎
有煇字从大又有二鼎及一爵亞形中作煇亦从大連同煇字
所見从大者已有三字之多火顯然是這些字的部首即是說
煇字从大為義符从火為聲符現在可以討論他是什麼字了
案禮記少儀云

毋拔釋文云拔王本作拔案拔字義不可通而拔
作疾解有史記後漢書可證拔當是誤字來毋報往

報讀為赴疾之赴拔赴皆疾也人來往所之常有宿漸不可
卒也

拔在此是倉卒疾行之意後來的文獻中又用為凡疾速之稱
如史記蘇布傳何其拔與之暴也索隱云拔疾也後漢書寇恂

2198 (3396)

2197 (3396)

傳即耶拔起難可信何注云拔卒也鄭氏云報讀為赴疾之赴
當是因為報字本身無疾義遂從假借讀之然而拔字本身亦
無疾義少儀拔作疾解亦當為他字之假借鄭氏却不曾予以
說明大概他亦不詳其究竟故但云拔亦疾義由我看來作疾
解的拔即耶字的假借拔本由素語尊乳煇从素聲與少儀拔
字音義正合

現在對於第八章遺留下來的說文訓舉為疾的問題很容易
解釋了原來古時語言裏有一個作疾趨講的詞語音與素相
同文字亦正是从素作的到了後來如說文傳字不傳了語音
却還存在之謂拔字而正好這時素與榮已譌作本與容原意
沒屬不詳其字下端的本形在漢人以為是疾的意義說文本
從注趣於是便自然的把語言中拔的意義加在榮字頭上了

2199 (3396)

（集刊第三十四本四二二至四二三頁甲骨文金文素字及其
相關問題）

李孝定曰龍氏說此殊有理致其說可從

2200 (3396)

巨天

巨天之通

△文

寶霞

李孝定曰：从害从巨，从天，當隸定作𠂔，字不可識入名。

2201 (3397)

白

郭店楚

《1112》

居中也祭器八欽

郭沫若釋曰：見兩改一七三頁，鄭侯設。

李孝定曰：人名，字不可識，即隸定亦不易。

2202 (3398)

𠂔

𠂔

《1112》

劉心源曰：衛見說文乃𠂔之本字，林弓鐔𠂔乃敵察即此。奇

𠂔卷八二十七頁，失人盤。

強運開曰：𠂔，敵氏盤銅馬單，𠂔阮擇率蓋，从薛釋齊疾鐔，𠂔乃敵察之文，莊述祖說文古籀延，證釋𠂔為𠂔云，𠂔鼎从𠂔之

字，𠂔謂𠂔即鐔字，引說文云：𠂔，𠂔也。从立，𠂔聲，蓋以𠂔束古

相通段也。《古籀三補》卷十第七頁。

郭沫若釋：𠂔見兩改一二九頁，失人盤。

李孝定曰：郭氏隸定作𠂔，於形差近，舊釋衛釋鐔均未安，竊謂字下从立甚明，其上所从疑為動物之象形，字惟不可識耳。

2203 (3399)

名

2204 (3399)

春風集
△口新語

郭沫若釋恩見文史三〇一頁由壽縣蔡侯墓到蔡墓前年

李孝定曰：鈐髮當隸定作心郭氏之說未聞

陳夢家釋作恩見金選三三一頁壽縣蔡侯墓銅器

2205(3400)

心

商承作曰：心即心……字細宋之確是心字从心从下

心

信字盤金文

此上多一筆古文每省益省之者如甲骨文金文示

正商作商言作正例不勝舉增之者如天甲骨文金文

鉢之作正金文作正平金文鉢文作平兩金文作平可

作可其例亦夥又如此器之正鑿而苛與之經皆有增字

與形體無關也忘字亦見古鉢曰南吾即忘

第二文正与此同第一文作下心乃為力證真一字千金矣

(十二寶六頁及寶七頁楚王會志鼎)

郭沫若釋志見兩改一六八頁楚王會志鼎

2206(3401)

李孝定曰：商說為長于字古文未見作下者

心

不取心居鉞
△居鉞
△居鉞

吳大澂曰：心从安从心疑即安字之鉢文肅忠君鉞古鑑補附

錄十七頁

劉心源曰：安从心漢時俗篆(奇觚卷十一)第十一頁漢鉞安

方澤益釋忠見綴遺卷二六第十六頁綴忠君鉞

李孝定曰：各說可從

2208(3402)

2207(3401)

考

未詳行 周作距△

高田忠周曰：「結云：『先作距末云云。』蓋人名音義無微按乎即呼字也。『恐即怗之異文。』說文：『怗，憂也。』从心，云聲。古多借怗為怗。詩：『老耳云何怗矣。』毛傳：『憂也。』是也。然則初借怗為怗，因字亦變作恐可知矣。阮氏元釋：『怗字誤甚。』古篇篇四十四第一六頁。阮元釋：『見續古卷八第二十一頁。周距末據古二之一（第三十一頁）距末。古文卷四第三十四頁，怗末並同。予省吾釋：『見雙選卷下三第十八頁末，距末。』

李孝定曰：「高田之說可從。」

考

李孝定曰：「疑當隸定作怗，或即後世之蔡蔡吉或假希為之。然容書運隸定作怗則覺可商。」

2210(3404)

2209(3403)

考

李重 李作見日士 舊釋受 寶事書

考

李解 李作見日士

吳式芬曰：「首字从无，从手，當是抚字。抚即撫，見集韻。」（據古卷一之二十六頁日士解）
吳式芬曰：「許印林說：『王即來，既字从之。』象人舉手从手，既聲。乃擬字。此又省其包，集韻擬抚同字。注云：『博雅取也。』一曰：『拭也。』或作抚，正其字矣。」（據古卷二之一三十八頁日士解）

高田忠周曰：「此『許印林說』為是。以實乳字，乳手通用。古文恆例又『既』字作『无』，又作『无』，亦作『无』，正與此篆同例也。說文：『既，灑也。』从手，既聲。周禮：『世婦帥女官而灌，灑法拭也。』詩：『匪風，攸之。』金替南毛本以灑為之。楚辭：『哀時命，撫塵垢之枉擗兮。』此皆本義也。」

（古篇篇五十五第二八頁）

柯昌濟曰：「說文：『愛，惠也。』从心，无聲。此文省从心，當亦象形之字。」（詳華二九九頁愛壺）
李孝定曰：「當即无字篆文，古或假為愛字。愛，則後起形聲專字也。」

2212(3405)

2211(3405)

雨

衛好也

德△段

李孝定曰字為益之刪文未知乃是二字否金文疊字从此

李孝定曰

△字見

五朋

李孝定曰从目从乙乙難以遽定人名

赤塚忠曰漢書作着況以爲諸之形然原拓稍欠鮮明三代金

中強下父乙陳彝

此以鉛之字蓋爲同字或爲同一人外未可知也亦未爲考加新

癸亥卜獻貞見百枝三行於

甲子卜獻貞我受商年

甲子卜獻貞我受商年(續二二九三)

2214(3407)

2213(3406)

淵

散盤

丁佛言

丁佛言曰淵散氏繁阮相國釋濟揚詠春釋源案右从泉疑是

本此(古嘉補補附錄二頁)

高田忠周曰按孫氏云潘省阮氏云潘吳氏云源並誤吾友河

井君仙郎云流字隸尤有作亢者可證六輔正書亦作氣此

致稍近然尤爲直義此淵屈曲自爲別字今審川是淵之省

亦淵異文也淵爲象形而又从水者小篆作淵亦同又淵轉義

釋名釋水蕭附之淵曰淵淵宛也言宛曲也此淵之兩岸固皆

屈曲非直又小爾雅廣詁淵深也故字或从山會意山下曰交

2216(3408)

2215(3407)

覆深屋也。舊字解曰：「不見也，開戶皆深意也。」故楚辭招魂旋入雷淵，注室也。字固當从「宀」，此字从「宀」不為異矣。又按淵字異文作大淵，吳都賦泓澄瀟灑，注洄復之兒，論蓋大淵之譌文也。

(古籀篇三第一頁)

周名輝曰：「鍾部隸或从水从原，散氏盤。」源舊釋滄非。吳氏定為原字。今考定當是源字。

名輝案：散盤原字作原，吳氏既錄之矣，而論二文之異比證而即可辨此一事也。隸字从水从介，固與說文「原」字相合，而殷虛卜辭字作「𠂔」，書契菁華卷十一葉作「𠂔」，龜甲獸骨文字羅振玉謂說文解字「原」水原也，象水流成川形，此从「𠂔」象从石，澗澗流出之狀。今案「原」字从「介」或从「介」者，「介」即說文「介」字，介亦與同意，如「𠂔」字殷虛卜辭作「𠂔」，書契後編卷上，古金文作「𠂔」，豐分饒从「介」吳

2217(3408)

大激羅振玉謂象京廟之形者是矣。古文从「宀」與从「宀」同意，故說文「宀」字，「宀」字从「宀」部，而古金文即鐘銘「宀」字从「宀」，大殷銘「宀」字亦从「宀」，夫「原」字从「宀」，从水形者，「宀」猶穴也，即爾雅釋水所謂「洄」穴出者矣。然此文何以从水从「原」也？謹案當是古文俗字也。漢張叔敬碑云：「波障源源，源即「原」字，亦由此文所从出。漢隸多有古文遺跡，則羅振玉陳邦懷輩固已歷歷言之矣。古

籍考卷上一七至一八頁

2218(3408)

高鴻緝曰：「源」字右旁作「介」，按與本銘原字偏旁作「𠂔」者相似而不同，其為古「原」字之異體歟？散盤集釋十六頁。

吳大澂曰：「疑即滿字。」（卷齋十六冊八頁，散盤）

劉心源曰：「滿」或釋「滿」，或釋「源」，皆非。寄舲卷八第二五頁，久人盤。

郭沫若釋「源」見兩改一二九頁，久人盤。

李孝定曰：「字當釋源，右从「介」，上所从「八」即原字之「𠂔」，則「原」字也。」源地名當為水源之高岸，故銘云「登於「源」也」。

2219(3408)

源

源

源

源

源

阮元曰：「源」字里旁作「𠂔」，與薛書南宮中鼎里字同。（稽古卷七十四頁通鑑）

吳大澂曰：「源」說文所無，通鑑。源孟漢鼎或釋「源」非，古籀補

六十三頁

劉心源曰：「源」古無釋，源為源引，薛書南宮中鼎里字為證，不知彼云命月，與女農土作乃，與言命人名月者，與女農地為女，與邑也，辭承博古圖之譌，既不糾正而反引之，過矣。毛伯彝天，俾不與純，陸說文「𠂔」部，與相付与之約在閭上也，从「𠂔」由聲，此將文釋文所用義知彼為異，則知此為源說文作「源」即此寄舲卷五三三頁通鑑。

2220(3409)

柯昌濟曰：『舊釋理字疑从異聲。』（韓華九五頁孟漢鼎）

李孝定曰：『劉心源釋理字疑從舊說，釋理為長然字不從，昇甚明。柯說又進一境，然異字作人，與此迥異，竊疑此右所从乃人，之類異者當隸定作決。』

周法高曰：『舊釋為理參，570條唐蘭說。』

2221 (3409)

河

袁盤
王中
史△冊易

阮元釋義見積古卷八第十頁袁盤據古三之二第二十三頁
袁盤吉文卷四第二十八頁袁盤變選卷下三第第六頁袁盤兩
故一二六頁袁盤同

李孝定曰：『諸家並隸定作滅，殊覺未安然，亦未能輒定。』

2222 (3410)

沫

沫伯遺書
方寶珍專章

沫

沫

沫

沫

沫

沫

沫

沫

沫

沫伯遺書
方寶珍專章

陳夢家曰：『此器之沫从水味聲，應釋作沫或沫，卜辭地支之未或作木，所以沫即沫，說文沫，酒面也，沫，澆髮也，義既相近，聲亦相同，地名之沫或作沫，所以沫司土，即沫司使，酒誥曰沫土，嗣爾股肱，很可能是沫司土爾股肱之誤。』（金選二八頁西周銅器斷代，康侯盤）

周法高曰：『關於沫字于氏釋為者是不對的，這字從水從木，從甘當是從水香聲，而香字又從木甘聲，說文木部有某字，云某

2223 (3411)

酸果也，從木某，關，莫厚切。陳文棘為作沫，大概就是釋作某字的緣故。按某棘之部，按氏一部沫棘從氏十五部，前部亦異，說文又有柎梅也，可食，從木冉聲，汝閏切。古音棘該部柎梅也可食，從木每聲，莫梧切。古音棘之部，我疑心某字原本從木甘聲，和柎字同冉聲，甘聲通兩側，見後作莫厚切而在之部的那个字，應該寫作柎字。王鳴鳳城術篇辨說云：『酸果正當从木甘，此果爾中柎甘，天下通讀若甘，說文甘字後入移其位置于上下，左右者多，某即柎字，移于右耳。』木當云从木从甘，亦聲。嚴可均說文校議云：『小徐所見本或作甘，聲故通釋以為甘，非聲據，或作甘，誤。』（零釋四頁至五頁康侯盤考釋）

2224 (3411)

周法高曰：『我們看銘文，潘嗣土選，畢苗作厥者尊，棄那麼這是選和苗兩個人為祭祀他們的父親，共同制作的一件器物，他

們可能是弟兄二人
康侯爵如果是康叔封那康潘嗣土還是誰呢按史記管蔡世家

武王同母兄弟十人母曰太姒文王正妃也其長子曰伯邑考次曰武王發次曰管叔鮮次曰周公旦次曰蔡叔度次曰曹叔振鐸次曰成叔武次曰霍叔處次曰康叔封次曰冉季載

正義冉一作丹音奴甘反或作那音同丹國名也季載人名也伯邑考最長所以加伯諸中子咸言叔以季載最少故言季載

冉和甘古音同隸該部說文耳部聃耳曼也从耳丹聲聃聃或从甘可見丹聲和甘聲通用那麼潘和那古音相通載和疑古

音同隸之部說文疑從子得聲子和載同隸齒頭音的聲紐那麼載和疑古音也相通我們可以說潘嗣土還是冉季載他是康侯的兄弟所以他們兄弟倆共同為他們的父親文王作祭器零釋七至八頁康侯殷考釋

陳夢家曰同出上有沐白迭諸蓋則迭又為林地之伯其人

為文王之子餘無可考金選二十八頁西周銅器斷代康侯

周法高曰赤塚志引加藤常賢之說釋為潘上牛為燎木之象

下曰字象箕形儲木於箕中赤塚氏少變加藤之說謂者之上

半為黍下半為藏黍之器貝塚茂樹新出檀伯連器考釋亦都

第八謂潘嗣土迭為檀司徒連認為潘字之曰形為丹字與連

檀同乃檀伯之檀之初文余說為聯季載白川靜皆以為不可

信見金文通釋一四康侯殷白鶴案白川氏認為潘伯之器有美術館誌第四輯一五三頁

2226 (3411)

2225 (3411)

以字形圖象歟識並非出自周族同上一案同姓者未必同族徽國語晉語四司空季子曰同姓為兄弟黃帝之子二十五人其同姓者二人而已唯有青陽與夷鼓皆為己姓青陽方雷氏之甥也夷鼓彤魚氏之甥也其生而異姓者四母之子別為十二姓凡黃帝之子二十五宗其得姓者十四人為十二姓姬酉祁己滕箴任荀偕姁偃依是也唯青陽與蒼林氏同於黃帝故皆為姬姓同德之難也如是劉節中國古代宗族穆種史論九四八年正月一云嚴格地說來姓氏有很大區別其淵源都在古代的圖騰姓是血緣的關係氏是地緣的關係頁二五一云若深刻一層來說古代的氏不盡是地緣關係在氏族社會裏的氏就有血緣意味後世更有用官爵用職業作氏的不過在下辭裏氏已經含有地緣的意味可見弟兄二人分封二

2227 (3411)

地即可能有不同之氏族標識然則潘司土迭如為聯季載亦可能有以之標識再進一步言之銘文中不可能有太多之巧合今康侯殷中之潘與聃音近迭與疑同與載音近司土與後世司空之職聲有關係加以與通常解作聯詞與皆可以證明潘司土迭與康侯爵為弟兄如此之吻合絕非偶然且陳夢家亦以二人為弟兄可謂不謀而合楊樹達亦引及左傳定公四年一條可謂未注意耳可見所見略同矣

2228 (3411)

李孝定曰字从水从木从日若口水木二字其明確惟第三偏旁固非口字亦疑非甘字乃雲之古文也申金文偏旁多有此字與口不殊因施而異或中間加點則又與甘字相混古文之變化往往類此是非正未易言也

C 由引靜而清湖土遠求高第一字天孫二氏釋者向字形稍異又
昔慈氏釋作沫以乃其邦之沫之初文然與字形不合陳氏
釋作沫以乃其邦之沫其說曰

此器之沫以水沫聲應釋作沫或沫下解地衣之末或作
木所以沫即沫說文沫洒面也沫濯髮也義相近聲亦
相同地衣之沫或作沫所以沫司工即沫司工酒誥曰沫
工嗣爾股肱依可能是沫司工爾股肱之誤同出工有沫
白達諸器則達之為沫地之他其人為文王之子餘無可

以說為釋沫之作沫多方曲說以沫為沫聲字說實有不合理
之處

據赤塚氏所引加藤常賢之說則字釋作沫謂黑鐵之字乃有略

其旁之炎者也而者字之上半乃燎本之象下之曰字則象其形
乃儲不於其之象以乃釋作沫是也然曰本非其形而是數者之
形者塚氏將加藤氏之說果如變更以乃者之上半為象下部則
為其義然則謂今無可決定之字云

以上釋活字乃者活字或以之為作沫沫以乃乃地衣然諸說皆
不用示之更傳之方活者也陳氏既以具人為文王之子而另一
方面則以具人不明求具人于更傳中者則有貝塚氏用衣之氏
之說

貝塚氏以活司土遠為禮司徒達即禮伯達其人也然其後收錄
作禮伯達其論証又費長又其要則以活字之曰形讀作丹以
乃其字與禮禮相同乃禮伯之禮之初文又其乃人手執杖凝然
而主之象氏以乃其字即相當於說文之禮字條下罰不敬禮其

皆之禮謂通合於閑大以皆大聲以責而以故打之之形狀是為
疑疑之所以故非打故以禮之形然此則據此將活司土達解作
禮司土達蓋詳論禮伯之所封然其字釋既有問題一如上述則
所謂封于河十一字封於河內注之禮伯之封地即使一如貝
塚氏之說乃在頓丘澶淵之地亦不能確定此器為禮伯之作器
也

周法高氏以黑鐵之活湖土遠為康和之弟丹季載而說之武王
之同也兄弟自伯邑考康和封以至丹季載共有十人周氏从右
音之因律而推是活達為丹季載曰

史記周本紀世次曰丹季載正載丹一作丹音如甘反或
作那音同丹國名也丹載人之名也以季載最少故言季載
丹和甘大音同隸誤部說文耳部那耳曼也从耳丹聲那

爾或从甘可見丹聲和甘聲通用那廣潘和那古音相近
載和疑古音同隸之部說文疑从子得聲子和載同隸造
漢音的稍細那廣載和疑古音也相通我們可以說清湖
土達就是丹季載他是康和的兄弟所以他們兄弟兩共
同為他們的父親文王作祭器

陳氏和周氏皆據說文之活司土遠求而而以康和與活司土遠
為兄弟陳氏不得其人周氏則以音韻求之以為與丹載為一人
然所謂遠求者並非二名並記以此求之于兄弟行中然應前
提之誤也又貝塚氏以活湖土遠為周之八士之一之伯達即南
宮伯達禮伯達之說亦以作器者為諸侯身分者也故不得不檢
尋一下究竟湖土之身分之人特別是稱作某比之湖土者是否
可以是文王之昭或是周初之功臣八士之列之人

周氏既以活解工選文作并考載而再考載之職事正是嗣土引
左傳定公四年康叔授封之文左傳曰

取於相工之東郭以會王之東蒐執事受土而新授氏命以
康誅而封於殷虛

周氏以此一段工即為嗣土之職事也然左傳下文尚有周分爲
不掌康叔爲司寇解事爲司空史記卷之九世家所記亦與此同故
不能直接以左傳之授工文作司土之官也後徵序中以爲左傳
之授氏乃相當於司使之官謂此諸司土選皇傳文之闕和歟而
將周叔擬於諸司土選皆爲相似之想然與事實不合嗣土之
職在全文中又概見於共懿期以後之語

免置 王才周令免作嗣土嗣意選數果矣求收
夫人暨 嗣土弟口：凡厥有嗣十人

載設 王曰載令女作司土官嗣釋田
周初之器中此釋官名並不多見不與嗣土嗣工嗣馬之屬亦皆
至後期始見者也故以左傳之文作爲全文之據證時此要十
分注意

全文之嗣土被以爲即相當於以後之司徒然正如免置以下
之例可知其職正如其名乃官嗣工田林牧者也此亦不過是掌
管極有限之特定地域者也與其後之六十六官之一之司徒
在官制上其地位大異以此言之活解工選者微處地是掌實活
地之土田林牧之一地方行政官並非與大祝大史大保相當之
中央樞要之官也則是諸司土選者乃與春秋時稱呼列國之官
之時相同之稱即任諸地之司土之職之選也這猶遠伯者有事
而采一邑蓋其後來取得領伯之地位也若違一此論者所言乃

武王之兄弟輩或爲周初八士之一之權伯選則其時無任此種
官職之理也稍後之器中連書成周八伯之官亦任冢司土之
職若諸司土選解作諸地之司土選則不必若若求之於史傳中
之人物亦可視為在當時係此康叔職事之該地方之豪族也又
文義亦全無凝滯而可流通 (全文通釋第四輯一五二一一五
四頁二四康侯說林陳明達)

蘇建鼎 (1941) 上建也
司寶器

李孝定曰字不可藏

水部

水部

水部

李孝定曰似當隸定作深从水从金文穆字偏旁正同彼作水相屬為一體正象未采義形義从水之形為遂以象形為會意矣字當从水采聲入名

2237 (3413)

水部

散置溼田當讀作溼田我既付散氏溼田為一字之誤說

吳大澂曰溼田當即溼田說文溼田下溼也爾雅釋丘下溼曰限从水从自當即一字(卷齋十六冊八頁散置)

劉心源曰溼字書不載或釋溼然从88从己自界之是从溼也史記靈王在茅京溼宮近人亦釋溼又引為溼澤聲近義同存參可也(奇觚卷八二八頁夫人盤)

2238 (3414)

高田忠周曰散氏盤書曰我既付散氏溼田脂田余有美錫積古阮氏云溼字無考按阮說斷非萃編云溼字說文溼水出東郡東武陽入海漢書地理志作溼與下溼之溼有別變云溼愚謂王說愈阮說一等而未盡矣此篆實下溼字省文也而其

義當為溼即溼字如上述所云朱大駿聲云按田膝埒謂之濕畦界曰下猶理高曰溼也詩載芣徂隰徂畛以隰為之此說似是但載芣實隰為新發田也夫膝者稻中畦也畛者井田間之陌也即如此等篆文作己作口者並以象畛畛形也己或為畛之省當从以會意也然則作溼者後出文字依轉義而製作如此耳

奇觚劉釋溼云溼牆皆地名溼字書所無或釋溼然从88从己以界之是从隸也史記靈王在茅京溼宮近人亦釋溼又以溼澤聲近為同又按此說亦或是下辭有辨辨字即辨字絕古文然則从己从口以為聯繫意亦似妥當且依古文立位同字入內通用溼澤聲通亦為至當矣余前攷空政手否古有象形段借其例不為不多許書亦有之此隸之己與畛之己相似

2239 (3414)

故借為田畦象未可知矣(古籀篇四第一六頁)

高鴻緝曰溼字難識考溼字古文作溼从水从土88聲88古文系字古亦作88今溼字亦似从水88聲溼字當亦88或88之異體如此則溼亦溼字也(散置集釋六二頁至六三頁)

郭沫若釋溼見兩政一二九頁夫人盤

李孝定曰分析字形似以劉心源氏之說為長然隸乃古絕字當从刀斷絲此明从己以維之或仍是从系高氏之說實較優也吾从衆說釋溼

2240 (3414)



如吳大澂曰（卷八）史頌敦疑古澹字異文从唐从水唐所以觸不直範圍之使可守也澹令之行如流水去之則為癡或澹字本不从去（古補補附錄十三頁）

2241(3415)

如郭沐若曰：「憑」字不識。右旁奇文亦見齊侯鐘。並見下二。彼以宣升爲
 爲國族者。余意卽是鮮虞。此「憑」字是从「憑」得聲。抑从「憑」會意。
 所未能明也。（兩政七十一頁史頌跋）

2243(3415)

𡵓

王白尊 王白位田諸侯

王白丁事△(48)

阮元曰：𡵓即班字。禮王制：名山大澤不以𡵓。古以舟之字隸每省。从月，𡵓字當即般之異文。分也。禮：王子弟出封，得立其祖王之廟。逸書分器序云：武王既勝殷，邦諸侯，班宗彝。此銘曰：𡵓，謂般之同姓諸侯，俾作重器以鎮撫其社稷，禮之經也。(續古卷一、二十一頁王王父丁尊)

吳榮光曰：𡵓从月以分肉會意。分亦聲。此田畢而𡵓禽饗士之禮。詩之舉柴，西都賦作舉膏，正此禮共引申為分土分民之訓。又頒享行而𡵓字慶其孤，文幸存小戴記耳。正如𡵓字古但從肉，後世乃用𡵓字其孰為本字？本義孰為引申義？世鮮知之矣。

(續清卷二第十八頁同十月戒田尊)

劉心源曰：从舟从𡵓省當是也。之會意字。釋𡵓者認(奇觚卷五十二頁王田尊)

高田忠周曰：此篆从𡵓即𡵓字。又卜辭𡵓字作𡵓，又作𡵓。金文或省作𡵓。然此亦當𡵓字古文。說文：𡵓，十里為成，成間廣八尺，深八尺，謂之𡵓。从水，𡵓聲。論語曰：盡力于溝𡵓。又溝下曰水，溝廣四尺，深四尺，从水，𡵓聲。又溝下曰溝也。从水，𡵓聲。一曰邑中溝。𡵓溝，𡵓三字次出。蓋溝𡵓有異，𡵓即通名。此溝𡵓字固當从𡵓象形文也。亦𡵓字从人，𡵓聲。𡵓字亦當从𡵓省聲也。故今定為𡵓。銘義：蓋作器工人名音義無徵矣。此銘續古齊先收云：此𡵓即班字。禮王制：名山大澤不以𡵓。古从舟之字隸每

2250 (3417)

2249 (3417)

省从月，𡵓字當即般之異文。分也。禮：王子弟出封，得立其祖王之廟。逸書分器序云：武王既勝殷，邦諸侯，班宗彝。此銘曰：𡵓，謂般之同姓諸侯，俾作重器以鎮撫其社稷，禮之經也。蓋阮氏意謂金文𡵓字作𡵓，其川即舟字。未知川象水，朝宗于海之形，與𡵓作𡵓，作𡵓，作𡵓，同意耳。又按朱駿聲云：考工記：匠人方十里為成。云云。此井田之制。周禮：遂人百夫有𡵓。𡵓上有涂，此鄉遂之制。而其廣狹從同。轉義魏都賦：崇墉濬𡵓，謂城下池。下又後漢紀：星傳注：𡵓渠也。以石為之。猶今之水門也。段借為濬。莊子則陽所行之備而不𡵓。李注：濬也。又為𡵓，齊物論以言其老𡵓也。然𡵓為通用字。𡵓字固當从𡵓聲矣。(古籀篇三第二〇至二一頁)

2251 (3417)

徐同柏曰：𡵓專車之𡵓字从𡵓，此从𡵓。𡵓象器形。𡵓古𡵓字。从𡵓，𡵓从𡵓。𡵓(從古卷十第十四頁商攸尊)

李孝定曰：𡵓从水从𡵓。左既然从舟，高田氏謂阮氏蓋以𡵓字是然不知𡵓从𡵓。乃右亦不分。阮氏之說甚辯，而於字形全正。𡵓从𡵓，乃形也。也。無關涉。阮氏大儒，其說字輕率如此。劉氏承其誤，而謂右从𡵓，省亦誤。吳氏謂左从𡵓，未知何據。高田氏謂从水，甚是。而謂右乃𡵓省，亦不合字形。𡵓字與文或作𡵓，或是一字。其下从人，甚明。上象人有𡵓角形，不解何字耳。此當是从水𡵓聲。字不可識。

2252 (3417)

2255(3420)

是此中亦中字小異耳（古篇篇五第三三頁）

于省吾釋蒙見雙蓮卷下三第第八頁啟貞

李孝定曰阮氏錄定甚是疑為蒙字雖無據然音讀可通據此運轉為蒙其說字形未允此附（中下兩點仍當屬上雨字古文）从雨之字多如此可証

2257 (3421)

雨

曾伯蒙書

曾伯蒙書

阮元曰吳佩叔以為蒙字證以石鼓文雨字及史蒙書黎字吳釋良是此特有省筆耳（積古卷七、八頁曾伯蒙書）

徐同柏曰蒙字見石鼓文此从雨从黎省字同黎（从古卷三、二十頁曾伯蒙書）

方濬益曰自吳佩叔釋蒙為蒙後來諸家多從之阮錄亦沿其說蓋以此為石鼓文雨字之通文也今審此字从雨从黎黎从木从禾則非蒙字明甚說文木汁可以彫漆物象泰如水滴而下泰正古文泰字疑蒙即泰之通文从雨亦以下滴為義也（綴遺卷八、十八頁至十九頁曾伯蒙書）

2258 (3422)

吳大澂釋蒙曰雨从黎省說文所無曾伯蒙書（古篇篇六十五頁）

劉心源曰阮從吳佩叔據石鼓文釋蒙心源案石鼓文有蒙字其字蒙旁加多明是黎字此不从多則非黎也說文泰作从雨从禾兩省聲孔子曰泰可為酒禾入水也據許書雨古文作同此當云兩聲用古文雨不當云兩省聲必傳寫者不知雨為古文雨妄加省字耳禾入水為會意字則蒙作从雨从禾从後解故从雨之說晦此蒙蓋合雨水為之仍是泰字古文偏旁雖重者如都公誠之誠从言从城士告辭之姑从司从始師異鼎之異从異从射本銘之錫从賜从金皆此例也石鼓文蒙仍是从勿从泰之黎与此不相混阮未細審耳（奇觚卷五二十八頁曾伯蒙書）

2259 (3422)

高田忠周曰按劉心源說非是古文泰不从雨亦是象形字異文作泰所謂禾入水之意也許氏所傳雨聲說後人依小篆為之泰字正古文从禾為形或八為象形此蒙即蒙省文耳（古篇篇五第三二至三三頁）

柯昌濟曰蒙字當从黎省聲石鼓文亦有蒙字曰翰蒙其說未詳說文風雨土也从雨聲詩曰終風且霾案隸黎音同此字从黎省聲當即隸之古文矣（隸華二一四至二一五頁曾伯蒙書）

高鴻緝曰疑即泰字下象泰形上為雨聲不省字例二篇四三頁

屈萬里曰積古引吳佩如說以為是蒙字後來的學者很多人遵從這一個說法奇觚因為蒙並不从勿說它不可能是蒙字

2260 (3422)

而認為它應該寫作篆也就是秦字說見綴遺卷八則以為此字
 从雨从來从木不从木因而疑是作篆並認為篆或許是秦的籀文按
 來正象樹上的漆汁如水滴而下說文當是古秦今通字茲從
 原字形緣定作來此字應當是从雨秦聲而未必就是秦字可
 惜後世的字書裏沒有這個字所以就無法知道它的意義了
 (書備三八五頁曾伯震簋考釋)

郭沫若釋粟見兩攷一八六頁曾伯震簋

李孝定曰字从木不从禾甚明釋秦釋粟並未安木之兩旁
 各着二點方代以為漆字甚是屈氏亦从其說惟謂當是从雨
 秦聲未必便是秦之本字竊謂秦之下如雨之下篇文秦篆体
 从雨正有義可說也

日

郭沫若曰字亦見於卜辭其正書者作日若日簡書者作日
 與此全同余於彼釋銘殆象骨片呈兆之形本銘此字繫於
 廿之下凡言豎數古人例稱以自是則此字乃假為自由卜辭
 以得其形由本銘以得其音二者互證可知釋銘釋自均無可
 易(青研二十二頁戊辰彝考釋)

吳式芬釋戶見據古二之三第八十六頁戊辰彝

吳闓生釋自見古文卷二第二十三頁解彝

2262(3423)

2261(3422)

李孝定曰郭氏謂卜辭之田其省作日者即此字按卜辭之田
 乃乃字多段為漏乃數卜骨之形其省作日中涵一斜道與
 此中涵平畫者有別竊謂當从吳說釋戶為是銘云司師錫
 戶戶圖貝圖乃乃之繁體非也廿之合文銘意乃司師以
 錫絲以圖貝賜戶也

赤塚忠曰日字與郭氏所云之田字田字不相似乃門戶之象
 形也圖田蓋當是以由戶為地也(殷金文考釋四二頁解彝
 (四)林深明譯)

日

郭沫若曰字亦見於卜辭其正書者作日若日簡書者作日
 與此全同余於彼釋銘殆象骨片呈兆之形本銘此字繫於
 廿之下凡言豎數古人例稱以自是則此字乃假為自由卜辭
 以得其形由本銘以得其音二者互證可知釋銘釋自均無可
 易(青研二十二頁戊辰彝考釋)

于省吾釋聲見雙選卷下一第頁刺鼎

李孝定曰字从聲从艮未知仍當釋聲否說文無聲新增字有
 聲今此文从又例與从支得通是說文當有聲字也此又增之
 艮當另是一字

2264(3424)

2263(3423)

門

許慎說文
門部

門部

阮元釋門二字曰。門字从木从片。即脉字。廣雅云。拒棺也。其當謂之脉字通和。呂覽云。見棺之前和。和門為史名。猶瑪摩為公族名。古人少二名。此二人皆二名也。或曰。化器右者與史皆舉其名。此但舉其官。言公族在廟視瑞璫而入右。王呼史於和門而冊命。和門。軍門也。見周禮大司馬注。此器銘變例。說可附存。○(續古卷六、二十五頁師酉鼓)

劉心源曰。門。吳氏云。碧落碑。辟作。門。恐此字下。半亦从非。今釋。能門二字。亦是人名。廣韻作。脉。戶戈切。又伯新戈作。龍。龍手。鑑音。科。鄒。原。鐘。和。連。字。作。即。此。○(奇觚卷四、二三頁師酉鼓)

孫詒讓曰。金文。牆字。又有从一木者。如師酉鼓云。王手。詩。史。牆。冊。令。師。酉。鼓。亦。即。牆。字。牆。釋。為。利。上。右。从。片。月。友。左。从。木。絲。之。下。从。門。即。首。省。與。孟。鼎。面。下。从。門。形。同。○(石原上、二二頁)

孫詒讓曰。阮叔識釋為。門。二字。吳云。疑一字。今以。篆。勢。審。之。吳。謂。一。字。甚。是。但。不。能。填。定。為。何。字。竊。疑。此。字。上。从。木。从。片。反。文。下。从。門。當。為。牆。之。異。文。說。文。書。部。審。從。木。自。牆。从。書。月。聲。重。文。牆。籀。文。从。二。木。此。謂。字。即。牆。之。省。也。後。師。東。鼓。風。夜。即。乃。牆。彼。从。二。木。不。省。又。自。作。向。並。與。自。作。則。者。家。戶。牆。形。同。自。入。自。此。小。異。詳。前。楚。公。鐘。及。後。孟。鼎。面。作。則。者。家。戶。牆。形。同。自。入。自。同。象。屋。形。中。有。戶。牆。形。殊。不。相。似。通。按。金。文。自。形。下。多。作。四。即。同。內。因。諸。形。小。篆。小。異。小。篆。作。同。者。蓋。即。沿。自。形。而。變。耳。後。孟。鼎。面。字。作。向。之。三。此。則。與。彼。正。相。似。但。省。門。耳。又。散。氏。盤。圖。字。作。固。之。三。今。仲。鐘。點。字。作。之。三。二。自。字。偏。旁。並。作。

爾亦可與此相證。後文。西門字。別作。門。知此。則。非。門。字。也。○(續古卷三、第二七至二八頁師酉鼓)

高田忠周曰。今。審。卜。者。余。之。省。上。从。二。木。與。从。一。木。同。門。為。字。聲。但。初。為。聲。象。古。文。說。文。門。亦。苗。嘉。穀。也。从。艸。聲。聲。字。或。作。康。詩。生。民。維。康。維。芑。是。也。又。作。穉。說。文。瑞。下。云。赤。苗。謂。之。穉。是。也。然。字。从。木。當。然。耳。又。爾。雅。釋。艸。藩。藩。藩。冬。注。作。門。冬。或。作。滿。冬。然。則。聲。亦。从。門。聲。作。網。無。容。疑。焉。○(古。籍。篇。七。十七。第。二。二。頁)

李孝定曰。此字。下。半。諸。家。多。以。為。門。字。固。甚。似。然。从。木。从。片。从。門。字。書。實。無。其。字。孫。氏。引。諸。金。文。自。圖。諸。字。偏。旁。以。証。門。實。為。自。字。之。省。然。後。合。木。片。二。文。釋。為。牆。字。其。說。可。从。高。田。氏。謂。自。為。木。之。省。無。論。古。文。省。易。無。此。例。且。此。所。从。下。短。畫。上。引。亦。

與。木。之。右。下。短。畫。下。引。者。有。別。也。

劉心源曰。耕。引。廣。足。拒。推。也。其。書。謂。之。脉。字。通。和。呂。覽。云。見。推。之。書。和。和。門。為。史。名。是。也。今。改。廣。韻。脉。戶。戈。切。集。韻。或。作。株。○(古。籍。卷。七。第。十二。頁。師。酉。鼓)

③ 疑是「△作父癸」

阮元曰：疑是「父」字，古文當通，然未可定。姑闕疑。（補古卷一二十八頁父癸宗癸）

吳式芬曰：阮釋闕疑，宋叔宿彝宿字作「父」，與此字相類，故釋為「父」。（據古卷二之一、二十三頁父癸宗癸）

參閱第1504條于省吾說

楊樹達曰：阮氏疑首一字為「父」字，吳式芬據古錄金文式之壹卷上載此器釋為「父」，余謂阮吳之釋皆非也。耳尊耳字作「父」，見卷齋集古錄第拾卷冊十六，應前題字所从耳字作「父」，聲與耳字所从耳字作「父」，知此亦耳字也。（補微二五二頁父癸宗癸再跋）

李孝定曰：吳氏釋「父」甚誤。「父」字金文當作「父」，乃「父」之古文，與此絕異。所引叔宿彝之「父」，當錄定作「父」，亦絕非宿字也。于省吾氏釋耳，詳正續卷十二第1504條耳字條下，其說甚是。吳文作「父」，諸形並與此同。

2270 (3426)

2269 (3426)

④ 疑是「父」字，後各于「父」通，「父」休于「父」，長師

參閱第1504條于省吾說

陳慶家釋耳，見金選一六三頁西周銅器斷代44耳尊。

李孝定曰：于陳二氏釋耳，說無可易，參看3426條。

疑是「父」字，王季子史公冊命諫曰

強運開曰：「父」諫教內史方運開按失佚古通史記韓非傳非吾敢擴失能盡之難也。前漢五行志魯夫人淫失於齊並與佚同內史失即史佚也。（補三補卷十二第3頁）

郭沫若釋先見兩故一七頁諫教

李孝定曰：郭說為長，揚善先字作「父」，與此正同。

2272 (3428)

2271 (3427)

𠄎

改王先戈也 改故王
先自△

李孝定曰字不可識

容庚曰攻敵工先戈 𠄎 攻敵工先自五字背一字不可識史
記吳太伯世家太伯之奔荆蠻自號句吳或引作句吾攻吳王
雖無一作爲書者然工字與大工戈同可正前釋工爲王之誤
光工名自者自作用戈也 金選 四二二至四二三頁爲書者補正

2273(3429)

𠄎

史事
△作
字事

李孝定曰此疑藏字从戈从肉與許書大禰之訓略近

2274(3430)

𠄎

婦王 婦王 婦王 婦王

李孝定曰从女从士而下所从不可知難以遠定

𠄎

婦在作婦但王 婦△作婦
婦 婦

李孝定曰疑當釋婦下所从下橫畫較長疑仍其字惜此
爲人名無緣由字義証之耳 按注說文改婦象作婦觀此知不
然矣

2276(3432)

2275(3431)

柯昌濟曰：『楓舊釋疑』非是。此字从女从允，允當即風之省，楓即古風姓。風字左傳仕宿須句，顧炎太昊之後也。『續華』一四九頁宿楓焉。

李孝定曰：『劉氏說凡仁人諸字形音相通之故，甚是。然此字从允，固非重入，安得釋此為楓？至劉氏以疾為泰，以子為孫，誤高田氏已辨之矣。又魯伯愈父，禹卅平，劉氏亦釋尼高田氏力讚其精考，是銘云：魯伯愈父，龜姬乃平朕，蓋禹其永寶用，郭沫若氏兩用金文辭，大系改釋一九七頁於平字之旁，看一人名號，蓋以為龜姬之名，而於其字無改，按其字形斷是『二千合』文，惟『二千』不類人名，故郭氏不取，但加釋定，然斷非尼字也。柯氏釋允為風，其說未聞。高田氏釋『故』亦無徵，字不可識。

2281 (3434)

𠂔

韓伯達
金台
得用

方濬益曰：『如但作始，此从女从𠂔，即目錯綜其畫為後世隸書作以之所本。』（『綴遺』卷二十五，一頁，豐伯達）

吳大澂釋：『姬見『憲齋』十五冊十七頁，鄭伯姬蓋蓋。

李孝定曰：『疑書錄定作，如即許書，如字右旁从𠂔，仍是山之繁變，釋姬釋妙均未安。

2282 (3435)

𠂔

若此鼎
石山文
字專章

方濬益曰：『从女从𠂔，說文允从凡，凡聲，凡為人之古文，奇字只下示象人形，疑是允之異文，从女為人，姓當作妣。』（『綴遺』卷四十四頁，鄭伯姬）

李孝定曰：『字不从允，方說非是。』

2283 (3436)

𠂔

女
𠂔
𠂔

𠂔

只專伯姬之賜
白馬黃髮
𠂔

𠂔

名大蓋
數是
𠂔
𠂔
𠂔

吳式芬曰：『許印林說對字古文變體最多，或从尸，或从弓，或从刀，或全珠，小篆偏旁作舍，此則上作止，似手，下直从小篆女字，尤為僅見者矣。』（『據古』卷三之一，二十五頁，君夫數蓋）

徐同柏曰：『詳集韻音，丰方言云：凡好而輕者曰姘，此當讀為奉，字从女，二聲，奉承之意。』（从『古』卷十五，十五頁，周君夫說）

劉心源曰：『中許印林釋對字古文變體最多，而引變體皆不出古刻，未可據也。此字从手从女，豈非對字何得引習見對揚？』

2284 (3437)

也或讀為奉亦可通然古專銘云伯懋父賜召白馬并黃髮
釋封釋對均不可通釋每讀拙亦殊牽強然覺未能明耳王
獻唐氏釋每以高主及易象傳孔疏訓詁來言相章合亦
未足以厭人意也

周法高曰說文十二下入無行也从士从母實傳中說秦始
皇母與嫪毐淫生孫故世罵淫曰嫪毐讀君娘通在即此字之
端變音緣之部影紐假作敏亦之部字从每聲者有悔字故得
與影紐字相通₃₄₃₆條同

2289(3437)

郭沫若曰每讀為敏(兩攷六七頁縣妃假)

李孝定曰無上文為一字

劉心源曰案女字篆形是文義當為母母字从女古文同形之
字得假借也(古書卷五第十四頁縣妃葬)
周法高曰此條不應獨立編號應歸入₃₄₃₇而將₃₄₃₈之號碼刪去

2291(3438)

𡗗

縣妃並縣妃₃₄₃₆ 楊伯序之休 白序之休

容庚曰𡗗乃對字之別體君夫匱五君夫敢對揚王休作𡗗晉姜
鼎對揚年光刻作𡗗同(善因十六頁縣妃匱)
阮元釋女見續古卷五第三十七頁指妃葬

劉心源釋女讀作母見奇觚卷十七第十八頁縣妃葬

于省吾釋每讀作敏見雙選卷上二第二十七頁指故葬

吳闓生釋女曰對父故換女言文卷二第二十一頁指妃葬

2290(3438)

𡗗

咸寧縣 咸寧縣 丁牌

李孝定曰不可讀

2292(3439)

姊

李孝定曰

左从女右所从似未而實非未字當隸定作市全

字當隸定作姊

姊

李孝定曰

左从女右所从似未而實非未字當隸定作市全

潘祖蔭曰張孝達說

姬下一字乃姓字穆天子傳盛姬之喪

叔姪為主郭景純注王女也猶文坐上从兩人不似小篆从邪

見說文其右時坐下加久者曲禮為其拜而夔拜釋文即讀為

坐音以控義釋之是古文坐有从久者矣古文多義文此類是

也穆傳晚出書難可依據特援以證姓字之見于傳記耳舉古

一冊四九頁數王蓋

高田忠周曰郭古原引周孟伯說姊字又引張孝達說乃姓字

穆天子傳盛姬之喪叔姪為主郭注王女也猶文坐上从兩人

不似小篆从邪見說文其右時坐下加久者曲禮為其拜而夔

拜釋文即讀為坐音以控義釋之是古文坐有从久者矣古文

2294 (3441)

2293 (3440)

多義文此類是也周張二氏說皆過穿不可從吳氏古籀補云
古姊字小篆作姊此說猶近然坐从土與此形自異因亦改
排字諸形有作姊者左形上作丫與此合又有作姊者下作人
與此合如中形作姊與上諸篆相同此字亦為姊之異字無疑
如嬖豆如把伯敏父蓋亦皆為上篆作姊者之省變可識耳今
定為姊字古籀篇三十八第三四至三五頁

周孟伯曰年鐘鼎文皆作姊此姊字實同也(舉古一冊第
四十九頁數王蓋)

李孝定曰右从女左上與姊一文字右旁所相同左下所从非
人非土諸家釋姊釋姓釋姊皆未安或釋姊猶近似而謬

審其左旁實非坐字蓋从華之字金文多作坐若華字與此有
別此字當隸定作姊字不可識

2296 (3441)

2295 (3441)

仲

仲文盤 仲文作

△報事盤

高田忠周曰按端說文所無集韻端字知古有此字或為連文又按顯字古多借為端或傳顯合而為此文字蓋不然矣(古篇三十八第三九頁)

于省吾釋端見雙選卷下三第頁仲獻父盤古文卷四第二十八頁仲獻父盤

張日昇曰按此字已收入正端中見婦

李孝定曰字形與婦近釋婦於端意亦順通惟所从山究非帶字果當釋婦亦書寫有誤也高田氏說未確如其字隸

定之當作婦所从山與下所从同非其字也

2298(3442)

2297(3442)

𡗗

頭自 顯昌 婦(𡗗)

李孝定曰當隸定作𡗗未知與𡗗是一字否

𡗗

中皮之蓋其𡗗上同高孝子中皮父 舊釋妻古者經妻字作𡗗與𡗗相似 于叔友文

劉心源曰媿吳閩學云龔定盒釋民荷屋何子貞釋仲朱建卿釋妻許印林釋弟皆未確心源案說文兔作𡗗从𡗗象兔首形許云兔頭與𡗗同𡗗作𡗗是也古刻从𡗗之字如隻石鼓文作𡗗并李龜更自作𡗗史籀𡗗作𡗗或釋𡗗又熊字古刻亦从𡗗 京周 𡗗 𡗗 合參篆形知𡗗𡗗𡗗即𡗗皆象獸頭此銘女上从𡗗蓋媿省也字亦作𡗗媿通媿學傳媿顯說文媿生子免身也媿生子均育也𡗗一乳兩子也方言媿耦也顯雙也凡人乳而雙產謂之雙生秦晉之間謂之健子廣雅釋詁三健顯雙也(奇觚卷三二大頁媿子𡗗)

2300(3444)

2299(3443)

孫詒讓曰案舊無釋吳云龔定龔釋民何子貞釋仲宋建卿釋妻許印林釋弟皆未確今攷字下从女則與民仲弟諸文並不相應上从中亦非妻字吳序諸釋皆不確信然竊疑中當為由後康彝甲胃字作𠂔上从山韓侯伯履鼎作𠂔孟鼎殘字貝胃字作𠂔並以此為由與此字上从中相類此从女从由當為妯之變體說文女部妯動也从女由聲即此字也依聲類當為胃之借字此从肉字異書與教胃子偽孔傳胃長也說文肉部云胃臑也古重宗法以適長子主祭祀故云其胃子用高孝於叔皮父矣徐論卷二第廿八至二十九頁叔皮父說

2301 (3444)

一舉在左鼎者疑亦夷之乙亦一舉亦是夷之下一舉在于南未詳唯文曰其弟子其義尤顯明者豈亦容疑耶如此篆所謂古文奇字也古籀篇二十五第一七頁

戴家祥曰𠂔字義定龔釋民何子貞釋仲宋建卿釋妻許印林釋弟並見據古錄二之三引吳式芬關雎集公曰今攷

𠂔字下從女則與民仲弟諸文並不相應上從𠂔亦非妻字吳序諸釋皆不確信然竊疑中當為由後康彝甲胃字作

由上從山韓侯伯履鼎作𠂔孟鼎殘字貝胃字作𠂔並以此為由與此字上從𠂔相類此從女從由當為妯之

變體說文女部妯動也从女由聲即此字也依聲類當為胃之借字書與教胃子偽孔傳胃長也說文肉部云胃臑也古重

2302 (3444)

宗法以適長子主祭祀故云其胃子用高孝于叔皮父矣古籀徐論卷二案祥案孫詒非也𠂔字上從𠂔與山形絕異諦審拓本上半當為虎字古文虎皆作𠂔象虎頭形或變為𠂔孟鼎字作𠂔康殷康字作𠂔不類獸獸字作𠂔上文虎並與𠂔形近殆非妯之變體下文從女則確不可疑今就此字以隸定之當為虎形無疑然字書無此字聲義不可攷以意求之實即虎之別構形義互易字也許書虎山獸之君從虎虎足象人足象形按虎古本象形小篆從虎從几則形聲字也由象形變形聲亦合古文書壇之通例易從几為從女則以形義相屬故也說文八篇人部倭倭也從人疾聲倭或從女十二篇女部孀孀也或從人作倭漢碑如皆作似金文即伯鬲伯作倭齊子仲姜罍百世作百佳子禾釜槐作倭不無倭厥允

2303 (3444)

作厥安並人女互易之證也乙有𠂔字從虎從女從几前儒並釋為處由此而知虎字以象形變為從女虎聲猶兔之由象形變為要也然則叔皮父說之𠂔為虎字異文於字創始無涉矣中山第六册四四二至四四二四頁說字說

吳國生曰妻字稍動猶可辨識或釋為倭釋弟皆誤古文卷三第廿二頁叔皮父說

李孝定曰舊或釋民釋仲於字形了無關涉前賢亦既辨之矣釋妻釋弟亦徒就形聲牽附為說客氏引古孝經妻字古文殆

出汗簡然亦僅形似諦審之仍有別也高田氏說此與弟之字亦屬附會蓋諸釋皆由讀為胃蓋由此字上从由與金文胃字

一體上从之由相近遂以為此亦从女从由不知胃原無从由之理金文所从之由本象胃形蓋為由許君遂以由聲說之

2304 (3444)

耳說文無由字而有从之字王國維以為當即且此所从之由字其說蓋是要之曹所从之由固非由字也
 由亦與古形絕殊源氏云云備考分析未精之故也劉心源氏釋姚知上所从為動物象形字較諸說已進一境惟所說仍未諦戴氏釋虞謂上乃从走說不可易然戴氏謂即虎字則未安蓋許說小篆虎字謂虎足似人足故从人其說原極可笑小篆从人者乃由契文中字字端變小篆兒字从人亦然非真从古文奇字人安得以女字易之手竊謂字不可識但隸定作虛已定不必強說也

2305 (3444)

𡥉

李孝定曰
 李作𡥉△字異說

馬叙倫曰說文無婢而有奴棒為按之轉注字疑婢亦然也
 (刻詞一六六頁豐蟬數)

吳式芬釋婢見據古二之一第七十三頁豐蟬數

李孝定曰吳說可從馬氏謂即按之轉注字待考

2306 (3445)

𡥉

舊釋姚
 符中鼎
 昌△寶鼎

𡥉

姚鼎
 △作𡥉
 錄鼎

𡥉

姚鼎
 △作𡥉
 昌△寶鼎

𡥉

毛伯嘏
 父蓋
 仲△寶鼎

商承祚曰姚女姓从女从𡥉非兆字小篆衍變誤作外
 今二家一六〇頁居六頁旗叔樊臣易姚鼎

吳闓生曰姚亦女姓(古文卷三第三十一頁叔服父敦)

于省吾釋姚見雙遷卷下二第二六頁叔服父敦

李孝定曰似當隸定作姚商氏釋姚無據

2307 (3446)

𡥉

李孝定曰
 李作𡥉△字異說

李孝定曰當隸定作姚

2308 (3447)

伯嬰父焉

伯嬰父焉
伯嬰父焉

伯嬰父焉

伯嬰父焉

伯嬰父焉

阮元曰案舊釋伯下一字為呂皇二字誤也此字从呂从頁以
弓乃古文躬說文解百字云頭也解頁字云頭也从頁从
文諸首如此解躬字云身也从呂从弓躬字取鞠躬
之義古訓為身亦為恭故字从呂呂同聲皆脊也此躬躬字不
从身而从頁蓋百象人首下凡古人字象形頁與身義固相近且
頁即古躬字頭下首也首下而見呂合乎鞠躬之義此會意
也又从弓者諧聲也一字而會意諧聲兼之古之體備矣又
說文凡字下引孔子曰在人下故諸屈諸屈即有鞠躬之義弓
義為窮可通於躬故鄭注論語直躬之躬作弓先聖之傳
恭即於制字傳之垂訓切矣(舊古卷四二十五頁伯躬父焉)

2309 (3448)

吳式芬曰許印林說篆作𠂔甚明哲確非躬字論疑夏亦
未敢定以齊侯壺夏字證之釋夏當不誤彼之亦作女(練古卷
二之二十七頁畢姬兩)

徐同柏曰𠂔字舊釋作躬今按此字自象鼻形象鼻出入形蓋
古息字即即晏字文不連者鼎彝中如篆作𠂔態作𠂔每有
此文合為𠂔字乃古安字知為安者晏安也故字从𠂔人安靜
則息謂故字又从息漢書五行志集注安安息之貌賈山
傳集注安息曰安又廣雅釋詁息安也禮禮弓注息猶安
也可與是文互證(從古卷三三十三頁同伯安父焉)
方濬益曰阮文達公釋第二字為从呂从頁乃古文躬親孝
拱則謂此字左象盤形右从頁為首以首就盤洗沐之象百下

2310 (3448)

為水流之形當是古文穎字今觀此銘定从日从目从女字作
嬰妻銘凡人名字奇古罕見者大抵皆意造之字未可強
識(綴遺卷二十六十四頁伯嬰父焉)

吳大澂曰𠂔从頁从𠂔疑𠂔之古文許氏說𠂔鼻蓋也或作𠂔
此从自自亦象鼻形既相國釋作躬伯嬰父焉(古籀補附錄二
十二頁)

于省吾曰𠂔你之月𠂔字郭羅(郭沫若二氏釋夏郭謂此从女
者殆是从女之訛變甚是但無佐證按𠂔字仲𠂔父焉作𠂔舊
不識又傳世伯嬰父焉凡六器𠂔字作𠂔舊誤釋為晏或鄭容
庚金文編均入附錄今以節文驗之既可以肯定𠂔之即夏又

2311 (3448)

能够看出𠂔字遂嬗演化的由來(考古一九六三第八期四
三頁郭君啟師考釋)

李孝定曰釋字釋𠂔均非釋穎稍近而字不从水穎義不顯說
亦待商郭羅釋夏其說未聞夏與頁結構相同字右旁確為从
頁伯嬰父焉一文猶為變是郭羅之說最為近之然字又从日
未知郭羅二氏何以解此竊疑字當隸定作𠂔𠂔字从此

2312 (3448)

陳夢家曰：「禮記形體雖今以為是從女从臺，又從兩臣，說文有此字，此假作左傳昭七僕臣之臺，方言三之僕。」

說文釋為遲鈍，乃引申義，本義當是低賤的一種身分。左傳昭七楚無字所述十等人僕臣臺，服虔云臺給臺下微名也。昭七又曰：「是無陪臺也。」韋昭注楚語云：「臣之臣為陪，孟子萬章篇下蓋自是臺無體也。」趙岐注云：「臺賤官主使令者，方言三僕。」賈夫之說，猶也。南楚凡馬備賤謂之田僕，郭注云：「亦至賤之號也。」（金選九二頁又一二六頁西周銅器斷代錄方鼎）
李孝定曰：「陳氏說臣臺之意甚足，而於此字何以當釋臺，則未嘗進一解，實未足以厭人意。竊謂此字即隸寫之，亦正不易所」

可得而定者，惟一「女」字偏旁耳。必勉為隸定，似可為作「𡇗」，亦未敢自是也。

白川靜曰：「第五字字形複雜，其字未詳。陳氏以臣僕之僕當之。」

今以為是從女从臺（又從兩臣），說文有此字，此假作左傳昭七僕臣之臺，方言三之僕。

說文有𡇗字，解作「遲鈍也」。集韻作𡇗，陳氏於斷代二之附記中亦說及此字曰：

「𡇗字有關於古代奴隸身分極為重要。說文釋為遲鈍，乃引伸義。本義當是低賤的一種身分。左傳昭七楚無字所述十等人僕臣臺，服虔云臺給臺下微名也。昭七又曰：「是無陪臺也。」韋昭注楚語云：「臣之臣為陪，孟子萬」

章篇下蓋自是臺無體也。趙岐注云：「臺賤官主使令者，方言三僕。」農夫之醜稱也。南楚凡馬備賤謂之田僕，郭注云：「亦至賤之號也。」

而以此作為臣僕之僕之證，舉叔德殷有「臣數十人」之例，且論其身分曰：

由此知僕乃臣之一種，乃以奴隸身分用作賞賜物品的一種人。此處應注意一事，在西周金文中，臣或僅是一身分的名稱，但地位有所不同。如叔德殷的臣十人和令猷的臣十家，都是用作賞賜物品的奴隸。獻殷鄭尊稱為臣獻臣鄭，而實金于公伯，此方鼎的作器者，稱僕亦而得實達毛馬匹。

陳氏論此器之第五字為臣僕之僕字後，又以第六字為僕之

右乃从朕中受賜者，即作器者其人是也。且以此器與成王太保二鼎關於此器之作，則曰：「方鼎之作，身分地位很高，此可由他受賞物品知之。以下述其賜物之豐，既以叔德殷中之僕全部乃作為奴隸，如物品一器而賜與之，臣僕十人，不過是僕之身分。此處又以其身分地位甚高，可謂自相矛盾。左傳中僕乃置於十等使隸中之最下一等。」

陳氏釋為僕之叔德殷之數與本器之數在字形上亦稍異，其地位尤絕不相同。叔德殷中與臣合稱曰賜臣數十人，此蓋可視為使隸之人，或與其妻之數相近。左旁從二妻之形，本器之字則從二臣之形，蓋乃臣字之一系也。臣有二義，一是作為社會的階層，臣妾之臣也，一是從身分之關係，而官君臣主從之義也。若以主從之關係言，雖為諸侯貴族對其辟君而言，亦可

換為臣者為臣也。本器之數乃此一意義之臣也。蓋應讀作「其臣」者也。與獻餽卿尊之「臣」獻「臣」卿相同。不過此字與叔德餽之數字在構造上有相似之處者。蓋因其字之初義乃自臣妻之臣引申而出者也。金文通釋第九輯五二二—五二四頁五「一缺方鼎林潔明譯」

白川靜曰：臣之數左旁二妻山子重。方鼎銘亦有此相似之字。左旁在妻下二臣重疊。字之立意相似。陳氏以此即左傳昭七年所見之「臣」字。方言農夫之醜稱之「臣」之初文也。與本器之數亦為同字。郭氏以為左氏傳昭七年之「臣」與「臣」為同字。臣與言臣是同。謂今之「太」一誤或即此「一」之誤。云乃係誤深也。云云。

金文中無臣字之說。字形亦不字相去甚遠。故說「我西陽東陽僅跋百工牧臣妻」又保設有「原宮王臣妻百工」之說。金文中臣妻連用字蓋與此方鼎中所見之數同義之字也。

宣傳文段：人兩四又五十天。易直人六百又口六天。大五鼎。人兩目變至于人六百又五十九天。人兩目。

又五十天

以此相對而稱為人者。大抵在以其種族而言之時也。譬如中季出臣三品三日。稱為人。庸人等即其例。蓋為臣之屬。則與與人同稱為天。此處言「數」十人者。恐為其種族者也。數字從其頭部似用某種特別之裝飾。解道中以其為主人形。以此言之。則此十人似為其族之臣妻之屬。

2318(3449)

2317(3449)

貝朋之外。賜年百者。乃罕見之例。金文作「小」字。解道中有獻。解道之牛年之例。解道中則有以酒。其錄作為代價之物。然作為賜物而賜予者。則與臣辰眉之賜。脈並為祿有之事。臣下一字為「形」之字。或為「形」之字。賜之以年者。或亦以此有。因「形」乃收事人也。金文通釋第一〇輯五二四—五二五頁。五三叔德餽林潔明譯。

大馬

大馬公寶

陳尊

李孝定曰：左似从「百」右似从「女」而異。

2320(3450)

2319(3449)

𡇗

𡇗 俗作 𡇗

𡇗 俗作 𡇗

高田忠周曰按此篆从女从肉从手甚顯然但𡇗字書無見疑納錄文納雖說文所無廣韻集韻皆有之廣韻納小兒肥兒女利切內讀入聲故集韻始納同字而兩韻皆納與納納皆近故此納合納納納為形也納見說文不敢肥定姑存于此

(古篇篇三十八第三八頁)

郭沫若釋讀見兩攷一七六頁 郭氏所

李孝定曰郭氏釋讀而此字左旁之上殺非从手手中亦非从目高田氏所定稍近而左中所从亦非肉字似未能遽定也



李孝定曰竊疑𡇗即要字上象其首下象其腹及兩足中从𡇗即所謂自𡇗之形篆變只為女耳然則此字當錄定作𡇗姑妄言之如此

陳夢家錄定作𡇗見金選三三一頁壽縣秦侯墓銅器

2322(3452)

𡇗

𡇗 俗作 𡇗

𡇗 俗作 𡇗

張日昇曰按此字已收入正編中見讀

李孝定曰王補所錄定作𡇗可從

𡇗

𡇗 俗作 𡇗

郭沫若曰唐蘭讀本銘之戎為伐字作動詞解以作伐率辟孰宗歌為句(兩攷三三六頁屬𡇗𡇗)

郭沫若曰劉節云戎作伐 李書所系者右 李書所系者右 李書所系者右 李書所系者右

直畫偏右與段侯鼎在字之中畫偏右作十者同例 東本銘敵 亦正偏右 戎者余謂乃段侯為鐘 爾雅釋樂大鐘曰鐘本 鐘十二具小者八具既自銘曰鐘故大者四具自銘曰戎也戎鐘 同紐冬東音亦相近例可通用也(金攷三五二頁至三五四頁)

屬𡇗鐘銘攷釋

徐中村曰伐從匕即匕首之匕與考妣比周之比不同從戈與劍之從刀同意莊子則陽篇云吹劍首者吹而已矣釋文同焉

2324(3454)

2323(3453)

云劍首謂劍頭小孔也其說非是劍首即匕首匕與劍蓋即一物匕即象劍形為最初之象形字劍則後起之形聲字也匕首為短劍故又換劍首為匕首編鐘圖釋三頁

劉節曰戎作戔从十从戈十之直畫偏右與距侯鼎在字之中畫偏右作七者同例（攷存八頁馬氏編鐘考）

容庚曰戔未詳作戔動詞（善圖三考釋三頁馬氏編鐘考）

于省吾釋戎見雙邊卷上一第十二頁馬氏編鐘考

李孝定曰郭氏从劉說釋戎讀為鑄其說或是惟曰作十苟簡甚矣徐氏釋匕且謂劍匕一字說殊未安匕首之名蓋以其象

匕和之匕也

2326(3454)

2325(3454)

戎

戎者鼎

戎者作

戎

戎者鼎

戎者

戎者

戎者

戎者

戎者

戎者

戎者

寶華章

吳榮光釋戎曰汗簡收戎字从月从口从戈此稍省錢清卷二第三頁商賈伯鼎

吳式芬曰許印林說釋戎未確國字或从一地也國从口四圍也或从十八方也意皆同（據古卷一之二十四頁戎伯鼎）

方濬益曰戎字與續古齋款識趙謙士侍郎鼎銘首一字同釋為戎名曰戎都鼎今以戎孫鉢文證之戎皆从口應釋戎（續遺卷四二十四頁戎伯鼎）

遺卷四二十四頁戎伯鼎

2327(3455)

2328(3455)

吳大澂曰戎舊釋戎姑仍之戎都鼎戎者作宮伯敦與戎都鼎為一人所作知非戎字矣或釋戎（古籀補附錄九頁）

高田忠周曰按戎字从音與此象形遠矣愚初謂戎字與文或本其省然依上諸家證之斷非戎字因謂此作必者軒之省變止借耳之下合為空形而得為金之省也然則从戈从軒省聲古文往往所見之例耳（古籀篇二十六第六頁）

柯昌濟曰戰國名即程尚書平秩東作史記作便程說文或从或聲讀若詩或或大猷今本毛詩作秩是秩或程三字古通用而或或二字古亦係一字也（華九一至九二頁戰諸鼎）

周名輝曰戎部宮伯敦戎者止宮伯尊彝又一器首云戎者作旅鼎末句則曰作文考宮伯尊彝二器實一人所作也

周名輝曰戎部宮伯敦戎者止宮伯尊彝又一器首云戎者作旅鼎末句則曰作文考宮伯尊彝二器實一人所作也

周名輝曰戎部宮伯敦戎者止宮伯尊彝又一器首云戎者作旅鼎末句則曰作文考宮伯尊彝二器實一人所作也

釋者為成都未塢運開按拓本亦篆下尚隱有一畫原器未經剔清然細察有跡可辨是此形雖小異古字作工與此形近定為壺之古文可以無疑山海經有或國或民國此者當讀或諸人名也 强氏定為或字 今考定為或字讀如光同

名輝案此篆从戈从星野鼎堂隸定為或字甚是尋說文火部云光古文作𠄎又广部云度屋下象也从广𠄎古文光字而古金文𠄎字如伯庶父盃銘作𠄎子仲區銘作𠄎从厂从星字正與此篆所从星上文明惟此為國族名殷虛卜辭云口卜賓貞光來又云貞光不其來 龜甲 獸骨文字卷二第 葉玉森謂光亦國名路史國名紀引春秋圖光國今光州又言光國為黃帝後姁姓封卜辭之光或即古光國今考古金文中如赫白

2329 (3455)

士也杜字从木从土而杜伯殷一銘作杜知一即土字此銘所从之早从口从土乃是呈字較許說省了形耳(續微一七九頁或伯鼎跋)

几楊樹達曰據銘文或者為制器之人甚明而或字古書未見有以爲氏族者頗自疑前說之未審更細思之乃誤或為或字也即古國字也說文十三篇下戈部云或邦也从口从戈以守一地也又域字下注云或从土作域銘文或字下从十爲土字余前跋已明之上从或視篆文者不從一耳或字不當从口此从口者此猶牧毀之或字从口不從口也既是域字又知當爲國字者說文六篇下口部云國邦也从口从或國訓邦與或訓邦同故知或國爲一字也或已從口國字又從口者此加形旁字猶益已從水復从水

2331 (3455)

彝銘之光父丁吳子馨金文世族譜以光為姁姓見潛夫論志氏姓篇又定或為姁姓既無顯證蓋亦誤為或字也余以為或字从戈與或國字从戈意同乃光國名之專字(古籀考卷下二一至二二頁)

b 楊樹達曰吳榮光云汗簡收或字从升从口从戈此稍省樹達按甚誤鼎有或字與汗簡所載字形相合今以二文相校此字既不从升又口下作一形其非或字明矣據石錄金文卷壹之式肆拾參載此器亦題或伯鼎引許瀚說疑或字之釋不確謂是國之或作國从口表四方或从十表八方二意相同說殊牽強余謂此或字也說文十三篇下戈部云或利也一曰別也从戈呈聲從切按呈字从口呈聲說文八篇上土部解土字列二說一說謂从人士一說象物出地挺生如後說則至字下實从

2330 (3455)

為滿困已不復從木爲相余所謂會意字加形旁必犯重複之病者也說文十三篇下虫部或字从或或从國作囙亦或國爲一字之旁證也偽書秦誓云流毒下國國字敦煌篇本作或或與域同知六朝唐人尚以或字爲國字矣(續微二七八頁國字鼎跋)

2332 (3455)

李孝定曰細審諸說當以楊樹達氏前說釋或者為長柯氏說或程相通亦是著釋或金文自从月聲之或與此異舊又釋戎而此不从甲亦未確郭氏釋光周氏从之所據惟說文庶下古文光字作𠄎與此所列第三文c偏旁相近而ab兩文則明非从光且光字金文多見均作亮不作𠄎周氏據孤証為說似有可商且謂光字从戈為國名專字說亦無據高氏初釋

不誤而後說轉非。氏謂此下从「小」為「金省」已為臆說。就令果為「金省」从「金」之字正多。又何从証其為「鈔」省乎？

郭沫若釋較見兩政二八頁
李孝定曰郭氏隸定可從

2335(3456)

寶鼎
(064)
后辭氏果首
或後國
伐勝

陳慶家曰第三行第四字是動詞。从戈與上器之哉同義。金選三八頁西周銅器斷代（寧鼎）

三八頁西周銅器斷代（寧鼎）

周法高曰陳氏所謂上器即指鬲鼎王令趙戡東友尸夷陳氏云第一行第四字舊釋戡字从邑从戈乃是說文戡字（經籍作戡）此處是動詞假作戡或戡詩常武戡彼淮浦廣雅釋言戡削也金選三七頁郭沫若云戡當是古捷字魏三字石經春秋殘斷代9變鼎

石鄭伯捷之字古文作戡从木此从艸與彼同意兩改二頁愛鼎

$$2334(3456)$$

秋
 専
 <2015>
 △
 仁
 幸

榮

△ 下 糸 計

近疑古戚字从泰得聲也。禽清卷一第二十四頁商戚解

近疑古戚字从泰得聲也獨清卷一第二十四頁商戚解

卜徐同柏曰：盛古文，戚，戌也。司馬遷曰：夏執元戌，殷執白。

戚周左枝黃氏从黍者曰黍繫物不定色也（从古卷八二十七頁周

成解)

久方濬盜曰按說文威戍也从戍𠂔聲比文从米說文泰木汁可
以繫物象泰如水滴而下來應是泰之渚文威从戍泰聲視
𠂔聲爲尤近（綴遺卷十八十六頁威尊）

2336(3457)

卷之八 頁八

此字似當存

2337 (3457)

郭冰若釋威見兩改二二頁子未子姦

李孝定曰从戌从木釋威之說未聞

2338 (3458)

屏

屏從公立

孫海波曰既字不見字書以形聲考之即匿之繁縟文匿弓弩矢器也字通作醫國語兵不解匿管子作醫注所以蔽矢謂背盾之屬又周語是去藏而醫其人也注猶屏也廣雅釋詁二障也是匿有屏障之義

周法高曰既洛容庚以為人名八頁翼專非是當讀為訪蔭既从兄聲既字皆段為訪猶金文臣从舌聲為置字也詩周頌訪落序云訪落嗣王謀於廟也詩云訪予落止毛傳訪謀落始鄭箋成王始即政自以承聖父之業懼不能遵其道德故於廟中與羣臣謀我始即政之事詩序之謀於廟猶金文之既洛于官也白川氏謂為告喪之禮乃誤解師楚設之文

2339 (3459)

李孝定曰似當隸定作既

白川氏曰既二字甚為難解既從以黑从公亦為句以巾為師既為師障之義以乃乃言之師成于法水之下也今以軍事解之曰

市郎市字全文假以為師祭大師鼎與此同可證翼以公師者言武公事師平戎見天子于宗周而翼以也既字不見字書以形聲考之即匿之繁縟文匿弓弩矢器也字通作醫國語兵不解匿管子作醫注所以蔽矢謂背盾之屬又周語是去藏而醫其人也注猶屏也廣雅釋詁二障也是匿有屏障之義

2340 (3459)

武公之師是以降咎水者其可謂水誌也以二功事量而金
文津亦以此評疏在之謂言武公與師來戎見天子于京周名與
銘文一二字不合若乃以此等軍旅之事對此原有通印之表觀
入有也

陳氏釋「通」二字爲「既」。僅云不詳其義而無釋。市與去之字形不同。通字亦非「通」字。一草書也。市今之中寫法左右對稱並無如此款之字。不從从巾形言之故脉之亦既難得其解。然與弓矢之類無別。宜以市爲與脈中同屬之說。師說設有叔市之類可解作居表之通也。(金文通釋第七輯五七八一九頁三四四號)

林河內(譯)

伯中白如宮

(-681)

白寶陣

李孝定曰：从「𠂔」从「𠂔」，不可識，難以隸定。

2342(3460)

圖

△作义
《2939》
宋尊



一、
方
書

寶 作

父辛
子癸

此以人名合書於器形之中非古有从匚从相之文小篆相从目从木此古文从林小異錫清卷四第四十七頁周相匹

方濬益曰：鈞清館錄，釋首一字為相，謂外為牆，又仁仁為方，器中為相，合書於器形之中，按此作器人名，意造之字，不可強釋。

𦵑 吳大澂曰𦵑从𦵑从𦵑从大𦵑古相字疑箱之異文古文𦵑皆不从竹箱之从竹或亦後人所加𦵑作父辛𦵑古箱補附錄

十九頁

高田忠周曰按古文大𠂔通用而𠂔省作大起字或作𠂔可證又實字留鼎銘作𠂔此𠂔即其省文也从匚此匚字異文从匚遠省聲也吳大澂云从匚从𠂔从犬古相字作𠂔此疑箱之異文古文簠簋皆不从竹或亦後人所加匚篆文省作匚又吳榮光云首一字外為箱文匚匚者方器祭器如簠簋之屬皆得稱之此以人名合書於器形中非古有从匚从相之文小篆相从目从木此古文从林小異二家皆謂𠂔為相猶是然大字遂不可解且依朱氏鑿聲說漢以前箱無篋筭之名字安得从匚耶又如吳大澂謂大為犬誤亦甚矣又或云此匚字依匚異文从牛羊作匚匚也然亦全非今訂正(古籀篇二十一第三二頁)

2344(3461)

$$2343(3461)$$

馬叙倫曰：倫按舊釋歐孫詒讓謂半是牛非木，疑匱異文。倫謂此即說文之匱，父辛寶陳變，多從匱，遺聲。半非牛，非木乃光之省，而直畫少長耳。大為走奔走之走本字。初文說文遺字從走，此從走耳。（刻詞一二七頁父辛尊）

吳大澂釋指見憲齋十六冊二十八頁父辛酉

李孝定曰从二从昔从夭但當隸定作𠂔耳吳氏釋捐是為𠂔為相且於从夭無說焉氏及高田氏並釋𠂔是誤𠂔生為𠂔𠂔與昔之與費其異較然明白夭之與走事類雖頗相近然於它字偏旁中似無相通之例二氏之說殊失牽附




者
江
鐘

$\langle 0058 \rangle$
 $\begin{matrix} 7 & 7 \\ 6 & 6 \\ 13 & 13 \\ \Delta & \Delta \\ \text{瓶} & \text{瓶} \end{matrix}$

口
朕
立
位

郭沫若曰：「白崖光朕立者，言以敬崇王位。」魏正始三字石經君
 龔篇祇若茲。祇字作甞，與此相近。《文選》三二四頁者，勿讀銘義。
 李孝定曰：「郭氏之說於銘義可通於形，又有三体石經君龔篇
 祇字作甞為証，似可成立。祇之作甞，疑假甞字為之也。」

2346 (3462)




33

3
南
<2795>
△ 中
E 子
又 貴

文文丁
卓卓

周名燁曰水部中子異原書入附錄
丁氏定為泓字今考
定為引字古文

名輝案泓从水弘聲弘从弓乙聲此文从弓从...與泓字从乙
聲者不合銘云中子吳引吳為氏姓引為人名憲齋集古錄弟
三冊十三集載文父丁鼎銘云引止作文父丁口口口以上三
確識矣氏釋文未當為一人所作器可證也引字从弓从...而
諱不敢從待考

象水之滴滴下降故雨字殷虛卜辭作書契前編卷二古
金文原字作散氏說文永字作而大保饒銘王永大保字

作非蓋水字本作亦作亦即古文雨字整而齊之則為即說文
 暨而署之則為簡而齊之則為說文作云水小也周禮
 匠人為溝洫相廣五寸二相為耦一耦為伐廣尺深尺謂之
 倍倍謂之遂倍遂曰溝倍溝曰洫倍洫曰家文々作畎从田
 犬聲即其字矣然細察之說文中亦有以為水與古文合不
 作乙形者如支部畎行水也从支从入水省秦刻石嶧山文作
 畎此說文中以一為水省者一事也殷虛卜辭象字作畎書契
 卷下第三从畎从丁或作畎同上前編卷从畎从丁說文象字
 十九葉四十七葉作畎云水原也象水流成川形是說文以一為水者二事也
 線上所述明此二事則引當是引字之古文亦即引演之專字
 从弓一聲引一古音同在真部然與說文弓部引國易知也又
 惠棟集古錄第二冊十五葉載者汚鐘銘云佳唯戊越十有九

2348(3463)

2347(3463)

李王曰者射女太口象不濕云云者汚為人名與此正同惟射字从弓从水為後出之聲乳字从水之形見而以一聲符遂失矣（古書考卷中一六至一八頁）

^a柯昌濟曰疑古彈字卜詞之字羅先生釋彈以為象彈弓之形此字疑已之變體也佚証（辭華六〇頁於鼎）

李孝定曰釋彈無據周氏釋引又以「」為水形「」之為水固優有可說周氏欲釋此為引則必牽合「」為一字其說所謂「」而齊之則為「」並舉小篆收泉二字為例而細審之實說辭也古文偏旁从水之字多矣習見者為「」為「」為「」為「」諸形未見有从「」作者有之惟「」變以後小篆之收泉二字耳周氏乃據論變以後之形體強証「」之為水固亦可自成一說

2349 (3463)

然又謂者汚鐘之汚即此字並謂从水之形見而以一之聲符遂失矣是又以「」為訓上下通之本字與前文以「」為水之簡齊者之說自為矛盾矣且引字固當以開弓為本義从弓从「」象弓之有弦為待用之象又安得以「」象弦乎此字似當隸定作汚

2350 (3463)

^b 亦誤也四「」以水為意符而以「」又或弘為音符之字蓋弘字也其為強名弘則為如后也（殷金文考釋六三頁中）弘說（33）

林保明謹

孫詒讓曰宋元人算牒六七八九有作「」而者象算策從橫分列新算金布文正如是作六之為「」與原始古文作「」友正弘直通相變金文宗周彝云佳八月甲申公中才在宗周易錫行貝五朋多即弓字右作「」者二即二六也與算策從橫列數正同亦古文紀數之變例蓋錫弓十有二與貝五朋文正相儷也淮南子汜論訓訟而不勝者出一束矢高誘注云箭十二為束若然錫弓以十二為數猶出矢以十二為束與名原上二頁

孫詒讓曰「」字舊無釋諦審此字左為弓甚明右為「」不可識竊疑「」當為六之紀數左裏三十年傳史趙說亥有二首六身

2351 (3464)

為二萬六千六百六十日孔廣森本梅文鼎說以亥下三上為古籌算縱橫紀數之法即宋元算牒六作「」之權輿（經傳其說甚端新莽中布六百亦作「」可以互證此二「」者即十有二錫弓十二與貝五朋文例亦正相儷也）餘論卷二第二二頁宗魯

2352 (3464)

方濬益曰「」字無改當亦意造之字（銀雀山十八號五頁）「」父（辛尊）

李孝定曰孫說甚辨然字在本處為人名非錫弓十二貝五朋也且甲金文紀數字習見姑無論「」字不作「」十二自作「」二亦絕未見有如此作者但當隸定作「」

10

李孝定曰于氏隸定為長
乙尊事

從

晉公金
制

吳大澂曰從疑作字之錄文晉公金古籀補附錄二十八頁

郭沫若曰從當如今人之梓字許書壓迫字作窄漢人亦有用
近字者後漢書陳忠傳共相壓迫梓乃後起字窄近均借用字
從其初字也其字從人从止聲執其人而抑迫之也(音研
一四一頁晉邦蓋韻讀)

手省吾釋發讀作作見雙選卷上三第二十九頁晉邦蓋

吳蘭生釋從見古文卷四第三十三頁晉邦蓋

李孝定曰于氏隸定為長

發

陳獻奎
今石開
五公教
左

方濬益曰發從𠂔从弓矢象弓矢縣於帶下之形不審何義當
是師之名亦意造字也(綴遺卷二十八十七頁陳獻奎)

吳大澂曰發字从弓矢赴的形平發猶稱物平施之意(意齋二
十四冊四頁陳獻奎)

吳大澂曰發古發字陳獻奎平發教成(古籀補七十五頁)

高田忠周曰按吳大澂剗心源皆釋發字今從之此發象形
甚奇者故弓作弓矢作矢尚未離元義而上作𠂔未見其側
文𠂔射發也从弓發聲詩賓之初筵發彼有的也此象从弓
矢於射發義尤為速切又𠂔从人此蓋戈矛象形此當伐字伐

二、戎瑯嶼縣必形沙或作彤必與沙皆附屬於天之物。縣與
形皆形容詞。縣者必之色。彤者沙之色也。縣字从邑當即係字
所从云系之變也。从糸之字多用為系色之義。見諸說文者。
如緇絲朱績綃纁縵總紺紫綠縹紫紅緋袂繫繞縞
等凡廿餘字。則縣固可為色稱也。縣字說文無。以暉紺同字
之例推之。則當即紺之異文。(文字記二十四頁)(集釋下四八)
李孝定曰(唐蘭)謂从糸之字多有系色之義。舉絀緯等廿
餘字為證。實則糸為素然施之朱則朱施之赭則赭其系色
之義似當於从之得聲之聲符中求之。與糸之義無涉也。(索釋

字形則殊穿鑿蓋由誤認此為廬之古文故不得不附會說之耳此字从糸耳聲甚明唐先生定為緝讀為紺說無可易高田氏誤必為鞞為鞞故隸定此字雖不誤而涉下文鞞字速誤讀緝為最甚矣古銘辭之未易讀也

男女戈厥珣賦必秘彤屨步履十五釐

高田忠周曰：許印林說，螽或即食。按說文，食螽屬有三，皆生於海，雀十歲化而為食，秦謂之牡蠣。又云：文食，百歲燕所化，魁食，一名復象，老服翼所化，从出合聲。字林作蛤，左形右聲，與下形上聲無異矣。又依古者為蟲名多借聲字為用，食亦當作合，且與佝較恰皆作合同。此篆即从蚘，佝聲，與蜃或作蜃同例。蓋蜃猶增也，而屈意借食趣為合，取趣亦取聲故也。（古籍篇九十七第二頁）

楊樹達曰。餼字許印林疑卽食字是也。按食字以合聲。餼字在此文當讀爲合。(稽徵二六一頁)鄭侯少子餼駭。

2372(3472)

吊靈鼎
<260> 未△學作
南宮寶陳

蕭季鼎

△李作人
寶尊

高田忠周曰按此篆者無釋今篆字形左形當是萬字作日者
他篆之變文也右即力字異文力本象人筋之形作力寧近
其義矣今定為勸字說文勸勉力也周書曰用勸相我邦家
若萬民力萬聲後人作勵从厲聲同許氏引書立政以證字義
也奉陶謨庶明勸異亦同(古篇篇四十二第一八頁)

上方澤益曰地名異按偏旁上半與萬字同據古錄金文釋為

勸未確（續遺卷四第大頁勸李鼎）
李孝定曰與全文龜字構字法相近第一文从𠂔𠂔當以為聲
與下文𠂔當為一字郭說可从第二文與第一文似非一字

氏並收之待考
蓋今讀專乃收起音讀契文此字與佳並段為唯因當讀與惠近也




召伯舊之命
于君氏大章

余山子居
氏大章



英園生曰：鬱被也。猶言銜命。窮以爲喻。此古人用字法也。言文
卷三第二十五頁召伯虎敦）
郭沫若曰：鹿即鹿字讀爲慮（兩故一四三頁召伯虎殷）
李孝定曰：說見上 443 條下。

甲^a

王命△庚白詔衣曰△
 乃且祖考庚子△

劉心源曰恒吳釋禱非說文恆从舟所引古文作解云古文恆从月本是从夕而云从月古文月夕通用詳仲殷父鼓尊殷解有恆字亦从月可證也惟此从艸与心異奇觚卷十六十一頁伯

丁佛言曰：「**第二**舊名韓侯鼎，吳憲齋釋韓宋左从高省小篆誤。為从心，愚疑是古恆字。」**古鑑補補附錄三頁**

高田忠周曰劉氏古文審云舊釋作轉非今定為恆說文恆訓常也从心从亼古文作云从月引詩如月之恆知古恆字从月不从舟其从夕者亦古月字通用說詳令鼎小篆改从舟又改蓋依籀篆形為之非古也恆國名路史國名紀康叔

召伯舊之命
于君氏大章

余山子居
氏大章

英園生曰：鬱被也。猶言衝命窟，以爲喻。此古人用字法也。言文
卷三第二十五頁召伯虎敦）
郭沫若曰：虎即虬字，讀爲慮（兩故一四三頁召伯虎殷）
李孝定曰：說見上 443 條下。

孫封楚有恆思公姓考衛康叔支孫食采于恆因氏此云恆疾
即其地案楚非荆楚乃衛地詩曰作楚宮是也案禹貢恆衛既
從知恆國衛國皆因水名之。按此篆釋韓全基劉釋恆稍為
近然草與心自別愚謂此恆字異文說文經大康也从糸恆
聲一曰急也急也者恆字義紐推通用字故此合紐恆為形也
日即東省十亦半省而銘意段借為恆當如劉氏所云耳古
籍篇六十九第一四頁

郭沫若曰恆字不識左側不知所以舊或釋為韓蓋因誤認
右旁為亘故以形聲相近之字為比附毫無根據字疑从互
聲當在蒸部(兩攷一六頁伯宸鼎)

柯昌濟曰韓从旱从亘旱字稍省當从旱聲舊釋為韓是也
華一三二頁韓侯伯宸鼎

李孝定曰从旱从互當隸定作𠄎

劉心源曰恆舊釋作韓今定為恆說文恆从心从互古文作𠄎
云从月引詩如月之恆知古恆字从月不从舟其从夕者亦古
月字通用說詳令鼎小篆改从舟又改早為𠄎蓋依籀篆形為
之非古也恆國名路史國名紀康叔孫封楚有恆思公姓考衛
康叔支孫食采于恆因氏此云恆疾即其地案楚非荆楚乃衛
地詩曰作于楚宮是已又案禹貢恆衛既從知恆國衛國皆因
水名之(古書卷一第十二頁伯宸鼎)

2378(3475)

2377(3475)

格氏才 格氏△對

李孝定曰字不可識

周法高曰此即治字參見王人聰文此字形與王文正式
第3字三代二〇二六字形相同亦與廿六年戰二七二〇
之公字形相同皆治字也治字下為治工之名

治何

望

李鼎周禮卷之四反

孫詒讓曰字上从古文放說文白部云者从
省其讀當為諸(宋林七第三〇頁周麥鼎攷)

劉節曰諸家皆從孫詒讓先生之說惟銘末三引饗多諸友鄭

沫若氏釋為多察友今知孫先生所釋至確出即者字說文曰

部者別事詞也從白米聲謂古文旅字按甲骨全文中凡國族

名有從日從口作者台各周唐魯晉曾諸字可證今說文分

列五部按從土與從日同意諸侯室文有作者侯孫先生引




月飲御諸友張仲靈諸友飲食具飽為例且有散盤銘諸字

木從坐作𠄎為證坐即𠄎按散盤又有𠄎字從𠄎古文𠄎從

谷與從土同義周道水經渭水注作𠄎道𠄎可證審諦古文

2380(3477)

2379(3476)

字象龜轄之形古者師旅所至先為井竈師道則塞井夷竈故
統一天下曰竈有下國語見秦公殷若考其原始者即古文旅
字之本字古文字往往一字數體火之與旅其一例也師旅所
至即成都邑故後又有從邑從者之形聲字諸侯實即旅侯
殷曰諸侯大亞牧誓曰亞旅師氏立政曰司空亞旅而卜辭中
有亞侯亞旅旅侯一也遷葬曰王飲多亞多亞義同諸侯同禮
夏官大司馬曰師都載禮都即旅孫先生曰以命數差之軍將
大旂師帥旅帥四旂卒長三旂兩司馬二旂伍長一旂大司馬
所列七等載旗敘次並與司常九旗之說相合因知詩所謂都
人士實即旅人士也既為都邑都鄙之稱再引申則閑美亦曰
都郭氏釋為寮友而金文有僚庶尹字大都作亦省呂作
從火而不從土宗周鐘都字作從邑從者其作米形者乃









2381 (3477)

古文米之省變非登之省也因為孫先生引述其義如是望世
之好古者有以正之(攷存三五頁至三五五頁麥氏四器考)
李孝定曰孫氏釋堵讀為諸說不可易劉氏推闡孫說頗失枝
葉

2382 (3477)







中

中夜居焉
舊釋中
中夜居焉

高田忠周曰按甫蓋庸省變文此墉字也說文墉城垣也从土
庸聲古文作實當作之省以為之也墉字作即以
為墉者也但集韻引說文作或為善本易解公用射隼於
高墉之上詩皇矣以伐崇墉皆本義轉為爾雅釋宮墉謂之墉
書梓材既勤垣墉馬注高曰墉儀禮士冠禮西墉下禮記郊特
牲北墉下之類此始疑段借為鄺詩譜自紂城而南謂之鄺亦
作庸古篇第十第二四頁

柯昌濟釋墉曰墉夜當是地名或人名考楚有上庸齊有掖恐
皆非此之墉夜之地也(釋華五五頁墉夜石鼎)

2383 (3478)

李孝定曰按金文自有墉字作與此迥異則此非墉字甚明
高田謂說文墉之古文當作蓋以篆文从土之字文皆从
遠謂此亦當同例不知因古文墉字尚更从庸聲不已
復手字从从土不可識

2384 (3478)

跟事

△古文

寶華寺

丁佛言曰：疑經从多，似多之異，貞卜文字多馬老等字，首多作四，不易分別，即鹿除戴角首亦作四，此四疑即多首，雖似馬而尾不同，或謂經即古鍾字，父榮尊，古編補補附錄二頁。

高田忠周曰：按多似見而自不同，此當為多異文，說文經伏獸似鍾从多，里聲是也，此篆唯右形左聲為異工，古編篇九十一。

第二二頁

李孝定曰：二家釋經可從。

里

代經母蓋

△古文

徐同柏曰：經古文經旁象一聲之轉，（从古卷十一、二十九頁同代經母蓋）

吳大澂曰：疑釐之省文，變省為等，與釐鼎字相似，愈齋八冊七頁兩方啟。

李孝定曰：徐氏釋經於形絕遠，吳說雖稍近之，然此从王疑是「玉」字，與金文釐字從來从未者有別，其說待考。

者

△增

郭沫若曰：由始讀為惠順也，（文史三二五頁者切鐘銘考釋）

李孝定曰：即重字，古讀當與惠近，郭說可從。

者

△古文

者

△古文

者

△古文

柯昌濟釋者曰：者或即鄒陽省，文左傳楚師次於繁陽，繁陽或亦即鄒陽之異字，（釋華三二二頁白者君盤）

李孝定曰：柯說待考。

番

番居蓋

△居呂
△錄區

阮元曰：案番字說文作番，从非，古丈面，玉篇作番，从卯，此番字从非，疑是卯古文。薛氏款識刻公置制字从卯，與此正同。叔播敦番旁亦从卯，蓋卯有茂音，番字从之得聲，古不从非，石鼓柳字从非可證也。公羊傳云：古者鄭國處于番，周人有番子，嚳番子圖，詳王風邱中有麻，詩毛傳後為劉康公劉文公食采，（積古卷七，二頁番君置）

劉心源曰：笛从非，即非古屯，笛布文作番，馬十二方，方足布亦从非，惟說文从非耳。（奇觚卷十七，二十頁留君蓋）

方濬益曰：首一字點，畫多誤刻，阮元釋為留，以所錄番君召鼎證之，亦番字，非留字。（綴遺卷八，第九頁番君召蓋）

李孝定曰：此字似有殘泐，未敢遽定，方說似較他說為優。

2390 (3483)

2389 (3483)

略

略

△陸

馬叙倫曰：散盤有略，即蓋字，從略，多聲，即平原本字，說文無蓋字耳。從略者，說文略，經略土地也。胡渭曰：略字必有精義，左傳：天子經略，諸侯正封，古之制也。封略之內，何非君土？又曰：封畛土略。又曰：侵敗王略，皆訓界。經略猶經界也。莊廿一年傳：王與之武公之略，注：略，界也。僖十五年傳：東盡虢，略注：東盡虢界也。王筠曰：略字有動靜之別，左隱五年傳：吾將略地焉。僖十五年傳：謀節且東略也。宣十一年略基址。十五年：晉侯治兵於穀，以略狄土，皆動字也。王與武公之略，東盡虢略，天子經略，侵敗王略，皆借動字為靜字也。章炳麟曰：略易為畧，畧又變易為畧，亦為略，故與

2391 (3484)

昌雙聲，倫檢平原幣原字作畧，則略即平原之原本字，幣文作畧，從田，夕聲，此從畧亦然。散盤從畧，即畧說文之畧字也。緣各為畧之轉注字，小為來往之來，初文故從畧得聲，即從畧得聲也。來音古在泥紐，原音疑紐，泥疑同為鼻音，次濁音，故略轉注為畧，而古書皆借原字為之。左傳言封畛土略，封畛謂區別而制限之，土略連文猶詩之原田連文矣。然則經略即孟子之經界，借略為界，為畧而非略字本義，或謂散盤從畧，畧畧一字，則畧自為界之轉注字，倫謂金甲文中字繁簡每從作書者意為增損，不能悉拘也。（刻詞一六九頁至一七〇頁鄭雙聲鼎）

高鴻緝曰：畧王靜安謂即遠字，高平曰：畧按說文據高平之野人所登，从走，夕田，夕田，二文今本論合為一作畧，畧，恩，

2392 (3484)

本銘鑿字石鼓文作鑿兩體構造之意同依說解高平之野所以釋从田或从二田之意人所登所以釋从夕或从夕从夕之意至於系或系均象字之古形在此字為聲象聲之諧鑿猶之象聲之諧緣也說文所據之鑿字篆文象譌變為系許氏不得其解故注闕字謂从系之故未能明也高鑿之鑿漢以後通段水原之原以代之久而成君而鑿字廢而水原之原又加水旁為意符作源以為別散盤集釋十五頁

王國維曰鑿即鑿字高平曰鑿觀堂二〇二八頁散氏盤考釋
劉心源釋鑿見奇觚卷八第二十二頁次入盤

2393 (3484)

郭沫若釋鑿見兩改一二九頁次入盤

李孝定曰諸家釋鑿甚是字从二田从夕取其意从象為聲高氏說此甚美備焉氏謂此為从略又謂夕即來之初文並失之

2394 (3484)

針

上言鼎 深陰命達上言

針子疾治元

李孝定曰商隸定作針

針

針 針字行之異文同孟 (从古卷十六十七頁奇字五)

徐同柏曰 針字行之異文同孟 (从古卷十六十七頁奇字五)

吳大澂曰 針陳介祺釋作飲大澂疑為針之異文卷齋十四冊七頁欽墨

吳大澂曰 針陳介祺釋作飲大澂疑為針之異文欽墨 (古鑑補附錄十七頁)

劉心源曰 針或釋飲非字即斤省針蓋古文斤兩字古貨幣有一針二針之文此銘蓋云七針也奇觚卷六三一頁七針
強運開曰 針 針字陳介祺釋作飲吳大澂云疑為針之異文運開按說文有針字針與此形近字蓋即之筆跡小異耳

2396 (3486)

2395 (3485)

粟五千庚一左氏昭二十六年傳
庚實二穀厚半寸脣寸一考工記陶人

匱水漕倉也一曰倉無屋者一說文

史有坳坎窠下之意荀子大略篇流丸止於坳矣楊倞注云

既與窠瓦器也揚子雲方言云陳魏楚宋之間謂窠為既與

案今本作既謂地之坳坎如既與者也或曰既與窠下之地

史記曰既窠滿箕汚邪滿車雙駟云既窠傾側之地汚邪下地也邪與與聲相近蓋同也

此器合兩半圓器而成半圓器正象坳坎窠下之形案刊第三

本四分四八一至四八二頁陳侯四器考釋

郭沫若曰鈹鐘之鈹作鐘蓋釋為鐘余沿之遂有鐘鐘

即廢敵之說今從徐中舒說改釋為鈹徐引古圻印度姓字作

屨屨等形以為証是也徐又云陳侯午鐘曰鈹鐘鈹有

坳坎窠下之意凡圓物自其內空言之則正作坳坎窠下之形

故此名鈹鐘仍形容鐘形之圖案以鈹鐘連為一名

其說亦難安蓋物之有內空者自其內言之均作坳坎窠下之形

不必限於鐘余意鈹與鐘實二物也鈹當是手皿之異从金與

聲以雙聲為聲也孟之形與鼎相似都公午度鍾可証此器諸家

（兩改二七頁至二八頁陳侯午鐘）

吳闓生釋鐘見古文卷三第三十三頁陳侯午敦

商承祚曰昔者釋鐘徐中舒謂其字右从卓與專絕不相類其說可信陳侯四器考中央研究院歷史語言研究所集刊第三本第四分本謂為鈹則以有可商

2402 (3487)

2401 (3487)

也今二卷一七五頁居十四頁墜庚午白圭批考大地鐘

李孝定曰徐氏釋鈹以古璽証其字形以說文及考古籍訓詁明其音義說不可易郭氏又謂鈹即鈹與鈹為二器以正徐說之小疵其說亦是舊釋鐘當正

鈹

郭王職劍

郭王職劍

郭王職劍

李孝定曰師邊方集璽字作璽其右旁與此所从相同此文少一〇字此例古文多有然則此當釋璽說文無璽而從璽之字多有圖璽璽劍疑為劍之圓首者

2404 (3488)

2403 (3487)

金

上官金

上官金之字金口△
銀口△口大銀之從銀金其註

李孝定曰从金右旁不識

金

木中安盤

李孝定曰从金从火旁一旁从了不可識疑是鑒字

李孝定曰从金从火旁一旁从了不可識疑是鑒字

2406 (3490)

2405 (3489)

金

楚公家自

楚公家自

徐同柏釋鐘銘為曾鉢鉦(鑄鉦鐘)三字曰鉢通木鉦鉦

字鉦即鐘于鐘字(从古卷十三三百周楚公鐘)

劉心源釋木鐘二字(奇觚卷九六頁楚公鐘)

高田忠周曰今審篆形上从木右作耳此耳之變此為桓字固

顯桓字經傳恒用為查詩長發傳桓大也是也銘云桓鐘亦大

鐘之意但字从金者涉上鐘下鐘兩字而為形耳或謂顯从顯

聲故林音通(金篇第七十四第一三頁)

于省吾曰師獸蓋記載白銀父錫師獸之物有十五錫鐘一磬

五金舊或讀為十五錫鐘一磬五金未確錫字宋宣和考古圖

2408 (3491)

2407 (3491)

嘯堂集古錄薛氏歷代鐘鼎彝器款識法帖均釋作鐘近人多
从之又吳閻生吉金文錄釋作鐘譚戒甫釋作鐘讀為鉢(見武
漢大學人文科學學報一九五七年一期一八二頁)按各家所
釋均不可據如系鐘字則其右側所从之字應為古文鐘字的
鐘變體文鐘字既不从耳則釋作鐘顯然是錯誤的至于釋鐘
釋鉢也與字形不符鐘鐘的鐘字所从之易作平南宮柳鼎陽
字兩見其所从之易作平又師旅蓋易登之易作畀以上所列
諸易字的構形均大同小異易字上部都有一橫畫可以互證
楚公家鐘與楚公家自鐘鐘字據古錄全文釋為鐘(見二
之二二二頁)奇觚室吉金文述釋為木鐘二字(見卷九六頁)意
集古錄謂鐘字不可識或即替字之變體(見二冊三頁)容庚金
文編入于附錄實則錫系錫的繁體字錫从揚聲揚字所从之

其作平與師獸蓋錫字所从之易可以互證

李沫若釋師旋蓋齊女十五易登說易假為錫廣雅釋器赤銅謂之錫又作錫或連爾雅釋器黃金謂之璽說文璽金之美者所謂黃金或金之美者在古時均指銅而言(見考古學報一九六二年一期)按郭說甚是小臣宅璽記白懋父之錫品有易金車易即錫之省以美銅為車飾故稱之為錫金車說文有錫字訓為馬頭飾並引詩鈞廣鑠為證按今本詩經轉奕錫作錫說者以為說文無錫字遂謂錫為錫字的俗省殊不知古文本有錫字只是義訓不同而已

左傳文十一年潘崇復伐麋至于錫穴杜注錫穴麋地水經注(漢水)又東徑魏興郡之錫縣故城北為白石灘縣故春秋之錫穴地也按麋為國名在今湖北鄖陽縣麋地有錫穴當以出產

2409(3491)

良銅得名這和古代調產丹砂之穴為丹穴是一樣的總之錫字从易作單與从章迥別不應釋作錫也不應釋作鑄或鉅師獸蓋的錫鐘即楚公象鐘的錫鐘文有繁省錫系良銅以良銅鑄鐘故稱之為錫鐘(考古一九六六第二期一〇三至一〇四頁讀金文札記五則)

吳大澂曰錫字不可識或即鑄字之變體(憲齋二冊二頁楚公鐘)

方濬益曰錫下合文木最大之誤下疑鑄之異文亦見詳氏款識師獸獸彼釋為鑄(續遺卷一第四頁楚公鐘)

李孝定曰釋鑄釋錫所从戶與章章不類釋鉅差近然豈當作亘與此亦異諸說以于氏之說為長以美金作器即以之為名

2410(3491)

耳

耳

耳部 耳 次者 耳

強運開釋稱曰耳部口句鐘凡耳部說文無此字按漢元延長安共厨銅三斗鐘从金此从耳當即一字(古鐘三補卷十四第五頁)

高田忠周曰此篆从邑甚顯多似耳自異且邑部無耳聲字數之推字例左亦从邑此耳字也說文耳部境上行書舍也从邑坐蓋坐為過墟正字耳字兼會意也此篆从耳即形聲耳(古鐘三補卷一三頁)

郭沫若曰耳字所從之耳乃兄字也卜辭及金文兄字多如是作令段父兄字亦正作耳象微草進芽之形蓋讀為明以

2412(3492)

2411(3491)

郭沫若釋祝曰斧祝父兄（兩改）六四頁郢諸尹鉦

李孝定曰郭說較可信強氏釋捐於義無取高田氏釋郵則一無是處矣郭氏謂此以牙為聲似有可商疑是紋飾猶烏蟲篆之累增偏旁耳

2

楚王會
張政煥釋粹

李孝定曰張說或是而其說未聞未敢輒定。

$\sqrt{\frac{1}{2}}$
 $\frac{1}{2}$
 $\frac{1}{2}$

△ 山 寶 鼎

李孝定曰上象輓形中从車下从収象兩手推之疑是衡之古文篆變从𠂔遂以之為聲耳

白大華
<2130>
△⁷

徐同柏釋人執策形車形曰。人執策在車上御車之象。銘此者。紀從王巡守事。亦著子事父之義。禮曲禮疏。御謂主事。官有世功。故有御事之因是也。○（从古卷七、三十頁周廟尊）

方濬益釋人在祭車形曰上為人形又似虎席字从之下為輦古獻輦二字通儀禮燕禮獻庶子于阼階上注凡獻皆薦也

李孝定曰徐氏說字形甚是而字不可識

夷臺
(270.5)

父子盡
<1917>
△
父子

2418(3497)

中宣鼎
(268)
中
口
△
口
口

朱德熙裴錫圭曰：「上引第(1)器□公志，自董□洛陽古城，自上一字應釋作「自環者謂之」的「公」字。戰國璽印文字「公」字寫作「○」等形徵九，可証「公」自應讀為「私官」。私官之稱數見于戰國及漢代遺物，關於漢代封泥及印章上的私官，我們下面還要討論。這裏先列舉戰國銅器銘文中的私官。

三代二五三著錄鼎銘云

鼎官上一字未釋金文編則誤認□官為一字構之為中官鼎

金文編 其實鼎銘右側一行顯然是中么(私)官三字殘泐省境
一〇八頁

博物館藏銅鼎銘曰：文物一九六六年第一期介紹陝西省西鄉縣博物館藏的幾件戰國時期的秦器。這件同

从字体看也應是六國器。首二字亦應釋為公(私)官私官就名稱

又見于下引銅器銘文

邵宮和官四斗少半斗
和工^二感
廿三斤十兩

十五
三代
一四

從銘文字體看，這件銅器當是秦代或戰國末年秦國的東西。銘文官和工上邊的兩個字，并當釋私漢印私字，或作和可証。漢印文字編七九下。此器器形見專古齋所見吉金圖錄三三四及陶齋吉金錄五二，與盃相似，前人多釋器銘私字為和，以為即盃之假借字。如金文錄編二五下。銘文無法通讀，非是。

前引第一器的公良無疑就是(1)(9)三器的私官這也証明官是官字的簡體(文物一九七三年十二期五九五至六〇頁戰國

$$2420(3498)$$


中
口
△
□
□

李孝定曰从口从官字不可識

朱德熙裴錫圭曰上引第(1)器
古公土
墨考圖版一八七之九
洛陽古戎官

上一字應釋作有環者謂之么的么字戰國璽印文字么字寫

作口口口等形微九可証么官應讀為私官私官之稱數見于

戰國及漢代遺物關於漢代封泥及印章上的私官我們下面

還要討論這裏先列舉戰國銅器銘文中的私官。

三代二五三著錄鼎銘云(7)中中原書目錄稱此器為中中官

鼎官上一字未擇金文編則誤認□官為一字補之為中官鼎

金文編其實鼎銘右側一行顯然是中(公)官三字夾出省(蓋)

一〇八頁

博物館調查報告曰：文物一九六六年第一期介紹陝西三石磬。

從字體看也應爲戰國時期的秦器。這件銅鼎

該是大國器

那宜山四十八
口二二三

卷三十一
采工感世三十兩

十
五

從銘文字體看這件銅器當是秦代或戰國末年秦國的東西

文官和工上通的两个字并音釋私漢印私字或作和可証

此器形見專古齋所見吉金圖錄三三四及陶齋

吉金錄五二與盍相似前人多釋器銘私字為和以為即盍之

假借字如金文錯編六五下 銘文無法通讀非是

前引第一器的主人無疑就是(19)三器的私官這也證明官




是官字的簡體(文物一九七三年十二期五九至六〇頁戰國

2419(3498)

銅器銘文中的食官



戊寅年
(1918)
王
日
歲
△
馬
酉

阮元曰：侃叔以為齊字。古齊字作。此作者，象齊之形。齊者，升也。案此字是作器者名，或釋作，亦未可定。（補古卷二十一頁戊寅父丁鼎）

徐同柏曰：隋从象脩形脩古亦作脩，隋訓升亦訓降。《从吉

高田忠周曰戊寅父丁鼎王曰格心馬彫賜貝頤古阮氏釋此句為妻喻見耐云吳佩叔以為隋字古齊字作山此作中者象臍之形隋者升也。按此說妄甚格為人名陟即陟字馬彫為地名說文陟高下也从自自聲一曰陟也又召訓小陟也从人

2422 (3499)

2421(3498)

在曰上蓋此曰非杵曰字實凶字異文也。陞字訓危也。徐遲以爲陞凶也。蓋陞字雖言从毀省亦有一說以爲从凶者可知而白之从凶無疑也。此以爲凶省。以象地高下。即指事也。銘意云臣名格者攻陷馬郾地而有功。因王賜實貝貨也。他器文例亦概與此相類矣。古篇十五第二。夏。

柯昌濟曰疑附字卜詞有以字疑即以之古文與此所从正同

李孝定曰諸說並未安宜有疑契文在字有作立作令者契此字右旁顧近以爲疑在之繁文陞馬酒者謂在馬地名馬地行酒祭也惟此說亦無徵姑存之以備一說

本塚志同。甲骨卜辭有「地」字。高作「𡗗」（京津三八七二）。「𡗗」續四
 二八三。甲五三九。續四二二九等。比較此等字之字形，則「𡗗」之
 一寫在上部作「𡗗」之字亦常有也。此「𡗗」殷末之田獵地之一。然

其學年于此
〔釋八五二〕

亦爲舉行祈年祭之聖地也。傳以布魯之臨（郭初三三二乃臨）
山丘之地也。陳普家以爲卽陞字錄述二六九五）然在旁不似貝
形。卽寧是白型也。故求其近似之字。則當是說文之陞。危也。之陞
字。危。陞。峻之高地也。（殷金文考釋八一頁。戊寅亞受鼎）林潔
明譚

2424 (3499)

2423 (3499)

月

月部 月部 月部

高田忠周曰按从自元月三字此當阮異文說文阮石山戴土也从自从元亦聲此篆即又从月聲也古音元月通用故說文與阮為同字阮字亦當作月也又按說文元高而上平也此說誤甚元元同字高而上平者阮字義也石山戴土則上平也亦作阮字指先亮山也亦同(古籍篇十五第二六頁)

李孝定曰高田氏之說或是惟古文月或从月之字均作月未見作月者為可異耳

2425 (3500)

厚

厚部 厚部 厚部

孫詒讓曰厚字吳無釋右从早與後乙亥彝畢公畢字作厚同之三疑當為厚字(餘論卷二第七頁難鼎)

柯昌濟曰字从自从早早疑即畢字異文从自从畢不見於說文疑古厚字異文也从畢畢之訛體(釋華五七頁難鼎)

李孝定曰孫說可從

2426 (3501)

陟

陟部 陟部 陟部

吳闓生曰陟與同字李盛也言小大皆有秩次(書文卷一第二四頁趙鼎)

陳小松曰陟為陟字之繁文牧殷作各觀作各者各若各古說字從口與從言同陟說古音同說部故得通假說語也引申得有陟訓猶刻之為牘矣又可讀為帖說文帖帛書署也以木曰檢以帛曰帖後漢書袁敞傳占獄吏上書自訟占帖從世猶沿謂獄訟之辨曰帖則陟各即獄訟之券書亦即司寇職之劑也(訊)小大有陟乃冢士而言下文取徵五等亦與之相呼應蓋謂訊民之獄訟皆須具有辨狀並取徵五等以為信金文意方克實申銜接中央四一釋趙殷取徵五等)

2427 (3502)

郭沫若曰陟若若亦職名待考(兩改五七頁趙鼎)

柯昌濟釋陟曰右陟即陟右蓋周召分陟而治此之亦分陟若說之一證矣(釋華一九二頁趙鼎)

李孝定曰當隸定作陟(夾字版下所製物古文圖可不一其字如契文)然必不得從二點蓋如此則與大混矣郭氏釋陟而此字之疑蓋誤以陟為貴然字亦不從陟也

2428 (3502)

法 行蓋 用之 實事

方濬益曰：孝拱釋為陝說又陝隘也从自夾聲按夾从大俠二人此从亦亦本从大衆兩亦之形俠二人正在兩亦也此偏旁似與夾異當是別體（綴遺卷二十六二十八頁陝角）

丁佛言釋辭曰：陝，對鼎古从邑之字亦或从自（古無補補卷六第十頁）

李孝定曰：當隸定作「陝」釋陝之誤說已見前字亦非从夾丁氏釋陝亦不可从

律

律 記蓋 律教 對 于 實 曰

阮元曰：律字从書說文解書為平飾此疑即古文筆字筆述也謂述之于書也（稽古卷五三十七頁律紀集）

劉心源曰：律阮云筆字筆述也（奇觚卷十七十八頁律紀集）

高田忠周曰：律古阮氏云律字从書為平飾此疑即古文筆字筆述也劉心源更讀此說云按此字从自隸鼎之專字例从此當疑从自非義此筆亦然因思非自乃尸字手也篆畫曲行則成尸稍殺則成尸遂與古文自同形如日本从尸篆家相承作自目此吾所謂稍殺其曲畫之證也律與律从尸皆取手持之義決非从自或曰尊下已从尸筆之肅已从尸若再从尸

形義母乃款其手不知大書如此者甚多姑以律手二文證之拱奉从律又从半聲舉从昇又从手皆非贅也此律之章即古文筆字从律持之會意蓋說如此博足教焉。按二家說皆與無稽據由殊甚今審律明是律字右即上文筆之省變又金文對揚二字異體甚多或有从犬者或有从豕者如此篆亦元陽字而右旁涉犬字以為形者也揚于義文義亦有顯矣（古鐘篇五十五第五至六頁）

周右輝曰：自部律 縣九奔 縣伯萬年 縣取隊原書入附錄

丁氏定為律字 今考定為律字後出古文

名輝案銘文云 縣伯萬年保 丁氏錄銘 縣取隊于律曰 其自今日孫孫子子毋敢望忘 伯休 案銘元伯元識為律 字誤名輝定為律即

今文律字諸書詞見 丁氏既脫譯保字又以律取隊為句其不通甚矣況律字从律與隊字以義古文作去支象形者渺不相近乎丁書附錄律三葉載律字謂疑是律字或云从刀錐刀

曰劃當是古劃字案律字从律持刀者蓋象書以刀與律字 律从律从律 象律形者同意今人刻印猶用刀或錐雖時距數

千歲而人情用器固不甚相遠是事乃律字非劃字丁氏或說非也其在舞銘字作律阮伯元識為律謂律字从律說文解書為律此疑即古文律字筆述也謂述之于律也名輝以阮氏

識律為律是也疑為古文律字述也則非其義矣律猶書也說文律部云律所以書也律謂之律吳謂之律燕謂之律律一

律又律秦謂之律律从律是律律律律四者同實而異名皆所以書也銘云律律律律于律者即律取書于律也周禮秋官司

約云凡大約則書于宗彝小約則書于丹圖今以銘云于宗
證司約書于宗彝則恍然明其字原矣古籍考卷中二〇至二
一頁

唐蘭曰錄改蓋的序應是聯的變體是蓋說宗彝一獸也是聯
字讀為聯宗彝一聯即宗彝一列可證聯于專有為之干其
陳述之于專的意思(考古一九七二年第五期四七頁史路蓋銘
考釋)

于省吾釋障見雙蓮卷上二第二十七頁指改葬

郭沫若釋陳讀作對見兩改六七頁錄妃假

李孝定曰此文从自从収从又甚明而諸家多以爲从章不解
何故郭氏之說最爲近之而於从又無說則其釋陳亦待商也
高田氏謂左旁爲从手課悠之說無待深辨竊謂右旁以収从
又必有握持之意惟其字不可識耳當錄定作収
劉心源曰障舊臣爲古文筆字今仍之案此字从収爲古文自
字隸鼎文專字例从此當疑从自非義此筆亦然因思収非自
乃収字手也篆畫曲行則成収稍殺則成収遂與古文自同形
如目本从収才篆家相承作収此吾所謂稍殺其曲畫之證
也障與障从収皆取手持之義収非从自或曰專下已从収筆
之肅已从収若再从収形義毋乃贅乎不知六書如此者甚多
姑以収手二文證之拱奉从収又从手舉舉从収又从手皆非
贅也此障之筆即古文筆字詳疏函从収持之會意而說如此

博正敬焉(古籍考卷五第十五頁錄妃事)

周法高曰唐說較長李氏蓋未見唐說

讀

先聖先王曰自後
今今
易傳先聖先王

阮元曰度字說文所無當即說文舊字解云規舊商也从又持
畫一曰視遠兒一曰舊度也左襄二十五年傳楚爲掩度山林
表淳園正義引賈侍中說山林之地九天爲度九度而當一井
淳園之地九天爲表六表而當一井此園地當曰百表而曰百
舊舊即度也淳園而以度計豈周制與楚異乎(續古卷七十
七頁完)
高田忠周曰完蓋王在周今本冊內史易完自目讀按完款
曰易亦環市知是國環陣當讀環市也國雖古音同部陣市
古音轉通也續古齊篆形誤作度且云國本義度字說文所無
當即舊字左襄二十五年傳楚爲掩度山林淳園蓋強殊非今

審此篆實即篆省文友形夕即肉省此陣異文从脾聲也(古籍
篇十五第三四頁)

郭沫若曰陣字与陣之結構相近从由乃金屬大約即盛曲之器
也(兩攷九十二頁免盤)

朱學圃曰按上揭奇字从爰从自結構與篆文尊金文作陣相同
爰象手持各各从由肉聲當即爰之異文說文在部爰瓦器也
从缶肉聲寺由部出東楚名缶曰由象形是出與缶異名同實
从出猶从缶矣象微尊奉之意免盤云錫免國百陣玩其辭
意蓋爰之篆文也(釋篆一九一至一九二頁陣)

李孝定曰朱氏之說確不可易字即爰之古文也郭氏說其意
甚是而未識其字阮氏誤从肉从缶為从佳遂致誤以千里高

田氏釋陣亦乖字形又誤陣上一文為日其說更莫可究結矣

高田忠周曰劉氏古文審云此字从陣鍾鼎文尊字例如此又
从糸為縛字說文縛字義非此所用義此段為鄭他器多用篆
為鄭惟唐與秦用陣此自用縛皆鄭字也元奭亦云王在鄭居
攷竹書紀年穆王以下都于西鄭初學記云鄭居春宮元紀年
此云鄭居疑即西鄭之宮也按陣疑同陵尊古音同部縛
字或从陵聲通(古籍篇六十八第(三六頁)

劉心源釋縛見奇觚卷六第十五頁農函

于省吾釋縛見雙遷卷下三第(十一頁農函

李孝定曰高田氏引劉氏古文審之說或是惟右下所从月不
解何義

劉心源曰鄭君無釋此字从縛鍾鼎文中尊字例如此又从糸
為縛說文嚴格中女子無袴后帛為腰空用緣補核名曰縛衣
狀如袴補非此所用義此段為鄭他器多用篆為鄭惟唐與秦
用陣此自用縛皆鄭字也元奭亦云王在鄭居攷竹書紀年穆
王臣下都于西鄭初學記云鄭居春宮元紀年林氏紀年補遺
云穆王所居有鄭宮春宮此云鄭居疑即西鄭之宮也(古籍卷
四第(十六至十七頁農函)

梁鼎
卷八分卷
梁鼎
卷八分卷
梁鼎
卷八分卷

孫詒讓曰舊釋為品以文義推之當為參之省其義為參兩之
參說文品部參从品今釋古文作參云或省此又不从參形尤
省也餘論卷一第五頁梁鼎

馬叙倫曰即說文之品字說文品之古文作品可證也品為
星之初文實當作品其轉注字作品星音心紐參音審紐同為
次清聲標音也書乃罪多參在上釋文馬云參字品在上玉篇
品力推反尚書以為參字其實尚書之品非說文十三篇中之

品乃品之隸變馬融注古文尚書真古文作品隸體寫作品耳
然則古文尚書參作品也此作品即以為三字猶以參為三也
釋品謬矣(刻詞六七頁梁鼎)

楊樹達曰羅振玉釋為參余按羅氏誤釋此乃參分二字也據古錄
金文堂之參卷四載梁鼎銘云品品品分蓋銘云參上
官齊品分吳式芬於兩銘末二字並釋為品分孫仲容古籀餘論
謂品品二字並是參之省蓋為參兩之參以大梁鼎銘為量參月

四分為參據銘大書其說參審此銘參字與大梁鼎參字同梁鼎
梁鼎之參及品小同知亦是參分二字也書西伯勅黎云乃事多參在
上乃能責命于天參字數煌古寫本作品知字本作說文訓參破土
為牆壁之品力執切多品謂罪多參積也然以品與品字形似秦漢

傳生讀古文尚書者遂誤釋品為參此必其時參字多作者誤故
有此誤釋也此足為仲容之說加一證矣(續微三六頁上梁鼎跋)
李孝定曰楊氏引闕孫氏之說證此為參說不可易焉氏復明
其假借本源說更精精紀數之字後世多作繁體睹此知由來
有自矣

品

取唐字南面取唐字南面

李孝定曰發音分為二字二字二字二字二字二字二字二字
以之鑄西也姑妄說如此吳日當取原銘証之也

游

師林氏字子區

作游

劉心源曰游或釋孝案片与失不同恆軒金文立旗婦鼎有
象旗形即說文放旗旗之游放賽之見古人名於者
字子游致左傳晉荀偃鄭公子偃駟偃論語言偃晉語注籍
偃莊子顏成偃皆字游知放即偃今經籍有偃無放後人改也
許時猶作放故曰放賽及名字說之此游从人即說文游旗
旗之流也从放子聲紉古文游子即泗从子蓋子有仲游鼎作
石鼓文員遊員游作游皆省水游游遊本一字今分用
矣(奇觚卷五三五頁師林游叔匡)
李孝定曰劉氏釋游其說或是金文於字多作卜此雖稍異然
猶是游形也

2445 (3509)

游

遊思居鉅

遊思居鉅

劉心源曰當是率从子亦俗義奇觚卷十一第十一頁漢篆安
游
李孝定曰疑是游字

2446 (3510)

游

梁鼎

李孝定曰字不可識

游

贊母馬

王作

高田忠周釋子合文曰按銘曰王作子游龍母贊游妻
子作合文此謂子游龍母贊游而並作也但子游說文所無
顧氏原本玉篇游辭族友字書又序字也序東西廂學名在广
部也蓋文上脫古字今依此篆字書有原據可知矣然愚謂广
者與山同意與自胡隔游疑元除異文古余子多通用除字亦
當作游而除序因當通用詩常武傳曰舒序也此序即徐字段
借余子聲通可類推也(古篇篇七十三第七頁)

李孝定曰高田氏之說可從

2448 (3512)

2447 (3511)

沈子蓋 詳讀首教△印

告候吾考今命

郭沫若曰：說文云：指目也。从目又。此字在旁作又，下耳又字。較敦字，克又字均与文中从又作之字迥然有別。顯係又字，不可混為又。（兩政四十六頁沈子說）

郭沫若曰：說文云：指目也。从目又。指目無義。殆段為或古音。或同紐例可通段。（金政三七頁沈子蓋銘考釋）

于省吾曰：是即說文是舉目使人也。讀若眈。此當訓為仰視。楚文親仰不顯大神至威大沈卒狀而實為變通上三第二頁沈子它殷）

2449 (3513)

吳蘭生曰：風字作𠂔，眾皆不識，余以叔戠敦為夜證之，乃知為風無幾。告文卷三第三五頁沈子它敦）

鄭師許曰：郭《集》釋為取曰取。說文云：指目也。從目又。指目無義。殆段為或古音取或同紐例可通段。郭說不可信。案敦字下

當為揚字。說文揚下古文作𠂔。諸之為早，見古篇補所集金文為早。是見殷虛文字今作𠂔。蓋諸變也。說文第三篇風門又三字部首相連。知古者風又形近。此蓋形近而為變者。（文史學研究所月刊一卷四期八頁沈子它敦蓋新釋）

李孝定曰：以字形言，郭說為長，而於義無取。然他說於義亦未安。故暫從郭說。吳氏釋風而字不从月，甚明。于氏釋是而古文無「文」五又相通之例，於字均不合也。郭氏釋揚蓋為之傳。

2450 (3513)

曰：靜曰教。之下一字，文錄釋作風，然與字形不合。文選以為即說文上从目从又之是。又為學目使人也。此處當訓作仰。云然大至則以為乃說文目部之取字。

取說文云：指目也。从目又。為指。此字在旁，均與文中从又作之字迥然有別。顯係又字，不可混為又。又此在本一字教取即其謂教訓目昭著。

所謂仰目，指目者，大體相近之辭。然字實非从目。然文中从目之字，預見顯字，指字，相較之下，亦可知也。今其字雖難識，然以又義言之，蓋為恐誤字義也。（全文蓋釋第一二輯一頁七八也設林深明釋）

2451 (3513)

羽

沈子蓋 休沈上學由 敦△寅壽

于省吾釋：羽見雙連卷上三第二頁沈子它敦。

吳蘭生釋：用見古文卷三第三五頁沈子它敦。

郭沫若曰：此字，界按，右旁作又，下耳又字。較羽字克又字均與文中从又作之字迥然有別。顯係又字，不可混為又。又古本一字，故知羽即是羽。（兩政四十六頁沈子說）

郭沫若曰：羽與戰連文殆段為。楊詩大叙于田乘乘。楊詩云：纓白雜色曰鵲。尔足釋音亦云。（金政三二一頁沈子蓋）

2452 (3514)

李孝定曰郭于兩氏均釋極於形差近然左旁似非从犬古文
未見有存說仍待商吳氏釋用而無說不知何所據而云然也
一足著

2453(3514)

柯

溫故口雲
《說文》
《說文》
《說文》

柯昌濟曰劍字从缶从刀說文劍刀握也从刀缶聲缶注謂握
持氣也篇韻皆云劍同附策弓把曰附考工記少儀附作附刀
把曰劍少儀亦作附刀卻刃授穎則授附注謂把也釋華三〇
六頁附劍要案

李孝定曰字右不从刀柯說待商

2454(3515)

S

伯者石西
其萬年子
永寶同高

李孝定曰似當釋昌字着銘末乃族徽或人名

2455(3516)

色亦自
《說文》
《說文》

故父夏休玉錫故父
《說文》
《說文》

故父夏休玉錫故父
《說文》
《說文》

郭沫若曰人字原作二知為人者陳逆殷冰月字作正以此
作古金字亦多从此作如過伯殷作金高鼎作金即其確
蓋古人以金生于水此觀念乃由沙故从人金也此錫人而三
左傳昭十三年奉壺飲水杜注冰盛則解而飲可以取飲又
年公徒釋甲執冰而踞注云冰積丸蓋或云積丸是謂其用其
可以取飲正義引賈逵說亦以冰為積丸蓋鄭風大叔曰抑
釋棚忌抑也弓忌傳云棚所以覆矢也弓張弓釋六棚音冰
所以覆矢也馬云積丸蓋也杜預云積丸箭筒也正義引左昭二

2455(3516)

十五年服虔注亦謂水橫丸蓋然才言九云可或謂之鞬或謂之橫丸據左昭廿五年疏所引景宗則橫丸實藏弓之器並非箭筒詩之相疊對吉也者報之段借字相即即水也與報同在陽部相與水同在蒸部也更有進者相與水實即箭之音變箭字與箭多作箭又多有作箭組屬輕唇音在之部然古音輕重唇無別而之蒸乃陰陽對轉之聲也故水若相實即是箭箭字象形乃盛矢箭器自來無異說則水實箭筒其蓋可以取飲杜預以水為箭筒蓋已不免稍失更以服虔以為橫丸蓋則失之愈遠矣李銘言錫公三者所以箭筒三事斷不至錫物而僅錫其蓋有此尤足証諸家之誤之為絕對矣(兩改九十六頁效父鈐)

2457 (3517)

參閱106呂字條吳其昌說燕耘說此字當釋為呂

唐蘭曰呂是金文常見釋呂的呂是金屬專名郭釋為父是箭筒的蓋不確不實箭筒而實三個箭筒的蓋是沒有意義的蓋父鼎實的是貝更可證明呂是金屬考報第二九冊四四頁西周銅器斷代中的康宮問題)

予省吾釋貝見雙蓮卷下二第十頁效父鈐

李孝定曰于氏釋貝郭氏釋父並誤甲骨金文自有貝字作父貝無此也其水之作父象水之聲無此形亦全不相涉蓋郭氏先懷此為矢藏之箭之成見又見古籍中水有箭筒蓋之故訓水為箭之音段郭氏固已明知遂輾轉比傳以証此為父字不

2458 (3517)

知此字之形與象水聲之父寧有無毫相似且甲骨金文箭字習見何以諸家舍習見之箭字不用而必欲假此不備不類之冰字乎據此與正編106條之呂實為一字阮孫于省吾氏呂獨於此形釋吳諸氏釋呂以為金名是也惟不當隸之說其真未達一間也文七卷訓齊骨之呂字條下當於十四卷金部補結象訓為金名而以此諸文為古文隸定之當作呂不作呂乃合又金甲文別有呂字亦作四乃宮之古文與此形近極易相混不可不辨也

白川靜曰關於二字之解釋郭氏釋之為冰以為音通棚即覆矢也陳連設之冰月之冰从此形又金字之金文字形亦加有此形郭氏以為因古人有以金乃以冰生出之觀念故金之从之謂為冰之初文之確証不過在此器銘中所見之並非

2459 (3517)

冰字乃棚之假借用為履之意曰

左傳昭十三年奉壺飲冰杜注冰箭筒蓋可以取飲又二十五年公徒釋甲執冰而踞注云冰橫丸蓋或云橫丸是箭筒其蓋可以取飲正義引賈逵說亦以冰為橫丸蓋鄭風大叔于田抑釋棚忌抑也弓忌傳云棚所以覆矢也弓張弓釋文棚音冰所以覆矢也馬云橫丸蓋也杜預云橫丸箭筒也正義引左昭二十五年服虔注亦謂冰橫丸蓋然方言九云弓藏謂之鞬或謂之橫丸則橫丸實藏弓之器並非箭筒詩之棚也對言也者報之假借字棚即是冰也與報同在陽部棚與冰同在蒸部也

更有進者棚與冰實即箭之音變箭字與籍多作箭又

2460 (3517)

多省作龍紐屬輕骨音在之部然古音輕重骨無別而之蒸乃陰陽對轉之聲也故冰若擲實即是葡萄字象形乃盛矢箭器自來無異說則冰實箭筒其蓋可以取飲杜預以冰為箭筒蓋已不免稍失更從服賈以為擲丸蓋則失之愈遠矣本銘言「賜冰三者」即是賜以箭筒三事斷不至賜物而僅賜其蓋有此尤足證諸家之誤之為絕對矣

於冰假借通用為擲服之事其說甚詳不過凡賜物而單賜服三器者可謂甚失其類雖然後期之金文中多有賜魚服之事該種情形大抵與其他諸物合而賜之並無僅賜服三器之例从二之字中金文有冰金勾三字陳逆段中作冰月丁亥據季子春秋十一月又稱冰月字於水旁加二二不明是否形聲故

2461 (3517)

直以本器之「二」解為冰更以為與擲葡萄同音而釋作服實過于牽強金亦从此形然與冰之音無關「二」恐為象形字水而為二形者辨之為冰金亦作「二」形故添加此形「二」者於冰與金皆為適用之形難以直接肯定其為冰之初文

周禮凌人中有

凌人掌冰正歲十有二月令斬冰三其凌春始治鑑凡

外內饗之膳羞鑑焉凡酒漿之酒醴亦如之祭祀共冰

鑑賓客共冰大喪共夷槃冰夏頒冰掌事秋刷

可見藏冰賜冰之法冰在祭事之時亦為重要之物祭祀疾病之時以冰賜之之例左傳中亦可見然此器銘之「二」者實難以之為冰

類父鼎之銘文雖與本器形式相同然賜之以貝若賜之以冰

2462 (3517)

因實為極特殊者應記載其原因如祭祀疾病等既難解作冰三亦無所謂「服三」之義則此「二」字可解作為金字所以之「視」為與金有關之語於文義並無窒礙不過若為金則如禽饒之作金百等明白表示其為金且因有以重量言之之例故「二」字不能直接釋為金字余惠金文中言賜金之例甚多金蓋為精製成一定形狀之物若單言賜金則其性質形狀重量等皆有定規故若言「三」可以明示賜與之內容「二」可解為有一定重量質料之意者也「二」恐非冰或服蓋乃表示當時與貝同為賜賞中最多見之金者也金文中有「易金一勾」三代「四」者勾字亦从二之字因勾者三十斤也「三」者乃金三勾即金九十斤之意以此言之字或即為勾字初文「高」高尙三代「一」中有「王易」高「二」用「下」與「又」連承尙三代「一」三之銘末亦有此字若「鼎」

2463 (3517)

三代三中有「宗」陳「二」之語確為與彝器有關之語（金文通釋第九輯四九二—四九五頁四七效父殷林潔明釋）

2464 (3517)

2467(3519)

吳式芬釋半見藤古一之三第廿六頁半父乙解

劉心源釋才見奇觚卷六第廿一頁才解

李孝定曰毛當作毛半當作半若半才當作才
此並不類並宜存疑

2469(3520)

倉虎蓋
倉虎蓋
倉虎蓋
倉虎蓋

柯昌濟釋白見韓華二九頁旅虎蓋

李孝定曰第一文疑卅字第二文不可識未知是一字否

2471(3522)

才蓋
才蓋
才蓋
才蓋

李孝定曰字不可識

2470(3521)

田鼎
田鼎

李孝定曰字不可識

2472(3523)

三

精共作三辰蓋

牧五也丁

劉心源曰三當是出(奇觚卷二七頁父丁鼓)

吳大澂釋之見憲齋十一冊十五頁牧具鼓

李孝定曰字與卅近而出土彝器一坑中盡數未有達三十者釋之於銘意順通然則當是范誤也

2473(3524)

以

牧蓋
<1822> 孫子△口

吳式芬釋保見據古三之一第四十二頁畢敦

李孝定曰疑是尋字之譌變吳氏釋保於銘意雖合而於字形無微不可从也

2474(3525)

出

出鼎
<4679> 非△五天
口口

劉心源曰出從鏡獻之釋出它器作以即此(奇觚卷二第二十六頁留鼎)

郭沫若釋出見兩改九七頁留鼎

李孝定曰釋出或是亦舞之字相近銘中蓋讀為茲也

2475(3526)

卅

出鼎
<4679> △高卑傳處字也△
唯錢口口未是實價

劉心源曰弋阮釋在非說文弋作卅此作卅同也卅弋鼓弋字作卅弋釐母鼓弋字作卅所从之弋皆如此說文必字从弋此銘弋字即必之省蓋与才為在貞為鼎同例即用所得之聲為本字也(奇觚卷二二七頁留鼎)

郭沫若曰出卅卅高卑傳處字也此卅字第一象限上三短橫畫稍測或謂乃在字非也

卅唯朕口口實
二字當讀為實

農畝女
卑傳
墨
十事
友
要
要乃如之異
用為胃商字

召伯虎殷卅白
伯氏從昭
末二字余
讀為昭

此中一異文舊均未得其讀余謂乃弋字亦即古必字金文戈秘之秘均作必

2476(3527)

無惠鼎戈瑀威器戈形沙
寔盤銘戈瑀威器戈形沙

休盤銘戈瑀威器戈形沙

師設段戈威威口少形屋

凡此諸必字均是松義必即松也

字後于象形則戈又古必字必其後起者矣

十若十說文以戈為木杙字松離

聲此則戈之古音後用為畢惟字

本音本義矣

故戈為松之最初文金文中用為必然字

次之金文中用為松後乃轉為必然字

之金文中所未見今亦已成廢語矣

郭沫若釋戈讀作必見兩改九七頁

李孝定曰此字明是从才而上多一短畫與郭氏所引農自作
十召伯虎簋作十者明非一字後二者當釋戈如郭說此字
與許書本字形近未知是一字否

何何何

何何何 何何何 何何何

何何何 何何何 何何何

阮元曰何作何所古文下有作雙及何皆其異文一取交質之

義一取質對之義也

吳大澂曰何從何從貝阮相國曰古質字習鼎

似或从二氏皆習鼎異文

劉心源曰所亦人名下文何亦此字說文云何二斤也从二

介闕案謂不知其聲何讀大徐作語介切朱駿聲曰為即權

權之權實字从之得聲阮亦讀實惟不召為人名耳

二五頁習鼎

孫詒讓曰此字凡六見攷散氏盤有

正異下从走義釋為走則疑此亦从字之反說文比部云密也

二人為从反从為比是其義也惟此六字之中第二字作

又又弟三字作

至五八頁習鼎

郭沫若釋何見兩改九六頁

李孝定曰此字上半从二氏字不誤下半不知何所从郭氏釋
定以為从四非也劉氏釋所引與何字不類阮氏讀實下亦
非从貝也

音伯馬 音白念父字通也
△叔服美善焉
音伯 音白念父字
重 音白念父字

子
伯也鼎
(0000)

方藩益曰：吳氏兩疊軒壽器圖從均清館錄釋：下為年按此字似昇之消文說文昇相從也从从升聲一曰从持二為昇昇即昇之半體故疑為昇之消文又仁親也从从二古大仁作尼此字正从人从二在人中釋仁較場漢書樊噲傳與司馬尼戰碣東尼與許君所收古文相合顏注謂尼讀與夷同者說文夷東方之人也从大从弓此段注政足段大令曰夷夷从大大人也夷俗仁仁者壽有君子不死之國揆天大地大人亦大大家人形而夷篆从大則與夏不殊夏者中國之人也 潘益按君子不死之國

雖載古籍今字宙開通儒者著書事當微實古昔黃沙之言存而不論可也(綴遺卷八十四頁魯伯父父鑑)

楊樹達曰：字吳榮光均清館金文釋年卷拾壹葉下吳堂兩疊軒壽器圖釋拾壹葉劉體智小校經閣金文卷拾壹葉吳堂兩說方藩益綴遺齋書畫考釋或釋仁卷拾壹葉或釋尼卷拾壹葉劉心源古文審卷拾壹葉從吳說釋年後著奇觚室吉金文述卷拾壹葉改釋尼吳武芬據古錄金文式之卷拾壹葉吳大澂書畫集古錄拾壹卷拾壹葉上羅振玉貞松堂集古遺文卷拾壹葉郭沫若兩周金文辭大系改釋卷拾壹葉並闕疑不釋余謂吳方劉諸家之釋皆非是乃乃說文之乃字也八篇上王部云乃王善也从人士士事也一曰象物出地挺生也按許君二義後說為是銘文下二橫畫象土形中直畫象根銘文下出象根

深入土中此較篆文不下出者為長也(續微八十八頁至八十九頁魯伯念父簠跋)

李孝定曰：吳二千合文說見前44條下諸家釋年或釋尼固未安楊氏釋王亦未是金文从土之字未見如此作者郭沫若隸定作子見兩故一九七頁魯伯念父兩

水
郭王部 郭王又之部
(0000)

劉心源釋戊見奇觚室卷十七第卅四頁郭王錦

李孝定曰字不可識

不

昌大直
<1284> 昌△白

李孝定曰字不可議

然鈎甬从田無義諸審其全銘已似當讀為購鈎購古本同音字
例可通用。(金攷一七六頁金文餘釋釋已)

李孝定曰郭說鉤意雖可通而字形去自固遠即謂象鈎鉤形
亦殊不類似宜存疑也

不

昌大直
<1284> 昌△白

郭沫若曰兩已字是動詞原文作△乃鈎句之象形文當即鈎
之古字廣雅釋器鈎鈎也莊子外物篇任公子為大鈎巨緇
釋文云鈎本亦作鈎東方朔七諫以直鍼而為鈎即謂以直
針而為鈎鈎者取也交易也(兩攷一二四頁至一二五頁甬从鹽
郭沫若曰甬从鹽有二△字曰章氏聲稱夫△甬从田曰良氏小宮
△甬从田字當是動詞義所未識今案此乃鈎之初文曲鈎之象
形也△象鈎頭之孔△象鈎端之芒与矢同意蓋古曲鈎之鈎為一
字作△鈎帶之鈎又為一字作△句於金文有△
乃象形口聲△若尸即鈎帶之鈎之象形也惟△句同音後遂通
為一字而作鈎矣甬从鹽又有地名曰句南兒則已句字猶未混也

不

陳猷奎
<3011> 今左開△陳猷奎左

劉心源釋平見奇觚卷六第三十五頁陳純奎
方濬益釋師見綴遺卷二十八第十七頁陳猷奎
吳闓生釋五見古文卷四第三十三頁齊陳猷奎
楊樹達曰△者大也(續微二三四頁陳猷奎跋)
郭沫若釋△曰△夔關吏之名(兩攷二二三頁陳純奎)

李孝定曰金文币字作丌李諸形與此全同當是一字此字
丌垂之中着一圓點與丌下者一橫畫亦同國差璫師字作丌
雖屬變例亦似與本銘文意相當左關币蓋即左關師也方說
似較長金文丌不同文均作丌上端作丌象花拊形與此有別

2493 (3537)

作冊
易
錫
作

卅乎（毛公鼎）取貨五乎（趙鼎）取貨五乎（揚殷）用貨貨賣茲五夫
 用百乎（富鼎）由黃之誼測之疑皆讀為徵徵篆文作徵與貨上
 之往極近殆即篆變之譌儀禮士昏禮納徵玄纁束帛儷皮如
 納吉禮鄭注徵成也使使者納幣以成昏賈疏按春秋左氏莊
 公二十二年冬公如齊納幣不言納徵者孔子變周之文從殷
 之質故指幣體而言無論幣質徵文要禮經言徵春秋言幣是
 幣即徵矣漢書武帝紀有司以幣輕多姦注幣錢也錢幣之幣
 古當作貝黃之從貝與幣誼同尤可證金文所謂取貨與禮經
 納徵不過事有取納之別物則同為玄纁束帛矣召鼎之用幣

2494 (3538)

字或讀為懲猶今言罰款也幣古以兩計後以匹計左傳閔公
二年齊侯歸衛公夫人重錦三十兩杜注以二丈雙行故名兩
三十兩三十四匹也又廿六年傳申豐從女賈以幣錦二兩注亦
曰二丈為一端二端為一兩二兩二匹也禮記雜記納幣一束
束五兩五兩由鄭注計之亦為五匹山謂計幣之兩初當以重
言即爭音諺爭載籍今作斜或曰當六兩或曰當二十兩大抵
主六兩之說者為多顧疑古代幣錦重一兩當尺重六兩當步
(即一弓之長)五步當束約三十尺即後世所謂匹凡金文言取
幣皆以五爭為度者王周官媒氏所謂凡嫁子取妻入幣純帛
毋過五兩也此等史料牽涉西周以上度量制度者甚廣非本
文所得申論姑止於此於是所取確言者並據古今字當讀為
徵而已(中央三七)卿其自三器銘文考釋

2495(3538)

李孝定曰丁說蓋是惜難於本銘證之耳

宋嫁忠曰：是蓋誤作主與主之字形相近然主不如主字之二土重疊又由爲誤文作

珠 石之次玉者以爲至璧
之珠字也 (殷金文考釋第一九頁) 其商第三 (3) 林澤明譯

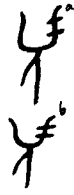
2496(3538)

李孝定曰與文有與此相近或是一字使當釋尋

赤城忠同即上詳同也

乙亥卜付貞王其心自于河亡也 (前二二六二)

之口(口)字也。以兩手信為賦與之也。今釋作付字。(殷金文卷釋七三頁)亞御專(44)林深明譯



小子承鼎生月錄 王△錄次 (48)

方濬益曰古朋與鳳一字變器銘多作朋此作牙象形尤奇

古說文引天老曰鳳之像也應前鹿後蛇頸魚尾龍文龜背燕領雞喙山海經曰丹穴之山有鳥焉其狀如鶴五彩而文名曰

鳳此文正象蛇頸雞喙與說文合其足如鶴亦與山海經合兩足參差象舉踵之形鳥之行尾必翥翥尤見象形之肖(綴遺卷十八十八頁小子射尊)

劉心源曰牙倒朋字凡見朋字古刻作拜三家并弓鑄造

而牙倒實蓋迫馭人牙豐姑鼓鼓屈友多父盤牙拜友

並個字說文鳥部鳳古文作朋云象形鳳飛羣鳥從百萬數

故呂為朋黨字人部朋輔也即朋字或呂朋為俗體不知古文

友文說亦無徵字不可議

已有之如拜拜拜即朋所从之牙即人刀之變此銘从牙為拜之倒从人及人字也蓋呂朋為貝朋字詩書者我等古者貨貝五貝為朋易損崔憬注雙貝曰朋兩食貨為朋二說未知孰是(奇觚卷一頁至二頁師異形)

孫詒讓曰案牙為拜為朋攷金文錫貝幾朋文常見朋字皆不如此作此云才牙當為地名竊疑當為升之友文說文斗部朋十合也从斗象形此形與彼正同又前印父彝印父出寶彝集

畧相惟文有友正耳餘論卷二第二三頁小子射鼎

李孝定曰舊釋備之倒文殊無據陳氏辨之審矣古銘多言錫貝若干朋朋字乃由朋字衍變許書誤以鳳之古文當朋虎字

歷來注疏象說此多誤徐灝王國維諸氏說此甚的詳見甲骨文字集釋珥珥諸字條下陳氏說此為地名亦是惟謂為升之

比

作比專
伯△作專

李孝定曰字不可識

2501 (3541)

比

作比變通
世△△變通

李孝定曰字不可識

2502 (3542)

三

伯△而
伯△作專

李孝定曰疑三市合文三市或即三師
古多反古為師國差錯
為此說亦為建軍編制即以之為氏猶中行氏之比也

2503 (3543)

三

周魯字專
周△字文
丁宋寶章

徐同柏曰文字象人禮表記云服其服文
召君子之辭延其辭實召君子之德
所謂文者如此(从古文
十三、二十頁周魯文荀專)

李孝定曰徐氏解文似可以
惟字象人上加冠
古文大未知
是否仍為文字不

2504 (3544)

柯昌濟曰說文灼龜圻也从卜兆象形兆古文兆省說與金文

字合華一五頁并鼎
于省吾釋池見雙選卷下一第十頁并鼎古文卷一第十五

頁并鼎同
李孝定曰字之偏旁不可知難以遽定于吳兩氏並釋池而並
未聞其說蓋銘之上言王逸故以意逆之耳柯氏釋兆亦未安

南

南子鼎 白俗文右△字

吳式芬釋庚見據古三之一第三十六頁伯裕父鼎

吳闡生釋南見古文卷一第二十二頁南季鼎兩改一一三頁
南季鼎同

李孝定曰以字形言吳闡生氏之說似較長然亦無由證之也

楊樹達曰按師字對體智開疑未釋羅振玉貞松堂集古遺文等

卷三載此器亦缺釋吳闡生古金文錄卷六華下釋作師而讀為
茲余謂吳釋右旁為才是不吳釋左旁為立而讀其字為位說非是

師乃在字也在字上才聲金文土字或作五原明朱刻本薛尚功鐘
鼎彝器款識法帖壁載叔夷鐘原書作魯云△或從四千為女敵索

徒字作掙所以土字作五小枝經閣金文改卷卅華上載魯司徒白
吳璽原書蓋銘徒字所以土字作土是其證也填寶書之為土或

上空白書之則為太矣古金文土旁之字如坤坡均諸字土旁皆作
△形見吳大澂說文古籀補丁佛言說文古籀補補羅福頤

之古金文字徵引見古籀彙編卷及強選開說文古籀三補拾卷

四葉上 此形似立字實非立字吳闡生認為立字釋師誤也師

奎父鼎云易載市同黃云衣帶屯戈瑯厥游趨尊云易趨載市
同黃祈見解云今史應易見載市同黃此銘之在市即彼諸器

之載市也載字以章戈聲戈以才聲與在字聲類同特載為本
字在為假字為異耳其音一也(續徵二一八頁變假改)

李孝定曰吳闡生氏錄定為師而讀為茲說似較長揚氏非之
改釋為在謂从△為土字似有可商金文土字多見參看容氏

三卷第均作△土未見作△者揚氏乃另求之朱刻本薛氏款
識徒字偏旁舍第一手資料而取展轉翻刻之孤証似有未安

揚氏又取古銘文字土字偏旁為証據重印文字多為鈐印似不
足以証成其說也又揚氏所引師奎父鼎錄尊免解諸銘之載

市謂即此銘之「市」以証此字之當讀在以為載之借字按揚引諸銘載市與同黃玄衣之屬並為所賜之物而此銘云佳八月初吉庚午王令變「市」旅對揚王休用作官中口器見三代卷八「市」下一字楊氏釋游者其字作「市」从「市」實以釋「旅」為是楊氏所引予省吾氏吉金文選或說是也「旅」上一字仍當為「市」旅為述辭與它銘錫物之語法迥不相侔「市」字實不得與它銘「載」字相當亦不得由此以証其當讀為「在」也吳氏讀為「在」義似較洽「市」旅似為師旅之備王令變從之也

2509 (3547)

例也餘論卷二第三八頁師周敦

柯昌濟曰「从鳥形从又或古隼字與」韓華一六四頁師害敦

楊樹達曰「役孫仲容說為倭之異文餘論上卷末確余謂倭當讀為致說文教却教从又又子或作效字倭致效字皆从又聲孝乳政得相通假也」（續微二一七頁師害敦跋）

李孝定曰「楊說較長然亦未可遽信蓋細審之實非从人若「也」它家說字形亦無據字宜存疑」

2511 (3548)

𠂔

師害敦

案上為文師

「𠂔」字

徐同柏曰「𠂔从又从又又者又犬也貌爾雅釋畜馬屬駢」

字从𠂔：太多毛形从友與从𠂔同意（从古卷十五十七頁周師害敦）

害敦

劉心源曰「隼从又象鳥形又从又器如此即說文隼重文作隼」

者也隼為祝鳩俗呼架烈又象其尾兩岐形（奇觚卷三二四頁至三五頁師害敦）

二五頁師害敦

孫詒讓曰「吳榮光釋為射殊不靖諦審此字似从又从人疑倭之異文古文聲又聲字多互通散氏盤效字作效（據古三）是其

2510 (3548)

𠂔

師害敦

案上為文師

「𠂔」字

李孝定曰「字不可識」

2512 (3549)

師家良

今令學令 命女 李 齊中安村
 耕左石虎昌正經淮 美

劉心源曰印說文作卬从爪此从卩卽卩从不卽爪寄舛

卷四二七夏師震鼓

吳式芬曰北畧也（據古三之二第五四頁師、策敦

郭沫若擇見兩改一四六頁師襄設

李孝定曰字為變之部著名即隸定亦不易通論考釋諸說並宜存疑

劉心源釋作印白印者無釋此字从卩卽已从卩卽爪是印字
也或讀為抑抑之正義从反印篆形同也吳賁琳印四人名吉

審卷六第十三頁師案敲）

2514 (3550)

米

市伯蓋克東先生
(1897) 乃是
△羽先生

郭沫若曰：「棄字由下拜字所从得，以知之，以意推之，當段為獨。」
（兩改一四八頁末伯設）

柯昌濟曰克下當為奉字異文克奉先生於文甚順雖其字似
 从來即古或說體之故也釋華一八九頁歸筆跋

周法高曰郭沫若手省吾雙選卷上揚樹達續微頁白川靜金
道擇一四五井伯殷白鶴美皆釋為幸楊氏云案字郭沫若讀
衛館誌第二五輯二八九頁為弼是也然則此字應歸入卅奉字下

吳閩生曰或讀克秉先王異自他邦亦通唯審銘文朱字甚明似當讀誅言文卷三第七頁萊伯敦

李孝定曰郭說可從吳說失之甚矣

張政烺曰：此文第四行，昔在尔考公氏克，繇先王和季伯，乃祖克，率先王語意相同。郭沫若同志說：率假為弼，見兩周金文。辨大系者釋一四八頁下。是正確的。這裏繇从走，率聲，亦假為弼。（文物一九七六年一期六六頁何尊銘文解釋補遺）


2516(3551)

2515 (3551)

出仲山匠
(2966)
佳出仲山自
出寶完匠

李孝定曰疑共字

住△學有
此與不其宅也

李孝定曰興曷字作者形近未知是一字否

2518(3553)

88

曾大保立
(340)
曾大保△慶吊
西用其吉金

李孝定曰字不可識

↑

陳獻章
<3019>
陸世隆

高田忠周曰按此篆與令作今似然了。自異形即知此非令字。因謂此甲字異文。說文甲古文作令。今即令之省文。實當作今之省矣。又玩銘意甲命猶言先命。書多方法。甲始也。又戰國策以待甲令。此甲命或以為甲令亦通。古籍篇七十七第六

郭沫若曰：今當是亭字之異，以高省。丁聲蒼釋為余非是。雨攷

李孝定曰郭說可从字形論簡已甚矣高田氏引說文甲之古文作令証此當釋甲頗合字形而於篇意難以通讀不如郭

2520 (3555)

2517 (3552)

2519(3554)

李孝定曰郭氏及高山氏並釋次可从此从欠不从牙

2522 (3556)

李孝定曰字不可識

李孝定曰疑耳之異文

904 (2558)

2523 (3557)

2527(3561)

李孝定曰字不從人得長蓋誤長作參人長要據辨與此不伴丁氏高田氏之說較長

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

釋
說文通解文作蘇
與此書同
台鼎
用一夫曰
益

益

數帛
△月十朋

益

益
益
益

方濟益曰益字見辭氏款識益鼎積古齋款識益鼎二銘字並作釋此作益消文說文噬咽也福文為益上象口下象頸脉理也漢書百官公卿表益作朕虞應劭曰益伯益也師古曰益古益字也(綴遺卷十二三十三頁益直)

劉心源曰噬說文云咽也益籀文噬上象口下象頸脉理也(奇觚卷二十七頁益鼎)

強運開曰益字叔敬錄貝十朋說文籀文噬上象口下象頸脉理也(綴遺云漢百官公卿表曰益作朕虞應劭曰益伯

益也師古曰益古益字運開按益即益之變體正象物噬在頸之形此段噬為益錄貝十朋即益貝十朋也(不習鼎用象一夫曰噬人名也亦段噬為益(古書三補卷二第貳至三頁)

C 楊樹達曰按益字與說文二篇上口部噬字之篇文作益音形近漢書恒用此字為伯益之益字故吳榮光釋為益字是也尋金文凡記賜物皆作易字此銘稱假噬為之以易與益古音同在陽部故也余一九三四年撰釋贈篇謂賜字以易聲易假為益益字以益聲益又假為易然未得易益通作之證也今得此器銘足為余說添一強證矣(續微六十九頁至七十頁段叔敬蓋跋)譚戒甫曰釋說文有益字讀益文噬上像口下像頸脉理也此服理上作口尤與咽喉相似(中華三輯八七頁西周金器銘文)

綜合研究

聞一多曰叔敬有錄字即益之古文益字漢書百官公卿表益字乃益之古文益字明蓋化布曰益六化益四化益即益與益同字從益即益之說變益又說為益也益從益從人與益相似象實貝之形疑古益字說文益字飾也从二貝嬰頸飾也从女頤頤貝連也頤亦聲案頤嬰一字荀子富國篇是猶使處女嬰寶珠也法嬰繫於頸也頤為女子之飾故字或從女益从口益頤古音頤在耕部益在支部支耕為陰陽對轉是益乃從益得聲益從古文頤頤為繫頸之飾故益字為益以絕繫頸以自殺也又為益以手捉喉也韓非子說難篇夫龍之為蟲也柔可狎而騎也然其喉下有逆鱗徑

尺若有人嬰之者則必教人嬰猶也呂覽本生篇始生之者天也養成之者人也能養天之所生而勿撓之謂之天子案撓之扼之也

提喉之義又尊乳為噓也又為噓康處屬吞芻而反出噓之也噓又訓咽喉乃噓義之引伸去絲之本義已見說文乃以茲為噓之篇文云上喉口下象頸脈理也其誤甚顯

至後文曰佳王三月初吉癸卯故叔口口于西宮為貝十朋字則讀為易易益音同義通廣雅釋詁二益加也易損六五或益之十朋之龜弗克違元吉益六二或益之十朋之龜弗克違永貞吉益之即易之也孟子萬章下篇賜之則不受注賜者謂禮之橫加也易賜予之義與加相近故益可假為易

益從水皿乃益之本字與益別從益之益益皆段益為益性益之義為益後加皿為益之本義益二大未詳以上皆

2533 (3563)

見說文他若士虞禮記取諸左臚上注臚臚肉也亦假益為臚後禮典臚傳朝一益米夕一益米都文引王肅劉連義準孔倫滿手曰益

小爾雅臚量一手之數謂一圓一多全集二第五九三至五九四之益案臚提也亦假為益

異式芬釋益見據古二之三第七十四頁無叔敦蓋

李孝定曰諸家釋益可以漢書多用此字可証也字从丹从口何以得為益字則無由索解或據說文噓之篇文作大為言謂上喉口下象頸脈理亦屬皮得聞氏謂从大為从顯說誤古文自有顯字也

2534 (3563)

應急非應公下旅

李孝定曰字不可識

大夏王今為大日謂

大夏王今為大日謂

大夏王今為大日謂

珠諧讓曰善夫雲字五見舊釋為缺蓋以為每字也今諸家書為泰字前趙公集題云志穆不家于乃身家作或後家白戒

諷不家字作或師家諷不家字作或步卷本此與彼各同从四

者解得文說文是部遠古文作繼右與此相近彼作繼即此變之轉變也若是每字則不空从丁足知其非矣餘論卷三第三

二頁大款

郭沫若曰承字原作承从承有索以絆之即說文承承絆足行承也也从承繫二足之承為無疑一兩收八十七頁大款

2536 (3563)

2535 (3564)

李孝定曰釋每誤甚孫氏釋豕近之矣字从豕甚明然於字形猶未盡合郭氏釋豕較諸說為優蓋字象豕形有繩繫之與許書豕字下訓解亦合是郭說似確無可疑然愚嘗釋契文豕字為豕其朔誼為豕去勢許君豕下說解實非本誼本編前收一文一手操刀擬豕腹者即為豕之原始圖畫文字亦即契文豕字所自昉追篆文豕字作豕此由刀形演變而成之一短畫不得不與豕足交錯許君乃有此望文之訓耳古文中既別有豕字其誼又為豕去勢則此不得釋豕甚明契文有豕字象以繩繫光諸家均認仍是先字以此假之則此數文或仍是豕字或別有音讀則未可知矣

劉心源釋作敏曰善夫即膳夫敏其名也(古審卷六第三頁大歌)

2538(3565)

2537 (3565)

4

敬盤
 (2927)
 嗣上徒
 嗣馬東羅王
 △重

劉心源曰山未詳或釋必或釋亭或釋出或釋屯皆非奇觚
卷八二七頁欠人盤

李孝定曰郭氏釋井然字不象側人形契文并作丫丫以側大亦與此不類郭說未安劉氏所引諸或說尤非說宜存疑

彩
彩
彩

天形文通
△文作皇且祖
方庚立障設 (A-B)

吳式芬曰：許印林說：「豕加彡者，說文：豕脩豪獸，一曰河內名豕也。从彡，下象毛足，讀若弟。唐韻：羊至切。豕文作豕，古文作豕。豕即此銘之彡，而少變小篆上从彡，頭下从彡，雖云下象毛足，實即古文豕字。豕亦象毛足，第尋常之毛，脩豪意仍不顯。蓋豕別體作豕，爾雅釋獸：豕脩豪。郭注云：豪，毛長。此銘加彡，正所以象其豪毛長之形。猶馬小篆作𠂔，象馬頭髦尾四足，而古文作𠂔，豕猶文作𠂔，說文云：豕文馬，與昂同，有髦。馬有髦，加彡與豕脩豪加彡其例正同。」今說文馬字古文，豕文相混，桂氏義證說古文馬與昂同，有髦，其說甚確。今從之。馬加彡為豕文，知豕加彡亦豕文。說文所載豕文作豕，亦象其脩豪之形。此去八

2540 (3567)

2525()

而加多指文之別體矣。(據古卷二之三、五頁吳象父敦益)

高田忠周曰按首篆明从豕从彡後三篆从豕為省文也集韻豕彩同字然愚謂彩即琢字異文說文琢瑯理三字連出皆為治玉義爾雅釋器彫謂之琢彫即瑯也琢與彫義相涉故琢或从彡作彩而豕彩同聲通用耳(古籀篇七第一九頁)郭沫若釋見兩改二四六頁吳龍父校

李孝定曰字不从豕高田氏釋彩非是吳氏說近之然契文篆字作豕全文蔡字作豕二者均假豕為之並不从彡以是觀之郭說似較長也

2541 (3567)

皮

高田忠周曰按銘云馬子幸父疑司馬官名然字與司遠疑此恥字恥司古音同部此上作血臣目之變而橫書也(古籀篇四十四第二一頁)

李孝定曰字不可識高田氏之說待商

2542 (3568)

人

李孝定曰象器物形而字不可識

郭沫若曰象當是鬼之異文讀為歸饋也(兩改一二五頁兩從)

人

唐蘭曰銘文中錫昇的昇字像一支箭但是比一般的箭頭大是弩上用的在周禮司弓矢裏的庫矢故書寫抄本作瘳矢昇就是瘳矢之瘳的原始象形字小篆往往把古文變錯了如果字本象人高舉兩手過頂似翼亢字本象人一條腿偏大乘字本象人站在樹上面小篆都把它們分成兩截許慎已不知道在說文很多的昇字象昇矢形小篆分成兩截許慎已不知道在說文

楊樹達曰與即昇字予也(稽徵二十二頁斷以瘳誤)

2544 (3570)

2543 (3569)

解字裏說成从丁由聲解為相付與之物在閤上也實則把象形的昇字假借為付與之義其來已古在這個器銘裏和廿五年解從盤三代吉金文存十還有宋代出土的中方鼎裏都是把它當作付與田邑的意思的(文物一九七二年第一期六〇頁永孟銘文解釋)

周法高同雙選上二中鼎銘云兄與郭讀既釐爾賜予也蓋所據為初版本兩周金文辭大系也吳闓生亦讀為釐云釐賜予也(古文卷一頁八南宮中鼎案當从劉揚唐三家釋昇)

劉心源釋為昇曰昇與也舊釋作里非(古書卷一第十五頁中鼎)

大令兄與女汝衷土

2546 (3570)

2545 (3570)

出六

文見古史記

文見古史記
古史記(卷五)

李孝定曰未詳

仲盤

仲盤
仲△在下
9811金

潘祖蔭曰張孝達說第二字左弓右也秦刻石也皆書作世此省橫畫耳當是弛字弛讀如佗古也从也之字同讀
蔭按應是郛字此省文(摹古一冊五四頁仲弛盤)

方濬益曰攀古屢款識釋為弛按此字象人側面臂脰之形傳形于字也(綴遺卷七三頁仲子臣盤)

強運開曰(中盤中)臣人名也舊釋兒未端按彈之古文从弓从兒此其省文(古書三補卷十二第十三頁)

李孝定曰此字明是單體象形字方氏析字形是也而謂是子字則非它說以為从某从某者皆誤至究是後世何字未能審

2548 (3572)

2547 (3571)

此乃也之繁文實大悖析古八字之常例說不可又他家或
 公為从耳从口釋為取字於歸意亦可通讀然所以「取」字既與
 本銘「月」字全同則从夕月又從口郭氏以為「名」字於義較長也
 古通

2553 (3573)

正有斧形之諸斧身每有一圓孔此三點即圓孔之象形其
 一並釋斧之繩或斧鏃也（青研八十七頁至八十八頁雜
 說林鐘句鏗鉦鐸）

李孝定曰「字形於斗」必諸文為近郭說殊覺可商強說似較長
 惟於銘意仍覺難以索解耳

2555 (3574)

𠂔

郭諸尹鉦
 次者諸△鉦

強運開釋斗曰「𠂔」郭口句鐘自左征威口口𠂔得按即斗鉦
 二字漢有元延銅三斗鉦可證（古鑑三補卷十四第五頁）
 郭沫若曰「斤」余意乃斧之奇文象形（兩攷一六四頁郭諸尹鉦）

郭沫若曰「父」本斧之初字古文作象手持一物之形其所持之
 物許書以為杖近人羅振玉以為炬果此實是石器時代之石斧
 也古者男子均稱父蓋謂以斧從事操作之人與母之以乳從事
 撫育者為對斧字從斤以父為聲乃後起字矣後起字成為通
 同字初字義失轉化為聲符者其例多至不可勝舉即如生字
 本即住字也而後以為聲生轉為草木妄生之義者是也後亦

2554 (3574)

△
 △

李孝定曰未詳

金鑑鼎
 △鉦（其說）

2556 (3575)

夾△用点文

父田寶陳墓

叔中△鼎子面字

吳武芬釋受見據古二之三第七十四頁撫叔敦蓋四

吳大澂釋卽見憲齋十二冊十頁西宮敵

李孝定曰二說均未確字宜存疑

△ 戈 虎 由 中 由 目 由 曾

劉心源曰鏹即鏹从目靜森丙寅作(附从𠂔此从𠂔作𠂔也寅戈戰戈說文戰長槍也亦作鏹方言九凡戰無刃秦晉之間謂之鏹或謂之鏹(奇觚卷十六十一頁伯晨鼎)

高田忠周曰據此二文上固非戈省又寅字从宀又从大人如此象兼宀以爲形平有所持也又或因爲形原合攝篇二十

郭沫若曰：「**不**字難識，疑是冠之異文，段為千古千戈二字，每相將。」（兩政二六頁伯晨鼎）

李孝定曰郭氏釋冠謂段為干珠屬臆解蓋暗下文戈字遂涉玄想耳釋實亦不類字宜存疑

劉心源曰戈上一字舊釋作必讀為玼此實寅字更从𠂔即𠂔
兩手相向此變从𠂔兩手相背其意則同寅合下戈字為戲說
文云長鎗也(古審卷一第十三頁伯製鼎)

吳閨生釋作赤見古文卷一第二十一頁伯製鼎

2560(3578)

2559 (3578)

𠂔

𠂔

其色級深可
商△不錄

郭沫若釋兒見兩改一二四頁帶从盤

李孝定曰疑血字

2561 (3579)

𠂔

𠂔

其色級深可
商△不錄

郭沫若釋兒見兩改一二四頁帶从盤

李孝定曰郭氏錄定作𠂔可从

2562 (3580)

𠂔

仲盤
商△不錄

張孝達疑師字見欒古一冊五四頁仲弛盤

方濬益釋聲見綴遺卷七第三頁仲子臣盤

柯昌濟曰戰戰字从耳从戈似戰字省文古所傳獲者如他器
所云傳金之類(欒華三三三頁仲兒盤)

李孝定曰字右所从於戶為近左旁不可考諸說並待商

2563 (3581)

𠂔

子商二
用△不

李孝定曰未詳

2564 (3582)

魚

魯侯爵 用傳集卷△臨

徐同柏曰：「魚」古角字，說文角與刀魚相似，爾雅魚枕謂之丁，蓋南形有象魚枕者，故字从魚从丁。○古卷十二、四頁同魯侯角。

方濬益曰：「按此乃角之古文，上象其蓋，下从丁，與爵銘中舉爵形同意。又陳抱之所藏之角形，爵下作丁形，尤相似。或疑此是肉，下有豔以承之之形，說亦可通。蓋肉之為器，與爵相似。爵前有流，象雀之味，後象雀之尾，角則前後雙歧，象鹿之角。漢韓勛造禮路碑曰：「爵鹿相桓，桂木谷大，令曰鹿角也。」按漢角里先生一作祿，亦作鹿，鹿角聲近相通也。○綴遺卷二十六、二十八頁至二十九頁。

魯侯爵

孫詒讓曰：「魚」下从丁，上形不可辨，上从「與」由相通。詳召白下从「與」與从血相近，疑專之異文。說文「万」部專亟詞也，从「万」从「由」，又血部專定息也，从血專省聲。讀若專，此疑作專，不省專蓋聘之論。餘論卷二第六頁魯侯角。

郭沫若曰：「魚」與楚公蒙鐘之一作「與」者同，此省又耳。此字有林南二聲，在此疑假為臨。○青研一〇〇頁魯侯爵釋文。

吳闓生釋聘見古文卷四第三十一頁魯侯爵

2566 (3583)

2565 (3583)

李孝定曰：「郭氏疑定為長讀為，臨亦可通。」

白川靜曰：「魚」字疑不釋，庚、八、不、從通釋，从「古」。

說文「角」與「刀」相似，爾雅魚枕謂之丁，蓋南形有象魚枕者，故字从魚从丁。

者，故字从魚从丁。

又綴遺中曰：

按此乃角之古文，上象其蓋，下从丁，與爵銘中舉爵形同意。或疑此是肉，下有豔以承之之形，說亦可通。蓋肉之為器，與爵相似。爵前有流，象雀之味，後象雀之尾，角則前後雙歧，象鹿之角。漢韓勛造禮路碑曰：「爵鹿相桓，桂木谷大，令曰鹿角也。」按漢角里先生一作祿，亦作鹿，鹿角聲近相通也。

綴遺之辨，乃以魚為角，而以「魚」字為最。不知「魚」之說不見他例，恐有流明，雖地乃無稽之說也。

郭氏以公侯爵及楚公蒙鐘無此字，近似之字，為林南之音之字，故以「魚」為林之音，用為臨之義也。然臨字全文中，有其字，不必得別借用他字，以「魚」為就字形而釋之也。餘論以為「魚」之異文，聘之義也。餘氏以上說為「魯侯」二字，从「與」與「專」連讀，文義不明。然其要「魚」字連讀，則文義固可通也。雖在字形上尚有問題，今暫依餘氏釋作「魚」。（全文通釋第三輯一三〇頁）

一、二、魯侯爵林南明證

2568 (3583)

2567 (3583)

平

平
<667> △已入丁牌第18

李孝定曰未詳

2569 (3584)

平

穆公鼎
<667> 穆公下戶姑室室于△林

陳夢家釋錄見金選二四五頁西周銅器斷代 68 尹姑齊鼎

李孝定曰未詳陳說待考

2570 (3585)

平

平伯鼎
<667> △寶鼎
平伯解作

李孝定曰疑象鳥形不解何字

2571 (3586)

平

宋甲金盤
<667> △△△鉅

李孝定曰未詳

2572 (3587)

保

不與父也 不與父也

△此寶定

李孝定曰未詳

2573 (3588)

保

保友父高

△此寶定

楊樹達曰：「留字从肉，从卩，余疑其為胙之或字也。左傳：『傳公廿四年云：凡將，那、茅、胙。』祭國公之軀也。友父之子嫁于胙，故稱留。媿矣。彝器中既未見胙國之器，胙字用為國名者，他彝銘亦無之，僅存於此銘中，殊可貴矣。」（續微一八七頁）郭友父南郭沫若釋見兩改一九三頁郭友父南

方濬益曰：「疑作召二字合文」（綴遺卷二十七第三頁）郭友父南

李孝定曰：「方氏謂作召二字合文，而字不从口，亦非。从卩說，蓋郭氏疑定亦非。楊氏說似可信，而析字形亦誤。蓋字不从卩，實

2574 (3589)

从肉，金文以句，篆書句字多見，均與此字上半所从相同。下从肉，當疑定作胸，楊氏據銘意，以此字為國名，或是。

2575 (3589)

保

曾者鼎用作保鼎 郭諸子口

用作△鼎

高田忠周曰：「按銘曰：曾者子魯，用作保鼎，用言于且曾，即卽字者子亦諸子也。魯血祭也，其字形象祭竈也。然則知魯祭竈其儀相似矣。論語曰：與其媚於奧，寧媚於竈，何謂也？又子曰：獲罪於天，無所禱也。周禮大祝五曰：禱禱亦祭名也。即知媚與媚竈之媚亦祭祀祈禱之意也。因謂此銘曰保鼎，即媚祭之鼎也。蓋依篆形，即與眉字合，而即而之省，而者鼻下之髮也。此字不从目鼻，而从而字於會意之指，不為全失矣。即知此為眉之異文。銘即段借為媚字也。」（古籀篇三十八第四頁）

高田忠周曰：「按此篆代目以而而為鼻下之髮毛，而目均在眉下，眉字从而省，會意之指可識耳。」（古籀篇四十七第二五頁）

2576 (3590)

柯昌濟曰：「殿字古文說文展殿也从尸下尻儿說文注尻儿與此形相近此字或當以許訓為最古蓋小篆訓話中之有古文字誼者也展通殿殿鼎或謂後陳之鼎釋華七〇頁曾諸子鼎

李孝定曰：「字不可識柯氏釋展殊無據高田氏釋省尤為牽強皮傳殊遠不知蓋關之旨矣。」

2577 (3590)

𡗗

李孝定曰：「𡗗字不可識柯氏釋展殊無據高田氏釋省尤為牽強皮傳殊遠不知蓋關之旨矣。」

于省吾釋趙見雙選卷下二第四頁世李受尊

李孝定曰：「于氏說待商。」

2578 (3591)

𡗗

釋文：𡗗，休天尼畢望科公。
聖主明此△先王。

陳夢家釋事見金選二四五頁西周銅器斷代 88 尹姑齊鼎

李孝定曰：「金文事字作𡗗頌鼎𡗗趙鼎𡗗伊鼎諸形此外尚多見大抵皆近似此作𡗗與伊𡗗事字相近而稍譌變陳氏釋事於歸意順適可從。」

2579 (3592)

𡗗

李孝定曰：「𡗗字不可識柯氏釋展殊無據高田氏釋省尤為牽強皮傳殊遠不知蓋關之旨矣。」

丁佛言曰：「𡗗疑是𡗗字从二土之省散氏樂陵作𡗗許氏說𡗗越也一日𡗗傳也魏氏曰侵陵字當作𡗗此古籀補補附錄三頁」

李孝定曰：「丁氏說或是。」

2580 (3593)

李

起伯區
《2963》
起伯△乍寶區

方清益釋肅見綴遺卷十四第十二頁伯肅區

李孝定曰未詳

2581(3594)

李

面尙服區
《2971》
唯由尙△同吉全
也自寶元

李孝定曰左似从辰而實非字不可識

2582(3595)

李

馬比道
《2977》
其邑事△言二
邑失聲△言二

郭沫若釋然見兩改一二四頁肅从盤

李孝定曰似肅隸定作盤下所从乃田字非从心也

2583(3596)

李

歸父盤
《2977》
佳王八月丁亥晉大宰
歸父△言二
盤





吳式芬曰許印林說蟻古文作壁从屋此銘父下字似从辰从二二土同義疑即壁省虫(據古卷二之三三頁歸父盤)

徐同柏曰田从二通詩信南山明二原隰之明歸父名爾雅釋訓明二親睦也詩毛傳同古人名字相配蓋取書洪範蕩平正直歸極之義(从古卷十六十一頁至十二頁周齊歸父盤)



方清益曰均清釋闕以彝器銘例之疑作之異文作為某器銘文常語也(綴遺卷七二十六頁齊太宰歸父盤)


孫詒讓曰金文家字有作父鼎公□文□未向父鼎父鼎家諸形大致與篆文同又有作父者鼎則直省為父字其最

2584(3597)

奇者歸父盤云齊太宰歸父臣此著歸父之名名字并舉如主舊釋咸不辨為何字今諦宋之實亦希之異文蓋上从丰下為銳角與土同但彼為圓折耳从心即六形之變下从三者凡上文从者或變為丰又或省為丰再省之則成三金文為字下亦从丰而散氏盤為圖為字作从申郎侯彝台以為為字作又省从單字司馬馬字作即其比例即希字亦即古文口之省為家同古人名字義必相應故名其字歸父左傳魯公孫歸父四年齊折歸父八年並字子家其嫡證也原名下七頁

2585 (3597)

高田忠周曰許印林說古文作从土此歸父下字似从辰从二土同義疑即體省虫按許說非是然吉日之吉作


二為土省然則此二亦當土省而尹貞辰作知此上形亦為辰字蓋說文所無依古文自土通用之例蓋即辰字無疑說文歸水車也从自辰聲亦當作古篇篇十五第三五頁

郭沫若曰盤三始用字之異(兩改二〇一頁齊太宰盤)

李孝定曰字不可識諸家所釋並未審而以為歸父名則是也

2586 (3597)

陳獻奎 殷虛書契

丁佛言曰陳獻奎疑是者字子孫承諸派鍾鼎皆似此在此器應段為都字文曰者曰陳獻言節敘之器皆出自陳氏也古篇補補附錄三頁



劉心源釋者見奇觚卷六第三十五頁陳純奎綴遺卷二十八第十七頁陳獻奎古文卷四第三十三頁齊陳獻奎同郭沫若釋者見兩改二二三頁陳純奎


















李孝定曰諸家釋者或是

2587 (3598)

紫

舒上第 易說之

劉心源曰盤从即肢及形从亦即省形(奇觚卷十七三二頁郭王錫)

高田忠周曰按云盤字从即肢及形从亦即血省形此說與篆形甚乖此大即火字也即已省魯白愈有盤姬字所从作可證然則此為字尤顯說文燥也从火聲轉為光也明也然義自與此異此元有三器二器皆云祭即知此亦當祭意朱氏駿聲云與禧通漢書禮樂志事備成又大矣孝注亦福也是也或云為或通古篇篇十三第四二頁

2588 (3599)

李孝定曰劉說無據高田氏釋以爲字下从火是也而上半與配不合且釋照於鉤意亦難通讀說宜存疑

2589 (3599)

形當釋爲範類如有理而實非是矣(古籀篇八十五第二八夏)

柯昌濟曰字象絲在機上當即古機字說文幾微也从絲从伐

戊矢守也乃小篆說文卷二九一頁呂謹甫
李孝定曰方氏說字形或是然究是何字則未可知柯氏與高田氏之意近而柯氏釋機高田氏釋膝於字形並無微說宜存疑

2591 (3600)

中蘭自
山山事上

方濬益曰疑是樂縣之象形按周禮小胥正樂縣之位王宮縣諸侯軒縣卿大夫判縣士特縣注樂縣謂鐘磬之屬縣於簡簾者鄭司農云宮縣四面縣軒縣去其一面判縣又去其一面特縣又去其一面此或鐘磬在縣之形姑釋之以俟通人論定(綴遺卷十一十三頁縣自)

2590 (3600)

李孝定曰未詳
上虞余公

李孝定曰未詳

2592 (3601)

△ 歌千世寶鼎

于省吾曰：篆籀有榮字，金文編入附錄中，當即說文榮字。上从艸作艸形，榮字下从東作東，尤為亦形所導，乳之補證。石鼓文丁鼓款字左从半，是中間兩斜畫亦變為一橫畫矣。說文勝从並，東，東，勝本同名，新破為二，且，在古文字中每單變無別。呂氏書叔任地，棘者欲肥，肥者欲棘，注棘贏瘠也。說文勝之重文作棘，玄應一切經音義二九古文勝瘠瘠之形，方言三凡草木刺入，北燕朝鮮之間謂之棘，自關而西謂之刺，江湖之間為之棘，是棘刺棘一也。以初文言之，則東棘為同字，後世雖破為二字，然猶相通轉也。《辭枝》三六至三八頁釋東。）

李孝定曰从艸之字何以从卂已覺可商卂不與𣎵亦不可必其爲同字于氏龍待商

2594 (3602)

2393 (3602)

陳伯元
(1917)
微白△之白元作
田立媽調母膝
鉅也

郭沫若撰見兩跋一八四頁陳伯元題

李孝定曰左旁不可知右似从獸形字不可識郭說待考

清文彙
(1626) 文正寶齋

吳式芬釋為見據古一之三第十五頁為父爵

吳大澂曰揚字之異文（憲齋二十三冊第十八頁揚父爵）

李孝定曰上併从不可知下从夊而有尾字不可識矣說較前近似

2596 (3604)

2595(3603)

發寶降尊

吳式芬曰：符籙莊說……謂古文呼，古文無作，山作，與此同象，知為呼者，呼有熾義，無又熾象也。（據古卷二之一八十一頁脫字面）

徐同雅曰：謂古文尋古文無作𠂔作𠂔與此同象知爲𠂔者，尋有懷義無又懷象也。（从古卷七二十八頁商既尋尊）
孫詒讓曰：𠂔當爲尋，古文尋之變體，前父辛蓋作𠂔，吳釋爲𠂔，
竊立一不誤，後宋周廬作𠂔形亦相類。詳拾遺此變爲𠂔下
又省，以餘論卷二第七至八頁既尋卣）

高田忠周曰按說文繡絲絲紉也。从木爾聲。段氏注云絲絲紉者。若今絲絲聚子。此篆从絲曲其象形也。古象形篆後世變為形聲殊多。此亦其一例也。元引徐籀莊說云。𣎵古文𣎵。古文𣎵作𣎵。作𣎵。與此同象。知為𣎵者。𣎵有𣎵義。無又𣎵象也。所云𣎵誕不替。不可為據矣。又謂𣎵字字異文。與作𣎵者相近。然彼四形自顯異。此縱橫象絲架別。古籀篇八十五第二七夏。

楊樹達曰吳式芬引孫同補釋謂其可方澤生解遂實集
器考釋廿陸卷七葉題此器為亞形父癸量於器字加字言之
無釋孫詒讓古篇餘論卷二七葉下云甯當為寧……前父車
盞作甯……宗同鐘作甯形亦相類此變甯為甯下又省以接
孫說甯為甯之變形是也而釋其字為寧則非是此甯卽是子字
銘文以子無父癸為對文非寧字也（積微二〇六甯子父車盞）

2598 (3605)

2377 (3605)

李孝定曰吳式芬氏之說顯為荒誕他說亦無確據並宜存疑

𠂇

古伯子曰知△平△

專而唯身入于公

李峤定曰中殿从克从什字不可識

2600(3606)

2377 (3505)

管蔡等反也。淮夷徐戎亦並興。於是伯禽率師伐之於盼。作盼誓。盼字集解云。徐廣曰。一作鮮。一作驪。驪案尚書作紫。孔安國曰。魯東郊之地名也。後注說文解字本作紫誓。云今書之作費誓。乃衛包所妄改。余案。驪乃古今字。此等言誓侯伐東國在徐邑。當即伯禽伐淮徐於盼之事。徐廣云。一作驪者。為近古。其作盼。作鮮。作紫等者。均借用字也。（青研四十頁至五十頁。今彙令較異其也諸器物之綜合研究）

李本定曰。郭氏以為。驪字雖無確據。而屬近是。可備一說。高田氏據史作紫。驪誤。

白川靜曰。句末一字。雖不見于卜文。然字雖誤。其間生郭氏釋為紫之字。以此段與書誓誓所述之事。後合而推之。者也。郭氏之

說曰

史記書世。故伯禽即位之後。有費誓等反也。淮夷徐戎。亦並興。於是伯禽率師伐之於盼。作盼誓。集解引徐廣云。一作鮮。一作驪。又引尚書作紫。此與周云。魯東郊之地名。今本尚書作費。乃衛包所改也。亦疑。口即盼。紫等之本字也。徐廣以為。一作驪者。為近實。盼紫驪。均誤借字。

案。誓乃伯禽入魯時。徐夷並興。就其東都。今伯禽討伐之。故命也。然史記中。以為此役乃三監之叛。為費誓者。郭氏以費為其時之物。按當時周公尚在也。若命于周公之被。則殷在曰。王令周公。而王在命。其子明公。明公為周公之子。之事。據今本所記。主屬明公。今以事命明公。以此言之。以不至與三監之叛。以王命之。案費之文。相結合之。郭氏之說。可說是時期錯誤也。

通鑑。新代字。誤釋。所以為引。吾也。亦云。文。而誠。與。果。能。以。教。思。以。為。能。所。記。之。事。至。昨。案。誓。之。後。而。是。路。善。後。之。討。伐。穆。戎。也。其。班。版。所。記。乃。同。時。之。事。也。云。以。吾。也。亦。云。二。年。而。華。夷。之。文。主。要。班。版。之。三。年。靜。東。國。之。說。也。然。正。如。前。述。班。版。乃。以。毛。字。為。注。明。記。於。彼。東。國。穆。戎。之。後。之。果。也。其。作。戰。至。不。一。定。及。於。吾。也。也。清。冬。改。班。版。信。下。（今文通釋第三輯。一三五。一三六。頁。一三。明。公。版。林。澤。明。謹。）

作

作

柯昌濟曰。虎字者。舞未確。似是。虎字。舞。舞。二。一。七。頁。舞。虎。舞。李本定曰。當是愛之古文。與文。愛字。舞。見。即。舞。之。象。形。古。字。並。與。此。近。

“

新書

王省△見王易
小臣餘△見

方濬益曰象形以孟鼎銘無敢醜字偏有作豕譯之正當釋
康說文康闕相瓦不解也从豕虎豕虎之闕不解也可馬相如
說康封豕之屬一曰虎兩足舉澤益按後說是也
皆从虎从豕或作豕从犬不从豕豕虎闕不解及封豕二義乃
說小篆康字之文與古籀殊異此文下作舉足之形與虎兩足
舉之義正相合則釋康為豕矣綴遺卷十八二頁小臣穢尊
劉心源曰案據古錄祖辛解有豕在字釋為虎余攷孟鼎醜字
酉有作豕有燕老祀象狀首尾足人形說文康門相瓦不解
也从豕虎豕虎之門不解也讀若薊薊之薊當云讀若薊
馬相如說康封豕之屬一曰虎兩足舉薊之字此誤彊魚切此从豕象舉足

2609 (3610)

形与許氏後解合……心源又累康亦可釋變說文真鬼神魁也如龍一足从又象有角手人面之形此从𡗗即古刻中諸篆字作𡗗者也从𠂔即𠂔从𠂔象尾形与此形異意同从𠂔即足即𠂔之倒文是變字也(奇觚卷五十二頁俞尊)

孫詒讓曰說文^部夔夔龍也如龍一足从夨象有角手人面之形又云夔貪獸也一曰母猴似人从頁已止及其手足依許說則兩字竝以頁象人面以夨象足而以已止象手無義可說張金文餘尊云丁子王省^字京玉易錫小臣餘^字京玉即

上从頁中从手皆尚可識惟下友形未見龜甲文有𠂔𠂔下平
亦從是𠂔字上从𠂔即𠂔下从𠂔亦象手臂形但左右互易下

2610 (3610)

亦闕反形以諸文參互扶之小篆中从止即手形之變从已者
疑象臂形古文變字右蓋从兩手故尊文从𠂔并兩解文从𠂔
甲文从𠂔左似从臂曲曲形尊文橫出肱有省變甲文解文則
故未全小篆變手為止於形尚近變曲曲形為已則不可通矣
(名原上一〇頁)

孫詒讓曰：𠂔，籀文𠂔，爲弄昌字。形及文義皆未合。攷金文弄字甚多大抵皆从象从系从升。與小篆無作此形者。神審此字字似是愛之異文。其上从頁下从久，甚明。惟右旁尚有丌形，致復孟鼎有𠂔字。右旁與此形亦相近。但彼上从頁無角，則是愛字說文又部變从久，象有角手入面之形。以象角已上象手頁象入面又變从頁已止久其手足。已止為手，久為足。是愛變二字並屬象形。此从丌正。

26 11 (3610)

象手形而孟鼎以有尤完備左象肱臂擴出說文又部左臂上也古文作乙右象手下垂此右與彼同而左有闕蓋前祖辛鐸棘作且辛龜

鑒立二 南宮鼎王令中先嘗省南或國實行執王居在對口貞

山靈志三之一 貞山疑是貝卅二字貞與貝古文可通猶鼎

以貝或亦从貞也但貞上一字从𠂔中形不可辨蓋亦為圖

不棘下在下亦成似變字南宮鼎情事與此尤相近舊鐸

文為虎鼎文為射並誤合校諸文雖小有差異而手足形成畢

具勝于小篆蓋古文改易化散為整左變為上尚不相遠右變

為已則無義可說凡六書象形之文分之本皆不成字若从止

从已則各自為一字不得為象形矣許書小篆九象形字多違

茲例此皆展轉譌變之失不及金文之得其正也餘論卷二第

二五至二六頁餘專

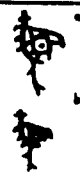
2612(3610)

自來山虎王... (後一〇〇三)
夏王字子考 (後上一三、四)

夏王字子考 (後上一三、四)

夏王字子考 (後上一三、四)
夏王字子考 (後上一三、四)
夏王字子考 (後上一三、四)
夏王字子考 (後上一三、四)
夏王字子考 (後上一三、四)
夏王字子考 (後上一三、四)
夏王字子考 (後上一三、四)
夏王字子考 (後上一三、四)
夏王字子考 (後上一三、四)
夏王字子考 (後上一三、四)

2617 (3610)



周憲鼎 (後一〇〇三)

吳大澂曰：按見字之篆文或釋觀 (憲齋四冊二一頁卷鼎)

吳大澂曰：按見字之篆文或釋觀 (憲齋四冊二一頁卷鼎)

丁佛言曰：周憲鼎與桂華以為古文鳳字其釋鼎文為祝人師首鳳王為周客謂是祝人名師首者奉其王如周為客而助祭也 (古金補附錄六頁)

強運開曰：按憲鼎首鳳王為周憲吳大澂疑為見字之篆文以字形案之釋為見字可以無疑 (古金補三補卷八第十頁)

2618 (3611)

李孝定曰：吳大澂見而考與甲金文見字無異蓋有似龍珠態據丁氏釋鳳雖亦未確然亦頗類鳥形也



王人叔 (後一〇〇三)

高田忠周曰：按忠即忱者釋為慈重文忠非是此忱从心从兒
顯明說文忱誠也从心从聲左形右聲此忱下形上聲為其平
又說文說下曰：燕代東齊謂信曰忱古言心兩部通用轉錄
情同字其證又說文謹誠神也爾雅謹誠也信也此言古音同
許說說亦同字無異故說文謹下引詩大明天難諶斯七詩作
忱轉詩作說又說文引蕩其命匪忱毛作謹轉作說並可以證
夫古金書四十三第一七頁

高田忠周曰：按忠即忱字而忱亦同說文說燕代東齊謂信曰忱从心从聲與忱訓誠也从心从聲同雖有意內言外之別

2620 (3612)

2619 (3611)

然古言心兩部多通用說文轉轉詳想同字可證又謹訓識語也
也从言甚聲爾雅或本廣韻作謹古音尤甚同部說謹亦同字
無疑(古篇篇五十二第二二頁)

李孝定曰高田氏釋說謂上从尤是也而下所以非心字乃商
字也當錄定作訖

2621 (3612)

𠄎

某同蓋 黃居作季
三說△發發設

丁佛言曰𠄎乃季能設疑是泉字說文泉者棲也古篇補附
錄六頁)

李孝定曰疑从鳥从米當錄定作稿

2622 (3613)

璽

古鼎 井中易信
<477> 古金全△

阮元曰璽錢釋作璽案璽三毛王銘曰全全缺也則非三采矣篆
體从林今从吳釋作琳(稽古卷四四十頁各鼎)

劉心源曰案从木伯火字疑此為璽惜字書未收(奇觚卷二二
五夏四鼎)

高田忠周曰按阮氏釋作琳琳美玉之名為琳銘意亦通然璽
篆形為璽者稍近無篆作璽从大从琳此从大从琳甚明
下有璽璽為無省無賣鼎作璽詎楚文作璽皆相近可證矣
說文璽三采玉也从玉無聲周禮弁師故璽諸公之冕璽玉三
采此義可以解銘意也(古篇篇七第五頁)

2623 (3614)

譚延闓曰璽字結構奇詭有叔自銘見考古學報一九五六年
叔璽謂大保璽叔璽白金白金上當是璽璽的吳璽字

本銘璽字上部與璽略同也當是璽字左下角確是王字但金
文家多認作玉如阮元錢站孫詒讓等並釋璽吳式芬釋琳刻
心源釋璽郭沫若更釋作从金的璽皆與字形不相適合我以
為璽字左下从璽此即假王為璽因二字同韻通用別有孟載
父璽銘見三代吉金文讀孟載父作璽璽璽也是璽字可能字
下部即是玉的演變形

璽字上从林中在此則上从林中大似大即岳考璽禮儀謂公
尊兄大鄭注瓦大有虞氏之尊也禮器曰君尊瓦甒胡培塈正
義明堂位云泰有虞氏之尊也有虞氏上陶故用瓦大引禮器
者證瓦大即瓦甒也按甒為瓦製酒器與尊並岳等同類一名

2624 (3614)

𧢲

釋名 佳正月初 珍

作其△鼎鼎

柯昌濟曰其曾諸子鼎展字相類當為殿之古文(解華一。六頁俞康)

李孝定曰未詳

2629 (3617)

𧢲

山部 𧢲 叔止吳雄傳

柯昌濟曰字从害聲从夫以音求之疑葛之段字夏有葛伯國是已(解華二。九頁害叔康)

李孝定曰柯氏以為左从害是也而右似非从夫疑乃从夫也

2630 (3618)

𧢲

𧢲 齊民要術 羊

△五羊盟 羊

郭沫若曰虞說文云𧢲𧢲白虎黑文尾長於身作獸食有死之肉淮南道應訓散宜生乃以千金求天下之珍怪得𧢲𧢲雖斯之來注云𧢲𧢲白虎黑文而仁食自死之獸日行千里其見于它種書說者大抵相同古与麟鳳龜龍為五瑞乃古人所想像之動物不必實有也今𧢲字亦正作奇獸形同違有受者蓋家其能騰雲駕霧之意所謂能日行千里者是則𧢲蓋即𧢲之初文矣(兩收二二頁齊侯盤)

高鴻緝曰說文首人山半細角者从兔足首聲讀若丸寬字从此臣族等曰首徒結切非聲聚象形胡官切

2631 (3619)

臣鑑按本草注羴羊似羴羊角有文俗稱羴

徐灝曰羴字又作羴羴羴羴山半細角而形大也爾雅羴羴羴如羊羴思古法急就羴曰西方有野羊大角牡者曰羴羴者曰羴一切經音義八引羴志亦既羴字異義同羴不當从首聲羴臣云象形得之

按王筠林義光亦均以為全象形首非聲金文見齊侯盤字偏旁又見竟案也从艸見聲侯潤切與此別字例二篇六六

李孝定曰字亦見徐說文以此為偏旁雖體甚奇說為古文所少見一文郭氏但加隸定而於此文則大違臆說余舉从其慎也

2632 (3619)

平通

新考 (236) 仲錫新

孫詒讓曰：「無釋吳引許瀚云疑龍鬲合文今諦案當為壁字之變體上从彡即丰右从冂即下之變左从冂即口而微有闕泐下从王即玉之變體後召伯虎款石代則報壁壁作𠩺之立三此丰作彡王作王與彼正相類珠法奇詭遂眩惑不易辨」徐論卷二第24至25頁格仲專

方濟益釋龍見綴遺卷十八第15頁折宛專

柯昌濟曰：「變字从龍从衣省」說文龍衣大袂袍士喪禮乃襲三橫襲衣重衣也(釋華二二二頁格仲專)

吳闓生釋壁見古文卷四第十一頁新專

李孝定曰：「字不从龍釋龍釋龍衣均覺無據陳氏釋壁謂每一偏旁均有變實盡比傳之能事倘疑上从丰下从南右从又而左不可知」

白川靜曰：「缺釋之字或為某之異文然則是以裸體賜之也文係中釋居壁字形亦稍異小通鼎銘中避赴而此祭而安賜當在祭亦與祭事有因而受賜者也(全文通釋第十輯五七八頁五五號等林深明譯)」

2634 (3620)

2633 (3620)

倉

新考 (236) 白

高田忠周曰：「按此篆錢畢二氏缺釋阮攢釋為與而亦無說今審篆形上从今中从米又从二又从橫口愚竊謂今是字聲又从未此必從字異文說文神穀熟也从禾倉聲古文禾米通用也又从又口者合論彼諸字為形而亦省變耳晚出古文間有此例矣(古籀篇八十二第二七頁)」

譚戒甫曰：「倉當是倉字說文倉上蓋下舍中戶會意此上蓋下舍手取穀藏入(倉)聲(中華三輯八三頁西周金文辭文錄合研究)」

郭沫若釋倉見兩政九七頁倉廩

李孝定曰：「譚說殊無足取上明是今字非蓋形與文有(倉)字从合月聲愚以為乃倉之古文此字从今从米从二又从口未見有月聲之偏旁郭氏但加臆定是也高田氏之說亦較譚說為長惜無確證耳」

2636 (3621)

2635 (3621)

道

道

△

李孝定曰从叙从匕从道不知何字

2637(3622)

野

伯

△

李孝定曰左不可識右似从旁

2638(3623)

日

日

△

高田忠周曰作示徵教蓋以字彙于田同據古。按吳元得受福非又為消解則知為一字缺釋又配為禮字猶近而未失今書體為一字當釋為徵教為禮字與大祭光說是說文禮祭祀也一曰精意以直為裡以示聖聲猶文从尸作嗣猶祭祀字用祭為之析福字作福也但聖聲也从土而聲此田為田吳形無幾而省弓形又日幾百字小異漢瓦文作日殆近可證然則此从示从既省聲也一增而再省亦以便于結義屬語精意以享裡也周禮大祭伯以裡祀祀昊天上帝字亦作裡爾雅釋詁裡敬也古多以裡為之虞書裡于六宗大傳作煙周禮大祭伯注周人尚食煙氣之美聞者皆是也又古字省文唯當用聖為

2639(3624)

之

吳式芬釋福見據古二之三第廿四頁據板歌蓋

李孝定曰字不可識吳氏釋福字形猶近高田氏釋裡按更字从田金甲文均假借為而此非从田說不可从也

2640(3624)

庚

庚

庚

吳榮光曰：仲下一字亦是友文畧，似動字（獨清卷五第七頁同辨）。

高田忠周釋龍曰：此篆書缺舞，今審明是重字省文，大夫始鼎作篆，合可證矣。又作龍為象形，卜辭作及龍，龍介龍諸文可證，然此亦與作判者同意（古籀篇九十八第三七頁）。

馬叙倫曰：通即甲文之龍字，僕之初文也。（利詞一五二頁文）。

李孝定曰：馬說最為近之，惟字不從齒，與甲文異，所从力亦不解其義，為說仍未確確証也。

膏

膏

膏

李孝定曰：字不可識。

豐

豐

豐

吳式芬曰：許印林說：豐字古文變體最多，說文云：豐，从米，米也，廿持，米器中實也。上聲。王楚則云：豐以虎雖為文，古象虎首，象雖尾，亦古其文，米古其實，廿則持之，參二家之說，自宋或即無之變體，亦米也。米亦也。一貫中，公列外，三足在下，亦象器形，自與上聲近同部，小篆以土為聲，古文以自為聲也。自，耳也，亦有首意焉。（據古卷二之一，五十五頁豐庚角）。

徐同柏曰：豐，古稷字，故工記玉人注：稷之言灌也。或作深，或作果，是文，稷象木，有果形，而作公水之象，上从自，讀如鼻，禮郊特牲云：灌用鬯，是鼻所司，司鼻也。公古卷十二，四頁周魯庚角）。

方清益曰：吳清卿中丞說文古籀補以為稷字，今按此字从自，从米，从水，與公史微，微與字形近，當是稷之籀文（綴遺卷二十六，二十九頁豐庚角）。

劉心源曰：稷許釋尊其說殊強，說文稷古文作稷，一本作稷，一本作稷，傳寫雖有訛失，皆与此肖，決非稷字（奇觚卷十八，八頁豐庚角）。

孫詒讓曰：稷許釋為稷，亦不類，稷當為稷之異文，陳侯因齊稷，稷字亦為稷，一從三，从果，从監，省此从果為重果，从公即水，省亦从水可證，但上似从自，不知何意，徐倫卷二第六頁豐庚角）。

郭沫若曰：「漢書卽無以蓄酒之藎，从東旁有酒滴，从白，謂神飲之。」（兩致一九五頁魯慶爵）

周名燁曰吳氏定以上二文按唐鑑卷二為祿字今考第二文為

文則甚易明者

飲座下辭有醕字書契前編卷六茅十六葉及醕字王國維云此字从酉从
 以从東殆即無以菑酒之菑文云貞醕豐豐即醕字古文後說
 文解字菑禮祭束茅加于裸圭而灌鬯酒是為菑像神飲之也
 从酉以此束手束東于酉酒旁殆菑之初字矣今案王說是也
 此文作象从艮即古文鼻字蓋象人之頭部从艮即說文所謂
 束茅从艮象酒醑之下滴乃取象神飲之狀此為純象形字卜
 辭字从酉从東从艮與此文大同說文字作菑則清束茅為艸
 矣然其聲猶未變說文云春秋傳曰爾貢包茅不入王祭不供
 無以醑酒所六切今本春秋傳菑字作縮所六切而束字書玉
 切同為審紐字且金文裸字皆作菑如御尊銘云王在國菑束
 即詩裸將于京之義近人強運開寄已明之此為曹侯角觥角

為酒器固宜用于縮舊酒之用也（古拙考卷上三至四頁）

高鴻緝曰：孫詒讓讀原篆為裸，近人郭氏誤為菑，並將王靜安解甲文𩚑字謂即無以菑酒之菑，連為一貫，又引證卜辭𩚑字諸形，謂均於王說無碍。釋原篆之構造曰：从東，乃東之繁文，與卜辭或體同。公象酒滴形，从自，自鼻也。示神之飲也。續謂此字與王氏釋卜辭𩚑字不能一貫。說文菑，禮祭東茅加于裸圭而灌鬯酒是為菑，象神飲之也。从酒艸，王氏以𩚑象雙手奉東于酉，通旁殆菑之初字是也。而篆文菑字从酒省，以艸仍有東茅灌鬯之意，至金文原篆，則東茅灌酒之形雖存，而與上下甲文篆文之均从酉者相較，去酉增原，則其意重在鼻飲矣。不宜臆乎其中心，吾故謂此非菑字，乃散字之初文也。散為神食。

○(一頁)

气而食气以鼻不以口齒字之意重在東茅灌也歆字之意則重在鼻食言气所重不同故結構相異且鼻灌字較弱字所減者為酉而易之以點滴其意固不殊而復減去卅則東茅無動力矣況益之以崇竄乃急字古文見急伯卣一呼一吸之謂急故象自奮出入气形秦時譌變聲化作崑从自心聲是故歆字古文於東茅灌也之上加崇者意符亦聲符也魯侯鴈然當讀為魯侯作鴈用鴈歆也爾雅附正於此字例二篇三。○至三

郭沫若曰：婁字非裸，乃菑字也。卜辭有𡗗字，王國維云：即無以菑酒之菑。文曰：貞醴豐。（禮）（後下八）說文解字：菑，禮祭束茅束于酉（即酒）旁，殆菑之初字。（殷契粹編卷十四十九葉）案此字卜辭復有

張曉疎諸形已詳商氏類編字體雖略有省益然均於王說無礙也。知此則泉之為酒可以迎刃而解。此從東乃東之繁文與卜辭或體同。公象酒滴形從自自鼻也。示神之歆原注云說文象神歆之也。王或據約會改歆為飲。東當以之也。故此於字之構成較殷文尤為完備。（青研九十九頁魯侯爵釋文）

吳闓生釋裸見古文卷四第三十一頁魯侯爵

李孝定曰吳式芬大引許說以為葬字誤甚。金文葬字不下數十百見。與此迥異。許說亦牽強。殊不足辨。劉氏釋葬方氏釋葬均就及自為言而方說略長。然並無解於從東亦不可據。葬與諸家釋裸於銘志可通。而於字形無據。郭氏釋葬雖能通讀而

字形無徵。葬之事其重在酒而字不从酉無以見意。商氏釋飲解从自為从志以強就其說亦不可。周氏引王國維釋卜辭之醕為酒謂與此為同字。王氏釋卜辭之醕為酒是也。其字从酉而此字無之。安得引為一字。其說之誤與郭氏同。高田氏族記下為率之有說此為連之異文姑無論下非率者即如其說則連字何取於从自會意。高田氏又取本醕類倒讀之以曲成其說不足取也。諸說中以釋葬者較長然無確證存疑為是。

白川靜曰。葬在中誤釋為酒。蓋其主稱之為酒。然據古中則以之為葬之異文。奇祿以為與說文泉之古文同字。此乃以之為葬之初文也。奇祿解銀文在周尊罍。然在此體並列之情形。金文中多有同泉字之例。从下讀字為裸。據考工記玉人注有裸之字。

灌也。或作裸。作果。謂以字象木之果。且兩旁加水。與裸字同其形。亦云。至于其所以从自則曰。自讀如鼻。礼好將往云灌用鬯。果所以司其也。餘論說不同。惟關於从自之理由則曰。不知何義云。吳大澂說文古籀補中亦釋此字為裸。裸使因皆設銘亦有此相似之字。

郭氏釋字為音。亦有與此形相似之卜文。王國維釋之為音。曰說文音禮。祭東第加于裸至。而灌也。酒是為音。像神歆之也。从田草。以象双于春東于酒。象飲音之初字。更。第。二。四。

郭氏據其說以為字乃加酒滴于東之象也。至于从鼻之事則曰神之歆之之義也。余據从自者蓋因設仪礼中用此種形象之物也。舊又作裸。音皆取其聲者也。周礼甸師有祭祀共蕭茅者。乃用

此於諸酒者也。（金文通釋）第三輯一二九一一三〇頁一二五。侯爵林澤明譯。



鄧伯氏鼎
鄧伯氏鼎
鄧伯氏鼎



鄧伯氏鼎
鄧伯氏鼎
鄧伯氏鼎

△ 賁
賁

柯昌濟曰：賁从頁上从二，蓋姓氏之稱。賁字篆文考王子申蓋蓋王字申作嘉，蓋蓋亦為姓氏之稱。其此正同考之實者楚姓之非字，半賁一聲之轉也。《華九》九頁鄧伯氏鼎。

陳集曰：樊君禹樊君下叔能賁賁，賁賁案此樊君為其女叔能外嫁而作賁也。古婦女之稱皆以姓是樊女字叔能而姓則賁也。賁讀為半，半上賁楚之同姓國也是又有賁姓之樊也。《吳三》二七六頁。

參 賁

郭沫若釋見兩改一七六頁鄧伯氏鼎

李孝定曰：柯說或是而郭氏較為於慎



馮
馮

方濬益曰：據古錄金文釋為馮，今按此字从虎从各與辱同意。舊釋虎（綴遺卷二十八）二七頁姑唐舍同之子句鐘。

高田忠周曰：據說文，馮姓之國从邑，馮聲。古唯當以馮為之。又依湖古以馮為之說，文獻右扶風鄧鄉从邑，馮聲亦當與鄧同字。朱駿聲云：按此字疑即鄧，漢書周繇傳封鄧城侯，楚漢春秋作馮城，而漢書功臣作鄧成云。在長沙此說可證。《古籀篇》二十第三七頁。

郭沫若曰：舊釋為馮人多疑之。案此字左旁从冰，固無疑。右旁所從實即之奇文，卜辭鳳字作若，若此猶存其遺意。知

此則釋馮至盡。蓋此字本从奇文鳳，大聲。从鳳者取鳳鳥之馮風也。馮字从鳥作者乃後來之譌變。《兩改》一五七頁姑馮句鐘。

郭沫若云：始下一字原作馮，舊釋為馮人多疑之。此字左旁从人，固無疑。右旁从鳳，之奇文，卜辭鳳字作若，若此猶存其遺意。知此則釋馮至盡。蓋此字本从奇文鳳，大聲。从鳳者取鳳鳥之馮風也。馮字从鳥作者乃後來之譌變。《兩改》一五七頁姑馮句鐘。

若此，此猶存其遺意。知此則釋馮至盡。蓋此字本从奇文鳳，大聲。从鳳者取鳳鳥之馮風也。馮字从鳥作者乃後來之譌變。《兩改》一五七頁姑馮句鐘。

馮字從鳥者，取鳳鳥之馮風也。馮字从鳥作者乃後來之譌變。《兩改》一五七頁姑馮句鐘。馮字從鳥者，取鳳鳥之馮風也。馮字从鳥作者乃後來之譌變。《兩改》一五七頁姑馮句鐘。

亦如字也。詩：靜風大猷于四曰：抑釋相忌。毛傳：五，抑，所以覆矢也。說文：義同。昭公二十五年左傳：公使釋甲執冰而歸。文：假冰為相。抑字从朋聲。此亦與朋同音之證。朋字古有朋音，而冰與朋音同，今冰為古今字，故得以人為聲也。釋渴者以字右旁，朋字象形之上，截似今字之馬，故以意釋之。不足據信。因與渴各為一字，不必事合為一也。余謂此當釋為姑鵬，音義皆合。至王君靜安及郭君謂姑鵬皆同，即絕書之渴同，親自可信。鵬，渴同音，仍不審其為書傳之渴同也。（補微一四四頁姑鵬句錯跋）

李孝定曰：郭氏从舊說釋渴，而謂字實从鵬，揚氏復証成其說，惟稍加修正，宜若可信。惟細審此字，左旁从人，可以無疑，而右旁實非从鳥。若鵬字方為釋，唐雖不可以而以右旁从人，實為近之。蓋右旁所以實以文字為主體上象，是製字近於長，四紙

各書二短畫，蓋象體之修，下則从人，實為人形之象。形字非从鵬，若鳥也。郭氏雖引越絕，韓非以証成渴同之說，實於字形無礙也。字宜存疑。

移壽

△下且丁
夏章

潘祖蔭曰：張孝達說第一字是龍字，說文：龍，龍也。此字後變作龍，戰國篆，龍有左師，龍。

陸稼南海吳氏筠清館金文錄：此器作父丁角首一字，釋字義未安，疑是龍字。（舉古二冊二七夏龍角）

方濬益曰：字从龍，从高，以黃君作季，季，龍，字例之字，當作龍，筠清館錄釋為角，遂編此器入角類。據古錄金文，此器首一字為朋，以偏角多之形與朋相似也。不知此為龍，較之於形，（綴遺卷二十二，二十一頁夏龍祖丁角）

吳大澂曰：古文奇字，吳中丞釋作角，父丁角，（古書補遺錄二十一頁）

高田忠周曰：按上从象，从畀，古文象，衣，通用衣巾，亦通用編蓋，幅字與文，集韻：編，音幅，可證矣。又下从三，肉之聯，疑為會意，此即龍字也。說文：龍，以火乾肉也。从火，編，省聲。編，文不省作龍，復人亦省作龍，亦通。又或作龍，方官，龍，火乾也。是也。俗亦作龍，本義謂肉故，此从排肉形，其（古書補遺錄十三，第三二頁）

吳式芬釋：周見據古卷一之三，第四八頁朋角。

柯昌濟曰：象，龍形，即古蟻字也。又即說文之象字，說文曰：象，或曰獸名，象形，關說注：象名，象，象，為象，之古文，又出郭，象，蟻，象也。从虫，象聲。一曰象，蟻，又蟻，象也。據金文，則象，即象，之本字，為蟻之象形，疑為人名。（輯華三，七頁象龍角）

李孝定曰方氏錄定作藏龍狀可從若得身固無據解龍得身
亦涉此傳高田氏誤認下从三肉邊解為類字並不可從

2661 (3630)

天
是成佳佳
(3631)
是成庚△
李孝定曰字不可識

2662 (3631)

天
是成佳佳
(3632)
是成佳甲
李孝定曰字不可識

2663 (3632)

天
是成佳佳
(3633)
是成庚△
李孝定曰與之省文

2664 (3633)

月
鍾
(3438) 研△

李孝定曰無生字近而下畫解出固非生字

研
研尚遠
(3499) △尚遠

李孝定曰字不可識

2666 (3635)

2665 (3634)

丁
丁
(3471) 乙酉王△

丁山曰徐從木余聲即摘之本字卜辭屢言王田徐往來尸

徐地名(中央三七)其自三雷臨文考釋

李孝定曰疑从木从个實錄更作朴个象矢鐵形非余字丁說待商

李孝定曰疑从木从个實錄更作朴个象矢鐵形非余字丁說待商

往來七也王田曰去乙亥王卜夏田實往來七也王田曰

吉(前二三四五)

往來七也王田曰去乙亥王卜夏田實往來七也王田曰

往來七也王田曰去乙亥王卜夏田實往來七也王田曰

與高宮曹等同為殷末之田獵地之一(殷金文彙編十六一十七頁)即其南第二林澤明證

2668 (3636)

2667 (3635)

信^a

在晉大△

丁山曰予省吾先生云廊從广取聲取古聽字聽廷為雙聲疊韻字大廊即大廷謂宗廟太室之廣庭詳殷契駢枝三集釋取第其說是也(中央三七卿其自三器銘文考釋)

陳夢家曰寗字于省吾以為即宮庭之庭或延其說近是卜辭
从山金文从宀寗為祝祭之所亦是饗宴之所綜述四七八
頁)(集釋 下)

李孝定曰庭宮中也。从广廷聲。又廷，朝中也。从文，丩聲。梁文作
窮。从广取。聽聲。于氏釋庭是也。然其說猶有未盡。按从广从广

一也。于氏固已言之。然則此字从广聽聲。正今之廳字。廳字許書偶佚。雷浚說文外編卷十四廳字條云。說文無廳字。高部高小堂也。从高省。同聲。或从頃作廡。去類切。似即廳字。而隸辨卷二引曹全碑。廓廣聽亭云。漢魏皆作聽。六朝以來乃始加广。晉氏以高堂廳字。是不知古本有寧。廡字。許書偶佚耳。高廡之與廳。音義並近。謂為方俗殊語。則可。謂竟是一字。則過矣。隸釋引曹全碑文。以聽為廳。猶卜辭假取為寧。猶存古意。惟隸釋謂六朝以來乃始加广。亦非。設南之世固已有寧字矣。

(彙釋二九五。至二九五。一頁)

李孝定曰當釋藥于氏之說是也契文有𠂔即此字从人从一也甲骨金文及後世文獻均有此字而說文失收當據補入

2670 (3637)

2669 (3637)

赤城忠回。又作。于有云氏。殷契訓。三。一九。擇作。又解。為。廷之意也。不確。據。卜辭中有。

乙酉卜貞伐小乙于囿……覓三人（新二八一）
乙巳卜其廢囿西戶，覓（覓）于妣辛（明續六七七）

乙巳卜其唐嗣西戶元(祝)子炊辛(明續六七七)

斯集會將傳句前
解五四二

于桐門具酒享飲
庫一〇〇三
傳述四七六頁引

例爲祀先王先妣行饗宴之所也相當於廟宇但國朝別有其字
以例即相當于廟者不爲也如即取乃聖之尊稱故一如字形爲
作新新以爲廟之別稱而據

車未上、仁留
住事其令
御事。
（後上一二、
一前二、二
三、一）

則在名地有永廟以次謂名之大家名即以此也
十六頁 卽其圖第二林深明釋

對

丁未△

丁山曰說文謂高也從調者聲古今俗字作烹詩小雅楚茨或
剗或亨毛傳亨杜之也杜之者孰之也膳帛者蓋謂用折俎饗百
官中央三七卿其旨三露歸文考釋

朱芳園曰：按上揚奇字，从火，𦔻聲。𦔻當即𦔻字，別構說文。𦔻部，𦔻南音也。應讀八姑引作𦔻也。以𦔻者，聲兼𦔻南或从火，𦔻南或說文𦔻傳作𦔻也。

例如：从水在𦔻中，𦔻兩與鼎皆煮意之器，故字之从𦔻作者亦可作𦔻。

震 號
日 璧

2672(3638)

2671 (3637)

海昇 呂 作

是其證。象鼎中盛肉。帝置已下。然火蓋象煮之形。亦即鼎之繁文。果即備之初文。有字从之。受聲。說詳从鼎。猶从者。失形義既符。音亦切合。其即鄭南字。則確無可疑。釋林一
九二頁(鄭南)

李孝定曰。朱說可。从篆文。簡已為簡化之形聲字。今作煮。則益簡矣。

亦據忠。同。乃由泰。及。火字。成之。子。相當於。朱。即。字是也。(殷金文。子。十六頁。即。其。二。林。原。明。謹)

2673 (3638)

此字重錄見附錄上

王今命訂其元規
△口字章

按此字重錄見附錄上

李孝定曰。與。重出。見前。

參閱。條。赤。塚。忠。說。

2674 (3639)

李孝定曰。當錄。是。作。勛。

△

李孝定曰。當錄。是。作。勛。

2675 (3640)

羊。重。來。戈。羊。公。來。殺

通。殺。戈

于。省。音。曰。真。松。堂。集。古。遺。文。釋。為。大。字。羊。重。來。能。殺。戈。後。乃。以。簡。正。為。一。字。然。以。單。于。公。之。篆。字。能。例。之。則。讀。為。羊。角。之。來。能。殺。戈。為。是。雙。劍。下。釋。三。頁。羊。角。戈。

李孝定曰。此。文。下。半。所。从。似。非。之。字。疑。是。从。生。从。角。于。大。虎。持。商。

2676 (3641)

李孝定曰：「商生」二字合文，或竟足「商」之異體，然則當讀為「商」。

李孝定曰：「商生」二字合文，或竟足「商」之異體，然則當讀為「商」。

附赤共一千一百九十九文 至九百八十五文

全文詁林附錄隸定字通檢

凡例

- 一、本索引按全文詁林附錄目錄每篆下隸定字之畫數排列。
- 二、凡同筆畫者，按其所屬康熙字典部首之次序排列，無法分析部首之字列於該筆畫之末。
- 三、凡同筆畫同部首之字，按全文詁林附錄之字號次序排列。
- 四、凡一篆而有一個以上之隸定字者，逐字收入本索引。
- 五、凡一篆而轉為數字者，逐字編入索引，而於第二第三字旁加直綫編入所屬筆畫中。
- 六、凡隸定字下用小字加註通行字者，該加註之通行字亦按筆畫編入索引，加直綫以別之。

七、凡一篆之一部分不能隸定者，得用方框表示之，而另一部分則用隸定字表示之。

八、凡目錄中各篆下隸定之字，只就諸家考釋中選錄一二，即備檢査之用，非定論也。

九、凡目錄中各篆下無隸定字者，蓋因諸家對此字之考釋太不可靠，故從闕。

2359	2348	2343	2336	2322	2304	2297	2291	2280	2271	2255	2242
P185	P181	P177	P166	P147	P683	P680	P673	P657	P646	P612	P592
2368	2349	2344	2337	2323	2311	2298	2292	2286	2274	2256	2249
P182	P179	P173	P167	P143	P700	P681	P674	P668	P651	P613	P606
2370	2350	2345	2338	2330	2312	2299	2293	2287	2275	2258	2251
P185	P181	P174	P168	P158	P701	P682	P676	P669	P652	P620	P608
2371	2355	2346	2340	2331	2318	2300	2294	2288	2276	2263	2253
P186	P181	P175	P170	P159	P143	P684	P677	P670	P653	P629	P610
2372	2357	2347	2341	2335	2319	2303	2296	2289	2278	2265	2254
P187	P183	P176	P171	P165	P144	P687	P679	P671	P655	P638	P611

2682

2233	2192	2157	2140	2106	2090	2066	2050	2029	2004		
P580	P445	P438	P412	P358	P226	P180	P162	P131	P60		
2238	2196	2162	2144	2129	2093	2067	2053	2030	2010		
P588	P501	P444	P421	P391	P229	P181	P165	P132	P88		
2239	2207	2168	2146	2136	2097	2071	2054	2035	2015		
P589	P521	P458	P423	P406	P237	P186	P166	P138	P97		
2240	2223	2179	2147	2137	2098	2065	2057	2038	2020		
P590	P561	P472	P424	P407	P238	P221	P171	P144	P109		
2241	2232	2191	2150	2139	2103	2089	2058	2040	2023		
P591	P579	P493	P428	P410	P251	P225	P172	P150	P113		

2681

無
隸
定
字

3635	3625	3597	3588	3582	3569	3542	3439	3418	3387	3291	3204
P2666	P2641	P2574	P2573	P2564	P2543	P2502	P2292	P2253	P2181	P1932	P1720
3642	3626	3599	3590	3584	3572	3543	3489	3419	3388	3312	3268
P2677	P2642	P2588	P2576	P2569	P2548	P2503	P2405	P2254	P2182	P2001	P1885
3641	3601	3591	3585	3576	3551	3511	3429	3390	3315	3274	
P2662	P2592	P2578	P2570	P2557	P2515	P2447	P2273	P2184	P2004	P1901	
3632	3615	3594	3586	3578	3557	3532	3472	3412	3376	3279	
P2643	P2627	P2581	P2571	P2559	P2523	P2486	P2276	P2236	P2149	P1912	
3634	3617	3595	3587	3581	3568	3540	3436	3417	3379	3290	
P2665	P2629	P2582	P2572	P2563	P2542	P2498	P2283	P2249	P2158	P1921	

2684

3158	3054	3015	2567	2556	2529	2496	2474	2450	2429	2386	2380
P1622	P1303	P1213	P1173	P1165	P1115	P1052	P1016	P971	P941	P859	P844
3162	3061	3030	2568	2558	2531	2501	2479	2458	2432	2409	2381
P1631	P1320	P1244	P1179	P1167	P1117	P1059	P1027	P985	P946	P906	P846
3163	3082	3035	2569	2559	2532	2503	2485	2459	2441	2410	2383
P1632	P1386	P1255	P1180	P1168	P1118	P1062	P1039	P989	P961	P907	P850
3181	3087	3036	2570	2562	2550	2519	2487	2463	2444	2413	2385
P1673	P1395	P1256	P1181	P1173	P1117	P1098	P1042	P995	P965	P910	P856
3192	3141	3038	2571	2563	2554	2521	2495	2470	2446	2423	2387
P1697	P1578	P1263	P1182	P1174	P1163	P1104	P1051	P1008	P967	P934	P860

2683

2574 3423	2266 2895	2954 2499	2261 2351	2353 2281	2243
斗 户 市 大 双 良 厄 五 七 不 工					
P2554 P2262	P526 P2194	P2519 P2959	P626 P799	P798 P658	P594
2266 2665	2509 2537	2624 2436	2262 2381	2385 2182	2315
方 友 市 市 局 又 厄 八 亢 中 量 干					
P666 P217	P1071 P2492	P1230 P295	P657 P261	P295 P475	P275
2665 2664	2510 2195	2005 2182	2525 2365	2186 2524	2527
无 友 市 市 天 又 厄 另 亢 之 戈					
P2211 P295	P1075 P500	P61 P1556	P1109 P2004	P2179 P2679	P2676
2302 2362	2247 2197	2041 2539	2127 2322	2616 2351	2248
日 文 另 市 大 友 亚 卅 九 五 八 六					
P686 P299	P664 P562	P151 P1125	P387 P207	P299 P790	P602
2267 2544	2070 2205	2115 2135	2329 2351	2320 2352	2521
四 文 叙 市 亚 友 良 卅 六 八 五 一 大					
P687 P2294	P195 P518	P327 P1560	P757 P2060	P765 P797	P2670

2686

2008 2008	2257	2212 2352	2245 2853	2352	2373
子 大 个		刀 八 丁 七 五 一		八 五 一	口 腐
P86 P86	P664	P537 P797	P599 P798	P797	P828
2024 2145	2520	2214 2353	2259 2074	2388	2374
子 亚 大	三 量	刀 七 丁 止 见 丁	二 量 八 一 六	一 量	口 罩
P114 P498	P2068	P560 P798	P621 P201	P861	P830
2561 2001	2216	2077 2388	2141 2075		2375
子 新 子 殊	力 卅	十 八 一 六	亚 刀 见 乙 丁		口 罩
P207 P1	P2952	P1432 P261	P413 P242		P831
2567 2008	2204	2119 2567	2508 2178		2495
子 新 子 殊	力	亚 子 又 文	二 犬 子 丁		口 罩
P1468 P57	P581	P269 P1468	P2444 P471		P2416
2175 2009	2393	2075 2351	2237		
复 新 子 殊	文	刀 五 见 丁	八 六		
P1659 P58	P237	P202 P790	P517		

2685

2578 2827	2573 2517	2349 2514	2073 2659	2243 2398	2252
守 凤 名 冰 光 光 伐 辰 示 天 戌					
P1144 P1115	P2990 P2405	P2072 P2009	P1311	P594 P882	P609
2004 2130	2020 2151	2208 2918	2095 2009	2001 2507	2213
守 凤 各 整 兴 光 企 示 白 初 咒					
P1979 P1200	P1223 P429	P509 P1088	P167 P87	P1183 P1068	P534
2505 2019	2036 2305	2199 2349	2313 2092	2530 2534	2155
義 全 邑 初 兴 光 伐 交 示 亚 凶					
P145 P89	P2090 P639	P544 P2070	P2002 P238	P2008 P149	P435
2548 2393	2282 2403	2552 2428	2305 2344	2018 2334	
字 英 由 初 兴 光 伐 交 牙 申					
P1000 P2002	P160 P291	P2007 P2070	P2005 P2000	P544 P762	
2000 2183	2019 2340	2344 2522	2008 2017	2126 2327	
唇 守 团 名 再 光 伐 伐 示 甲					
P2049 P407	P2008 P21	P211 P2102	P2000 P101	P206 P2026	

2688

2198 2435	2148 2160	2119 2529	2415 2539	2313	2519 2074
巨 妣 良 亚 亚 早 登 付 丙 瓜 止 见 丁					
P1709 P2202	P1593 P442	P259 P2481	P2113 P2497	P702	P2447 P201
2516 2222	2531 2283	2119 2101	2416 2074	2537	2091 2246
巨 宁 占 句 亚 北 亚 止 牙 止					
P2405 P553	P2005 P613	P259 P248	P104 P201	P2492	P1411 P600
2527 2226	2096 2080	2148 2104	2542 2075	2034	2173 2148
宁 宁 句 句 亚 北 庚 刀 卅 犬 友					
P2476 P568	P180 P664	P425 P252	P1135 P202	P137	P445 P1593
2219 2508	2197 2285	2017 2555	2526 2022	2049	2178 2311
成 宁 处 须 古 北 出 见 卅 犬 伯 丁 氏					
P245 P1461	P2081 P645	P1017 P1164	P2075 P1025	P161	P473 P2000
2244 2491	2176 2021	2096 2040	2028 2044	2235	2132
成 左 圪 句 古 匪 丑 克 主 瓜					
P2598 P272	P1817 P1224	P2437 P2440	P2472 P212	P232	P1556

2687

3514 2404	2557 3401	3104 3544	3297 3019	2184 2227	3316 2332
扭步	攻忪	奔辰	余名	昔列	似何
P2652 P2876	P1466 P1206	P1446 P1514	P1706 P1222	P1430 P1569	P2005 P1760
3560 2411	3607 2310	2016 3242	3481 3029	2272 3219	3575 3095
狮步	故成	张宋	妙月	昔原	念何
P2526 P1904	P2226 P1604	P192 P1706	P2275 P1243	P1648 P1754	P2556 P1625
3164 2417	3149 2045	2084 3538	3484 3517	3025 2025	3091 3016
甬每	技扶	强空	故吕	昔美	克余
P1633 P2290	P1575 P156	P220 P2009	P2278 P2006	P1283 P116	P1227 P1214
2537 2411	1136 2487	2198 3533	3510 3635	3059 2043	3023 3026
叮证	束挽	累目	李辰	昔美	活信
P1123 P187	P1558 P187	P1503 P2007	P2046 P1664	P1211 P152	P1228 P1234
2112 2194	2154 3114	3664 3216	1567 3135	3084 2148	3476 3311
亚狂	亚材	开开	楚屋	昔亚	治伯
美	止		大	昔	氏
P1298 P449	P434 P1480	P1481 P1751	P2580 P1560	P1388 P425	P2379 P2000

2690

2506	3500 2292	2250 2443	2465 2520	2199 3133	3456 2121
串	阮舌	王来	羊竹	此夏	戎亚
P491	P2405 P174	P1617 P1964	P1997 P1079	P1984 P1458	P2324 P372
3496 七	3535 2491	2219 2268	2290 2328	3463 2152	3115 2279
道	天舌	至耳	羽四	污亚	抗
P2417	P2489 P1009	P1644 P1643	P1572 P1796	P1267 P1430	P1411 P1656
3497	3541 1340	2307 3426	2216 2127	3505 3253	3539 2043
道	以艮	至耳	来羊	池东	秋致
P2418	P1501 P2007	P1646 P2269	P1542 P1448	P1205 P1030	P2526 P1753
2021	2153 3114	3427 2224	2209 2120	3132 3018	3527
何	亚白	耳来	羊由	次音	示
P110	P1400 P1490	P227 P1581	P1523 P1563	P1574 P1221	P2409
2072	3552 3579	3558 2442	2270 3081	3556 3531	3566
何	邦白	耳来	羊由	次音	示
P187	P2001 P2051	P1554 P1612	P1605 P1387	P1224 P2485	P1674

2689

3154 2541	2096 3593	3003 3361	2507 2119	2156 2151	2143 2135
玻庚	等变	官所	白亚	亚亚	亚亚
P1599 P1127	P256 P2500	P1249 P2109	P1045 P100	P1466 P1429	P1430 P1403
3085 2543	3286 2005	3343 2087	2114 2416	2152 2152	2145 2138
玻庚	安奄	答取	亚亚	亚亚	亚亚
P1189 P1136	P1022 P1	P2002 P233	P134 P194	P1491 P130	P1422 P1409
2017 2543	3281 2480	2530 2440	3165 2331	2159 2153	2148 2141
玻庚	宋卒	毒取	典束	亚亚	亚亚
P101 P1195	P1005 P1028	P1116 P1060	P1587 P1577	P1441 P1410	P1425 P1413
2021 2545	3498 3389	3037 3577	3187 2489	2160 2154	2143 2142
玻庚	宋卒	毒取	典束	亚亚	亚亚
P129 P1176	P2049 P2005	P2204 P2078	P1480 P1400	P1442 P1410	P1425 P1417
3113 3233	2167 3444	3483 3020	3061 2489	2155 2149	2143
永齐	曹曹	曹曹	曹曹	曹曹	曹曹
P1477 P1780	P1457 P2200	P2290 P1210	P2527 P1910	P1442 P1435	P1427 P1417

2692

2127 2123	2116 2110	2130	2575	2504 2275	3104 2113
亚亚	亚亚	亚亚	亚亚	走身	罕美
P187 P1576	P1365 P1294	P1392	P2064	P1878 P1650	P1700 P1321
2151 2123	2118 2112	2177	2571	2595 3518	2119 2114
亚亚	亚亚	亚亚	亚亚	走身	亚亚
P1375 P1376	P1350 P1398	P1613	P2547	P1879 P1665	P1591 P1324
2132 2124	2119 2114	2592	2402 2546	3611 2438	
亚亚	亚亚	亚亚	走身	见见	
P1376 P1393	P1351 P1304	P2579	P1091 P1661	P2618 P1953	
2133 2125	2119 2115	2071	2061 2217	2172 2498	
亚亚	亚亚	亚亚	邦丰	取取	
P1387 P1387	P1354 P1357	P1311	P1775 P1441	P1448 P1399	
2134 2126	2121 2115	2000	2090 2462	2175 2000	
亚亚	亚亚	亚亚	邦丰	取取	
P1398 P1404	P1372 P1372	P1372 P1361	P1772 P1954	P1617 P1617	

2691

3257	3236	3031	3152	2224	3026	3294	2535	2673	3231	3189	3321
段	松	响	敬	舒	冒	客	嘉	童	觀	刺	併
P1620	P1785	P1205	P1606	P562	P1234	P1662	P1121	P1055	P1778	P1688	P2043
2174	3261	3262	2014	2225	3332	2036	3171	2024	3362	3278	3462
亮	某	督	族	舒	履	充	官	益	厚	刺	鼎
R466	P1793	P2876	P.94	P285	P2005	P222	P1405	P116	P2111	P1906	P2006
2661	3264	3163	2477	3027	2236	3074	3282	3217	2445	3544	3044
夏	叔	亞	移	威	帝	克	定	奔	叔	南	表
P1002	P1797	P220	P1053	P1236	P583	P102	P1707	P1752	P206	P2506	P1210
3573	3482	2494	3509	3457	3238	3068	3283	3311	3041	3507	2220
成	香	某	移	威	帝	封	家	突	明	履	則
P2162	P2089	P1050	P2005	P2189	P1788	P2075	P1908	P2085	P1264	P2101	P1554
3208	2400	3095	3026	2652	3046	2538	3288	2534	3042	2101	3353
孟	堂	柯	昭	姓	律	封	密	嶺	明	厚	則
P1791	P2005	P2005	P1004	P2778	P1070	P1004	P1927	P1120	P1276	P2418	P2083

2694

2117	2021	3096	3564	3353	2187	3547	3337	2003	2014	3396	
俞	保	結	孟	陸	承	材	抄	祈	於	拔	
P207	P216	P1627	P2585	P2101	P483	P2507	P2099	P52	P94	P2195	
2220	2096	3535	九	3570	2079	3565	2540	3570	2095	3001	2131
短	保	亭	重	公	希	承	亭	界	祈	於	亞
P554	P236	P2520	P2562	P213	P2534	P1126	P2504	P1009	P1123	P395	
3317	2567	2069	2406	2420	3365	2141	3166	2125	3616	2161	
信	保	高	址	希	希	希	亞	里	亞	於	亞
P2006	P1100	P183	P900	P918	P2116	P413	P1635	P385	P2628	P443	
3318	3333	2229	2416	2421	3052	2046	3167	2311	2001	2219	
信	保	高	亞	希	進	叔	里	欣	祈	斧	
P2007	P2050	P572	P914	P924	P1299	P157	P1638	P532	P1	P545	
3230	2116	3222	2435	3364	2169	3186	3212	2002	2244		
會	俞	高	帆	長	虎	東	漢	祈	斧		
P1777	P349	P1779	P965	P2115	P459	P1568	P1761	P57	P538		

2693

3005	2333	3062	2462	3211	3029	3245	2513	3073	3402	3182	2472
破	臂	祇	明	盧	浩	桑	聯	料	憲	屬	臂
P1721	P1761	P2366	P1904	P1760	P2089	P1800	P1081	P2303	P2208	P1674	P1000
3039	3170	3230	3492	3046	2060	2453	3024	2101	3403	3331	2115
叔	泉	泰	親	益	燕	股	司	北	惡	屢	亞
P1264	P1641	P1913	P2023	P2213	P174	P1974	P1053	P206	P2209	P2004	P327
3040	2046	3505	2223	3053	2180	3337	2492	2009	3180	3337	2500
叔	報	岳	舒	益	損	殺	械	吊	床	餅	害
P1268	P157	P2436	P310	P2020	2473	P2020	P1448	P1051	P1671	P2092	P1056
3407	2511	2466	3022	2963	2483	2405	3146	2951	2099	3405	3285
叔	般	臥	視	明	益	涉	叔	畢	叔	預	家
P2604	P1077	P1905	P1225	P210	P007	P099	P1088	P1053	P175	P2003	P1821
3038	3402	2536	3350	2344	2433	3067	3235	3202	3151	3064	3525
封	策	戰	視	明	盧	浩	機	畢	叔	使	尋
P1122	P2573	P122	P2095	P212	P1057	P2234	P1084	P1716	P1606	P1824	P2428

2696

3001	3272	3486	2544	2026	2077	2444	2003	2490	3533	2460	
祈	圓	原	刺	棚	重	屢	育	者	禹	眉	
P1	P1091	P2291	P1137	P117	P206	P2300	P186	P1005	P258	P990	
2002	3478	2464	3073	3230	十	2078	2122	3379	3200	3305	2517
祈	靖	叔	東	倉	倉	亞	亞	胸	者	安	眉
P57	P2303	P2996	P1948	P1777	P212	P376	P2874	P1704	P1068	P1091	
2003	2007	2491	3253	3187	3194	3324	2389	3598	2545	2461	
祈	象	叔	希	兼	草	貌	市	者	禹	夏	
P83	P84	P1047	P1083	P1570	P1700	P2009	P262	P2087	P1118	P992	
2022	2032	2082	3556	3179	3053	2425	3562	2382	3025		
孫	美	售	卒	青	述	市	高	畢	首		
P111	P135	P1247	P2013	P1648	P1302	P286	P2508	P2047	P1233		
2031	3446	2339	3360	2215	2552	3003	3028	2091	3513		
孫	妙	園	辰	副	舊	竺	和	者	叔		
P216	P2920	P169	P2107	P501	P1159	P1201	P1237	P272	P2440		

2695

2342	3504	2189	2552	2056	2003	3410	3338	2457	3153	2018
面	陸	亞	簡	竟	異	滅	款	曼	殿	戰
P.772	P.2420	P.488	P.1159	P.168	P.58	P.2222	P.2051	P.986	P.167	P.103
十二畫	2356	2528	2082	3627	3384	2108	2553	2427	3142	3154
面	守	明	簡	吳	冢	夏	壺	曼	教	戰
P.802	P.1114	P.218	P.2643	P.2174	P.260	P.1162	P.939	P.1578	P.1610	P.532
2159	3341	3072	3009	2309	3107	3128	2128	3326	2277	2317
亞	頂	通	苞	羽	異	烹	毀	望	族	戰
P.441	P.2058	P.1347	P.1202	P.686	P.1051	P.1537	P.339	P.2025	P.654	P.741
3345	3260	3547	2310	3002	2001	3603	3250	2533	3455	
頂	部	位	翌	祭	異	毀	播	婦	戰	
P.2064	P.1062	P.2507	P.498	P.1187	P.1	P.2595	P.1827	P.1119	P.2327	
2163	2384	3328	2512	2031	2002	3409	3636	3265	2013	
鳥	降	表	股	竟	異	涇	徐	梳	掃	
P.445	P.853	P.2029	P.1080	P.133	P.57	P.2220	P.2667	P.1879	P.92	

2698

3406	2170	3292	3442	2070	3456	3583	3083	3572	3406	3366
弄	虎	窗	婦	執	發	尊	毫	孽	退	射
P.2600	P.461	P.1933	P.2297	P.185	P.2334	P.2585	P.1249	P.2468	P.1893	P.2117
3172	2875	3293	3433	2483	2482	3314	2313	2167	3263	3055
璧	口	處	場	執	啤	保	十一畫	高	吊	退
P.1650	P.828	P.1941	P.2277	P.1037	P.1035	P.2003	P.702	P.467	P.1877	P.1310
2447	2541	3295	3442	2486	3094	2102	2566	3175	3258	3059
從	慶	窗	婦	執	曉	卿	佩	雙	部	連
P.999	P.1127	P.1966	P.2297	P.1040	P.1418	P.250	P.1177	P.1659	P.1855	P.1311
3168	3357	2447	3443	2564	3356	3507	3398	2177	2062	3062
值	廟	專	娶	執	圓	參	圓	馬	配	連
P.1639	P.2099	P.968	P.2299	P.1175	P.2099	P.2441	P.2202	P.470	P.176	P.1321
3400	3359	3307	2044	2533	2064	2448	2156	2099	2068	3083
恩	庶	將	寇	婦	執	敵	亞	門	配	途
P.2205	P.2105	P.1971	P.155	P.1119	P.178	P.969	P.436	P.239	P.182	P.1587

2699

3234	3105	2019	2430	3475	2052	3504	3258	2560	3472	2295
番	鼻	戰	凱	輕	須	陵	都	胸	蛤	期
P.1783	P.1446	P.107	P.942	P.2376	P.164	P.2420	P.1855	P.1169	P.2371	P.678
3329	3405	2087	2484	十三畫	2225	3505	3485	2561	3215	3430
新	愛	取	傲		須	陵	鉅	胸	盒	載
P.2032	P.2211	P.223	P.1038		P.645	P.2436	P.2395	P.1172	P.1750	P.2274
2124	2051	3197	3322		3629	3176	3486	3047	3355	3323
亞	戲	境	傳		馮	雁	新	趙	零	粹
P.383	P.163	P.1707	P.2017		P.2655	P.1660	P.2396	P.1290	P.2089	P.2046
2325	2210	2316	3323		2418	3261	3499	3060	3641	2360
會	學	响	傲		周	集	陞	遠	離	佳
P.751	P.524	P.739	P.2018		P.940	P.1863	P.2422	P.1318	P.2676	P.806
2326	2546	3343	3169		3144	3421	3502	3070	3324	2481
會	戲	夏	商		駁	車	陪	迦	紹	拳
P.754	P.1139	P.2063	P.1640		P.1586	P.2238	P.2427	P.1341	P.2049	P.1033

2700

3193	2216	3267	3159	3401	3605	3287	3447	3057	2095	3299
策	犁	龜	敵	惠	器	空	嫩	喪	卿	刺
P.1698	P.542	P.2119	P.1623	P.2387	P.2597	P.1925	P.2308	P.1308	P.231	P.1951
2469	3483	3411	2080	3604	3226	3297	3452	2407	2104	3108
絕	番	清	竟	揚	廣	雪	樓	圓	北	勞
P.1006	P.2389	P.2223	P.214	P.2596	P.1769	P.1948	P.2322	P.904	P.252	P.1456
3188	2415	3413	3243	2483	3637	3303	2134	2408	2365	3143
絕	登	溪	相	殺	廟	宴	亞	圓	勞	乾
P.1683	P.913	P.2237	P.1812	P.1037	P.2669	P.1962	P.398	P.905	P.813	P.1579
2208	3106	3638	3249	3150	3264	3224	2076	3477	2374	3459
華	登	煮	精	政	排	祝	寐	堵	口	匪
P.522	P.1450	P.2672	P.1013	P.1596	P.1878	P.1761	P.205	P.2320	P.831	P.2339
2466	2506	2118	3273	3153	3444	3600	3504	3440	2375	2094
親	察	亞	棘	政	博	幾	痠	婦	口	卿
P.998	P.1046	P.2370	P.2390	P.2467	P.2210	P.2580	P.2061	P.2273	P.821	P.2320

2699

3243	3277	2526	3424	2230	3011	3059	3239	3196	3296	3440
順	越	街	聲	橋	暴	疑	務	紅	窮	境
P.2046	P.1908	P.1110	P.2064	P.576	P.1205	P.1022	P.1209	P.1702	P.1967	P.2090
2185	3076	2366	3186	3012	3003	3318	3247	3466	3119	3445
取	避	諱	順	華	福	疑	郭	發	軍	緯
P.409	P.1362	P.316	P.1679	P.1207	P.1009	P.2007	P.1010	P.2354	P.1492	P.2306
2196	3089	3203	2431	2418	3004	2478	3414	3137	3354	3451
取	通	重	街	福	益	荷	鼓	凱	媛	
P.402	P.1405	P.1710	P.1065	P.316	P.1100	P.1005	P.2642	P.1570	P.2105	P.2321
2358	3092	2091	3010	2012	3423	3210	3129	3266	2623	2518
鼎	建	觀	雙	聯	福	重	燕	旗	觀	寂
P.204	P.1405	P.227	P.1203	P.31	P.2418	P.1735	P.1540	P.1001	P.1107	P.1092
3480	3479	3335	2536	3405	3213	3378	3267	2524	3281	
聖	經	順	順	模	查	奧	族	凱	寂	
P.236	P.2085	P.2008	P.1000	P.1042	P.1205	P.2154	P.1000	P.1000	P.1000	

2702

2508	3251	3372	3081	3037	3016	2116	2382	3377	3349	2327
轉	楚	庫	鉤	豐	味	亞	禽	奕	彥	會
P.1070	P.1028	P.2140	P.1024	P.1057	P.1214	P.345	P.247	P.2152	P.2131	P.755
3528	3320	2006	3027	3199	3363	2117	3306	3380	3370	3242
皓	僕	電	斯	豐	商	絲	得	獎	彥	禱
P.2479	P.2000	P.81	P.1236	P.1710	P.2112	P.347	P.1970	P.2159	P.2132	P.1784
3195	3624	3139	3329	3071	3099	2321	3188	3068	3408	3250
彭	僕	發	斯	通	話	絲	牌	為	源	柏
P.1701	P.2409	P.1575	P.2032	P.1343	P.1405	P.146	P.1574	P.1335	P.2216	P.1827
3271	3473	3467	3123	3336	3100	3334	3504	3165	3014	3252
夢	萬	發	隔	達	諫	航	肆	男	溼	贊
P.1887	P.2373	P.2306	P.1509	P.2009	P.1024	P.2009	P.2430	P.1634	P.2238	P.1831
2138	3470	3124	3339	3101	2433	3183	2142	3347	3048	
亞	勿	隔	通	鼓	某	脫	亞	夏	墊	
P.409	P.1001	P.1523	P.2004	P.1441	P.400	P.1675	P.477	P.2067	P.1292	

2701

3255	3621	2195	3125	3218	2490	3596	3006	2354	2366	2595
借	鑫	子	幫	惟	訓	哲	複	望	發	實
P.1047	P.2605	P.504	P.1504	P.1700	P.1405	P.2008	P.1000	P.1000	P.318	P.2005
3041	2197	3127	3487	3324	3619	3201	2426	3457	3392	
吸	子	幫	飲	鐵	團	義	望	威	康	
P.1049	P.504	P.1502	P.2009	P.2019	P.2604	P.1705	P.938	P.2006	P.1933	
3042	2449	2164	3488	3140	2434	3184	2476	2065	3074	
吸	勝	新	錄	腹	膚	望	錄	傳	音	
P.1276	P.970	P.262	P.2004	P.1576	P.950	P.1676	P.1048	P.179	P.1308	
2026	3181	2099	2105	3065	3374	3105	3209	3422	3088	
嬰	轉	龍	惟	道	航	腰	望	漆	值	
P.117	P.1544	P.642	P.453	P.1328	P.2143	P.1617	P.1734	P.2258	P.1396	
3450	3263	2183	3172	3077	3344	3100	2564	3392	3090	
教	段	龍	錄	通	觀	興	界	契	獨	
P.10	P.1377	P.479	P.1261	P.1357	P.2063	P.2044	P.1175	P.2186	P.1408	

2704

2105	2001	3174	3069	2037	3160	2364	2498	3067	2027	3319
聖	英	雞	遊	街	紫	蘭	探	微	知	微
P.257	P.1	P.1657	P.1040	P.1400	P.1625	P.812	P.1054	P.1393	P.128	P.2009
2107	2002	3402	3075	3173	3221	3220	2181	3077	2036	3190
聖	英	雞	遊	街	紫	蘭	探	微	知	微
P.259	P.257	P.2009	P.1353	P.1653	P.1757	P.1756	P.477	P.1361	P.139	P.1639
3448	2004	3009	3259	3049	2083	3618	2349	3080	3298	3039
嬰	英	雞	遊	街	紫	蘭	探	微	知	微
P.2009	P.258	P.2009	P.1040	P.1293	P.219	P.2600	P.823	P.1382	P.1969	P.1364
3449	3053	3501	2301	3116	2499	3212	2122	3363	3040	
教	英	雞	遊	街	紫	蘭	探	微	知	微
P.2313	P.2083	P.2426	P.685	P.1483	P.1555	P.1761	P.376	P.2112	P.1268	
2115	3461	3503	3495	2166	3170	3213	2123	3109	3044	
亞	英	雞	遊	街	紫	蘭	探	微	知	微
P.227	P.2009	P.2429	P.2406	P.454	P.1990	P.1745	P.382	P.1472	P.1000	

2703

3055 2477 3254 饒 寧 圖	3420 2202 3490 3076 2482 3335 2367 遠 雞 登 邊 警 緘 緘
P.1304 P.1021 P.1039	P.2255 P.507 P.2406 P.1355 P.1025 P.2048 P.017
二十畫 2422 3056 2483 麗 瀕 輻	十 九畫 3156 3425 2454 3037 3206 3471 鞭 訥 釐 豐 鮫 緋
P.925 P.1307 P.1043	P.1616 P.2265 P.080 P.1057 P.1733 P.2263
3612 2193 3301 駝 獸 寧	3227 2143 3255 3256 3207 3404 領 亞 釐 寶 鮫 饒
P.2620 P.496 P.1957	P.1770 P.417 P.1611 P.1051 P.1732 P.2264
2516 3337 贊 鐵	2048 2163 3039 3452 2200 3147 魁 雞 釐 超 蟬 臨
P.1089 P.2201	P.159 P.2445 P.2674 P.1299 P.505 P.1591
3443 2221 輝 璋	2047 2201 3203 3620 3031 3523 奮 雞 登 南 衡 臨
P.2444 P.555	P.158 P.506 P.1972 P.2423 P.1323 P.2265

2706

3016 3111 2158 余 歎 亞 愛	2005 2048 2111 3494 2132 3191 3414 3628 天 類 晚 興 亞 勝 滙 嫻
P.1214 P.1425 P.439	P.61 P.159 P.245 P.2405 P.376 P.1698 P.2238 P.2653
3225 2190 3609 爵 棄 愛	十 八畫 3274 3228 3401 3068 3043 2260 3425 3640 嘉 寶 錫 適 巢 舉 牆 塲
P.1763 P.439 P.2648	P.1096 P.1771 P.2407 P.1305 P.1277 P.623 P.2265 P.2653
3007 3368 3300 臻 棄 亨	3375 3231 3499 3076 3045 2314 3640 3301 臻 執 濟 還 巢 舉 捕 寒
P.1497 P.2131 P.1956	P.2145 P.1778 P.2423 P.1305 P.1283 P.711 P.2640 P.1967
3399 3415 3110 璽 遇 哥	2009 3176 2109 3050 3118 3310 3304 甄 雅 豆 趙 堯 環 庭
P.2203 P.2204 P.1473	P.145 P.1080 P.261 P.1096 P.1490 P.1774 P.1967
3613 3075 3044 鵠 雅 傑	3046 3449 3110 3081 3178 3468 3249 昂 真 豆 趙 菱 絲 璿
P.2632 P.1853 P.2210	P.1283 P.1917 P.294 P.1295 P.1667 P.2268 P.1813

2705

3214 璽	3371 歎	3297 贊	3416 遠	3229 饒	3223 寧
P.1747	P.2135	P.1053	P.2247	P.1776	P.1760
三十畫	二十九畫 3381 二 P.2160	二十八畫 2039 二 P.145	二十七畫 3618 二 P.2672	二十五畫 3126 二 P.1525	二十四畫 3394 二 P.2101
		3111 鮫 股		3103 襲 贏	3630 贏
		P.1627		P.1444	P.2659
				3045 璿	
				P.1283 3121 璿	
				P.1447	

2708

3453 璿	3632 3064 遠 寧	3102 播	2379 3534 衛 媛 女	2135 亞 隔	2376 3309 輝 替
P.2323	P.2667 P.1886	P.1402	P.043 P.1120	P.403	P.033 P.1973
3143 璿	二十三畫 3528 二 P.1579	二十二畫 3473 二 P.2653	3079 3112 贊 寧 P.2378 P.1363 P.1476	二十一畫 3016 二 P.1214	3093 3610 經 菱 P.1447 P.2609
3382 鄧 南 鉢	3415 濟 去	3474 遠 錫 錫	3491 3383 錫 菱		2088 3302 璿 寶
P.2161	P.2204	P.2375	P.2407 P.2149	P.224	P.1959
	3472 銑 略	3275 3506 璿 璿	3117 璿 璿	2204 2069 璿 獻	
	P.2371	P.1099	P.2409 P.1406	P.514	P.10
	3444 遠 去	3422 2417 棄 法 寧		3090 3122 璿 獻	
	P.2391	P.2258 P.915		P.1448	P.050

2707

[illegible]

			3346 顯	2378 顯	2377 顯
			P. 2065	P. 2042	P. 2036
				三十二畫	三十一畫

金文詁林附錄引用書籍論文目錄

只列出金文詁林引用
書籍論文目錄所無者

古文書（古書）清劉心濂 光緒二十八年（1902）自石印本

契文舉例二卷（舉例）清孫詒讓 一九一七年古石金最善本

增訂殷虛書契考釋三卷（增考）羅振玉 一九二七年東京大學
會石印本 陸振虛書契考
釋一卷一九二四年王國維為印本

簠簋殷契類纂正編十四卷附編一卷存疑一卷待攷一卷
（類纂）王襄 一九二一年自為石印本

殷虛書契補釋一卷（補釋）胡厚濟 一九二一年自刻本

殷虛文字類編十四卷附待問編（類編）商承祚 一九二三年決定
不附附自刻本

簠簋殷契微文十二卷附考釋（簠簋）王襄 一九二五年天津傳
殷虛文字考 金永梁 國學論叢一卷一覽清華研究院編一九二六年
商務

甲骨文字研究（甲研）郭沫若 一九三〇年大東書局石印本 一九五二
年刪定本人民出版社 一九七六年香港中華
書局重印本

殷虛書契前編集釋八卷（前釋）羅振玉 一九三三年大東書局
印本

福氏所藏甲骨文字附考釋（福考）商承祚 一九三三年金陵大學
北研會所

卜辭通纂一卷攷釋三卷索引一卷（卜通）郭沫若 一九三三年
日本文學堂石印本

甲骨學文字編十四卷附錄二卷（文字編）朱芳圃編 一九三三年
商務

殷虛文字存真第一集附考釋（存真）關自應遺稿胡次舟考釋
一九五三年河南博物館石印本

龜甲文字概論 陳晉 一九三三年中華書局小石印本

殷虛文字記（文字記）唐蘭 一九三四年

鳥書考補正 各庚 燕京學報第十七期一九三五年頁一七三——一七八
重印於金文論文選第一輯

小扶經閣金文拓本十八册（本校）劉體智 一九三五年石印本

古文金學導論（導論）唐蘭 一九三五年自為石印本 一九六五年香港
太平書局重印本

金文詁林附錄引用書籍論文目錄 只列金文詁林引用書籍論文目錄所無者

古文書（古書）清劉心源 光緒二十八年（二〇〇）自石印本

契文舉例二卷（舉例）清孫詒讓 一九一七年書石盒藏書本

增訂殷虛書契考釋三卷（增考）羅振玉 一九二七年宋才學會石印本 附殷虛書契考釋一卷一九二四年王國維寫印本

簠簋殷契類集正編十四卷附編一卷存疑一卷待攷一卷（類簠簋）王襄 一九二一年自寫石印本

殷虛書契補釋一卷（補釋）胡石濟 一九二一年自刻本

殷虛文字類編十四卷附待問編（類編）商承祚 一九二三年決定不修附自刻本

簠簋殷契徵文十二卷附考釋（簠簋）王襄 一九二五年天津傳真社石印本

殷虛文字考 余永樂 國學論叢一卷一號清華研究院編一九二六年

殷契粹編附考釋(粹考) 郭沫若 一九三七年日本東京堂影印本	殷契粹編附考釋(粹考) 郭沫若 一九三七年日本東京堂影印本
天壤閣甲骨文字存附考釋(天壤文釋) 唐蘭 一九三九年輔仁大學影印	天壤閣甲骨文字存附考釋(天壤文釋) 唐蘭 一九三九年輔仁大學影印
(寶文齋)殷契粹編(粹考) 于省吾 一九四〇年石印本	(寶文齋)殷契粹編(粹考) 于省吾 一九四〇年石印本
殷契粹編三編(粹三) 于省吾 一九四四年石印本	殷契粹編三編(粹三) 于省吾 一九四四年石印本
青縣出土楚器銘文研究 朱德熙 歷史研究一九五四年一期	青縣出土楚器銘文研究 朱德熙 歷史研究一九五四年一期
殷虛卜辭綜述(綜述) 陳夢家 一九五六年科學出版社 一九六四年	殷虛卜辭綜述(綜述) 陳夢家 一九五六年科學出版社 一九六四年
殷商氏族方國志 丁山 一九五六年科學出版社	殷商氏族方國志 丁山 一九五六年科學出版社
甲骨文所見氏族及其制度 丁山 一九五六年科學出版社	甲骨文所見氏族及其制度 丁山 一九五六年科學出版社
卜辭審正化說 羅振玉 中央研究院歷史語言研究所集刊第二十九卷 一九五八年 頁七五—七九二	卜辭審正化說 羅振玉 中央研究院歷史語言研究所集刊第二十九卷 一九五八年 頁七五—七九二
殷金文考釋 日本赤塚忠 一九五九年自由印本	殷金文考釋 日本赤塚忠 一九五九年自由印本
戰國題名概述 上 李學勤 文物一九五九年七期頁五〇—五四	戰國題名概述 上 李學勤 文物一九五九年七期頁五〇—五四
戰國題名概述 下 李學勤 文物一九五九年九期頁五八—六一	戰國題名概述 下 李學勤 文物一九五九年九期頁五八—六一
續甲骨文字編十四卷附錄二卷 金祥恆 一九五九年	續甲骨文字編十四卷附錄二卷 金祥恆 一九五九年
殷契新詮之二(新詮) 曹寶麟 東海學報三卷一期一九六二年	殷契新詮之二(新詮) 曹寶麟 東海學報三卷一期一九六二年
殷虛文字甲編考釋(甲釋) 屈萬里 一九六二年台北中央研究院歷史語言研究所	殷虛文字甲編考釋(甲釋) 屈萬里 一九六二年台北中央研究院歷史語言研究所
金文通釋(白鶴美術館誌第一輯至四十八輯) 日本白川靜 一九六二年	金文通釋(白鶴美術館誌第一輯至四十八輯) 日本白川靜 一九六二年
西周初四德器的攷釋談到殷代已在進行文字簡化 郭沫若 文物一九五九年七期頁一—三 又見文史論叢頁三四—三四六	西周初四德器的攷釋談到殷代已在進行文字簡化 郭沫若 文物一九五九年七期頁一—三 又見文史論叢頁三四—三四六
戰國文字研究六種 朱德熙 義錫圭 考古學報一九七二年一期 頁三—八	戰國文字研究六種 朱德熙 義錫圭 考古學報一九七二年一期 頁三—八
永孟銘文解釋 唐蘭 文物一九七二年一期頁五八—六一	永孟銘文解釋 唐蘭 文物一九七二年一期頁五八—六一
從河南鄭州出土的商代前期青銅器談起 唐蘭 文物一九七二年七期頁五—一四	從河南鄭州出土的商代前期青銅器談起 唐蘭 文物一九七二年七期頁五—一四
戰國銅器銘文中的食官 朱德熙 義錫圭 文物一九七三年十二期頁五九—六二	戰國銅器銘文中的食官 朱德熙 義錫圭 文物一九七三年十二期頁五九—六二
遼寧喀左縣北洞村出土的殷周青銅器 北洞文物發掘小組 考古一九七四年六期頁三六—三九	遼寧喀左縣北洞村出土的殷周青銅器 北洞文物發掘小組 考古一九七四年六期頁三六—三九

2714

殷契粹編附考釋(粹考) 郭沫若 一九三七年日本東京堂影印本	殷契粹編附考釋(粹考) 郭沫若 一九三七年日本東京堂影印本
天壤閣甲骨文字存附考釋(天壤文釋) 唐蘭 一九三九年輔仁大學影印	天壤閣甲骨文字存附考釋(天壤文釋) 唐蘭 一九三九年輔仁大學影印
(寶文齋)殷契粹編(粹考) 于省吾 一九四〇年石印本	(寶文齋)殷契粹編(粹考) 于省吾 一九四〇年石印本
殷契粹編三編(粹三) 于省吾 一九四四年石印本	殷契粹編三編(粹三) 于省吾 一九四四年石印本
青縣出土楚器銘文研究 朱德熙 歷史研究一九五四年一期	青縣出土楚器銘文研究 朱德熙 歷史研究一九五四年一期
殷虛卜辭綜述(綜述) 陳夢家 一九五六年科學出版社 一九六四年	殷虛卜辭綜述(綜述) 陳夢家 一九五六年科學出版社 一九六四年
殷商氏族方國志 丁山 一九五六年科學出版社	殷商氏族方國志 丁山 一九五六年科學出版社
甲骨文所見氏族及其制度 丁山 一九五六年科學出版社	甲骨文所見氏族及其制度 丁山 一九五六年科學出版社
卜辭審正化說 羅振玉 中央研究院歷史語言研究所集刊第二十九卷 一九五八年 頁七五—七九二	卜辭審正化說 羅振玉 中央研究院歷史語言研究所集刊第二十九卷 一九五八年 頁七五—七九二
殷金文考釋 日本赤塚忠 一九五九年自由印本	殷金文考釋 日本赤塚忠 一九五九年自由印本
戰國題名概述 上 李學勤 文物一九五九年七期頁五〇—五四	戰國題名概述 上 李學勤 文物一九五九年七期頁五〇—五四
戰國題名概述 下 李學勤 文物一九五九年九期頁五八—六一	戰國題名概述 下 李學勤 文物一九五九年九期頁五八—六一
續甲骨文字編十四卷附錄二卷 金祥恆 一九五九年	續甲骨文字編十四卷附錄二卷 金祥恆 一九五九年
殷契新詮之二(新詮) 曹寶麟 東海學報三卷一期一九六二年	殷契新詮之二(新詮) 曹寶麟 東海學報三卷一期一九六二年
殷虛文字甲編考釋(甲釋) 屈萬里 一九六二年台北中央研究院歷史語言研究所	殷虛文字甲編考釋(甲釋) 屈萬里 一九六二年台北中央研究院歷史語言研究所
金文通釋(白鶴美術館誌第一輯至四十八輯) 日本白川靜 一九六二年	金文通釋(白鶴美術館誌第一輯至四十八輯) 日本白川靜 一九六二年
西周初四德器的攷釋談到殷代已在進行文字簡化 郭沫若 文物一九五九年七期頁一—三 又見文史論叢頁三四—三四六	西周初四德器的攷釋談到殷代已在進行文字簡化 郭沫若 文物一九五九年七期頁一—三 又見文史論叢頁三四—三四六
戰國文字研究六種 朱德熙 義錫圭 考古學報一九七二年一期 頁三—八	戰國文字研究六種 朱德熙 義錫圭 考古學報一九七二年一期 頁三—八
永孟銘文解釋 唐蘭 文物一九七二年一期頁五八—六一	永孟銘文解釋 唐蘭 文物一九七二年一期頁五八—六一
從河南鄭州出土的商代前期青銅器談起 唐蘭 文物一九七二年七期頁五—一四	從河南鄭州出土的商代前期青銅器談起 唐蘭 文物一九七二年七期頁五—一四
戰國銅器銘文中的食官 朱德熙 義錫圭 文物一九七三年十二期頁五九—六二	戰國銅器銘文中的食官 朱德熙 義錫圭 文物一九七三年十二期頁五九—六二
遼寧喀左縣北洞村出土的殷周青銅器 北洞文物發掘小組 考古一九七四年六期頁三六—三九	遼寧喀左縣北洞村出土的殷周青銅器 北洞文物發掘小組 考古一九七四年六期頁三六—三九

2715

北京·遼寧出土銅器與周初的燕 吳曉 考古一九七五年五期頁二四—二九 頁二九	北京·遼寧出土銅器與周初的燕 吳曉 考古一九七五年五期頁二四—二九 頁二九
何尊銘文解釋 唐蘭 文物一九七六年一期頁六〇—六三	何尊銘文解釋 唐蘭 文物一九七六年一期頁六〇—六三
何尊銘文解釋 張政娘 文物一九七六年一期頁六六	何尊銘文解釋 張政娘 文物一九七六年一期頁六六
陝西省岐山縣董家村新出西周重要銅器銘辭的釋文和註釋 唐蘭 文物一九七六年五期頁五—五九	陝西省岐山縣董家村新出西周重要銅器銘辭的釋文和註釋 唐蘭 文物一九七六年五期頁五—五九
用青銅器銘文來研究西周史 唐蘭 文物一九七六年六期頁三—三九	用青銅器銘文來研究西周史 唐蘭 文物一九七六年六期頁三—三九
岐山新出銅器若干問題探索 張政娘 文物一九七六年六期頁四—四九	岐山新出銅器若干問題探索 張政娘 文物一九七六年六期頁四—四九
陝西扶風出土西周伯成諸器 張政娘 文物一九七六年六期頁五—五九	陝西扶風出土西周伯成諸器 張政娘 文物一九七六年六期頁五—五九

2716

北京·遼寧出土銅器與周初的燕 吳曉 考古一九七五年五期頁二四—二九 頁二九	北京·遼寧出土銅器與周初的燕 吳曉 考古一九七五年五期頁二四—二九 頁二九
何尊銘文解釋 唐蘭 文物一九七六年一期頁六〇—六三	何尊銘文解釋 唐蘭 文物一九七六年一期頁六〇—六三
何尊銘文解釋 張政娘 文物一九七六年一期頁六六	何尊銘文解釋 張政娘 文物一九七六年一期頁六六
陝西省岐山縣董家村新出西周重要銅器銘辭的釋文和註釋 唐蘭 文物一九七六年五期頁五—五九	陝西省岐山縣董家村新出西周重要銅器銘辭的釋文和註釋 唐蘭 文物一九七六年五期頁五—五九
用青銅器銘文來研究西周史 唐蘭 文物一九七六年六期頁三—三九	用青銅器銘文來研究西周史 唐蘭 文物一九七六年六期頁三—三九
岐山新出銅器若干問題探索 張政娘 文物一九七六年六期頁四—四九	岐山新出銅器若干問題探索 張政娘 文物一九七六年六期頁四—四九
陝西扶風出土西周伯成諸器 張政娘 文物一九七六年六期頁五—五九	陝西扶風出土西周伯成諸器 張政娘 文物一九七六年六期頁五—五九

2715

金文話林附錄引用書籍論文索引凡例

一、本索引只將金文話林引用諸家索引^{見金文話林}所未收諸家列入。至於金文話林引用諸家索引中所收入本附錄各條^{只註明頁數}概不收入本索引中。以省篇幅。讀者如欲查得金文話林引用諸家索引未註明頁數各條在附錄中之頁數。可從金文話林附錄引用諸家索引中查得之。

二、本索引採用本附錄引用諸書。按筆畫數排列之。^{如引用時同簡}一字筆畫排列。^{編則按簡編之筆}

三、本索引另編總目於首。將引用諸書之全稱及簡稱。分別按筆畫排列。而在全稱下註明簡稱。例如索引總目四畫「中國字例」字例。如簡稱之第一字與全稱之第一字相同。則不將全稱另

列一條。而只在簡稱下註明其全稱。例如索引總目五畫「甲研」下註明「甲骨文字研究」。如本索引所收之書不見於金文話林引用書籍論文索引。則在書名右上方加星號。

四、本索引各條先列所引用書之頁數。用斜體標明。在冒號後註明本附錄之頁數。^{用簡體}及字號。^{用圓括}

五、本附錄徵引諸家之說。除引用「某人曰」或「某人釋某曰」之體例。而外。其後用雙引尚有「某人釋作某字」。見某書某卷某頁。之體例。其下或加「某書某卷某頁說同」字樣。凡遇不徵引原文之情形。則在所引書斜體下加橫綫以別之。例如附錄二頁

字號 2003 條下云「吳大澂釋子孫二字。見憲齋十七冊七頁。齊婦高」。在本索引十三畫「憲齋」書名條「齊婦高」條下

2718

2718

六、本附錄據李考定甲骨文字集釋^{簡稱}引用諸書。在本索引總目中各條下註明「據集釋」字樣。例如二畫「卜通」^通集。郭沫若^{據集釋}。本索引十二畫「集釋」條下。將所引諸家見於本附錄者。一一列入。註明集釋頁數與本附錄頁數及字號。

七、凡論文見於學報或雜誌者。將該論文名稱及著者姓名列於該學報或雜誌某期之下。論文又收入其他選本而為本書所採用者。則列入該選本中。例如陳夢家西周銅器斷代原載考古學報。各處為書考補正原載燕京學報。但本書所據為金文論文選之頁碼。故列入「金選」條下。

2719

2720

金文詁林附錄引用書籍論文索引目錄

二書

卜通 卜辭通纂 郭沫若(據集釋)

十二 二十家金文圖錄 商承祚

三書

小校 小校經閣金文拓本 劉體智

四書

中央研究院歷史語言研究所集刊(一集刊)

中國字例(一)字例

天壤文釋 天壤閣甲骨文存考釋 唐蘭(據集釋)

文字記 殷虛文字記 唐蘭(據集釋)

文史 文史論集 郭沫若

文字編 甲骨學文字編 朱芳圃編

文物

毛公鼎考年註釋 董作賓

五書

甲骨文所見氏族及其制度 丁山(據集釋)

甲骨學文字編(一)文字編

甲研 甲骨文字研究 郭沫若(據集釋)

甲釋 殷虛文字甲編考釋 屈萬里(據集釋)

古文字學導論(一)導論

古書 古文書 劉心源

古籀考 新定說文古籀考 周名輝

2735

2722

古籀拾遺(一)拾遺

六書

古文 古文文錄 吳闓生

字例 中國字例 高鴻緝

存真 殷虛文字存真考釋 許敬承(據集釋)

考古

考報 考古學報

名原 孫詒讓

兩攷 兩周金文辭大系攷釋 郭沫若

兩壘 兩壘新集器圖錄 吳雲

刻詞 讀金記詞 馬叙倫

奇觚 奇觚室吉金文述 劉心源

東海學報 東海大學學報

武英 武英殿藏器圖錄 容庚

金文通釋 四川師範大學林漢明釋

金文零釋(一)零釋

全攷 金文攷 郭沫若

全選 金文論文選 王夢旦

九書

前釋 殷虛書契前編集釋 葉玉森(據集釋)

契文舉例(一)舉例

拾遺 古籀拾遺 孫詒讓

十書

殷周文字釋義(一)釋義

2749

2724

2750

2731

2732

2732

2721

2737

2723

2741

雙文選 雙劍詩言 王文選 于省吾

簠考 簠室殷契徵文考釋 王秉(據集釋)

簠室殷契類簠系(一)類簠系

十九畫

簠室古 簠室古禮類款識 潘祖蔭

簠室古 簠室古錄金文 吳式芬

類編 殷虛文字類編 高承祚(據集釋)

類簠系 王秉(據集釋)

二十畫

寶鑑 寶鑑禮器圖錄 容庚

釋義 殷周文字釋義 朱芳圃

二十一畫

續文編 續甲骨文編 金祥恒(據集釋)

釋華 釋華閣集古錄跋尾 柯昌濟

二十二畫

讀金器刻詞(一)刻詞

二十五畫

觀堂 王觀堂先生全集 王國維

2776

2730

金文詁林附錄引用書籍論文索引

二畫

卜通 卜辭通纂 郭沫若

九.83: P.929(2422), 九.154: P.986(2457).

十二 十二家吉金圖錄 商承祚

貯.父癸父乙鼎 九.8: P.935(2424).

居.檀叔樊亡易地鼎 九.6: P.2307(3446). 陸庚午亡皇妣考大妃鐘

九.14: P.2402-2403(3487). 叔友父般盃 九.20: P.1650(3172). 樊君崇鼎 九.25: P.2141(3372).

雲.叔乙般 九.7: P.123(3020). 玕.父其父父癸般 九.8: P.175(3216).

三畫

小校 小校經閣金文拓本 劉體智

卷四 呂王癸乍大姬壺 九.80: P.1931(3290).

四畫

天壤文釋 天壤閣甲片文存考釋 唐蘭

九.10: P.1170(2560), 九.28: P.847(2382), 九.44-45: P.510-512(2203), 九.51: P.976-977(2453), 九.58: P.847(2382), 九.59: P.929-931(2422).

文字記 殷虛文字記 唐蘭

釋龜 九.6: P.585(2200). 釋形明 九.10: P.1274(3041). 釋形明 九.10: P.1274(3041).

九.15: P.1651-1652(3172). 釋早車 九.23-25: P.1152-1155(2549). 九.4: P.1651-1652(3172).

釋言 九.71-72: P.975-976(2453).

2732

2731

文史 文史論集 郭沫若

由壽縣蔡路論到蔡墓的年代 f. 301: P. 2205 (2400) 大殷銘考釋

f. 307: P. 1718 (2203) 大殷銘考釋 f. 314: P. 2601 (3697), f. 317: P. 1717 (3202) 著切

鐘銘考釋 f. 324: P. 2346 (3462), f. 325: P. 2387 (3481)

文字編 甲 月學文字編 朱芳圃

葉玉森 f. 2: P. 456 (2166)

文物

一九五九年七期 由周初田德器的改擇談到殷代已在進行文字簡化 郭沫若 f. 1: P. 1189 (3003) 戰國題銘概述 上 李學勤 f. 4: P. 1674 (3182)

一九五九年九期 戰國題銘概述 下 李學勤 f. 60: P. 1875a (2261)

一九七二年一期 永孟銘文解釋 唐蘭 f. 57: P. 1585 (3081), f. 60: P. 1207 (3012)

一九七二年七期 從河南鄭州出土的商代前期青銅器談起 唐蘭 f. 6: P. 82-83 (2006)

一九七三年十二期 戰國銅器銘文中的食官 朱德熙 裘錫圭 f. 59-60: P. 2419-2421 (3498)

一九七六年一期 何尊銘文解釋 唐蘭 f. 63: P. 1469-1470 (3108) 何尊銘文解釋補遺 張政烺 f. 66: P. 2516 (3551)

一九七六年五期 陝西省岐山縣董家村新出西周重要銅器銘辭的釋文和註釋 唐蘭 f. 57: P. 1013-1014 (2472)

一九七六年六期 用青銅器銘文來研究西周史附錄 唐蘭 f. 38: P. 1682 (3187), f. 39: P. 243-244 (3442)

張 1619 (3156) f. 40: P. 895 (2403), f. 41: P. 1617-1618 (3187) 陝西扶風出土西周伯或諸器銘

西章等 f. 51: P. 1681 (3187)

2734

毛公鼎考年註釋 董作賓 單行本 又見大陸雜誌五卷八期

f. 28: P. 1214 (3041)

五畫

甲 骨文所見氏族及其制度 丁山 f. 109: P. 1170-1171 (2560), f. 119-121: P. 557 (2222)

甲 研 甲 骨文字研究 郭沫若

釋朋 f. 1-4: P. 121-123 (2026) 釋單 f. 1: P. 865-866 (2389) 釋支干 f. 10-11: P. 1131-1133

(25古) 釋祖妣 f. 12: P. 2078 (3350)

甲 釋 殷虛文字 甲 續考釋 殷虛書契 f. 40: P. 1775 (3196)

古 審 古文審刻心源

卷一 大鼎 f. 3: P. 1655 (3173) 冊命鼎 f. 4-5: P. 324-326 (2116) 庚壺鼎 f. 8: P. 1583 (3143)

史頌鼎 f. 10: P. 1444 (3088) 伯簋鼎 f. 12: P. 2578 (3475) 中鼎 f. 16: P. 2545 (3502)

卷二 令鼎 f. 4: P. 1602 (2150)

卷三 亞尊 f. 1: P. 302-303 (2107)

卷四 齊侯編 f. 5: P. 1946 (3303) 東自 f. 16-17: P. 2440 (3506)

卷五 縣妃簋 f. 14: P. 1713 (3177), f. 14: P. 2297 (2438) 饒尊 f. 16: P. 25 (2001) 史林

邦彙 f. 17: P. 1793 (3241) 次彙 f. 18: P. 220 (2112)

卷六 大鼓 f. 2: P. 1301 (3052), f. 3: P. 2538 (3131), f. 5: P. 1470 (3108), f. 5: P. 1554 (3555), f. 3: P. 2066 (3337)

邦鼓 f. 9: P. 1554-1555 (3131) 師簋鼓 f. 12: P. 2151 (3316) 畢校鼓 f. 15: P. 1872 (3187)

召伯虎鼓 f. 17: P. 1267 (3039) 師虎鼓 f. 12: P. 1708 (3197), f. 12: P. 1914 (3280) 甲鼓 f. 15: P. 1890 (3271), f. 15: P. 12 (2130) (3368), f. 12: P. 2268 (2425)

卷七 師面鼓 f. 12: P. 2130 (3368), f. 12: P. 2268 (2425)

2736

2735

P.1928(3288), P.16:
P.1971(3307).

古籍考新定說文古籍考周名澤

卷中 P.112: P.2013-2014(3321).

六書

古文吉金文錄 吳闓生

卷一 毛公鼎

P.4: P.1199(3007), 宣鼎 P.7: P.1955(3299), 乙亥鼎 P.9: P.1707(3313),
P.4: P.2041(3329).

且子鼎

P.10: P.1633(3165), 簋田鼎 P.14: P.1579(3150), 岐鼎 P.15: P.1624(3157), 井

鼎

P.15: P.1941(3293), 師望鼎 P.17: P.1211(3014), 克鼎 P.18: P.1286(3045), 伯夷

鼎

P.21: P.2560(3578), 南齊鼎 P.22: P.2506(3546), 無慮鼎 P.21: P.1346(3071),

趙曹鼎

P.25: P.1432(3097), 大鼎 P.26: P.1655(3173), 留鼎 P.26: P.129(3161),
P.26: P.2625(3614).

非余鼎

P.30: P.1587(3145), 祈鼎 P.31: P.1329(3065), 寒兒鼎 P.36: P.1958(3302),

徐王權鼎

P.38: P.1529(3126), P.38: P.2105 征人鼎 P.40: P.1195(3006), 成寶

鼎

P.40: P.1421-
(422)(3094).

卷二 漢兒鐘

P.8: P.2012(3320), 楷妃葬 P.21: P.2290(3438), 韓鼎 P.23: P.
(3423).

卷三 大豐敦

P.2: P.1393(3086), 通敦 P.6: P.1661(3176), 芥伯敦 P.7: P.2021
(3324), 同敦 P.13: P.1712(3205), 揚敦 P.14: P.1780(3233), 豆關敦 P.20:
(3321).

史頌敦

P.24: P.1402(3088), 召伯虎敦 P.25: P.2375(3474), 卯敦 P.27:
(3085), 格伯敦 P.26: P.1357(3076), P.26: P.1410(3090), P.26: P.1668
(3188), P.26: P.1738(3210), P.26: P.1803(3245), 成朕父敦

P.31: P.2307(3446), 叔皮父敦

P.32: P.2304(3444), 貞敦敦 P.32: P.1233(3025),
P.32: P.1234(3026),
P.32: P.1414(3091), 泰公敦 P.33: P.1333(3067), 陳侯午敦 P.33: P.2442(3487),
P.33: P.1610(3154), 光父敦 P.35: P.1588(3146), 匚侯敦 P.37: P.1932(3291).

光父敦

P.35: P.2452(3514).

光父敦

P.35: P.2452(3514).

光父敦

P.35: P.2452(3514).

光父敦

P.35: P.2452(3514).

光父敦

P.35: P.2452(3514).

2738

卷四 取尊 P.11: P.1430(3076), 新尊 P.11: P.2624(3620), 能爵尊 P.11: P.123(3029)

東周 P.14: P.1247(3022), 車伯高 P.15: P.1644(3170), 陳叔原父觀 P.23: P.1541(3227)

受季父壺 P.20: P.1604(3151), 寶敦 P.27: P.1670(3179), 仲叔父敦 P.28: P.1770
(3227), P.28: P.2222(3410), 晉叔敦 P.33: P.1499(3121), 叔孫敦

敦

P.33: P.2357(3467), P.33: P.2492(3537), 樛末 P.34: P.2209(3403),

卷五

P.33: P.2357(3467), P.33: P.2492(3537), 樛末 P.34: P.2209(3403),

字例 中國字例 高鴻缙

一 篇 P.45: P.1146(2546).

存真錄 文字存真 考釋 許敬參

P.86: P.978(2453).

考古

一 九七四年六期 遼寧喀左縣北洞村出土的殷周青銅器北

洞文物發掘小組 P.368: P.1014(2472), P.368: P.1100-1101(2520).

一 九七五年五期 北京遼寧出土銅器與周初的燕要疏 P.276:
1103(2520).

考報 考古學報

一 九七二年一期 戰國文字研究六種 朱德熙 袁錫圭 P.82-83:
1696(3191), P.80-83: P.1872-
1875(3261).

名原 孫詒讓

上卷 P.28: P.736-737(2315).

下卷 P.14: P.1348-1349(3073).

下卷 P.14: P.1348-1349(3073).

下卷 P.14: P.1348-1349(3073).

下卷 P.14: P.1348-1349(3073).

下卷 P.14: P.1348-1349(3073).

下卷 P.14: P.1348-1349(3073).

2740

2737

2739

兩攷 兩周金文辭大系攷釋 郭沫若

大豐殷 $\pm 1 = P.1373(3308)$ 鬲卣 $\pm 10 = P.915(2417)$ 禽殷 $\pm 11 = P.1607(3153)$ 趯尊
 $\pm 15 = P.1291(3347)$ 小臣遹殷 $\pm 23 = P.1281(3344)$ 小臣宅殷 $\pm 26 = P.734-735$
 $\pm 18 = P.1297(3351)$ 賓鼎 $\pm 28 = P.1194(3397)$ 貝鼎 $\pm 29 = P.1624(3359)$ 大盂鼎 $\pm 34 = P.1908(3278)$
 $\pm 30 = P.1335(3456)$ $\pm 33 = P.2188(3392)$ 小孟鼎 $\pm 37 = P.1904(3277)$ 沈子殷 $\pm 46 = P.2452(3514)$ 矢
 $\pm 34 = P.1183(3399)$ 趙鼎 $\pm 57 = P.1925(3287)$ 君夫殷 $\pm 68 = P.2288(3437)$ 鬲
 $\pm 50 = P.1997(3274)$ 趙鼎 $\pm 57 = P.1925(3287)$ 君夫殷 $\pm 68 = P.2288(3437)$ 鬲
 $\pm 67 = P.2391(3438)$ 趙曹鼎 $\pm 69 = P.1432(3097)$ 頤鼎 $\pm 72 = P.1730$
 $\pm 67 = P.2433(3504)$ 望殷 $\pm 80 = P.2488(3534)$ 師望鼎 $\pm 81 = P.1211$
 $\pm 77 = P.1916(3305)$ 望殷 $\pm 80 = P.2488(3534)$ 師望鼎 $\pm 81 = P.1211$
 $\pm 81 = P.1410(3090)$ $\pm 81 = P.1803(3245)$ 卯殷 $\pm 85 = P.1310(3308)$ $\pm 85 =$
 $\pm 81 = P.2005(3316)$ $\pm 85 = P.1310(3308)$ $\pm 85 = P.1310(3308)$ $\pm 85 = P.1310(3308)$
 $\pm 87 = P.1722(3255)$ 大殷 $\pm 87 = P.1310(3305)$ 會鼎 $\pm 96 = P.1384(3361)$ $\pm 96 =$
 $\pm 87 = P.1722(3255)$ 大殷 $\pm 87 = P.1310(3305)$ 會鼎 $\pm 96 = P.1384(3361)$ $\pm 96 =$
 $\pm 87 = P.1722(3255)$ 大殷 $\pm 87 = P.1310(3305)$ 會鼎 $\pm 96 = P.1384(3361)$ $\pm 96 =$

(3237), 上 96 = P.2480 (3528), 上 96 = P.2486 (3414), 上 97 = P.364 (3120), 上 97 = P.1854 (3257), 上 97 = P.799 (2422), 上 97 = P.2475 (3556), 上 97 = 23656 (3621), 上 98 = P.1569 (3136). 聖後鼎 上 107 = P.2087 (3354), 南禾鼎 上 113 = P.2566 (3546). 柏泉鼎 上 115 = P.1224 (3001), 陳鼓 上 117 = P.2372 (3420), 揚鼓 上 118 = P.1781 (3233), 大克鼎 上 116 = P.1307 (3055), 上 121 = P.1313 (3060), 上 122 = P.1552 (3131), 散氏盤 上 124 = P.1477 (3112), 上 124 = P.1701 (3195), 上 124 = P.2561 (3572), 上 124 = P.2578 (3596), 散盤 上 126 = P.2252 (3410), 矢人盤 上 127 = P.1588 (3046), 上 129 = P.1241 = P.2583 (3597), 矢人盤 上 129 = P.1291 (3119), 上 129 = P.1714 (3244), 上 129 = P.2219 (2408), 上 129 = P.2240 (3414), 上 129 = P.3394 (3448), 上 129 = P.2203 (3397), 上 129 = P.2539 (3566), 上 130 = 131 = P.1454 (3110), 上 130 = 上 144 = P.1266 (3039), 四伯虎鼓 上 144 = P.1439 (3100), 師夷鼓 上 143 = P.2576 (3424), 上 146 = P.1829 (3251), 兮伯鼓 上 147 = P.1665 = 1666 (3177), 無彘鼎 上 151 = P.1346 (3071), 上 146 = P.2513 (3350), 上 147 = P.1781 (3233), 王孫遺者簠 上 160 = P.189 (3372), 郭橐尹鼓 上 163 = P.1256 (3036), 上 163 = P.1444 (3102), 上 163 = P.2207 (3317), 上 164 = P.2413 (3497), 曹姬無卣 上 166 = P.1919 (3284), 楚王會志鼎 上 167 = P.2206 (3401), 鄭侯鼓 上 173 = P.2222 (3378), 鄭伯克鼎 上 176 = 2183 (3387), 上 176 = P.2321 (3455), 上 176 = 鄭公鼓 上 177 = P.1441 (3101), 陳伯元龜 上 184 = P.2095 (3603), P.3424 (3428).

曹伯康宣 上. 186. P. 2261 (4222) 郭友父南 上. 193. P. 2574 (3587) 郭伯御茂
鼎 上. 193. P. 1433 (3018) 郭村鼎 上. 194. P. 1433 (3018) 曹庚爵 上. 195. P. 1767 (3222)
上. 196. P. 2544 (3585)
曹伯愈父南 上. 197. P. 2483 (3579) 銘子南 上. 198. P. 1236 (3227)
上. 199. P. 2103 (3582) 銘浩林鼎
P. 2242. P. 1228-1229 魏文公鼎 上. 245. P. 1611 (3157) 吳亮父饒 上. 246. P. 2544 (3586)
(3023).
饒 64 44 季慶 上. 212. P. 1828 (3558) 陳 鼎 上. 216. P. 1518 (3145) 季木子金
P. 221. P. 2208 4 (3533) 陳純釜 上. 223. P. 2337 (3467) 上. 223. P. 2492 (3537) 鄧侯康
上. 221. P. 2338 6 (3583) 上. 223. P. 2387 (3591)
饒 上. 227. P. 1767 (3226) 師面饒 上. 228. P. 1708 (3197)

兩雲軒與西園錄 吳雲

卷六 惠數 $P_{31} = P_{334} (3070)$
刻詞 讀金器刻詞 惠穀論
父口數 $P_{135} = P_{411} (2139)$.

奇觚 奇觚室吉金文述 劉心源

卷一 亞歷
7.6: p.277(2109) 地獄
7.20: p.585(2236)
7.20: p.125(2478)

卷二無雙鼎
P. 13 : P. 2367-2368 (3471). 20日鼎
P. 26 : P. 2475 (3526). 毛公鼎

p. 49: p. 204 (6329).

卷三 周禮生數 九.16: 9.780 (2343)

卷四 守鼓 7.2: P.2190 (3393). 畢鼓 7.7: P.1897 (3274). 非鼓 7.30: P.1396 (3085). 7.30: P.1899 (3277).

P. 30 = P. 1971 (3307).

卷五 俞尊 上 12:9:347(2117)

卷六并函 父張函 1.6: P.76 (2005). 華十函 1.13: P.1699 (3193).

豐南 $P.15: P.243/(3506)$. 祖戈輝 $P.18: P.628/(3262)$. 戈輝 $P.21: P.246/(3520)$

陳純奎 $\phi_{35} = P_{2357}(3467)$, $\phi_{35} = P_{2492}(3537)$,
叔觚 $\phi_{24} = P_{1075}(2509)$,
 $\phi_{35} = P_{2387}(3598)$.

卷十 五 七 八
 1. 2: P. 597 (2243). 4. 7: P. 1031 (2480). 5. 8: P. 1711 (2057).

曹伯康 $\pm 186 \cdot P.2261(3422)$ 郭友父南 $\pm 193 \cdot P.2574(3587)$ 郭伯卿 $\pm 193 \cdot P.433(3078)$ 郭村 $\pm 194 \cdot P.433(3078)$ 曹友南 $\pm 195 \cdot P.1767(3238)$
曹伯愈父南 $\pm 197 \cdot P.2483(3529)$ 郭子南 $\pm 198 \cdot P.1236(3527)$ 郭清林 $\pm 198 \cdot P.2544(3585)$
 $\pm 242 \cdot P.1228-1229$ 魏文公鼎 $\pm 245 \cdot P.121(3157)$ 吳成父南 $\pm 246 \cdot P.254(3567)$
(3023)
馮子孟妻慶 $\pm 212 \cdot P.1858(3558)$ 陳慶 $\pm 216 \cdot P.1578(3142)$ 方木子 $\pm 221 \cdot P.2084(3355)$ 陳純金 $\pm 223 \cdot P.2357(3467)$ 郭侯康 $\pm 221 \cdot P.3336(3458)$ $\pm 223 \cdot P.2587(3578)$
 $\pm 227 \cdot P.1769(3226)$ 師面 $\pm 228 \cdot P.1708(3197)$

父丁壽	上11: P.721-722(314), 父發壽 P.24: P.450(215), 父仲壽 P.27: P.741(2317), 象壽 P.29: P.2081(3352), P.31: P.2119(3367).
卷八 華林廟	上6: P.831(2375), 夫人盤 上22: P.2373(2485), 好壽 上20: P.741(2317), P.25: P.2219(3408).
卷十一 漢紫雲餅	上11: P.1656(3160), 上11: P.1796(3243), 上11: P.2208(3460), 上11: P.2446(3510).
卷十六 戊寅父丁壽	上6: P.641(2367), 大鼎 上16: P.1655(3173), 東鼓 上25: P.257(3170), 上37: P.1422(3094).
通鼓	上27: P.1900(3275), 東鼓 上37: P.1407(3090), 上37: P.1803(3245).
卷十七 叔尊	上7: P.1450(3096), 魏氏壽 上18: P.2290(3438), 上4: P.444(3170), 上14: P.1422(3094).
叔王歸	上34: P.2484(3530).
卷十八 虎面	上4: P.475(2180), 連仲壽 上8: P.836(2156), 東盤 上25: P.1670(3177).
東海學報	
三卷一期 殷契新詮之「魯實光」	上39: P.863-864(2389), 上10: P.1085(2514).

2745

武英 武英殿藏書圖錄卷庚	
祝父丁壽	上72: P.955(2435).
金文通釋 白川靜著林潔明譯	
二 輯 二 大保鼓	上59: P.1242(3258), 上62: P.1214-1216(3257).
三 輯 九 小臣單解	上87: P.1561-1562(3135), 上104: P.1085(2514).
魯侯爵	上128: P.1748(3225), 上129: P.180-181(3253), 上130: P.256(3283).
四 輯 四 康侯鼓	上157: P.810-811(3263), 上158: P.812-813(3264), 上159: P.814-815(3265).
五 輯 十 趙自	上201: P.1291(3047), 上202: P.1292(3048), 上203: P.1293(3049).
鼎	上332: P.56(2001).
七 輯 二 叔士鄭尊	上319: P.1346(3055), 上320: P.1347(3056), 上321: P.1348(3057).
九 九 獻侯鼎	上335: P.336-337(2465), 上338: P.339-340(2466), 上339: P.341-342(2467).
九 九 獻侯鼎	上343: P.344-345(2468), 上346: P.347-348(2469), 上349: P.350-351(2470).
九 九 獻侯鼎	上352: P.353-354(2471), 上355: P.356-357(2472), 上358: P.359-360(2473).
九 九 獻侯鼎	上361: P.362-363(2474), 上364: P.365-366(2475), 上367: P.368-369(2476).
九 九 獻侯鼎	上370: P.371-372(2477), 上373: P.374-375(2478), 上376: P.377-378(2479).
九 九 獻侯鼎	上381: P.382-383(2480), 上384: P.385-386(2481), 上387: P.388-389(2482).
九 九 獻侯鼎	上390: P.391-392(2483), 上393: P.394-395(2484), 上396: P.397-398(2485).
九 九 獻侯鼎	上400: P.401-402(2486), 上403: P.404-405(2487), 上406: P.407-408(2488).
九 九 獻侯鼎	上410: P.411-412(2489), 上413: P.414-415(2490), 上416: P.417-418(2491).
九 九 獻侯鼎	上420: P.421-422(2492), 上423: P.424-425(2493), 上426: P.427-428(2494).
九 九 獻侯鼎	上430: P.431-432(2495), 上433: P.434-435(2496), 上436: P.437-438(2497).
九 九 獻侯鼎	上440: P.441-442(2498), 上443: P.444-445(2499), 上446: P.447-448(2500).
九 九 獻侯鼎	上450: P.451-452(2501), 上453: P.454-455(2502), 上456: P.457-458(2503).
九 九 獻侯鼎	上460: P.461-462(2504), 上463: P.464-465(2505), 上466: P.467-468(2506).
九 九 獻侯鼎	上470: P.471-472(2507), 上473: P.474-475(2508), 上476: P.477-478(2509).
九 九 獻侯鼎	上480: P.481-482(2510), 上483: P.484-485(2511), 上486: P.487-488(2512).
九 九 獻侯鼎	上490: P.491-492(2513), 上493: P.494-495(2514), 上496: P.497-498(2515).
九 九 獻侯鼎	上500: P.501-502(2516), 上503: P.504-505(2517), 上506: P.507-508(2518).
九 九 獻侯鼎	上510: P.511-512(2519), 上513: P.514-515(2520), 上516: P.517-518(2521).
九 九 獻侯鼎	上520: P.521-522(2522), 上523: P.524-525(2523), 上526: P.527-528(2524).
九 九 獻侯鼎	上530: P.531-532(2525), 上533: P.534-535(2526), 上536: P.537-538(2527).
九 九 獻侯鼎	上540: P.541-542(2528), 上543: P.544-545(2529), 上546: P.547-548(2530).
九 九 獻侯鼎	上550: P.551-552(2531), 上553: P.554-555(2532), 上556: P.557-558(2533).
九 九 獻侯鼎	上560: P.561-562(2534), 上563: P.564-565(2535), 上566: P.567-568(2536).
九 九 獻侯鼎	上570: P.571-572(2537), 上573: P.574-575(2538), 上576: P.577-578(2539).
九 九 獻侯鼎	上580: P.581-582(2540), 上583: P.584-585(2541), 上586: P.587-588(2542).
九 九 獻侯鼎	上590: P.591-592(2543), 上593: P.594-595(2544), 上596: P.597-598(2545).
九 九 獻侯鼎	上600: P.601-602(2546), 上603: P.604-605(2547), 上606: P.607-608(2548).
九 九 獻侯鼎	上610: P.611-612(2549), 上613: P.614-615(2550), 上616: P.617-618(2551).
九 九 獻侯鼎	上620: P.621-622(2552), 上623: P.624-625(2553), 上626: P.627-628(2554).
九 九 獻侯鼎	上630: P.631-632(2555), 上633: P.634-635(2556), 上636: P.637-638(2557).
九 九 獻侯鼎	上640: P.641-642(2558), 上643: P.644-645(2559), 上646: P.647-648(2560).
九 九 獻侯鼎	上650: P.651-652(2561), 上653: P.654-655(2562), 上656: P.657-658(2563).
九 九 獻侯鼎	上660: P.661-662(2564), 上663: P.664-665(2565), 上666: P.667-668(2566).
九 九 獻侯鼎	上670: P.671-672(2567), 上673: P.674-675(2568), 上676: P.677-678(2569).
九 九 獻侯鼎	上680: P.681-682(2570), 上683: P.684-685(2571), 上686: P.687-688(2572).
九 九 獻侯鼎	上690: P.691-692(2573), 上693: P.694-695(2574), 上696: P.697-698(2575).
九 九 獻侯鼎	上700: P.701-702(2576), 上703: P.704-705(2577), 上706: P.707-708(2578).
九 九 獻侯鼎	上710: P.711-712(2579), 上713: P.714-715(2580), 上716: P.717-718(2581).
九 九 獻侯鼎	上720: P.721-722(2582), 上723: P.724-725(2583), 上726: P.727-728(2584).
九 九 獻侯鼎	上730: P.731-732(2585), 上733: P.734-735(2586), 上736: P.737-738(2587).
九 九 獻侯鼎	上740: P.741-742(2588), 上743: P.744-745(2589), 上746: P.747-748(2590).
九 九 獻侯鼎	上750: P.751-752(2591), 上753: P.754-755(2592), 上756: P.757-758(2593).
九 九 獻侯鼎	上760: P.761-762(2594), 上763: P.764-765(2595), 上766: P.767-768(2596).
九 九 獻侯鼎	上770: P.771-772(2597), 上773: P.774-775(2598), 上776: P.777-778(2599).
九 九 獻侯鼎	上780: P.781-782(2600), 上783: P.784-785(2601), 上786: P.787-788(2602).
九 九 獻侯鼎	上790: P.791-792(2603), 上793: P.794-795(2604), 上796: P.797-798(2605).
九 九 獻侯鼎	上800: P.801-802(2606), 上803: P.804-805(2607), 上806: P.807-808(2608).
九 九 獻侯鼎	上810: P.811-812(2609), 上813: P.814-815(2610), 上816: P.817-818(2611).
九 九 獻侯鼎	上820: P.821-822(2612), 上823: P.824-825(2613), 上826: P.827-828(2614).
九 九 獻侯鼎	上830: P.831-832(2615), 上833: P.834-835(2616), 上836: P.837-838(2617).
九 九 獻侯鼎	上840: P.841-842(2618), 上843: P.844-845(2619), 上846: P.847-848(2620).
九 九 獻侯鼎	上850: P.851-852(2621), 上853: P.854-855(2622), 上856: P.857-858(2623).
九 九 獻侯鼎	上860: P.861-862(2624), 上863: P.864-865(2625), 上866: P.867-868(2626).
九 九 獻侯鼎	上870: P.871-872(2627), 上873: P.874-875(2628), 上876: P.877-878(2629).
九 九 獻侯鼎	上880: P.881-882(2630), 上883: P.884-885(2631), 上886: P.887-888(2632).
九 九 獻侯鼎	上890: P.891-892(2633), 上893: P.894-895(2634), 上896: P.897-898(2635).
九 九 獻侯鼎	上900: P.899-900(2636), 上903: P.901-902(2637), 上906: P.903-904(2638).
九 九 獻侯鼎	上910: P.905-906(2639), 上913: P.907-908(2640), 上916: P.909-910(2641).
九 九 獻侯鼎	上920: P.911-912(2642), 上923: P.913-914(2643), 上926: P.915-916(2644).
九 九 獻侯鼎	上930: P.917-918(2645), 上933: P.919-920(2646), 上936: P.921-922(2647).
九 九 獻侯鼎	上940: P.923-924(2648), 上943: P.925-926(2649), 上946: P.927-928(2650).
九 九 獻侯鼎	上950: P.929-930(2651), 上953: P.931-932(2652), 上956: P.933-934(2653).
九 九 獻侯鼎	上960: P.935-936(2654), 上963: P.937-938(2655), 上966: P.939-940(2656).
九 九 獻侯鼎	上970: P.941-942(2657), 上973: P.943-944(2658), 上976: P.945-946(2659).
九 九 獻侯鼎	上980: P.947-948(2660), 上983: P.949-950(2661), 上986: P.951-952(2662).
九 九 獻侯鼎	上990: P.953-954(2663), 上993: P.955-956(2664), 上996: P.957-958(2665).
九 九 獻侯鼎	上1000: P.959-960(2666), 上1003: P.961-962(2667), 上1006: P.963-964(2668).
九 九 獻侯鼎	上1010: P.965-966(2669), 上1013: P.967-968(2670), 上1016: P.969-970(2671).
九 九 獻侯鼎	上1020: P.971-972(2672), 上1023: P.973-974(2673), 上1026: P.975-976(2674).
九 九 獻侯鼎	上1030: P.977-978(2675), 上1033: P.979-980(2676), 上1036: P.981-982(2677).
九 九 獻侯鼎	上1040: P.983-984(2678), 上1043: P.985-986(2679), 上1046: P.987-988(2680).
九 九 獻侯鼎	上1050: P.989-990(2681), 上1053: P.991-992(2682), 上1056: P.993-994(2683).
九 九 獻侯鼎	上1060: P.995-996(2684), 上1063: P.997-998(2685), 上1066: P.999-1000(2686).
九 九 獻侯鼎	上1070: P.1001-1002(2687), 上1073: P.1003-1004(2688), 上1076: P.1005-1006(2689).
九 九 獻侯鼎	上1080: P.1007-1008(2690), 上1083: P.1009-1010(2691), 上1086: P.1011-1012(2692).
九 九 獻侯鼎	上1090: P.1013-1014(2693), 上1093: P.1015-1016(2694), 上1096: P.1017-1018(2695).
九 九 獻侯鼎	上1100: P.1019-1020(2696), 上1103: P.1021-1022(2697), 上1106: P.1023-1024(2698).
九 九 獻侯鼎	上1110: P.1025-1026(2699), 上1113: P.1027-1028(2700), 上1116: P.1029-1030(2701).
九 九 獻侯鼎	上1120: P.1031-1032(2702), 上1123: P.1033-1034(2703), 上1126: P.1035-1036(2704).
九 九 獻侯鼎	上1130: P.1037-1038(2705), 上1133: P.1039-1040(2706), 上1136: P.1041-1042(2707).
九 九 獻侯鼎	上1140: P.1043-1044(2708), 上1143: P.1045-1046(2709), 上1146: P.1047-1048(2710).
九 九 獻侯鼎	上1150: P.1049-1050(2711), 上1153: P.1051-1052(2712), 上1156: P.1053-1054(2713).
九 九 獻侯鼎	上1160: P.1055-1056(2714), 上1163: P.1057-1058(2715), 上1166: P.1059-1060(2716).
九 九 獻侯鼎	上1170: P.1061-1062(2717), 上1173: P.1063-1064(2718), 上1176: P.1065-1066(2719).
九 九 獻侯鼎	上1180: P.1067-1068(2720), 上1183: P.1069-1070(2721), 上1186: P.1071-1072(2722).
九 九 獻侯鼎	上1190: P.1073-1074(2723), 上1193: P.1075-1076(2724), 上1196: P.1077-1078(2725).
九 九 獻侯鼎	上1200: P.1079-1080(2726), 上1203: P.1081-1082(2727), 上1206: P.1083-1084(2728).
九 九 獻侯鼎	上1210: P.1085-1086(2729), 上1213: P.1087-1088(2730), 上1216: P.1089-1090(2731).
九 九 獻侯鼎	上1220: P.1091-1092(2732), 上1223: P.1093-1094(2733), 上1226: P.1095-1096(2734).
九 九 獻侯鼎	上1230: P.1097-1098(2735), 上1233: P.1099-1100(2736), 上1236: P.1101-1102(2737).
九 九 獻侯鼎	上1240: P.1103-1104(2738), 上1243: P.1105-1106(2739), 上1246: P.1107-1108(2740).
九 九 獻侯鼎	上1250: P.1109-1110(2741), 上1253: P.1111-1112(2742), 上1256: P.1113-1114(2743).
九 九 獻侯鼎	上1260: P.1115-1116(2744), 上1263: P.1117-1118(2745), 上1266: P.1119-1120(2746).
九 九 獻侯鼎	上1270: P.1121-1122(2747), 上1273: P.1123-1124(2748), 上1276: P.1125-1126(2749).
九 九 獻侯鼎	上1280: P.1127-1128(2750), 上1283: P.1129-1130(2751), 上1286: P.1131-1132(2752).
九 九 獻侯鼎	上1290: P.1133-1134(2753), 上1293: P.1135-1136(2754), 上1296: P.1137-1138(2755).
九 九 獻侯鼎	上1300: P.1139-1140(2756), 上1303: P.1141-1142(2757), 上1306: P.1143-1144(2758).
九 九 獻侯鼎	上1310: P.1145-1146(2759), 上1313: P.1147-1148(2760), 上1316: P.1149-1150(2761).
九 九 獻侯鼎	上1320: P.1151-1152(2762), 上1323: P.1153-1154(2763), 上1326: P.1155-1156(2764).
九 九 獻侯鼎	上1330: P.1157-1158(2765), 上1333: P.1159-1160(2766), 上1336: P.1161-1162(2767).
九 九 獻侯鼎	上1340: P.1163-1164(2768), 上1343: P.1165-1166(2769), 上1346: P.1167-1168(2770).
九 九 獻侯鼎	上1350: P.1169-1170(2771), 上1353: P.1171-1172(2772), 上1356: P.1173-1174(2773).
九 九 獻侯鼎	上1360: P.1175-1176(2774), 上1363: P.1177-1178(2775), 上1366: P.1179-1180(2776).
九 九 獻侯鼎	上1370: P.1181-1182(2777), 上1373: P.1183-1184(2778), 上1376: P.1185-1186(2779).
九 九 獻侯鼎	上1380: P.1187-1188(2780), 上1383: P.1189-1190(2781), 上1386: P.1191-1192(2782).
九 九 獻侯鼎	上1390: P.1193-1194(2783), 上1393: P.1195-1196(2784), 上1396: P.1197-1198(2785).
九 九 獻侯鼎	上1400: P.1199-1200(2786), 上1403: P.1201-1202(2787), 上1406: P.1203-1204(2788).
九 九 獻侯鼎	上1410: P.1205-1206(2789), 上1413: P.1207-1208(2790), 上1416: P.1209-1210(2791).
九 九 獻侯鼎	上1420: P.1211-1212(2792), 上1423: P.1213-1214(2793), 上1426: P.1215-1216(2794).
九 九 獻侯鼎	上1430: P.1217-1218(2795), 上1433: P.1219-1220(2796), 上1436: P.1221-1222(2797).
九 九 獻侯鼎	上1440: P.1223-1224(2798), 上1443: P.1225-1226(2799), 上1446: P.1227-1228(2800).
九 九 獻侯鼎	上1450: P.1229-1230(2801), 上1453: P.1231-1232(2802), 上1456: P.1233-1234(2803).
九 九 獻侯鼎	上1460: P.1235-1236(2804), 上1463: P.1237-1238(2805), 上1466: P.1239-1240(2806).
九 九 獻侯鼎	上1470: P.1241-1242(2807), 上1473: P.1243-1244(2808), 上1476: P.1245-1246(2809).
九 九 獻侯鼎	上1480: P.1247-1248(2810), 上1483: P.1249-1250(2811), 上1486: P.1251-1252(2812).
九 九 獻侯鼎	上1490: P.1253-1254(2813), 上1493: P.1255-1256(2814), 上1496: P.1257-1258(2815).
九 九 獻侯鼎	上1500: P.1259-1260(2816), 上1503: P.1261-1262(2817), 上1506: P.1263-1264(2818).
九 九 獻侯鼎	上1510: P.1265-1266(2819), 上1513: P.1267-1268(2820), 上1516: P.1269-1270(2821).
九 九 獻侯鼎	上1520: P.1271-1272(2822), 上1523: P.1273-1274(2823), 上1526: P.1275-1276(2824).
九 九 獻侯鼎	上1530: P.1277-1278(2825), 上1533: P.1279-1280(2826), 上1536: P.1281-1282(2827).
九 九 獻侯鼎	上1540: P.1283-1284(2828), 上1543: P.1285-1286(2829), 上1546: P.1287-1288(2830).
九 九 獻侯鼎	上1550: P.1289-1290(2831), 上1553: P.1291-1292(2832), 上1556: P.1293-1294(2833).
九 九 獻侯鼎	上1560: P.1295-1296(2834), 上1563: P.1297-1298(2835), 上1566: P.1299-1300(2836).
九 九 獻侯鼎	上1570: P.1301-1302(2837), 上1573: P.1303-1304(2838), 上1576: P.1305-1306(2839).
九 九 獻	

$\phi_{1234} = \phi_{1274}(3041)$, $\phi_{1859-1862} = \phi_{1152-1155}(2569)$, $\phi_{2160} = \phi_{1170}(2560)$, ϕ_{1861}
 $1862 = \phi_{2368-2369}(3471)$, $\phi_{2556} = \phi_{847}(2382)$, $\phi_{2558} = \phi_{847}(2382)$, $\phi_{2920-2921}$

Ex. 22: P. 909 (24/12).

2755

八册 伯要府政	1.18: P.149(3118).
十册 便夷政	1.9: P.2190(3393).
十一册 表伯戎政	1.3: P.204(3329). 若夫政 1.4: P.2288(3437). 收人政 1.15: P.2473(402).
十二册 西宮政	1.10: P.2558(3577).
十三册 口宮政	1.2: P.641(3267). 師田父專 1.11: P.1681(3187). 越專 1.12: P.1297(3051). 母訓諸婦太專 1.15: P.1046(2490). 子孫專 1.19: P.455(2166). 統父己專 1.20: P.1090(2516). 臣政專 1.24: P.957(2385).
十四册 伯建查	1.23: P.1956(3300).
十五册 郡伯振蓋	1.17: P.1450(3106). 史克蓋 1.23: P.2134(3370). 1.17: P.2282(4435).
十六册 敬登	1.8: P.1811(3247). 甘登 1.16: P.2467(3519). 父奉函 1.28: P.2345(3461). 1.8: P.2218(4408).
十七册 父丁配	1.3: P.390(2128). 齊婦市 1.7: P.59(2003). 義始市 1.16: P.115(3201).

2757

卷一 庚 1.2: P.2516(3604). 龜婦 1.20: P.2081(3352). 父庚 1.21: P.243(2099). 祖庚 1.23: P.1109(2525).
卷二 庚 1.23: P.1109(2525).
卷三 庚 1.23: P.1109(2525).
卷四 庚 1.23: P.1109(2525).
卷五 庚 1.23: P.1109(2525).
卷六 庚 1.23: P.1109(2525).
卷七 庚 1.23: P.1109(2525).
卷八 庚 1.23: P.1109(2525).
卷九 庚 1.23: P.1109(2525).
卷十 庚 1.23: P.1109(2525).
卷十一 庚 1.23: P.1109(2525).
卷十二 庚 1.23: P.1109(2525).
卷十三 庚 1.23: P.1109(2525).
卷十四 庚 1.23: P.1109(2525).
卷十五 庚 1.23: P.1109(2525).
卷十六 庚 1.23: P.1109(2525).
卷十七 庚 1.23: P.1109(2525).
卷十八 庚 1.23: P.1109(2525).
卷十九 庚 1.23: P.1109(2525).
卷二十 庚 1.23: P.1109(2525).
卷二十一 庚 1.23: P.1109(2525).
卷二十二 庚 1.23: P.1109(2525).
卷二十三 庚 1.23: P.1109(2525).
卷二十四 庚 1.23: P.1109(2525).
卷二十五 庚 1.23: P.1109(2525).
卷二十六 庚 1.23: P.1109(2525).
卷二十七 庚 1.23: P.1109(2525).
卷二十八 庚 1.23: P.1109(2525).
卷二十九 庚 1.23: P.1109(2525).
卷三十 庚 1.23: P.1109(2525).
卷三十一 庚 1.23: P.1109(2525).
卷三十二 庚 1.23: P.1109(2525).
卷三十三 庚 1.23: P.1109(2525).
卷三十四 庚 1.23: P.1109(2525).
卷三十五 庚 1.23: P.1109(2525).
卷三十六 庚 1.23: P.1109(2525).
卷三十七 庚 1.23: P.1109(2525).
卷三十八 庚 1.23: P.1109(2525).
卷三十九 庚 1.23: P.1109(2525).
卷四十 庚 1.23: P.1109(2525).
卷四十一 庚 1.23: P.1109(2525).
卷四十二 庚 1.23: P.1109(2525).
卷四十三 庚 1.23: P.1109(2525).
卷四十四 庚 1.23: P.1109(2525).
卷四十五 庚 1.23: P.1109(2525).
卷四十六 庚 1.23: P.1109(2525).
卷四十七 庚 1.23: P.1109(2525).
卷四十八 庚 1.23: P.1109(2525).
卷四十九 庚 1.23: P.1109(2525).
卷五十 庚 1.23: P.1109(2525).
卷五十一 庚 1.23: P.1109(2525).
卷五十二 庚 1.23: P.1109(2525).
卷五十三 庚 1.23: P.1109(2525).
卷五十四 庚 1.23: P.1109(2525).
卷五十五 庚 1.23: P.1109(2525).
卷五十六 庚 1.23: P.1109(2525).
卷五十七 庚 1.23: P.1109(2525).
卷五十八 庚 1.23: P.1109(2525).
卷五十九 庚 1.23: P.1109(2525).
卷六十 庚 1.23: P.1109(2525).
卷六十一 庚 1.23: P.1109(2525).
卷六十二 庚 1.23: P.1109(2525).
卷六十三 庚 1.23: P.1109(2525).
卷六十四 庚 1.23: P.1109(2525).
卷六十五 庚 1.23: P.1109(2525).
卷六十六 庚 1.23: P.1109(2525).
卷六十七 庚 1.23: P.1109(2525).
卷六十八 庚 1.23: P.1109(2525).
卷六十九 庚 1.23: P.1109(2525).
卷七十 庚 1.23: P.1109(2525).
卷七十一 庚 1.23: P.1109(2525).
卷七十二 庚 1.23: P.1109(2525).
卷七十三 庚 1.23: P.1109(2525).
卷七十四 庚 1.23: P.1109(2525).
卷七十五 庚 1.23: P.1109(2525).
卷七十六 庚 1.23: P.1109(2525).
卷七十七 庚 1.23: P.1109(2525).
卷七十八 庚 1.23: P.1109(2525).
卷七十九 庚 1.23: P.1109(2525).
卷八十 庚 1.23: P.1109(2525).
卷八十一 庚 1.23: P.1109(2525).
卷八十二 庚 1.23: P.1109(2525).
卷八十三 庚 1.23: P.1109(2525).
卷八十四 庚 1.23: P.1109(2525).
卷八十五 庚 1.23: P.1109(2525).
卷八十六 庚 1.23: P.1109(2525).
卷八十七 庚 1.23: P.1109(2525).
卷八十八 庚 1.23: P.1109(2525).
卷八十九 庚 1.23: P.1109(2525).
卷九十 庚 1.23: P.1109(2525).
卷九十一 庚 1.23: P.1109(2525).
卷九十二 庚 1.23: P.1109(2525).
卷九十三 庚 1.23: P.1109(2525).
卷九十四 庚 1.23: P.1109(2525).
卷九十五 庚 1.23: P.1109(2525).
卷九十六 庚 1.23: P.1109(2525).
卷九十七 庚 1.23: P.1109(2525).
卷九十八 庚 1.23: P.1109(2525).
卷九十九 庚 1.23: P.1109(2525).
卷一百 庚 1.23: P.1109(2525).

2759

十八册 象形自	1.3: P.1221(3018). 父乙自 1.4: P.961(2441). 子立折且乙自 1.5: P.76(2014). 父乙自 1.10: P.68(2086). 丙自 1.11: P.285(2400). 父乙自 1.19: P.159(2048).
十九册 辛舟凡癸自	1.10: P.1078(2511). 圖自 1.20: P.1096(2518).
二十册 父癸解	1.3: P.101(2017). 父辛解 1.12: P.346(2116).
二十一册 父癸解	1.4: P.469(2176).
二十二册 父癸解	1.6: P.735(2055). 酉形祖庚自 1.11: P.647(2271). 丙自 1.13: P.696(2307). 參戰人首形祖庚自 1.4: P.148(2039). 子形祖庚自 1.14: P.597(2243). 旗形單字父丙自 1.17: P.834(2376). 雀形父癸自 1.20: P.450(2163). 甲解自 1.22: P.1041(2486). 姚姓自 1.23: P.1904(3277).
二十三册 折木形姜父戊自	1.12: P.101(2467). 刀形父癸自 1.14: P.597(2243). 兕形祖己自 1.16: P.628(2462). 立戈形並形自 1.17: P.225(2089). 揚父

2758

十四畫
福政 福氏所藏甲骨文字釋文商承祚
陳邦懷 1.3: P.975(2453).
粹考 殷契粹考 郭沫若
1.10: P.510(2203). 1.158: P.554(2220). 1.200: P.1169(2560).
綜述 殷契粹考 郭沫若
1.440: P.595(2336). 1.478: P.2669(3637).
綴述 綴述 殷契粹考 郭沫若
1.440: P.595(2336). 1.478: P.2669(3637).
卷一 楚公 1.4: P.2410(3491). 號叔 1.7: P.217(3368).
卷二 父丙 1.7: P.983(2398).
卷三 父丙 1.7: P.983(2398).
卷四 勳季 1.6: P.2373(3473). 諸夫克鼎 1.31: P.1286(3445).

2760

卷五 亞形父辛鼎 p.4: p.294 (2110). 辛毛鼎 p.21: p.690 (2305).	卷六 析子孫通敵 p.19: p.1347 (3022).	卷七 仲子臣簋 p.3: p.2467 (3519). p.3: p.2563 (3581).	卷八 番君召簋 p.9: p.2389 (3483).	卷九 函帝生簋 p.32: p.1892 (3372).	卷十 鬲形足迹卣 p.5: p.985 (2400). 父辛簋諸卣 p.24: p.82 (206). 虎 形父己卣 p.26: p.463-464 (2172). 持朴祖戊卣 p.29: p.1559 (2501).	卷十一 子孫父癸卣 p.7: p.1620 (3005). 鷹刀形母卣 p.12: p.894 (2403).	卷十四 奉冊卣 p.1: p.923 (2420). 女虞卣 p.2: p.1120 (2534). 伯肅卣 p.12: p.2571 (3574). 亞形父辛簋蓋 p.20: p.40 (2134). 禽父戊簋 p.4: p.1161 (2552). 虎 父乙簋 p.25: p.2142 (3373). 季良父簋 p.29: p.1604 (3151). 麥簋 p.30: p.1157 (3123).	卷十六 立兵形觶 p.9: p.136 (2543). 案婦觶 p.31: p.2081 (3352).
---	----------------------------------	---	--------------------------------	---------------------------------	--	---	--	--

2761

卷十七 女鼎婦尊 p.20: p.1057 (2500). 小臣傳尊 p.28: p.1681 (3187).	卷十八 小臣犧尊 p.2: p.347 (2117). 玆父辛尊 p.5: p.2352 (3464). 虎 p.15: p.2633 (3620).	卷十九 子貞樂尊 p.23: p.210 (2077). 口夬形尊 p.26: p.463-464 (2172).	祖大爵 p.31: p.1109 (2525).	卷二十 五罍中爵 p.17: p.696 (2309). 口祖庚尊 p.20: p.646 (2271).	卷二十一 饗食簋父戊尊 p.1: p.872 (2391). 雞父癸尊 p.3: p.450 (2163). 虎 形父己尊 p.9: p.650 (2273). 獲爵父乙尊 p.13: p.626 (2261).	卷二十二 子麻父辛尊 p.9: p.1098 (2519). 達姑尊 p.29: p.1904 (3277).	卷二十三 子折父辛尊 p.15: p.205 (2076). 雞彝形父乙尊 p.16: p.672 (2363).	罕父辛尊 p.21: p.1067 (2506). 周垣重厘祖己尊 p.22: p.635 (2266). 子 尊形父己尊 p.28: p.1157 (2550).
---	--	---	-----------------------------	---	---	---	---	--

2762

卷二十四 婦士庚卣 p.9: p.1135 (2542).	卷二十五 東父丁卣 p.2: p.692 (2306).	卷二十六 鐵尊君卣 p.16: p.1626 (3160). p.16: p.1796 (3243).	卷二十七 邦父父卣 p.30: p.2574 (3589).	卷二十八 東獻簋 p.17: p.2492 (3537). 陳子木簋 p.18: p.2084 (3353).	說文月刊	第四卷 釋詁 王獻唐 p.65-67: p.283-289 (2109).	十五畫	增考 增訂殷虛書契考釋 羅振玉	中卷 p.4: p.1003-1004 (2468). p.41: p.1167 (2560).
----------------------------------	---------------------------------	--	-----------------------------------	---	------	--	-----	-----------------	---

2763

十六畫	導論 古文字學導論 唐蘭	下編 p.57: p.1105 (2522). p.39: p.381 (2122). p.39: p.384 (2124). p.40: p.425 (2148).	歷史研究	九五四年一期 壽縣出土楚簡文字研究 朱德熙 p.99-104: p.187 (2261).	積古齋藏書題跋 謝十卷 阮元	卷五 王主父丁尊 p.21: p.1218 (3017).	卷六 母士尊 p.4: p.1904 (3277). 日大角 p.15: p.341 (2115). 子孫父乙尊 p.17: p.76 (2005).
-----	--------------	---	------	--	----------------	----------------------------------	--

2764

卷三 楚員臣余數鐘 P.5: P.1351(3073), P.5: P.1851(3256), 周公華鐘 P.20: P.252(3573), P.5: P.2012(3320).
卷四 木鼎 P.1: P.2167(3382), 魚白杜鼎 P.9: P.1228(3023), 無專鼎 P.28: P.2367(3471), P.30: P.1346(3011).
卷五 取尊 P.2: P.1430(3096), 柏妃尊 P.37: P.2290(3438).
卷六 貞敦 P.3: P.1900(3375), 景敦 P.17: P.1341(3070), 卯敦 P.19: P.139(3085), P.13: P.2134(3370).
卷七 父燕簋 P.13: P.2134(3370), 景簋 P.9: P.1670(3179), 周距木 P.21: P.229(3403), P.10: P.222(3410).
積微 積微居金大說揚樹碑 全孟鼎四跋 P.61: P.1938(3292), 眉鼎跋 P.79: P.1226(3022), 殷饒再跋 P.156: P.41(3154), 光鼎跋 P.145: P.2073(3349), 鄧彝跋 P.166: P.2473-2074(3349), 鄒鐘尹鉞跋 P.232: P.2009(3319), 同殷跋 P.233: P.1722(3205), 陳猷釜跋 P.233: P.1722(3205).

2765

龜甲文字概論 陳夢家 P.70: P.1652(3172).
十七畫
舉例 吳文舉例 鼎前錄
上卷 P.7: P.974(2453).
下卷 P.15: P.1650(3172), P.33: P.735(2315), P.47: P.866(2389).
十八畫
關義說文關義錄 丁山
徐中舒 P.28: P.210-211(2077).

2767

辭三 殷契辭三 子省音 釋一 P.234: P.2357(3467), 子父乙彝跋 P.234: P.2492(3537), P.253: P.2116(3366).
辭四 殷契辭四 子省音 釋一 P.20-21: P.537-538(2212), 釋一 P.33-34: P.532-535(2211), 釋一 P.36-38(2257), P.978(2453).
辭五 殷契辭五 子省音 釋一 P.4-7: P.544(2218), 釋一 P.16-17: P.875-876(3392).
辭六 殷契辭六 子省音 釋一 P.15: P.947-949(2433), 釋一 P.20-22: P.1922-1924(3286), 釋一 P.28: P.445(2149), 釋一 P.28: P.348(2117).

2766

辭七 殷契辭七 子省音 釋一 P.234: P.2357(3467), 子父乙彝跋 P.234: P.2492(3537), P.253: P.2116(3366).
辭八 殷契辭八 子省音 釋一 P.20-21: P.537-538(2212), 釋一 P.33-34: P.532-535(2211), 釋一 P.36-38(2257), P.978(2453).
辭九 殷契辭九 子省音 釋一 P.4-7: P.544(2218), 釋一 P.16-17: P.875-876(3392).
辭十 殷契辭十 子省音 釋一 P.15: P.947-949(2433), 釋一 P.20-22: P.1922-1924(3286), 釋一 P.28: P.445(2149), 釋一 P.28: P.348(2117).

2768

卷下 二 旂作父戊康 $L_3: P.1329(3065)$ 征人康 $L_4: P.1195(3006)$ 我康
 $L_4: P.1478(3113)$ 小子昇康 $L_4: P.1454(3107)$ 刺康 $L_5: P.2264(3424)$ 井康 $L_{10}: P.4118(3283)$ 井康 $L_{10}: P.2855(3545)$ 小匡康 $P.11: P.1309(3087)$ 趙晉康 $L_{14}: P.1452(3077)$ 叔買康 $L_9: P.2360(3545)$ 卷下 二 龍鬲尊 $L_1: P.1231(3024)$ 雙父尊 $L_1: P.2157(3378)$ 敬尊 $L_1: P.1714(3385)$ 絲尊 $L_1: P.1349(2117)$ 世季受尊 $L_4: P.2078(3597)$ 香叔生尊 $L_6: P.1665(3177)$ 絲彝 $L_7: P.1250(3003)$ 丙彝 $L_8: P.289(2441)$ 小匡彝 $L_{10}: P.1294(3053)$ 效父彝 $L_{10}: P.2458(3577)$ 康彝 $L_{10}: P.1778(3244)$ 居頤康彝 $L_{11}: P.2153(3377)$ 原款殷 $L_{14}: P.1414(3097)$ 居頤康彝 $L_{14}: P.1233(3025)$ 美國殷 $L_{25}: P.1222(3019)$ 叔朕父殷 $L_{26}: P.2307(3446)$ 卷下 二 策簠 $L_6: P.1670(3179)$ 仲厥父簠 $L_6: P.2297(3442)$ 叔自 $L_8: P.2232(3410)$ 本伯卣 $L_{11}: P.1643(3170)$ 東周 $L_{11}: P.2437(3506)$ 木距 $L_{12}: P.2209(3403)$ $L_{11}: P.1247(3032)$

簞考 簞室 簞吳 簞文 考釋 王襄
 地望 7.7: P.865 (2389).
 十九畫
 攀古 攀古 攀古 攀古 攀古 攀古 攀古 攀古 攀古 攀古
 一冊 曹內小臣 張孝達 7.19: P.1754 (3219) 周孟伯 7.19: P.1754 (3219)
 簞王孟周孟伯 7.49: P.2295 (3441) 仲弛 簞張孝達 7.54: P.1387 (3083).
 7.54: P.2563 (3581).
 二冊 齊子中 姜 吳清卿 名大 7.7: P.861 (3259) 張孝達 7.13: P.1327
 簞古 簞古 簞古 簞古 簞古 簞古 簞古 簞古 簞古 簞古
 卷一 一冊 簞 7.5: P.708 (2313) 收 7.16: P.1075 (2509) 7.21: P.690
 (2506) 7.34: P.658 (2281) 7.34: P.210 (2077) 7.34: P.109

(2525). 升西 $\pm 44 = P.316 (2112)$.

卷一之十一 至乙爵 $\pm 16 = P.415 (2147)$. 女子爵 $\pm 16 = P.1904 (3277)$. 具父己爵

$\pm 22 = P.650 (2273)$. 羊形爵 $\pm 26 = P.582 (2235)$. 牛廟前 $\pm 32 = P.1076 (3578)$. 祖戊

前 $\pm 34 = P.1057 (2201)$. 父戊查 $\pm 38 = P.1161 (2552)$. 東鼎 $\pm 46 = P.283 (2299)$. 南

乘 $\pm 51 = P.1347 (3972)$. 至子父己解 $\pm 57 = P.422 (2465)$. 子父丁解 $\pm 62 = P.1148$

其單父丙爵 $\pm 62 = P.234 (2376)$. 東父丙爵 $\pm 63 = P.210 (2077)$. 子父己解 $\pm 67 = P.$

子孫父乙救 $\pm 78 = P.76 (2005)$. 父丰查應盛 $\pm 81 = P.411 (2134)$.

卷一之十二 為父爵 $\pm 15 = P.2576 (3604)$. 亞形日大尊 $\pm 21 = P.1013 (2472)$. 女

庚酉 $\pm 25 = P.1180 (2541)$. 獲其妹康觀 $\pm 32 = P.831 (2375)$. 子丁父甲查 $\pm 33 = P.$

冊父己鼎 $\pm 43 = P.1144 (2546)$. 羊父乙解 $\pm 46 = P.2467 (3520)$. 孫女解 $\pm 47 = P.$

朋爵 $\pm 48 = P.2460 (3430)$. 西弟生觀 $\pm 60 = P.1872 (3272)$. 敬王查 $\pm 60 = P.2375 (3441)$

遂未置 $\pm 63 = P.1319 (3060)$.

$\pm 63 = P.1778 (2237)$.

表二之十一木鼎	上: F. 2167 (3382), 次出建解	上: G. F. 12286 (3225), 永尊	上: P. 1544 (3186)
占南	上: 12: P. 2486 (3331), 田強敦	上: 12: P. 1360 (3017), 文戈父丁孟	上: 14: P. 2078 (3150)
董伯彝	上: 22: P. 797 (3252), 日庚父癸彝	上: 22: P. 886 (3202), 父癸宗彝	上: 23: P. 1534 (3150)
父辛匜	上: 21: P. 2345 (3461), 距末	上: 31: P. 2209 (3403), 刺卣敦	上: 41: P. 1690 (3190)
叔孟鼎	上: 48: P. 1733 (3248), 貞敦	上: 51: P. 1908 (3275), 叔友父敦	上: 52: P. 1650 (3172)
伯就敦	上: 85: P. 7176 (32244), 豐華敦	上: 73: P. 2306 (3445)	
表二之十二丙申父癸月	上: 24: P. 1421 (3094), 戊寅父丁鼎	上: 56: P. 1421 (3094), 上: 66: P. 641 (2247)	
象伯卣簋	上: 59: P. 1643 (3170), 白庚簋	上: 35: P. 1572 (3137), 癸未尊	上: 61: P. 1093 (3449)
周誅生敦	上: 62: P. 1895 (3273), 長生敦	上: 63: P. 2258 (3562)	
卷二之十三周彝	上: 6: 7180 (3243), 銜尊	上: 46: P. 2615 (3610), 尊敦	上: 47: P. 1341 (3070)
無叔敦	上: 74: P. 1606 (3152), 上: 74: P. 2534 (3563), 大保敦	上: 83: P. 1513 (3059)	
戊辰彝	上: 96: P. 1250 (3033), 上: 96: P. 2262 (3423)		

正編五卷 p. 25 : p. 278 (2109).

大鼻 $\uparrow 1 = P.618 (2557)$. 郝公華廬 $\uparrow 20 = P.2552 (3573)$. 重鼎 $\uparrow 27 = P.210 (2077)$

創叔葬 1.274: P.169 (3190). 邢侯葬 1.278: P.210 (2077). 史季良葬 1.296: P.289 (2110). (2306).

觀堂集林卷六釋函 頁28 頁834(2376)

觀堂集林卷六 釋西 2.28 p. 834 (2376).

全文詁林附錄引用諸家索引凡例

- 一 本索引將全文詁林附錄引用諸家全部按姓名筆畫排列。
- 二 每家下按全文詁林引用諸家索引見全文詁林所列著作全部抄錄。凡為本附錄所徵引之書，於書名右上方加三角形以別之。
- 三 各家下加註全文詁林所未收而見於本附錄之書名，於書名右上方加星號以別之。
- 四 某家之說自他人所著之書轉引者，則在該人下所註書名後加「引」字以別之。例如張孝達之說自潘祖蔭《琴古樓琴器歌》轉引，則在「張孝達」下註明「琴古引」。
- 五 全文詁林引用諸家索引中將本附錄所引用之諸家列入，並註明本附錄字號，但未註明頁數，今為便利讀者檢查起見。

2777

一一補註頁數，而於P字下加橫綫以別之。例如「丁山條下」[P. 8-24 (2001), P. 426 (2148)]，意為本附錄第8至24頁字號2001下引用丁山之說，此字號已見於全文詁林引用諸家索引「丁山」條下，但未註明頁數，故於P字下加橫綫，但本附錄426頁字號2148則未見於全文詁林引用諸家索引中。

2778

全文詁林附錄引用諸家索引目錄

丁	二畫	2783
于	三畫	2784
方	四畫	2785
王	五畫	2788
北	六畫	2790
田	七畫	
白	八畫	

2779

余	七畫	2791
吳	八畫	
屈	九畫	
林	十畫	
金	十一畫	
柯	十二畫	2808
孫	十三畫	
容	十四畫	2810
徐	十五畫	
馬	十六畫	
唐	十七畫	
晏	十八畫	
張	十九畫	2818
許	二十畫	
郭	二十一畫	
陳	二十二畫	

2780

田重
方濟益

P. 5-6 (2001), P. 6-7 (2001), P. 6 (2005), P. 12 (2006), P. 13 (2007), P. 18 (2010), P. 94
 (2014), P. 103-104 (2018), P. 104 (2018), P. 107-108 (2019), P. 108 (2020), P. 113 (2023),
 P. 119 (2026), P. 119 (2028), P. 140 (2037), P. 146 (2039), P. 156 (2045), P. 158 (2047),
 P. 176 (2062), P. 177 (2063), P. 201 (2074), P. 205 (2076), P. 206-207 (2077), P. 210 (2077),
 P. 216 (2081), P. 227 (2091), P. 231-232 (2093), P. 240 (2097), P. 245 (2100), P. 253 (2105),
 P. 260 (2108), P. 267 (2109), P. 294 (2110), P. 301 (2112), P. 301 (2112), P. 321 (2113),
 P. 326 (2108), P. 345 (2116), P. 347 (2117), P. 350 (2118), P. 359 (2119), P. 372-373
 (2121), P. 383 (2142), P. 389-390 (2128), P. 401 (2144), P. 403-404 (2135), P. 413-414
 (2141), P. 422 (2145), P. 439 (2150), P. 447 (2163), P. 447 (2163), P. 450 (2163), P. 454
 (2166), P. 459 (2169), P. 463-464 (2172), P. 489-490 (2199), P. 494 (2191), P. 497 (2193), P. 498
 (2202), P. 509 (2203), P. 518 (2205), P. 526 (2210), P. 526-529 (2210), P. 563-563 (2206),
 P. 570 (2228), P. 573 (2229), P. 574 (2243), P. 575 (2243), P. 575 (2243), P. 575 (2243),
 (2244), P. 621 (2259), P. 624 (2260), P. 626 (2261), P. 627 (2262), P. 629 (2263), P. 629 (2264),
 P. 635 (2266), P. 646 (2271), P. 650 (2273), P. 656 (2279), P. 659 (2281), P. 660 (2282),
 P. 663 (2283), P. 665 (2285), P. 668 (2286), P. 674 (2299), P. 678 (2299), P. 680 (2299),
 P. 690 (2305), P. 691-692 (2306), P. 692 (2306), P. 698 (2309), P. 699 (2310), P. 704-705
 (2313), P. 705 (2313), P. 714 (2314), P. 714 (2328), P. 715 (2325), P. 721 (2334), P. 777-778
 (2343), P. 806 (2360), P. 807 (2361), P. 813 (2365), P. 817 (2367), P. 838 (2376), P. 836 (2377),
 P. 844 (2380), P. 850 (2383), P. 856 (2385), P. 872 (2391), P. 883 (2398), P. 885 (2400),
 P. 882 (2403), P. 894 (2403), P. 895 (2444), P. 910 (2413), P. 923 (2420), P. 961 (2441),

王獻唐 簠考 續集
P278(2109), P285(2289), P1650(3172).
王獻唐 中國文字考古 簠 簠 簠 文月刊
P283-289(2109), P304-316(2112), P361(2119), P819-820(2867), P1324(3063),
P1612-1614(3155), P2256-2257(2437).

五書
加藤常賢 中國文字
P.21-45 (2001), P.197-200 (2073), P.350-351 (2118),
北洞文物發掘小組 考古
P.104 (2472), P.1100-1101 (2520),
田倩君 中國文字叢刊
P.99 (2016), P.2190 (3393),
白川靜 中國文字集刊 金文通釋
P.26 (2001), P.78-79 (2005), P.364-366 (2120), P.738 (2315), P.810-811 (2363), P.922 (2420), P.1085-1087 (2514), P.1155-1166 (3001), P.1242 (3028), P.1260-1262 (3037), P.1281-1282 (3044), P.1291 (3047), P.1306 (3055), P.1314-1316 (3059), P.1447-1449 (3066), P.1505-1507 (3122), P.1507-1508 (3122), P.1518-1520 (3123), P.1530-1531 (3123), P.1532 (3123), P.1561-1563 (3135), P.1564-1565 (3143), P.1570 (3146), P.1602-1603 (3150), P.1606-1607 (3153), P.1718-1719 (3203), P.1768 (3225), P.1773-1775 (3228), P.1834-1835 (3292), P.1835-1837 (3353), P.1847-1850 (3353), P.1909-1911 (3278), P.1940 (3292), P.1954-1955 (3299), P.1967 (3304), P.2005-2006 (3346), P.2010-2011 (3348), P.2104 (3358), P.2145-2148 (3315), P.2151 (3376),

1

吳大澂古籀補遺古籀補附錄字說憲齋憲齋臚稿琴古

P.594(2003), P.96(2014), P.101(2017), P.148(2037), P.159(2040), P.207(2077), P.216(2082), P.225(2089), P.243(2099), P.248(2101), P.268(2109), P.301(2112), P.346(2116), P.339(2119), P.363(2120), P.373(2121), P.380(2128), P.414(2141), P.423(2145), P.447-448(2163), P.550(2163), P.455(2166), P.448(2176), P.577(2231), P.583(2236), P.590(2240), P.592(2242), P.593(2243), P.597(2245), P.607(2250), P.614(2260), P.628(2262), P.628(2262), P.628(2262), P.641(2267), P.646(2271), P.647(2271), P.648(2272), P.668(2286), P.696(2309), P.698(2310), P.705(2313), P.715-716(2314), P.717(2314), P.717(2314), P.735(2315), P.750(2316), P.749(2324), P.751(2325), P.809(2365), P.817(2367), P.814(2376), P.844(2380), P.846(2381), P.857(2385), P.862(2389), P.862(2389), P.872(2391), P.885(2400), P.896(2404), P.909(2412), P.961(2441), P.991(2460), P.1001(2467), P.1029(2480), P.1040(2486), P.1041(2486), P.1046(2497), P.1076(2510), P.1078(2511), P.1088(2516), P.1090(2516), P.1092(2518), P.1066(2518), P.1108(2525), P.1127(2527), P.1128(2541), P.1183(3001), P.1197(3007), P.1211(3014), P.1221(3018), P.1225(3022), P.1269(3061), P.1277(3043), P.1297(3051), P.1302(3053), P.1313(3059), P.1326(3064), P.1336(3064), P.1377(3088), P.1398(3088), P.1418(3094), P.1419(3094), P.1450(3106), P.1468(3108), P.1473(3110)

P.297(2111), P.734(2315), P.874-875(2352), P.1030-1031(2486), P.1035(2482),
 P.1041(2486), P.1411-1412(3001), P.1421(3094), P.1716-1717(3202), P.2050-2022
 (3322), P.2021-2022(3324), P.2437(3505), P.2614-2615(3610),
 P.2672-2673(3638).
 歷史研究 考據文物
 朱德熙 P.1676(3184), P.1693-1696(3191), P.1864-1877(3261), P.1872-1875(3261), P.2419
 2421(3498).

P.1491(3118), P.1544(3131), P.15701(3137), P.1590(3150), P.1600(3151), P.1648(3170),
 P.1671(3180), P.1677(3180), P.1690(3187), P.1681(3187), P.1702(3196), P.1705(3201),
 P.1715(3201), P.1723(3206), P.1761(3222), P.1761(3224), P.1774(3242), P.1798(3244),
 P.1809(3246), P.1806(3247), P.18101(3247), P.1811(3247), P.1839(3247), P.1839(3247),
 P.1861(3259), P.1887(3267), P.1888(3267), P.1894(3273), P.1904(3277), P.1913(3280),
 P.1933(3292), P.1934(3292), P.1942-1943(3294), P.1943(3294), P.1951(3299), P.1966
 (3300), P.1964(3303), P.1974(3312), P.2010(3320), P.2041(3327), P.2060(3343), P.2073
 (3349), P.2075(3350), P.2081(3352), P.2083(3353), P.2085(3354), P.2097
 (3355), P.2118(3366), P.2119(3367), P.2134(3370), P.2149(3376), P.2151(3376), P.2161
 (3382), P.2186(3392), P.2187(3392), P.2190(3393), P.2191(3394), P.2208(3402), P.2218
 (3402), P.2220(3404), P.2220(3404), P.2224(3415), P.2224(3415), P.2229(3422), P.2232
 (3435), P.2228(3437), P.2231(3448), P.2238(3455), P.2243-2244(3461), P.2245(3461),
 P.2254(3466), P.2256(3467), P.2256(3467), P.2263(3471), P.2266(3480), P.2266(3486),
 P.2276(3486), P.2280(3491), P.2247(3519), P.2247(3524), P.2247(3528), P.2258(3577),
 P.2259(3604), P.2318(3611), P.2318(3611), P.2359(3630).

吳式芬據古

P.76(2005), P.153(2043), P.210(2077), P.231(2095), P.244(2100), P.316(2112),
P.401(2134), P.415(2141), P.422(2145), P.430(2152), P.496(2191), P.525-526

(2210), P.573(2229), P.582(2235), P.587(2237), P.597(2243), P.614(2257), P.690(2440), P.641(2267), P.650(2273), P.658(2281), P.663(2299), P.686(2302), P.690(2305), P.708(2313), P.780(2343), P.797(2352), P.831(2375), P.834(2376), P.1013(2472), P.1020(2476), P.1059(2501), P.1075(2509), P.1096(2518), P.1109(2536), P.1130(2541), P.1135(2542), P.1146(2546), P.1148(2547), P.1161(2553), P.1205(3011), P.1248(3023), P.1250(3033), P.1253(3034), P.1293(3049), P.1313(3057), P.1319(3060), P.1341(3070), P.1347(3072), P.1360(3077), P.1396(3088), P.1408(3090), P.1421(3094), P.1543(3100), P.1572(3137), P.1593(3148), P.1599(3150), P.1604(3151), P.1666(3155), P.1668(3170), P.1670(3172), P.1670(3179), P.1686(3188), P.1690(3190), P.1733(3208), P.1762(3224), P.1763(3227), P.1766(3237), P.1828(3251), P.1847(3255), P.1859(3258), P.1883(3267), P.1892(3277), P.1895(3213), P.1897(3214), P.1900(3215), P.1904(3277), P.1929(3287), P.2005(3316), P.2054(3339), P.2078(3350), P.2137(3371), P.2149(3376), P.2161(3382), P.2185(3391), P.2186(3392), P.2209(3403), P.2211(3405), P.2211(3405), P.2222(3410), P.2241(3415), P.2262(3423), P.2269(3426), P.2284(3437), P.2299(3441), P.2306(3445), P.2310(3448), P.2327(3455), P.2345(3461), P.2449(3520), P.2474(3523), P.2483(3531), P.2488(3534), P.2506(3546), P.2513(3550), P.2528(3562), P.2534(3563), P.2540-2541(3567), P.2558(3577), P.2584(3597), P.2596(3604), P.2597(3605), P.2615(3610), P.2640(3624), P.2643(3627), P.2660(3630).
<p> पुस्तक संख्या P.376-380(2122), P.545-553(2219), P.614-617(2237), P.619-641(2267), P.1280-1281(3044), P.1661(3176), P.1677(3185), P.1896-1897(3274), P.1978-1981(3310). </p>

<p> पुस्तक संख्या P.713-714(2314), P.807(2361), P.1341(3070), P.1689(3190), P.1855-1857(3258), P.1962-1964(3303). </p>
<p> पुस्तक संख्या P.4-5(2001), P.299(2112), P.299(2112), P.337-338(2115), P.387(2127), P.599(2203), P.518(2205), P.624(2260), P.681(2290), P.772-773(2242), P.777(2243), P.1010(2472), P.1056(2500), P.1076(2510), P.1148(2547), P.1159-1160(2552), P.1353(3075), P.1355(3076), P.1451(3107), P.1683(3188), P.1689(3190), P.1735(3210), P.1896(3274), P.1962(3303), P.2005(3316), P.2139(3371), P.2154(3378), P.2249-2250(3417), P.2327(3455), P.2336(3457), P.2343(3461), P.2525(3559), P.2641(3625). </p>
<p> पुस्तक संख्या P.24-25(2001), P.64(2005), P.274(2109), P.303(2112), P.639(2267), P.709(2313), P.1155(3006), P.1199(3007), P.1211(3014), P.1231(3024), P.1233(3025), P.1234(3026), P.1247(3032), P.1250(3033), P.1286(3045), P.1286-1297(3051), P.1313(3059), P.1329(3065), P.1333(3067), P.1346(3071), P.1357(3076), P.1357(3076), P.1390(3085), P.1392(3086), P.1402(3088), P.1410(3090), P.1414(3091), P.1441-1442(3094), P.1450(3096), P.1453(3097), P.1499(3121), P.1529(3126), P.1541(3129), P.1547(3131), P.1587(3145), P.1588(3146), P.1599(3150), P.1604(3151), P.1610(3154), P.1624(3159), P.1629(3161), P.1633(3164), P.1644(3170), P.1646(3171), P.1655(3173), P.1661(3176), P.1670(3179), P.1686(3188), P.1690(3190), P.1733(3208), P.1762(3224), P.1763(3227), P.1766(3237), P.1828(3251), P.1847(3255), P.1859(3258), P.1883(3267), P.1892(3277), P.1895(3213), P.1897(3214), P.1900(3215), P.1904(3277), P.1929(3287), P.2005(3316), P.2054(3339), P.2078(3350), P.2137(3371), P.2149(3376), P.2161(3382), P.2185(3391), P.2186(3392), P.2209(3403), P.2211(3405), P.2211(3405), P.2222(3410), P.2241(3415), P.2262(3423), P.2269(3426), P.2284(3437), P.2299(3441), P.2306(3445), P.2310(3448), P.2327(3455), P.2345(3461), P.2449(3520), P.2474(3523), P.2483(3531), P.2488(3534), P.2506(3546), P.2513(3550), P.2528(3562), P.2534(3563), P.2540-2541(3567), P.2558(3577), P.2584(3597), P.2596(3604), P.2597(3605), P.2615(3610), P.2640(3624), P.2643(3627), P.2660(3630). </p>

<p> पुस्तक संख्या P.2102(3458), P.2105(3459), P.2113(3463), P.2118(3472), P.2208(3403), P.2222(3410), P.2232(3433), P.2235(3437), P.2236(3438), P.2297(3442), P.2304(3444), P.2307(3446), P.2334(3456), P.2334(3456), P.2337(3467), P.2371(3472), P.2375(3474), P.2404(3487), P.2437(3502), P.2450(3513), P.2452(3514), P.2492(3537), P.2505(3545), P.2506(3546), P.2515(3551), P.2560(3578), P.2566(3583), P.2587(3598), P.2625(3614), P.2641(3620), P.2649(3627). </p>
<p> पुस्तक संख्या P.1447(3117), P.1547(3131), P.1646(3171), P.1841(3254), P.1938(3299), P.1953(3299), P.2090(3335). </p>
<p> पुस्तक संख्या P.47(2001), P.47-54(2001), P.571(2002), P.60(2004), P.76-78(2005), P.82(2006), P.85(2007), P.86(2008), P.87(2009), P.88(2010), P.90(2011), P.91(2012), P.92-93(2013), P.95(2014), P.97(2015), P.100(2016), P.101-102(2017), P.105-106(2018), P.108(2019), P.109(2020), P.110(2021), P.112(2022), P.113(2023), P.115-116(2024), P.116(2025), P.123-127(2026), P.128(2027), P.129-130(2028), P.131(2029), P.132(2030), P.133-134(2031), P.135(2032), P.136(2033), P.137(2034), P.138(2035), P.139(2036), P.142-143(2037), P.144-149(2039), P.150(2040), P.151(2041), P.152(2042), P.153-154(2043), P.155(2044), P.156(2045), P.157(2046), P.158(2047), P.159(2048), P.161(2049), P.162(2050), P.163(2051), P.164(2052), P.165(2053), P.166(2054), P.167(2055), P.170(2056), P.171(2057), P.172(2058), P.173(2059), P.174(2060), P.175(2061), P.176(2062), P.177(2063), P.178(2064), P.179(2065), P.180(2066), P.181(2067), P.182(2068), P.183-184(2069), P.185(2070), P.186(2071), P.187-188(2072), P.189(2073), P.190(2074), P.191(2075), P.192(2076), P.193(2077), P.194(2078), P.195(2079), P.196(2080), P.197(2081), P.198(2082), P.199(2083), P.200(2084), P.201(2085), P.202(2086), P.203(2087), P.204(2088), P.205(2089), P.206(2090), P.207(2091), P.208(2092), P.209(2093), P.210(2094), P.211(2095), P.212(2096), P.213(2097), P.214(2098), P.215(2099), P.216(2100), P.217(2101), P.218(2102), P.219(2103), P.220(2104), P.221(2105), P.222(2106), P.223(2107), P.224(2108), P.225(2109), P.226(2110), P.227(2111), P.228(2112), P.229(2113), P.230(2114), P.231(2115), P.232(2116), P.233(2117), P.234(2118), P.235(2119), P.236(2120), P.237(2121), P.238(2122), P.239(2123), P.240(2124), P.241(2125), P.242(2126), P.243(2127), P.244(2128), P.245(2129), P.246(2130), P.247(2131), P.248(2132), P.249(2133), P.250(2134), P.251(2135), P.252(2136), P.253(2137), P.254(2138), P.255(2139), P.256(2140), P.257(2141), P.258(2142), P.259(2143), P.260(2144), P.261(2145), P.262(2146), P.263(2147), P.264(2148), P.265(2149), P.266(2150), P.267(2151), P.268(2152), P.269(2153), P.270(2154), P.271(2155), P.272(2156), P.273(2157), P.274(2158), P.275(2159), P.276(2160), P.277(2161), P.278(2162), P.279(2163), P.280(2164), P.281(2165), P.282(2166), P.283(2167), P.284(2168), P.285(2169), P.286(2170), P.287(2171), P.288(2172), P.289(2173), P.290(2174), P.291(2175), P.292(2176), P.293(2177), P.294(2178), P.295(2179), P.296(2180), P.297(2181), P.298(2182), P.299(2183), P.300(2184), P.301(2185), P.302(2186), P.303(2187), P.304(2188), P.305(2189), P.306(2190), P.307(2191), P.308(2192), P.309(2193), P.310(2194), P.311(2195), P.312(2196), P.313(2197), P.314(2198), P.315(2199), P.316(2200), P.317(2201), P.318(2202), P.319(2203), P.320(2204), P.321(2205), P.322(2206), P.323(2207), P.324(2208), P.325(2209), P.326(2210), P.327(2211), P.328(2212), P.329(2213), P.330(2214), P.331(2215), P.332(2216), P.333(2217), P.334(2218), P.335(2219), P.336(2220), P.337(2221), P.338(2222), P.339(2223), P.340(2224), P.341(2225), P.342(2226), P.343(2227), P.344(2228), P.345(2229), P.346(2230), P.347(2231), P.348(2232), P.349(2233), P.350(2234), P.351(2235), P.352(2236), P.353(2237), P.354(2238), P.355(2239), P.356(2240), P.357(2241), P.358(2242), P.359(2243), P.360(2244), P.361(2245), P.362(2246), P.363(2247), P.364(2248), P.365(2249), P.366(2250), P.367(2251), P.368(2252), P.369(2253), P.370(2254), P.371(2255), P.372(2256), P.373(2257), P.374(2258), P.375(2259), P.376(2260), P.377(2261), P.378(2262), P.379(2263), P.380(2264), P.381(2265), P.382(2266), P.383(2267), P.384(2268), P.385(2269), P.386(2270), P.387(2271), P.388(2272), P.389(2273), P.390(2274), P.391(2275), P.392(2276), P.393(2277), P.394(2278), P.395(2279), P.396(2280), P.397(2281), P.398(2282), P.399(2283), P.400(2284), P.401(2285), P.402(2286), P.403(2287), P.404(2288), P.405(2289), P.406(2290), P.407(2291), P.408(2292), P.409(2293), P.410(2294), P.411(2295), P.412(2296), P.413(2297), P.414(2298), P.415(2299), P.416(2300), P.417(2301), P.418(2302), P.419(2303), P.420(2304), P.421(2305), P.422(2306), P.423(2307), P.424(2308), P.425(2309), P.426(2310), P.427(2311), P.428(2312), P.429(2313), P.430(2314), P.431(2315), P.432(2316), P.433(2317), P.434(2318), P.435(2319), P.436(2320), P.437(2321), P.438(2322), P.439(2323), P.440(2324), P.441(2325), P.442(2326), P.443(2327), P.444(2328), P.445(2329), P.446(2330), P.447(2331), P.448(2332), P.449(2333), P.450(2334), P.451(2335), P.452(2336), P.453(2337), P.454(2338), P.455(2339), P.456(2340), P.457(2341), P.458(2342), P.459(2343), P.460(2344), P.461(2345), P.462(2346), P.463(2347), P.464(2348), P.465(2349), P.466(2350), P.467(2351), P.468(2352), P.469(2353), P.470(2354), P.471(2355), P.472(2356), P.473(2357), P.474(2358), P.475(2359), P.476(2360), P.477(2361), P.478(2362), P.479(2363), P.480(2364), P.481(2365), P.482(2366), P.483(2367), P.484(2368), P.485(2369), P.486(2370), P.487(2371), P.488(2372), P.489(2373), P.490(2374), P.491(2375), P.492(2376), P.493(2377), P.494(2378), P.495(2379), P.496(2380), P.497(2381), P.498(2382), P.499(2383), P.500(2384), P.501(2385), P.502(2386), P.503(2387), P.504(2388), P.505(2389), P.506(2390), P.507(2391), P.508(2392), P.509(2393), P.510(2394), P.511(2395), P.512(2396), P.513(2397), P.514(2398), P.515(2399), P.516(2400), P.517(2401), P.518(2402), P.519(2403), P.520(2404), P.521(2405), P.522(2406), P.523(2407), P.524(2408), P.525(2409), P.526(2410), P.527(2411), P.528(2412), P.529(2413), P.530(2414), P.531(2415), P.532(2416), P.533(2417), P.534(2418), P.535(2419), P.536(2420), P.537(2421), P.538(2422), P.539(2423), P.540(2424), P.541(2425), P.542(2426), P.543(2427), P.544(2428), P.545(2429), P.546(2430), P.547(2431), P.548(2432), P.549(2433), P.550(2434), P.551(2435), P.552(2436), P.553(2437), P.554(2438), P.555(2439), P.556(2440), P.557(2441), P.558(2442), P.559(2443), P.560(2444), P.561(2445), P.562(2446), P.563(2447), P.564(2448), P.565(2449), P.566(2450), P.567(2451), P.568(2452), P.569(2453), P.570(2454), P.571(2455), P.572(2456), P.573(2457), P.574(2458), P.575(2459), P.576(2460), P.577(2461), P.578(2462), P.579(2463), P.580(2464), P.581(2465), P.582(2466), P.583(2467), P.584(2468), P.585(2469), P.586(2470), P.587(2471), P.588(2472), P.589(2473), P.590(2474), P.591(2475), P.592(2476), P.593(2477), P.594(2478), P.595(2479), P.596(2480), P.597(2481), P.598(2482), P.599(2483), P.600(2484), P.601(2485), P.602(2486), P.603(2487), P.604(2488), P.605(2489), P.606(2490), P.607(2491), P.608(2492), P.609(2493), P.610(2494), P.611(2495), P.612(2496), P.613(2497), P.614(2498), P.615(2499), P.616(2500), P.617(2501), P.618(2502), P.619(2503), P.620(2504), P.621(2505), P.622(2506), P.623(2507), P.624(2508), P.625(2509), P.626(2510), P.627(2511), P.628(2512), P.629(2513), P.630(2514), P.631(2515), P.632(2516), P.633(2517), P.634(2518), P.635(2519), P.636(2520), P.637(2521), P.638(2522), P.639(2523), P.640(2524), P.641(2525), P.642(2526), P.643(2527), P.644(2528), P.645(2529), P.646(2530), P.647(2531), P.648(2532), P.649(2533), P.650(2534), P.651(2535), P.652(2536), P.653(2537), P.654(2538), P.655(2539), P.656(2540), P.657(2541), P.658(2542), P.659(2543), P.660(2544), P.661(2545), P.662(2546), P.663(2547), P.664(2548), P.665(2549), P.666(2550), P.667(2551), P.668(2552), P.669(2553), P.670(2554), P.671(2555), P.672(2556), P.673(2557), P.674(2558), P.675(2559), P.676(2560), P.677(2561), P.678(2562), P.679(2563), P.680(2564), P.681(2565), P.682(2566), P.683(2567), P.684(2568), P.685(2569), P.686(2570), P.687(2571), P.688(2572), P.689(2573), P.690(2574), P.691(2575), P.692(2576), P.693(2577), P.694(2578), P.695(2579), P.696(2580), P.697(2581), P.698(2582), P.699(2583), P.700(2584), P.701(2585), P.702(2586), P.703(2587), P.704(2588), P.705(2589), P.706(2590), P.707(2591), P.708(2592), P.709(2593), P.710(2594), P.711(2595), P.712(2596), P.713(2597), P.714(2598), P.715(2599), P.716(2600), P.717(2601), P.718(2602), P.719(2603), P.720(2604), P.721(2605), P.722(2606), P.723(2607), P.724(2608), P.725(2609), P.726(2610), P.727(2611), P.728(2612), P.729(2613), P.730(2614), P.731(2615), P.732(2616), P.733(2617), P.734(2618), P.735(2619), P.736(2620), P.737(2621), P.738(2622), P.739(2623), P.740(2624), P.741(2625), P.742(2626), P.743(2627), P.744(2628), P.745(2629), P.746(2630), P.747(2631), P.748(2632), P.749(2633), P.750(2634), P.751(2635), P.752(2636), P.753(2637), P.754(2638), P.755(2639), P.756(2640), P.757(2641), P.758(2642), P.759(2643), P.760(2644), P.761(2645), P.762(2646), P.763(2647), P.764(2648), P.765(2649), P.766(2650), P.767(2651), P.768(2652), P.769(2653), P.770(2654), P.771(2655), P.772(2656), P.773(2657), P.774(2658), P.775(2659), P.776(2660), P.777(2661), P.778(2662), P.779(2663), P.780(2664), P.781(2665), P.782(2666), P.783(2667), P.784(2668), P.785(2669), P.786(2670), P.787(2671), P.788(2672), P.789(2673), P.790(2674), P.791(2675), P.792(2676), P.793(2677), P.794(2678), P.795(2679), P.796(2680), P.797(2681), P.798(2682), P.799(2683), P.800(2684), P.801(2685), P.802(2686), P.803(2687), P.804(2688), P.805(2689), P.806(2690), P.807(2691), P.808(2692), P.809(2693), P.810(2694), P.811(2695), P.812(2696), P.813(2697), P.814(2698), P.815(2699), P.816(2700), P.817(2701), P.818(2702), P.819(2703), P.820(2704), P.821(2705), P.822(2706), P.823(2707), P.824(2708), P.825(2709), P.826(2710), P.827(2711), P.828(2712), P.829(2713), P.830(2714), P.831(2715), P.832(2716), P.833(2717), P.834(2718), P.835(2719), P.836(2720), P.837(2721), P.838(2722), P.839(2723), P.840(2724), P.841(2725), P.842(2726), P.843(2727), P.844(2728), P.845(2729), P.846(2730), P.847(2731), P.848(2732), P.849(2733), P.850(2734), P.851(2735), P.852(2736), P.853(2737), P.854(2738), P.855(2739), P.856(2740), P.857(2741), P.858(2742), P.859(2743), P.860(2744), P.861(2745), P.862(2746), P.863(2747), P.864(2748), P.865(2749), P.866(2750), P.867(2751), P.868(2752), P.869(2753), P.870(2754), P.871(2755), P.872(2756), P.873(2757), P.874(2758), P.875(2759), P.876(2760), P.877(2761), P.878(2762), P.879(2763), P.880(2764), P.881(2765), P.882(2766), P.883(2767), P.884(2768), P.885(2769), P.886(2770), P.88</p>

P.564(22227), P.571(22248), P.575(22249), P.576(22350), P.578(22341), P.579(22353), P.580(22333), P.581(22344), P.582(22355), P.584(22366), P.587(22377), P.588(22388), P.589(22399), P.590(22400), P.591(22411), P.593(22443), P.597(22443), P.599(22444), P.603(22466), P.604(22477), P.605(22488), P.606(22499), P.607(22500), P.608(22511), P.609(22522), P.610(22533), P.611(22544), P.612(22555), P.613(22566), P.618(22577), P.620(22588), P.621(22599), P.625(22600), P.628(22603), P.629(22614), P.632(22664), P.633(22655), P.635(22666), P.641(22677), P.643(22688), P.644(22669), P.645(22700), P.647(22711), P.648-649(22722), P.650(22733), P.651(22744), P.652(22755), P.653(22766), P.654(22777), P.655(22788), P.656(22799), P.657(22800), P.659(22811), P.662(22822), P.663(22833), P.664(22844), P.667(22855), P.668(22866), P.669(22877), P.670(22888), P.671(22899), P.672(22900), P.673(22911), P.675(22922), P.676(22933), P.677(22944), P.678(22955), P.679(22966), P.680(22977), P.681(22988), P.683(22999), P.684(23000), P.685(23011), P.686(23022), P.687(23033), P.688(23044), P.689(23055), P.690(23066), P.692(23077), P.694(23088), P.695(23099), P.697(23100), P.700(23111), P.701(23122), P.709(23133), P.722-724(23144), P.737-738(23155), P.760(23166), P.761(23177), P.763(23188), P.764(23199), P.765(23200), P.766(23211), P.767(23222), P.768(23233), P.769(23244), P.770(23255), P.771(23266), P.772(23277), P.773(23288), P.774(23299), P.775(23300), P.776(23311), P.777(23322), P.778(23333), P.779(23344), P.780(23355), P.781(23366), P.782(23377), P.783(23388), P.784(23399), P.785(23400), P.786(23411), P.787(23422), P.788(23433), P.789(23444), P.790(23455), P.791(23466), P.792(23477), P.793(23488), P.794(23499), P.795(23500), P.796(23511), P.797(23522), P.798(23533), P.799(23544), P.800(23555), P.801(23566), P.802(23577), P.803(23588), P.804(23599), P.805(23600), P.806(23611), P.807(23622), P.808(23633), P.809(23644), P.810(23655), P.811(23666), P.812(23677), P.813(23688), P.814(23699), P.815(23700), P.816(23711), P.817(23722), P.818(23733), P.819(23744), P.820(23755), P.821(23766), P.822(23777), P.823(23788), P.824(23799), P.825(23800), P.826(23811), P.827(23822), P.828(23833), P.829(23844), P.830(23855), P.831(23866), P.832(23877), P.833(23888), P.834(23899), P.835(23900), P.836(23911), P.837(23922), P.838(23933), P.839(23944), P.840(23955), P.841(23966), P.842(23977), P.843(23988), P.844(23999), P.845(24000), P.846(24011), P.847(24022), P.848(24033), P.849(24044), P.850(24055), P.851(24066), P.852(24077), P.853(24088), P.854(24099), P.855(24100), P.856(24111), P.857(24122), P.858(24133), P.859(24144), P.860(24155), P.861(24166), P.862(24177), P.863(24188), P.864(24199), P.865(24200), P.866(24211), P.867(24222), P.868(24233), P.869(24244), P.870(24255), P.871(24266), P.872(24277), P.873(24288), P.874(24299), P.875(24300), P.876(24311), P.877(24322), P.878(24333), P.879(24344), P.880(24355), P.881(24366), P.882(24377), P.883(24388), P.884(24399), P.885(24400), P.886(24411), P.887(24422), P.888(24433), P.889(24444), P.890(24455), P.891(24466), P.892(24477), P.893(24488), P.894(24499), P.895(24500), P.896(24511), P.897(24522), P.898(24533), P.899(24544), P.900(24555), P.901(24566), P.902(24577), P.903(24588), P.904(24599), P.905(24600), P.906(24611), P.907(24622), P.908(24633), P.909(24644), P.910(24655), P.911(24666), P.912(24677), P.913(24688), P.914(24699), P.915(24700), P.916(24711), P.917(24722), P.918(24733), P.919(24744), P.920(24755), P.921(24766), P.922(24777), P.923(24788), P.924(24799), P.925(24800), P.926(24811), P.927(24822), P.928(24833), P.929(24844), P.930(24855), P.931(24866), P.932(24877), P.933(24888), P.934(24899), P.935(24900), P.936(24911), P.937(24922), P.938(24933), P.939(24944), P.940(24955), P.941(24966), P.942(24977), P.943(24988), P.944(24999), P.945(25000), P.946(25011), P.947(25022), P.948(25033), P.949(25044), P.950(25055), P.951(25066), P.952(25077), P.953(25088), P.954(25099), P.955(25100), P.956(25111), P.957(25122), P.958(25133), P.959(25144), P.960(25155), P.961(25166), P.962(25177), P.963(25188), P.964(25199), P.965(25200), P.966(25211), P.967(25222), P.968(25233), P.969(25244), P.970(25255), P.971(25266), P.972(25277), P.973(25288), P.974(25299), P.975(25300), P.976(25311), P.977(25322), P.978(25333), P.979(25344), P.980(25355), P.981(25366), P.982(25377), P.983(25388), P.984(25399), P.985(25400), P.986(25411), P.987(25422), P.988(25433), P.989(25444), P.990(25455), P.991(25466), P.992(25477), P.993(25488), P.994(25499), P.995(25500), P.996(25511), P.997(25522), P.998(25533), P.999(25544), P.1000(25555), P.1001(25566), P.1002(25577), P.1003(25588), P.1004(25599), P.1005(25600), P.1006(25611), P.1007(25622), P.1008(25633), P.1009(25644), P.1010(25655), P.1011(25666), P.1012(25677), P.

2797

P.1088(25455), P.1090(25456) P.1091(25457), P.1095-1097(25458), P.1098(25459),
 -1100(25220), P.1104(25221), P.1106(25222), P.1107(25223), P.1108(25224), P.1109(25225),
 P.1110-1112(25226), P.1113(25227), P.1114(25228), P.1115(25229), P.1116(25230), P.1117
 (25231), P.1118(25232), P.1119(25233), P.1120(25234), P.1121(25235), P.1122(25236), P.1123
 (25237), P.1124(25238), P.1125(25239), P.1126(25240), P.1131(25241), P.1135(25242), P.1136
 (25243), P.1137(25244), P.1138(25245), P.1144-1147(25246), P.1148(25247), P.1150(25248),
 P.1153-1156(25249), P.1157(25250), P.1158(25251), P.1161(25252), P.1166(25253), P.1166
 (25254), P.1164(25255), P.1165(25256), P.1166(25257), P.1167(25258), P.1168(25259),
 P.1171(25260), P.1172(25261), P.1173(25262), P.1174(25263), P.1175(25264), P.1176(25265),
 P.1177(25266), P.1178(25267), P.1179(25268), P.1180(25269), P.1182(25270), P.1184(25271),
 P.1185(25272), P.1188(25273), P.1189(25274), P.1190(25275), P.1192(25276), P.1195-1196
 (25277), P.1200(25278), P.1201(25279), P.1202(25280), P.1204(25281), P.1206(25282),
 P.1207(25283), P.1209(25284), P.1211-1212(25285), P.1213(25286), P.1215-1216(25287),
 P.1219(25288), P.1221(25289), P.1222(25290), P.1223(25291), P.1226-1227
 (25292), P.1229(25293), P.1231(25294), P.1233(25295), P.1244-1235(25296), P.1238(25297),
 P.1240-1241(25298), P.1245(25299), P.1246(25300), P.1247-1248(25301),
 P.1250-1251(25302), P.1254(25303), P.1255(25304), P.1256(25305), P.1257-1260(25306),
 P.1263(25307), P.1266-1267(25308), P.1268(25309), P.1275(25310), P.1276(25311), P.1279(25312),
 P.1281(25313), P.1286(25314), P.1289(25315), P.1292(25316), P.1293(25317), P.1294(25318),
 P.1295(25319), P.1297-1298(25320), P.1300-1301(25321), P.1302(25322), P.1303(25323),
 P.1307(25324), P.1309(25325), P.1310(25326), P.1313-1314(25327), P.1316(25328),
 P.1320(25329), P.1321(25330), P.1325(25331), P.1326(25332), P.1327(25333), P.1328(25334),
 P.1330(25335), P.1331(25336), P.1332(25337), P.1333(25338), P.1334(25339), P.1335(25340),
 P.1336(25341), P.1337(25342), P.1338(25343), P.1339(25344), P.1340(25345), P.1341(25346),
 P.1342(25347), P.1343(25348), P.1344(25349), P.1345(25350), P.1346(25351), P.1347(25352),
 P.1348(25353), P.1349(25354), P.1350(25355), P.1351(25356), P.1352(25357), P.1353(25358),
 P.1354(25359), P.1355(25360), P.1356(25361), P.1357(25362), P.1358(25363), P.1359(25364),
 P.1360(25365), P.1361(25366), P.1362(25367), P.1363(25368), P.1364(25369), P.1365(25370),
 P.1366(25371), P.1367(25372), P.1368(25373), P.1369(25374), P.1370(25375), P.1371(25376), P.1372(25377),
 P.1373(25378), P.1374(25379), P.1375(25380), P.1376(25381), P.1377(25382), P.1378(25383),
 P.1379(25384), P.1380(25385), P.1381(25386), P.1382(25387), P.1383(25388), P.1384(25389),
 P.1385(25390), P.1386(25391), P.1387(25392), P.1388(25393), P.1389(25394), P.1390(25395),
 P.1391(25396), P.1392(25397), P.1393(25398), P.1394(25399), P.1395(25400), P.1396(25401),
 P.1397(25402), P.1398(25403), P.1399(25404), P.1400(25405), P.1401(25406), P.1402(25407),
 P.1403(25408), P.1404(25409), P.1405(25410), P.1406(25411), P.1407(25412), P.1408(25413),
 P.1409(25414), P.1410(25415), P.1411(25416), P.1412(25417), P.1413(25418), P.1414(25419),
 P.1415(25420), P.1416(25421), P.1417(25422), P.1418(25423), P.1419(25424), P.1420(25425),
 P.1421(25426), P.1422(25427), P.1423(25428), P.1424(25429), P.1425(25430), P.1426(25431),
 P.1427(25432), P.1428(25433), P.1429(25434), P.1430(25435), P.1431(25436), P.1432(25437),
 P.1433(25438), P.1434(25439), P.1435(25440), P.1436(25441), P.1437(25442), P.1438(25443),
 P.1439(25444), P.1440(25445), P.1441(25446), P.1442(25447), P.1443(25448), P.1444(25449),
 P.1445(25450), P.1446(25451), P.1447(25452), P.1448(25453), P.1449(25454), P.1450(25455),
 P.1451(25456), P.1452(25457), P.1453(25458), P.1454(25459), P.1455(25460), P.1456(25461),
 P.1457(25462), P.1458(25463), P.1459(25464), P.1460(25465), P.1461(25466), P.1462(25467),
 P.1463(25468), P.1464(25469), P.1465(25470), P.1466(25471), P.1467(25472), P.1468(25473),
 P.1469(25474), P.1470(25475), P.1471(25476), P.1472(25477), P.1473(25478), P.1474(25479),
 P.1475(25480), P.1476(25481), P.1477(25482), P.1478(25483), P.1479(25484), P.1480(25485),
 P.1481(25486), P.1482(25487), P.1483(25488), P.1484(25489), P.1485(25490), P.1486(25491),
 P.1487(25492), P.1488(25493), P.1489(25494), P.1490(25495), P.1491(25496), P.1492(25497),
 P.1493(25498), P.1494(25499), P.1495(25500), P.1496(25501), P.1497(25502), P.1498(25503),
 P.1499(

279

P.842(2378), P.843(2379), P.845(2380), P.846(2381), P.846(2382), P.847(2382),
 P.851-852(2383), P.855(2384), P.857-858(2385), P.859(2386), P.860(2387),
 P.861(2388), P.869-870(2389), P.871(2390), P.873(2391), P.876(2392), P.877
 (2393), P.878(2394), P.879(2395), P.880(2396), P.881(2397), P.883(2398), P.884
 (2399), P.886(2400), P.888(2401), P.891(2402), P.894(2403), P.895(2404), P.897
 (2405), P.893(2406), P.894(2407), P.905(2408), P.906(2409), P.907(2410), P.908
 (2411), P.909(2412), P.911(2413), P.912(2414), P.913(2415), P.914(2416), P.915
 (2417), P.916(2418), P.917(2419), P.923(2420), P.924(2421), P.931(2422), P.941
 (2423), P.945(2424), P.937(2425), P.938(2426), P.939(2427), P.940(2428), P.941
 (2429), P.948-949(2430), P.945(2431), P.946(2432), P.949(2433), P.953(2434),
 P.955(2435), P.956(2436), P.957(2437), P.958(2438), P.959(2439), P.960(2440),
 P.961(2441), P.963(2442), P.964(2443), P.965(2444), P.966(2445), P.967(2446),
 P.968(2447), P.969(2448), P.970(2449), P.971(2450), P.972(2451), P.973(2452),
 P.978-979(2453), P.980(2454), P.984(2455), P.985(2456), P.98-987(2457),
 P.978(2458), P.989(2459), P.991(2460), P.993(2461), P.994(2462), P.995(2463),
 P.996(2464), P.997(2465), P.998(2466), P.1001(2467), P.1004-1005(2468),
 P.1006(2469), P.1008(2470), P.1009(2471), P.1013(2472), P.1015(2473), P.1016(2474),
 P.1017(2475), P.1020(2476), P.1023-1024(2477), P.1026(2478), P.1027(2479),
 P.1031-1032(2480), P.1034(2481), P.1035-1036(2482), P.1037(2483), P.1038(2484),
 P.1039(2485), P.1041(2486), P.1043(2487), P.1053(2488), P.1064(2489), P.1066
 (2490), P.1067(2491), P.1068(2492), P.1069(2493), P.1070(2494), P.1071(2495), P.1075
 (2496), P.1073(2497), P.1074(2498), P.1075(2499), P.1077-1058(2500), P.1079-1060(2501),
 P.1064(2503), P.1064(2504), P.1065(2505), P.1067(2506), P.1069(2507), P.1070(2508),
 P.1073(2509), P.1076(2510), P.1077-1079(2511), P.1080(2512), P.1081(2513), P.1082(2514),

P. 1379-1381 (3079), P. 1382 (3080), P. 1385 (3081), P. 1386 (3082), P. 1407 (3083), P. 1430-1378 (3185), P. 1393-1394 (3086), P. 1395 (3087), P. 1402 (3088), P. 1408 (3089), P. 1410 (3090), P. 1414 (3091), P. 1415-1416 (3092), P. 1417 (3093), P. 1422-1423 (3094), P. 1440 (3095), P. 1450-1451 (3096), P. 1453 (3097), P. 1454 (3098), P. 1455 (3099), P. 1443 (3100), P. 1444 (3101), P. 1445 (3102), P. 1446-1447 (3105), P. 1454-1455 (3107), P. 1468-1469 (3108), P. 1472 (3109), P. 1474 (3110), P. 1475 (3111), P. 1477 (3112), P. 1478 (3113), P. 1480 (3114), P. 1482 (3115), P. 1484 (3116), P. 1485-1489 (3117), P. 1491 (3118), P. 1493 (3119), P. 1496 (3120), P. 1499-1500 (3121), P. 1504-1505 (3122), P. 1507-1508 (3123), P. 1523 (3124), P. 1524 (3125), P. 1530-1531 (3126), P. 1534 (3127), P. 1539 (3128), P. 1543 (3130), P. 1552-1554 (3131), P. 1557 (3132), P. 1558 (3133), P. 1559 (3134), P. 1561 (3135), P. 1563 (3136), P. 1572-1573 (3137), P. 1574 (3138), P. 1575 (3139), P. 1576-1580 (3140), P. 1577 (3141), P. 1578 (3142), P. 1581 (3143), P. 1582 (3144), P. 1583 (3145), P. 1589-1590 (3146), P. 1594 (3147), P. 1593-1594 (3148), P. 1595 (3149), P. 1599-1601 (3150), P. 1605 (3151), P. 1606 (3152), P. 1607-1608 (3153), P. 1610 (3154), P. 1615 (3155), P. 1616-1617 (3156), P. 1621 (3157), P. 1622 (3158), P. 1624 (3159), P. 1626 (3160), P. 1630 (3161), P. 1631 (3162), P. 1633 (3163), P. 1633 (3164), P. 1637 (3165), P. 1638 (3166), P. 1640 (3169), P. 1641 (3170), P. 1644 (3171), P. 1649 (3172), P. 1652 (3173), P. 1655 (3174), P. 1658 (3175), P. 1661 (3176), P. 1665 (3177), P. 1667 (3178), P. 1670 (3179), P. 1672 (3180), P. 1673 (3181), P. 1674 (3182), P. 1675 (3183), P. 1676 (3184), P. 1678 (3185), P. 1679 (3186), P. 1681 (3187), P. 1682 (3188), P. 1683 (3189), P. 1687-1690 (3190), P. 1691 (3191), P. 1697 (3192), P. 1700 (3193), P. 1705-1706 (3194), P. 1708 (3195), P. 1710 (3196), P. 1711 (3197), P. 1712 (3198), P. 1713 (3199), P. 1714 (3200), P. 1715 (3201), P. 1716 (3202), P. 1717 (3203), P. 1718 (3204), P. 1719 (3205), P. 1720-1730 (3206), P. 1732 (3207), P. 1733 (3208), P. 1734 (3209), P. 1735 (3210), P. 1736 (3211), P. 1744 (3212), P. 1746 (3213), P. 1748-1749 (3214), P. 1750 (3215),

P. 1751(3216), P. 1752(3217), P. 1753(3218), P. 1755(3219), P. 1756(3220), P. 1758(3221), P. 1759(3222), P. 1760(3223), P. 1762(3224), P. 1767(3225), P. 1769(3226), P. 1770(3227), P. 1773(3228), P. 1776(3229), P. 1777(3230), P. 1778(3231), P. 1779(3232), P. 1782(3233), P. 1784(3234), P. 1785(3235), P. 1785(3236), P. 1787(3237), P. 1788(3238), P. 1791(3239), P. 1794(3240), P. 1795(3241), P. 1795(3242), P. 1796(3243), P. 1797(3244), P. 1803(3245), P. 1808-1809(3246), P. 1811(3247), P. 1812(3248), P. 1816(3249), P. 1817(3250), P. 1830(3251), P. 1833(3252), P. 1845-1846(3253), P. 1847(3255), P. 1850(3256), P. 1854(3257), P. 1857(3258), P. 1861(3259), P. 1862(3260), P. 1863(3261), P. 1865(3262), P. 1877(3263), P. 1878(3264), P. 1880(3265), P. 1881(3266), P. 1884(3267), P. 1885(3268), P. 1886(3269), P. 1889(3270), P. 1894(3271), P. 1894-1895(3272), P. 1895(3273), P. 1897(3274), P. 1900(3275), P. 1901(3276), P. 1904-1905(3277), P. 1908(3278), P. 1912(3279), P. 1914(3280), P. 1916(3281), P. 1917(3282), P. 1918(3283), P. 1920(3284), P. 1921(3285), P. 1924(3286), P. 1926(3287), P. 1927(3288), P. 1930(3289), P. 1931(3290), P. 1932(3291), P. 1937(3292), P. 1941(3293), P. 1944-1945(3294), P. 1946(3295), P. 1947(3296), P. 1948(3297), P. 1949-1950(3298), P. 1954(3299), P. 1956(3300), P. 1956-1961(3301), P. 1965(3302), P. 1967(3303), P. 1971(3304), P. 1972(3305), P. 1973(3306), P. 1976(3307), P. 1977(3308), P. 1978(3309), P. 1979(3310), P. 1980(3311), P. 1982(3312), P. 1984(3313), P. 1984(3314), P. 1985(3315), P. 1986(3316), P. 1987(3317), P. 1988(3318), P. 1989(3319), P. 1990(3320), P. 1991(3321), P. 1992(3322), P. 1992(3323), P. 1993(3324), P. 1994(3325), P. 1995(3326), P. 1996(3327), P. 1997(3328), P. 1998(3329), P. 1999(3330), P. 2000(3331), P. 2002(3332), P. 2003(3333), P. 2004(3334), P. 2005(3335), P. 2005(3336), P. 2006(3337), P. 2007(3338), P. 2008(3339), P. 2009(3340), P. 2010(3341), P. 2011(3342), P. 2012(3343), P. 2013(3344), P. 2014(3345), P. 2015-2016(3346), P. 2016(3347), P. 2017(3348), P. 2017(3349), P. 2017(3350), P. 2018(3351), P. 2018(3352), P. 2018(3353), P. 2018(3354), P. 2019(3355), P. 2020(3356), P. 2021(3357), P. 2022(3358), P. 2023(3359), P. 2024(3360), P. 2025(3361), P. 2026(3362), P. 2027(3363), P. 2028(3364), P. 2029(3365), P. 2030(3366), P. 2031(3367), P. 2032(3368), P. 2033(3369), P. 2034(3370), P. 2035(3371), P. 2036(3372), P. 2037(3373), P. 2038(3374), P. 2039(3375), P. 2040(3376), P. 2041(3377), P. 2042(3378), P. 2043(3379), P. 2044(3380), P. 2045(3381), P. 2046(3382), P. 2047(3383), P. 2048(3384), P. 2049(3385), P. 2050(3386), P. 2051(3387), P. 2052(3388), P. 2053(3389), P. 2054(3390), P. 2055(3391), P. 2056(3392), P. 2057(3393), P. 2058(3394), P. 2059(3395), P. 2060(3396), P. 2061(3397), P. 2062(3398), P. 2063(3399), P. 2064(3400), P. 2065(3401), P. 2066(3402), P. 2067(3403), P. 2068(3404), P. 2069(3405), P. 2070(3406), P. 2071(3407), P. 2072(3408), P. 2073(3409), P. 2074(3410), P. 2075(3411), P. 2076(3412), P. 2077(3413), P. 2078(3414), P. 2079(3415), P. 2080(3416), P. 2081(3417), P. 2082(3418), P. 2083(3419), P. 2084(3420), P. 2085(3421), P. 2086(3422), P. 2087(3423), P. 2088(3424), P. 2089(3425), P. 2090(3426), P. 2091(3427), P. 2092(3428), P. 2093(3429), P. 2094(3430), P. 2095(3431), P. 2096(3432), P. 2097(3433), P. 2098(3434), P. 2099(3435), P. 2100(3436), P. 2101(3437), P. 2102(3438), P. 2103(3439), P. 2104(3440), P. 2105(3441), P. 2106(3442), P. 2107(3443), P. 2108(3444), P. 2109(3445), P. 2110(3446), P. 2111(3447), P. 2112(3448), P. 2113(3449), P. 2114(3450), P. 2115(3451), P. 2116(3452), P. 2117(3453), P. 2118(3454), P. 2119(3455), P. 2120(3456), P. 2121(3457), P. 2122(3458), P. 2123(3459), P. 2124(3460), P. 2125(3461), P. 2126(3462), P. 2127(3463), P. 2128(3464), P. 2129(3465), P. 2130(3466), P. 2131(3467), P. 2132(3468), P. 2133(3469), P. 2134(3470), P. 2135(3471), P. 2136(3472), P. 2137(3473), P. 2138(3474), P. 2139(3475), P. 2140(3476), P. 2141(3477), P. 2142(3478), P. 2143(3479), P. 2144(3480), P. 2145(3481), P. 2146(3482), P. 2147(3483), P. 2148(3484), P. 2149(3485), P. 2150(3486), P. 2151(3487), P. 2152(3488), P. 2153(3489), P. 2154(3490), P. 2155(3491), P. 2156(3492), P. 2157(3493), P. 2158(3494), P. 2159(3495), P. 2160(3496), P. 2161(3497), P. 2162(3498), P. 2163(3499), P. 2164(3500), P. 2165(3501), P. 2166(3502), P. 2167(3503), P. 2168(3504), P. 2169(3505), P. 2170(3506), P. 2171(3507), P. 2172(3508), P. 2173(3509), P. 2174(3510), P. 2175(3511), P. 2176(3512), P. 2177(3513), P. 2178(3514), P. 2179(3515), P. 2180(3516), P. 2181(3517), P. 2182(3518), P. 2183(3519), P. 2184(3520), P. 2185(3521), P. 2186(3522), P. 2187(3523), P. 2188(3524), P. 2189(3525), P. 2190(3526), P. 2191(3527), P. 2192(3528

[illegible]

2411(3491), P.2413(3492), P.2414(3493), P.2415(3494), P.2416(3495), P.2417(3496),
 P.2418(3497), P.2419(3498), P.2421(3499), P.2422(3500), P.2426(3501), P.2428(3502),
 P.2429(3503), P.2434(3504), P.2447-2448(3505), P.2449(3506), P.2448(3507), P.2449
 (3508), P.2445(3509), P.2446(3510), P.2447(3511), P.2448(3512), P.2450(3513),
 P.2453(3514), P.2454(3515), P.2455(3516), P.2456-2459(3517), P.2466(3518), P.2467
 (3519), P.2469(3520), P.2470(3521), P.2471(3522), P.2472(3523), P.2473(3524),
 P.2474(3525), P.2475(3526), P.2476(3527), P.2480(3528), P.2481(3529), P.2482(3530),
 P.2483(3531), P.2484(3532), P.2487(3533), P.2488(3534), P.2489(3535), P.2491(3536),
 P.2501(3541), P.2503(3543), P.2504(3544), P.2505(3545), P.2506(3546), P.2508-2509
 (3547), P.2511(3548), P.2512(3549), P.2513(3550), P.2516(3551), P.2517(3552), P.2518
 (3553), P.2519(3554), P.2520-2521(3555), P.2522(3556), P.2523(3557), P.2524(3558),
 P.2527(3559), P.2528(3560), P.2529(3561), P.2530(3562), P.2531(3563), P.2532(3564),
 P.2537(3565), P.2539(3566), P.2541(3567), P.2542(3568), P.2543(3569), P.2544(3570),
 P.2548-2549(3572), P.2552-2553(3573), P.2553(3574), P.2554(3575), P.2555(3576),
 P.2557(3577), P.2560(3578), P.2561(3579), P.2562(3580), P.2563(3581), P.2564(3582),
 P.2567-2573(3589), P.2577(3590), P.2578(3591), P.2579(3592), P.2580(3593), P.2581
 (3594), P.2582(3595), P.2583(3596), P.2584(3597), P.2587(3598), P.2588(3599),
 P.2589(3600), P.2591(3601), P.2592(3602), P.2593(3603), P.2594(3604), P.2595(3605),
 P.2601(3611), P.2602(3612), P.2603(3613), P.2604(3614), P.2605(3615), P.2606(3616),
 P.2607(3617), P.2608(3618), P.2609(3619), P.2610(3620), P.2611(3621), P.2612(3622),
 P.2613(3623), P.2614(3624), P.2615(3625), P.2616(3626), P.2617(3627), P.2618(3628),
 P.2619(3629), P.2620(3630), P.2621(3631), P.2622(3632), P.2623(3633), P.2624(3634),
 P.2625(3635), P.2626(3636), P.2627(3637), P.2628(3638), P.2629(3639), P.2630(3640),
 P.2631(3641), P.2632(3642), P.2633(3643), P.2634(3644), P.2635(3645), P.2636(3646),
 P.2637(3647), P.2638(3648), P.2639(3649), P.2640(3650), P.2641(3651), P.2642(3652),
 P.2643(3653), P.2644(3654), P.2645(3655), P.2646(3656), P.2647(3657), P.2648(3658),
 P.2649(3659), P.2650(3660), P.2651(3661), P.2652(3662), P.2653(3663), P.2654(3664),
 P.2655(3665), P.2656(3666), P.2657(3667), P.2658(3668), P.2659(3669), P.2660(3670),
 P.2661(3671), P.2662(3672), P.2663(3673), P.2664(3674), P.2665(3675), P.2666(3676),
 P.2667(3677), P.2668(3678), P.2669(3679), P.2670(3680), P.2671(3681), P.2672(3682),
 P.2673(3683), P.2674(3684), P.2675(3685), P.2676(3686), P.2677(3687), P.2678(3688),
 P.2679(3689), P.2680(3690), P.2681(3691), P.2682(3692), P.2683(3693), P.2684(3694),
 P.2685(3695), P.2686(3696), P.2687(3697), P.2688(3698), P.2689(3699), P.2690(3700),
 P.2691(3701), P.2692(3702), P.2693(3703), P.2694(3704), P.2695(3705), P.2696(3706),
 P.2697(3707), P.2698(3708), P.2699(3709), P.2700(3710), P.2701(3711), P.2702(3712),
 P.2703(3713), P.2704(3714), P.2705(3715), P.2706(3716), P.2707(3717), P.2708(3718),
 P.2709(3719), P.2710(3720), P.2711(3721), P.2712(3722), P.2713(3723), P.2714(3724),
 P.2715(3725), P.2716(3726), P.2717(3727), P.2718(3728), P.2719(3729), P.2720(3730),
 P.2721(3731), P.2722(3732), P.2723(3733), P.2724(3734), P.2725(3735), P.2726(3736),
 P.2727(3737), P.2728(3738), P.2729(3739), P.2730(3740), P.2731(3741), P.2732(3742),
 P.2733(3743), P.2734(3744), P.2735(3745), P.2736(3746), P.2737(3747), P.2738(3748),
 P.2739(3749), P.2740(3750), P.2741(3751), P.2742(3752), P.2743(3753), P.2744(3754),
 P.2745(3755), P.2746(3756), P.2747(3757), P.2748(3758), P.2749(3759), P.2750(3760),
 P.2751(3761), P.2752(3762), P.2753(3763), P.2754(3764), P.2755(3765), P.2756(3766),
 P.2757(3767), P.2758(3768), P.2759(3769), P.2760(3770), P.2761(3771), P.2762(3772),
 P.2763(3773), P.2764(3774), P.2765(3775), P.2766(3776), P.2767(3777), P.2768(3778),
 P.2769(3779), P.2770(3780), P.2771(3781), P.2772(3782), P.2773(3783), P.2774(3784),
 P.2775(3785), P.2776(3786), P.2777(3787), P.2778(3788), P.2779(3789), P.2780(3790),
 P.2781(3791), P.2782(3792), P.2783(3793), P.2784(3794), P.2785(3795), P.2786(3796),
 P.2787(3797), P.2788(3798), P.2789(3799), P.2790(3800), P.2791(3801), P.2792(3802),
 P.2793(3803), P.2794(3804), P.2795(3805), P.2796(3806), P.2797(3807), P.2798(3808),
 P.2799(3809), P.2800(3810), P.2801(3811), P.2802(3812), P.2803(3813), P.2804(3814),
 P.2805(3815), P.2806(3816), P.2807(3817), P.2808(3818), P.2809(3819), P.2810(3820),
 P.2811(3821), P.2812(3822), P.2813(3823), P.2814

(3649), P.3611(3640), P.3623(3631), P.3603(3632), P.3604(3631), P.3605(3634), P.3606(3635), P.3607(3636), P.3609-3610(3637), P.3613(3638), P.3614(3639), P.3615(3640), P.3616(3641), P.3617(3642).
 李學勤 文參 版代地理簡論 文物
 P.1674-1674A(3182), P.1675A(3261).
 沙孟海 中
 P.331-338(2115), P.999-1000(2467).
 赤塚忠 殷金文考釋
 P.80(2005), P.290-293(2109), P.348-349(2117), P.358-371(2120), P.431(2152), P.644-644(2257), P.649(3182), P.899-899(2401), P.949-954(2433), P.980-983(2454), P.1144(2541), P.1190-1191(3064), P.1193(3065), P.1219-1220(3017), P.1231-1232(3024), P.1251-1252(3033), P.1423-1424(3094), P.1455(3107), P.1474-1474(3113), P.1575(3139), P.1659(3175), P.1777(3230), P.1908-1909(3278), P.2002(3313), P.2017(3340), P.2414-2415(3407), P.2263(4423), P.2350(3465), P.2444(3499), P.2496(3532), P.2497(3539), P.2617(3610), P.2617-2618(3630), P.2617(3637), P.2673(3638).
 阮元 積古

2805

周名燁 古福考

2806

屈萬里 書傭甲釋

林泰輔

P. 1093(2518), P. 1724(3206), P. 2192(3394), P. 2243-2244(3415)

金祥恒 中國文字學編

九畫

柯昌濟 輯 補

2808

[illegible]

十畫

唐蘭 考古文物 五省考報 國刊集釋 輔仁學誌 天壤文釋 導論 殷虛文字記

P. 82-93(2346), P. 343-344(2115), P. 331(2122), P. 334(2124), P. 2455(2148), P. 510-512(2205),
 P. 505(2200), P. 571(2206), P. 710-716(2257), P. 847(2258), P. 847(2322), T. 847(2322),
 P. 912-931(2242), P. 975-976(2245), P. 976-977(2243), P. 103-104(2247), P. 1105(2252),
 P. 1121-1155(2259), P. 1110(2260), P. 1207(3012), P. 1214(3041), P. 1335(3081), P. 144-9-146
 70(3108), P. 1451-1452(3175), P. 1692(3187), P. 1718(3203), P. 1831-1832(3255), P. 2171
 (3385), P. 2338-2367(3477), P. 2433(3504), P. 2458(3517), P. 2544-2545(3570),

孫海波 濟縣典史

P. 2145 (3375), P. 2339 (3459)

孫詒讓 名原述林拾遺餘論舉例全攷引

Γ 78 (2001), Γ 329 (2115), Γ 329-330 (2115), Γ 430 (2155), Γ 673 (2311), Γ 706 (2313), Γ 725 (2315), Γ 736-737 (2315), Γ 804 (2335), Γ 836 (2339), Γ 974 (2453), Γ 1214 (3016), Γ 1228-1239 (3028), Γ 1264-1265 (3033), Γ 1274 (3044), Γ 1248-1349 (3071), Γ 1355 (3070), Γ 1359 (3087), Γ 1363-1364 (3079), Γ 1400 (3094), Γ 1433 (3098), Γ 1436-1437 (3100), Γ 1458-1459 (3103), Γ 1459-1460 (3108), Γ 1468 (3108), Γ 1460-1465 (3108), Γ 1474 (3120), Γ 1477 (3121), Γ 1510 (3153), Γ 1545-1546 (3131), Γ 1616 (3155), Γ 1620 (3157), Γ 1627 (3161), Γ 1650 (3172), Γ 1653 (3173), Γ 1710 (3171), Γ 1711 (3199), Γ 1724 (3210), Γ 1744 (3225), Γ 1801-1802 (3246), Γ 1803 (3251)

2809

P. 1839-1840 (3254), *P. 1847-1848* (3255), *P. 1879* (3265), *P. 1891* (3272), *P. 1902* (3377),
P. 1939 (3282), *P. 1944-1935* (3292), *P. 1935-1936* (3292), *P. 2026* (3377), *P. 2033*
(3327), *P. 2054* (3339), *P. 2107* (3366), *P. 2121-2122* (3368), *P. 2132* (3370), *P. 2138*
(3377), *P. 2151* (3336), *P. 2162* (3382), *P. 2191-2192* (3394), *P. 2256* (3441), *P. 2166*
(3425), *P. 2266* (3445), *P. 2301* (3444), *P. 2351* (3466), *P. 2358* (3467), *P. 2359*
(3467), *P. 2380* (3477), *P. 2426* (3501), *P. 2441* (3507), *P. 2451-2355* (3464), *P. 2455*
(3465), *P. 2510-2511* (3548), *P. 2536* (3565), *P. 2566* (3583), *P. 2568-2585* (3587), *P. 2479* (3540),
P. 2610-2611 (3610), *P. 2611-2612* (3610), *P. 2633* (3620), *P. 2644* (3627),
P. 2610-2611 (3610), *P. 2611-2612* (3610), *P. 2633* (3620), *P. 2644* (3627).

庚客 主物 丙美 商用 義品 通方 善國 公糾 實經 金選

P. 6.6 (2005), *P. 1500* (2040), *P. 273.2* (2109), *P. 341* (2115), *P. 404* (2191), *P. 520* (2206),
P. 919 (2412), *P. 995* (2435), *P. 992* (2461), *P. 1084* (2514), *P. 1105* (2522), *P. 1166* (2552),
P. 1259 (3037), *P. 1478* (3113), *P. 1488* (3113), *P. 1587* (3145), *P. 1838* (3205), *P. 1913* (3248),
P. 2175–*2176* (3385), *P. 2273* (3421), *P. 2270* (3438), *P. 2355* (3454),

徐中舒 考報集刊 厲氏編鐘圖釋 闕義引

P. 210-211 (2017), P. 581 (2234), P. 9-10-921 (2420), P. 926-927 (2422), P. 633 (2442), P. 1074 (2507), P. 1280 (3004), P. 1340 (3067), P. 1429 (3096), P. 175-1728 (3206), P. 2127 (3268), P. 2324-2325 (3454), P. 2399-2401 (3487).

徐同柏

P.5(2001), P.63(2005), P.63(2005), P.119(2026), P.140(2037), P.146(2039),
P.159(2048), P.187(2072), P.206(2077), P.239(2099), P.244(2100), P.265-267(2107).

<u>P. 389</u> (a.28),	<u>P. 598</u> (a.154),	<u>P. 450</u> (a.152),	<u>P. 484</u> (a.166),	<u>P. 463</u> (a.172),	<u>P. 473</u> (a.180),
<u>P. 481</u> (a.185),	<u>P. 497</u> (a.193),	<u>P. 558</u> (a.222),	<u>P. 565</u> (a.224),	<u>P. 573</u> (a.229),	<u>P. 587</u> (a.231),
<u>P. 574</u> (a.2243),	<u>P. 594</u> (a.2243),	<u>P. 664</u> (a.2260),	<u>P. 651</u> (a.2267),	<u>P. 646</u> (a.2271),	<u>P. 663</u> (a.2353),
<u>P. 611</u> (a.2287),	<u>P. 688</u> (a.2304),	<u>P. 686</u> (a.2309),	<u>P. 703</u> (a.2313),	<u>P. 704</u> (a.2313),	<u>P. 715</u> (a.2314),
<u>P. 735</u> (a.2315),	<u>P. 751</u> (a.2335),	<u>P. 776</u> (a.2332),	<u>P. 762</u> (a.2344),	<u>P. 797</u> (a.2352),	<u>P. 807</u> (a.2361),
<u>P. 808</u> (a.2362),	<u>P. 931</u> (a.2375),	<u>P. 833</u> (a.2376),	<u>P. 970</u> (a.2466),	<u>P. 993</u> (a.2461),	<u>P. 1008</u> (a.2547),
<u>P. 1275</u> (a.2550),	<u>P. 1193</u> (a.3006),	<u>P. 1214</u> (a.3007),	<u>P. 1218</u> (a.3017),	<u>P. 1253</u> (a.3034),	<u>P. 1269</u> (a.3041),
<u>P. 1317</u> (a.3043),	<u>P. 1173</u> (a.3049),	<u>P. 1294</u> (a.3050),	<u>P. 1335</u> (a.3068),	<u>P. 1341</u> (a.3070),	<u>P. 1343</u> (a.3071),
<u>P. 1343</u> (a.3071),	<u>P. 1344</u> (a.3072),	<u>P. 1339</u> (a.3085),	<u>P. 1376</u> (a.3089),	<u>P. 1418</u> (a.3094),	<u>P. 1425</u> (a.3095),
<u>P. 1467</u> (a.3108),	<u>P. 1486</u> (a.3117),	<u>P. 1503</u> (a.3122),	<u>P. 1540</u> (a.3129),	<u>P. 1552</u> (a.3131),	<u>P. 1570</u> (a.3137),
<u>P. 1607</u> (a.3153),	<u>P. 1641</u> (a.3170),	<u>P. 1671</u> (a.3180),	<u>P. 1702</u> (a.3196),	<u>P. 1742</u> (a.3196),	<u>P. 1779</u> (a.3206),
<u>P. 1733</u> (a.3218),	<u>P. 1761</u> (a.3224),	<u>P. 1764</u> (a.3225),	<u>P. 1837</u> (a.3254),	<u>P. 1847</u> (a.3255),	<u>P. 1851</u> (a.3266),
<u>P. 1839</u> (a.3271),	<u>P. 1902</u> (a.3277),	<u>P. 1921</u> (a.3288),	<u>P. 1926</u> (a.3289),	<u>P. 1933</u> (a.3292),	<u>P. 1955</u> (a.3292),
<u>P. 1962</u> (a.3303),	<u>P. 2010</u> (a.3320),	<u>P. 2032</u> (a.3329),	<u>P. 2060</u> (a.3342),	<u>P. 2072</u> (a.3349),	<u>P. 2088</u> (a.3355),
<u>P. 2109</u> (a.3361),	<u>P. 2121</u> (a.3368),	<u>P. 2145</u> (a.3374),	<u>P. 2154</u> (a.3378),	<u>P. 2185</u> (a.3391),	<u>P. 2198</u> (a.3393),
<u>P. 2284</u> (a.3405),	<u>P. 2252</u> (a.3418),	<u>P. 2288</u> (a.3422),	<u>P. 2294</u> (a.3437),	<u>P. 2310</u> (a.3448),	<u>P. 2336</u> (a.3457),
<u>P. 2386</u> (a.3481),	<u>P. 2396</u> (a.3486),	<u>P. 2407</u> (a.3471),	<u>P. 2444</u> (a.3495),	<u>P. 2422</u> (a.3497),	<u>P. 2468</u> (a.3522),
<u>P. 2504</u> (a.3544),	<u>P. 2510</u> (a.3548),	<u>P. 2555</u> (a.3583),	<u>P. 2584</u> (a.3597),	<u>P. 2597</u> (a.3605),	<u>P. 2621</u> (a.3615),
<u>P. 2643</u> (a.3627),	<u>P. 1102</u> - 1103 (a.2520),				

馬承源 文物

P. 1773 (3228).

2812

2811

I. 1288 (3445), I. 1323-1324 (3463), I. 1341-1342 (3478), I. 1376-1377 (3479), I. 1440-1441 (3486),
 I. 1461-1462 (3488), I. 1471 (3491), I. 1484-1485 (3498), I. 1487-1488 (3499), I. 1549-
 1551 (3513), I. 1642-1643 (3570), I. 1650 (3572), I. 1728-1729 (3566), I. 1744 (3525),
 I. 1754 (3522), I. 1807-1808 (3532), I. 1812 (3535), I. 1817-1818 (3539), I. 1828 (3408), I. 1840
 (3444), I. 1860 (3422), I. 1872-1873 (3484), I. 1885 (3578), I. 1893-1894 (3610), I. 1897-
 1898 (3619), I. 1899-1899 (3627).
 目錄
 P. 1102-1103 (3520).

2817

張孝章 著 書目
 P. 1327 (3464), P. 1387 (3483), P. 1754 (3519), P. 2447 (3519), P. 2563 (3581).
 張廷濟 著 書目
 P. 81 (3406), I. 267-268 (3409), I. 263 (3424), I. 715 (3514), I. 762 (3534).
 張政煥 著 書目
 P. 2516 (3551).
 張秉權 著 書目
 P. 264-269 (3587).
 張振林 著 書目
 P. 1817-1822 (3549).
 張頌張萬頌 著 書目
 P. 1628 (3526).

2819

十一書
 商承祚 著 書目 古文字學 古文字學 古文字學

P. 395 (2131), P. 449 (2163), P. 463 (2172), P. 707 (2313), P. 812 (2364),
 P. 935 (2424), P. 1223 (3020), P. 1650 (3172), P. 1676 (3184), P. 1751
 (3216), P. 1863-1864 (3261), P. 2139 (3371), P. 2141 (3372), P. 2206 (3409),
 P. 2327 (3446), P. 2402-2403 (3487).

張之洞 著 書目

I. 1198-1199 (3007), I. 1270-1271 (3041), I. 1278 (3045), I. 1331 (3066), P. 1366 (3079),
 I. 1463 (3108), I. 1487 (3117), I. 1547-1549 (3131), I. 1647 (3171), I. 1842 (3544), I. 2081-
 2041 (3357), I. 2091-2092 (3355).

張日昇

P. 54 (3001), P. 138 (3035), P. 642 (3246), P. 644 (3249), P. 673 (3291), P. 707 (3313),
 P. 744 (3319), P. 897 (2404), P. 954 (2434), P. 980 (3444), P. 1178 (3006), P. 1244 (3010),
 P. 1246 (3028), P. 1246 (3031), P. 1300 (3052), P. 1310 (3058), P. 1324 (3067),
 P. 1344 (3072), P. 1344 (3072), P. 1351 (3073), I. 1352 (3074), I. 1434 (3078), P. 1450 (3086),
 P. 1488 (3117), P. 1539-1530 (3126), P. 1572 (3137), P. 1604 (3157), P. 1624 (3157), P. 1674
 (3182), P. 1678 (3185), P. 1691 (3190), P. 1705 (3196), P. 2277 (3442), P. 2323 (3453).

2818

許敬參 著 書目

P. 978 (2453).

郭沫若 著 書目

P. 27-31 (2001), P. 45-67 (2005), P. 121-123 (2006), P. 243 (2009), P. 274-277 (2109),
 P. 344 (2120), P. 474-475 (2180), P. 510 (2203), P. 554 (2220), P. 558-559 (2222), P. 563-
 564 (2224), P. 568 (2226), P. 645-647 (2285), I. 719 (2314), P. 727-733 (2315), P. 734-
 735 (2315), P. 741 (2317), P. 774-775 (2342), I. 818-819 (2367), P. 865-866 (2411), P. 915
 (2417), P. 927-928 (2422), P. 929 (2422), P. 926 (2457), P. 1131-1132 (2541), P. 1149 (2560),
 P. 1189 (2573), P. 1190 (2574), P. 1208-1209 (2574), P. 1210 (2574), I. 1222 (3019), P. 1224 (3019),
 P. 1228-1229 (3025), I. 1230 (3025), P. 1216 (3025), I. 1239 (3028), P. 1250 (3032), P. 1256 (3036),
 P. 1257 (3037), I. 1258-1259 (3037), P. 1266 (3039), I. 127-1278 (3043), P. 1281 (3044), P. 1285
 (3045), P. 1288 (3046), P. 1291 (3047), P. 1292 (3051), P. 1301 (3052), P. 1307 (3056), P. 1308
 (3057), P. 1312 (3059), P. 1319 (3060), P. 1327 (3064), P. 1327 (3065), P. 1331 (3066), P. 1331 (3066),
 P. 1340 (3069), P. 1346 (3071), P. 1350 (3073), P. 1357 (3076), P. 1365 (3079), P. 1384 (3081),
 P. 1388 (3084), P. 1390 (3085), P. 1393 (3086), P. 1394-1400 (3088), P. 1410 (3090), P. 1412-1414
 (3091), P. 1415 (3092), P. 1418-1419 (3096), P. 1432 (3097), P. 1433 (3098), P. 1433 (3098),
 P. 1439 (3100), P. 1441 (3101), P. 1442 (3102), P. 1446 (3105), P. 1453 (3108), P. 1453 (3108),
 P. 1477 (3112), P. 1481 (3116), P. 1493 (3119), P. 1494-1495 (3120), P. 1495-1496 (3121),
 P. 1502 (3122), P. 1512 (3123), P. 1524 (3125), P. 1525 (3126), P. 1533-1534 (3127), P. 1537-
 1538 (3128), P. 1540-1541 (3129), P. 1547 (3131), P. 1552 (3131), P. 1560 (3135), P. 1569
 (3136), P. 1570 (3137), P. 1576 (3140), P. 1578 (3142), P. 1580-1581 (3143), P. 1581 (3143), P. 1581 (3143).

2820

P.1597-1598(3150), P.1607(3153), P.1621(3157), P.1624(3159), P.1630(3161), P.1633-1636(3166), P.1648-1649(3171), P.1654(3173), P.1658(3174), P.1660(3176), P.1665-1666(3177), P.1677(3185), P.1684(3188), P.1689(3193), P.1701(3195), P.1708(3197), P.1712(3198), P.1717(3202), P.1718(3204), P.1722(3205), P.1730(3206), P.1732(3207), P.1737-1738(3210), P.1740(3211), P.1741-1743(3212), P.1748(3214), P.1752(3217), P.1753(3218), P.1766(3225), P.1767(3225), P.1769(3226), P.1771-1772(3228), P.1781(3233), P.1791(3239), P.1794(3242), P.1803(3245), P.1829(3251), P.1831(3252), P.1833(3252), P.1841-1842(3254), P.1849(3255), P.1857(3256), P.1854(3257), P.1858(3258), P.1858(3258), P.1862(3260), P.1877(3263), P.1887(3270), P.1889(3271), P.1892(3272), P.1897(3276), P.1900(3277), P.1904(3277), P.1908(3288), P.1919(3294), P.1925(3297), P.1928(3299), P.1948(3297), P.1953(3299), P.1957-1958(3300), P.1965(3303), P.1966(3305), P.1971(3307), P.1975-1977(3310), P.2005(3316), P.2008(3318), P.2009(3319), P.2011(3320), P.2013(3321), P.2020(3324), P.2025(3326), P.2030(3328), P.2036-2039(3329), P.2052(3338), P.2056(3339), P.2068(3348), P.2078(3350), P.2084(3352), P.2087(3354), P.2090-2091(3355), P.2098-2100(3357), P.2103(3357), P.2105(3359), P.2113(3363), P.2113-2124(3368), P.2137(3371), P.2150(3376), P.2174-2180(3386), P.2183(3389), P.2188(3392), P.2202(3398), P.2203(3399), P.2205(3400), P.2206(3401), P.2219(3408), P.2222(3410), P.2240(3414), P.2244(3415), P.2261(3422), P.2262(3423), P.2272(3428), P.2288(3428), P.2291(3428), P.2293(3428), P.2294(3428), P.2295(3428), P.2330(3458), P.2346(3463), P.2354(3466), P.2357(3467), P.2360(3467), P.2362(3470), P.2366-2367(3471), P.2375(3474), P.2377(3475), P.2387(3481), P.2394(3484), P.2401-2402(3487), P.2412-2413(3493), P.2413(3493), P.2428(3500), P.2433(3504), P.2437(3505), P.2449(3513), P.2452(3514), P.2456-2457(3517), P.2465(3519),

陳直 金匱論
P.1997(3310).
陳晉 龜甲文字概論
P.1652(3172).
陳夢家 金匱要略校注
P.583(2236), P.733-734(2315), P.1259(3037), P.1291(3047), P.1304(3055), P.1316(3079), P.1429-1430(3096), P.1446(3105), P.1503-1504(3122), P.1512-1513(3123), P.1516-1517(3124), P.1518(3125), P.1529(3146), P.1537(3153), P.1611-1612(3155), P.1616(3170), P.1678(3185), P.1722(3228), P.1788(3233), P.1832(3252), P.1907(3278), P.1967(3304), P.2015(3321), P.2102-2103(3358), P.2115(3364), P.2205(3400), P.2223(3411), P.2226(3411), P.2227(3427), P.2256(3437), P.2313(3449), P.2322(3452), P.2334(3456), P.2370(3485), P.2379(3392), P.2469(3372).
陳槃 不見于春秋大事表之春秋方國編春秋大事表列國爵姓及存
P.2633(3528).
陳德華 說文月刊
P.887-888(2401).

P.2475(3526), P.2476-2477(3527), P.2487(3527), P.2490(3528), P.2491(3529), P.2498(3534), P.2499-2499(3536), P.2492(3537), P.2506(3546), P.2513(3550), P.2515(3551), P.2516(3552), P.2522(3556), P.2526(3560), P.2536(3565), P.2539(3566), P.2544(3567), P.2544(3570), P.2551-2552(3573), P.2554-2555(3574), P.2559(3578), P.2561(3579), P.2562(3580), P.2566(3583), P.2566(3583), P.2574(3589), P.2583(3596), P.2586(3597), P.2587(3598), P.2593(3603), P.2601(3607), P.2604-2605(3608), P.2606(3614), P.2611(3619), P.2616(3621), P.2645(3627), P.2648-2649(3627), P.2654(3628), P.2655-2656(3629).

郭寶鈞 考報集刊

P.1110-1111(2526).

陳小松 中央考報

P.1366-1367(3070), P.1544(3131), P.1982-1988(3310), P.2427(3502).

陳仁濟 金匱論古初集

P.594(2236), P.1375-1376(3079).

陳邦懷 文物福致引

P.975(2453).

十二畫
張運開 古福三補古福三補附錄
P.222(2113), P.360(2119), P.414(2141), P.448(2163), P.499(2247), P.1184(3001), P.1328(3045), P.1334(3067), P.1344(3079), P.1462(3108), P.1511(3123), P.1579(3143), P.1596(3150), P.1721(3205), P.1771(3228), P.1789(3239), P.2057(3339), P.2064(3345), P.2072-2073(3347), P.2075(3354), P.2143(3374), P.2250(3376), P.2169-2170(3383), P.2203(3399), P.2272(3428), P.2396-2397(3406), P.2412(3419), P.2416-2417(3423), P.2448(3472), P.2550-2551(3573), P.2554(3574), P.2610(3611).
戚振 文物
P.895(2403), P.1617-1619(3156).

楊樹達 小學金石積微

P.114(2024), P.203(2075), P.216-217(2021), P.374(2121), P.578-600(2135), P.641(2134), P.475(2180), P.559(2222), P.600-602(2246), P.631(2246), P.660-662(2282), P.823(2369), P.887(2441), P.897(2444), P.1020(2475), P.1033-1034(2574), P.1044(2574), P.1187(3002), P.1207(3012), P.1244(3022), P.1246(3022), P.1294(3050), P.1308(3057), P.1353-1354(3075), P.1453(3100), P.1465-1467(3108), P.1478(3113), P.1574-1575(3123), P.1575-1578(3126), P.1584-1585(3127), P.1588-1589(3128), P.1587(3132), P.1571(3137), P.1571-1572(3143), P.1579(3150), P.1623(3157), P.1646(3180), P.1722(3205), P.1738(3210), P.1754(3222), P.1784(3235), P.1824(3253), P.1844-1845(3254), P.1915-1916(3281), P.1919(3284), P.1930(3292), P.2009(3317), P.2014-2015(3311), P.2070(3348), P.2073-2074(3349), P.2073(3349), P.2111(3342), P.2116(3355), P.2269(3426), P.2330-2331(3455), P.2331-2332(3455), P.2357(3467), P.2372(3472), P.2442-2443(3507), P.2442-2443(3529), P.2492(3537), P.2507-2508(3547), P.2511(3548), P.2511(3548), P.2544(3570), P.2574(3589), P.2599(3605), P.2656-2657(3629).

葉玉森 所釋 天華錄

P.456(2166), P.510(2201), P.585(2230), P.781(2343), P.866(2399), P.1044(2520), P.1151(3172), P.2137(3171).

董作賓 房山石經考年註釋

P.1274(3041), P.1194(3007), P.1375(3070), P.1844(3254).

來錫圭 考古

P.1693-1696(3191), P.1872-1875(3246), P.2419-2421(3490).

聞一多 聞一多全集

P.67-76(2005), P.1271-1273(3041), P.2070(3348), P.2532-2534(3563).

劉心源 奇觚

P.7(2001), P.557(2001), P.43(2005), P.64(2005), P.141(2017), P.177(2057), P.187(2074), P.207-208(2077), P.240-241(2099), P.277(2109), P.282-283(2109), P.295-297(2111), P.320(2112), P.324(2114), P.324-326(2114), P.347(2117), P.350(2119), P.370-379(2140), P.436(2156), P.450(2163), P.475(2180), P.528(2222), P.575(2236), P.577(2244), P.624-625(2260), P.628(2262), P.630(2264), P.641(2267), P.664(2284), P.668(2310), P.705(2313), P.717-718(2314), P.721-722(2314), P.741(2317), P.751(2325), P.778(2343), P.778(2348), P.779(2350), P.806(2360), P.809(2362), P.811(2372), P.833-834(2376), P.837-838(2377), P.851(2383), P.872(2391), P.891(2402), P.919(2420), P.925-926(2422), P.991(2460), P.1025(2478), P.1031(2480), P.1068(2507), P.1075(2509), P.1177(2511), P.1092-1093(2518), P.1128(2541), P.1151-1152(2549), P.1157(2550), P.1162(2553), P.1183(3001), P.1197-1198(3007), P.1217(3017), P.1221(3048), P.1225-1226(3022), P.1237(3028), P.1247(3032), P.1252-1254(3094), P.1257(3039), P.1269(3041), P.1283(3045), P.1301(3052), P.1303(3054), P.1307(3056), P.1311(3059), P.1342(3070), P.1343-1344(3071), P.1348(3073), P.1362(3078), P.1383(3081), P.1390(3085), P.1392(3085), P.1393(3086), P.1398(3088), P.1404(3088), P.1405-1406(3089), P.1409(3090), P.1422(3095), P.1425(3095), P.1430(3096), P.1438(3100), P.1440(3100), P.1452-1453(3107), P.1455-1458(3107), P.1470(3108), P.1473(3110), P.1492(3119), P.1494(3120), P.1501(3122), P.1509-1510(3123), P.1532(3127), P.1537(3128), P.1544-1545(3131), P.1554-1555(3131), P.1556(3132), P.1583(3143), P.1596(3150), P.1602(3150), P.1620(3157), P.1626(3160), P.1627(3161), P.1641(3170), P.1652(3177).

八畫
戴家祥 中山國學論叢

P. 2102-2104 (3445).

2833

二十畫
嚴一洋 中國文字

P. 902-903 (2406), P. 905 (2408).

2835

十九畫

羅西章 文物

P. 1681 (3187).

羅振玉 丁戊稿增考

P. 1003-1004 (2468), P. 1119 (2560).

譚戒甫 中華三編考古

P. 928 (2422), P. 1377-1379 (3079), P. 1384 (3081), P. 1484 (3116), P. 1568-1569 (3136),
P. 1616 (3156), P. 1629 (3161), P. 1790 (3239), P. 1854 (3257), P. 2531 (3563), P. 2624-2625
(3614), P. 2625 (3621).

2834

二十一畫

饒宗頤 集刊

P. 1816-1817 (3249).

L. C. HOPKINS 4-5

P. 270-272 (2109), P. 1022-1023 (2477).

2836

後記

金文詁林附錄上下卷及索引連卷高目錄共二千九百餘頁較原定計劃二十頁多出百分之四十五而印刷費又有增加因此不得不將原有之版面縮小一半由三十二開本改為十六開本每頁容四面情非得已尚希讀者見諒

金文詁林纂輯期間張日昇林潔明君協助數年備著勞績近已另謀高就故附錄之成書不得不由余校讀一遍年近歲晚思之慨然幸黃秋月謝志平二君尚能始終其事助余任抄寫校對及編製索引之工作謹致謝忱

附錄中多不可識之字因情學長李孝定教授草考釋千條左右逢源創獲獨多余亦因之筆記若干條聊誌友朋切磋之

樂恍如四十年前在中央大學復時也余昔主持香港中文大學研究院中國語言及文學部張日昇君於一九六七至一九九一年草擬士論文金文編附錄考證即金文詁林附錄之雛形後張君又從余研究三年工作辛勞殊足嘉許

金文詁林十四卷有各庚教授所編之筆畫索引余又編部首索引並加注說文詁林之頁數尚便檢查而附錄所收之字尚少定論即篆文亦不易書寫因於卷高將每一字號選一篆文加以影印既可保存真相又將二千餘頁之字縮為數十頁並恐讀者不易識別復從諸家考釋中擇其較可信者錄定於目錄中每篆文下且於卷末編為金文詁林附錄錄定字通檢以便檢查然無錄定字者尚有二百餘佔附錄五分之一強蓋因考釋者多憑臆說不易信賴故從蓋闕

余於金文詁林編引用書籍論文總目引用書籍論文索引引用諸家索引以便讀者檢查之用讀者可檢得金文詁林曾引某書某條或某家若干條於訂補工作極為方便余於附錄亦同此例然編金文詁林索引時附錄各條已粗有成書亦連類收入索引但末將引用甲骨文字集釋諸條收入且每條只注明字號而無頁數今又補入十餘條合併編為金文詁林附錄引用諸家索引蓋因同字號者或至數十頁如不注明頁數往往不易檢查至於金文詁林附錄引用書籍論文目錄及索引只收入不見於金文詁林引用書籍論文索引者以免重複過多凡此折衷辦法皆經深思熟慮而得非草率為之也又此書出版後尚有金文詁林引用錢銘著錄表及釋文金文詁林補編陸續編寫中當有以飭同好也

金文詁林成書後曾與各庚教授通信一九七五年七月二十七日自廣州中山大學來書云

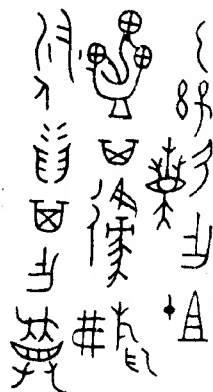
前承惠贈金文詁林對於拙著校正不少至所感謝弟年已八十一眼花手震篆字工作由馬國權幫忙現國權協助高君整理竹簡篆字在停頓中訂金文編不知何日能完成也弟于金文只注意字形之關係至于陰陽對轉之說不輕于引用如謂品乃折之初文折从斤聲古音同在文部從从犬異聲古音同在微部從折兩字孰為品之初文則未可知愚意品與折無有何關係而牽連及之

鳴查北伯簋辭省蓋且甲壘三品原文事隔多年中經文化革命拓本頗有遺失一時尚未查出俟查得後再行奉答

八月五日來書云

鳴查之件茲已查得且甲靈奉呈餘候續陳

故宮博物院藏器 馬國權代臨



八月廿六日來書云：

奉八月二十日惠書，囑將拙著金文編增補之處，先行出版。香港可代為印刷，至感厚誼。敝校近來政治討論較多，而增訂拙著時間較少，至今為止，新增二〇〇字，重文六〇字，舊字增二〇〇字，連三版合算，收字二〇〇〇字，重文二〇〇〇字，附錄新增二〇〇字（二增一〇，下增

二〇）實無出版的必要。細讀大著詁林，陸續增訂，拙著完成，最快當在詁林印齊一二年以後，力不從心，奈何奈何。客教授為當今之而閉祭酒，余不過繼丁仲祐之詁林工作而已，謹微引來書，聊誌欽慕之忱。

金文詁林附錄之成，蒙本大學中國文化研究所所長李四意教授鼎力協助，特此致謝。又蒙出版部賴怡昌前主任、潘光迥主任及鄭義持先生從事金文詁林及附錄之出版工作，並致謝忱於此。
一九七七年二月十七日丙辰除夕周法高記於香港中文大學中國語言學研究中心

2842

2841

金文詁林附錄

編著者：周法高 李孝定 張日昇

出版者：香港中文大學

承印者：印記印刷有限公司

定價

一九七

香港印書館代印

THE COMMERCIAL PRESS, LTD.

二月出版

版權所有 不准翻印

ISBN 962-201-146-2

573/44 (中 1-10/1-17)
金文詁林附錄
B001520